

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第77集

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第11集

下佐野遺跡

I地区・寺前地区(3)

平安時代編

1989

群馬県教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

東日本旅客鉄道株式会社

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第77集

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第 11 集

下佐野遺跡

I 地区・寺前地区 (3)

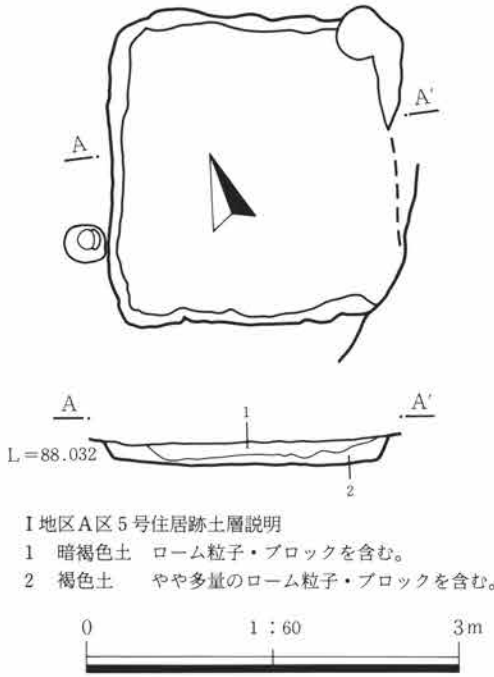
平安時代編

1989

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社

第4章 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡



I 地区 A 区 5 号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを含む。
- 2 褐色土 やや多量のローム粒子・ブロックを含む。

第378図 I 地区 A 区 5 号住居跡遺構図

I 地区 A 区 5 号住居跡 (第378図)

当住居跡は A 区 1 号方形周溝墓と A 区 4 溝に挟まれた場所に位置し、A 区 4 溝と重複するが、遺物による新旧関係は、当住居跡の方が古い。

規模は東西約 2.3m・南北約 2.4m で、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は $N-17^{\circ}-E$ である。確認面からの壁の立ち上がりは約 20~15mm であり、南東部分の壁は攪乱坑により破壊されている、残存状態は不良である。床面はやや軟弱である。竈・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。遺物は覆土中からの小破片のみであり、時期の限定はできないが、住居跡の規模・覆土から平安時代であると推定する。(井川)

I 地区 A 区 7 号住居跡 (第379~381図、第97表)

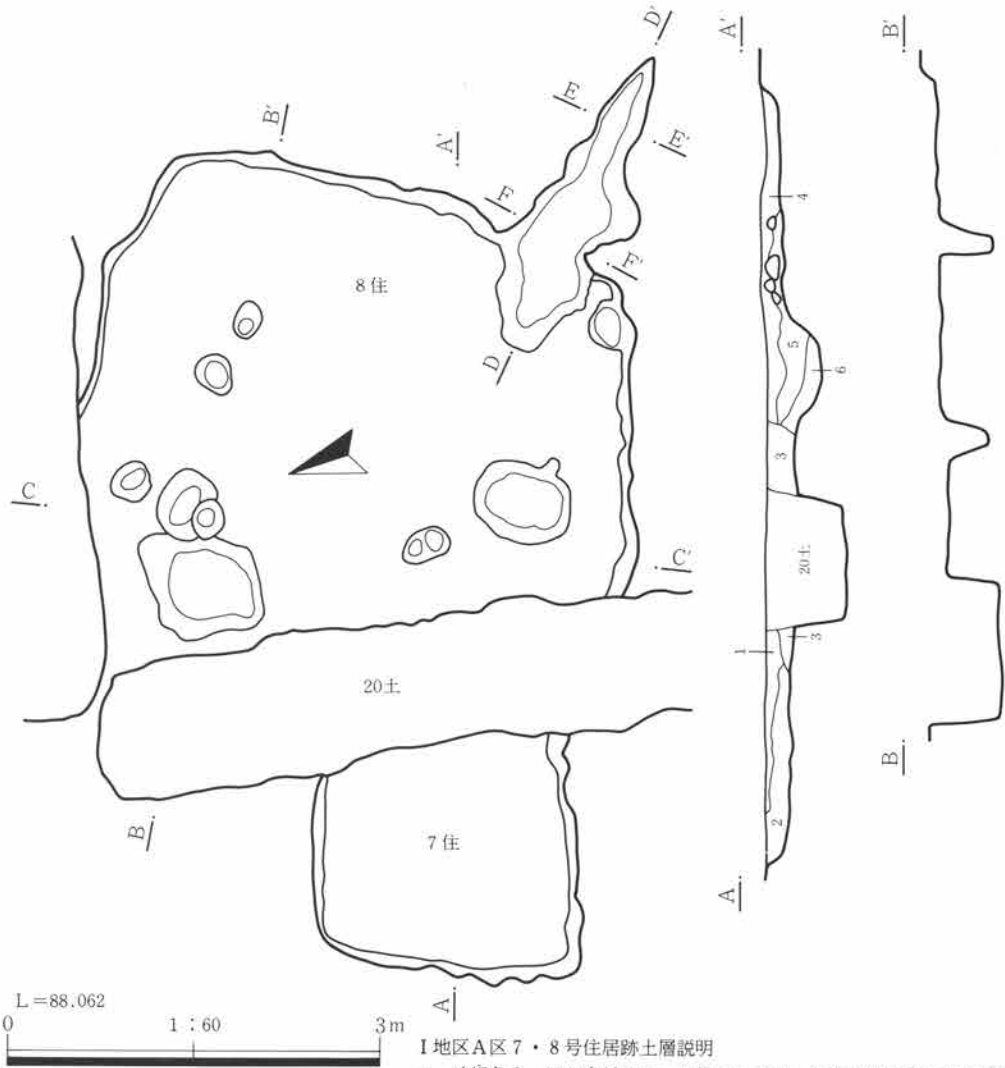
当住居跡は、A 区 8 号住居跡・A 区 1 号方形周溝墓・A 区 20 号土坑と重複する。A 区 1 号住居跡との新旧関係は覆土の相違から、当住居跡の方が新しく、A 区 1 号方形周溝墓との新旧関係も覆土の相違から、当住居跡の方が新しく、A 区 20 号土坑との新旧関係は覆土の相違により、当住居跡の方が古い。

住居跡の規模は、南側壁が A 区 20 号土坑に破壊されており不明であるが、東西は約 2.1m であり、平面形は隅丸方形を呈すると推定できる。主軸は $N-74^{\circ}-W$ である。確認面からの壁の立ち上がりは約 20cm である。床面はローム層及び 1 号方形周溝墓覆土中に構築されており、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。竈・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は還元焼成の椀が出土しているが、全体的な量は非常に少ない。時期の限定は難しいが、遺物から、当住居跡の時期は 10 世紀と推定する。(井川)

I地区A区8号住居跡（第379・380・382・383図、第98表、図版67）

当住居跡は、A区7号住居跡・A区1号方形周溝墓・A区2号方形周溝墓・A区5号溝・A区20号土坑と重複する。A区1・A区2号方形周溝墓との新旧関係は、覆土の相違・床面の構築状況から当住居跡の方が新しい。A区7号住居跡との新旧関係は、覆土の相違から当住居跡の方が



I地区A区7・8号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 やや多量のローム粒子・ブロック及び少量の小石を含む。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子・ブロックを含む。
- 3 褐色土 親指大のロームブロックを全体に含み、縮まっている。
- 4 暗褐色土 微量のローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 少量のローム粒子・ブロック及び微量の焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子・黒褐色土粒子を含む。

第379図 I地区A区7・8号住居跡遺構図(1)

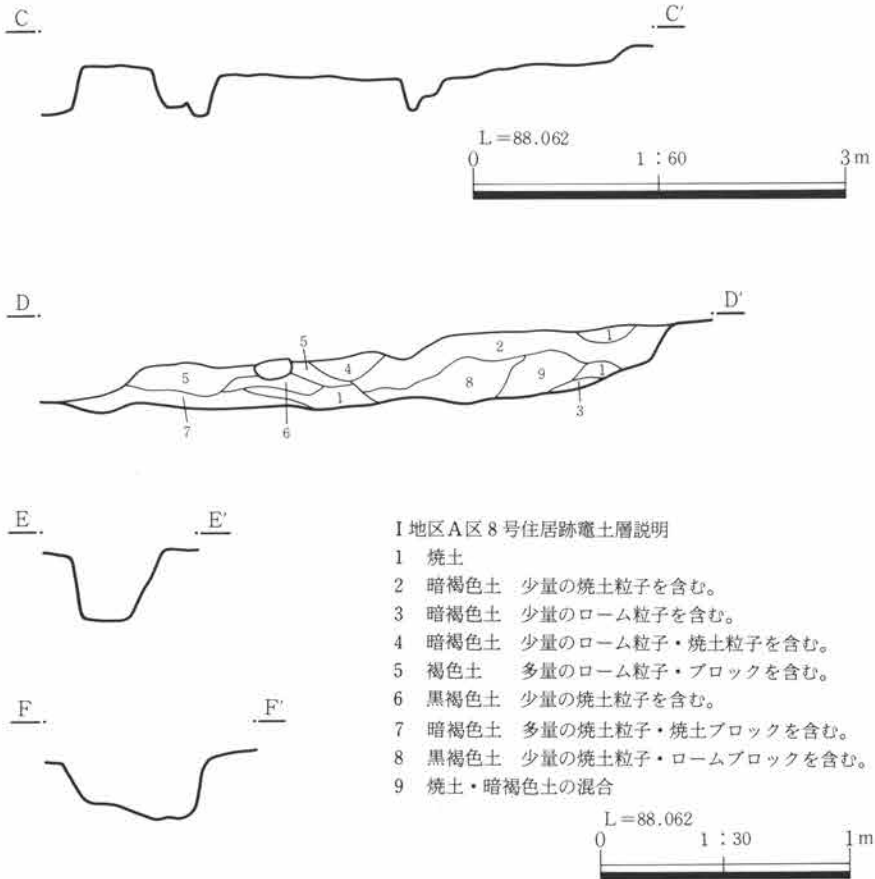
(1) 竪穴住居跡

古い。A区5溝・A区20土坑との新旧関係は、覆土の相違・当住居跡の壁面の状態から当住居跡の方が古い。

規模はA区5号溝・A区20号土坑に北西側及び西側の壁が破壊されており、不明であるが、南北は約4.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定できる。主軸はN-70°-Wである。確認面からの壁の立ち上がりは約20cmであり、残存状態は不良である。床面はローム層及びA区1号方形周溝墓覆土中に構築されており、やや軟弱であり、やや凹凸が多い。

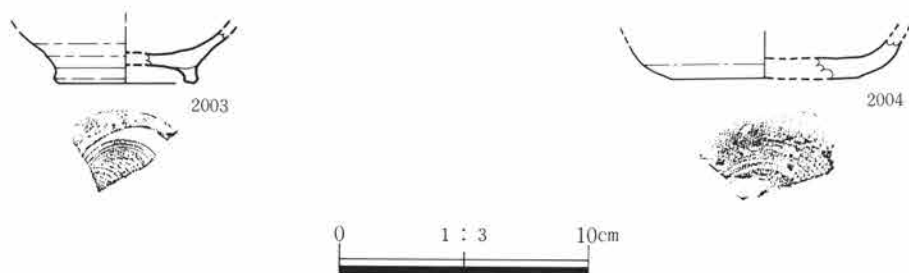
竈は南東部隅に構築されており、燃焼部は壁内にあり、煙道部壁外への張り出しは約1.5mである。袖は破壊されており確認できなかった。柱穴と考えられる直径約30cm、床面からの深さ約20~40cmのピットがあるが、南東部分が不明であり、柱穴と断定はできない。床面から2基の土坑が検出できた。貯蔵穴の可能性も考えられる。

遺物は竈内から羽釜・酸化焼成の甕・灰釉陶器の椀などが検出できたが全体的な量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。 (井川)



第380図 I地区A区7・8号住居跡遺構図(2)

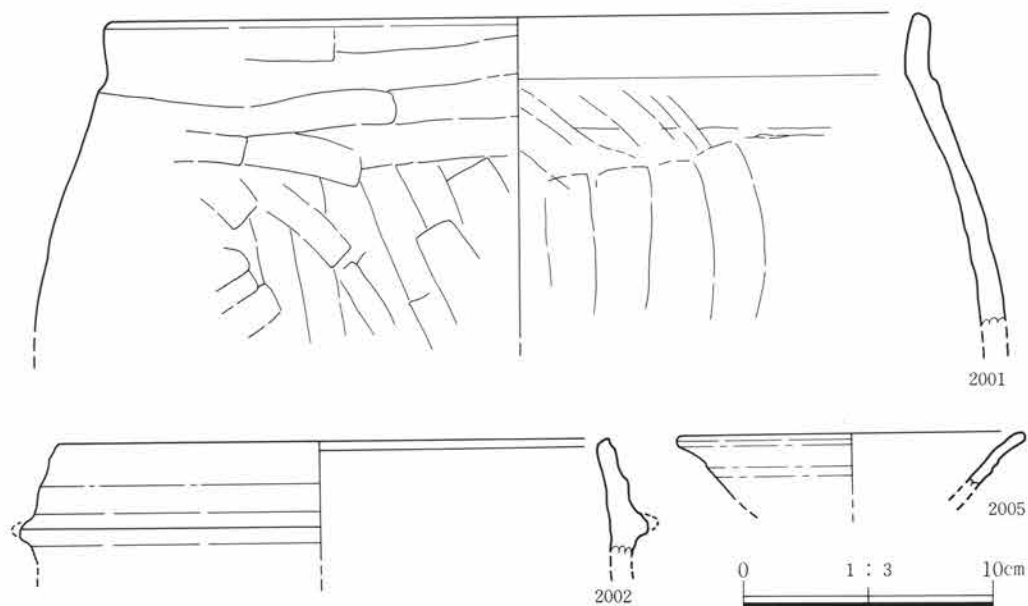
第4章 平安時代の遺構と遺物



第381図 I地区A区7号住居跡遺物図

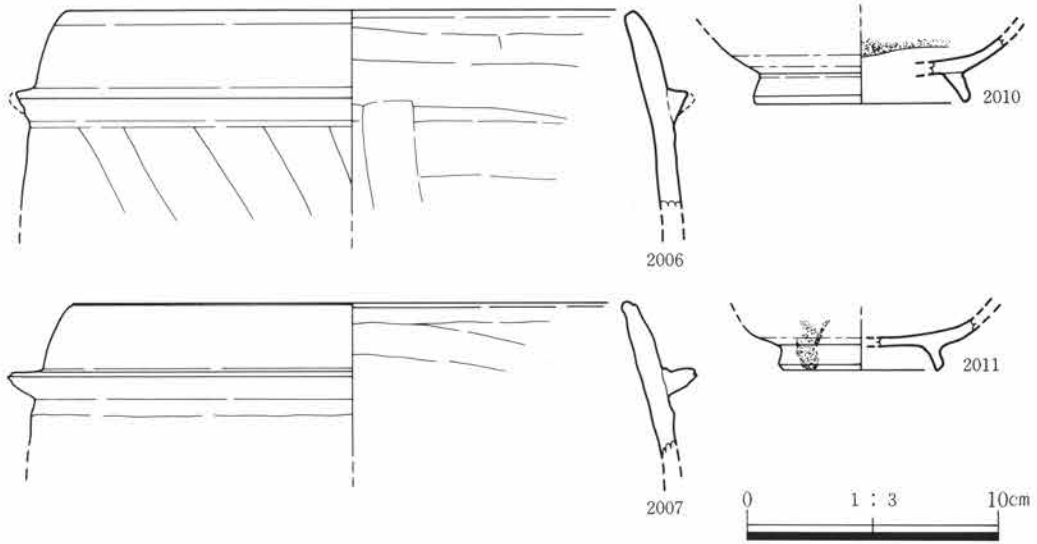
第97表 I地区A区7号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2003	碗	器高:(20mm)口径: 一底径:[62mm]体部 下端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2004	碗	器高:(15mm)口径: 一底径:[75mm]体部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	住居内覆土。



第382図 I地区A区8号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第383図 I地区A区8号住居跡遺物図(2)

第98表 I地区A区8号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2001	甕	器高:(124mm)口径:[330mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2002	羽釜	器高:(45mm)口径:[220mm]底径:一口縁部~鋳部 $\frac{1}{10}$ 残	直径2~3mmの小石。及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部はやや内湾。外面:口縁部~鋳部は横なで。内面:口縁部は横なで。	竈内。
2005	椀	器高:(23mm)口径:[140mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	内外面共に口縁部~体部は轆轤整形轆轤なで。	竈内。
2006	羽釜	器高:(79mm)口径:[228mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質鈍い橙。	口縁部はやや内湾。外面:口縁部~鋳部は横なで、体部上端は轆轤整形後篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	住居内北東部床上15cm。内外面に油煙付着。
2007	羽釜	器高:(60mm)口径:[225mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質鈍い黄橙。	口縁部はやや内湾。外面:口縁部~鋳部は横なで、体部上端は篋なで。内面:口縁部は横なで。	住居内覆土。
2010	椀 灰釉陶器	器高:(25mm)口径:一底径:[90mm]体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は高台貼り付け。内外面共に体部下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

第4章 平安時代の遺構と遺物

2011	椀 灰釉陶器	器高:(20mm)口径: 一底径:[66mm]体部 下半~底部に残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は高台貼り付け。内外面共に体 部下半~底部は丁寧な轆轤など。	住居内床直。
------	-----------	---	---------------------	-------------------------------------	--------

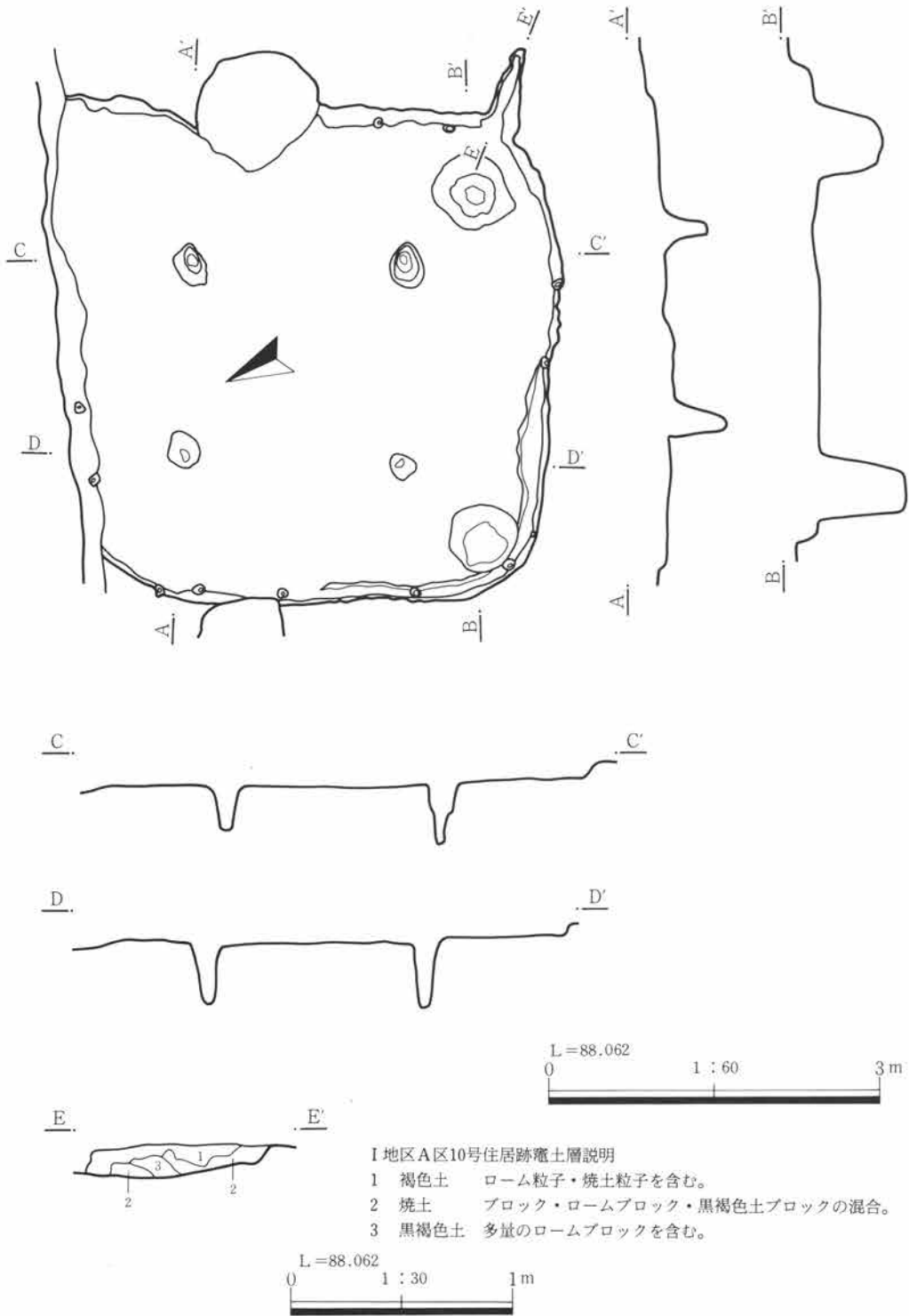
I 地区A区10号住居跡 (第384・385図、第99表、図版67)

当住居跡は、A区1号館跡の堀と重複する。新旧関係は、覆土の相違から当住居跡の方が古い。規模は、北側部分がA区1号館跡に破壊されているが、東西方向は約4.3mであり、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈する。主軸はN-23°-Wである。

確認面までの壁の立ち上がりは、約10~20cmであり、残存状態は悪い。床面は、比較的硬く、ほぼ平坦である。支柱穴は、4本である。柱穴の規模は、径約30~40cm・床面からの深さ約40~60cmであり、平面形は、不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。竈は、南東部隅に築かれている。大部分が破壊されており、袖は確認できなかったが、燃烧部・煙道部からは、焼土が検出できた。煙道部の壁外への張り出しは、約0.8mである。当住居跡内の南東部隅・南西部隅からは2基のピットが検出できた。南東部隅のピットの規模は、長軸約80cm・短軸約70cm・床面からの深さ約60cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。南西部隅のピットの規模は、長軸約65cm・短軸約55cm・床面からの深さ約80cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。両ピット共に、貯蔵穴と考えられることができる。南西部隅付近からは、一部壁溝を検出することができた。規模は、幅約10~15cm・床面からの深さ約5cmである。

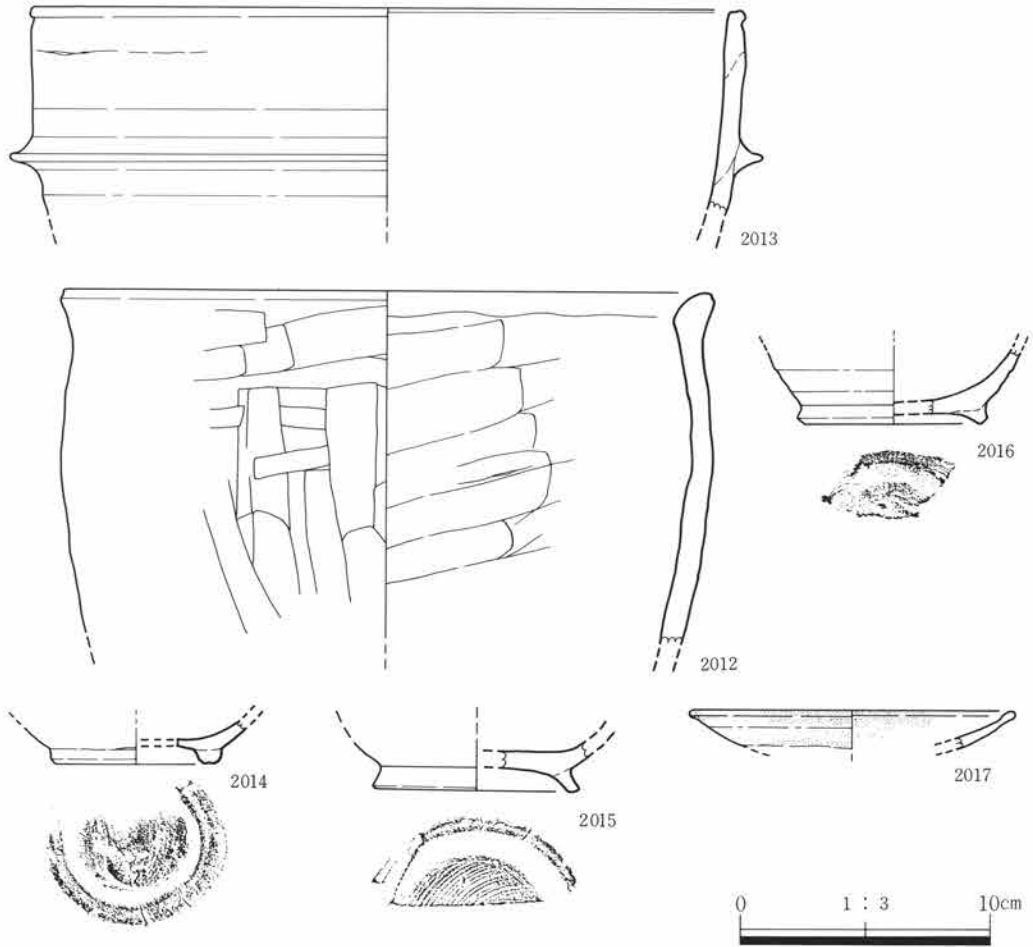
遺物は、甕・甑・還元焼成の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(外山)

(1) 竪穴住居跡



第384図 I 地区A区10号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物



第385図 I地区A区10号住居跡遺物図

第99表 I地区A区10号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2012	甕	器高:(138mm)口径: [260mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで。体部は筥なで。内面:口縁部は横なで。体部は筥なで。	住居内南西部。
2013	甕	器高:(80mm)口径: [285mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	外面:口縁部~銜部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部体部上端は轆轤なで。	住居内北西部。
2014	椀	器高:(22mm)口径: 一底径:[68mm]体部下 端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	住居内中央部。

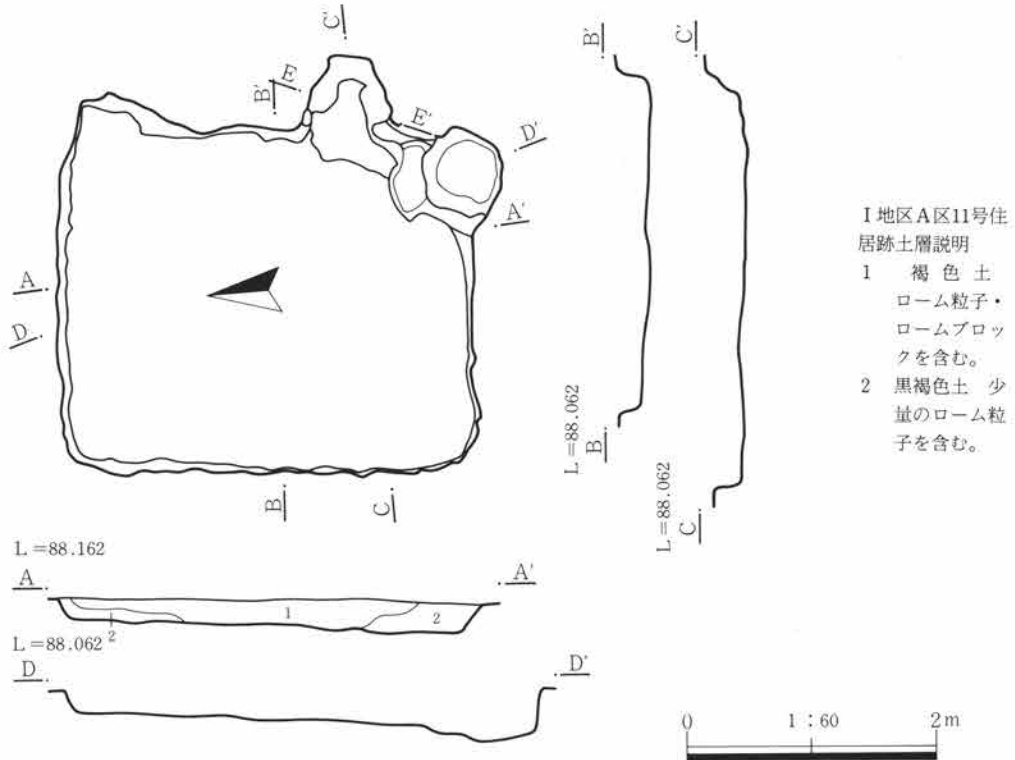
(1) 竪穴住居跡

2015	椀	器高:(20mm)口径: 一底径:[84mm]体部 下端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高 台貼り付け。外面:体部下端は轆轤な で。内面:体部下端~底部は轆轤な で。	住居内南東部。
2016	椀	器高:(30mm)口径: 一底径:[76mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。淡黄。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部下半は轆轤なで。内面:体 部下半底部は轆轤なで。	住居内中央部。
2017	皿 灰釉陶器	器高:(15mm)口径: [130mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	内外面共に口縁部底部は丁寧な、轆 轤整形、轆轤なで。	住居内床下。

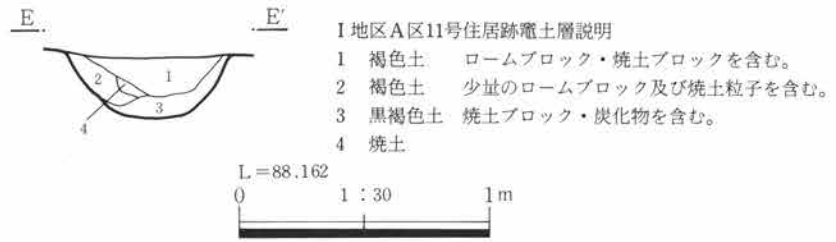
I地区A区11号住居跡(第386~389図、第100表)

当住居跡は、A区1号方形周溝墓と重複する。新旧関係は、同方形周溝墓の周溝内に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.7m・南北約3.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。確認面ま



第386図 I地区A区1号住居跡遺構図(2)

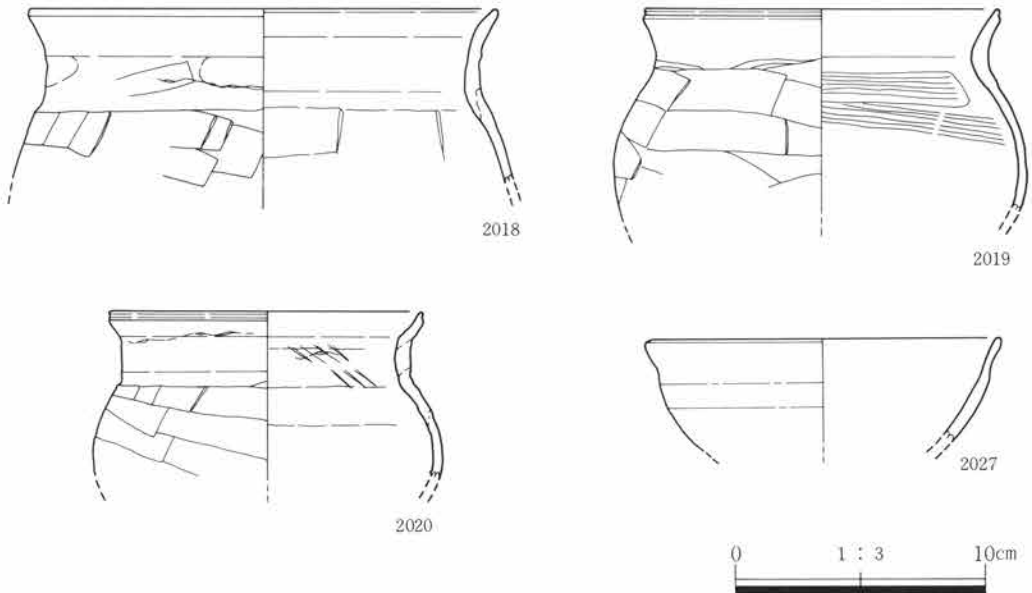


第387図 I 地区A区11号住居跡遺構図(2)

での壁の立ち上がりは、約25~30cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は比較的硬く、ほぼ平坦である。主軸はN-9°-Eである。

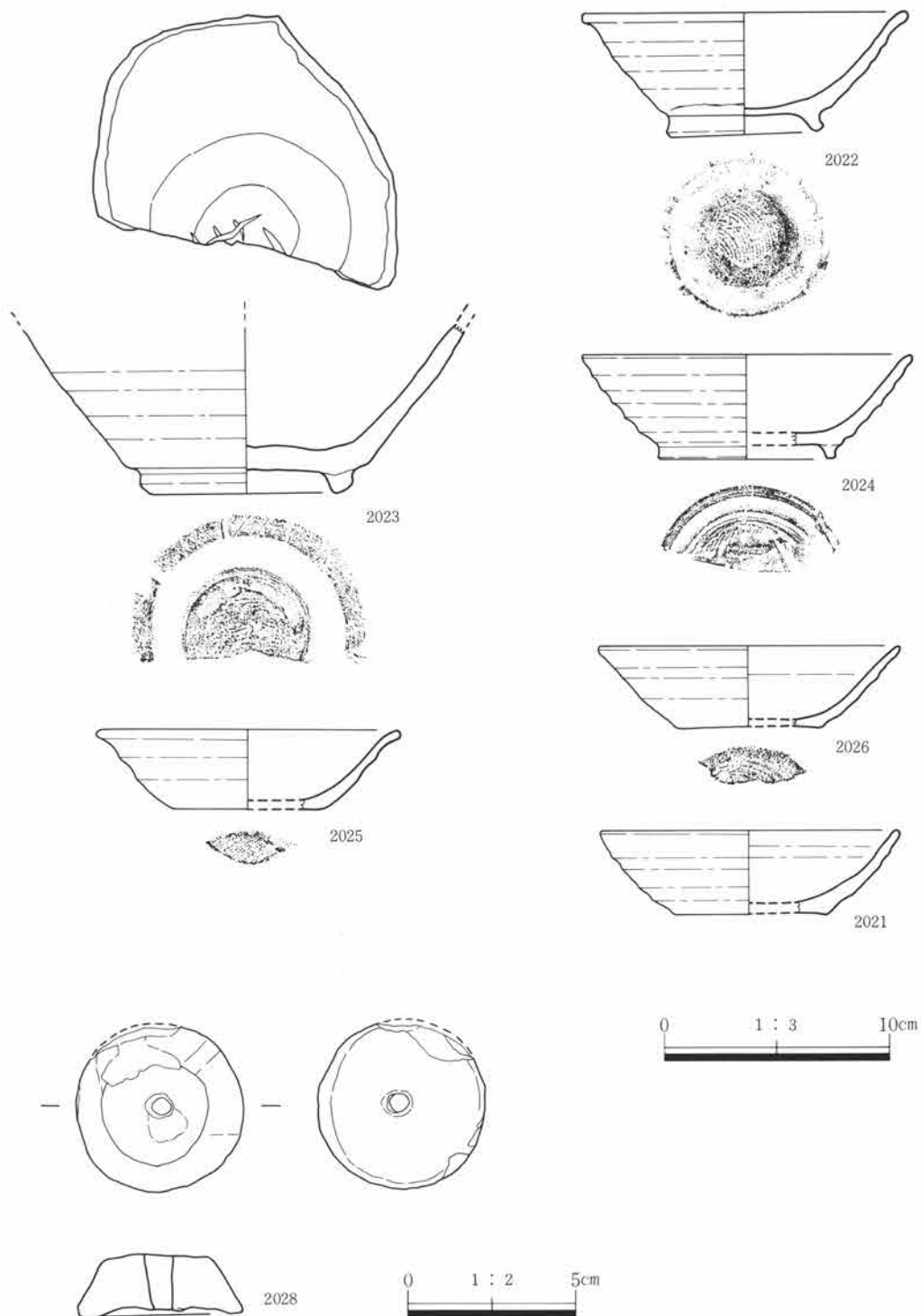
竈は、東側壁の南寄りに築かれている。袖は検出できなかったが、燃烧部・煙道部からは炭化物・焼土を検出することができた。煙道部の壁外への張り出しは、約0.5mである。住居跡内の南東部隅からは、ピットが1基検出できた。規模は、径約0.6m・床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。貯蔵穴と考えるには、難が残る。支柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器の甕、還元焼成の椀・杯、酸化焼成の椀の他、土製の紡錘車が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(外山)



第388図 I 地区A区11号住居跡遺物図(1)

(1) 竖穴住居跡



第389图 I地区A区11号住居跡遺物図(2)

第4章 平安時代の遺構と遺物

第100表 I地区A区11号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2018	甕	器高:(68mm)口径:[186mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、頭部は指なでが残り、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2019	甕	器高:(81mm)口径:[124mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2020	甕	器高:(65mm)口径:[124mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2021	杯	器高:37mm口径:[132mm]底径:[66mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	底部は回転糸切り後篋なで。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。
2022	椀	器高:53mm口径:[144mm]底径:70mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2023	椀	器高:(72mm)口径:一底径:94mm体部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	底部は回転糸切り後高台、貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈付近。内外面に油煙付着。内面底部に篋記号。
2024	椀	器高:46mm口径:[146mm]底径:[78mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北東部。
2025	杯	器高:35mm口径:[134mm]底径:[66mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰オリーブ。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2026	椀	器高:36mm口径:[134mm]底径:[64mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。内面に油煙付着。
2027	椀	器高:(43mm)口径:[140mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残。	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。
2028	紡錘車土製	上径:30mm下径:50mm厚さ:16mm軸口径:5mmほぼ完形	砂粒を含む。	上面はやや凸状、下面はやや凹状。側面は緩やかな円みを持つ。	住居内中央部。

I 地区 A 区13号住居跡 (第390図、第101表)

当住居跡は、4号方形周溝墓を調査中に検出された住居跡である。当住居跡は4号方形周溝墓の周溝内に築かれており、4号方形周溝墓より当住居跡の方が新しいと考えられるが、周溝上面からは検出できず、周溝壁面から竈のみの検出である。

規模、主軸の方位、壁・床の状態、柱穴、貯蔵穴等は不明である。遺物も非常に少なく、当住居跡に属する遺物は、竈右から検出できた須恵器の蓋だけである。時期の断定はできないが、8世紀後半～9世紀前半の住居跡と推定する。(井川)



第390図 I 地区 A 区13号住居跡遺構・遺物図

第101表 I 地区 A 区13号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2031	蓋 須恵器	器高:(18mm)口径: 一つまみ部～天井部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。つまみは偏平。外面:天井部上半は回転篋削り。内面:天井部上半は轆轤なで。	竈右ビット内。

I 地区 A 区14号住居跡 (第391・392図、第102表)

当住居跡は、A区1号館跡と重複する。新旧関係を直接的に断定することはできないが、遺物等から当住居跡の方が古い。

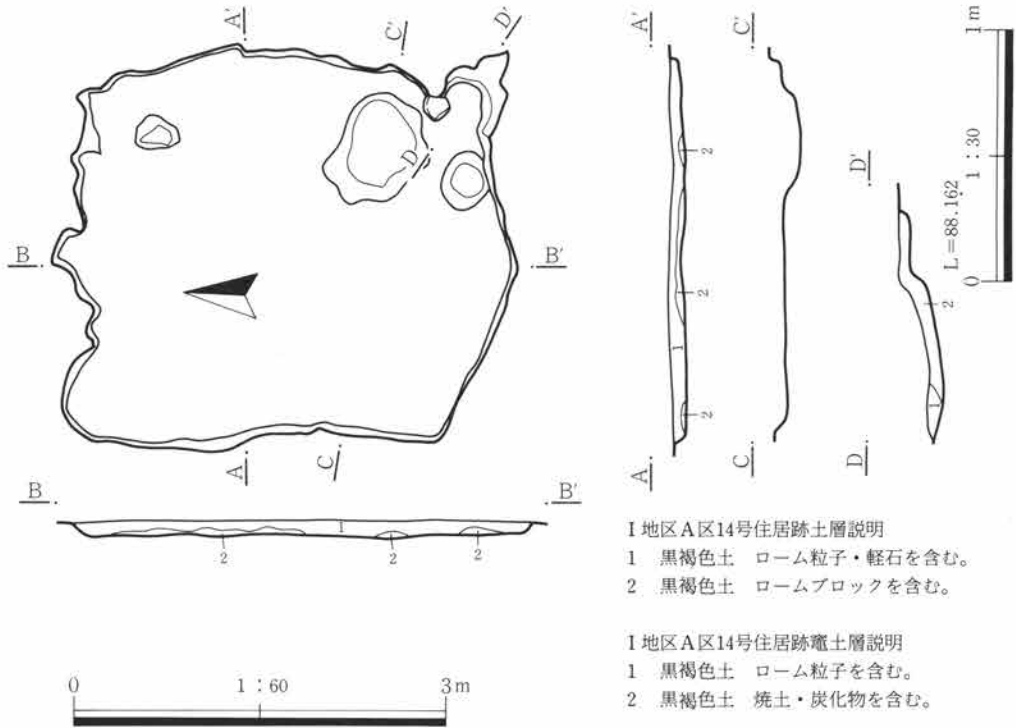
当住居跡の規模は、東西約3.0m・南北約3.3mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約10cmであり、残存状態は悪い。床面はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。主軸はN-2°-Wである。

竈は、南東隅に築かれている。破壊は激しいが、右袖の基部と考えられる部分からは、構築材に使用されたと考えられる河原石が検出できた。又、燃烧部からは炭化物・焼土が検出できた。

第4章 平安時代の遺構と遺物

竈前・北東隅からは、計3基のピットが検出できたが、位置・規模等から貯蔵穴・柱穴とは考えにくい。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、羽釜、還元焼成の椀、酸化焼成の杯が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

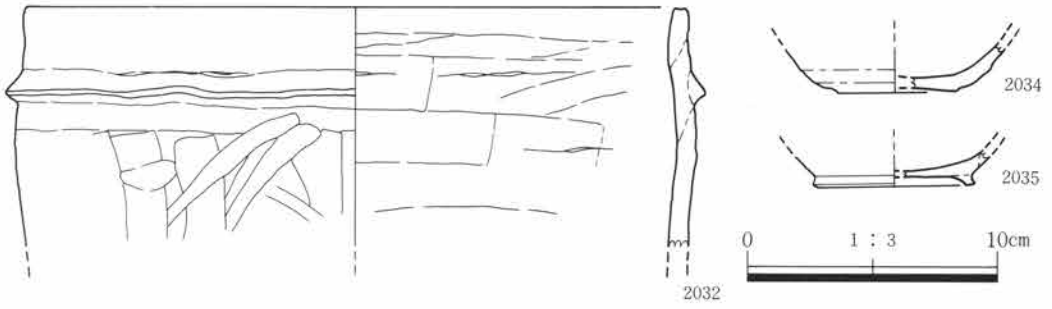


第391図 I 地区A区14号住居跡遺構図

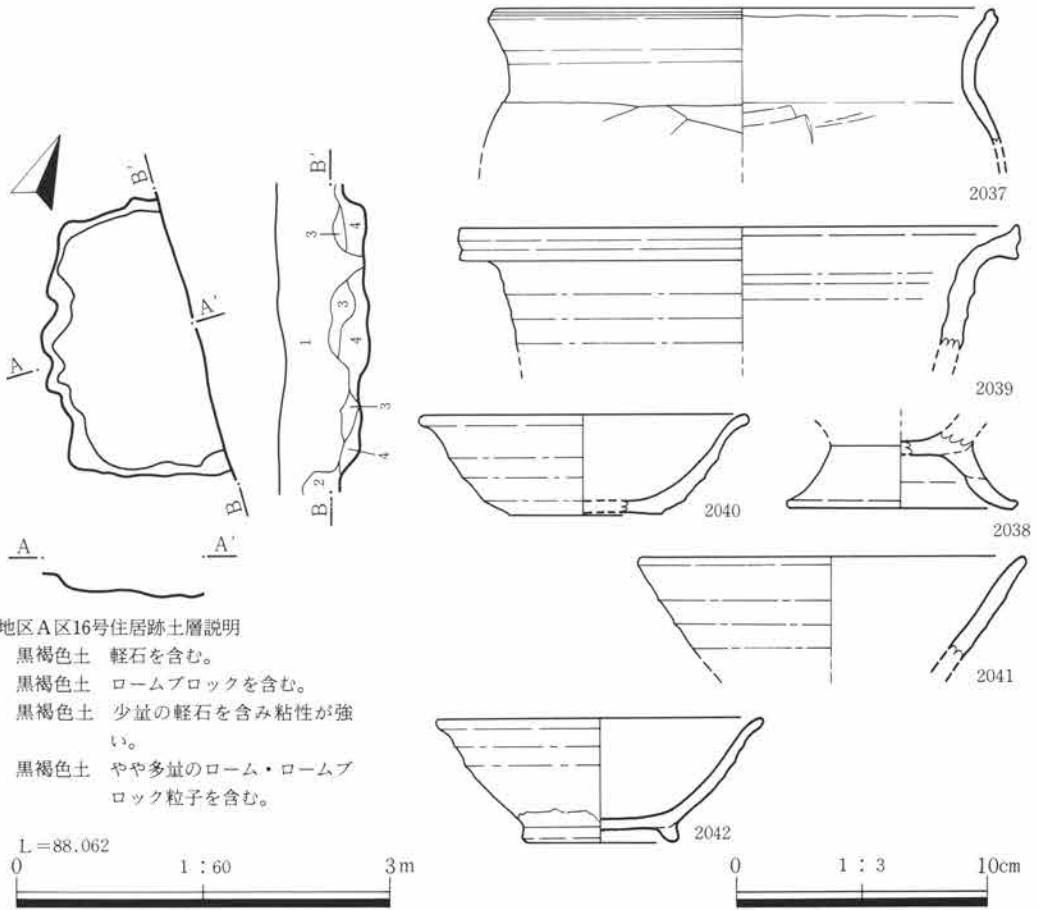
第102表 I 地区A区14号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2032	羽釜	器高:(94mm)口径:[264mm]底径:一口縁部~体部上半残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。褐。	口縁部は直立。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部~鈎部は横なで、体部は寛なで。内面:口縁部は横なで、体部寛なで。	住居内北東部。
2034	杯	器高:(18mm)口径:一底径:[46mm]体部下半~底部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	竈前。外面に油煙附着。
2035	椀	器高:(12mm)口径:一底径[65mm]体部下端~底部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。褐灰。	底部は高台貼り付け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	住居内北東部。

(1) 竪穴住居跡



第392図 I地区A区14号住居跡遺物図



I地区A区16号住居跡土層説明

- 1 黒褐色土 軽石を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 少量の軽石を含み粘性が強い。
- 4 黒褐色土 やや多量のローム・ロームブロック粒子を含む。

第393図 I地区A区16号住居跡遺構・遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

I 地区A区16号住居跡 (第393図、第103表)

当住居跡は、A区1号館跡と重複する。新旧関係を直接的に断定することはできないが、遺物から当住居跡の方が古い。

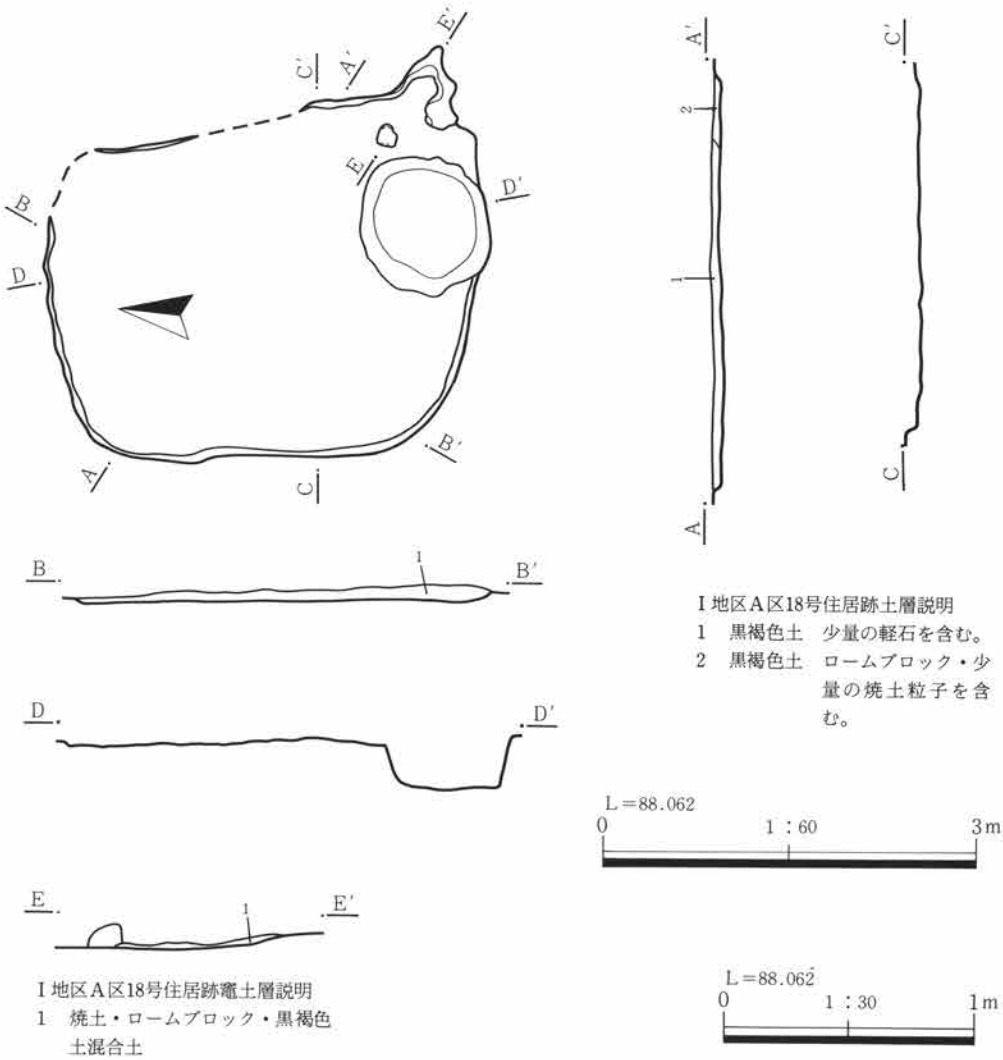
当住居跡の規模は、東側部分が調査区域外のために不明であるが、南北は約2.2mであり、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約15~20cmである。床面は、やや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。主軸は不明である。

調査区域内からは、竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、酸化焼成の甕・台付甕・還元焼成の甕・椀・杯が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半~10世紀前半である。(井川)

第103表 I地区A区16号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2037	甕	器高:(52mm)口径:[203mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は、横なで、体部は篋なで。	住居内北西部床上5cm。内面に多量の油煙付着。
2038	台付甕	器高:(30mm)口径:一底径:[90mm]台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い赤褐。	台部はロート状に開く。外面:台部は横なで。内面:底部は篋なで、台部は横なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
2039	甕	器高:(48mm)口径:[220mm]底径:一口縁部 $\frac{1}{10}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は大きく外湾。外面口縁端部に稜を持つ。内外面共に口縁部は轆轤なで。	住居内中央部床直
2040	杯	器高:39mm口径:[132mm]底径:[60mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は外湾。底部は篋削り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南西部床直内外面に油煙付着
2041	椀	器高:(40mm)口径:[154mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰黄。	内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内南西部床直
2042	椀	器高:49mm口径:[130mm]底径:[62mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南西部床直

(1) 竪穴住居跡



第394図 I 地区A区18号住居跡遺構図

I 地区A区18号住居跡 (第394図)

当住居跡は、A区4号方形周溝墓と重複する。新旧関係は、A区4号方形周溝墓の周溝上に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

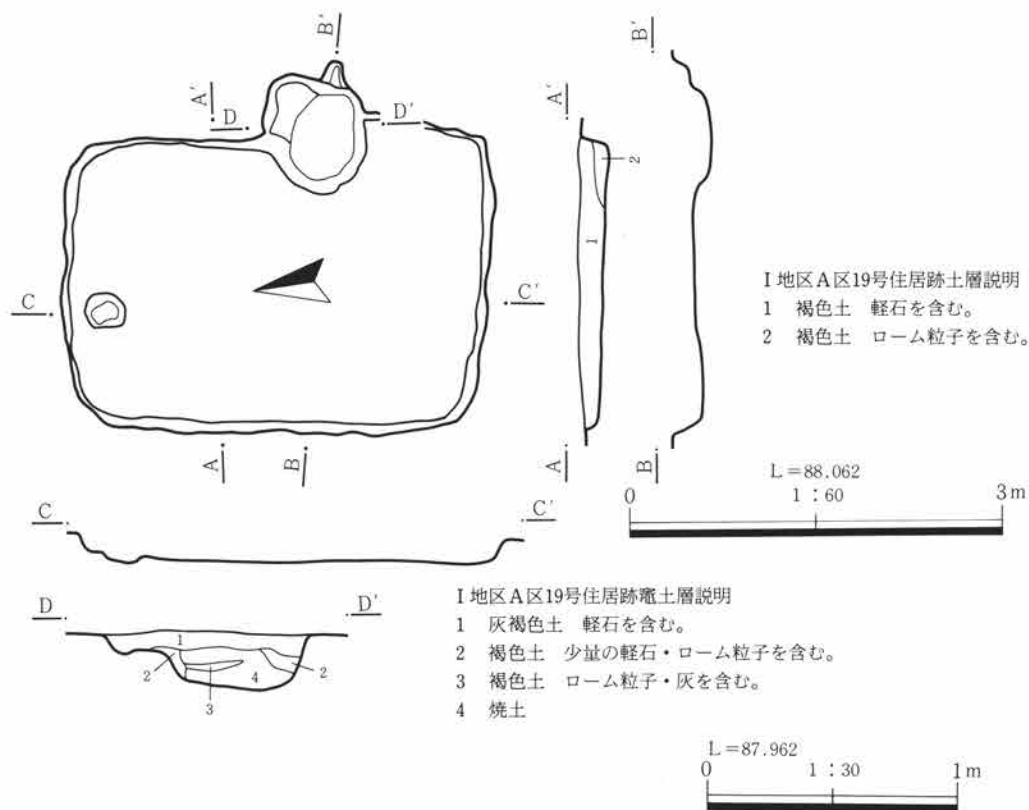
当住居跡の規模は、東西約2.6m・南北約3.4mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約5cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。主軸はN-12°-Wである。

竈は、南東隅に築かれている。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部からは、焼土を検出できた。又、竈前からは、構築材に使用されたと考えられる石が出土している。

第4章 平安時代の遺構と遺物

竈右斜め前からは、ピットが1基検出できた。規模は、長軸約120cm・短軸約110cm・床面からの深さ約40cmであり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴と考えるには、位置に難がある。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

当住居跡は甕胴部の小片が一片出土しているだけであり、時期の限定は困難であるが、住居跡の形態・周辺の遺構との関係等から、平安時代の住居跡と考えられる。(井川)



第395図 I 地区A区19号住居跡遺構図

I 地区A区19号住居跡 (第395・396図、第104表)

当住居跡は、A区4号方形周溝墓・A区1号館跡と重複する。A区4号方形周溝墓との新旧関係は、同方形周溝墓の周溝中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区1号館跡との新旧関係を直接的に確認することはできないが、遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約3.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~25cmであり、残存状態は比較的良好である。床面はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。主軸はN-9°-Eである。

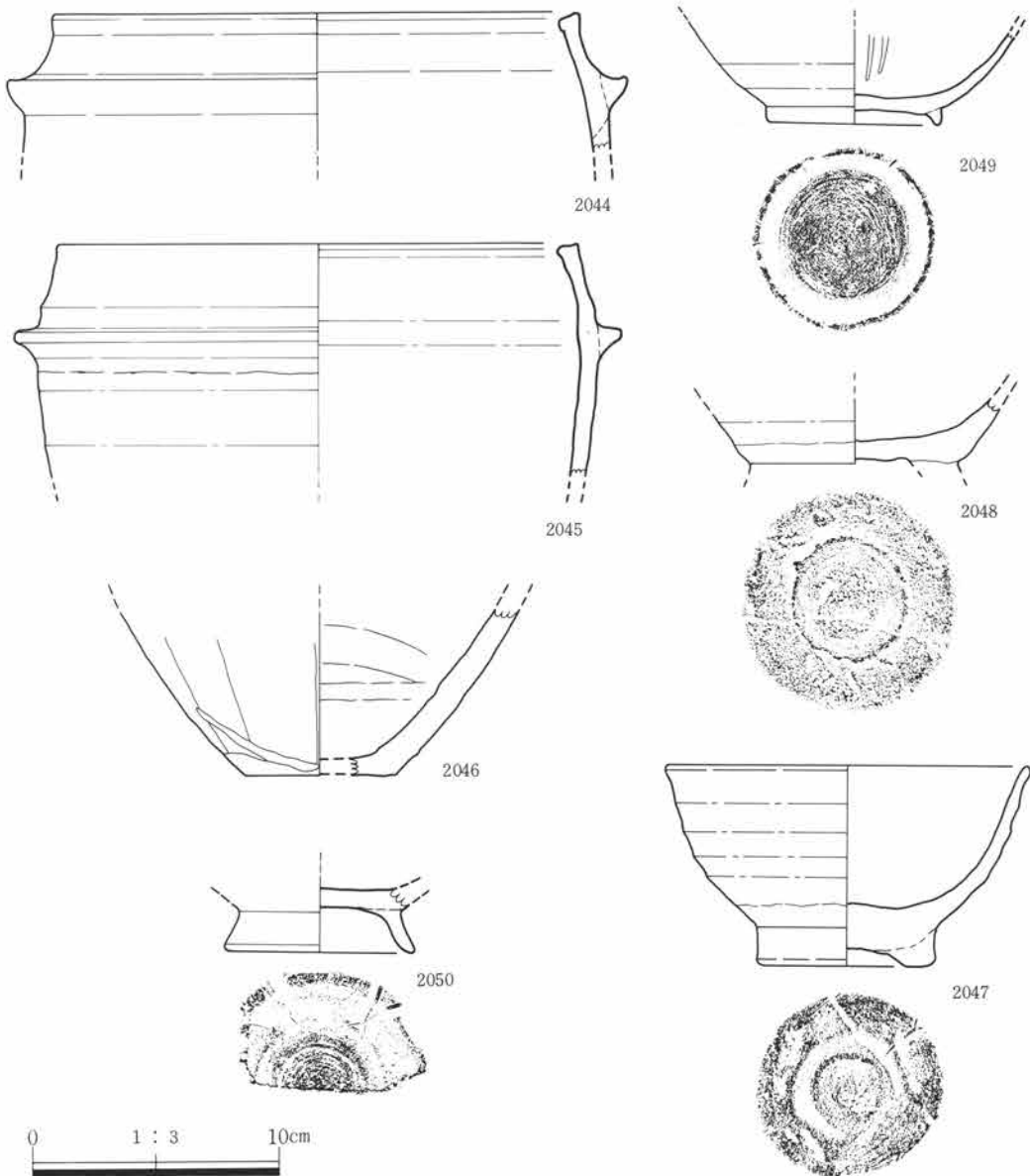
竈は、東側壁の中央付近に築かれている。大部分が破壊されているが、燃烧部からは竈の構築

(1) 竪穴住居跡

材に使用されたと考えられる河原石と、焼土が検出できた。煙道部の壁外への張り出しは約0.5mである。住居内の北側の壁付近からは、ピットが1基検出できた。規模は、径約30cm・床面からの深さ約5cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。位置・規模から柱穴とは考えにくい。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、羽釜・酸化焼成の碗が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀後半～11世紀前半である。

(外山)



第396図 I 地区A区19号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第104表 I地区A区19号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2044	羽釜	器高:(53mm)口径:[212mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は内湾。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで体部上端は轆轤なで	住居内南西隅。外面に油煙付着。
2045	羽釜	器高:(91mm)口径:[210mm]最大径:[245mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内北東部。
2046	羽釜	器高:(65mm)口径:一底径:[60mm]体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	外面:体部下半は篋削り、底部は篋なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	住居内中央部。内外面に油煙付着。
2047	椀	器高:80mm口径:[146mm]底径:72mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰黄褐。	底部は厚い高台を貼り付け後なで。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部はなで。	窠内。
2048	椀	器高:(24mm)口径:一底径:一体部下半残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	底部は厚い高台を貼り付け後なで。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	住居内北東部。
2049	椀	器高:(37mm)口径:一底径:74mm体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質淡橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部はなで後篋磨き。	住居内中央部。
2050	椀	器高:(25mm)口径:一底径:[76mm]底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	底部は回転糸切り後高足高台貼り付け。外面:高台部は横なで。内面:底部はなで、高台部は横なで。	住居内南西部。

I地区A区20a号住居跡(第397・398図、第105表)

当住居跡は、A区20b号住居跡・A区1号館跡と重複する。A区20b号住居跡との新旧関係は、当住居跡が、A区20b号住居跡の北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。A区1号館跡との新旧関係は、同館跡に属する3号方形遺構が、当住居跡の北東部分の壁の上面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.5m・南北約2.9mであり、平面形はいびつな隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約5~10cmであり、残存状態は不良である。床面は、やや軟弱な部分も在るが、ほぼ平坦である。主軸はN-20°-Eである。

窠は、北側壁のやや南寄りに築かれている。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部からは、焼土を検出することができた。住居跡内からは、2基のピットを検出することができた。規模は、径30~40cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴とは考えにくい。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、還元焼成の椀・酸化焼成の椀が出土しているが出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

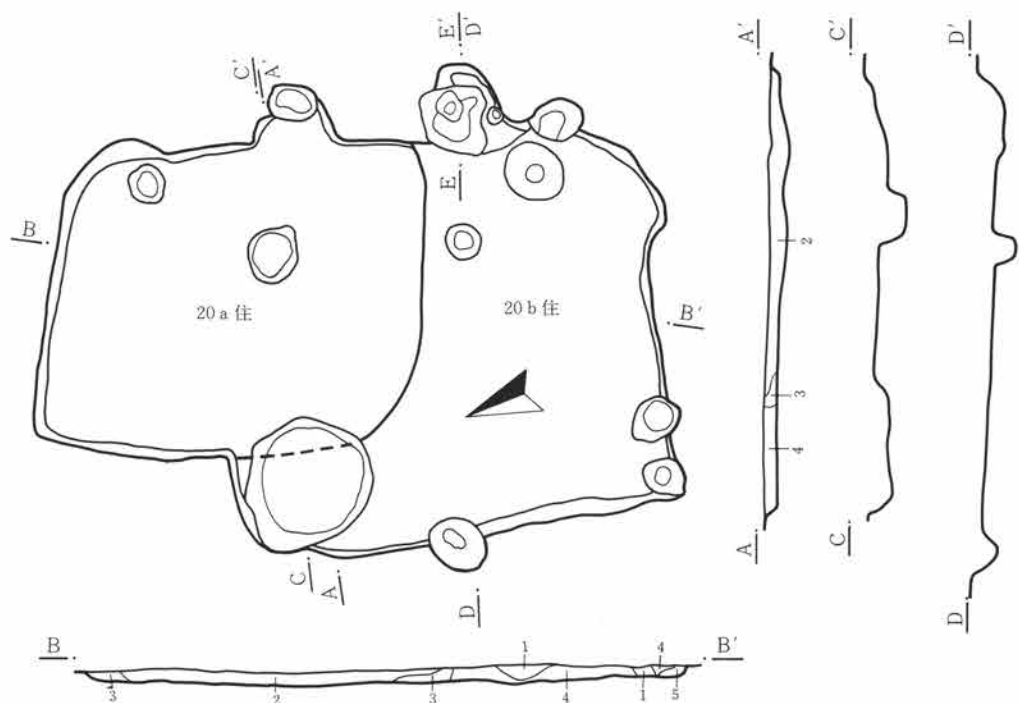
(外山)

I 地区 A 区 20 b 号住居跡 (第397・399図、第106表)

当住居跡は、A区20a号住居跡・A区1号館跡と重複する。A区20a号住居跡との新旧関係は、同住居跡が、当住居跡の北東部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区1号館跡との新旧関係を直接的に判定することはできないが、同館跡とA区20a号住居跡との関係から当住居跡の方が古い。

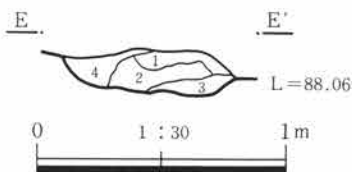
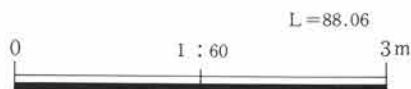
当住居跡の規模は、東西約3.1m・南北約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約5～10cmであり、残存状態は不良である。床面は比較的硬く、ほぼ平坦である。主軸はN-10°-Eである。

竈は、東側壁のやや南寄りに築かれている。大部分が破壊されているが、燃焼部からは、焼土



I 地区 A 区 20 a・20 b 号住居跡土層説明

- 1 褐色土 ローム粒子・軽石を含む。
- 2 褐色土 ロームブロック・軽石を含む。
- 3 黄褐色土 多量のロームを含む。
- 4 褐色土 ロームブロック・軽石を含み、粘性が弱い。
- 5 流れ込みのローム層



I 地区 A 区 20 b 号住居跡竈土層説明

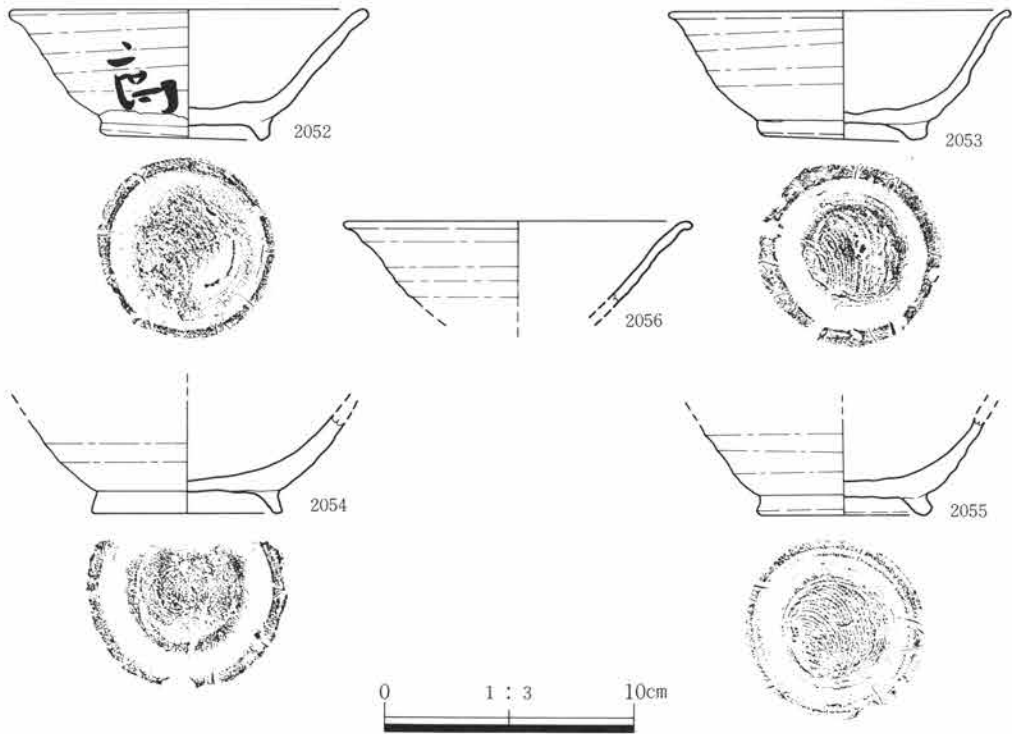
- 1 黄褐色土 ロームと褐色土の混合。
- 2 黄褐色土 ロームと褐色土の混合。焼土ブロックを含む。
- 3 褐色土 焼土ブロック・炭化物・灰を含む。
- 4 褐色土 ローム粒子を含む。

第397図 I 地区 A 区 20 a・20 b 号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物

を検出することができた。住居内の北西部隅からはピットが1基検出できた。規模は、長軸約1.2m・短軸約1.0m・床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。ピットの形態から、貯蔵穴とは考えにくい。その他、6基の小ピットが検出できたが、柱穴とは考えにくい。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の甕・還元焼成の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半～10世紀前半である。 (外山)



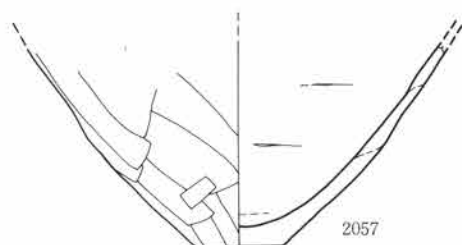
第398図 I地区A区20a号住居跡遺物図

第105表 I地区A区20a号住居跡遺物観察表

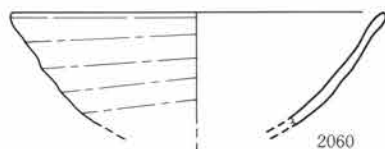
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態 備考
2052	椀	器高:52mm 口径:143mm 底径:68mm 完形	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤などで。内面:口縁部～底部はなで。	住居内南西部。内面に油煙付着。墨書。

(1) 竪穴住居跡

2053	椀	器高:51mm 口径:136mm 底径:68mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰黄。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部上半は轆轤なで、体部下半はなで。内面:口縁部～底部はなで。	住居内南西隅。
2054	椀	器高:(39mm) 口径:一底径:[76mm] 体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰黄。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面に重ね焼きの痕跡あり。外面:体部は轆轤なで。内面:体部～底部はなで。	住居内北西部。
2055	椀	器高:(38mm) 口径:一底径:70mm 体部下半～底部残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部～底部はなで。	住居内覆土。
2056	椀	器高:(32mm) 口径:[140mm] 底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。明オリーブ灰。	口縁端部は外湾。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部はなで。	住居内覆土。



2057



2060



2059



2058



第399図 I地区A区20b号住居跡遺物図

第106表 I地区A区20b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2057	甕	器高:(80mm) 口径:一底径:[33mm] 体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐色。	外面:体部下半は篋削り。内面:口縁部底部は篋なで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。

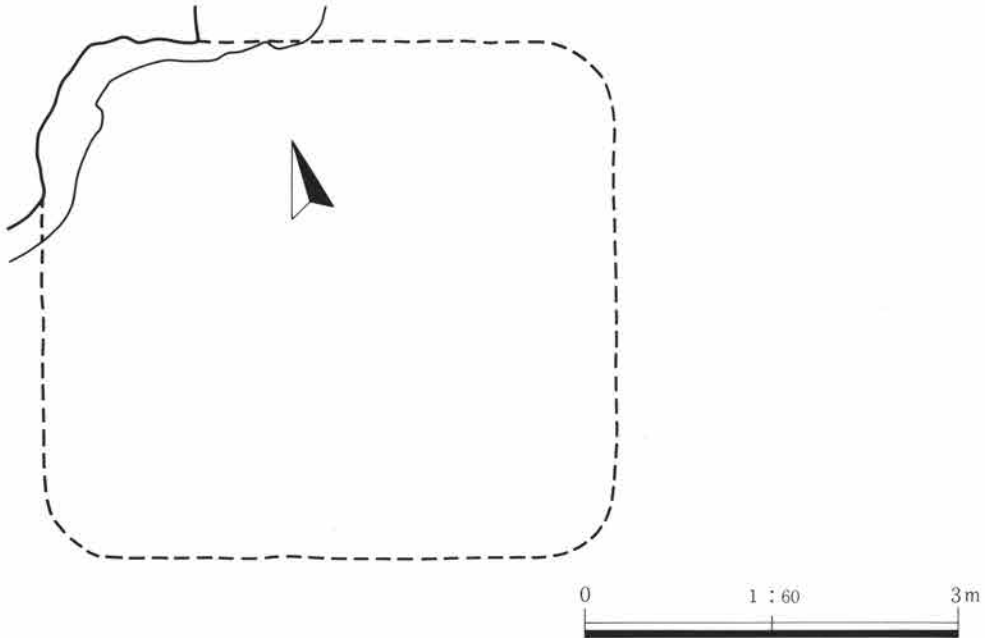
第4章 平安時代の遺構と遺物

2058	椀	器高:[55mm]口径: [146mm]底径:[62mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内床下。
2059	杯	器高:(42mm)口径: [146mm]底径:-口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は外湾。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部はなで。	住居内床下。
2560	杯	器高:(45mm)口径: [150mm]底径:-口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。淡黄。	外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部はなで。	住居内床下。

I地区A区21号住居跡 (第400~403図、第107表)

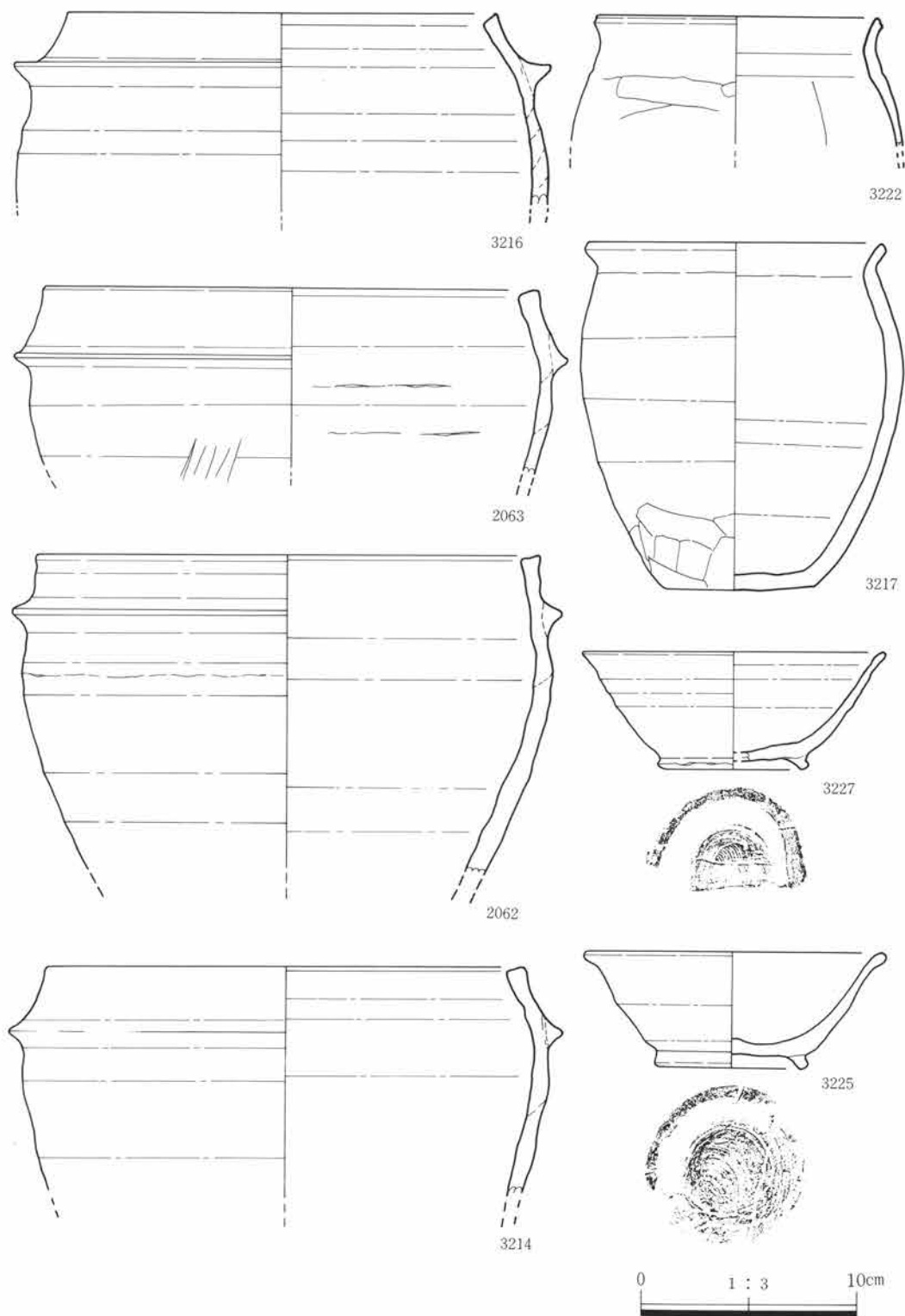
当住居跡は4号方形周溝墓調査中に検出された住居跡である。当住居跡は4号方形周溝墓の周溝内に築かれており、4号方形周溝墓より当住居跡の方が新しいと考えられるが、周溝上面からは検出できなかった。遺物の散布状態から住居跡が確認できたが、壁は北西隅部分しか検出できなかった。床面は不明瞭であり、凹凸が多い。主軸は不明であり、竈・柱穴・貯蔵穴も不明である。

遺物は羽釜・酸化焼成の甕・杯、還元焼成の椀・杯、灰釉陶器の皿などが多量に出土しており、散布は住居内全面にわたっていた。遺物から考える当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

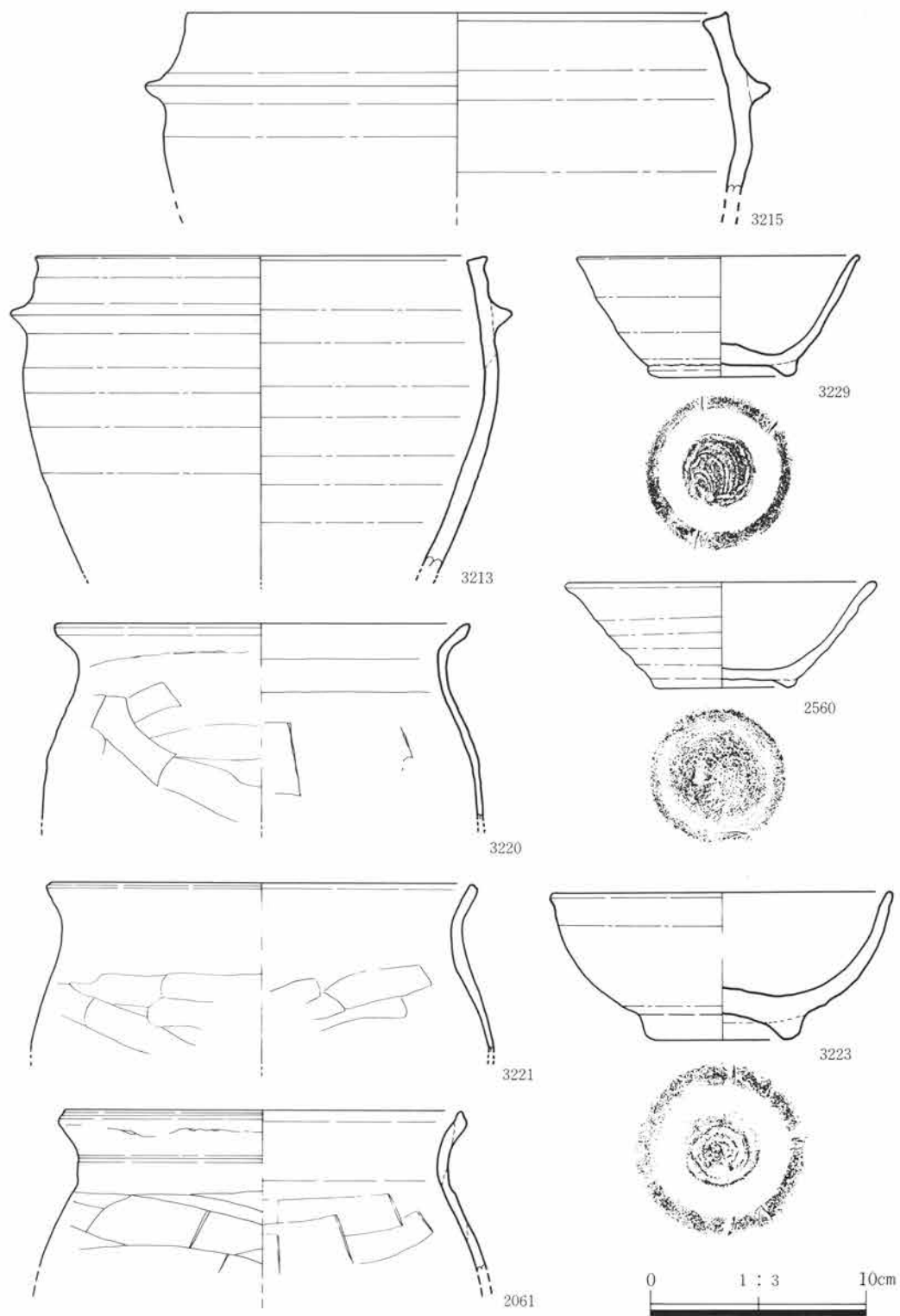


第400図 I地区A区21号住居跡遺構図

(1) 豎穴住居跡

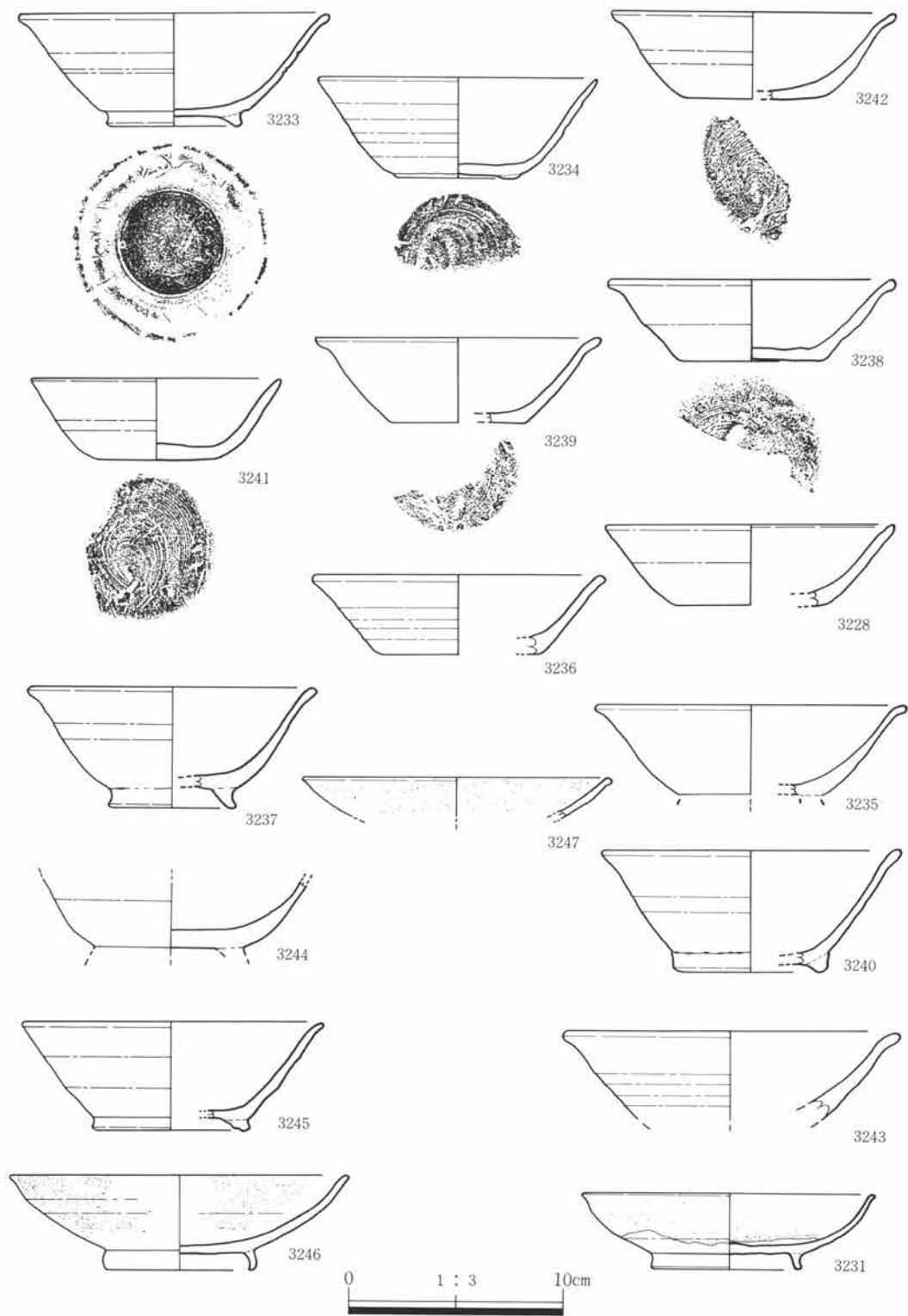


第401图 I地区A区21号住居跡遺物図(1)



第402図 I地区A区21号住居跡遺物図(2)

(1) 竖穴住居跡



第403图 I地区A区21号住居跡遗物图(3)

第4章 平安時代の遺構と遺物

第107表 I地区A区21号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態
2061	甕	器高:(72mm)口径:[190mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部。内面に油煙付着。
2062	羽釜	器高:(145mm)口径:[234mm]底径:一最大径:[254mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部~体部上端はやや内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。
2063	羽釜	器高:(82mm)口径:[230mm]底径:一最大径:[256mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質灰褐色。	口縁部はやや内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内南西部。内外面に油煙付着。
2560	椀	器高:48mm口径:143mm底径:65mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北東部。
3213	羽釜	器高:(145mm)口径:[208mm]底径:一最大径:[232mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰褐色。	口縁部~体部上半はやや外湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部は轆轤なで。	住居内中央部。外面に油煙付着。
3214	羽釜	器高:(105mm)口径:[222mm]底径:一最大径:[256mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐色。	口縁部は内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南東部覆土。内外面に油煙付着。
3215	羽釜	器高:(83mm)口径:[248mm]底径:一最大径:[288mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3216	羽釜	器高:(88mm)口径:[198mm]底径:一最大径:[248mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐色。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3217	甕	器高:160mm口径:138mm底径:69mm最大径:149mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで、体部下端~底部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
3220	甕	器高:(90mm)口径:[192mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐色。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

3221	甕	器高:(78mm)口径: [198mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質赤褐色。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は窠削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は窠なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3222	甕	器高:(58mm)口径: [132mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は窠削り。内面:口縁部は横なで、体部上端はなで。	竈内。
3223	椀	器高:68mm口径:[158mm] 底径:71mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内中央部。内外面に油煙付着。
3225	椀	器高:54mm口径:[140mm] 底径:71mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部。
3227	椀	器高:54mm口径:[140mm] 底径:[70mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3228	杯	器高:(38mm)口径: [134mm]底径:[70mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	内面口縁端部に段あり。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北東部隅。内外面に油煙付着
3229	椀	器高:56mm口径:[130mm] 底径:68mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質黄灰。	口縁端部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
3231	皿 灰釉陶器	器高:35mm口径:[136mm] 底径:70mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁端部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部~体部上半は丁寧な轆轤なで、体部下半は回転窠削り。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。外面に油煙付着。
3233	椀	器高:(52mm)口径: [144mm]底径:[63mm] 口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁端部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
3234	椀	器高:46mm口径:[130mm] 底径:[56mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

3235	椀	器高:(41mm)口径: [144mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	口縁部は外湾。底部は高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3236	杯	器高:37mm口径:[136mm]底径:[74mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部は僅かに外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部。
3237	椀	器高:56mm口径:[134mm]底径:[58mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。黄灰。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部。
3238	杯	器高:(38mm)口径: [133mm]底径:[66mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内覆土。
3239	杯	器高:39mm口径:[132mm]底径:[62mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部。
3240	椀	器高:56mm口径:[138mm]底径:[72mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北東部。
3241	杯	器高:38mm口径:[116mm]底径:[56mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3242	杯	器高:40mm口径:[132mm]底径:[62mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3243	椀	器高:(41mm)口径: [156mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。
3244	椀	器高:(31mm)口径: 一底径:一体部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	内外面に油煙付着
3245	椀	器高:50mm口径:[140mm]底径:[74mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

3246	皿 灰釉陶器	器高:(44mm)口径: [157mm]底径:[72mm] 口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。硬質。還元。 灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:口 縁部~体部は丁寧な轆轤なで。内 面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3247	皿 灰釉陶器	器高:(18mm)口径: [144mm]底径:一口縁 部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口 縁部~体部上半は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

I 地区 A 区22 a 号住居跡 (第404・405図、第108表)

当住居跡は、A区22 b号住居跡と重複する。新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、北側部分が調査区域外になるため、確定できないが、東西は約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約15~20cmであるが、A区22 b号住居跡との重複部分では、断面での確認である。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。主軸は不明である。

竈は、東側壁に築かれている。大部分が破壊されているが、燃焼部から焼土を検出することができた。住居内の南東隅からは、ピットが1基検出できた。規模は、長軸約110cm・短軸約90cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は、楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

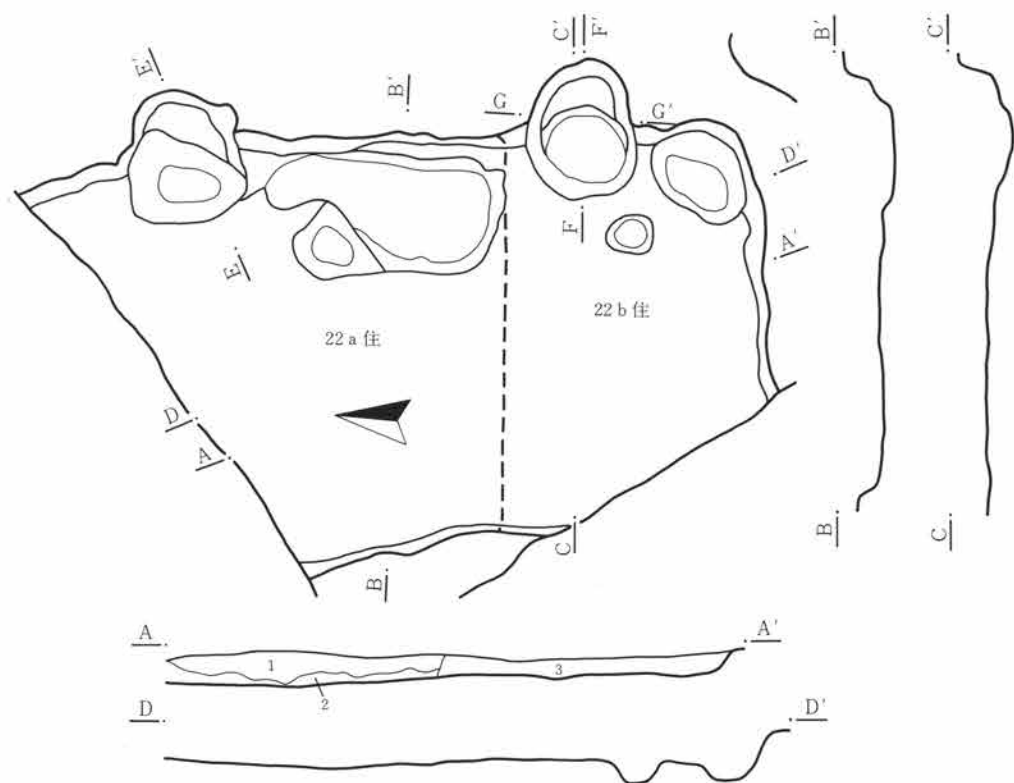
遺物は、還元焼成の甕・杯、酸化焼成の甕が出土しているが出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後~10世紀前半である。(外山)

I 地区 A 区22 b 号住居跡 (第404・406図、第109表)

当住居跡は、A区22 a号住居跡と重複する。新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、北側部分はA区22 a号住居跡との重複により確定できないが、東西は約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。確認面までの壁の立ち上がりは約15cmである。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。主軸は不明である。

竈は、東側壁に築かれている。大部分が破壊されており、袖は確認できなかったが、燃焼部から焼土・炭化物を検出することができた。住居内の南東部からは、2基のピットを検出することができた。南東すみのピットの規模は、長軸約80cm・短軸約65cmであり・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴と考えることができる。竈の右斜め前のピットの規模は、径約35cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴と考えるには難がある。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の甕・須恵器の椀が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀である。(外山)



I 地区A区22b号住居跡土層説明

- 1 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物・軽石を含む。
- 2 焼土 多量の灰を含む。
- 3 褐色土 少量の焼土ブロック・炭化物を含む。



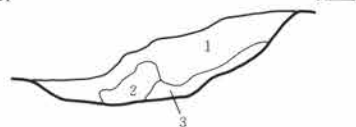
E-E'



I 地区A区22a号住居跡土層説明 (E-E')

- 1 褐色土 軽石・黒褐色土を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子・軽石を含む。
- 3 褐色土 少量の焼土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む。

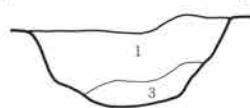
F-F'



I 地区A区22a・22b号住居跡土層説明 (F-F'・G-G')

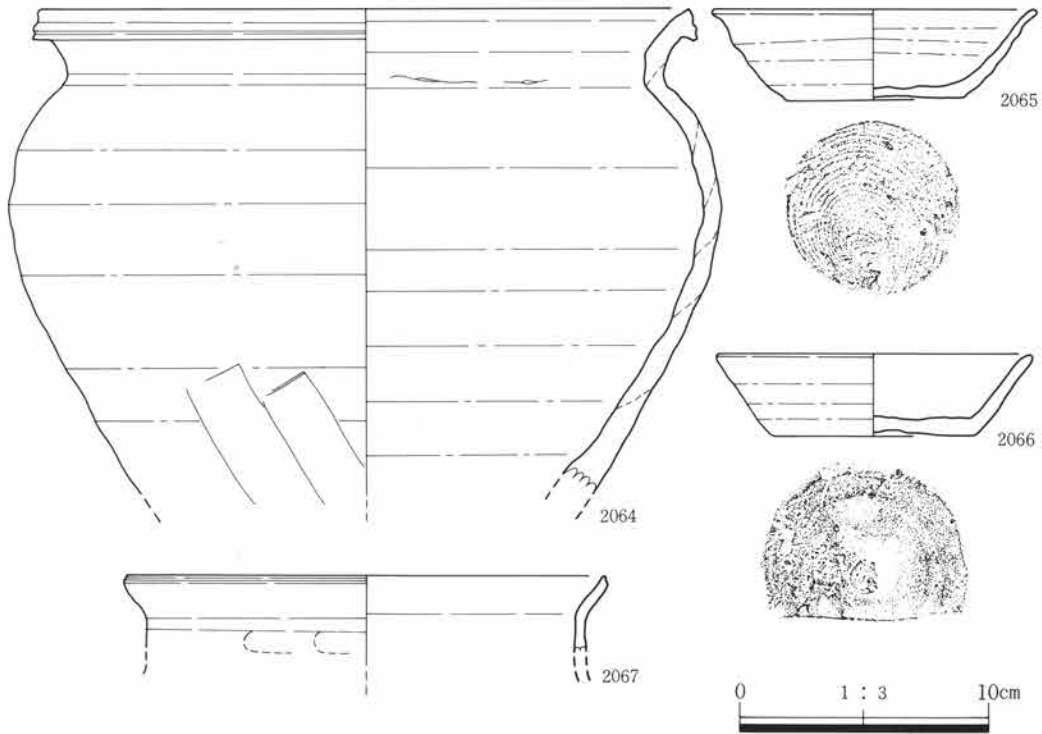
- 1 褐色土 ローム粒子・ロームブロック・軽石を含む。
- 2 褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 3 褐色土 ローム粒子を含む。

G-G'



第404図 I 地区A区22a・22b号住居跡遺構図

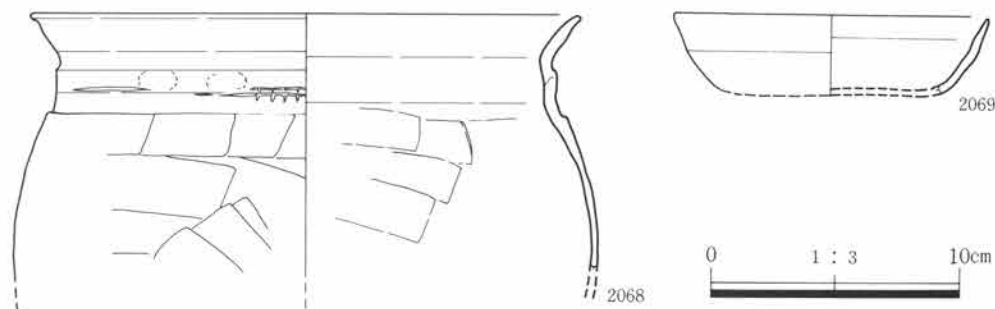
(1) 竪穴住居跡



第405図 I地区A区22a号住居跡遺物図

第108表 I地区A区22a号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態
2064	甕	器高:(192mm)口径:[260mm]底径:—最大径:[285mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は「コ」字状に外湾し、外稜を持つ。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後篋なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈前。
2065	杯	器高:36mm口径:130mm底径:70mmほぼ完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈左脇。
2066	杯	器高:32mm口径:[126mm]底径:[80mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は回転篋切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内北西部。
2067	甕	器高:(30mm)口径:[194mm]底径:—口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上端は指なで。内面:口縁部～体部上端は横なで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。



第406図 I地区A区22b号住居跡遺物図

第109表 I地区A区22b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2068	壺	器高:(100mm)口径:[220mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰褐色。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、頸部は指なで痕あり、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。
2069	杯	器高:(31mm)口径:[126mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	内外面共に口縁部は横なで、体部はなで。	住居内南東部。内外面に油煙付着。

I地区A区23号住居跡 (第407~409図、第110表)

当住居跡は、A区24号住居跡・A区1号館跡と重複する。A区24号住居跡との新旧関係は、不明であり、A区1号館跡との新旧関係は、覆土の相違から当住居跡の方が古い。

当住居跡は北側部分及び西側部分をA区1号館跡に破壊されており、規模は不明であるが、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は不明である。残存している、南東部分での壁の立ち上がりは、確認面からの深さ約30cmである。床はやや軟弱であり、凹凸が多い。竈は南側壁に築かれているが、大部分がA区1号館跡に破壊されている。左側部分の掘り込みと、竈構築材に使用されたと考えられる石が確認できた。柱穴・貯蔵穴は不明である。

遺物は羽釜・酸化焼成の壺・椀・杯、還元焼成の椀・杯などが、比較的多量に出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

I地区A区24号住居跡 (第407・409図、第110表)

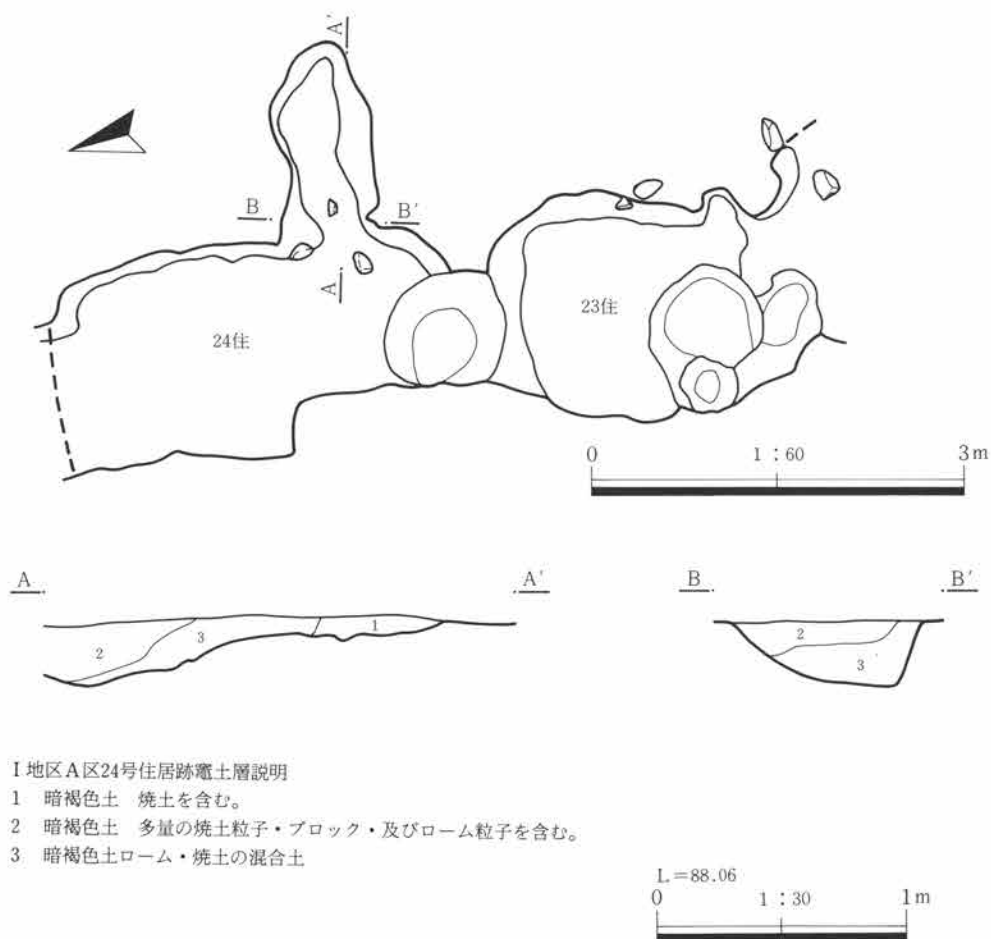
当住居跡はA区23号住居跡・A区1号館跡と重複する。A区23号住居跡との新旧関係は、不明である。A区1号館跡との新旧関係は、覆土の相違・出土遺物の相違から、当住居跡の方が古い。

(1) 竪穴住居跡

当住居跡は、北側の大部分をA区1号館跡に破壊されており、南側部分のみが残存している。A区1号館跡によって破壊されているために、規模・平面形は不明であるが、東西は約3～3.5mで、隅丸方形ないしは長方形を呈すると推定される。主軸は不明である。

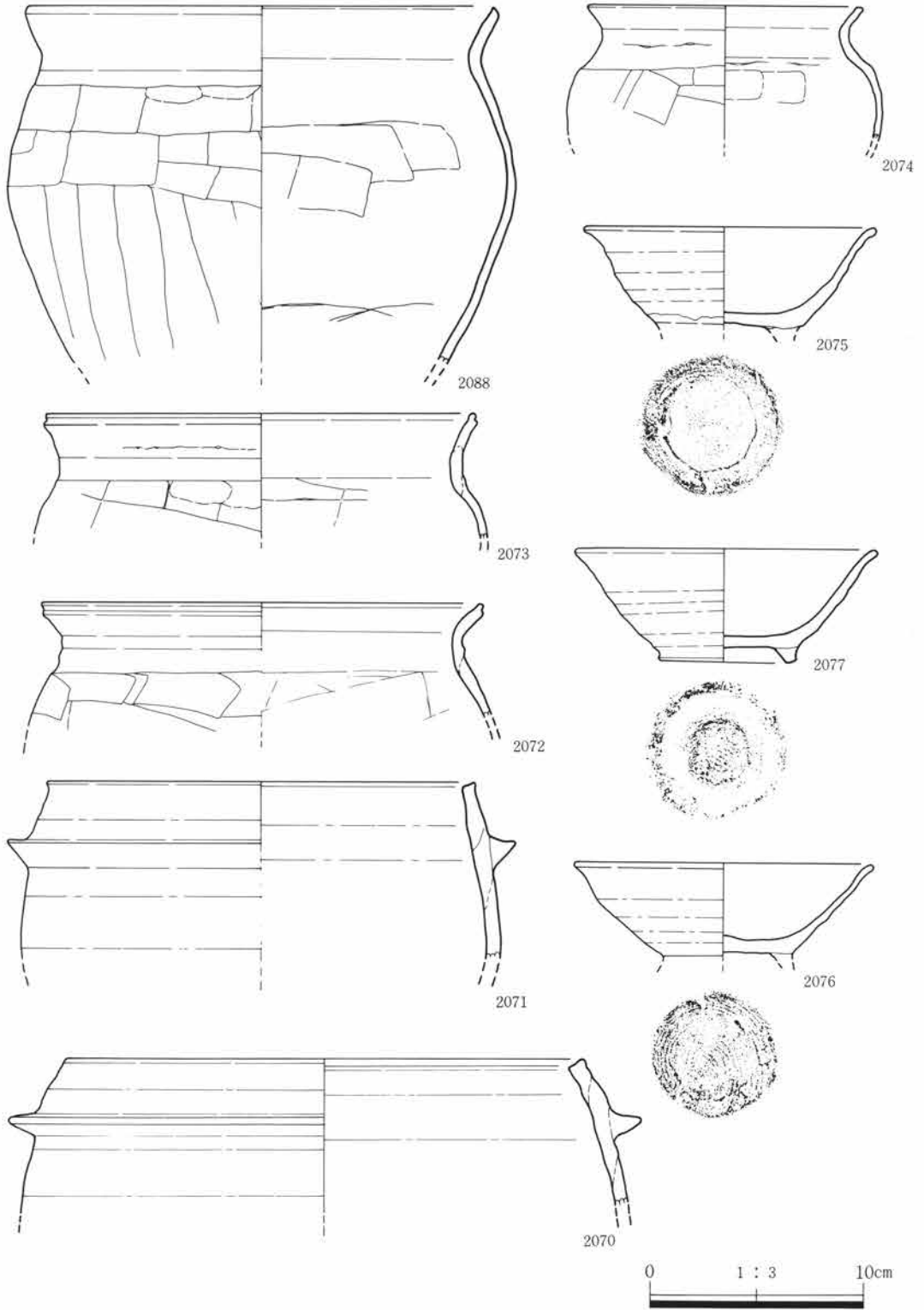
竈は南側壁の西よりに構築されている。袖は破壊されており、確認できなかったが、袖の基部と考えられる壁際に石が置かれているのを確認できた。又、竈中央には支脚似使用されたと考えられる椀が、伏せた形で置かれていた。煙道部の壁外への張り出しは約1.5mであり、煙道部の長い竈である。柱穴・貯蔵穴は不明である。

遺物は竈内から羽釜・還元焼成の椀が出土しているが、遺物量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。
(井川)



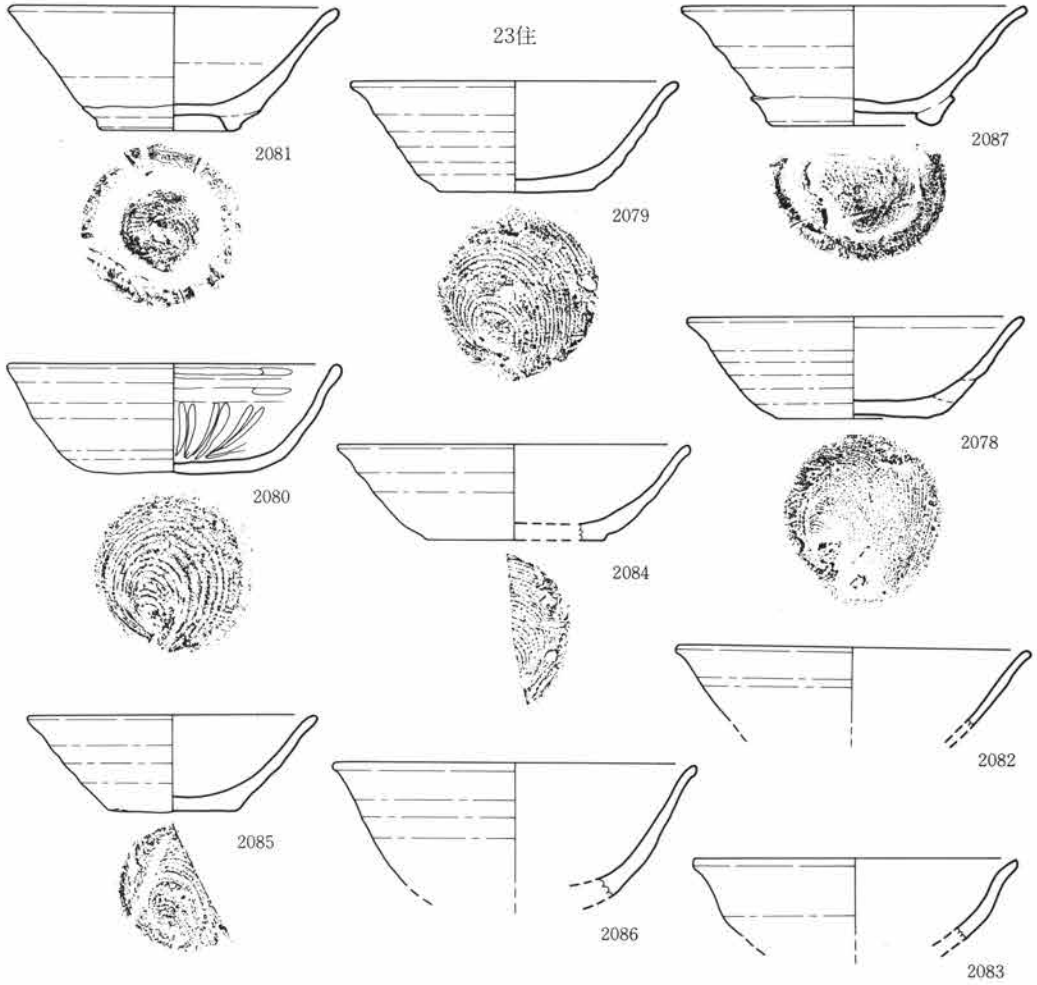
第407図 I 地区A区23・24号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物

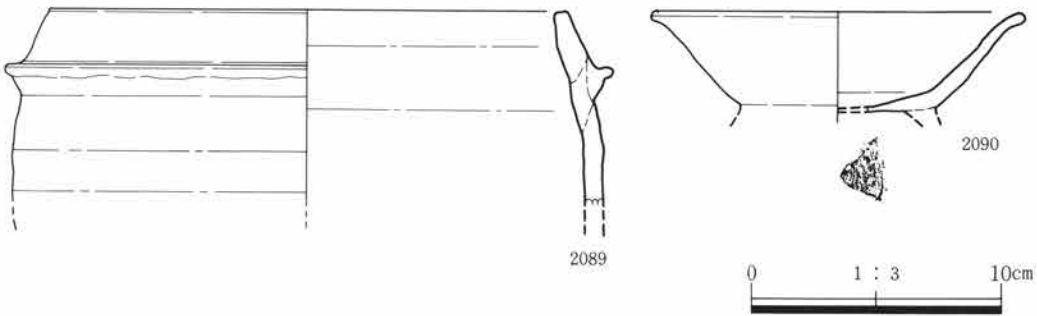


第408図 I地区A区23号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



24住



第409図 I地区A区23・24号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第110表 I地区A区23・24号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
23住 2070	羽釜	器高:(66mm)口径: [240mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明赤褐。	口縁部~体部上端は内湾。外面:口縁部~鈎部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2071	羽釜	器高:(82mm)口径: [200mm]底径:一最大径: [238mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部~体部上端はやや内湾。最大径は鈎部。外面:口縁部~鈎部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部はなで。	住居内南西部。
2072	甕	器高:(52mm)口径: [206mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで体部は篋なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
2073	甕	器高:(57mm)口径: [200mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで体部は篋なで。	住居内南西部。内外面に油煙付着。
2074	甕	器高:(61mm)口径: [128mm]底径:一最大径: [147mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部はなで。	住居内南東部。
2075	椀	器高:(47mm)口径: 136mm底径:一高台部欠	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
2076	椀	器高:(42mm)口径: 140mm底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残高台部欠	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。口縁部はやや外湾。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内中央部。
2077	椀	器高:52mm口径:142mm 底径:65mmほぼ完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。口縁部はやや外湾。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北西部。内外面に油煙付着。
2078	杯	器高:40mm口径:135mm 底径:62mmほぼ完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	覆土。
2079	杯	器高:45mm口径:[131mm] 底径:62mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。口縁部はやや外湾。	住居内南東部。

(1) 竪穴住居跡

2080	杯	器高:43mm口径:[133mm]底径:60mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部はなで後放射状筥磨き。	住居内覆土。内外面に燻しあり。
2081	椀	器高:49mm口径:132mm底径:57mmほぼ完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。内外面に燻しあり。	住居内南東部。
2082	椀	器高:(31mm)口径:[142mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内南西部。内外面に油煙付着。
2083	椀	器高:(32mm)口径:[130mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2084	杯	器高:(38mm)口径:[141mm]底径:[71mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質緑灰。	轆轤左回転。底部は回転糸切り。口縁部はやや外湾。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南西部。
2085	杯	器高:38mm口径:[116mm]底径:50mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。内面:口縁部～体部は轆轤なで。外面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部。
2086	椀	器高:(52mm)口径:[146mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内南東部。
2087	椀	器高:47mm口径:[138mm]底径:70mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部。内面に油煙付着。
2088	甕	器高:(165mm)口径:[222mm]底径:一最大径:[237mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は筥削り。内面:口縁部は横なで、体部は筥なで。	覆土。外面に油煙付着。
24住 2089	羽釜	器高:(75mm)口径:[206mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い赤褐。	口縁部～体部上端はやや内湾。外面:口縁部～鋳部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2090	椀	器高:(39mm)口径:[150mm]底径:一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。口縁部はやや外湾。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。

Ⅰ 地区A区25号住居跡（第410～412図、第111表）

当住居跡は、A区26号住居跡・A区4号方形周溝墓と重複する。A区26号住居跡との新旧関係は、同住居跡が、当住居跡の西側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区4号方形周溝墓との新旧関係は、同方形周溝墓の周溝上に当住居跡が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。主軸は不明である。

当住居跡の規模は、西側部分をA区26号住居跡により破壊されているために確定できないが、南北約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは約5～10cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。

竈は、東側壁のほぼ中央に築かれている。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、灰・焼土を検出することができた。又、燃焼部からは、構築材に使用されたと考えられる石が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、羽釜、酸化焼成の甕、還元焼成の杯が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。 (外山)

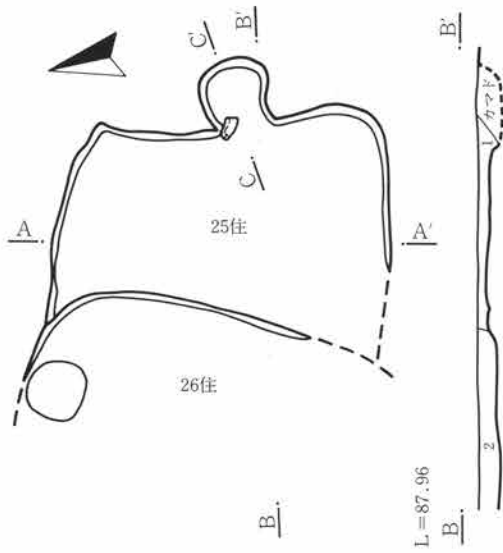
Ⅰ 地区A区26号住居跡（第410・412図、第111表）

当住居跡はA区25号住居跡・A区4号方形周溝墓と重複する。A区25号住居跡との新旧関係は覆土の相違により、当住居跡の方が新しい。A区4号方形周溝墓との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は、A区4号方形周溝墓の周溝覆土中に構築されている。北西部分のみの検出であり、住居跡の規模・平面形・主軸は不明である。確認できた北西部分での壁の立ち上がりは約15～10cmであり、残存状態は不良である。床は軟弱で、やや凹凸が多く、竈・柱穴・貯蔵穴等は不明である。

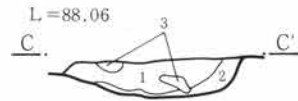
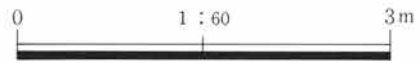
遺物は羽釜、酸化焼成の甕、還元焼成の碗が出土しているが、出土量は非常に少ない。出土遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。 (井川)

(1) 竪穴住居跡



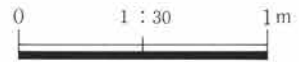
I地区A区25・26号住居跡土層説明

- 1 褐色土 ロームブロック・軽石・焼土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・軽石を含む。

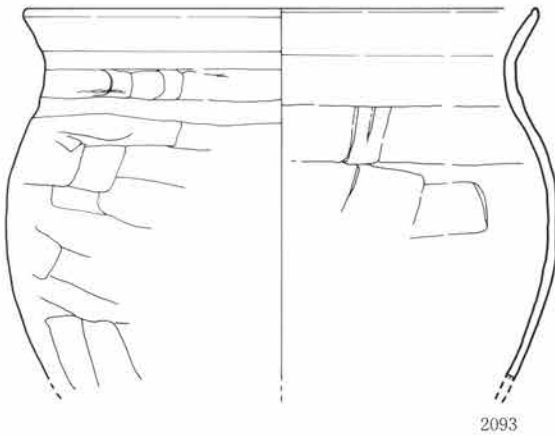


I地区A区25号住居跡土層説明

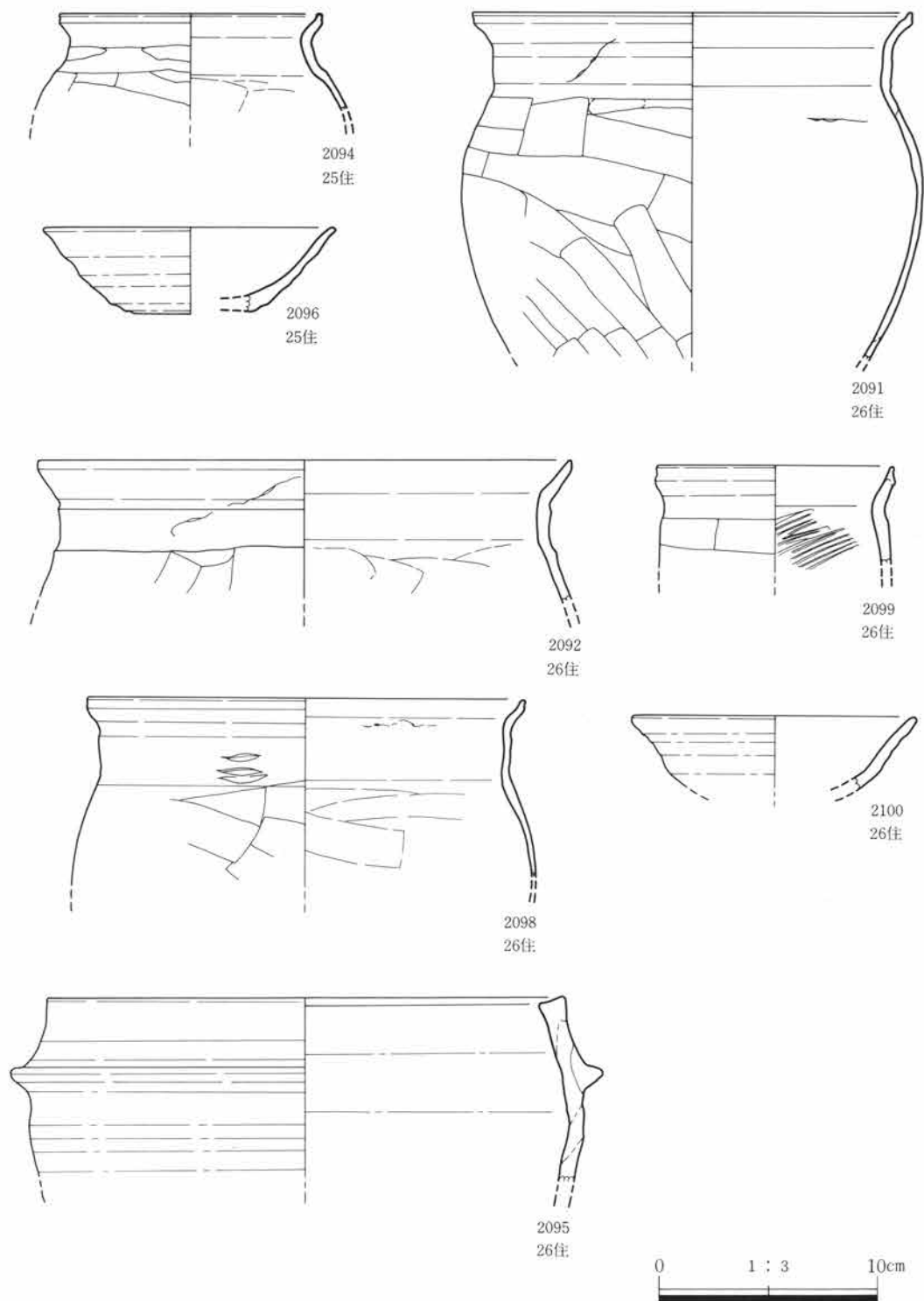
- 1 褐色土 多量の焼土ブロックを含む。
- 2 灰・焼土の混合
- 3 焼土



第410図 I地区A区25・26号住居跡遺構図



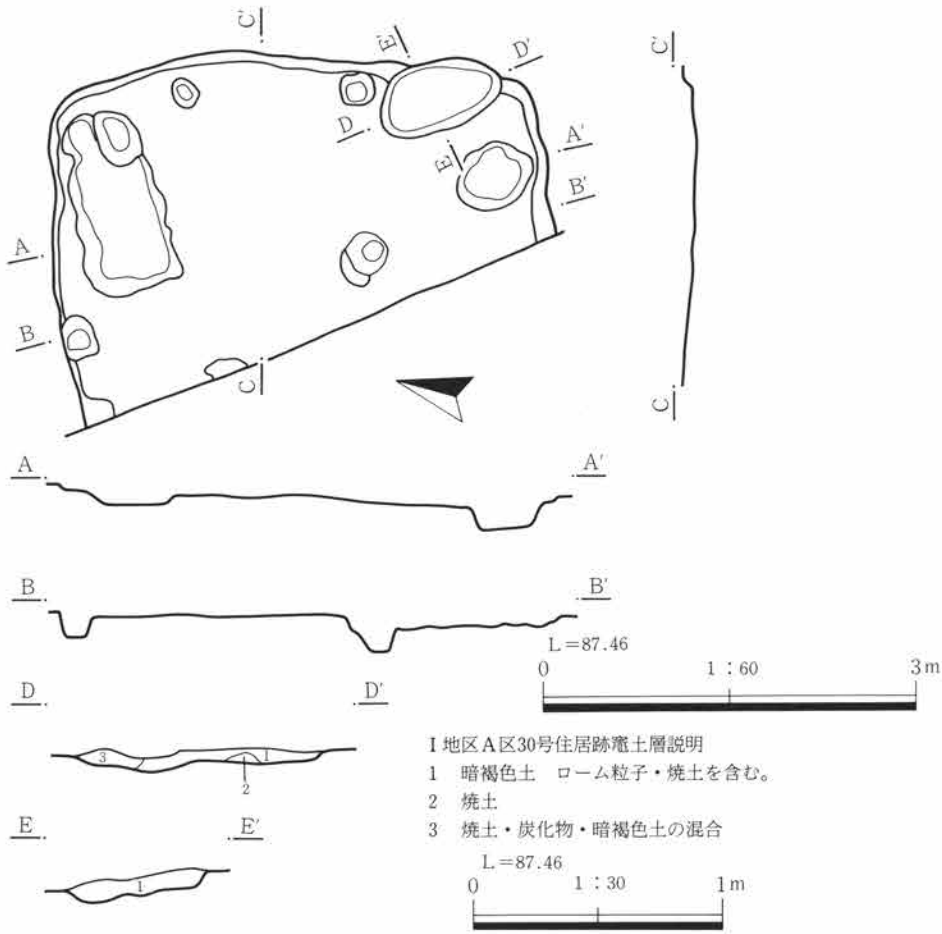
第411図 I地区A区25号住居跡遺物図(1)



第412図 I地区A区25・26号住居跡遺物図(2)

第 111 表 I 地区 A 区 25・26 号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
25住 2093	甕	器高:(147mm)口径: [207mm]底径:一最大 径:[220mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3~4 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部は指なで痕が残り、 体部は篋削り。内面:口縁部は横なで 体部は篋なで。	住居内北西部。内 外面に油煙付着。
2094	甕	器高:(42mm)口径: [120mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部は篋削り。内面:口縁部は横 なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2096	杯	器高:(38mm)口径: [133mm]底径:[54mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。灰黄。	底部は回転糸切り。外面:口縁部~体 部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は 轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2097	杯	器高:41mm口径:132 mm底径:62mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。灰黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:口縁部~体部は轆轤なで。内面: 口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南西隅。内 外面に油煙付着。 内外面に燻しあり
26住 2091	甕	器高:(152mm)口径: [202mm]底径:一最大 径:[210mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部は篋削り。内面:口縁部は横 なで、体部はなで。	住居内北東部。内 外面に油煙付着。
2092	甕	器高:(63mm)口径: [244mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部は篋削り。内面:口 縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部。内 外面に油煙付着。
2095	羽釜	器高:(82mm)口径: [237mm]底径:一最大 径:[270mm]口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。灰褐。	口縁部~体部上端はやや内湾。最大 径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。	住居内中央部。内 外面に油煙付着。
2098	甕	器高:(80mm)口径: [200mm]底径:一口縁 部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 端部・頸部は篋なで、口縁部は横なで 体部は篋削り。内面:口縁部は横なで 体部はなで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2099	甕	器高:(42mm)口径: [108mm]底径:一口縁 部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。明褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横 なで、体部は篋削り。内面:口縁部は 横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2100	碗	器高:(33mm)口径: [130mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	内外面共に口縁部~体部は轆轤な で。	竈内。



第413図 I地区A区30号住居跡遺構図

I地区A区30号住居跡（第413・414図、第112表）

当住居跡は、A区1号古墳と重複する。A区1号古墳との新旧関係は、A区1号古墳の周溝覆土中に当住居跡の壁・床等が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

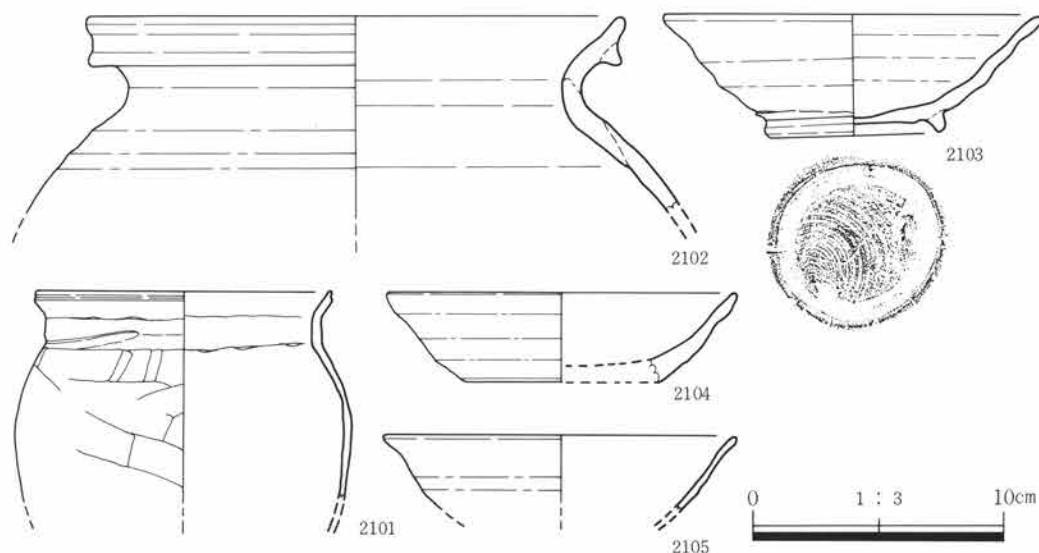
当住居跡の西側約1/2は、新幹線路線外になり、未調査のため規模は不明であるが、南北方向は約4.0mであり、平面形は隅丸方形ないしは長方形を呈すると推定される。壁の立ち上がりは約5cmであり、残存状態は非常に悪い。床面はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。主軸は不明である。

竈は東側壁の南端に築かれている。残存状態は非常に悪く、基底部の掘り込みのみの検出であり、袖は検出できなかったが、焼土が確認できた。北東部隅に縦約1.5m・横約0.7m・床面からの深さ約5cmで、長方形を呈する土坑が、南東部隅に長軸約0.7m・短軸0.5m・床面からの深さ約20cmで、不正楕円形を呈する土坑が検出できた。後者は貯蔵穴の可能性が考えられる。その他、直

(1) 竪穴住居跡

径20～30cm・床面からの深さ10～20cmのピットが4基検出できたが、柱穴とは考えにくい。

遺物は酸化焼成の甕・椀、還元焼成の椀・杯等が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半～10世紀前半である。(井川)



第414図 I地区A区30号住居跡遺物図

第112表 I地区A区30号住居跡遺物観察表

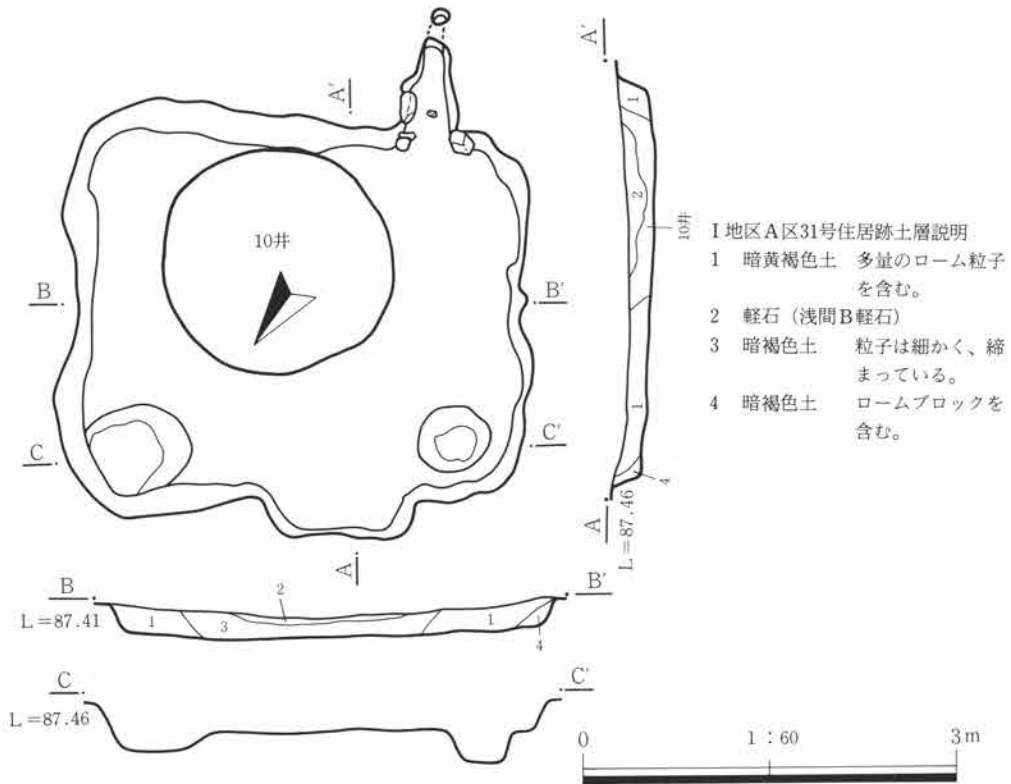
番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2101	甕	器高:(82mm)口径:118mm底径:一最大径:[134mm]口縁部～体部上半残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。暗赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部はなで。	住居内南東部。
2102	甕	器高:(78mm)口径:[215mm]底径:一口縁部～体部上半残	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部は大きく外湾。口縁部に外稜を持つ。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部はなで。	住居内南東部。
2103	椀	器高:48mm口径:151mm底径:72mm完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2104	杯	器高:(36mm)口径:[140mm]底径:一口縁部～体部残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部は丁寧なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2105	椀	器高:(30mm)口径:[142mm]底径:一口縁部～体部残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部はなで。	住居内覆土。

I 地区 A区31号住居跡 (第415～418図、第113表)

当住居跡はA区30号住居跡の北側に位置し、A区1号古墳・A区10号井戸跡と重複する。A区1号古墳との新旧関係は、A区1号古墳の周溝覆土中に当住居跡の壁・床等が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。A区10号井戸跡との新旧関係は、同井戸跡が当住居跡の南東部分の床面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は南北方向約3.0m・東西方向約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。壁の立ち上がりは確認面から約20～25cmであり、残存状態は比較的良好である。北側の壁に張り出した部分が認められるが、外の遺構(土坑)との重複である。床面はやや軟弱であるが、比較的平坦である。主軸はS-54°-Wである。

竈は南側壁の西端に築かれている。残存状態は比較的良好であるが、袖は確認できなかった。袖の壁際の基部と考えられる位置に、四面を調整した堅い粘土塊状の物が据えられているのが確認できた。竈中央には石製の支脚が竈底面に埋め込まれていた。煙道部の壁外への張り出しは約1.8mと長く、先端部はトンネル状になっているのが確認できた。又、煙道部の側面は、部分的に石を用いて固めていた。住居内の北西部隅に直径約70cm・床面からの深さ約15cmで、不整形な円形を呈する土坑1基と、北東部隅に直径約50cm・床面からの深さ約30cmで、円形を呈する土坑1

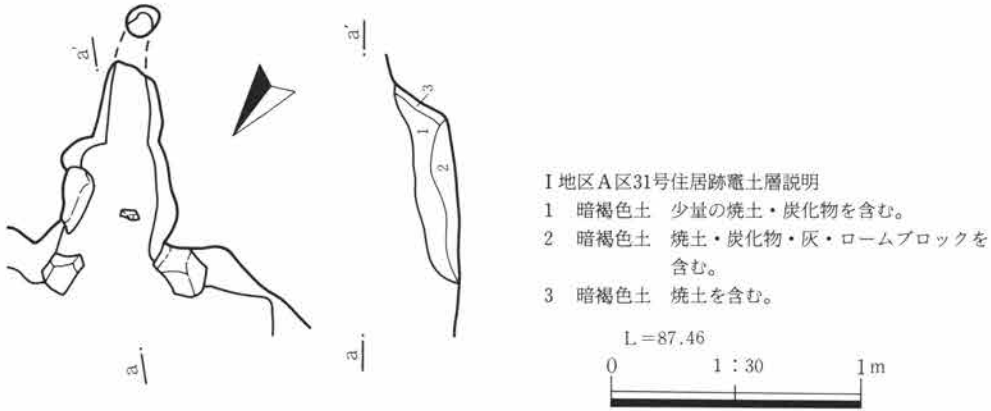


第415図 I 地区 A区31号住居跡遺構図 (1)

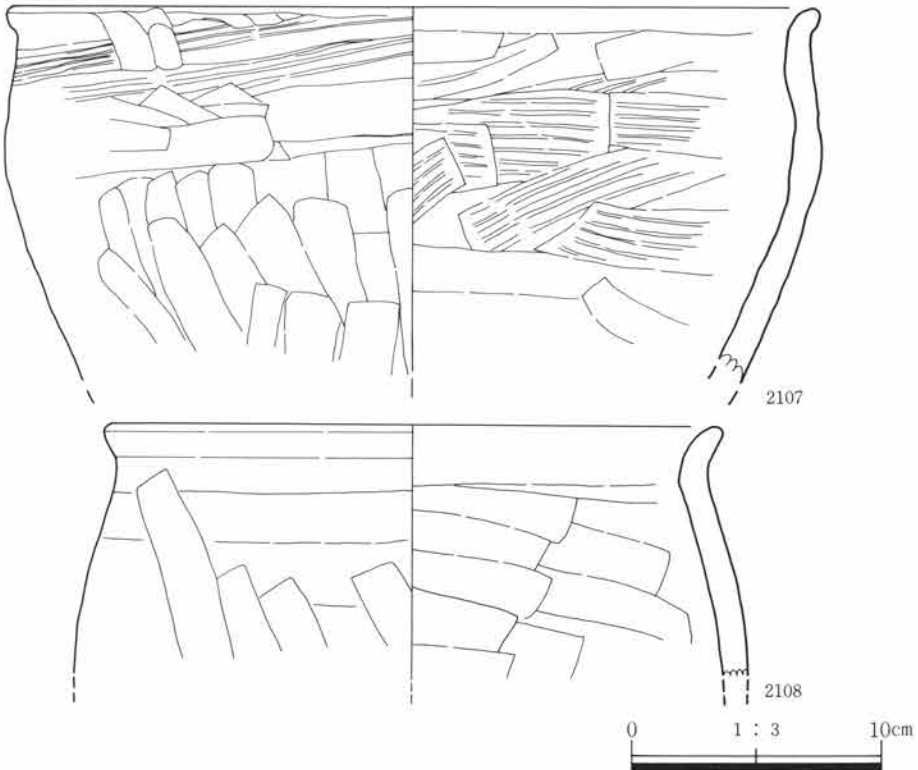
(1) 竪穴住居跡

基が確認できた。貯蔵穴の可能性も考えられる。柱穴は確認できなかった。

遺物は竈内に集中しており、酸化焼成の甕が4個体検出できた。その他の遺物は酸化焼成の椀・杯などがあるが、竈以外からの出土は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

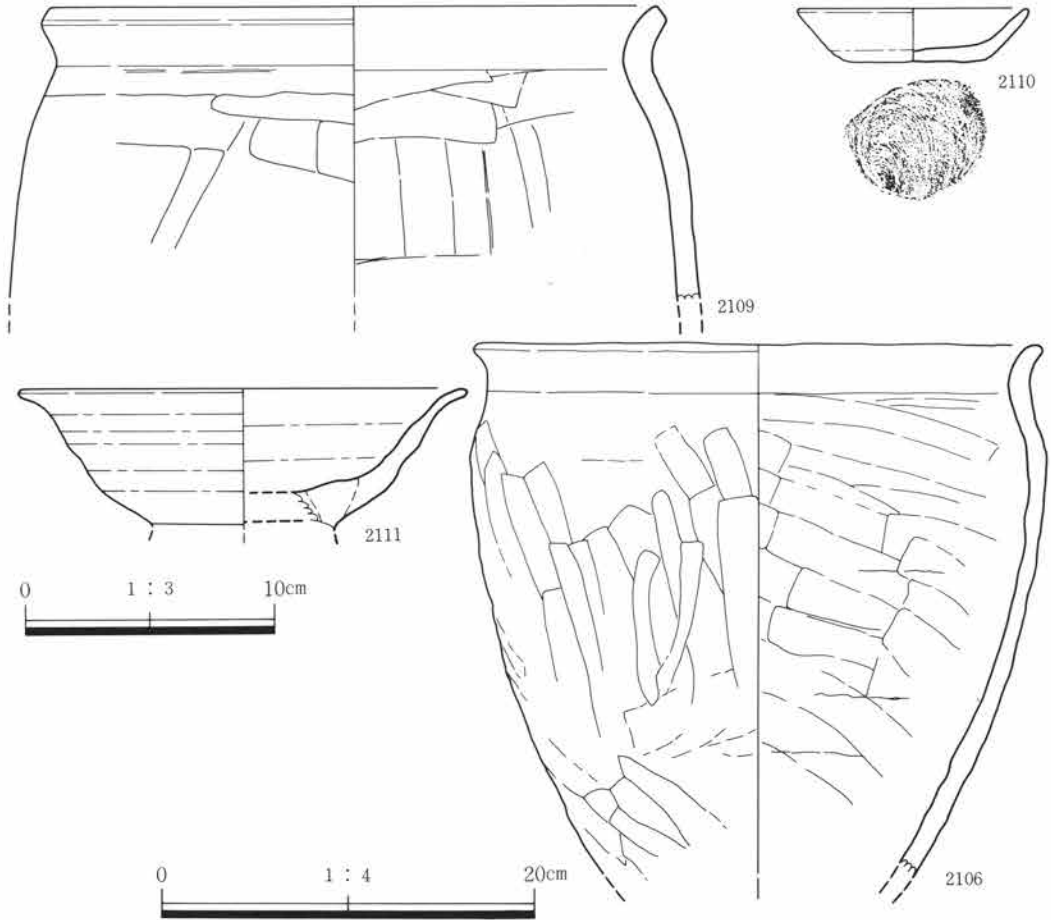


第416図 I地区A区31号住居跡遺構図(2)



第417図 I地区A区31号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



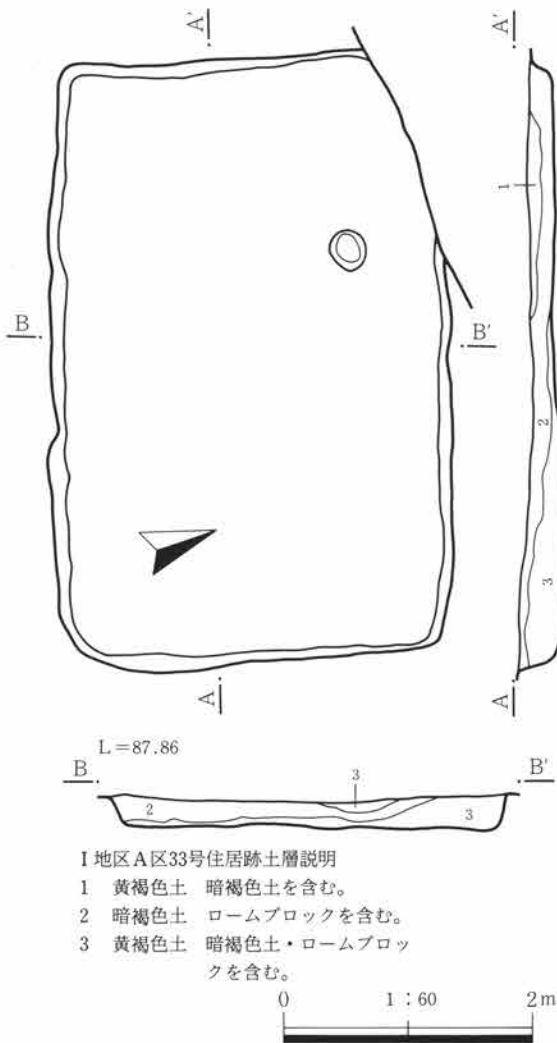
第418図 I地区A区31号住居跡遺物図(2)

第113表 I地区A区31号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2106	甕	器高:(280mm)口径:[306mm]底径:—最大径:[310mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質褐。	口縁部は外湾。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部はなで後篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈前床直。
2107	甕	器高:(147mm)口径:[325mm]底径:—口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質褐灰。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈前床直。
2108	甕	器高:(98mm)口径:[246mm]底径:—口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋なで。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2109	甕	器高:(115mm)口径: [250mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び 砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面: 口縁部は横なで、体部は窠なで。 内面: 口縁部は横なで、体部は窠なで。	竈前床直。外面に 油煙付着。
2110	杯	器高:21mm口径:92mm 底径:56mm 口縁部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び 砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い黄橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面: 口縁部~体部は轆轤なで。内面: 口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。内面に油煙 付着。
2111	椀	器高:(55mm)口径: [180mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び 砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い黄褐。	底部は高台貼り付け。口縁部は外湾。 外面: 口縁部~体部は轆轤なで。内 面: 口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南西部隅床 直。内外面に油煙 付着。



I 地区 A 区 33 号住居跡土層説明

- 1 黄褐色土 暗褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 暗褐色土・ロームブ
ックを含む。

第419図 I 地区 A 区 33 号住居跡遺構図

I 地区 A 区 33 号住居跡 (第419図、
図版68)

当住居跡は A 区 1 号古墳と重複し、A 区 1 号館跡の北側掘と接する。A 区 1 号古墳との新旧関係は不明であるが、覆土の状態・住居跡の形態から判断すると当住居跡の方が新しいと考えられる。

当住居跡の規模は南北方向約 4.7m・東西方向約 3.2m であり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は N-72°-W である。確認面からの壁の立ち上がりは約 20~35cm であり、北東部分が浅く、南西部分が深い。床面はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。

住居内北東部分に直径約 30cm・床面からの深さ約 20cm の小ピットが 1 基あるが、柱穴とは考えにくい。竈・貯蔵穴・壁溝等は検出できなかった。遺物もない。当住居跡の時期は、遺物がないことから不明であるが、住居跡の形態・覆土等から判断して平安時代としておく。又、竈がないことから、住居跡であるかどうかとも疑問が残る。時代の下る竪穴状遺構と考えたほうが良いのかもしれない。(井川)

I地区A区40号住居跡 (第420～423図、第114表、図版68)

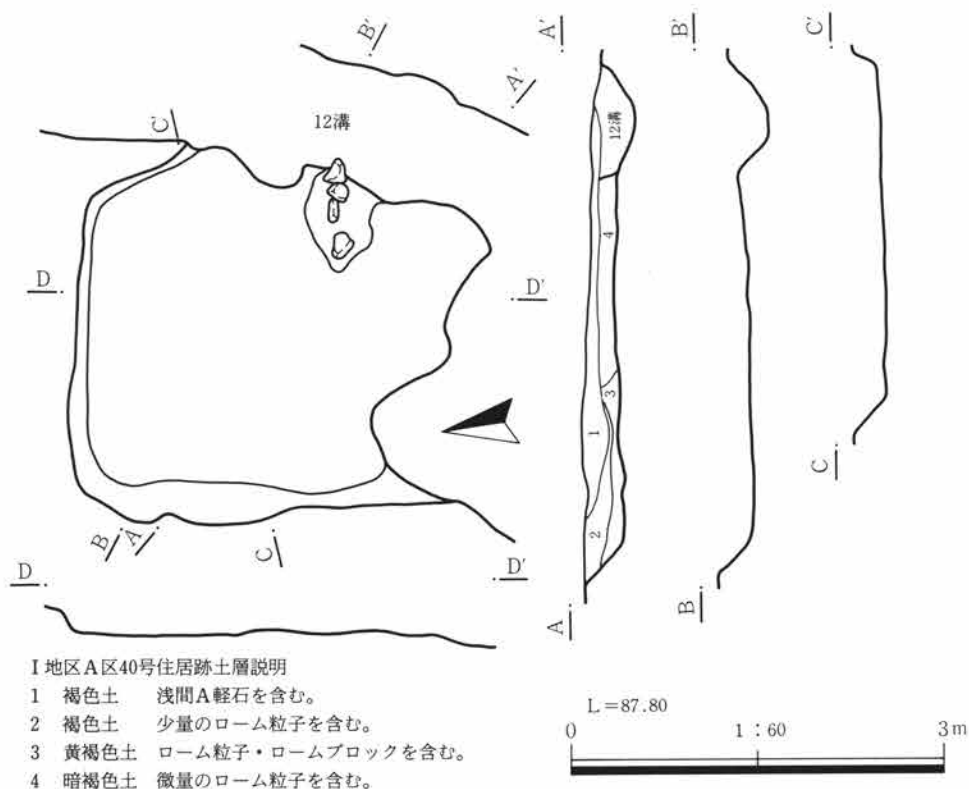
当住居跡は、A区7号方形周溝墓・A区13号溝と重複する。A区7号方形周溝墓との新旧関係は、7号方形周溝墓の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区13号溝との新旧関係は、A区13号溝が当住居の東側壁・竈を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東側部分はA区13号溝に破壊されているが、東西方向約2.7m・南北方向約3.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-7°-Wである。確認面からの壁の立ち上がりは約20cmであり、残存状態は不良である。床は、7号方形周溝墓との重複部分で未確認の部分が残るが、全体的にやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。

竈は東側部分がA区13号溝に破壊されているが、掘り込み部分のうえには焼土が確認できた。袖は河原石を構築材に使用しており、大部分が破壊されているが、一部立ったままの石が確認できた。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

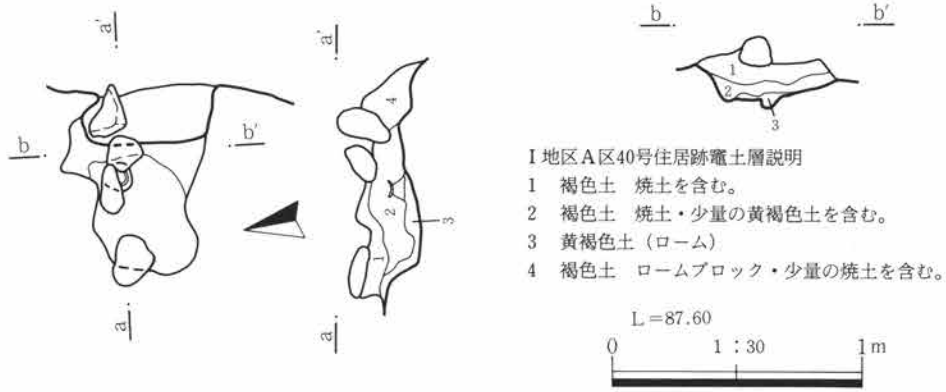
遺物は羽釜、還元焼成の椀、酸化焼成の椀、灰釉陶器の椀等が出土しているが、全体的な量は少ない。遺物・他の遺構との重複関係から推定される当住居跡の時期は、10世紀後半～11世紀前半である。

(井川)

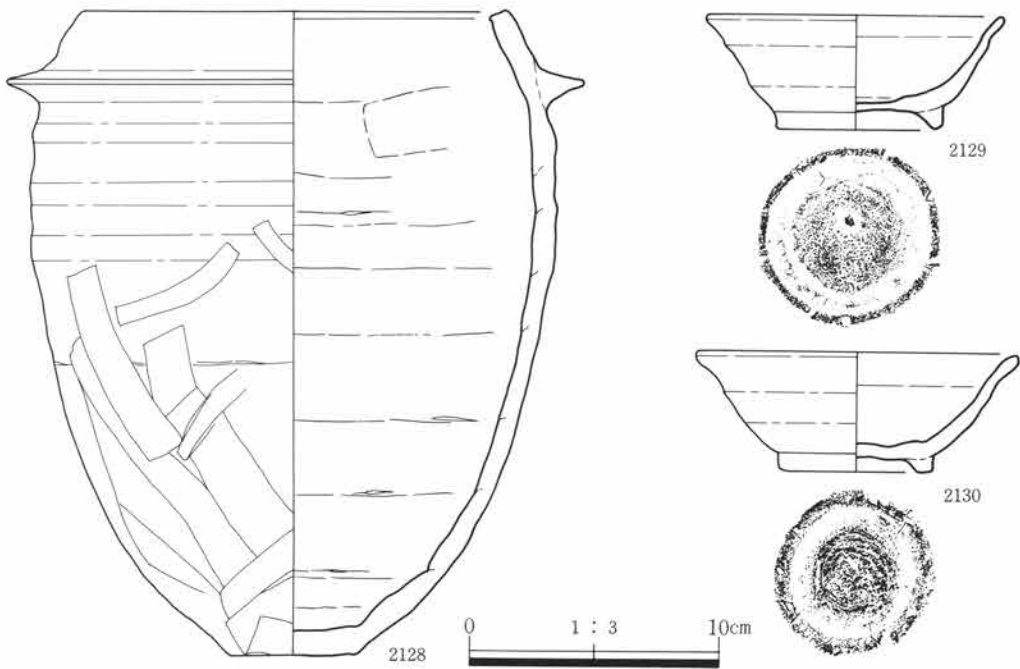


第420図 I地区A区40号住居跡遺構図(1)

(I) 竪穴住居跡

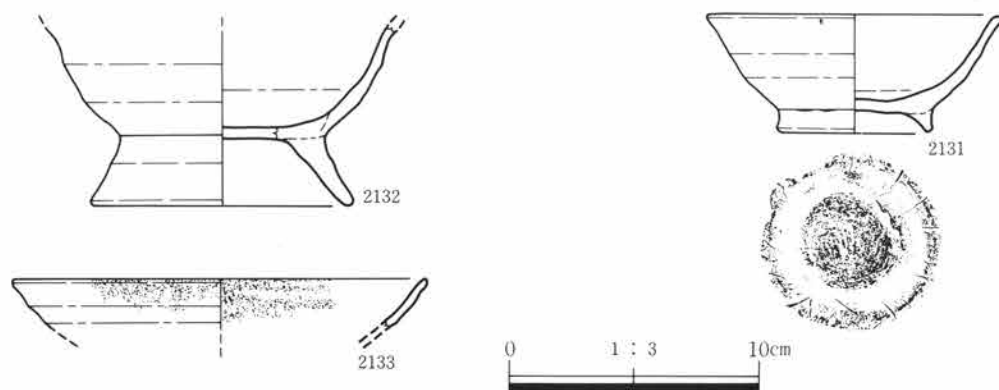


第421図 I 地区A区40号住居跡遺構図（2）



第422図 I 地区A区40号住居跡遺物図（1）

第4章 平安時代の遺構と遺物



第423図 I地区A区40号住居跡遺物図(2)

第114表 I地区A区40号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2128	羽釜	器高:255mm口径: [170mm]底径:51mm最大 径:[234mm]1/2残	直径5~6mm小石、及び 砂粒を含む。酸化。やや軟 質。鈍い黄橙。	口縁部は内湾し、体部は丸みをもつ 外面:口縁部~体部上半は轆轤整形、 体部下半は轆轤整形後窠なで、底部 は窠なで。内面:口縁部~底部は轆 轤整形。	窠内。
2129	椀	器高:45mm口径:119 mm底径:62mm完形	砂粒を含む。酸化。比較的 硬質。浅黄橙。	口縁部はやや外湾する。底部は回転 糸切り後、高台貼り付け。外面:体部 は轆轤整形。内面:口縁部~底部は 轆轤整形。	窠内。
2130	椀	器高:47mm口径:[130 mm]底径:62mm1/2残	砂粒を含む。還元。比較的 硬質。灰褐。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切 り後高台貼り付け、窠なで。外面:口 縁部~体部は轆轤整形。内面:口縁部 ~底部は轆轤整形。	住居内南西部床上 20cm。
2131	椀	器高:46mm口径:[118 mm]底径62mm1/2残	砂粒を含む。還元。比較的 硬質。灰褐。	口縁部は外湾。底部は回転糸切り後 高台貼り付け、窠なで。外面:口縁部 ~体部は轆轤整形。内面:口縁部~底 部は轆轤整形。	窠内。
2132	椀	器高:(69mm)口径: 一底径:105mm1/2残	砂粒を含む。還元。やや軟 質。灰オリーブ。	底部は高足高台貼り付け後窠なで。 外部:体部~高台部は轆轤整形。内 面:口縁部~底部は轆轤整形。	住居内北東部床上 5cm。
2133	椀 灰釉陶器	器高:(20mm)口径: [165mm]底径:一	細砂粒を少量含む。還元。 硬質。灰。	内外面共に、口縁部~体部は轆轤整 形。	住居内覆土。

(1) 竪穴住居跡

I 地区 A 区 41 号住居跡 (第424~426図、第115表)

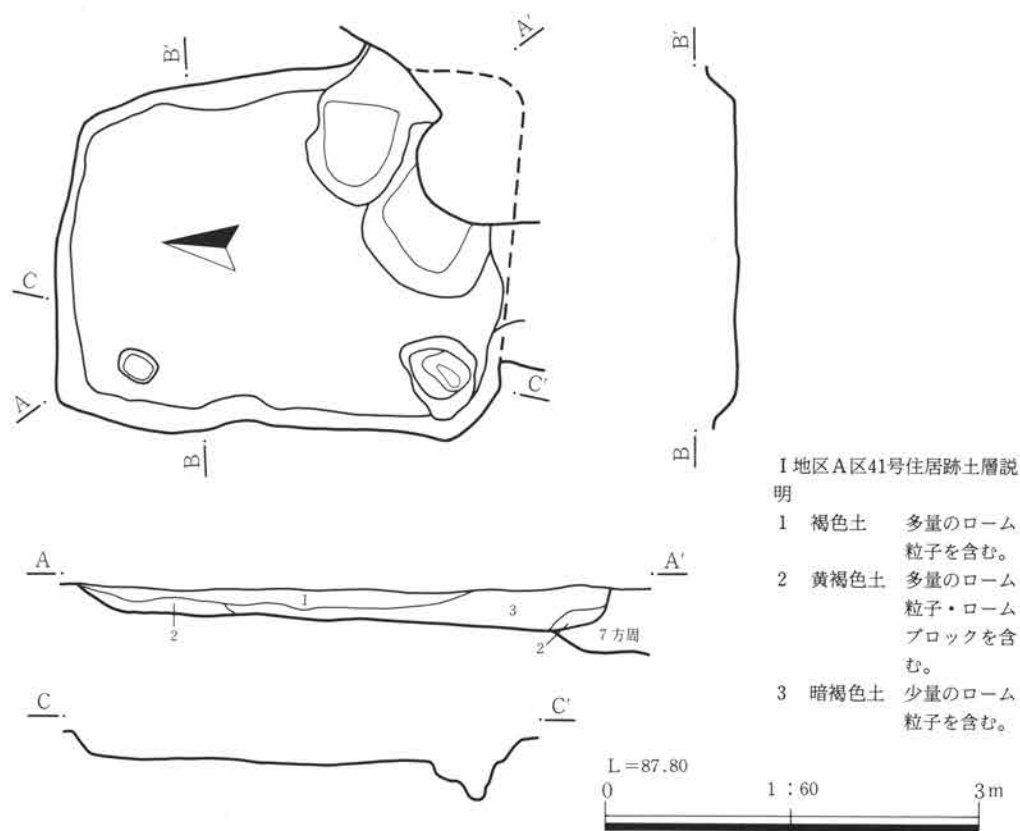
当住居跡は、A区42号住居跡・A区7号方形周溝墓と重複する。A区42号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈及び壁・床の一部分が、A区42号住居跡の南東部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。A区7号方形周溝墓との新旧関係は、当住居跡の壁・床がA区7号方形周溝墓の覆土中に築かれていることから、当住居跡が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.7m・南北方向約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-7°-Wである。確認面からの壁の立ち上がりは約20cmであるが、南東部分の壁は確認できなかった。床面はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。

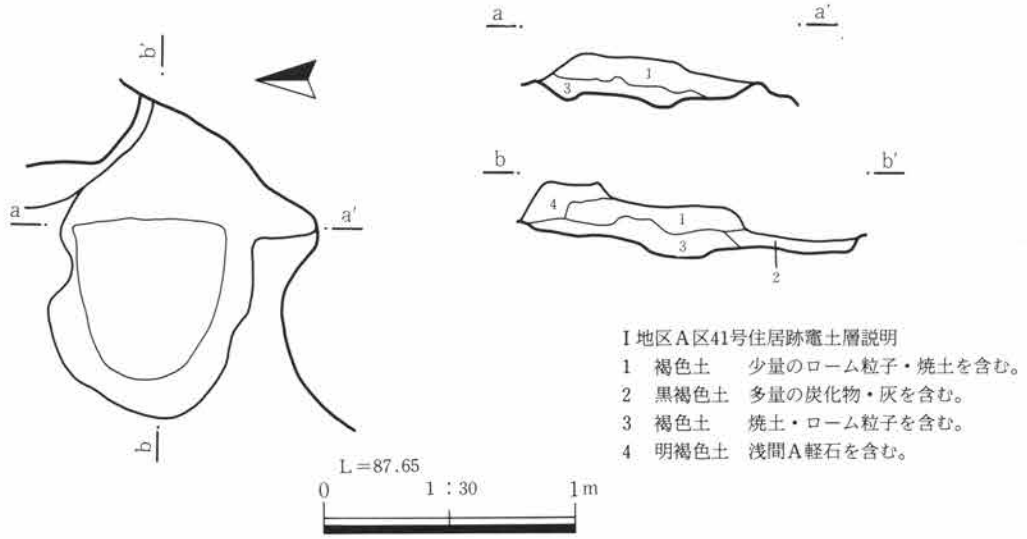
竈は東側壁のやや南寄りに築かれている。大部分が破壊されているが、ロームを構築材に使用した袖の痕跡と、燃焼部に焼土・炭化物が堆積しているのを確認できただけである。柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は竈内を中心に羽釜が、住居内から還元焼成の杯、酸化焼成の杯が出土しているが、出土量は少ない。遺物・周囲の遺構との重複関係から推定される当住居跡の時期は、10世紀である。

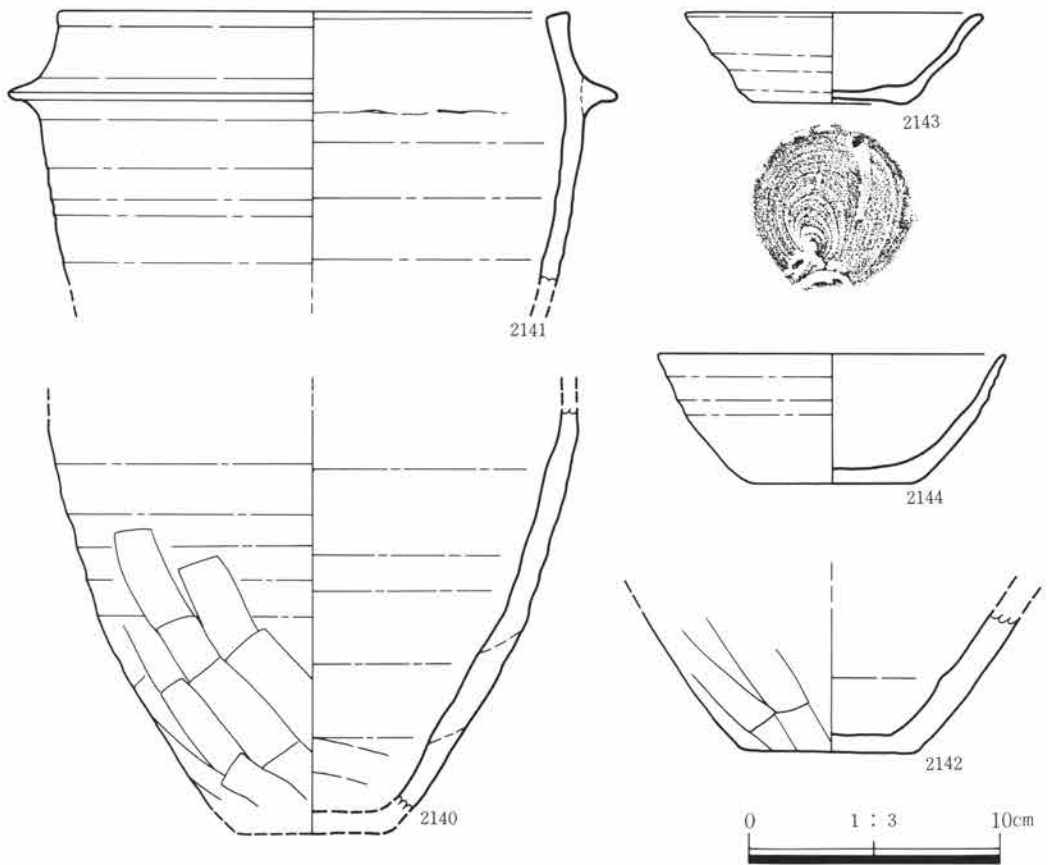
(井川)



第424図 I 地区 A 区 41 号住居跡遺構図 (1)



第425図 I地区A区41号住居跡遺構図(2)



第426図 I地区A区41号住居跡遺物図

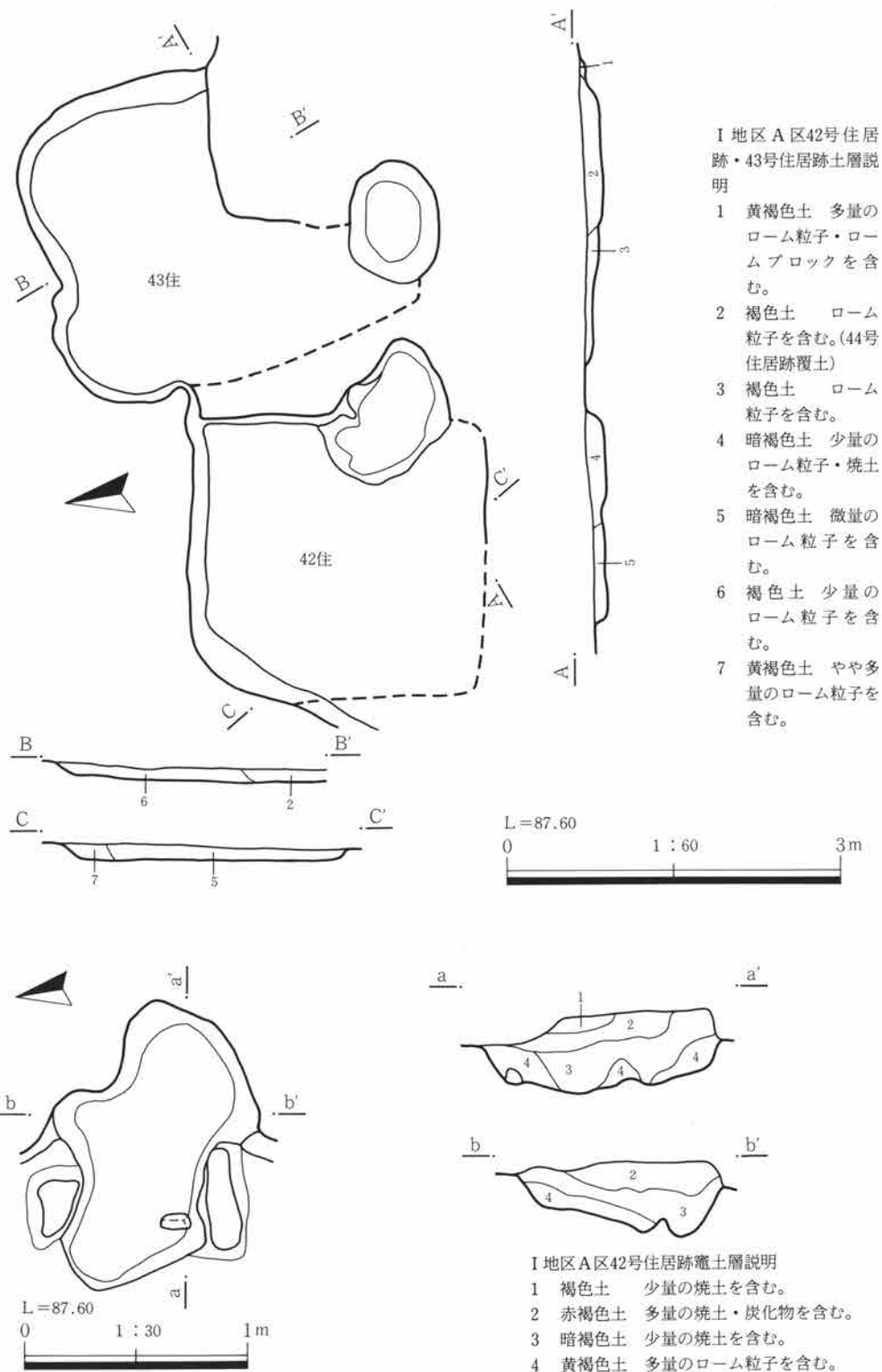
第 115 表 I 地区 A 区 41 号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2140	羽釜	器高:(156mm)口径: 一底径:一底部下 半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3～4 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。や や軟質。にぶい黄橙。	外面:体部上半は轆轤整形、体部下半 は轆轤整形後篋削り。内面:体部は轆 轤整形。	竈内。内外面に油 煙付着。
2141	羽釜	器高:(106mm)口径: [200mm]底径:一最大 径:[240mm]口縁部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。淡黄。	口縁部はやや内湾。内外面共に口縁 部～体部上半は轆轤整形。	竈内他。内外面に 油煙付着。
2142	羽釜	器高:(55mm)口径: 一底径:68mm 体部下 端～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。	外面:体部下半は轆轤整形後篋削り、 底部は篋削り。内面:体部下半は轆轤 整形、底部はなで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2143	杯	器高:36mm 口径:120 mm 底径:62mm 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤右回転。口縁部はやや外湾。外 面:口縁部～体部は轆轤整形、底部は 回転糸切り。内面:口縁部～底部は回 転なで。	住居内北東隅床上 5 cm。
2144	杯	器高:52mm 口径:[140 mm]底径:[64mm]口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。やや軟 質。明黄褐。	轆轤右回転。外面:口縁部～体部は轆 轤整形、底部は回転糸切り。内面:口 縁部～体部轆轤なで。	住居内覆土。内面 に油煙付着。

I 地区 A 区 42 号住居跡 (第 427・428 図、第 116 表)

南側大部分を 7 号方形周溝墓周溝埋土の黒色土層中で確認した。東には 43 号住居跡が近接しており、時期的に異なると思われる。西壁と南壁は殆ど検出できなかったが、一辺 2.5m の規模である。竈は東壁やや南寄りにあり、平面形は、北東角の状態より、正方形に近い形であろう。床面はほぼ平坦であり、柱穴等は確認できなかった。竈は、燃焼部・煙道部が大きく壁外に出ており、焼土は北側の床面に向け流れていた。袖の芯の粘土を含め、残存状態は悪い。

遺物は全体に散っていたが、中央部床面直上で還元焼成の椀口縁(2148)、やや浮いて同杯底部(2146)・同椀口縁(2147)があり、又、竈内からは灰釉陶器椀底部(2149)・布目丸瓦片(2151)が主なものである。構築時期は、10 世紀前半頃であろう。(坂井)



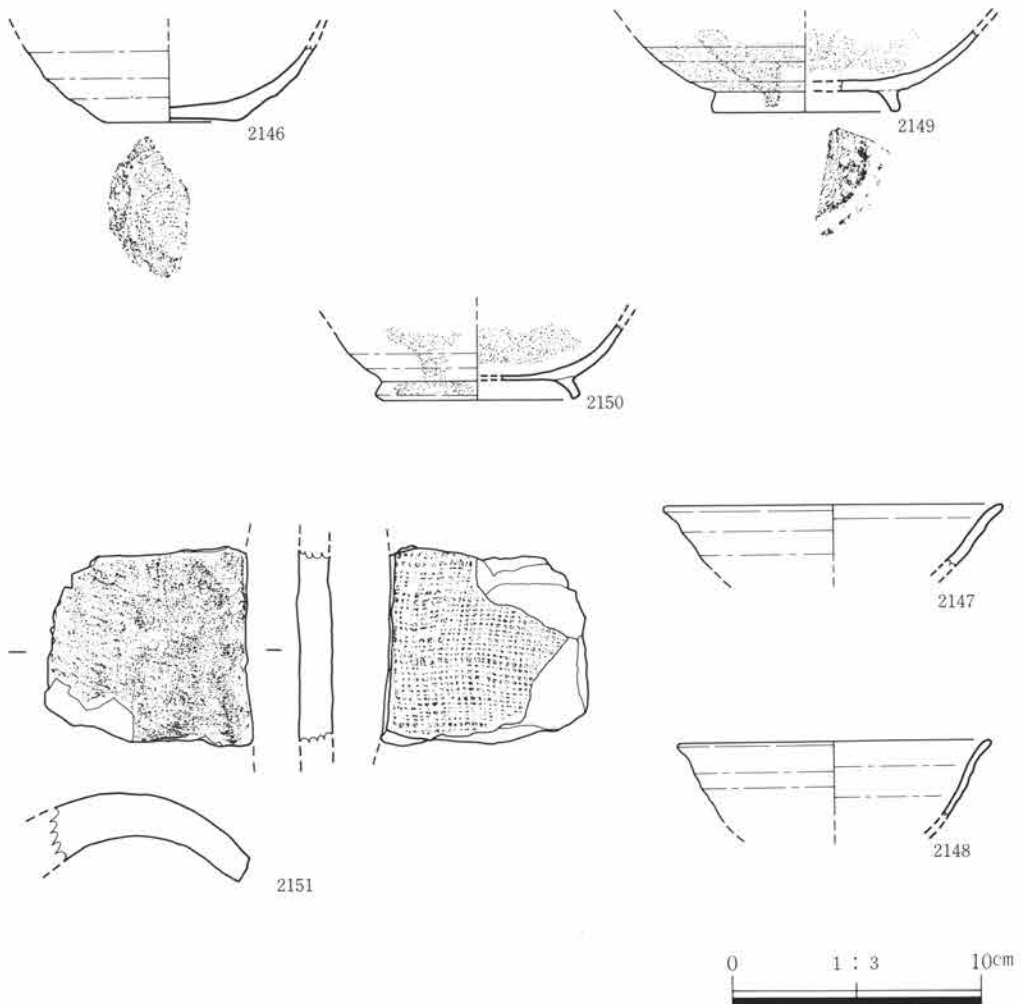
第427図 I 地区 A 区 42・43号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡

I 地区 A 区43号住居跡 (第427・429図、第117表、図版69)

北側半分以外は、44号住居跡の重複及び確認面を下げすぎたため不明瞭である。土層状況より44号住居跡が新しい。又、西に近接する42号住居跡とは、同一時期ではあり得ない。東西約2.5mであるが、南北方向及び全体の形状は不明。北壁・東壁の走向は、周辺の住居跡とは異なる。主軸は不明である。床面は、北壁に向かいやや皿状に上がり、柱穴等は不明である。竈は明瞭な形では検出できなかったが、南側に一部焼土が上に散った隋円形の掘りこみがあり、竈の可能性はある。

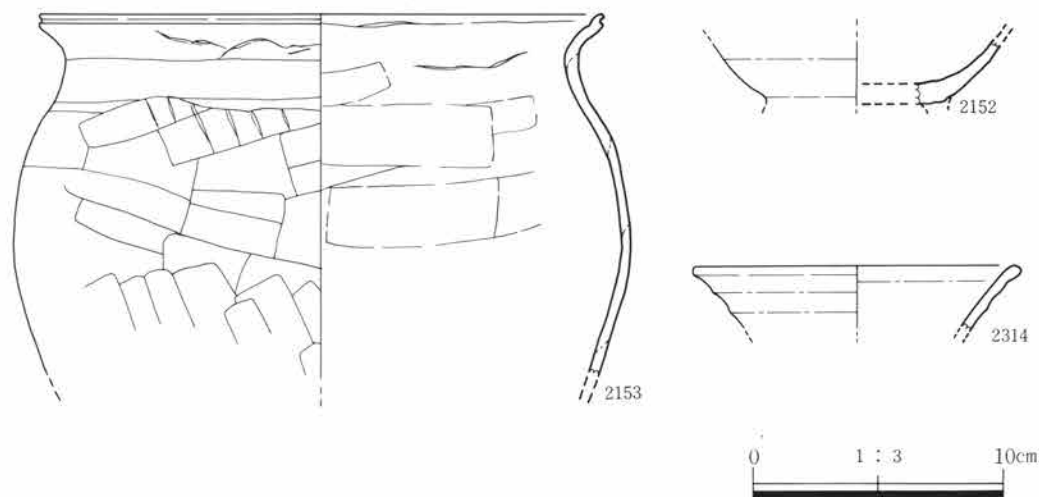
遺物は、竈跡の可能性を持つその掘り込み内より酸化焼成の甕口縁部 (2153) が検出された他は、埋土内のものである。構築時期は、この土器より9世紀と考えられる。(坂井)



第428図 I 地区 A 区42号住居跡遺物図

第116表 I地区A区42号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2146	杯	器高:(30mm)口径: 一底径:[54mm]体部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床上5cm。
2147	杯	器高:(25mm)口径: [136mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁端部は僅かに外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内中央部床直
2148	杯	器高:(30mm)口径: [126mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内中央部床上5cm。
2149	椀 灰釉陶器	器高:(32mm)口径: 一底径:[78mm]体部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部は丁寧な轆轤なで、底部は丁寧なで。	竈内。
2150	椀 灰釉陶器	器高:(30mm)口径: 一底径:[82mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2151	平瓦		直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質灰黄。	外面:布目。内面:丁寧なで。題材に転用されたもの。	竈内。



第429図 I地区A区43号住居跡遺物区

第117表 I地区A区43号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2152	椀	器高:(25mm)口径: 一底径:[72mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰白。	底部は高台貼り付け。外面:体部は轆 轤なで。内面:体部~底部はなで。	住居内覆土。
2153	甕	器高:(141mm)口径: [225mm]底径:一最大 径:[245mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部 に沈線一条。外面:口縁部は横なで、 体部は篋削り。内面:口縁部は横なで 体部は篋なで。	住居内北東部床直 内外面に油煙付着
2314	杯	器高:(25mm)口径: [130mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い黄褐。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口 縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。

I地区A区44号住居跡(第430・431図、第118表、図版69)

確認面がかなり低かったため、床面までは10cmほどしかなかった。東側で48号住居跡と重なる可能性がある。北西側では43号住居跡と重複し、土層状況より本住居跡が新しい。南側では45号住居跡と重なるが、新旧関係は明瞭でなく床の高さも変わらない。調査時には45号住居跡が新しいかと推定したが、遺物の類似や周辺の他の住居跡との関係を考えて、本住居跡が新しいと考える方が妥当である。南北3.5m、東西2.9m程の長方形で、主軸はN-6°-Eである。床面はほぼ平坦だが、7号方形周溝墓埋土上の南西側は、壁が検出できず床の範囲は不明確である。竈は東壁南寄りで確認されたが、残存状態は悪い。竈前に径70cmの皿状の掘り込みがあり、上面は焼土が散っていた。灰のかき落とし穴と思われ、中には土器と共に礫が4個見られる。又、竈すぐ右と南東角に床から10~15cmの深さの不定形のピットがあり、やはり礫が数個入っているが性格が不明。

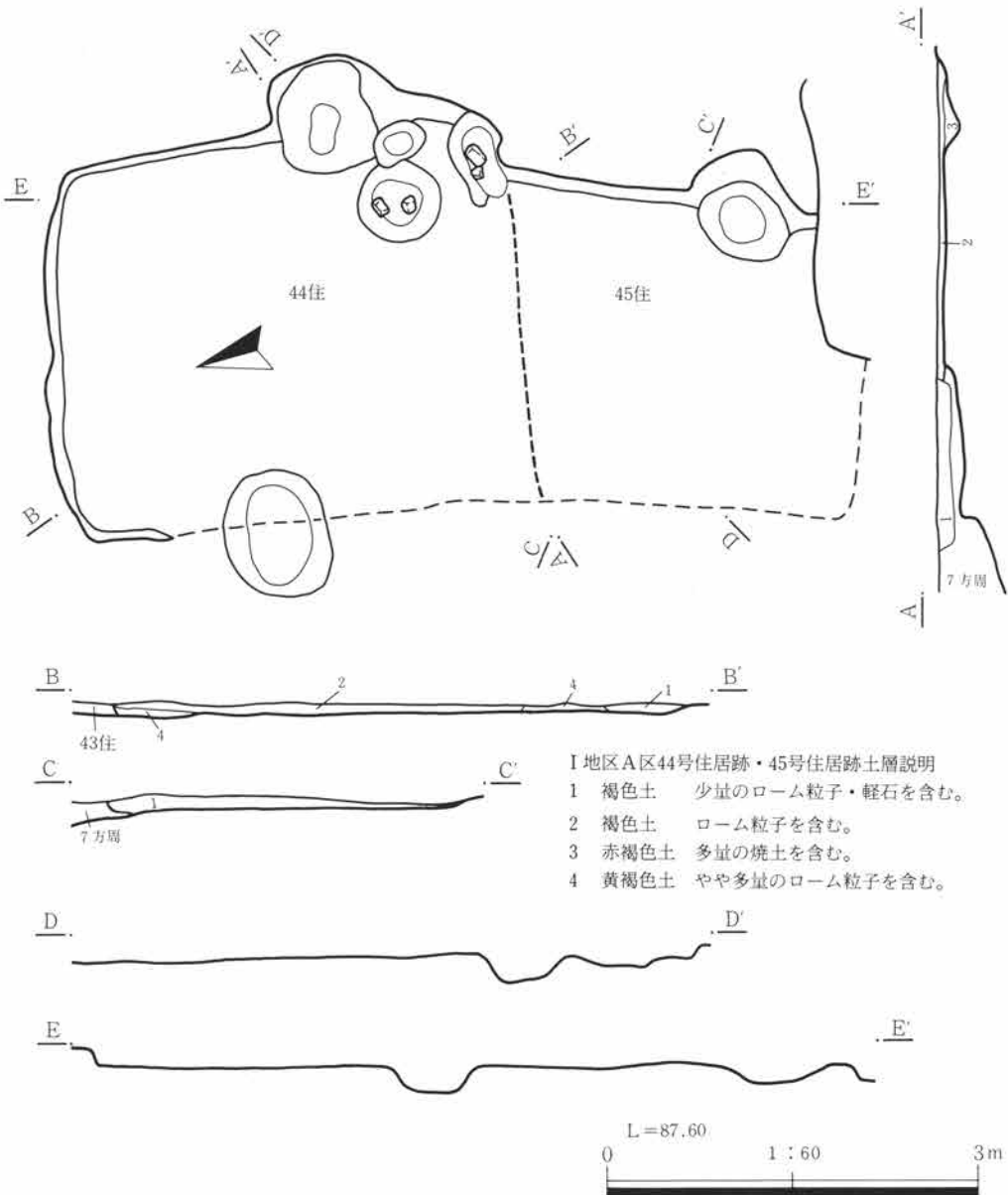
遺物は全体に散っているが、竈内より酸化の甕口縁(2154)、円形ピット内より酸化の椀口縁部(2159)と鉄製品、南東角ピット内より還元の椀2個(2156・57)、西壁際辺りでやや浮いて同椀(2155)と鉄製品片2個、そして南西角のほぼ床近くで酸化ぎみの羽釜(2162)、還元の椀(2164)が見られた。構築時期は、10世紀と思われる。(坂井)

I地区A区45号住居跡(第430・432図、第119表)

確認面は浅く、床との差は10cmほどしかない。壁が検出できたのは東側のみで、南東側は46号住居跡に切られ、北側は不明瞭だが44号住居跡と重複している。本住居跡は、両者より古いと考えられる。西側は7号方形周溝墓埋土上で、床の範囲は不明確。このため規模・形状は確認し得ない。主軸はN-20°-Eである。床面はほぼ平坦で、柱穴等は検出できない。竈は東側南側にあ

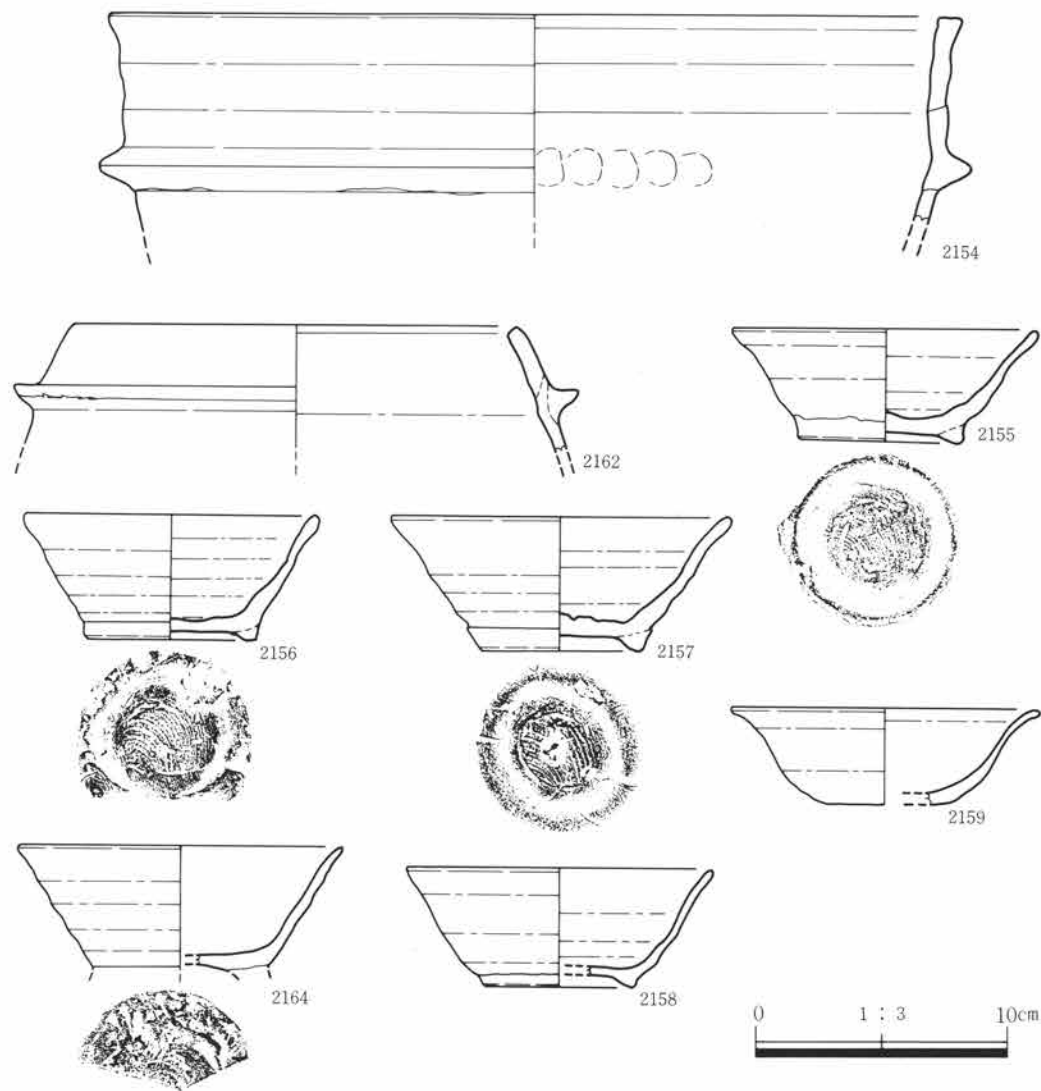
り、残存状態は悪い。床面中央でやや南北に長く焼土が散っていた。

遺物はほぼ全面に散っていたが、西側でやや浮いて灰釉陶器の椀(2160)、中央部と南西側に割れて床近くより酸化の椀(2163)が見られた。緑釉陶器の皿底部(2166)や土錘(2167)などは、埋土中のものである。構築時期は、10世紀と思われる。(坂井)



第430図 I地区A区44・45号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



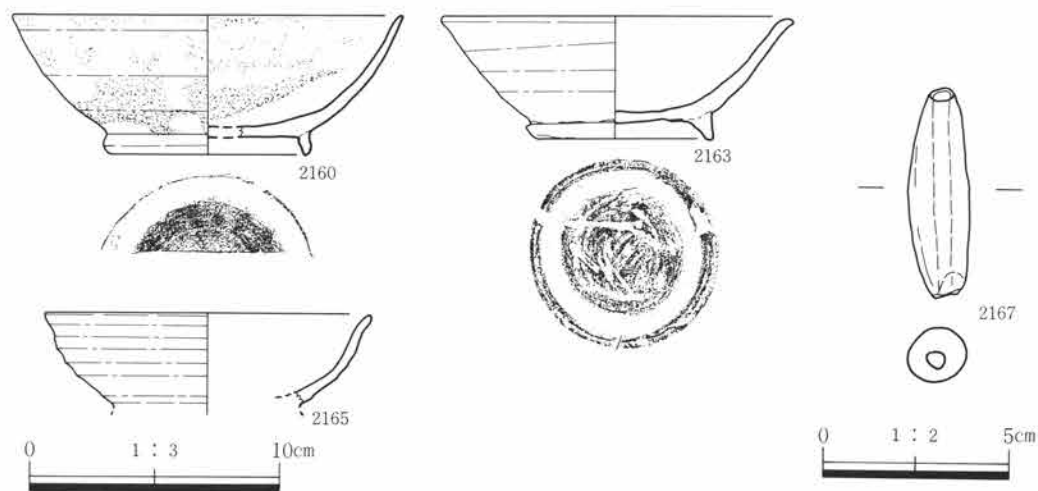
第431図 I地区A区44号住居跡遺物図

第118表 I地区A区44号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2154	甗	器高:(80mm)口径:[340mm]底径:—最大径:[348mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部上端は平坦。最大径は銜部。外面:口縁部～銜部は横なで、体部鈍点轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端には指頭痕が残る。	竈内。内外面に油煙付着。
2155	椀	器高:45mm口径:122mm底径:66mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内北西部床直内外面に燻しあり

第4章 平安時代の遺構と遺物

2156	椀	器高:50mm口径:[118mm]底径:68mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈前床直。内面に燻しあり。
2157	椀	器高:53mm口径:[135mm]底径:65mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に燻しあり。
2158	椀	器高:(47mm)口径:[122mm]底径:[61mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2159	杯	器高:(37mm)口径:[123mm]底径:[56mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。
2162	羽釜	器高:(50mm)口径:[178mm]底径:一口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐。	口縁部～体部上端はやや内湾。外面:口縁部～銚部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内北西部床直内面に油煙付着。
2164	椀	器高:(48mm)口径:[130mm]底径:一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部はなで。	住居内北西部床直内面に油煙付着。



第432図 I地区A区45号住居跡遺物図

第119表 I地区A区45号住居跡遺物観察表

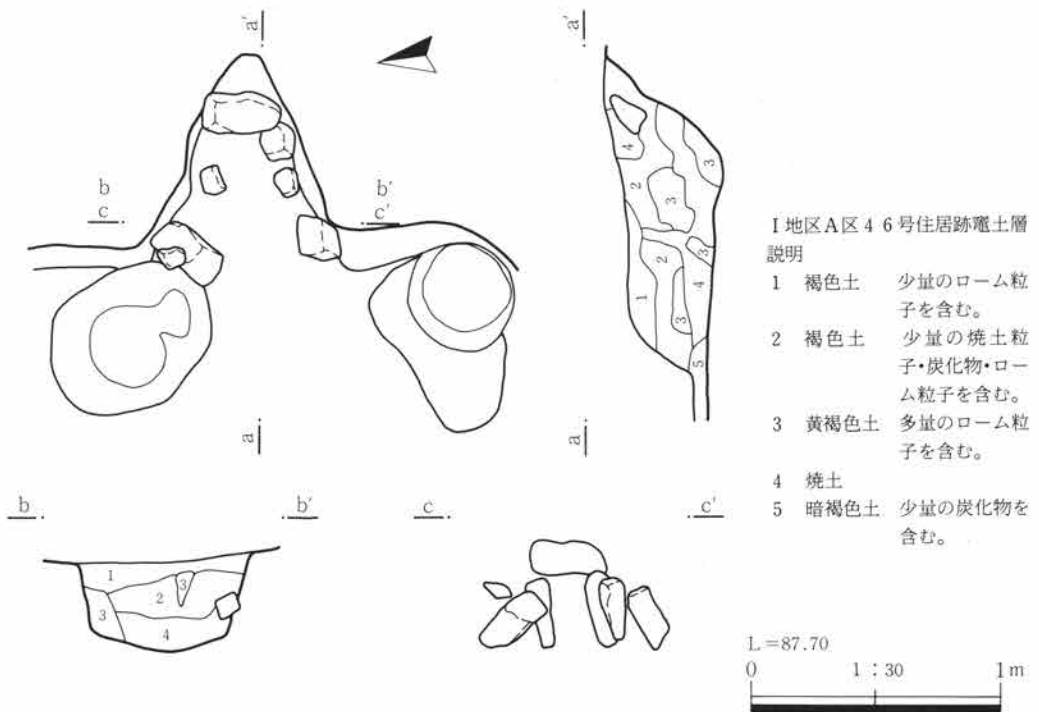
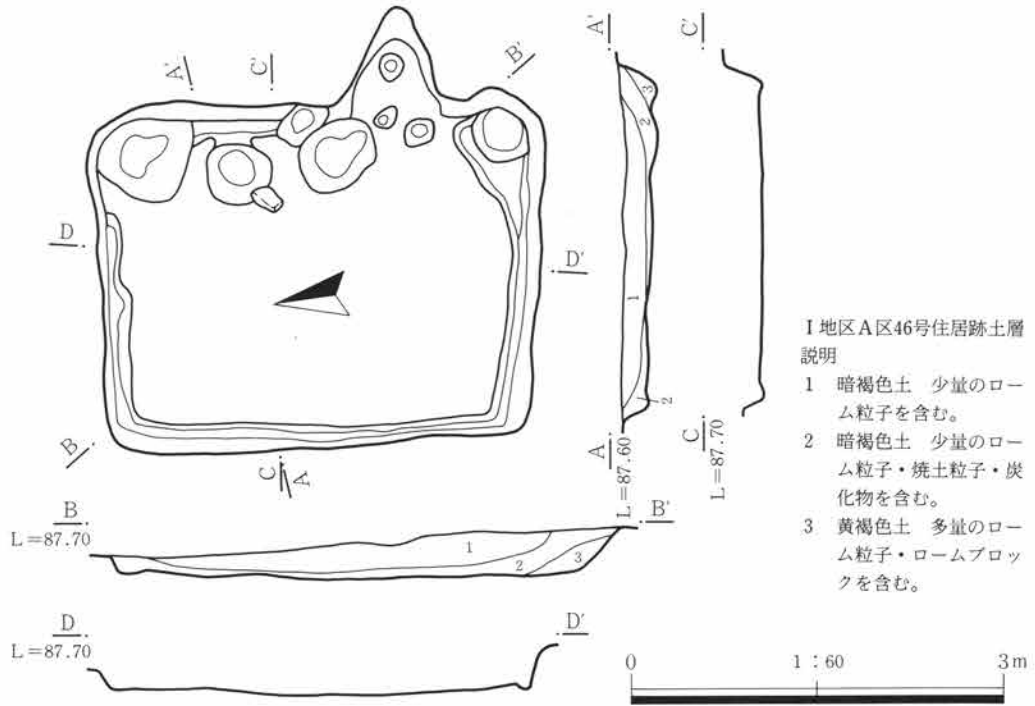
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2160	椀 灰釉陶器	器高:55mm口径:[155mm]底径:[83mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	底部は高台貼り付け後など。外面:口縁部~体部は轆轤など。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤など。	住居内南西部床上5cm。
2163	椀	器高:48mm口径:140mm底径:72mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁端部はやや外湾。底部は高台貼り付け後など。外面:口縁部~体部は轆轤など。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤など。	住居内南西部床直内外面に燻しあり
2165	椀 灰釉陶器	器高:(36mm)口径:[130mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部はやや外湾。外面:口縁部~体部は轆轤など。内面:口縁部~体部は丁寧な轆轤など。	住居内覆土。
2167	土 錘	長さ:54mm直径:16mm孔径:4mm	砂粒を含む。酸化。硬質。淡黄。	棒状。両端が細くなる。	住居内覆土。

I地区A区46号住居跡(第433~435図、第120表、図版70)

西側は7号方形周溝墓埋土の黒色土が確認面であったが、全体に周辺の住居跡と比べ良好な状態で確認された。北西側で45号住居跡と重複するが、本住居跡が土層状況より新しい。約3.2×2.5mの南北に長い長方形を呈し、主軸はN-12°-Eである。床面はほぼ平坦で、中央部には1.5×1×0.2mほどの掘り方土坑の上に貼り床がなされる。東壁を除き周溝が巡っている。東壁際に深さ15~30cmの大小のピット5個が見られるが、柱穴とは考えにくい。南東角の深さ30cmのものは貯蔵穴と思われる。

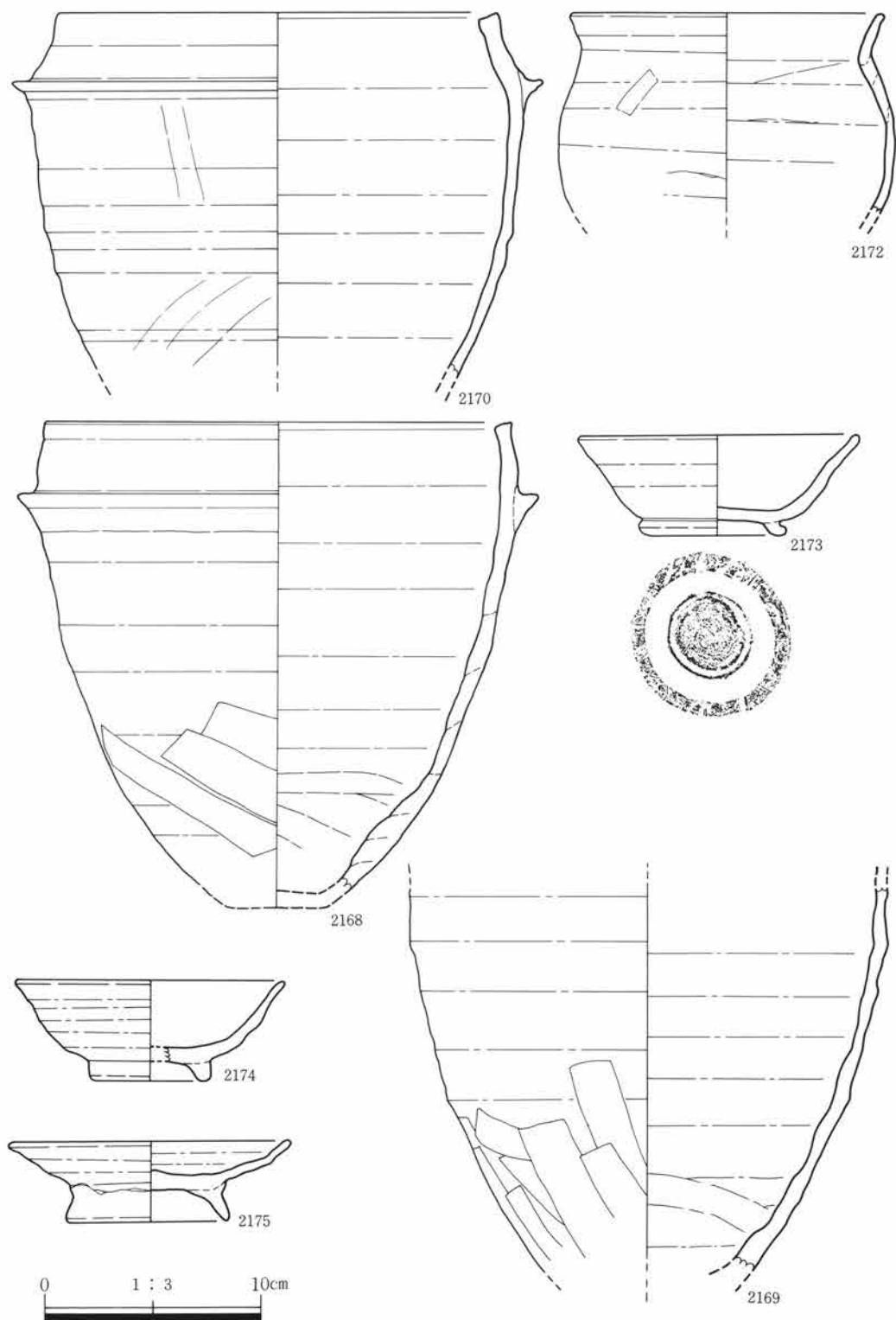
竈は残存状態が良く、大小6個以上の燃焼部と煙道の鳥居組状の基部の石が残っていた。このうち内側4個は石材と大きさは異なるものの直方体状に加工したてて据えられてあった。石はこの他にも床面で数多く見られているため、基本的には焚口から煙道までのアーチ構造の骨格は、全て石で組まれていたと考えられる。又、角の2個の立てられた石の床側では原位置的な構造物痕が見られないため、この部分が焚口近くになり、大部分が壁外に張り出す形態であろう。なお床下の掘り方土坑からも大小10個の石が見られるが、これらの石と竈の関係は良く分からない。

遺物は、竈周辺を中心に散っていた。竈内から前左側ピットと貯蔵穴にかけて、酸化ぎみの羽釜(2168~71)・酸化の小形甕(2172)・酸化の椀(2173・74)が出土した。羽釜は、竈に据えられてあったものが、灰釉に外側からの圧力で壊れた感じである。又、やや北側の円形ピットの底近くからは、還元の皿(2175)が見られた。床面中央で鉄滓が、そして中央より北西側を中心に大小の15個の礫が散らばっていた。構築時期は、10世紀と思われる。(坂井)

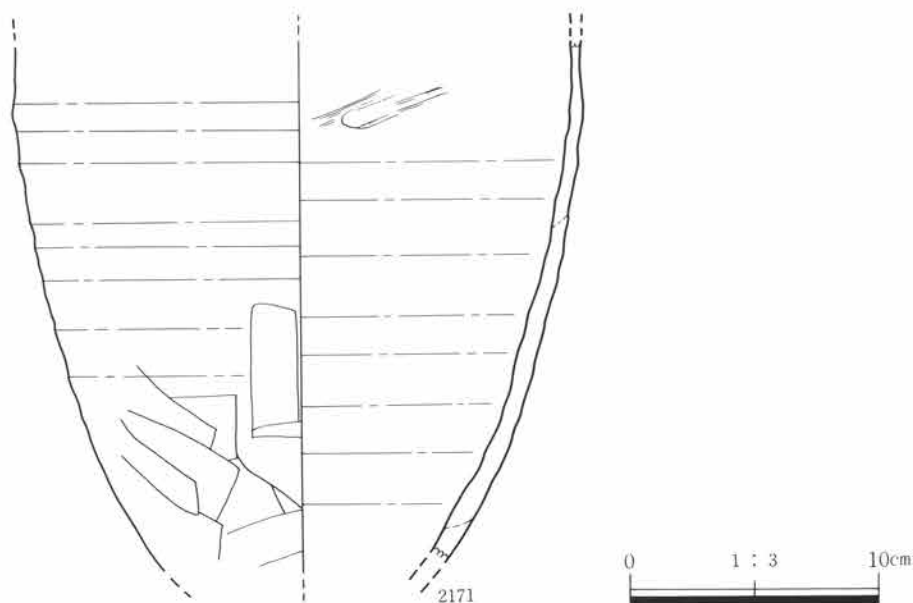


第433図 I地区A区46号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡



第434图 I地区A区46号住居跡遺物図(1)



第435図 I地区A区46号住居跡遺物図(2)

第120表 I地区A区46号住居跡遺物観察表

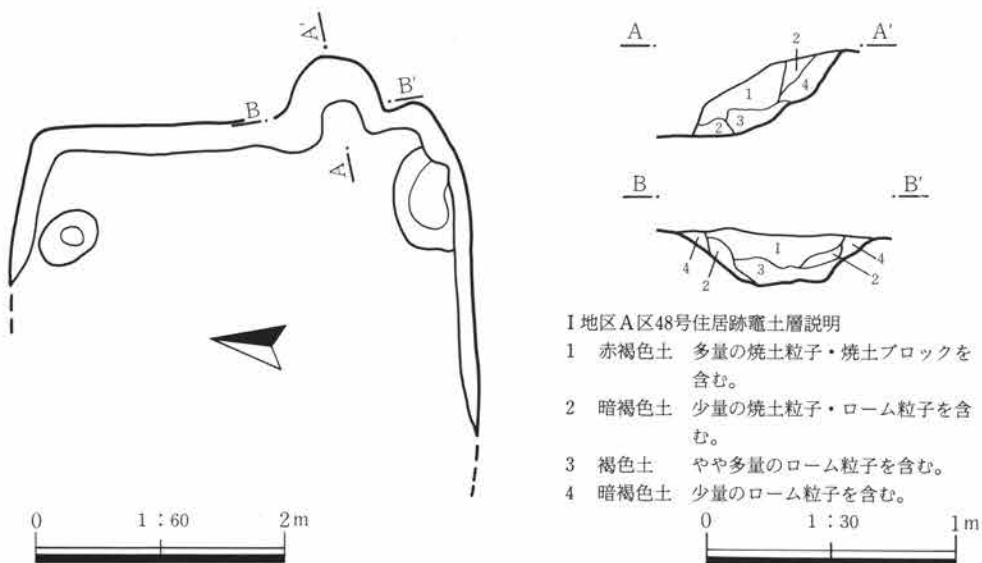
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2168	羽 釜	器高:(215mm)口径:[216mm]底径:一最大径:[240mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐色。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2169	羽 釜	器高:(174mm)口径:一底径:一体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。橙。	外面:体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り。内面:体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2170	羽 釜	器高:(165mm)口径:[202mm]底径:一最大径:[245mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。黄灰。	口縁部は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に多量の油煙付着。
2171	羽 釜	器高:(208mm)口径:一底径:一体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	外面:体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り。内面:体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2172	甗	器高:(92mm)口径:[146mm]底径:一最大径:[156mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部は「く」字状に外湾。最大径は体部上半。内外面共に口縁部は横なで、体部は回転窠なで。	竈内。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2173	椀	器高:46mm口径:[130mm]底径:68mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内ピット。内外面に油煙付着。
2174	椀	器高:46mm口径:[125mm]底径:[56mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰褐。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部はなで。	竈内。内面に油煙付着。
2175	皿	器高:37mm口径:131mm底径:78mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	底部は回転糸切り後、高足高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで、高台部は横なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内ピット。内外面に油煙付着。

I地区A区48号住居跡(第436・437図、第121表)

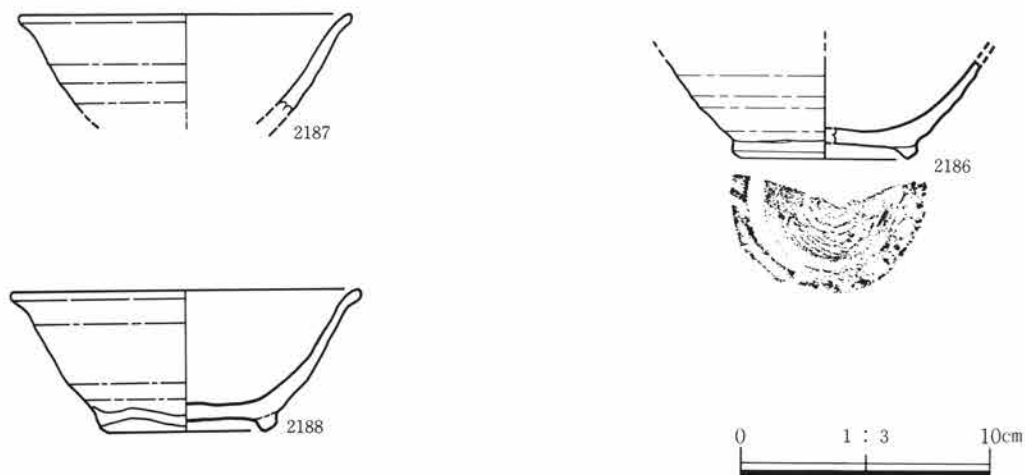
確認面が低かったため検出状態は極めて悪く、ほとんど竈と貯蔵穴状ピットのみが確認された。南側で44号住居跡と重複する可能性がある。南北約3.4mほどと推定される。形状・床面の状態は不明である。北側に50×40×50cmほどのピットがあるが、柱穴かどうかは分からない。竈は東壁の南寄りで壁外にあまり張り出さない形状だが、床側の構造は不明瞭である。南東角近くの貯蔵穴と思われる隋円形のピットは、床から20cmほどの深さがある。



第436図 I地区A区48号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物

遺物は、竈内から還元焼成の椀（2186・2187）、貯蔵穴埋土中から同椀（2288）が見られた。構築時期は、10世紀であろう。（坂井）



第437図 I地区A区48号住居跡遺物図

第121表 I地区A区48号住居跡遺物観察表

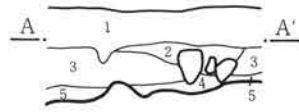
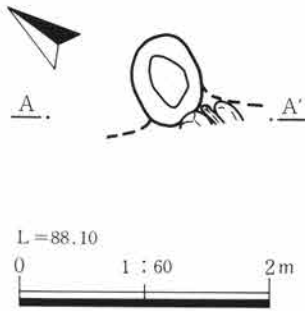
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2186	椀	器高:(38mm)口径: 一底径:[74mm]体部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は丁寧なで。	竈内。内面に油煙付着。
2187	椀	器高:(38mm)口径: [132mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部はなで。	竈内。内面に油煙付着。
2288	椀	器高:56mm口径:140mm底径:71mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰オリーブ。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部はなで。	貯蔵穴内。

(1) 竪穴住居跡

I 地区 A 区 50 号住居跡 (第 438~440 図、第 122 表)

調査範囲境界で竈のみが検出された。自然礫 5 個が囲む形で、その中から遺物と少量の焼土が見られている。礫は 46 号住居跡のような燃焼部・煙道部の骨格として用いられたと考えられるが、それほど明瞭な残り方ではない。北側に浅いピットがあるが、性格不明。この竈の位置は、東壁にあたると思われる。

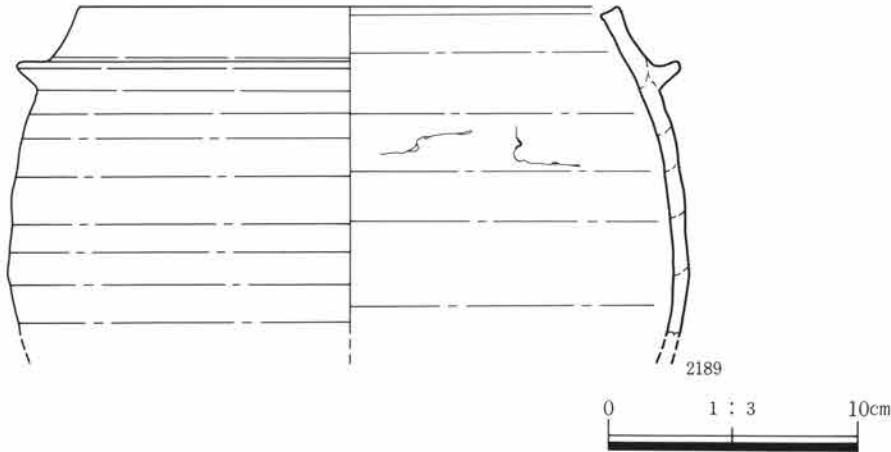
遺物は全て礫組の内部から、酸化の羽釜 (2189・2289・2290)、酸化の椀 (2190) そして鉄製刃物 (2191) が見られる。構築時期は、10 世紀であろう。 (坂井)



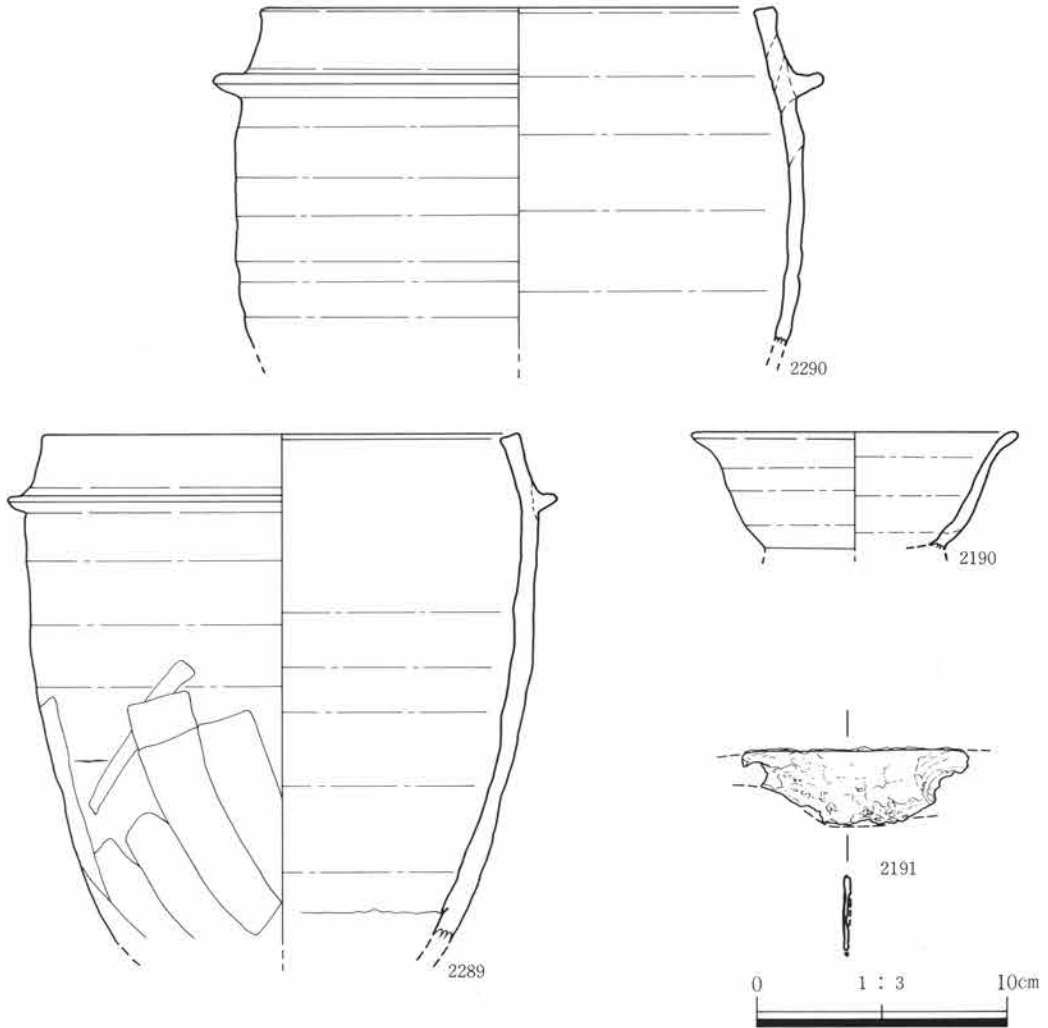
I 地区 A 区 50 号住居跡土層説明

- 1 灰褐色土 攪乱土。
- 2 暗褐色土 微量の砂質土を含む。
- 3 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 4 褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 5 褐色土 ローム粒子を含む。

第 438 図 I 地区 A 区 50 号住居跡遺構図



第 439 図 I 地区 A 区 50 号住居跡遺物図 (1)



第440図 I地区A区50号住居跡遺物図(2)

第122表 I地区A区50号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2189	羽釜	器高:(130mm)口径:[216mm]底径:—最大径:[268mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は体部上半。外面:口縁部~鐙部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2190	椀	器高:(48mm)口径:[130mm]底径:—口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外湾。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部は丁寧ななで。	竈内。内面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2191	鎌 鉄 器	長さ:(90mm)幅:[30mm]厚さ:[3mm]		身の中央部分。	
2289	羽 釜	器高:(201mm)口径:[190mm]底径:一最大径:[220mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質黄灰。	口縁部はやや内湾。最大径は鋳部。外面:口縁部～鋳部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2290	羽 釜	器高:(134mm)口径:[206mm]底径:一最大径:[244mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部～体部上半はやや内湾。最大径は鋳部。外面:口縁部～鋳部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。

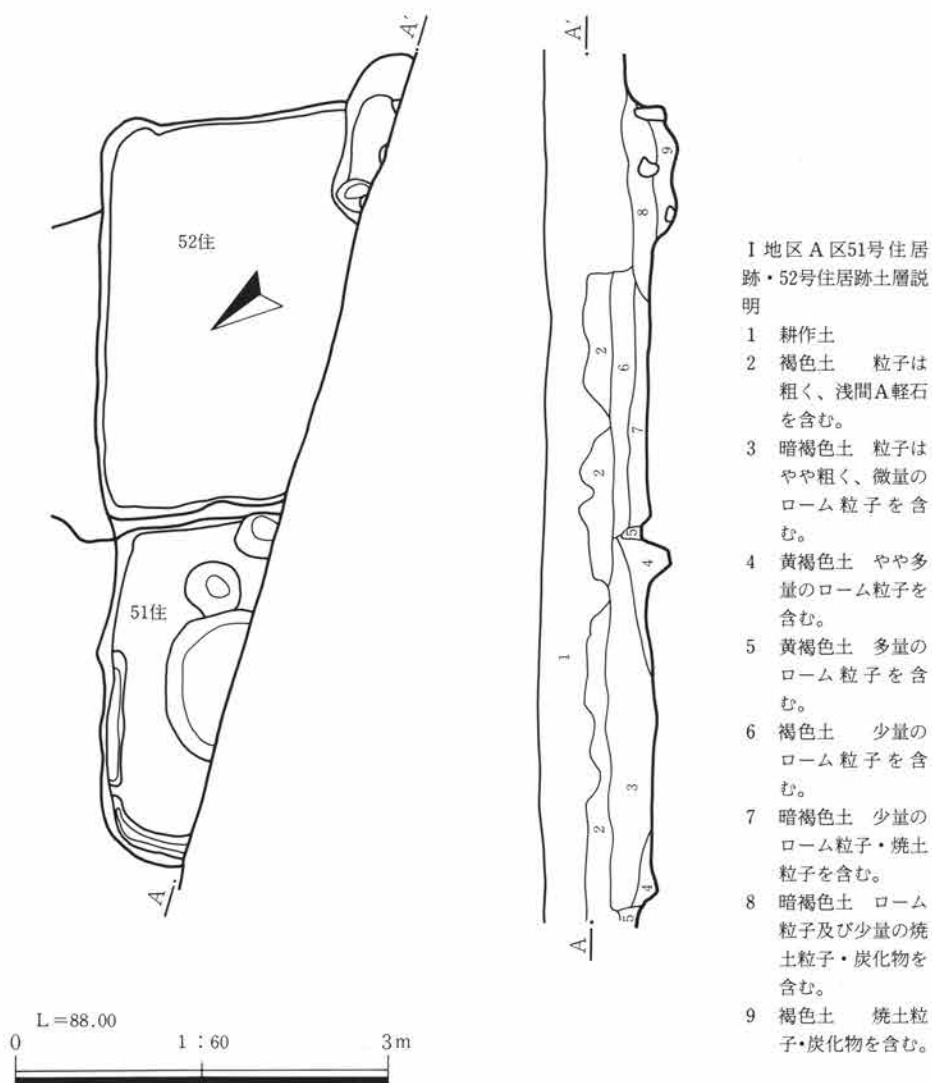
I 地区 A 区51号住居跡 (第441・442図、第123表)

縄文時代の53号住居跡及び9号方形周溝墓を壊す形で確認された。南西側3分の2は調査範囲外になり、南東側は52号住居跡に切られている。床面中央に、径1.2m深さ10cmほどの円形落ち込みがあり、その上に床面はない。又、北側角周辺に周溝が見られる。この落ち込みに接して径40cm深さ50cmのピットがあり、柱穴と思われる。又、52号住居跡近くに深さ15cmほどの浅いピットが見られる。竈等は不明。

円形落ち込み内部から北東壁にかけて酸化焼成の甕(2192)の破片が散っていたが、土層状況より考えれば本住居跡の廃絶後に投棄されたものと思われる。本住居跡の構築年代は、9世紀前半より古いであろう。(坂井)

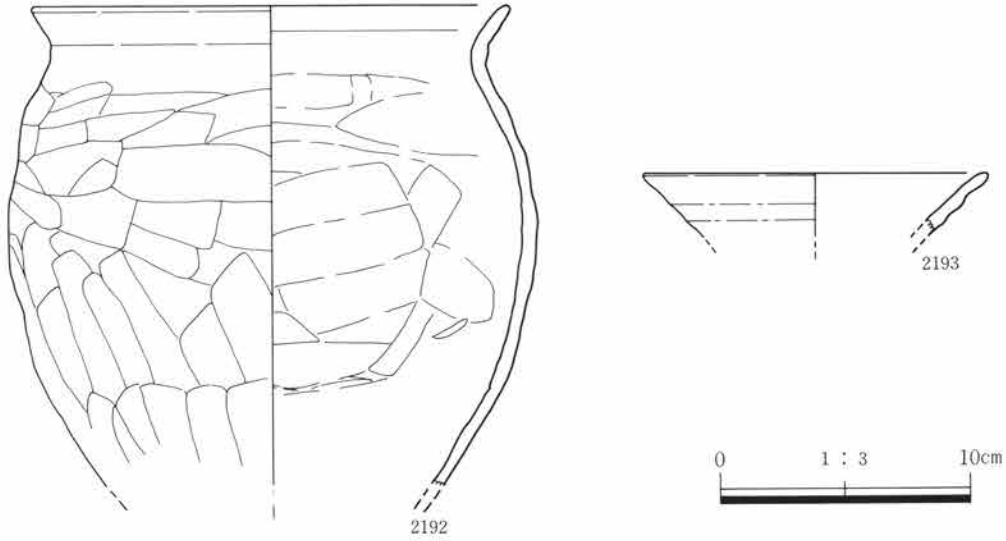
I 地区 A 区52号住居跡 (第441・443・444図、第124表)

51号住居跡の南東側で確認された。51号住居跡より新しく、又、南東側の79号土坑の埋土上に構築されている。北東側ではより落ち込みを切っている。南西側半分は、調査範囲外となる。主軸方向が約3mの規模の台形状の形状が考えられ、方位は不明である。床面はほぼ平坦であるが、東角付近で焼土、西側部分で炭化粒子と炭化材が散っていた。柱穴等は不明。竈は南東壁側にあり、残存状態は良くない。燃焼部掘り込みは、70cmほど床側に入っており、石組状の礫がいくつかが散乱している。遺物は比較的少なく、竈煙道外で還元焼成の壺(2194)、焚口近くで床より20cm浮いて酸化焼成の甕(2195)が出土しているが、前者は構築以前、後者は廃絶以後の可能性が有る。そのため構築時期は明確ではないが、9世紀代と考えられる。(坂井)



第441図 I 地区 A 区51・52号住居跡遺構図

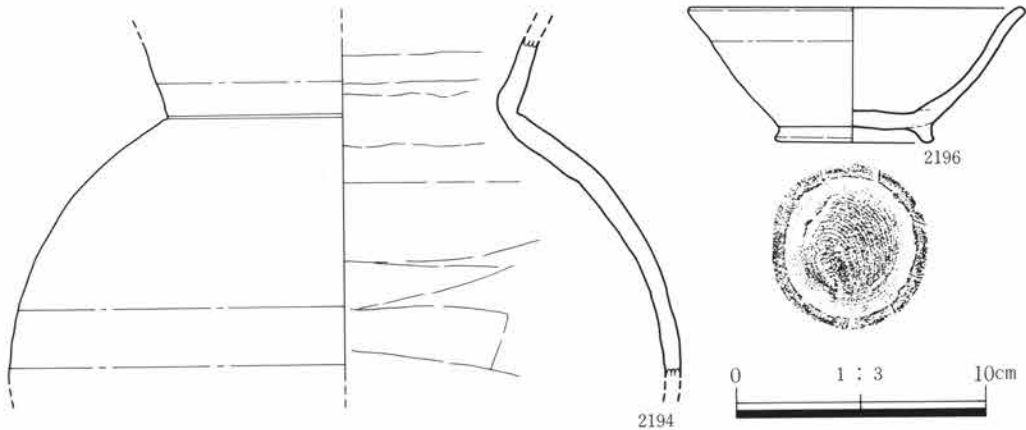
(1) 竪穴住居跡



第442図 I地区A区51号住居跡遺物図

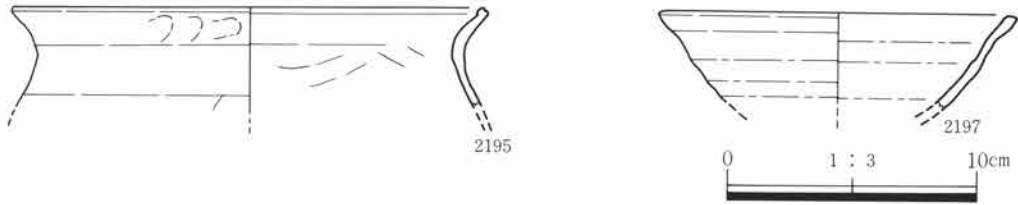
第123表 I地区A区51号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態
2192	甕	器高:(189mm)口径: 190mm 底径:—最大 径:[210mm]口縁部 ~体部 $\frac{2}{3}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。赤褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。最大径は 体部上半。外面:口縁部は横なで、 体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、 体部は篋なで。	住居内中央部床直 内外面に油煙附着
2193	杯	器高:(24mm)口径: [136mm]底径:—口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆 轆なで。	住居内覆土。内面 に油煙附着。



第443図 I地区A区52号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第444図 I地区A区52号住居跡遺物図(2)

第124表 I地区A区52号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2194	甕	器高:(136mm)口径: 一底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。
2195	甕	器高:(39mm)口径: [188mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで	竈前床上15cm。内外面に油煙付着。
2196	椀	器高:53mm口径:134mm 底径:63mm口縁部一部欠。	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外面に燻しあり。
2197	椀	器高:(38mm)口径: [142mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。

I地区A区54号住居跡(第445・446図、第125表)

当住居跡は、A区55号住居跡・A区10号方形周溝墓・A区14号溝が重複する。A区55号住居跡との新旧関係は不明である。A区10号方形周溝墓との新旧関係は、当住居跡の壁・床がA区10号方形周溝墓の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区14号溝との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の西側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

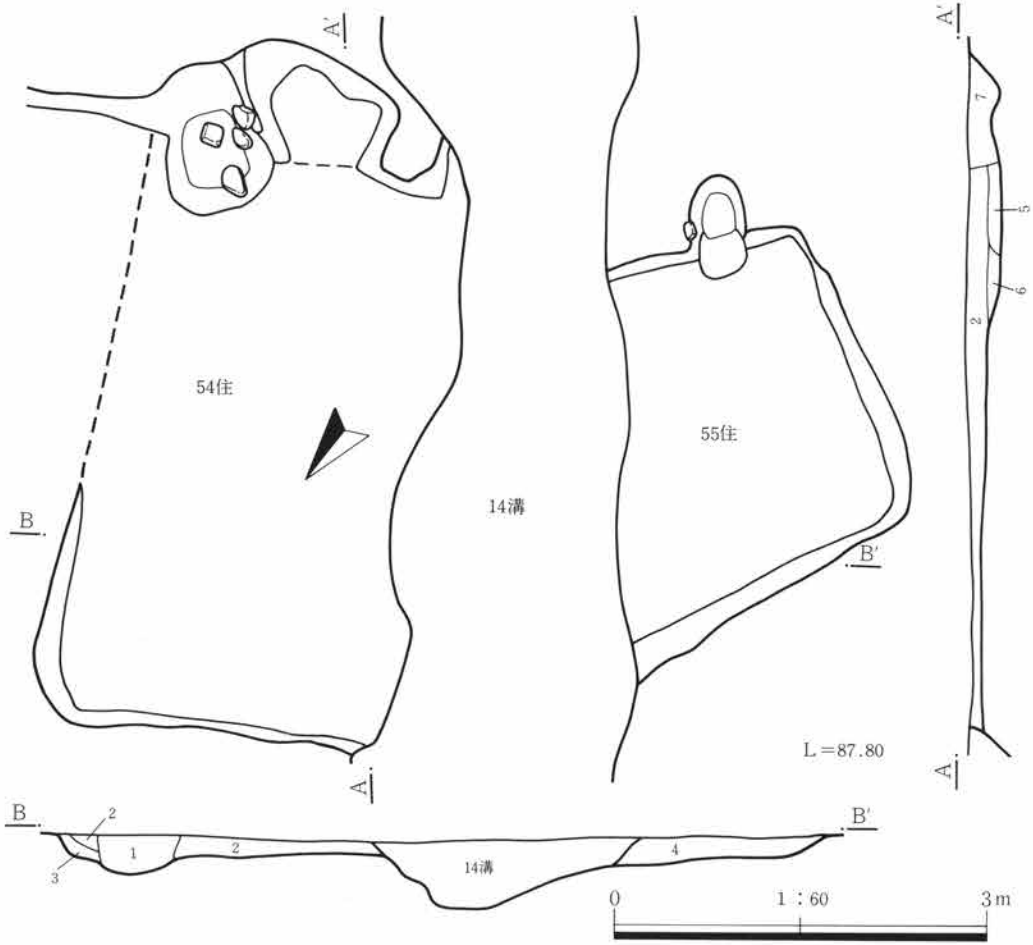
当住居跡の規模は、西側部分はA区14号溝に破壊されているために不明であるが、南北方向は約3.0mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定できる。確認面からの壁の立ち上がりは約5~10cmであり、残存状態は非常に悪い。床面は軟弱であり、やや凹凸が多い。

当住居跡の南東部隅に、拳大から人頭大の河原石・土器を含む掘り込みが検出できたが、焼土・灰・袖の痕跡等の確認はできなかった。壁溝・柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は羽釜・酸化焼成の椀・杯などが出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

(井川)

(I) 竪穴住居跡

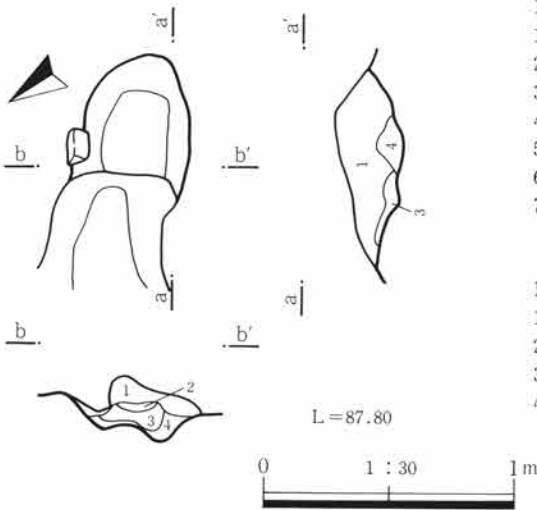


I地区A区54号住居跡・55号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 多量のローム粒子・少量の暗褐色土を含む。
- 4 褐色土 少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 多量のロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 少量の焼土を含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。

I地区A区55号住居跡竪穴土層説明

- 1 暗褐色土 少量の焼土を含む。
- 2 焼土
- 3 明褐色土 少量のローム粒子・焼土を含む。
- 4 黄褐色土 多量のローム粒子を含む。



第445図 I地区A区54・55号住居跡遺構図

I 地区 A 区55号住居跡 (第445・448図、第126表)

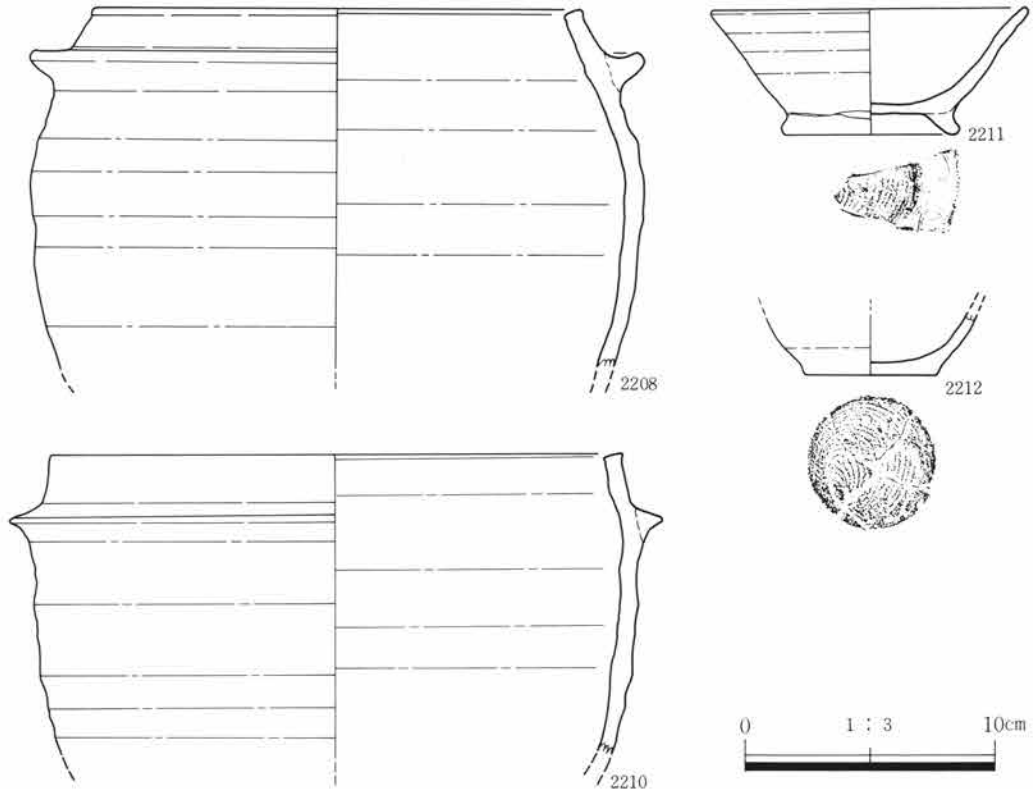
当住居跡は、A区55号住居跡・A区59号住居跡・A区10号方形周溝墓・A区13号溝と重複する。A区55号住居跡との新旧関係は不明である。A区59号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。A区10号方形周溝墓との新旧関係は、遺物の比較から当住居跡の方が新しい。A区13号溝との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の東側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、A区13号溝に東側部分が破壊されているために不明であるが、南北方向は約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈する。確認面からの壁の立ち上がりは約15～20cmであり残存状態は悪い。床面はやや軟弱であり、やや凹凸が多い。

竈は南側壁の西隅に築かれている。袖は確認できなかったが、燃烧部・煙道部は確認できた。燃烧部・煙道部からは羽釜が出土し、焼土・炭化物の堆積が確認できた。煙道部の壁外への張り出しは、確認面で約30cmである。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

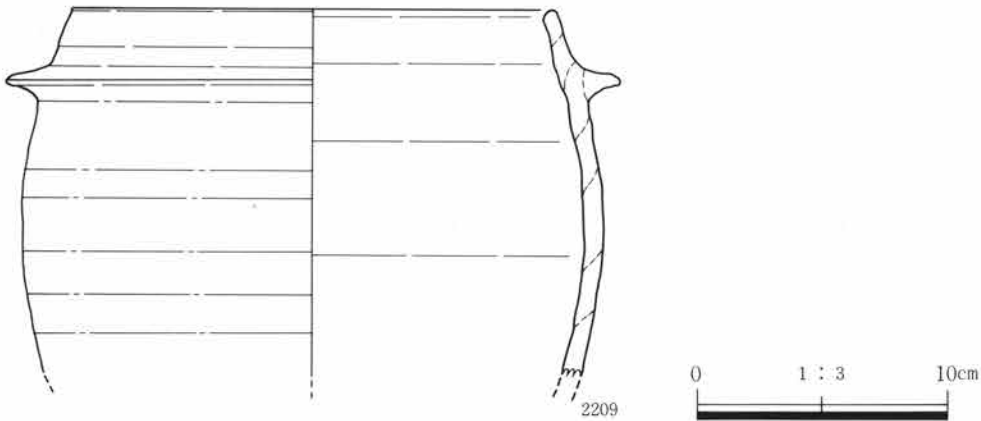
遺物は竈内から羽釜が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

(井川)



第446図 I 地区 A 区54号住居跡遺物図 (1)

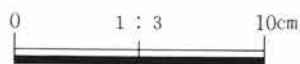
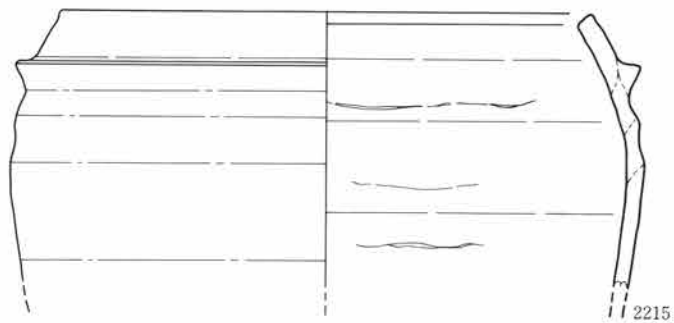
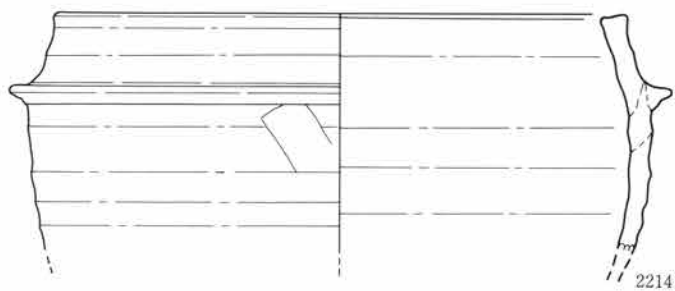
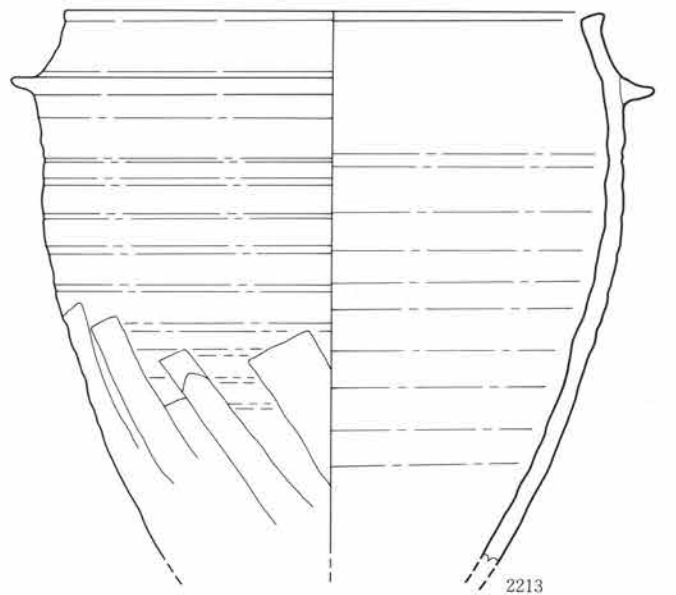
(1) 竪穴住居跡



第447図 I地区A区54号住居跡遺物図(2)

第125表 I地区A区54号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2208	羽釜	器高:(141mm)口径:[195mm]底径:一最大径:[245mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	体部上半から口縁部にかけて内湾。銚部と体部上半の径はほぼ同じ。内外面共に口縁部～体部上半は轆轤整形、轆轤なで。	貯蔵穴直上。外面に油煙付着。
2209	羽釜	器高:(144mm)口径:[193mm]底径:一最大径:[245mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明黄褐色。	体部上半～口縁部にかけて緩やかに内湾。最大径は銚部。内外面共に口縁部～体部上半は轆轤整形、轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2210	羽釜	器高:(119mm)口径:[227mm]底径:一最大径:[259mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	体部上半～口縁部にかけて僅かに内湾。最大径は銚部。内外面共に口縁部～体部上半は轆轤整形、轆轤なで。	貯蔵穴直上。内外面に油煙付着。
2211	椀	器高:50mm口径:[125mm]底径:[63mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～底部は轆轤整形、轆轤なで。内面:口縁部～底部轆轤なで。	住居内覆土。
2212	杯	器高:(25mm)口径:一底径:53mm体部下半～底部残	砂粒を含む。酸化。硬質橙。	轆轤右回転。外面:体部は轆轤なで、底部は回転糸切り。内面:体部～底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。



第448図 I地区A区55号住居跡遺物図

第126表 I地区A区55号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2213	羽 釜	器高:(216mm)口径: 215mm底径:一最大 径:255mm口縁部～体 部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4～5mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外 面:口縁部～体部上半は轆轤整形、体 部下半は轆轤整形後篋など。内面:口 縁部～体部は轆轤など。	竈内。内外面に油 煙付着。
2214	羽 釜	器高:(93mm)口径: [227mm]底径:一最大 径:[263mm]口縁部 ～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外 面:口縁部～体部は轆轤整形。内面: 口縁部～体部は轆轤など。	竈内。内外面に油 煙付着。
2215	羽 釜	器高:(107mm)口径: [211mm]底径:一最大 径:[250mm]口縁部 ～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄褐。	口縁部～体部上半は内湾。最大径は 体部上半。内外面共に口縁部～体部 上半は轆轤など。	竈前床直。内外面 に多量の油煙付着 上半は轆轤など。

I地区A区60号住居跡(第449・450図、第127表)

当住居跡は、A区61号住居跡・A区129号土坑・A区130号土坑と重複する。A区61号住居跡との新旧関係は、覆土の相違、当住居跡がA区61号住居跡の壁・床等を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。A区129号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の南西部隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡が古い。A区130号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の壁・床・竈を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約2.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-49°-Eである。確認面からの壁の立ち上がりは約5～10cmであり、残存状態は非常に悪い。床はやや軟弱であるが、比較的平坦である。

竈は南側壁のほぼ中央に築かれているが、大部分がA区130号土坑に破壊されている。竈の袖・煙道部は確認できず、僅かに、燃焼部と考えられる部分の底面に焼土が確認できただけである。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

(井川)

I地区A区61号住居跡(第449図)

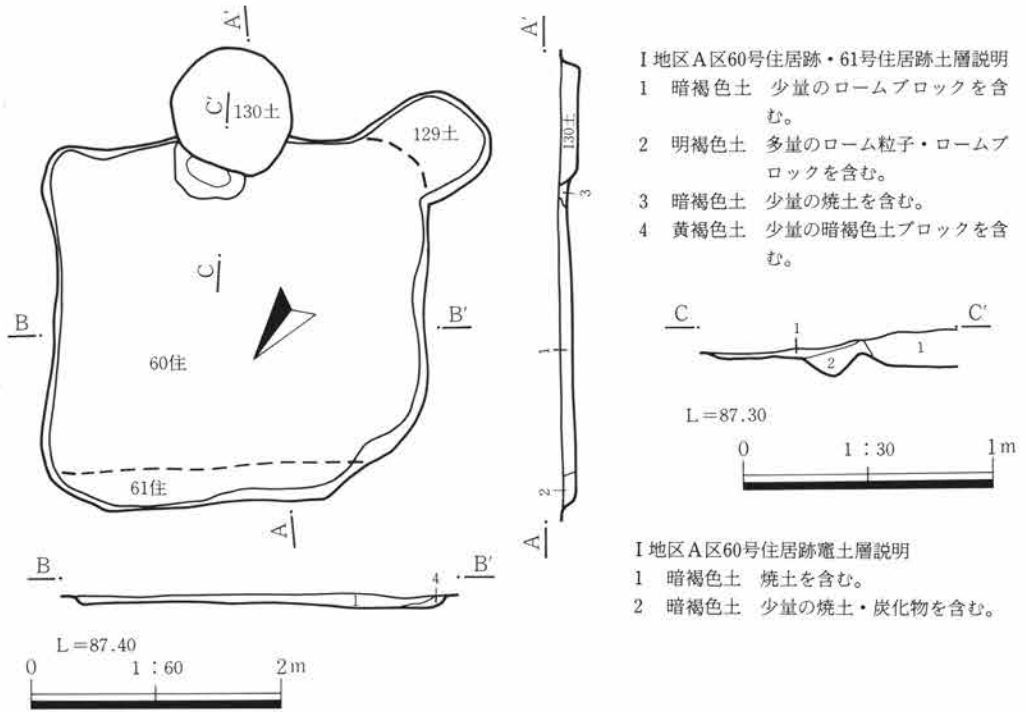
当住居跡は、A区60号住居跡と重複する。A区60号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は、A区60号住居跡に大部分が破壊されているが、東西方向は約2.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。確認面からの壁の立ち上がりは約5cmであり、残存状態は非常に悪い。床はやや軟弱である。

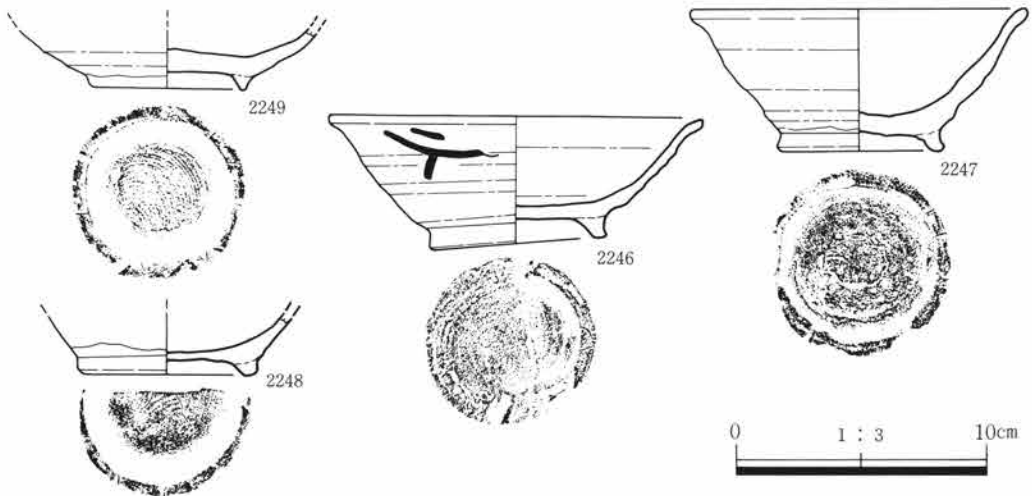
A区60号住居跡に大部分が破壊されているために、竈・柱穴・貯蔵穴等は不明であり、遺物も

第4章 平安時代の遺構と遺物

ない。当住居跡は、A区60号住居跡調査中に発見された住居跡であり、覆土はA区60号住居跡と大差がないことから、時間差も小さいと推定される。時期の断定はできないが、平安時代の住居跡としておく。
(井川)



第449図 I地区A区60・61号住居跡遺構図



第450図 I地区A区60号住居跡遺物図

第127表 I地区A区60号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2246	椀	器高:53mm口径:149mm底径:71mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬質。灰黄。	口縁端部は外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部は轆轤なで。底部はなで。	住居内南西部床直墨書。
2247	椀	器高:56mm口径:[134mm]底径:66mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。鈍い黄橙。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南西部床直内外面に多量の油煙付着。
2248	椀	器高:(24mm)口径:一底径:73mm体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰オリーブ。内面黒。	底部は回転糸切り後高台貼り付け、なで。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半～底部は轆轤なで。	住居内北東部床直
2249	椀	器高:(23mm)口径:一底径62mm体部下端～底部残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤右回転。回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端～底部は轆轤なで。	住居内南東部床直

I地区A区62号住居跡(第451～453図、第128表)

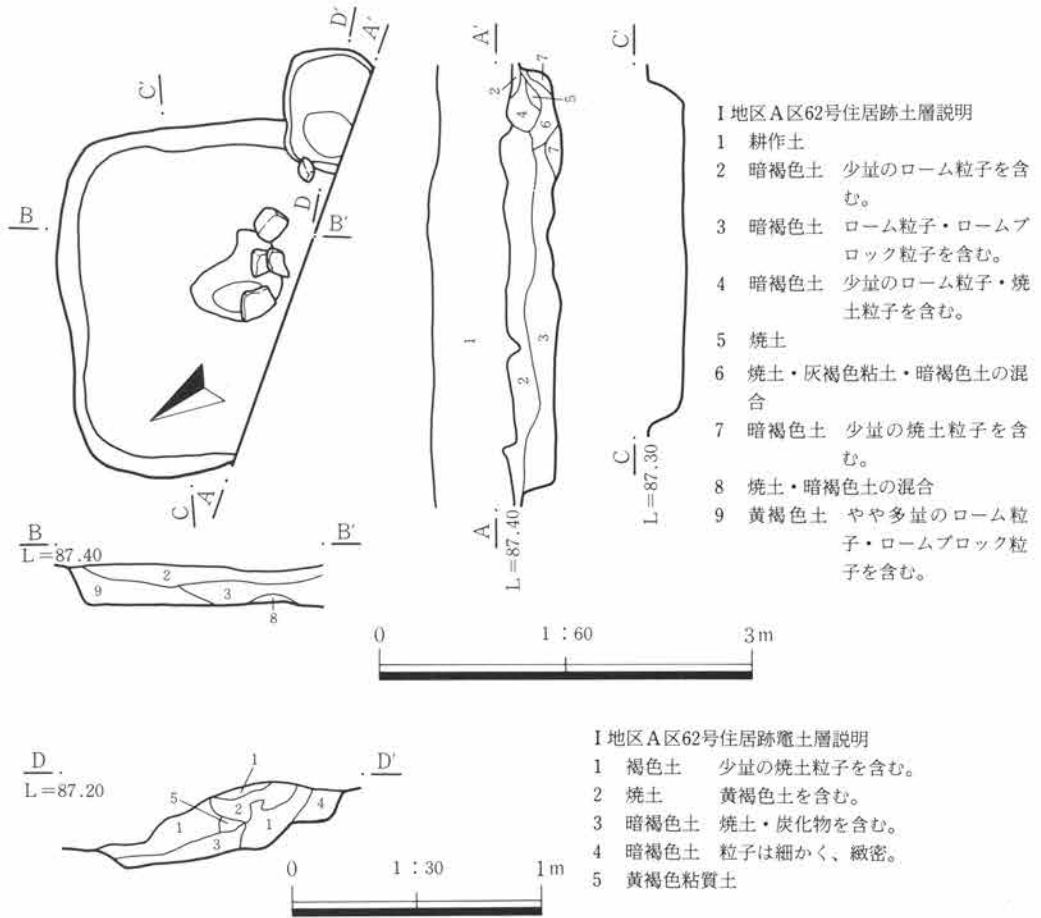
当住居跡は、A区2号古墳の北側で検出された。調査区域内での重複は無い。

当住居跡の西側半分は調査区域外のため、規模は不明であるが、南北方向は約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面からの壁の立ち上がりは約25～30cmであり、東側壁の一部は近代の攪乱坑に破壊されているが、残存状態は比較的良好である。床は比較的堅いが、やや凹凸がある。

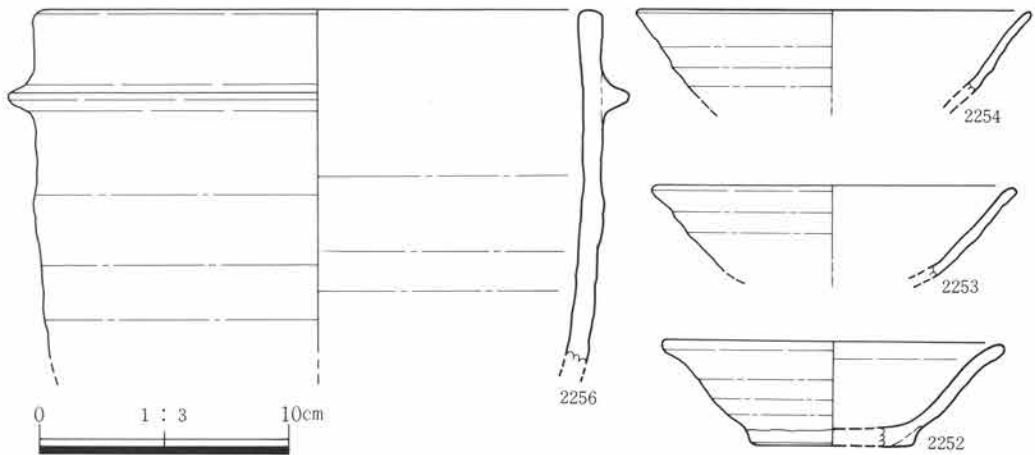
竈は南側の壁に築かれている。袖は確認できなかったが、燃烧部・煙道部から焼土・灰を検出できた。煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。当住居内の竈前には河原石が散乱しており、竈構築材に石を用いた可能性がある。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は羽釜、還元焼成の椀・杯、酸化焼成の椀、灰釉陶器の椀などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

第4章 平安時代の遺構と遺物

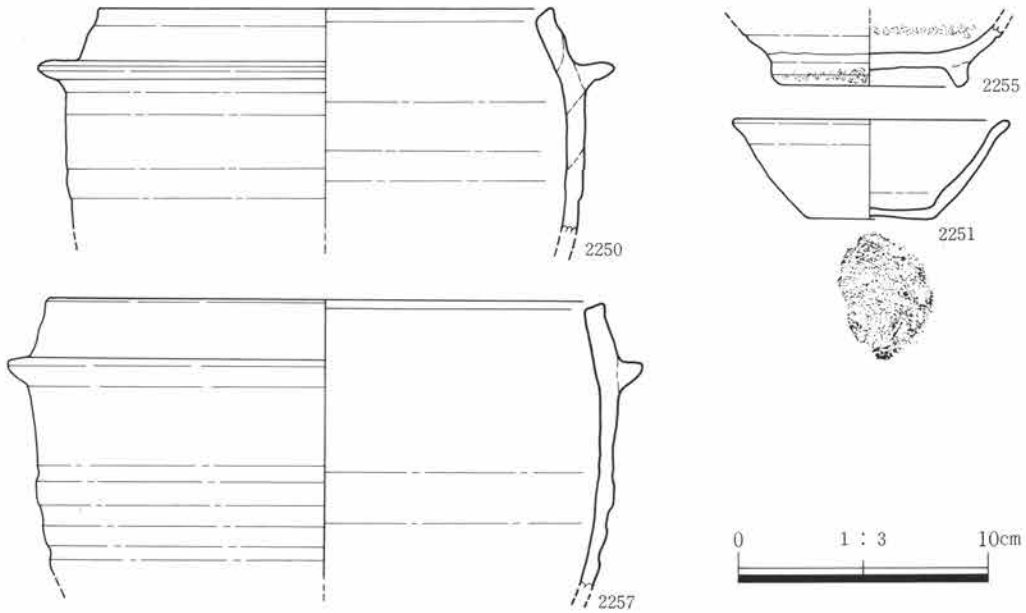


第451図 I地区A区62号住居跡遺構図



第452図 I地区A区62号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第453図 I地区A区62号住居跡遺物図(2)

第128表 I地区A区62号住居跡遺物観察表

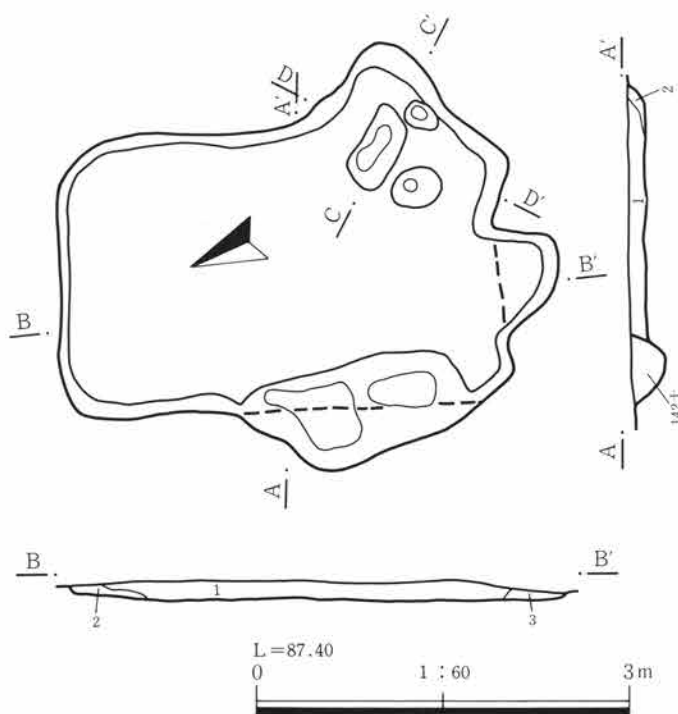
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2250	羽釜	器高:(88mm)口径:[182mm]底径:一最大径:[230mm]口縁部~体部上半残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部は轆轤なで。	竈前床上5cm。内外面に油煙付着。
2251	杯	器高:39mm口径:[110mm]底径:[50mm]口縁部~底部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。
2252	椀	器高:(41mm)口径:[136mm]底径:[66mm]口縁部~底部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。底部は高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。外面に油煙付着。
2253	椀	器高:(37mm)口径:[146mm]底径:一口縁部~体部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~体部はなで。	住居内覆土。内面に油煙付着。
2254	椀	器高:(32mm)口径:[156mm]底径:一口縁部~体部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2255	椀 灰釉陶器	器高:(25mm)口径:一底径:[78mm]体部下半~底部残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。

第4章 平安時代の遺構と遺物

2256	羽 釜	器高:(140mm)口径: [226mm]底径:一最大 径:[248mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い黄橙。	口縁部はほぼ直立。最大径は銚部。外 面:口縁部~銚部は横なで、体部は轆 轤なで。内面:口縁部~体部は丁寧な 轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2257	羽 釜	器高:(110mm)口径: [222mm]底径:一最大 径[254mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 黄灰。	口縁部はやや内湾。最大径は銚部。外 面:口縁部~銚部は横なで、体部は轆 轤なで。内面:口縁部は横なで、体部 は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。

I 地区 A 区63号住居跡 (第454~456図、第129表)

当住居跡は、A区142土坑・A区148土坑・A区149土坑と重複する。A区142土坑・A区148土坑・A区149土坑との新旧関係は、各土坑は覆土の状態から、近世~現代の新しい土坑であり、当住居跡の方が古い。



I 地区 A 区63号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のロームブ
ロックを含む。
- 2 明褐色土 多量のローム粒子
を含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを
含む。

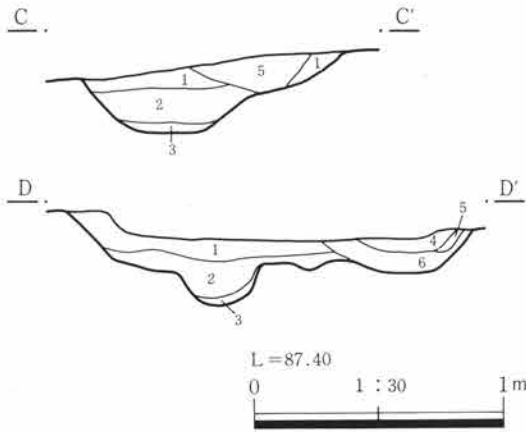
第454図 I 地区 A 区63号住居跡遺構図(1)

当住居跡の規模は、東西方向約2.2m・南北方向約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-19°-Eである。確認面からの壁の立ち上がりは、約5~10cmであり、残存状態は非常に悪い。床面はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。

竈は、東側壁の南端に築かれている。大部分が破壊されており、袖は確認できなかったが、燃烧部・煙道部の焼土を確認することができた。確認面での煙道部の壁外への張り出しは、約50cmである。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、酸化焼成の椀、灰釉陶器の椀、土錘が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

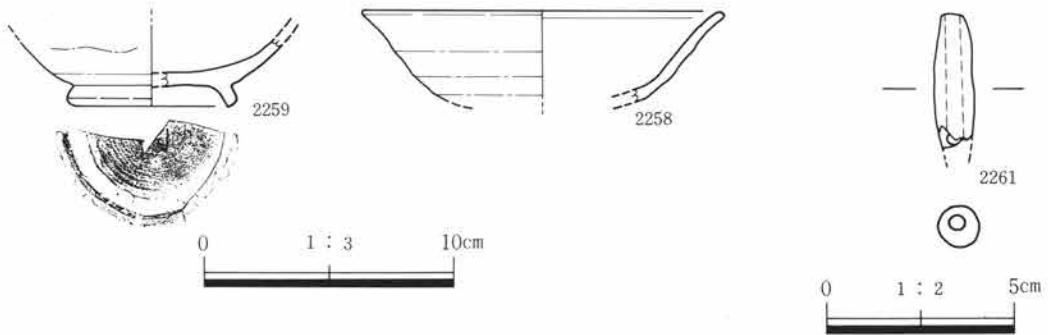
(1) 竪穴住居跡



I地区A区63号住居跡竈土層説明

- 1 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 少量のロームブロック・焼土粒子を含む。
- 3 褐色土 やや多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを含む。
- 5 焼土
- 6 明褐色土 多量のロームブロック及び焼土ブロックを含む。

第455図 I地区A区63号住居跡遺構図(2)



第456図 I地区A区63号住居跡遺物図

第129表 I地区A区63号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2258	碗	器高(36mm)口径: [145mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

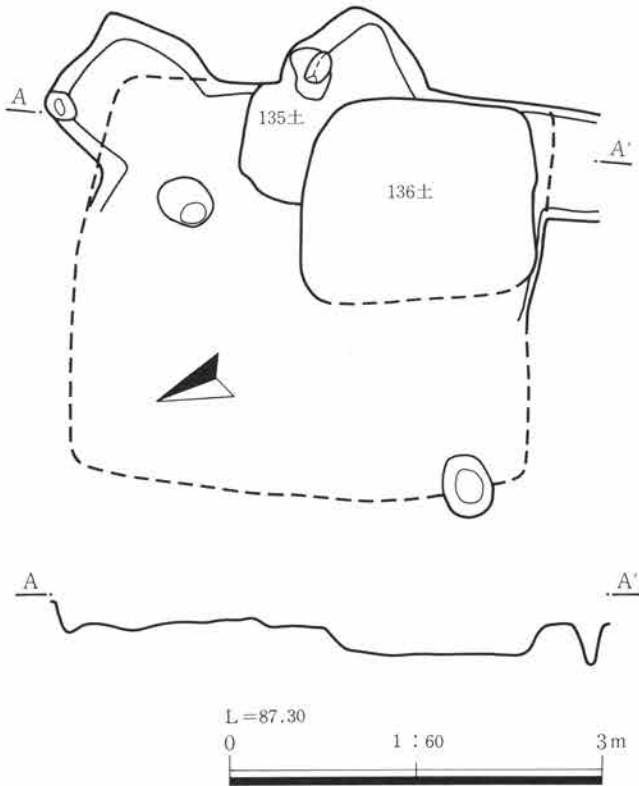
2259	椀 灰釉陶器	器高:(27mm)口径: 一底径:67mm体部下 端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部下半は轆轤なで。外面:体 部下半~底部は轆轤なで。	住居内床下。外面 に油煙付着。
2261	土 錘	長さ:(36mm)直径:10 mm孔径4mm	砂粒を含む。酸化。比較的 硬質。黒褐。	棒状で、両端がやや細くなる。	

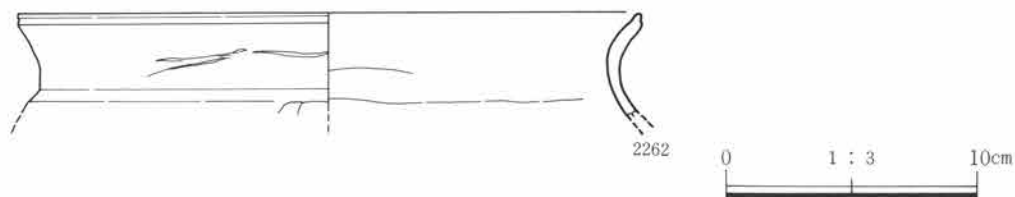
I 地区 A区64号住居跡 (第457・458図、第130表)

当住居跡は、A区135土坑・A区136土坑と重複する。A区135土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の竈・壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区136土坑との新旧関係は、同土坑とA区136土坑との新旧関係が、覆土の相違により、同土坑のほうが古いことから、A区135土坑より古い当住居跡は、A区136土坑より古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されているが、南北方向は約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は不明である。確認面からの壁の立ち上がりは、確認できる部分で約5~10cmであり、残存状態は非常に悪い。床面は殆ど確認できなかった。

竈は大部分が破壊されているが、煙道部の焼土と構築材に使用されたと考えられる人頭大の河原石が確認できた。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。遺物の出土は非常に少なく、竈内から出土した酸化焼成の甕があるだけである。時期の限定は困難であるが、遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半~10世紀前半である。(井川)





第458図 I地区A区64号住居跡遺物図

第130表 I地区A区64号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2262	甕	器高:(40mm)口径: [250mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで。体部上端は寛削り。内面:口縁部~体部上端は横なで。	竈内。

I地区A区65号住居跡 (第459・462図、第131表)

当住居跡は、A区66号住居跡・A区93号住居跡・A区95号住居跡・A区127土坑跡と重複する。A区66号住居跡との新旧関係は、当住居跡がA区66号住居跡の南側の壁・床を破壊していることから、当住居跡が新しい。A区93号住居跡・A区95号住居跡との新旧関係は、直接的に確認することはできないが、A区93号住居跡・A区95号住居跡とA区66号住居跡との新旧関係から、当住居跡の方が新しい。A区127土坑跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西方向約2.8m・南北方向約2.9mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-25°-Eである。確認面からの壁の立ち上がりは、約20cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は比較的堅く、ほぼ平坦である。北側壁の中央部から、西側壁を通り、南西部隅にかけて壁溝が検出できた。規模は、幅約10~15cm・床面からの深さ約5cmである。

竈は東側壁の南寄りに築かれている。竈の中及び前には、河原石が散乱しており、破壊されているが袖・天井には、石を構築材に使用したと考えられる。竈内の燃焼部からは、厚さ約5cmの灰・焼土の層が確認できた。南東部隅の張り出し部分及びその全面の床下ピットからも焼土が確認できた。これも竈であり、作り替えが行われたものと考えられる。住居内の北東部及び南西伏せ隅から2基の小さいピットが検出できたが、浅い皿状のピットであり、柱穴・貯蔵穴と考えることはできない。

遺物の出土は竈内・竈の前部分に集中しており、羽釜、酸化焼成の椀、還元焼成の椀がある。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

(井川)

第4章 平安時代の遺構と遺物

I 地区 A区66号住居跡 (第459・460・463図、第132表)

遺構の重複が激しい部分で確認されたため、確実に検出された壁は西壁だけである。南側は65号住居跡に切られ、南東側は147号土坑より新しく152号土坑との関係は不明。北東の93号住居跡・238号土坑・286号土坑とも新旧は把握されなかった。東西方向は約2.5mで、形状は不明で、主軸方向はN-62°-Wである。床面は比較的平坦だが、東側は147号土坑埋土に貼り床がなされる部分と軟弱で掘り方土坑を持つ部分がある。中央部分には径50cmほどの焼土分布域がある。柱穴等不明。東壁南寄りの竈の残存状態は悪く、僅かに袖の芯と思われる粘土が残っていただけである。

遺物は竈の右側から還元羽釜(2270)、やや浮いて還元焼成の椀(2272)、竈内から同椀(2273)そして床下から土師器甕(2271)が出土している。竈の状態が良くないため少し疑問点も残るが、構築年代は10世紀前半と考えられる。(坂井)

I 地区 A区93号住居跡 (第459・460・464図、第133表)

当住居跡は、A区65号住居跡・A区66号住居跡・A区95号住居跡・A区239号土坑・A区282号土坑と重複する。A区66号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部分の壁・床を破壊して、A区65号住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡が古い。A区65号住居跡との直接的な新旧関係は確認できないが、A区65号住居跡とA区66号住居跡の関係から、当住居跡が古い。A区95号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈がA区95号住居跡の竈を破壊していることから、当住居跡が新しい。A区239号土坑・A区282号土坑との新旧関係は、両土坑共に当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、不明であるが、東西方向約2.7m・南北方向は約4.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。残存する北側部分での確認面までの壁の立ち上がりは約5cmである。床面はやや軟弱であり、凹凸が多い。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。袖は確認できなかったが、燃烧部・煙道部から焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、羽釜、酸化焼成の甕・椀・杯、還元焼成の椀・耳杯、灰釉陶器の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

I 地区 A区95号住居跡 (第459・460図)

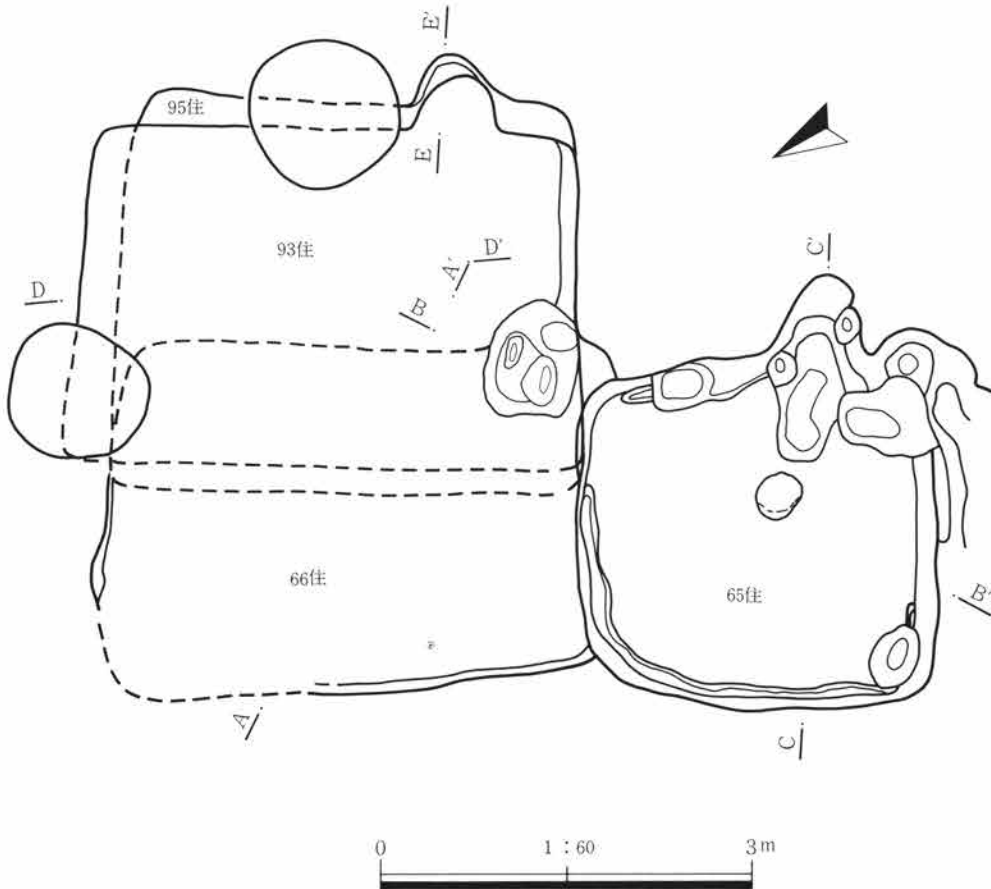
当住居跡は、A区65号住居跡・A区66号住居跡・A区93号住居跡・A区239号土坑・A区282号土坑と重複する。A区93号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈等を破壊して、A区93号住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡が古い。A区65号住居跡・A区66号住居跡との直接的な新旧関係は確認できないが、A区65号住居跡・A区66号住居跡とA区93号住居

(1) 竪穴住居跡

跡との新旧関係から、当住居跡が古い。A区239号土坑・A区282号土坑との新旧関係は、両土坑共に当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡が古い。

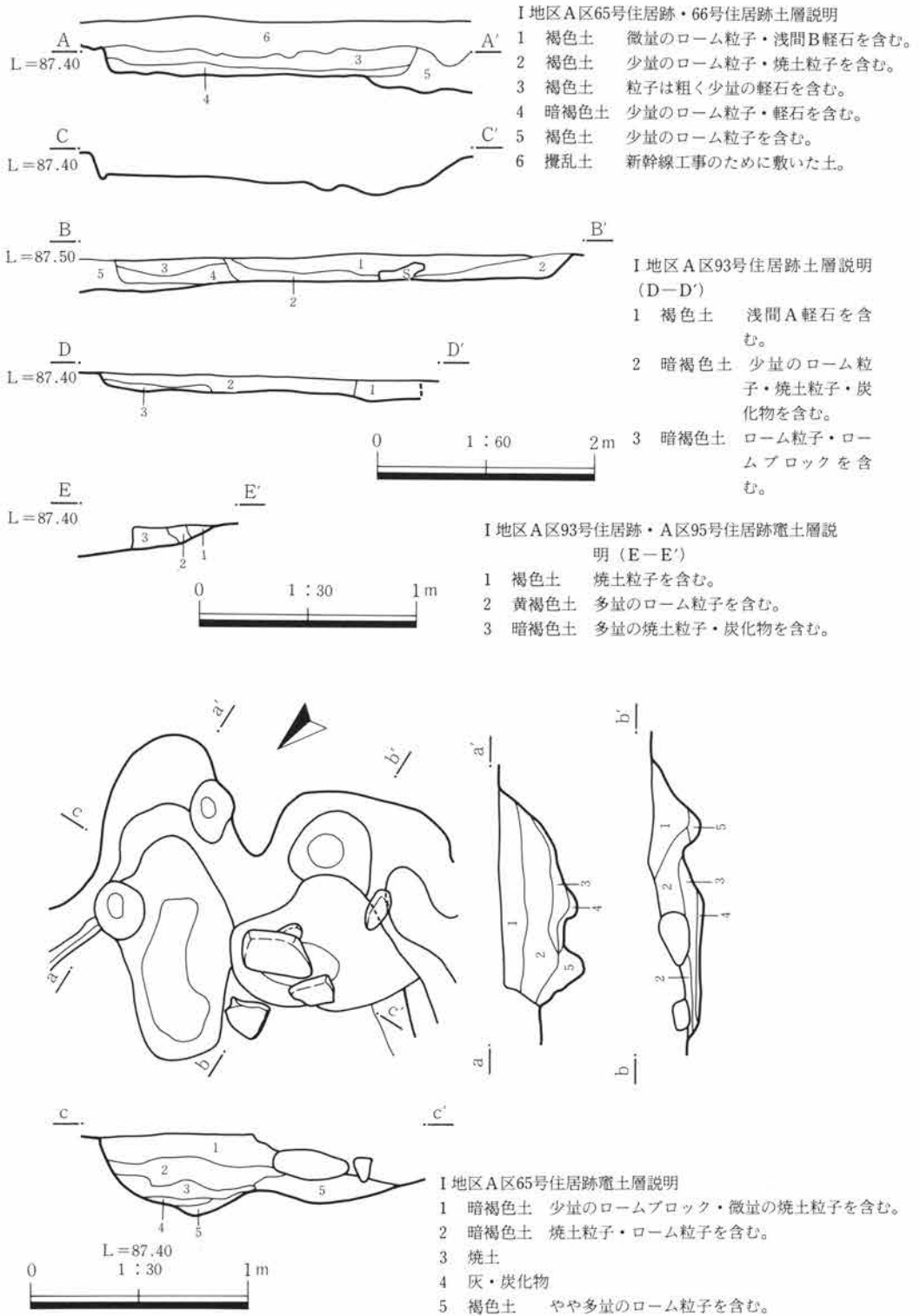
当住居跡の規模は、大部分が破壊されているために不明であるが、南北方向は約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。残存する東側部分での確認面までの壁の立ち上がりは約5～15cmであり、残りは悪い。

竈は、東側壁の南寄りに築かれているが、僅かに、煙道部分の先端とその部分の焼土が確認できただけである。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。遺物の出土はなく、当住居跡の時期の限定は困難であるが、住居の形態・重複する住居跡・土坑との関係から、10世紀代の住居跡と推定する。
(井川)



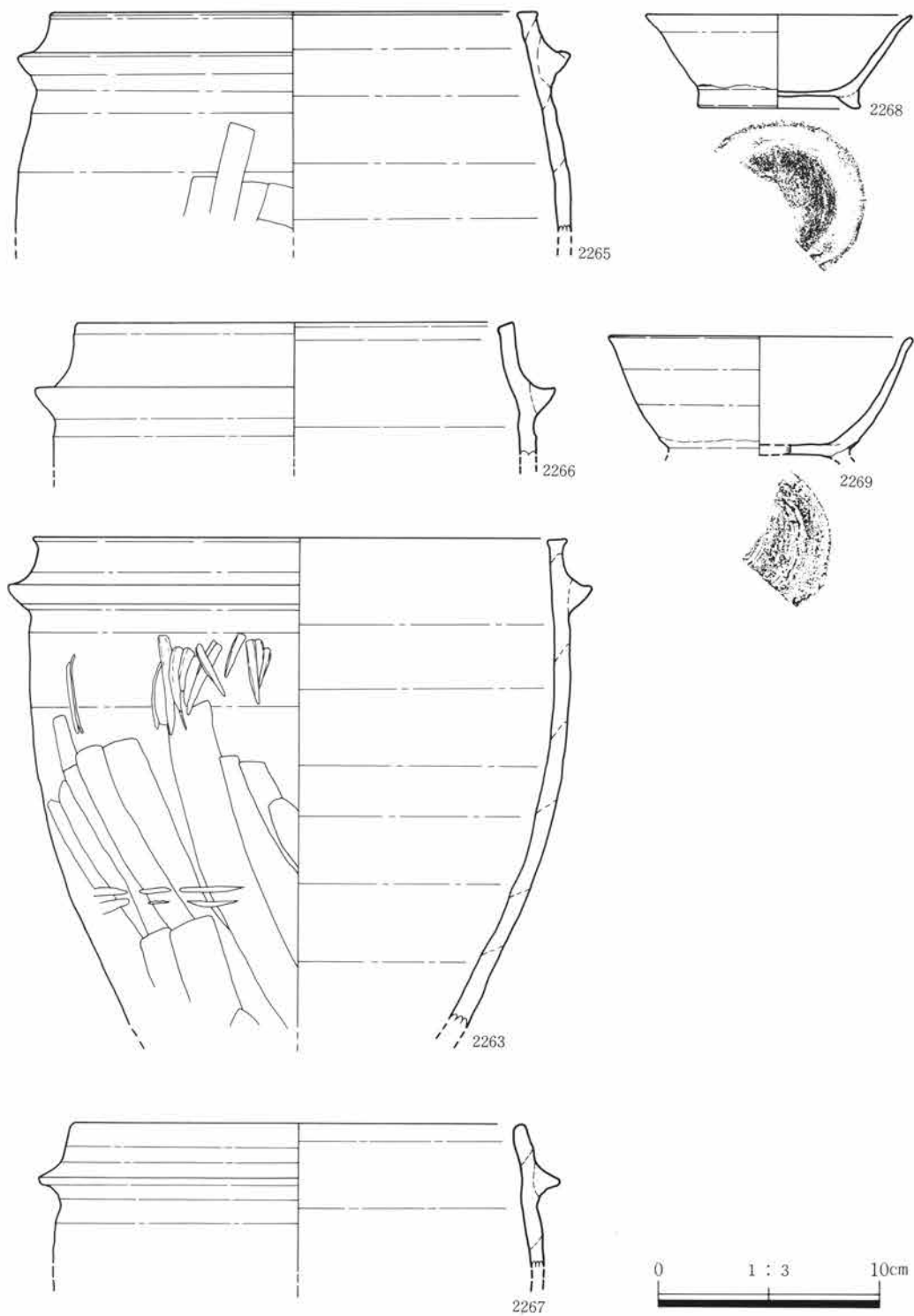
第459図 I地区A区65・66・93・95号住居跡遺構図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



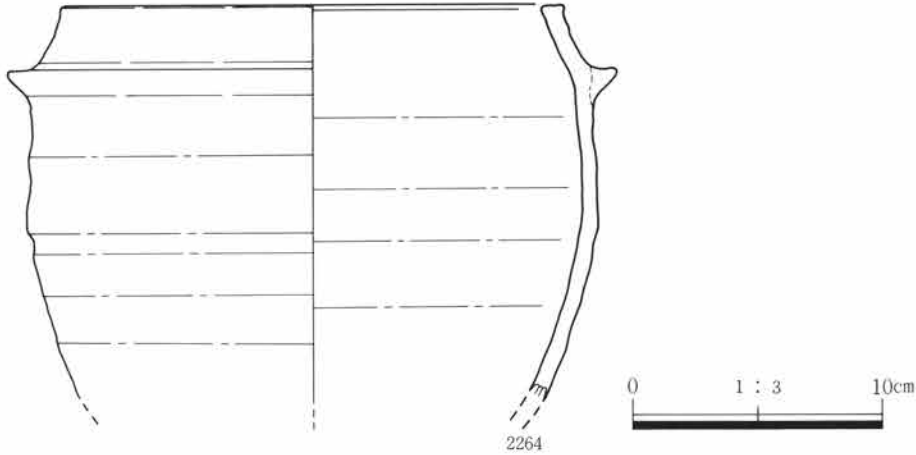
第460図 I 地区A区65・66・93・95号住居跡遺構図(2)

(1) 竖穴住居跡



第461图 I地区A区65号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



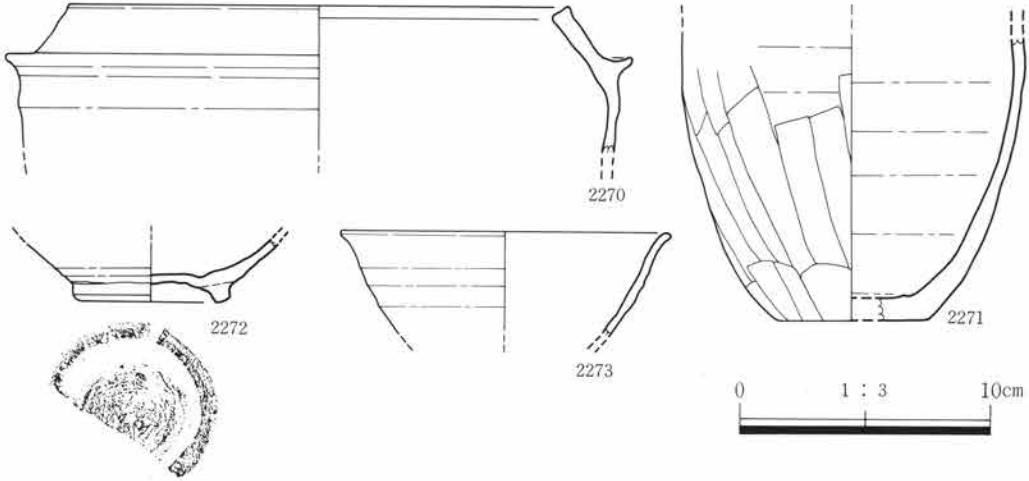
第462図 I地区A区65号住居跡遺物図(2)

第131表 I地区A区65号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2263	羽釜	器高:(227mm)口径:[240mm]底径:一最大径[260mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。最大径は鈿部。外面:口縁部~鈿部は轆轤整形、体部は轆轤整形後窠なで。内面:口縁部~体部は轆轤なで。	窠内。内外面に油煙付着。
2264	羽釜	器高:(156mm)口径:[200mm]底径:一最大径:[240mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は内湾。最大径は鈿部。外面:口縁部~体部は轆轤整形。内面:口縁部~体部は轆轤整形、轆轤なで。	窠内。内外面に油煙付着。
2265	羽釜	器高:(98mm)口径:[220mm]底径:一最大径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	口縁部~体部上半はやや内湾。外面:口縁部~鈿部は轆轤整形、体部は轆轤整形後窠なで。内面:口縁部~体部は轆轤なで。	窠内。内外面に油煙付着。
2266	羽釜	器高:(59mm)口径:[198mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	内外面共に口縁部~体部上端は轆轤なで。	住居内北西部床上5cm。
2267	羽釜	器高:(63mm)口径:[205mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部~体部上端はやや内湾。内外面共に口縁部~体部上端は轆轤整形、轆轤なで。	住居内中央部床直外面に多量の油煙付着。
2268	椀	器高:[42mm]口径:[120mm]底径:[74mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	窠内。

(1) 竪穴住居跡

2269	椀	器高:(53mm)口径: [135mm]底径:—	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈内。
------	---	-----------------------------	----------------------------	--	-----

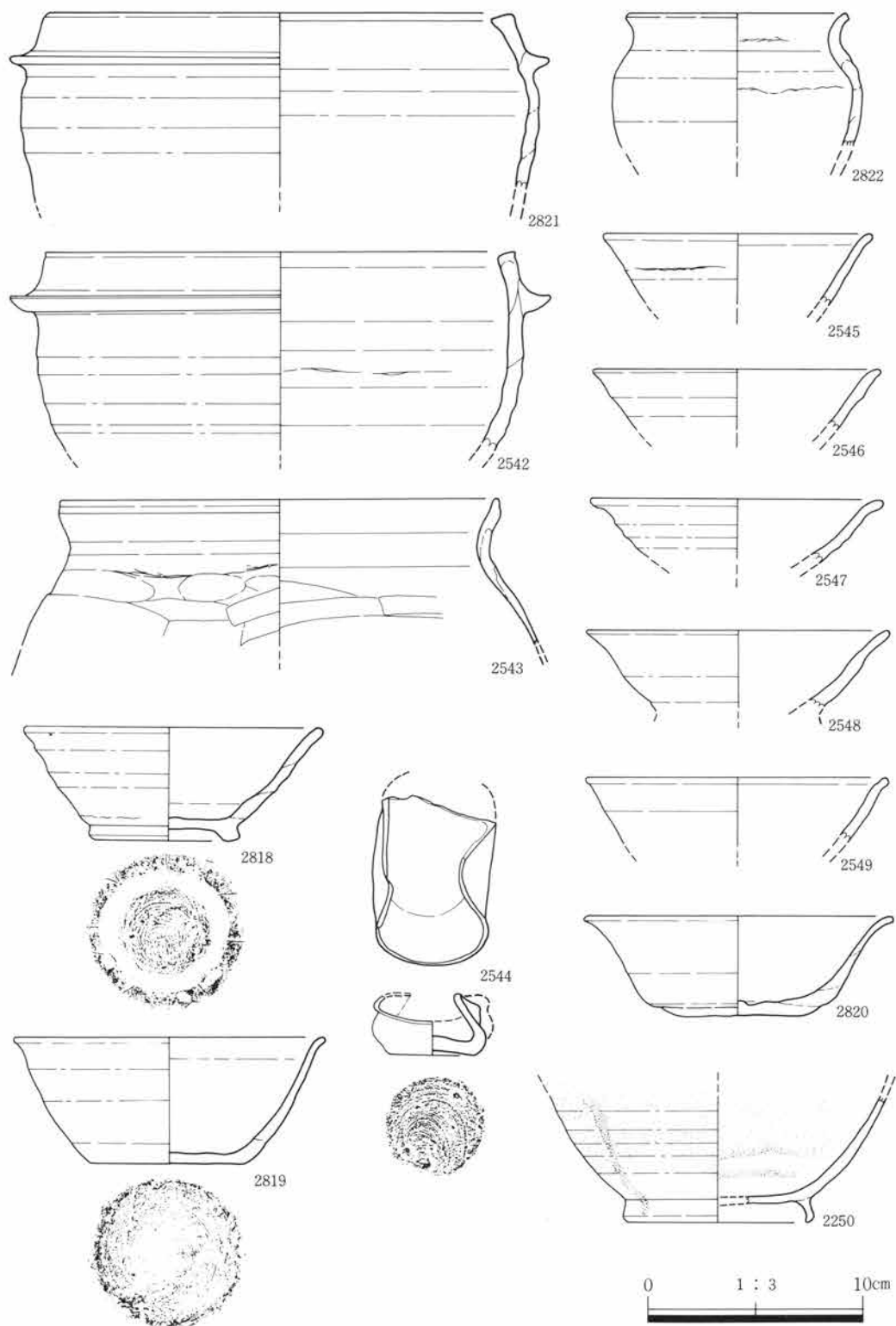


第463図 I地区A区66号住居跡遺物区

第132表 I地区A区66号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2270	羽 釜	器高:(57mm)口径: [200mm]底径:—最大径: [250mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は内湾。最大径は銜部と推定。外面:口縁部～体部上端は轆轤整形、轆轤なで。内面:口縁部～体部上端は轆轤なで。	竈内。
2271	甕	器高:(112mm)口径: —底径:60mm体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。明赤褐。	外面:体部下半は轆轤整形後篋削り。内面:体部下半～底部は轆轤なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。
2272	椀	器高:(25mm)口径: —底径:62mm体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内部:轆轤整形後なで。	竈内。
2273	椀	器高:(40mm)口径: [130mm]底径:—口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。比較的硬質。灰白。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部は轆轤なで。	竈内。

第4章 平安時代の遺構と遺物



第464図 I地区A区93号住居跡遺物図

第133表 I地区A区93号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状 態考 備
2542	羽 釜	器高:(91mm)口径: [216mm]底径:一最大 径[250mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 鈍い黄褐。	口縁部~体部上半はやや内湾。最大 径は罅部。外面:口縁部~罅部は横 なで、体部上半は轆轤なで。内面:口 縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内覆土。
2543	甕	器高:(67mm)口径: [200mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上半は篋削り。内面:口縁部 は横なで、体部上半は篋なで。	床下。
2544	耳 杯	器高:28mm口径:一底 径:40mm口縁部~底 部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部の折り曲げは深い。轆轤右回 転。底部は回転糸切り。外面:口縁部 ~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底 部は轆轤なで。	住居内覆土。
2545	椀	器高:(32mm)口径: [124mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰オリーブ。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口 縁部~体部は轆轤なで。	床下。
2546	椀	器高:(28mm)口径: [132mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰オリーブ。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁 部~体部は轆轤なで。	床下。
2547	椀	器高:(28mm)口径: [135mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 浅黄。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部 ~底部は轆轤なで。	床下。
2548	椀	器高:(33mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い褐。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁 部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2549	椀	器高:(30mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い黄褐。	口縁端部はやや外湾。内面口縁部に 段有り。内外面共に口縁部~体部は 轆轤なで。	床下。
2550	椀 灰釉陶器	器高:(58mm)口径: 一底径:[84mm]体部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	高台部は貼り付け。内外面共に体部 ~底部は轆轤なで。	床下。
2818	椀	器高:52mm口径:138 mm底径:70mmほぼ完 形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。 外面:口縁部~体部は轆轤なで。外 面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2819	杯	器高:58mm口径:144 mm底径:70mmほぼ完 形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は 回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆 轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤な で。	住居内覆土。
2820	杯	器高:46mm口径:[144 mm]底径:70mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。褐灰。	口縁部は外湾。底部は回転糸切り後、 粘土円盤貼り付け、回転糸切り。外 面:口縁部~体部は轆轤なで。内面: 口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

2821	羽 釜	器高:(80mm)口径: [214mm]底径:一最大 径:[250mm]口縁部 ～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 橙。	口縁部～体部上端は内湾。最大径は 銜部。外面:口縁部～銜部は横なで、 体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで。体部上半は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2822	甕	器高:(60mm)口径: [102mm]底径:一最大 径[116mm]口縁部 ～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。灰褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。最大径は 体部上半。外面:口縁部は横なで。体 部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで 体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に多量の油煙付 着。

I 地区 A区67号住居跡 (第465・466図、第134表)

当住居跡は、A区68号住居跡・A区154土坑・A区155土坑と重複する。A区68号住居跡との新旧関係は不明である。A区154土坑・A区155土坑との新旧関係は確認できないが、各土坑の覆土が新しいものと考えられるので、当住居跡の方が古いと推定している。

当住居跡は大部分が破壊されており、規模・平面形・壁・床・柱穴・貯蔵穴等は不明である。確認できたものは、竈の掘り込み部分と、その焼土だけである。遺物は竈部分から、酸化焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀代と考える。

(井川)

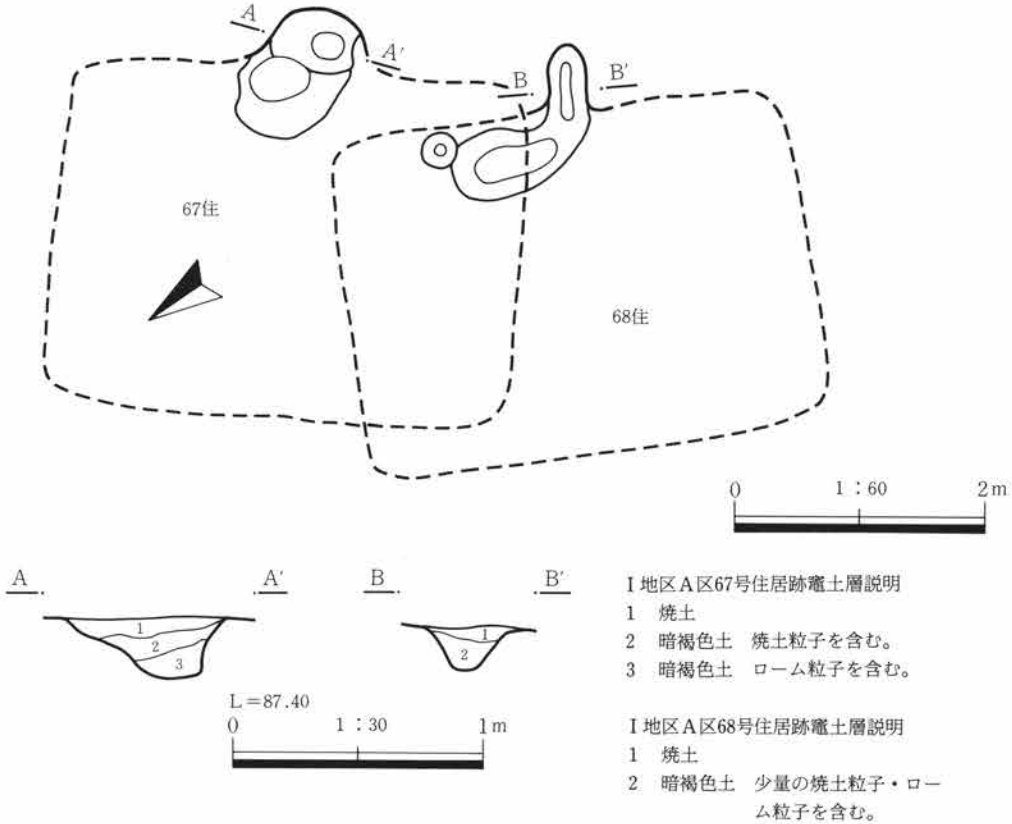
I 地区 A区68号住居跡 (第465図)

当住居跡は、A区67号住居跡・A区154土坑・A区155土坑と重複する。A区67号住居跡との新旧関係は不明である。A区154土坑・A区155土坑との新旧関係は確認できないが、各土坑の覆土が新しいものと考えられるので、当住居跡の方が古いと推定している。

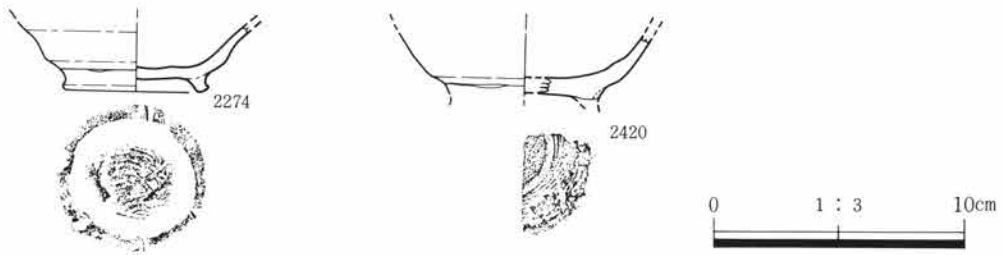
当住居跡は大部分が破壊されており、規模・平面形・壁・床・柱穴・貯蔵穴等は不明である。確認できたものは、竈の掘り込み部分と、その焼土だけである。当住居跡は遺物の出土もなく、時期の限定は困難であるが、周囲の遺構との関係から、平安時代の住居跡と考えておく。

(井川)

(1) 竪穴住居跡



第465図 I 地区A区67・68号住居跡遺構図



第466図 I 地区A区67号住居跡遺物図

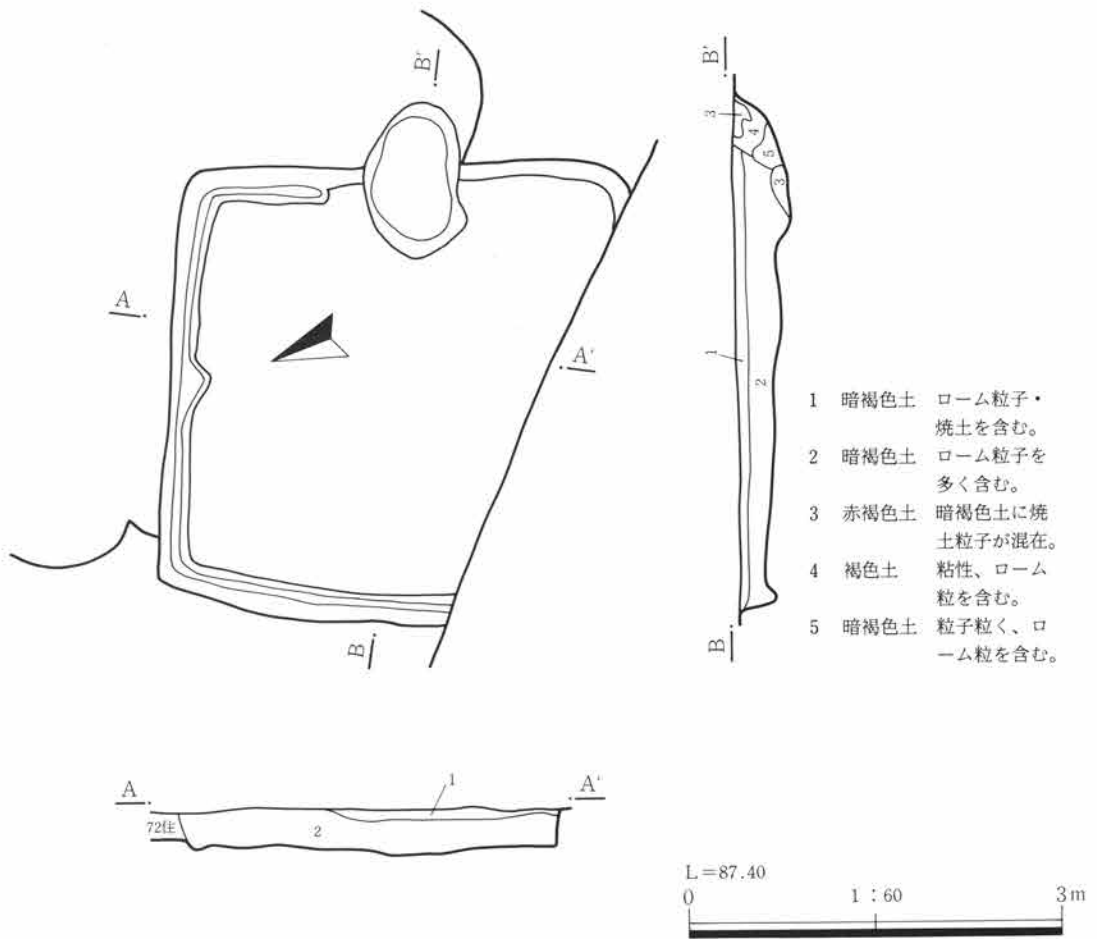
第134表 I 地区A区67号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2274	碗	器高:(28mm)口径: 一底径:58mm 体部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。 鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。 外面:体部は轆轤などで。内面:体部 ~底部は轆轤などで。	竈内。内面に油煙 附着。

2420	椀	器高:(26mm)口径: 一底径:一体部~底 部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。 鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。 外面:体部は轆轤など。内面:体部 ~底部は轆轤など。	住居内覆土。外面 に油煙付着。
------	---	--	-----------------------	---	--------------------

I 地区 A 区 69 号住居跡 (第467・469図、第135表)

当住居跡は、A区70号住居跡・A区2号古墳と重複する。A区70号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈・壁・床がA区70号住居跡を破壊して作られていることから、当住居跡の方が新しい。A区2号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝の覆土中に当住居跡の壁・床が作られていることから、当住居跡の方が新しい。



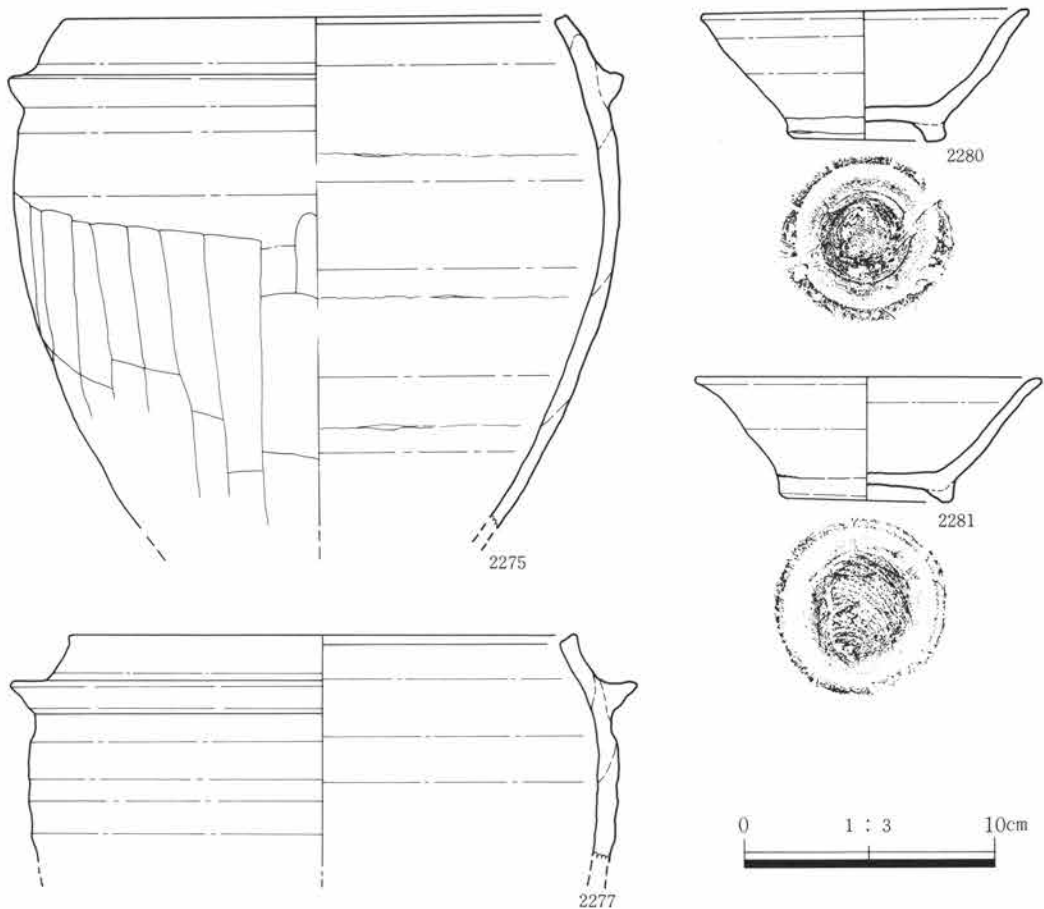
第467図 I 地区 A 区 69 号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡

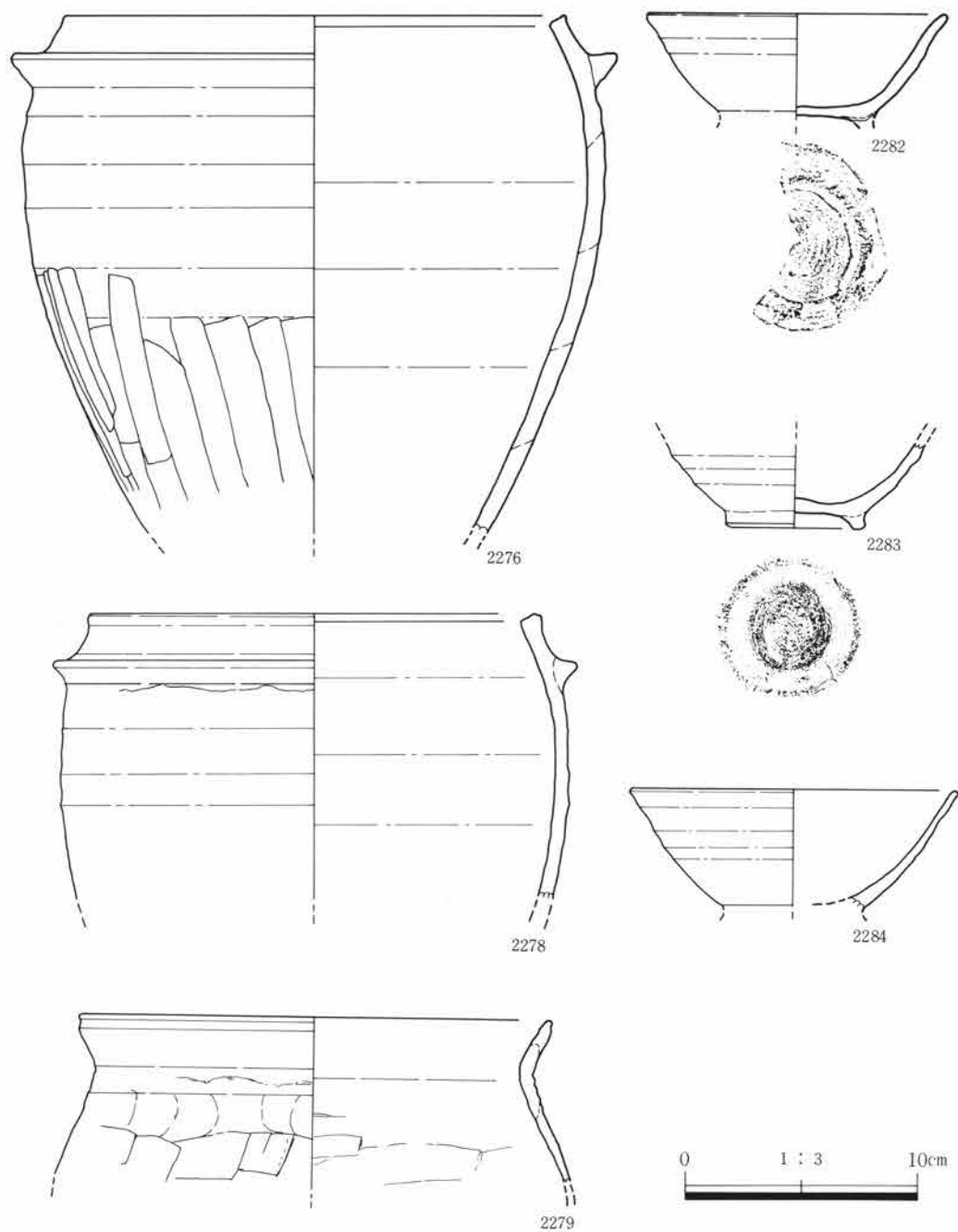
当住居跡の規模は、南西部分を現代の攪乱坑により破壊されているが、一辺は約3.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。確認面からの壁の立ち上がりは、約30cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、比較的堅く良好であり、平坦である。竈の左側から北側の壁を通り西壁の攪乱坑までは、壁溝が確認できた。竈の右側部分からは検出できなかった。壁溝の規模は、幅約10~15cmであり、床面からの深さは約5cmである。

竈は東側壁の中央部に築かれている。袖は、ローム構築材に使用しており、僅かな痕跡が確認でき、燃烧部・煙道部から焼土を検出することができた。煙道部の壁外への張り出しは、約50cmである。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物の出土は、住居内の全域にわたっているが、竈内からの出土が多い。遺物の種類は羽釜、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の椀などである。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。
(井川)



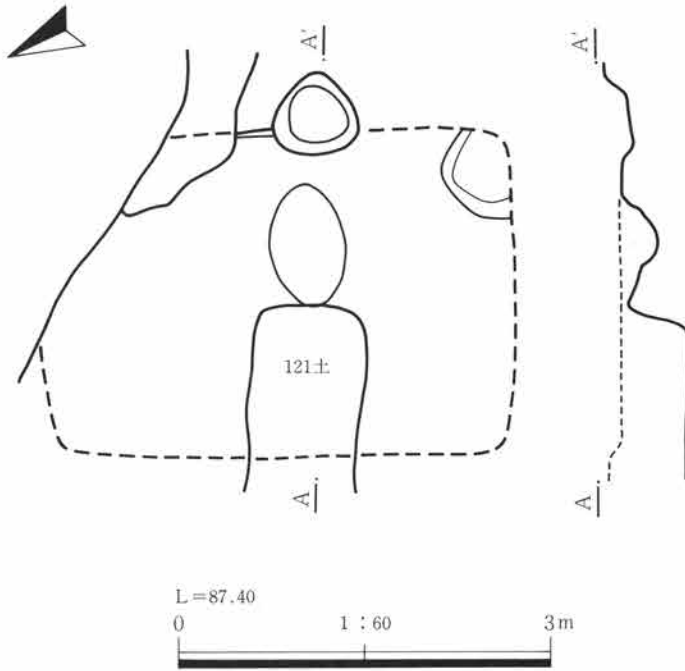
第468図 I地区A区69号住居跡遺物図(1)



第469図 I地区A区69号住居跡遺物図(2)

第 135 表 I 地区 A 区 69 号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2275	羽釜	器高:(202mm)口径:[200mm]底径:一最大径:[245mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3～4 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰白。	口縁部～体部上半は内湾。最大径は鏝部。外面:口縁部～鏝部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2276	羽釜	器高:(220mm)口径:[216mm]底径:一最大径:[262mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部～体部上半は内湾。最大径は鏝部。外面:口縁部～鏝部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2277	羽釜	器高:(90mm)口径:[202mm]底径:一最大径:[250mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部～体部上端は内湾。最大径は鏝部。外面:口縁部～鏝部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半はなで。	竈内。内外面に油煙付着。
2278	羽釜	器高:(122mm)口径:[196mm]底径:一最大径:[226mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 4～5 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部～体部上端はやや内湾。最大径は鏝部。外面:口縁部～鏝部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は丁寧なで。	住居内北西部床直
2279	甕	器高:(68mm)口径:[224mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上端に指なで痕、体部は窠削り。内面:口縁部は窠削り、体部は窠なで。	住居内中央部床上 10cm。
2280	椀	器高:51mm 口径:131mm 底径:63mm 完形	直径 4～5 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明黄褐。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内北西隅床直内外面に燻しあり
2281	椀	器高:49mm 口径:138mm 底径:68mm ほぼ完形	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈前床直。内面に油煙付着。
2282	椀	器高:(46mm)口径:[130mm]底径:一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2283	椀	器高:(37mm)口径:一底径:60mm 体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西隅床直内外面に燻し、及び油煙付着。
2284	椀	器高:(51mm)口径:[142mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内中央部床上 15cm。



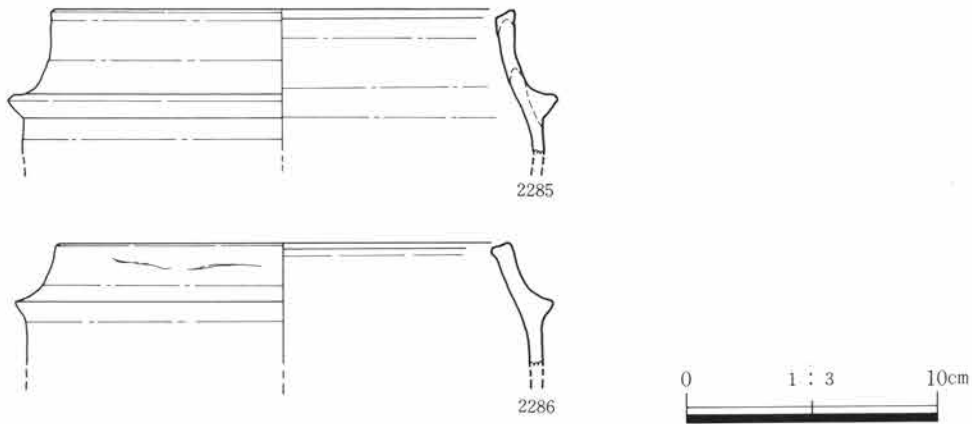
第470図 I地区A区70号住居跡遺構図

I地区A区70号住居跡(第470・471図、第136表)

当住居跡は、A区121号土坑・A区122号土坑・A区132号土坑・A区133号土坑と重複する。各土坑との新旧関係は不明であるが、各土坑は覆土・形態から新しい土坑と考えられるので、当住居跡の方が古いと推定している。

当住居跡は、竈及びその周辺のみを検出であり、規模は不明であるが、竈周辺の壁の立ち上がりは、確認面から約5cmである。竈の掘り込みと焼土は確認できたが、壁溝・柱穴・貯蔵穴

は不明である。遺物は羽釜が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)



第471図 I地区A区70号住居跡遺物図

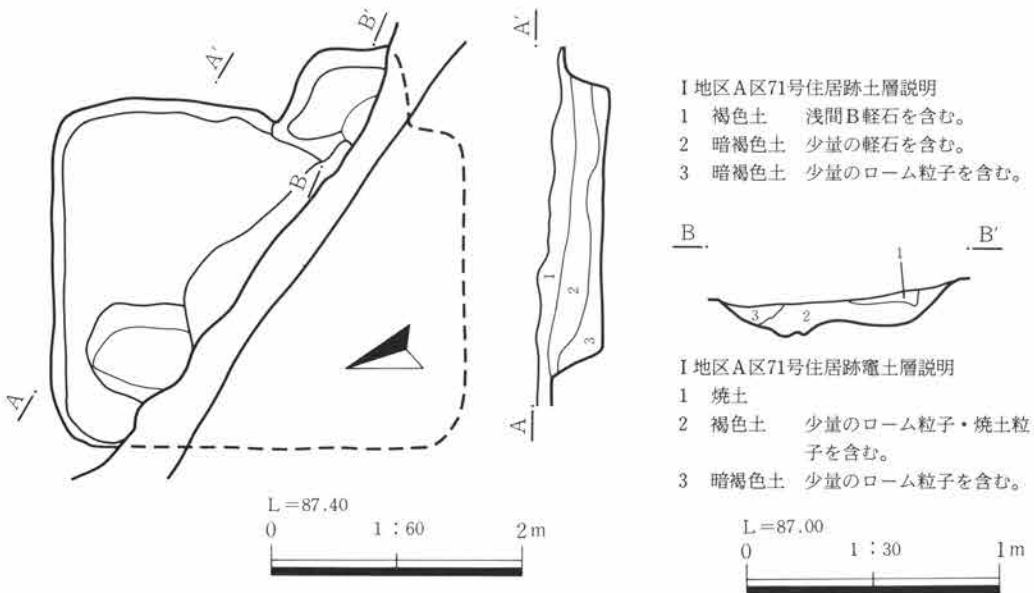
第136表 I地区A区70号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2285	羽釜	器高:(56mm)口径: [185mm]底径:一口 縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部は内湾。内外面共に口縁部 ~体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。
2286	羽釜	器高:(48mm)口径: [180mm]底径:一口 縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。 鈍い黄橙。	口縁部は内湾。内外面共に口縁部 ~体部は轆轤なで。	住居内覆土。

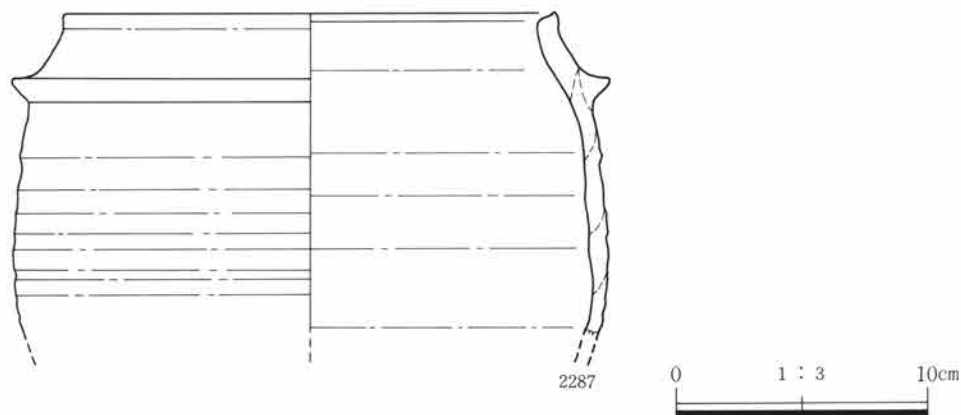
I地区A区71号住居跡(第472・473図、第137表、図版71)

2号墳周溝の北東側で確認された。2号墳より新しい遺構だが、調査時には周溝埋土上の床面を確認し得なかった。そのため調査できたのは半分程度である。床面は比較的平坦だが、北角近くには深さ10cm弱の浅い落ち込みが見られる。周溝は一部で検出。柱穴等は不明。竈は南東壁にあり、基本的に壁外に大きく張り出る形態だが、残存状態は不良。

遺物は、埋土中に酸化の羽釜片(2287)があったのみであり、構築時期は10世紀後半以前としか分からない。(坂井)



第472図 I地区A区71号住居跡遺構図



第473図 I地区A区71号住居跡遺物図

第137表 I地区A区71号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2287	羽釜	器高:(129mm)口径:[196mm]底径:一最大径:[238mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐色。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部~鑿部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。

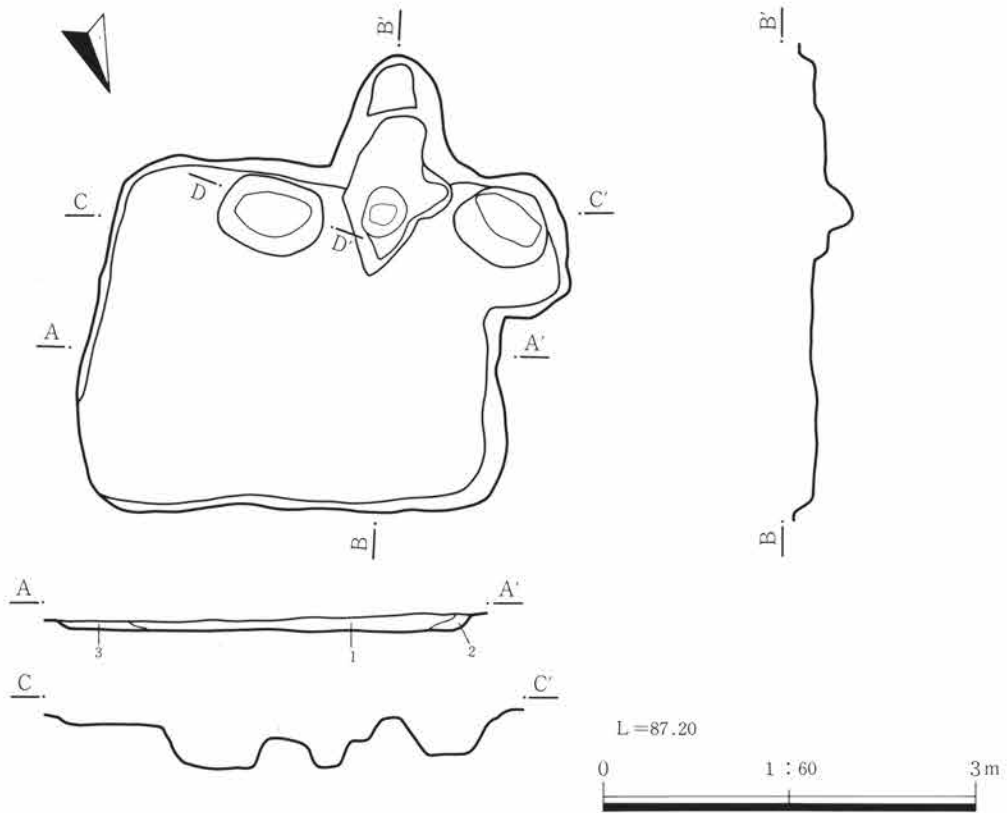
I地区A区77号住居跡 (第474~476図・第138表)

当住居跡は、A区79号住居跡・A区181号土坑と近接するが、重複はない。当住居跡の規模は、東西方向約3.4m・南北方向約2.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。なお西壁には、竈に接して東西約0.6m・南北約1.1mの張り出しが存在する。主軸はN-67°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は悪い。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は東側壁の南東隅に、張り出しに接して築かれている。燃烧部は東西約0.8m・南北約1.3mの範囲を約10cm~30cm掘り凹めている。袖等は検出できなかったが、燃烧部・煙道部から焼土を検出することができた。煙道部は約90cm壁外へ張り出している。柱穴は検出することができなかった。貯蔵穴は、竈の両側に存在する。規模はともに約0.8m×約0.6mで、深さは約20cmである。貯蔵穴内には、焼土・灰が多く含まれていた。

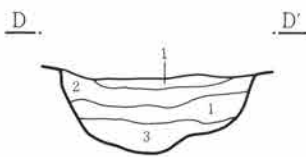
遺物は、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の羽釜、灰釉陶器の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀~10世紀である。(井川)

(1) 竪穴住居跡



I地区A区77号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや多量の焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土 やや多量のローム粒子を含む。

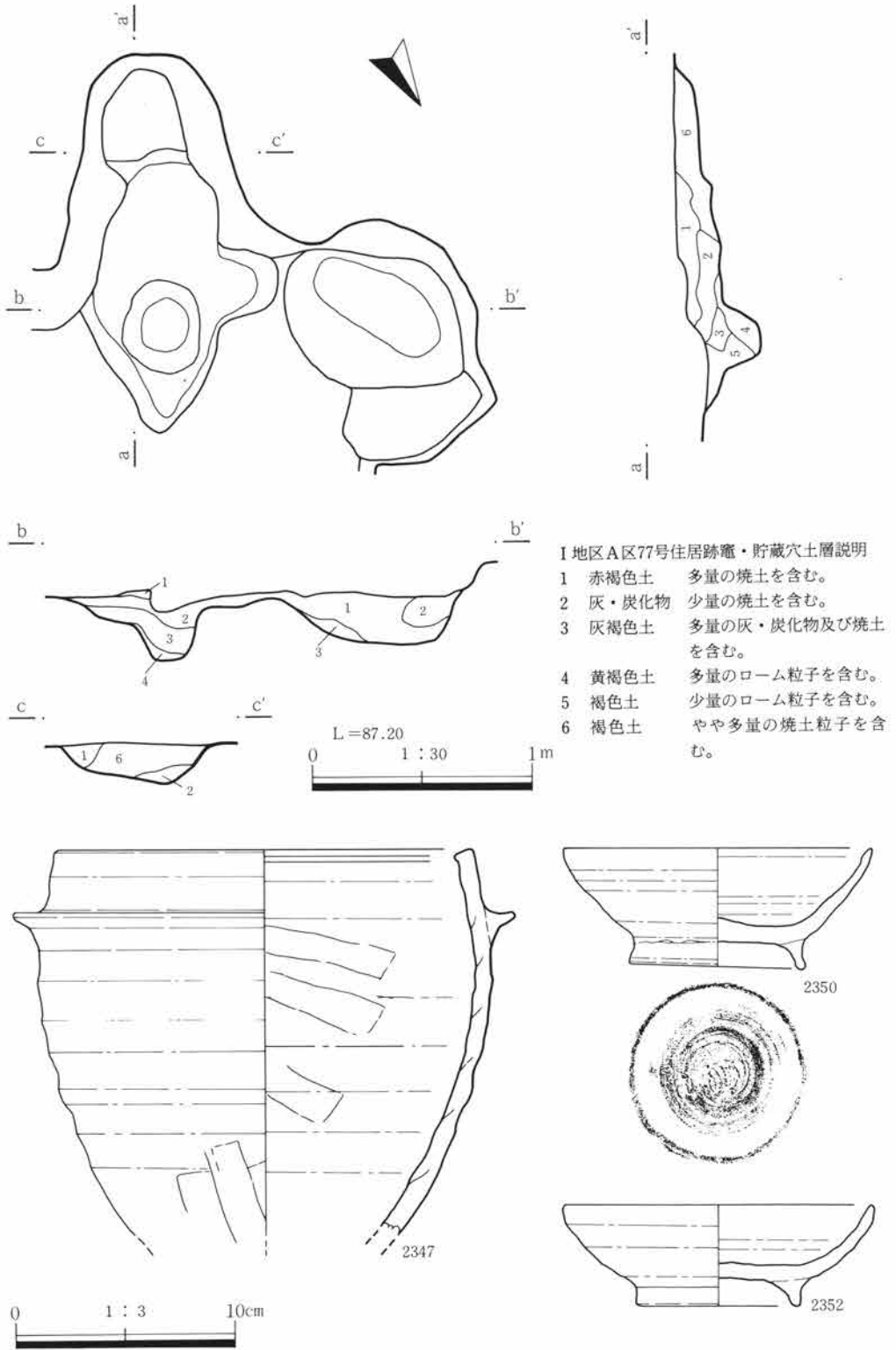


I地区A区77号住居跡貯蔵穴土層説明

- 1 灰褐色土 少量の焼土・炭化物を含む。
- 2 褐色土 多量の焼土を含む。
- 3 灰褐色土 やや多量の炭化物を含む。
- 4 褐色土 ローム粒子を含む。

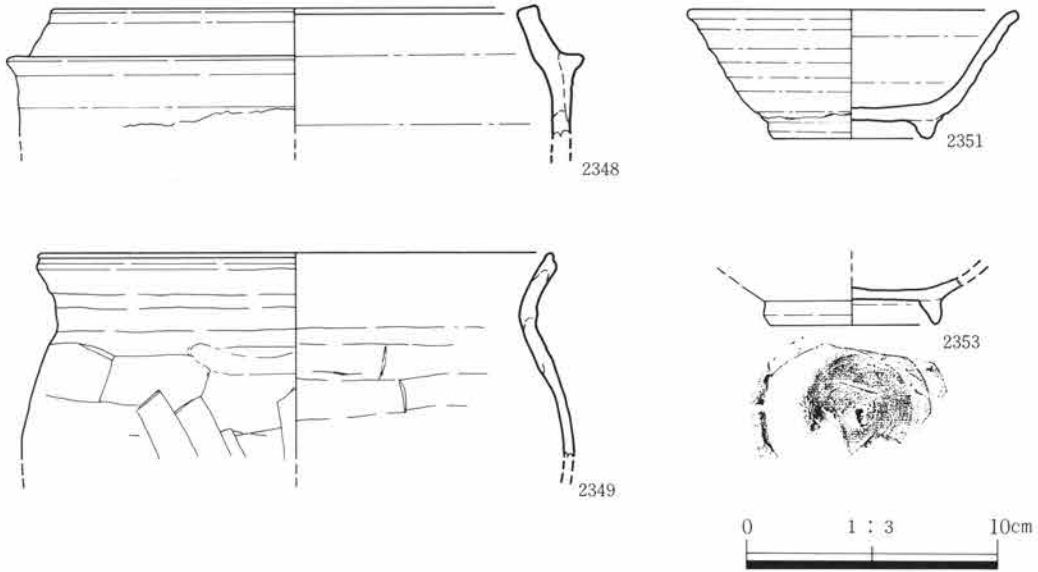


第474図 I地区A区77号住居跡遺構図



第475図 I 地区A区77号住居跡遺構・遺物図

(1) 竪穴住居跡



第476図 I地区A区77号住居跡遺物図

第138表 I地区A区77号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2347	羽釜	器高:(173mm)口径:[190mm]底径:—最大径:[228mm]口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部～体部上端はやや内湾。最大径は銜部。外面:口縁部～銜部は横なで体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	第一貯蔵穴内他。
2348	羽釜	器高:(51mm)口径:[196mm]底径:—最大径:[230mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は内湾。最大径は銜部。外面:口縁部～銜部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。
2349	甕	器高:(81mm)口径:[206mm]底径:—口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで体部は篋なで。	竈前床直。内面に油煙附着。
2350	椀	器高:53mm口径:140mm底径:80mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰黄褐。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	第二貯蔵穴内。内外面に燻しあり。
2351	椀	器高:51mm口径:[132mm]底径:62mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は丁寧な轆轤なで。	第二貯蔵穴内。

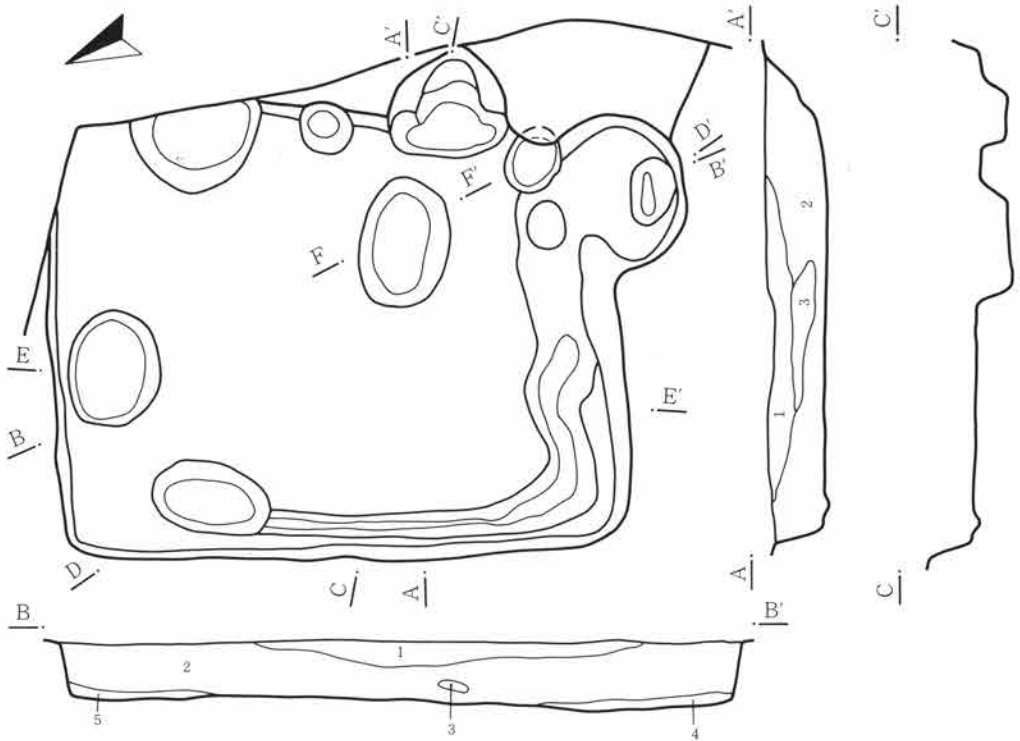
第4章 平安時代の遺構と遺物

2352	椀	器高:46mm口径:[140mm]底径:75mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黒。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内北西隅床直内外面共に全面的に燻しあり。
2353	椀 灰釉陶器	器高:(19mm)口径: 一底径:[70mm]体部 下端～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転篋削り後、高台貼り付け。外面:体部は丁寧な轆轤なで。内面:体部～底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。

I 地区 A 区78号住居跡 (第477～485図、第139表、図版72～75)

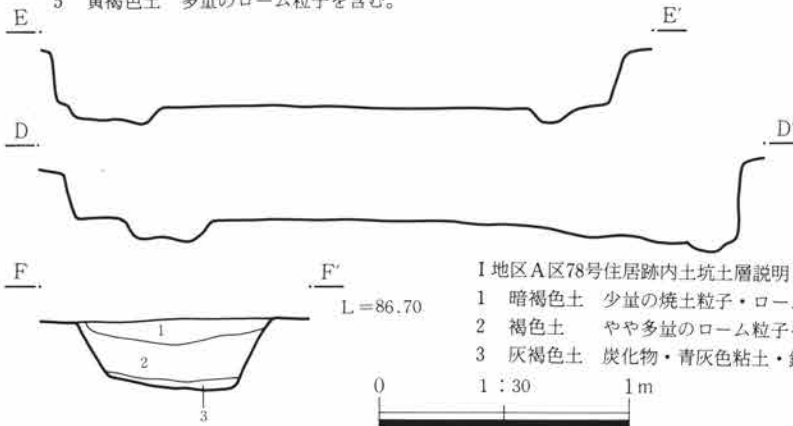
A区南東端の市道路に接して検出された。調査範囲内では直接重複する遺構はないが、北東角は、市道路の水道管設置で壊されている。南北4.4m、東西3.2～3.6mの台形状を基本とし、南東角に1.2×0.6mほどの張り出しがある。軸はN-26°-Eである。床面はほぼ平坦を基本とするが、東壁から南壁に沿っては、上幅0.2～0.4m、深さ5～10cmの溝が壁直下からやや離れてまわっている。この溝の底は南東に向けて低くなっている。又、床の下には、径1～1.2m、深さ0.4mほどの2基の円形土坑及び1.7×1.1×0.4mの長方形土坑を中心とする掘り方があり、これらの上には5～10cmの厚さの貼り床が見られた。竈は東壁の南寄りに位置し、4個の円筒形状河原石が立った状態で燃焼部内で検出されたため、鳥居形の石組骨格を持っていたと思われる。右前方の床面に、掻き出した灰・焼土が堆積していた。前面左右には、径約40cm、深さ10cmほどの円形ピットが2個あるが、性格不明。又、1×0.6～0.8mほどのピットが、竈前・北東角・北西角に計4個見られた。このうち竈前と北東角のものは深さが20～25cmあり、前者の底には厚さ2～4cmで炭化粒子を含む青白色粘土が底全体に敷かれていた。北西角のものは共に深さが10～15cmで、西側のものから溝が始まっている。又、南東角の張り出し部は貯蔵穴と思われ、深さ10cmほどの段状の落ち込みになっている。

遺物は、全体に極めて大量に出土した。竈内からは、酸化の羽釜(2354・2355)、還元の椀(2373)。貯蔵穴内からは、還元の羽釜(2357)、酸化の甕(2361・2362)、還元の杯(2366・2369・2389)、酸化の杯(2370)、酸化の椀(2374・2377・2378・2380・2382・2388・2399)、還元の椀(2375・2390・2397)そして還元の皿(2384)が出土している。竈前のピットの底からは、鉄製品片(2419)が見られ、右脇に浮いて還元の鉢(2364)がある。南西角付近では、床面近くで2ヶ所の焼土散布があり、ほぼ床近くで還元の甕(2358)、還元の杯(2365)、灰釉陶器皿(2404)が出土し、5～15cmほど浮いて還元の杯(2368)、酸化の杯(2371・2392)、灰釉陶器の椀(2407)、土製フイゴ羽口(2414)が出ている。次に北東角のピット付近では、ピットの埋土直上で還元の椀(2372)、10～15cm浮いて酸化の甕(2360)、酸化の椀(2386・2393)が見られた。中央部では、床近くで還元の椀(2367)があり、15～20cm浮いて還元の椀(2385・94)、鉄製刀子片(2418)が出土した。更に北西角付近では、床近くで還元の甕(2356)、灰釉陶器の椀(2408・2410)があり、5～10cm



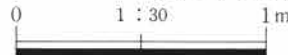
I 地区A区78号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 少量の軽石・炭化物・ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 白色粘土及び少量の軽石・炭化物・ローム粒子を含む。
- 4 灰褐色土 多量の焼土粒子・炭化物・ローム粒子を含む。
- 5 黄褐色土 多量のローム粒子を含む。



I 地区A区78号住居跡内土坑土層説明

- 1 暗褐色土 少量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 やや多量のローム粒子を含む。
- 3 灰褐色土 炭化物・青灰色粘土・鉄滓を含む。



第477図 I 地区A区78号住居跡遺構図(1)

浮いて酸化の椀(2379)、土錘(2416)、更に、15~30cm浮いて酸化の椀(2376)、還元の椀(2381・2383)、灰釉陶器の皿(2403)、土錘(2415)が出ている。又、床下からは、還元の椀(2398・2402)、酸化の椀(2401)、灰釉陶器の椀(2413)、釘状鉄製品(2417)が見られた。又、北西角及び南西

第4章 平安時代の遺構と遺物

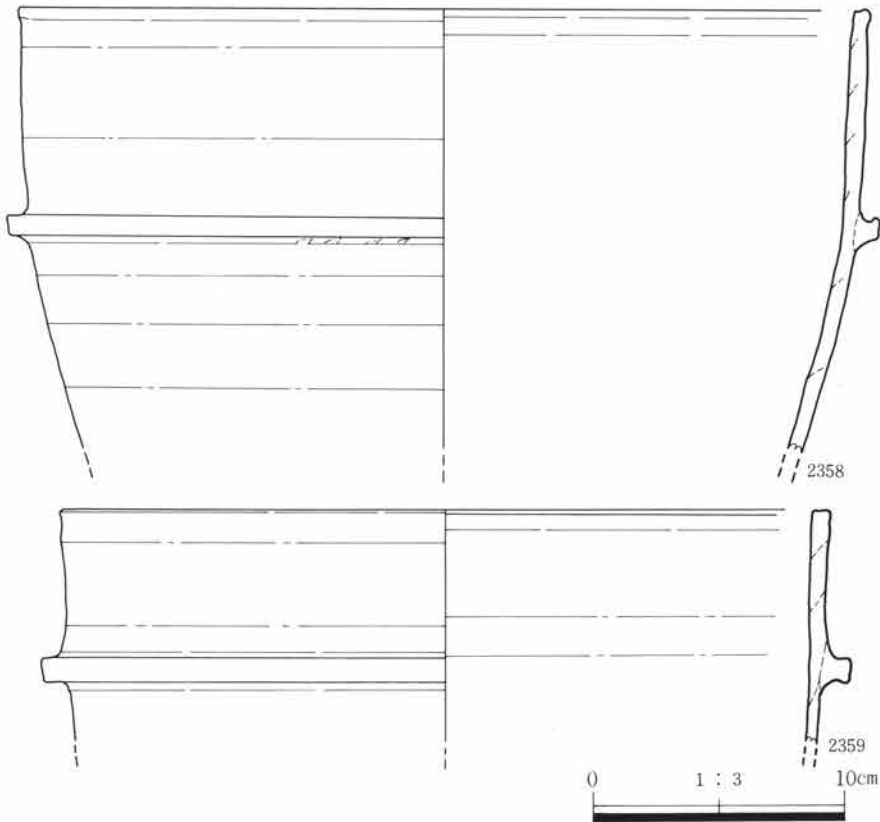
角から礫群が流れ込んでいる。

これらの遺物は、全てが本住居跡の使用時のものとは思われない。特に礫群と共に北西・南西角から流れ込んだものも多いと思われる。ただ貯蔵穴内の遺物は、密着していたものもあるように、廃絶時の原位置からそれほど動いてないように思われる。この貯蔵穴内の遺物のうち供膳形態の土器は、14個体も存在する。この量は、床面積から考えればやや多過ぎる印象もあり、各ピットや溝の存在も併せて考えれば、単純な一家族の居住のみに使われたのではない感がある。ただ小鍛冶住居と考えるには、相当遺物の量が少ない。構築時期は、9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

(坂井)

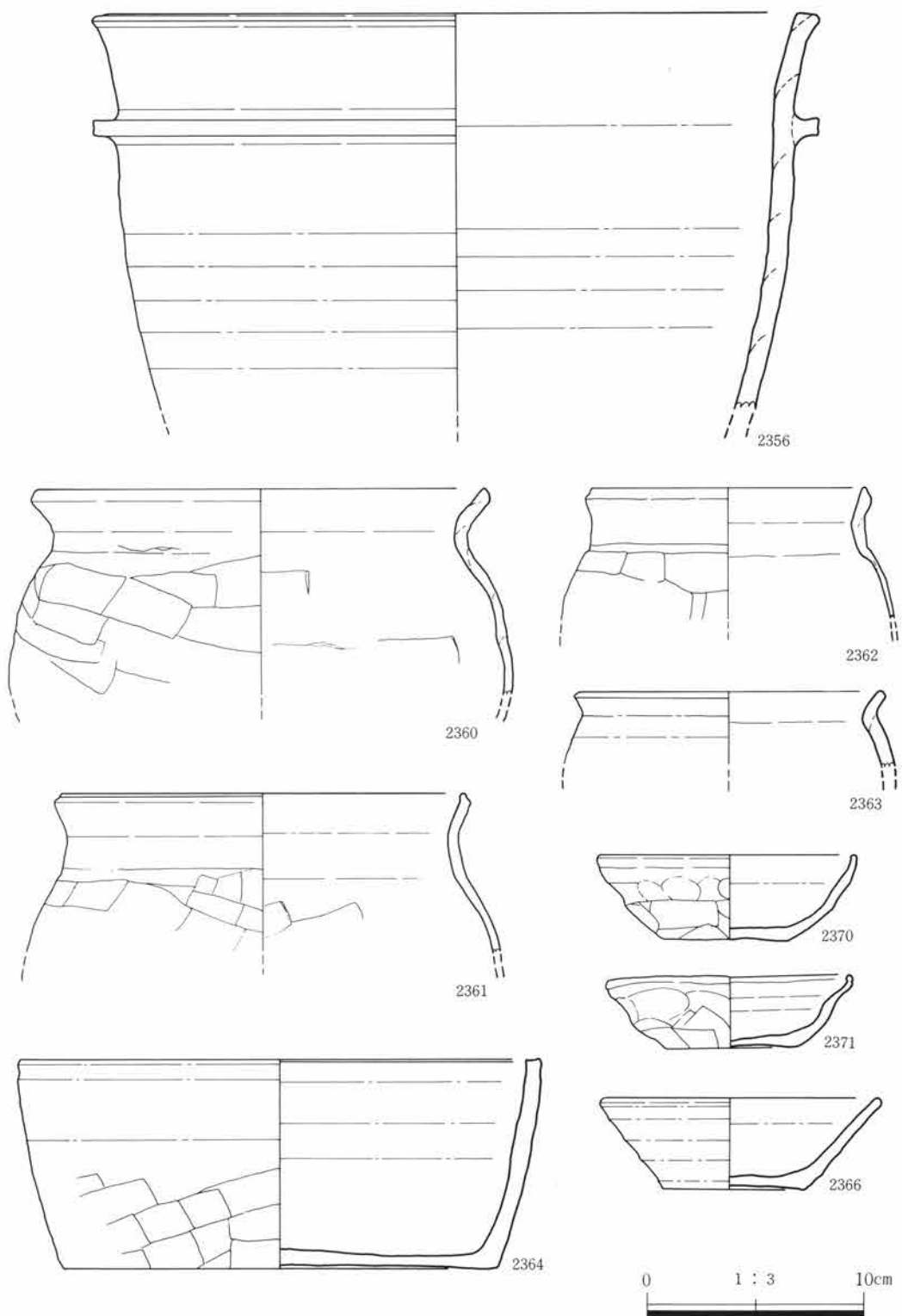


第478図 I 地区A区78号住居跡遺構図(2)

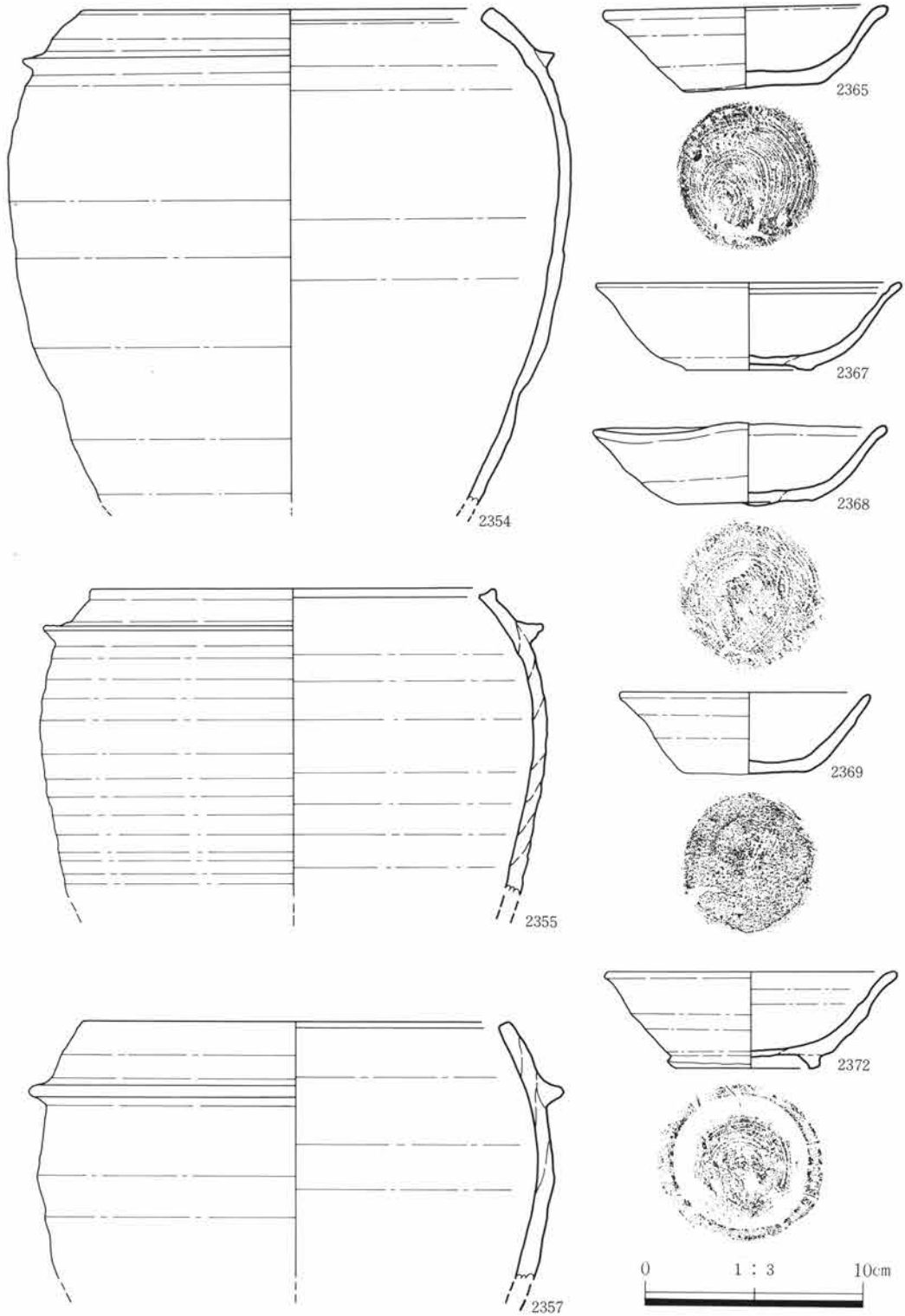


第479図 I 地区A区78号住居跡遺物図(1)

(1) 竖穴住居跡

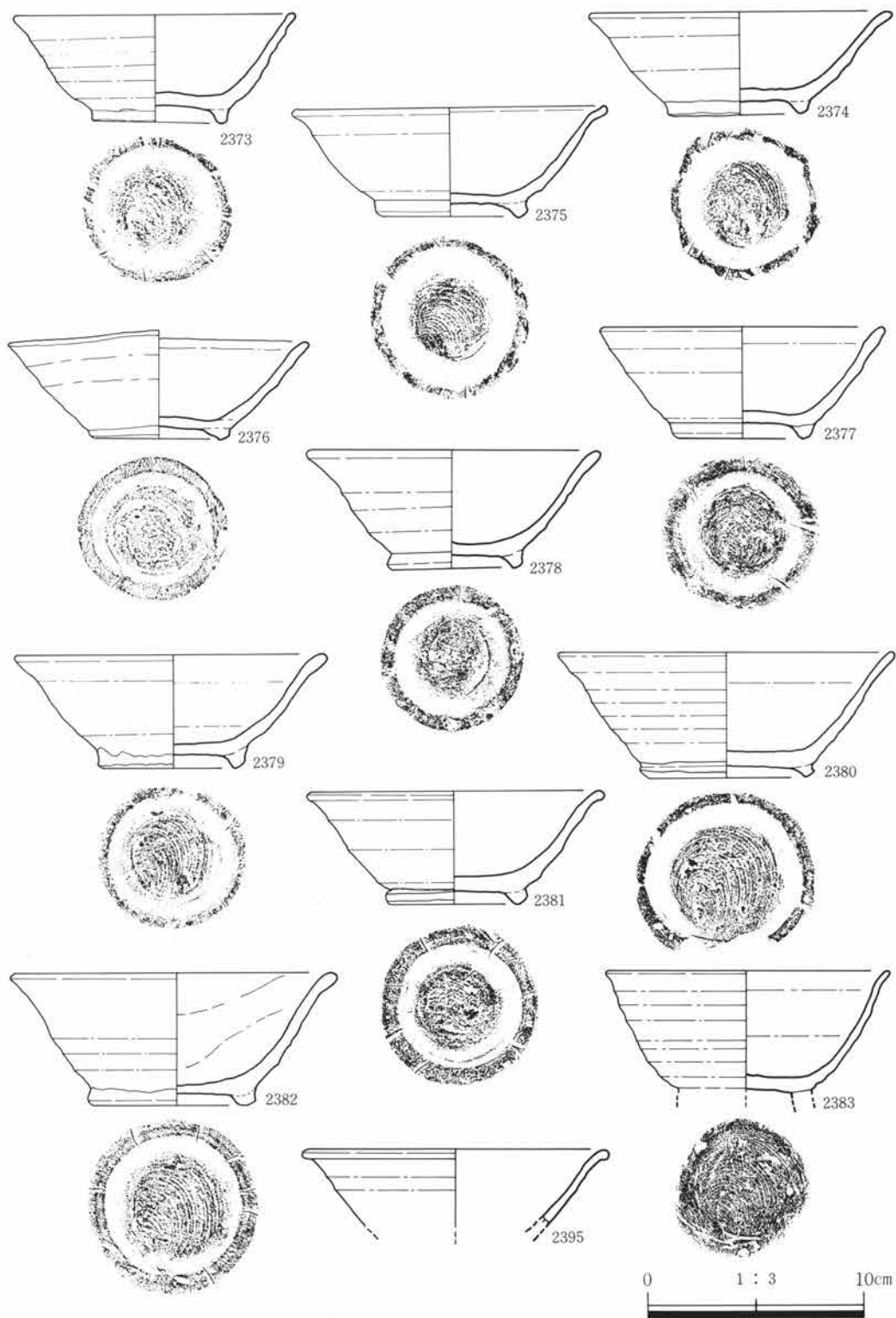


第480图 I地区A区78号住居跡遺物図(2)

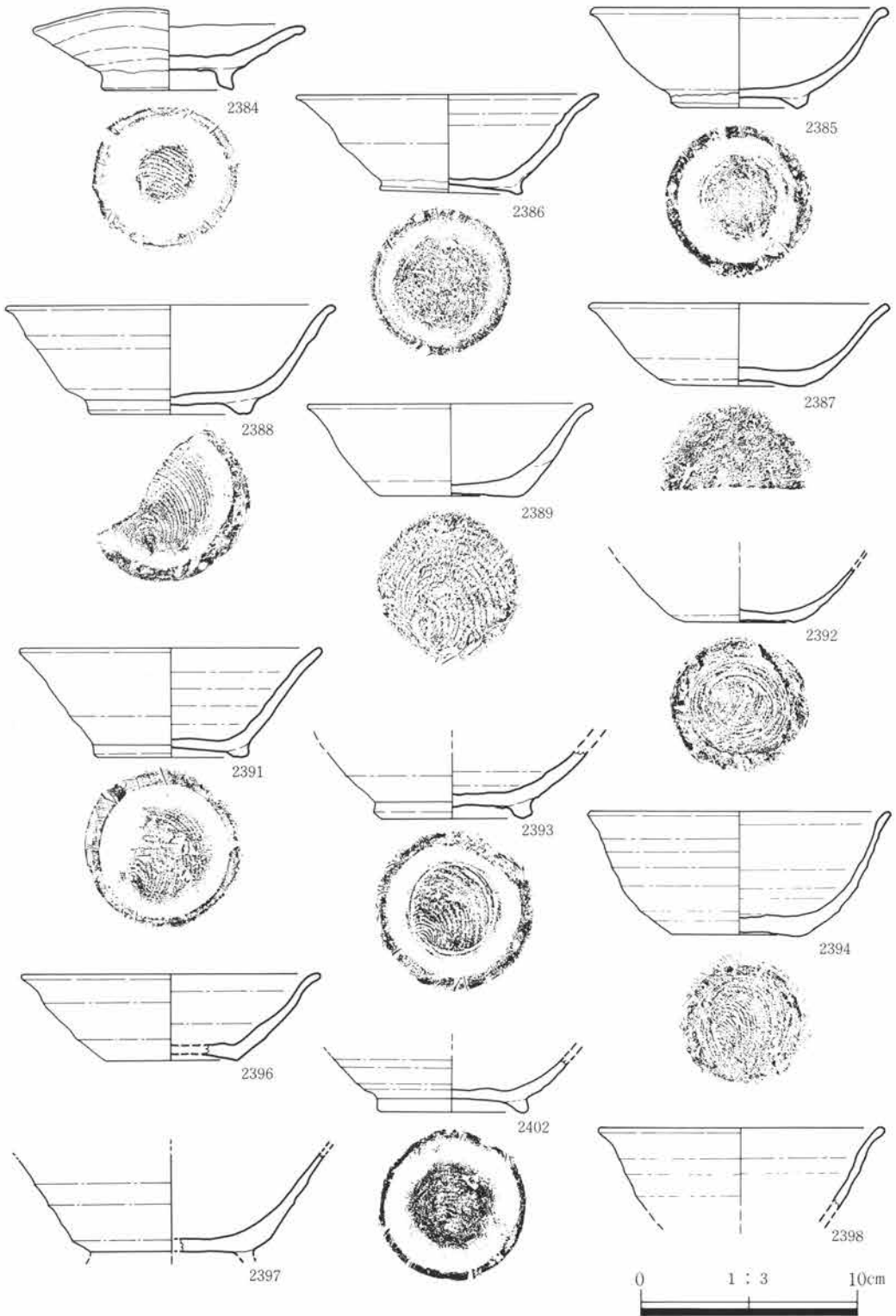


第481図 I地区A区78号住居跡遺物図(3)

(1) 竖穴住居跡

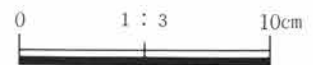
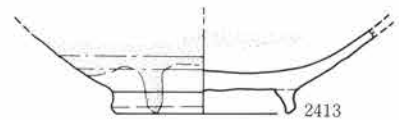
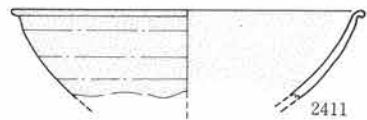
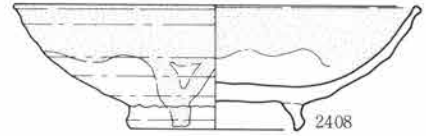
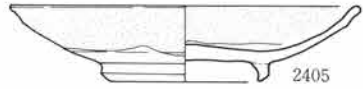
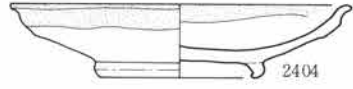
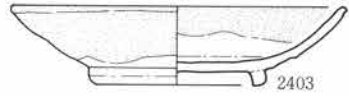
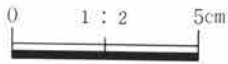
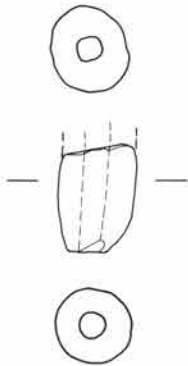
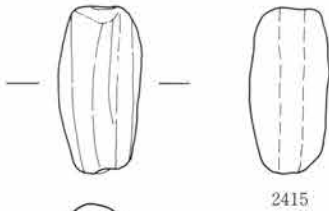
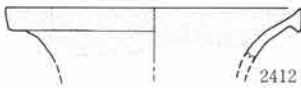
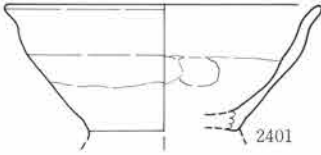
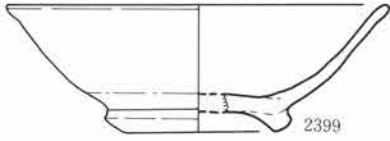


第482图 I地区A区78号住居跡遺物图(4)



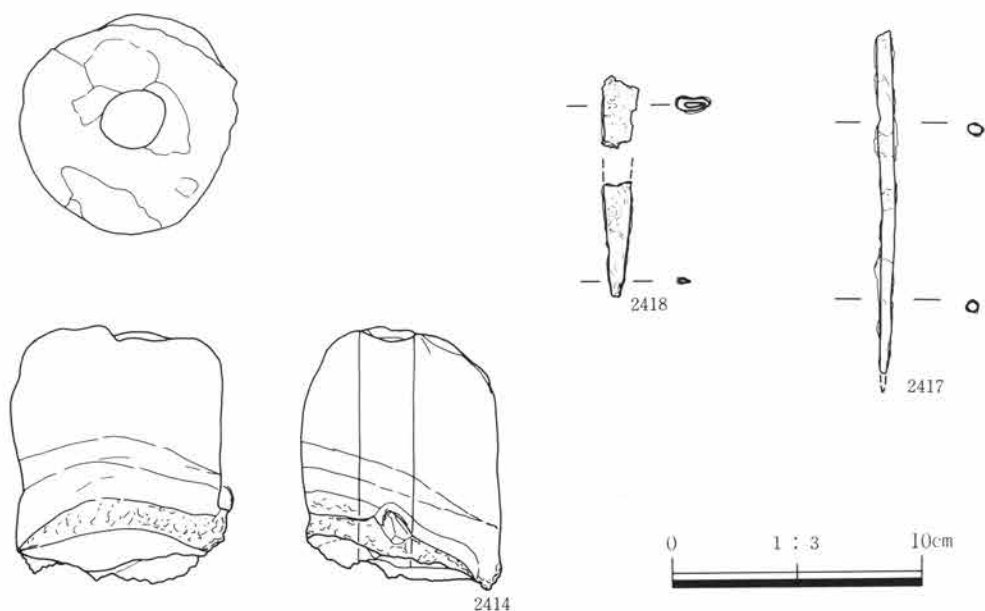
第483図 I地区A区78号住居跡遺物図(5)

(1) 竖穴住居跡



第484图 I地区A区78号住居跡遗物图(6)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第485図 I地区A区78号住居跡遺物図(7)

第139表 I地区A区78号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2354	羽 釜	器高:(227mm)口径: 189mm底径:一最大 径:[259mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。鈍い黄橙。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は 体部上半。外面:口縁部~鈿部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2355	羽 釜	器高:(140mm)口径: [186mm]底径:一最大 径口縁部~体部上 半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。褐灰。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は 体部上半。外面:口縁部~鈿部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。	竈内。
2356	甌	器高:(181mm)口径: [336mm]底径:一最大 径:[336mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部はやや外湾。最大径は口縁 部・鈿部。外面:口縁部~鈿部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで体部は轆轤なで。	住居内北西隅床上 5cm。
2357	羽 釜	器高:(117mm)口径: [196mm]底径:一最大 径:[246mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は 鈿部。外面:口縁部~鈿部は横なで、 体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。	貯蔵穴内。内面に 油煙付着。
2358	甌	器高:(175mm)口径: [340mm]底径:一最大 径:[348mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	最大径は鈿部。内外面共に口縁部 ~体部上半は丁寧な横なで。	住居内南西部床直 外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2359	甌	器高:(92mm)口径: [306mm]底径:一最大 径:[322mm]口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	最大径は頸部。外面:口縁部~頸部は 横なで、体部上端は轆轤なで。内面: 口縁部は横なで、体部上端は轆轤な で。	住居内南東隅床上 10cm。
2360	甌	器高:(95mm)口径: [206mm]底径:一最大 径:[234mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{2}{3}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部は篋削り。内面:口 縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内北東部床直 内外面に油煙付着
2361	甌	器高:(73mm)口径: 187mm底径:一最大 径:一口縁部~体部 上端 $\frac{2}{3}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部は篋削り。内面:口縁部は横 なで、体部は篋なで。	住居内南東部床直 外面に油煙付着。
2362	甌	器高:(60mm)口径: 128mm底径:一口縁部 ~体部上端残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部は篋削り。内面:口縁部は横 なで、体部は篋なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2363	甌	器高:(33mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部は轆轤なで。内面: 口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2364	鉢	器高:96mm口径:[240 mm]底径:[200mm]口 縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部~体部は僅かに内湾。外面:口 縁部は横なで、体部上半はなで、体部 下半~底部は篋削り。内面:口縁部は 横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床直
2365	杯	器高:37mm口径:132 mm底径:64mm完形	直径4~5mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り。外面:口縁部は横なで、体 部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで 体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南西部床直
2366	杯	器高:42mm口径:130 mm底径:65mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	底部は回転糸切り後、篋削り。外面: 口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部は轆 轤なで。	住居内南東部床直
2367	杯	器高:40mm口径: [140]mm底径:59mm口 縁部~底部 $\frac{2}{3}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り。内面口縁部に沈線一 条。外面:口縁部は横なで、体部は轆 轤なで。内面:口縁部は横なで、体部 ~底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面 に燻しあり。
2368	杯	器高:36mm口径:136 mm底径:62mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り。外面:口縁部は横なで 体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は轆轤なで。底部は糸 切り後、粘土を補填。	住居内南西部床上 10mm。内外面に燻 しあり。
2369	杯	器高:37mm口径:116 mm底径:58mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸 切り後、篋削り。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床直

第4章 平安時代の遺構と遺物

2370	杯	器高:39mm口径:120mm 底径:57mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部はやや内湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は指頭痕、体部下半は篋削り。内面:口縁部~体部は横なで、底部はなで。	貯蔵穴内。
2371	杯	器高:32mm口径:114mm 底径:60mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	口縁端部は内湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は指頭痕、体部下半は篋削り。内面:口縁部~体部は横なで、底部はなで。	住居内南西部床上5cm。
2372	椀	器高:44mm口径:135mm 底径:65mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰オリーブ。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北東部床直内外面に燻しあり
2373	椀	器高:50mm口径:131mm 底径:63mm口縁底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。内外面に燻しあり。
2374	椀	器高:48mm口径:141mm 底径:65mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。口縁部はやや外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着
2375	椀	器高:51mm口径:146mm 底径:71mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に燻しあり。
2376	椀	器高:50mm口径:[140mm] 底径:64mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床上20cm。内面に燻しあり。
2377	椀	器高:52mm口径:[131mm] 底径:65mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。外面は燻しあり。
2378	椀	器高:55mm口径:136mm 底径:63mmほぼ完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。
2379	椀	器高:52mm口径:144mm 底径:68mm完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。黄灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床上10cm。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2380	椀	器高:58mm口径:[156mm]底径:80mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に燻しあり。
2381	椀	器高:52mm口径:[138mm]底径:65mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。
2382	椀	器高:61mm口径:150mm底径:78mmほぼ完形	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。明オリープ灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に油煙付着。
2383	椀	器高:(56mm)口径:131mm底径:一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内北東部床上10cm。外面に油煙付着。
2384	皿	器高:38mm口径:126mm底径:62mmほぼ完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。
2385	椀	器高:46mm口径:[137mm]底径:63mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内中央部床上10cm。内外面に燻しあり。
2386	椀	器高:45mm口径:[140mm]底径:66mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質浅黄。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内北東部床上10cm。
2387	杯	器高:38mm口径:[140mm]底径:60mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2388	椀	器高:50mm口径:[152mm]底径:76mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部床上20cm。内外面に燻しあり。
2389	杯	器高:42mm口径:[130mm]底径:64mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は横なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。

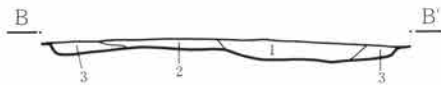
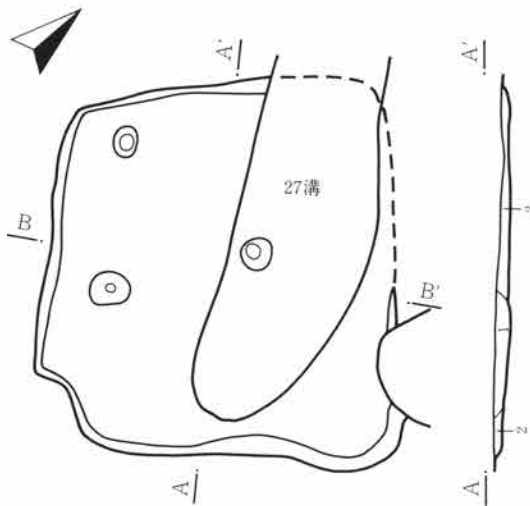
2390	杯	器高:(47mm)口径: [160mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部はなで。	住居内南東部床直
2391	椀	器高:50mm口径:[140 mm]底径:72mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部はなで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部は丁 寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に燻しあり。
2392	杯	器高:(25mm)口径: 一底径:51mm体部下 半~底部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:体部は轆轤なで。内面:体部~底 部は轆轤なで。	住居内南西部隅床 上5cm。内外面に 燻しあり。
2393	椀	器高:(31mm)口径: 一底径:73mm体部下 半~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:体部下半は轆轤な で。内面:体部下半~底部は轆轤な で。	住居内北東部床上 10cm。内面は燻し あり。
2394	椀	器高:(57mm)口径: [140mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床上 10cm。外面に油煙 付着。
2395	杯	器高:(36mm)口径: [142mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外 面共に燻しあり。
2396	杯	器高:40mm口径:[138 mm]底径:[60mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2397	椀	器高:(45mm)口径: 一底径:一底部~底 部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部は轆轤なで。内面:体部 ~底部はなで。	住居内南東部床上 20cm。
2398	杯	器高:(37mm)口径: [132mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2399	椀	器高:50mm口径:[152 mm]底径:[75mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台 貼り付け。外面:口縁部は横なで、体 部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部床直 内外面に油煙付着
2400	杯	器高:41mm口径:[122 mm]底径:[60mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 淡黄。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸 切り後篋削り。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2401	椀	器高:(50mm)口径: [126mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。底部は高台貼り 付け。外面:口縁部は横なで、体部は なで。内面:口縁部は横なで、体部 ~底部はなで、体部に指頭痕を残す。	住居内床下。内外 面に燻しあり。

(1) 竪穴住居跡

2402	椀 灰釉陶器	器高:(25mm)口径: 一底径:69mm 体部 ~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部は轆轤なで。内面:体部 ~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内床下。内外 面に油煙付着。
2403	皿 灰釉陶器	器高:31mm口径:134 mm底径:70mm口縁部 ~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質。 明オリブ灰。	底部は高台貼り付け後、回転篋削り。 外面:口縁部~体部は丁寧な轆轤な で。内面:口縁部~底部は丁寧な轆 轤なで。	住居内北西部床上 10cm。
2404	皿 灰釉陶器	器高:29mm口径:[136 mm]底径:67mm口縁部 ~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁端部は外湾。底部は高台貼り付 け後篋削り。外面:口縁部~底部は 丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~底 部は丁寧な轆轤なで。	住居内南西部床直 内面に重ね焼きの 跡あり。
2405	皿 灰釉陶器	器高:30mm口径:[140 mm]底径:[67mm]口縁 部~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁端部は僅かに外湾。底部は高台 貼り付け後篋削り。外面:口縁部~ 体部は丁寧な轆轤なで。内面:口縁 部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2406	椀 灰釉陶器	器高:41mm口径:[140 mm]底径:70mm口縁部 ~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は高台貼り付け後、篋削り。外 面:口縁部は丁寧な轆轤なで、体部 は篋削り。内面:口縁部~底部は 丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内面 に重ね焼きの跡あ り。
2407	椀 灰釉陶器	器高:43mm口径:[130 mm]底径:71mm口縁部 ~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は高台貼り付け後、回転なで。外 面:口縁部~体部は丁寧な轆轤なで、 一部に篋なで。内面:口縁部~底部 は丁寧な轆轤なで。	住居内南西部床上 10cm。内面に重ね 焼きの跡あり。
2408	椀 灰釉陶器	器高:49mm口径:[162 mm]底径:71mm口縁部 ~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は高台貼り付け後、篋削り。外 面:口縁部~体部上半は丁寧な轆轤 なで、体部下半は回転篋削り。内 面:口縁部~底部は丁寧な轆轤な で。	住居内北西部床直
2409	椀 灰釉陶器	器高:48mm口径:[164 mm]底径:[84mm]口縁 部~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁端部はやや外湾。底部は高台貼 り付け後、回転篋削り。外面:口縁 部~体部は丁寧な轆轤なで。内面: 口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内面 に重ね焼きの跡あ り。
2410	椀 灰釉陶器	器高:(32mm)口径: [152mm]底径:一口縁 部~体部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部 ~体部上半は丁寧な轆轤なで、体部 下半は篋削り。内面:口縁部~体部 は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床直
2411	椀 灰釉陶器	器高:(35mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁端部は外湾。外面:口縁部~体部 は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~ 体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2412	瓶 灰釉陶器	器高:(22mm)口径: [118mm]底径:一口縁 部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁部は大きく外湾し、端部に外縁 帯を持つ。内外面共に口縁部は丁寧 な轆轤なで。	住居内覆土。
2413	椀 灰釉陶器	器高:(34mm)口径: 一底径:[74mm]体部 下半~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は高台貼り付け後、篋削り。外 面:体部下半は篋削り。内面:体部下 半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北東部床直 内面に重ね焼きの 跡あり。

第4章 平安時代の遺構と遺物

2414	羽 口	長さ:(93mm)先端部直径:82mm 鞆側直径84mm 孔径:27mm	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質淡黄。	外形・口形共に不整形。鞆側先端部にはガラス質の滓が溶着しており、その付近は灰色に還元されている。全体的な形は円筒形。	住居内南西部床上15cm。
2415	土 錘	長さ:44mm 直径:21mm 孔径:6mm	砂粒を含む。酸化。硬質。灰褐。	棒状。両端が細くなる。外面は篋削り	住居内北西部床上10cm。
2416	土 錘	長さ:(28mm) 直径:20mm 孔径:6mm	砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	棒状。先端は細くなる。	住居内北西部床上5cm。
2417	鉄 鏃?	長さ:(134mm) 厚さ:6~3mm		断面は不整形。片端が細くなる。	住居内床下。
2418	刀 子	長さ:(67mm) 幅:14~3mm 厚さ:4mm		刀子の一部。	住居内覆土。



I 地区A区79号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。(23溝覆土)
- 2 暗褐色土 やや多量のローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 多量のローム粒子・ロームブロックを含む。



第486図 I 地区A区79号住居跡遺構図

I 地区A区79号住居跡(第486・487

図、第140表、図版75)

当住居跡は、A区27号溝跡・A区182土坑と重複する。A区27号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区182土坑との新旧関係も、同土坑が当住居跡の壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

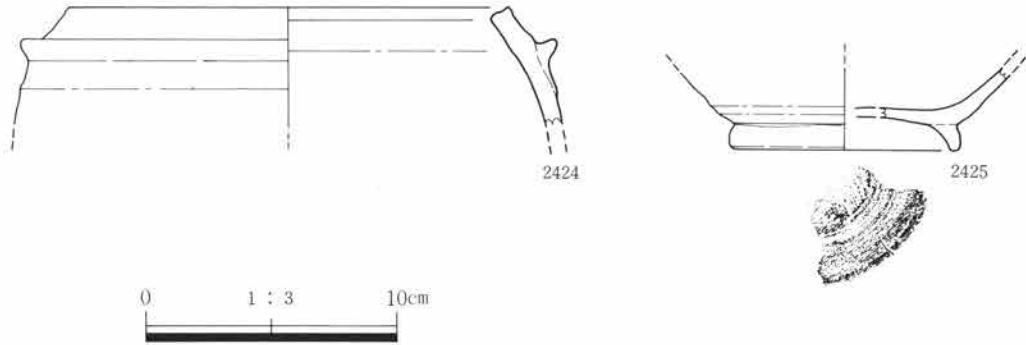
当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約2.8mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-45°-Wである。確認面からの壁の立ち上がりは、約5cmであり、残存状態は非常に悪い。床面は比較的堅いが、やや凹凸が多い。

当住居跡内の中央部~北西部にかけて3期のピットが確認できた。ピットの規模は、直径約20~30cm・床面からの深さ30~50cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴とするには、住居跡内の位置に難が残る。竈・貯蔵穴・壁溝は

(1) 竪穴住居跡

確認できなかった。

遺物は羽釜、酸化焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)



第487図 I地区A区79号住居跡遺物図

第140表 I地区A区79号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2424	羽釜	器高:(47mm)口径:[176mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{10}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部~体部上端は内湾。外面:口縁部は横なで、銚部~体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。
2425	椀	器高:(33mm)口径:一底径:[92mm]体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

I地区A区80号住居跡(第488~490図、第141表、図版76)

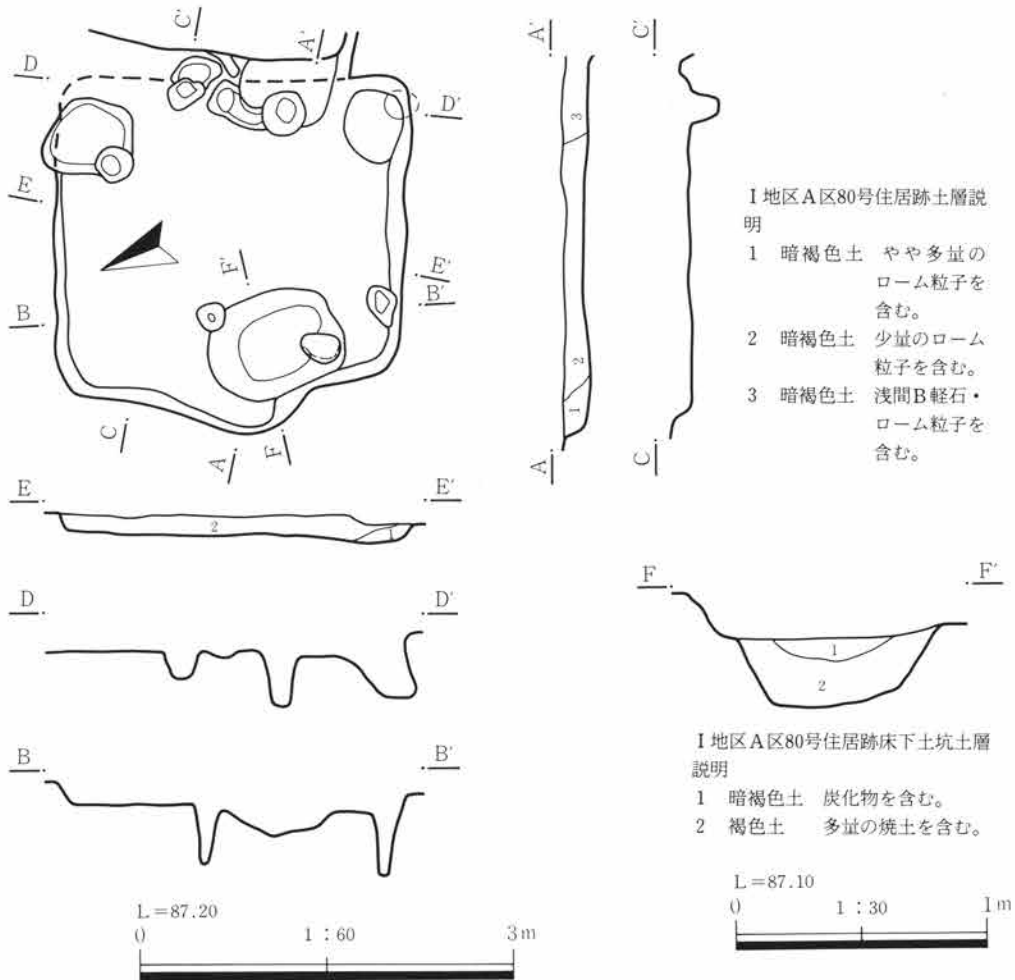
当住居跡は、A区186土坑・A区187土坑と重複する。A区186土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の壁・床・竈を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。A区187土坑との新旧関係も、同土坑が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.8m・南北方向約2.7mであり、平面形は隅丸方形を呈する。南側の壁が膨らんでいるが、攪乱のためである。主軸はN-20°-Eである。確認面からの壁の立ち上がりは約20~25cmであるが、土坑等に破壊されており、残存状態は悪い。床面はやや軟弱であ

り、やや凹凸が多い。

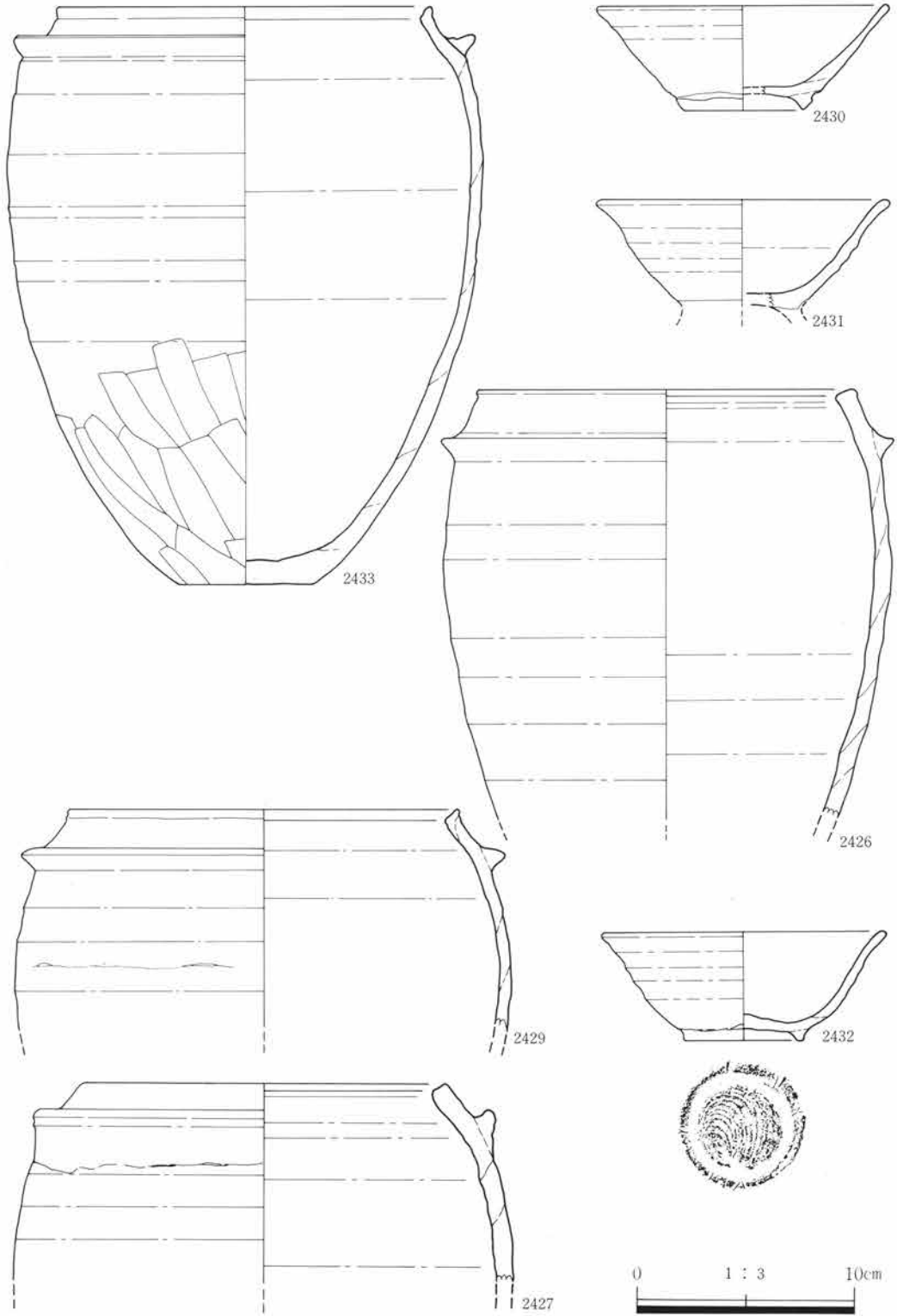
竈は、東側壁に築かれているが、大部分がA区186土坑に破壊されており、僅かに焼土が確認できただけである。住居内南東部隅からは、ピットが検出できた。ピットの規模は長軸約60cm・短軸約50cm・床面からの深さ約30cmであり、ピットの覆土には焼土が混入していた。貯蔵穴と考えている。その他、床面からは6基の小ピットが検出できたが、柱穴と考えるには、位置等から難が残る。住居内南西部分からは、床下土坑が検出できた。規模は長辺約100cm・短辺約80cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。土坑覆土には焼土が混入していた。壁溝は確認できなかった。

遺物は羽釜、甑、酸化焼成の椀などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

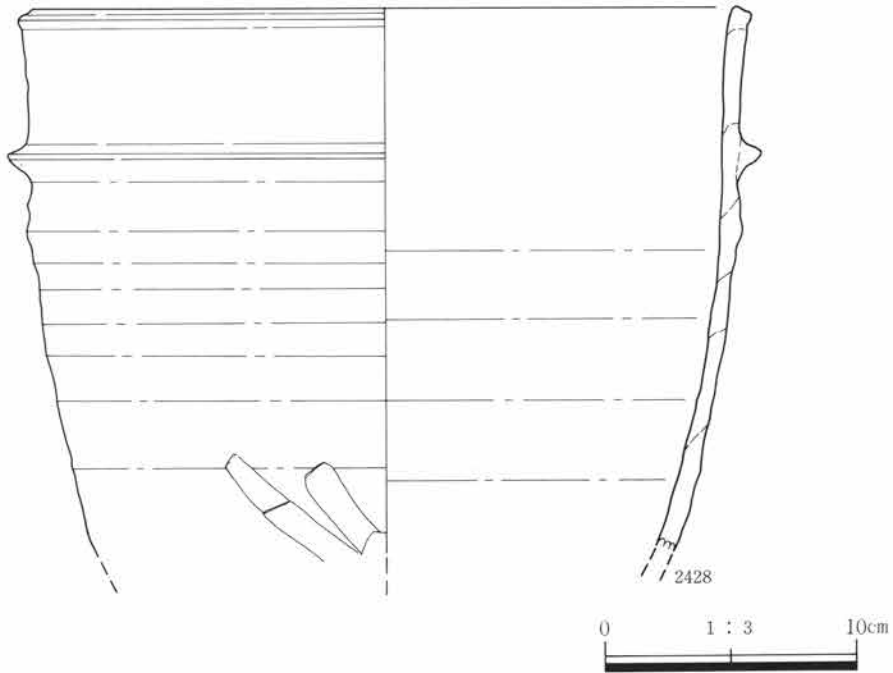


第488図 I地区A区80号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡



第489图 I地区A区80号住居跡遗物图(1)



第490図 I地区A区80号住居跡遺物図(2)

第141表 I地区A区80号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2426	羽 釜	器高:(196mm)口径:[176mm]底径:一最大径:[209mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。灰褐色。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は銚部。外面:口縁部~銚部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。
2427	羽 釜	器高:(90mm)口径:[168mm]底径:一最大径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。鈍い赤褐色。	口縁部~体部上半は内湾。外面:口縁部~銚部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。
2428	甔	器高:(216mm)口径:[280mm]底径:一最大径:[300mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。暗灰。	口縁部は僅かに外湾。最大径は銚部。外面:口縁部~銚部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後寛削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に多量の油煙附着。
2429	羽 釜	器高:(102mm)口径:[180mm]底径:一最大径:[230mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐色。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は体部上半。外面:口縁部~銚部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。内面燻しあり。

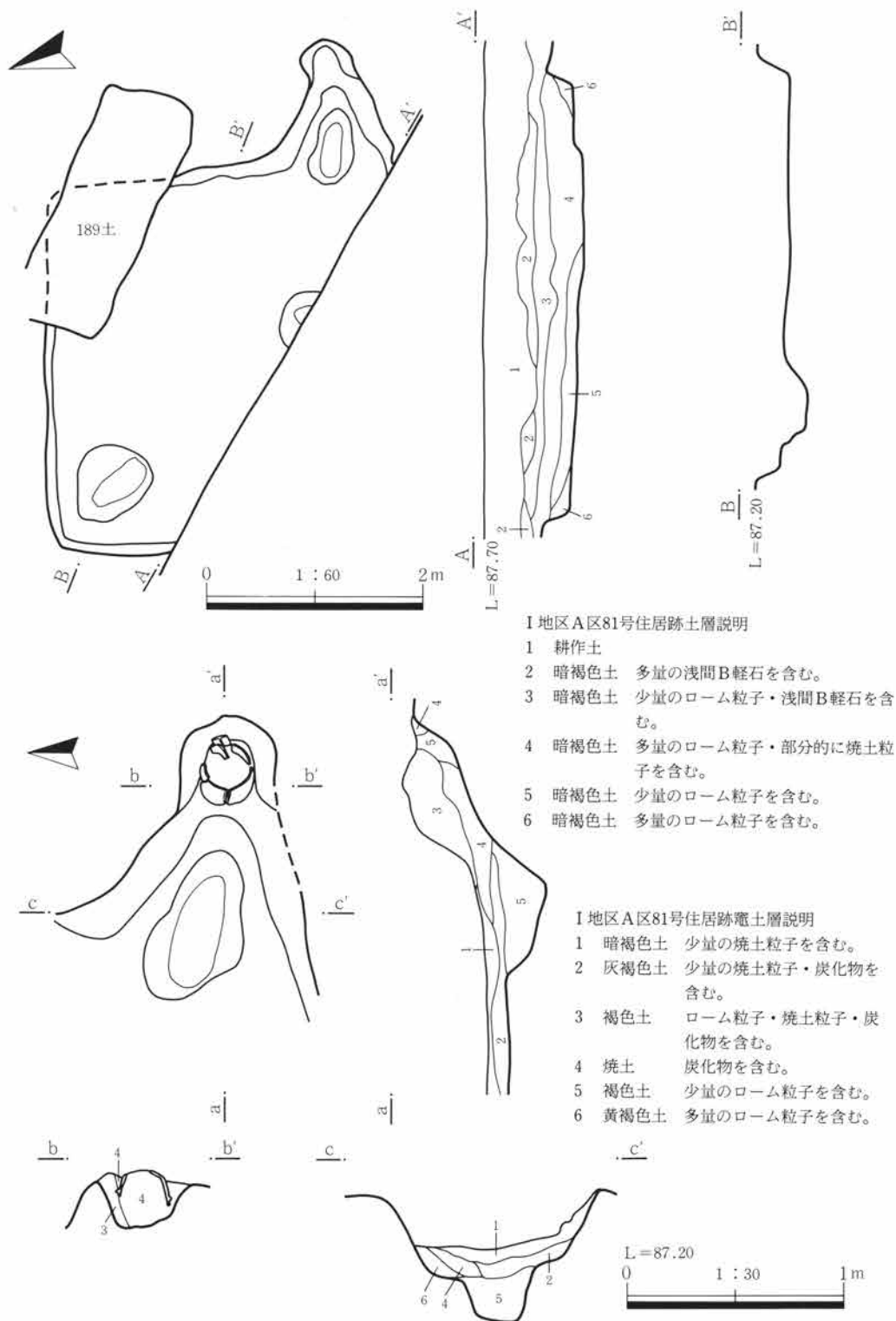
(1) 竪穴住居跡

2430	椀	器高:48mm口径:[134mm]底径:[55mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内覆土。外面に油煙付着。
2431	椀	器高:(50mm)口径:[136mm]底径:一口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。淡橙。	口縁端部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内床下。二次焼成を受けている内外面に油煙付着
2432	椀	器高:50mm口径:[132mm]底径:55mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に油煙付着。
2433	羽釜	器高:266mm口径:[173mm]底径:[63mm]最大径:[220mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は体部上半。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後窠削り、底部は窠削り。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に油煙付着。

I 地区A区81号住居跡 (第491~493図、第142表、図版76)

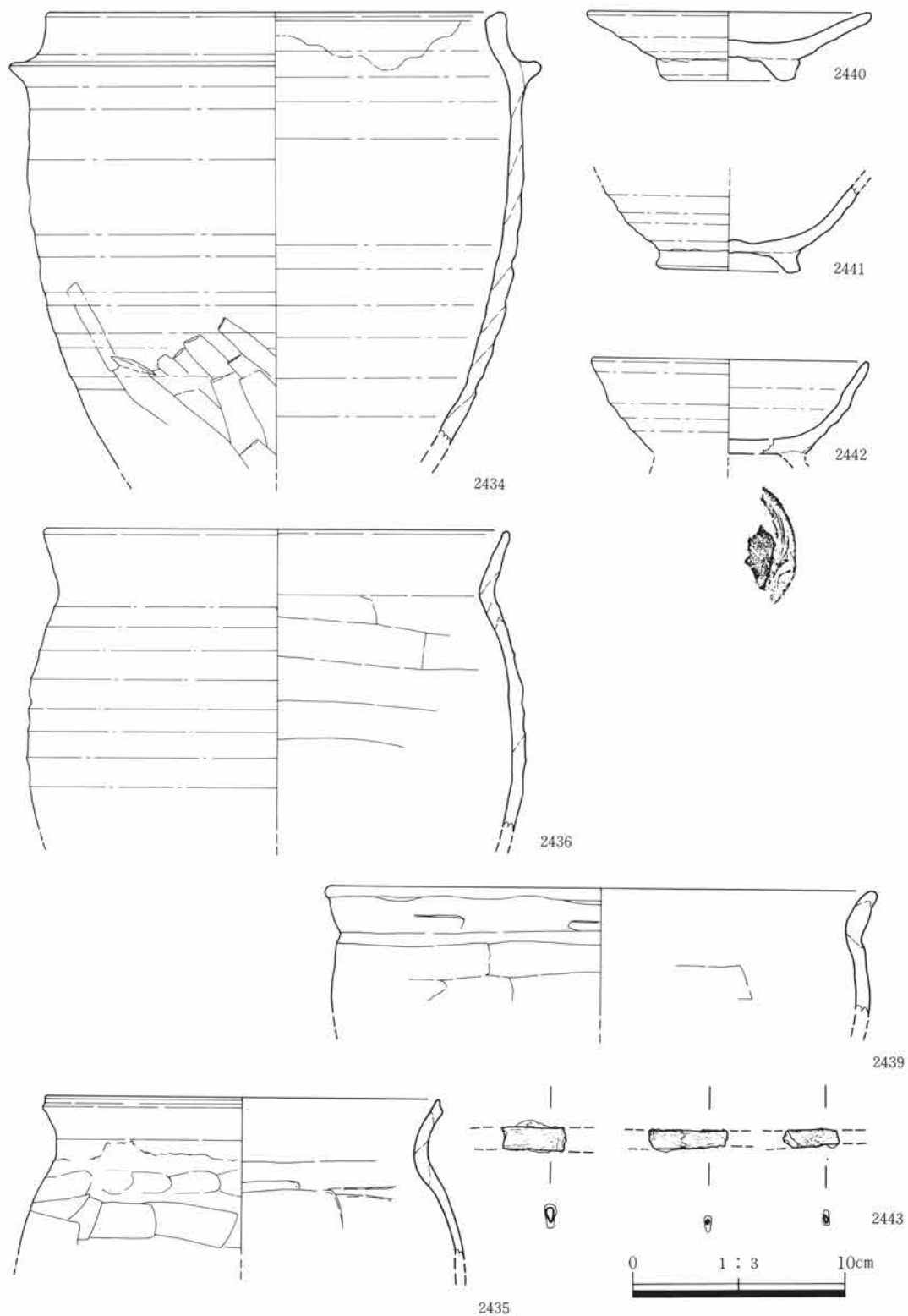
II地区7区5号墳の北西側周溝に接して検出された。北東角を189・197号土坑に東側を198号土坑に切られており、南西側半分は調査範囲外となる。主軸方向の長さは約3.3mで、方向はN-116°-Eである。床面はほぼ平坦で、北西角附近に0.8×0.7×0.2mほどの皿状落ち込みがあり、又、中央部には径0.5m、深さ5cmの浅い落ち込みが半分検出された。共にこの範囲では柱穴とは考えられない。竈は東壁に位置し、1m以上三角形形状に壁外に張り出している。前面の床は、他の部分より10cm弱ほど高いが、床側に特別な構造痕はなかった。

遺物は、ほとんど竈に集中して見られた。酸化の羽釜(2434)は、煙道部に斜め倒立で検出された。廃棄後の転用で煙道のアーチとして使った状態である。酸化の甕(2435・2436)と還元の甕(2438・2439)は、燃焼部内から出土している。又、竈左前面では、床面直上で還元の椀(2441・2442)が見られ、やや浮いて酸化の皿(2440)があった。構築時期は、10世紀後半頃と考えられる。(坂井)



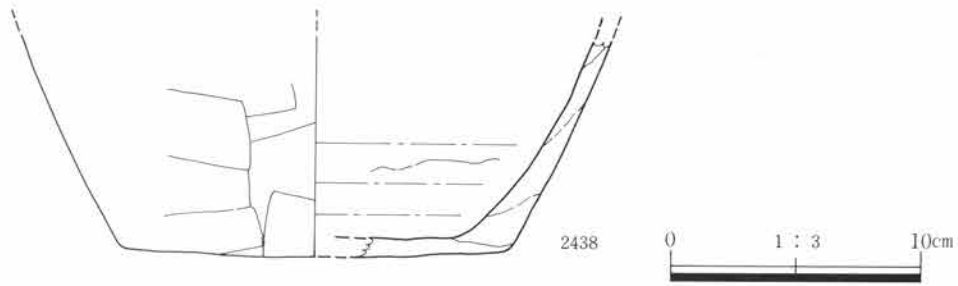
第491図 I 地区A区81号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡



第492图 I地区A区81号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第493図 I地区A区81号住居跡遺物図(2)

第142表 I地区A区81号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2434	羽釜	器高:(202mm)口径:216mm底径:一最大径:250mm口縁部~体部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐色。	口縁部は内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部~鑿部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2435	甕土師器	器高:(75mm)口径:[186mm]底径:一口縁部~体部上半残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上端に指頭痕、体部は篋削り内面:口縁部は横なで、体部は篋なで	竈内。内外面に油煙付着。
2436	甕	器高:(141mm)口径:[220mm]底径:一最大径:[235mm]口縁部~体部上半残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2438	瓶	器高:(86mm)口径:一底径:[156mm]体部下半~底部残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	外面:体部下半は篋削り、底部は篋なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	竈内。
2439	甕	器高:(59mm)口径:[260mm]底径:一口縁部~体部上端残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。
2440	皿	器高:32mm口径:[134mm]底径:63mm口縁部~高台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐色。	底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈前床直。内面に燻しあり。
2441	椀	器高:(42mm)口径:一底径:68mm体部~高台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内北東部床直
2442	椀	器高:(44mm)口径:[130mm]底径:一口縁部~底部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北東部床直

2443	刀子	長さ:30・36・26mm 幅:10~7mm厚さ:5 ~3mm			
------	----	---------------------------------------	--	--	--

I 地区 A区82号住居跡 (第494~497図、第143表、図版77・79)

当住居跡は、A区84号住居跡・A区85号住居跡・A区6号方形周溝墓と重複する。A区84号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈がA区84号住居跡の壁・床・竈を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区85号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈の焼土が、当住居跡の床上で確認できたことから、当住居跡の方が古い。A区6号方形周溝墓との新旧関係は、同方形周溝墓の周溝覆土中に、当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.6m・南北方向約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-2°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは約20~30cmであり、比較的良好であるが、南西部分はA区85号住居跡に破壊されている。床面はやや軟弱な面もあるが、竈前を中心に堅く、ほぼ平坦である。

竈は東側壁のやや南寄りに築かれている。竈は良好な残存状態で検出できた。袖は褐色粘質土で築かれており、先端部分は河原石で固めてあった。燃焼部分の上には、奥の天井石が置かれたままであったが、手前の天井石は、竈の前に落ちており、割れていた。又、天井石の中間に当たると考えられる燃焼部には、支脚石が地山に埋め込まれたままで検出できた。煙道部の壁外への張り出しは約50cmであり、燃焼部・煙道部からは、多量の焼土・灰が確認できた。壁溝・柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物の出土は竈内・竈の周辺に集中しており、酸化焼成の甕・台付甕・羽釜・椀・杯、還元焼成の椀・杯、灰釉陶器の椀などが出土している。出土量は多い。周辺の遺構との関係、遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

I 地区 A区84号住居跡 (第494・495・498図、第144表、図版77・80)

当住居跡は、A区82号住居跡・A区85号住居跡・A区6号方形周溝墓・A区220土坑と重複する。A区82号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈がA区82号住居跡の壁・床・竈に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。A区85号住居跡との新旧関係は、直接には確認できないが、A区82号住居跡とA区85号住居跡との新旧関係により、当住居跡の方が古い。A区6号方形周溝墓との新旧関係は、同方形周溝墓の周溝覆土中に、当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区220土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の壁・床を破

壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分がA区82号住居跡に破壊されていることから不明であるが、東西方向は約3.0m・南北方向約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN—9°—Wである。確認面までの壁の立ち上がりは約20cmであり、残存状態は悪い。床はやや軟弱であるが、比較的平坦である。

竈は、東側壁に築かれている。A区82号住居跡に破壊されており、袖等は確認できなかったが、長く伸びた煙道部に焼土・炭化物の堆積・及び構築材に使用されたと考えられる河原石が検出できた。煙道部の壁外への張り出しは約1.2mであり、壁に対して斜めである。又、当住居跡の南東部隅は、張り出しており、その部分には焼土を含んだ土の堆積が確認できた。竈作り替えの可能性が考えられる。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は酸化焼成の甕・椀・杯、還元焼成の椀・杯が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半から10世紀前半である。(井川)

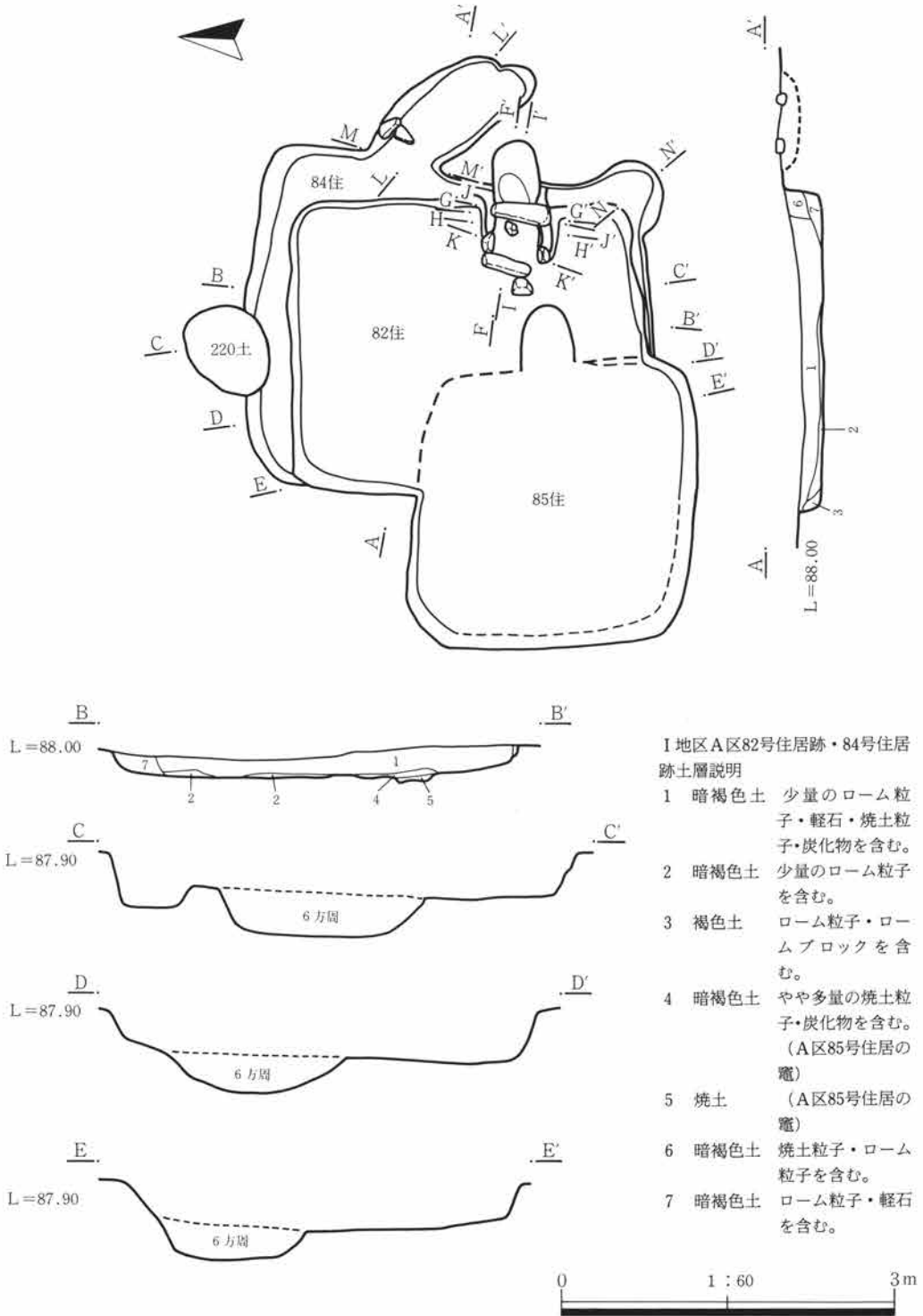
I 地区 A区85号住居跡 (第494・499・500図、第145表、図版77)

当住居跡は、A区82号住居跡・A区84号住居跡・A区6号方形周溝墓と重複する。A区82号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈の一部である焼土が、A区82号住居跡床上から確認されたことにより、当住居跡の方が新しい。A区84号住居跡との新旧関係は、直接には確認できないが、A区82号住居跡とA区84号住居跡との新旧関係により、当住居跡の方が新しい。A区6号方形周溝墓との新旧関係は、同方形周溝墓の周溝覆土中に、当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.6m・南北方向約2.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN—7°—Eである。確認面までの壁の立ち上がりは約25～30cmであるが、A区82号住居跡との重複部分は確認できなかった。床面はやや軟弱であるが、比較的平坦である。

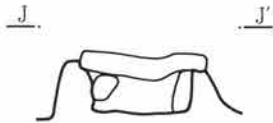
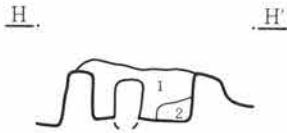
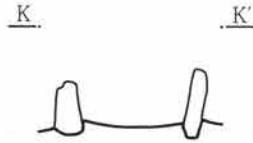
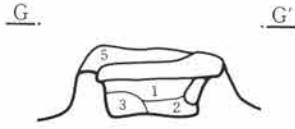
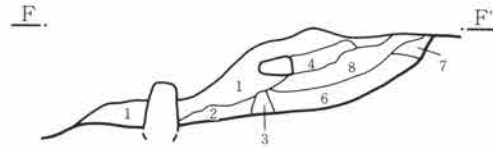
竈は、東側壁に築かれているが、袖等は確認できず、僅かに、焼土・炭化物の堆積が確認できただけである。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。遺物は、酸化焼成の甕・台付甕、還元焼成の椀・杯緑釉陶器の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。(井川)

(1) 竪穴住居跡



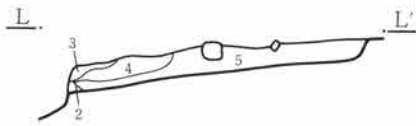
第494図 I 地区A区82・84・85号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物



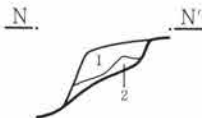
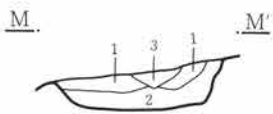
I地区A区82号住居跡遺土層説明 (F-F'~H-H')

- 1 暗褐色土 焼土粒子・灰・ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 多量の焼土粒子を含む。
- 3 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 4 焼土 暗褐色土粒子・炭化物・ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 軽石・ローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土・焼土ブロック・炭化物の混合
- 7 暗褐色土 多量の焼土粒子及びローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子・軽石を含む。



I地区A区84号住居跡遺土層説明 (L-L'・M-M')

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 やや多量の焼土粒子及びローム粒子を含む。
- 3 焼土
- 4 暗褐色土 やや多量の焼土粒子・灰を含む。
- 5 焼土粒子・焼土ブロック・暗褐色土の混合



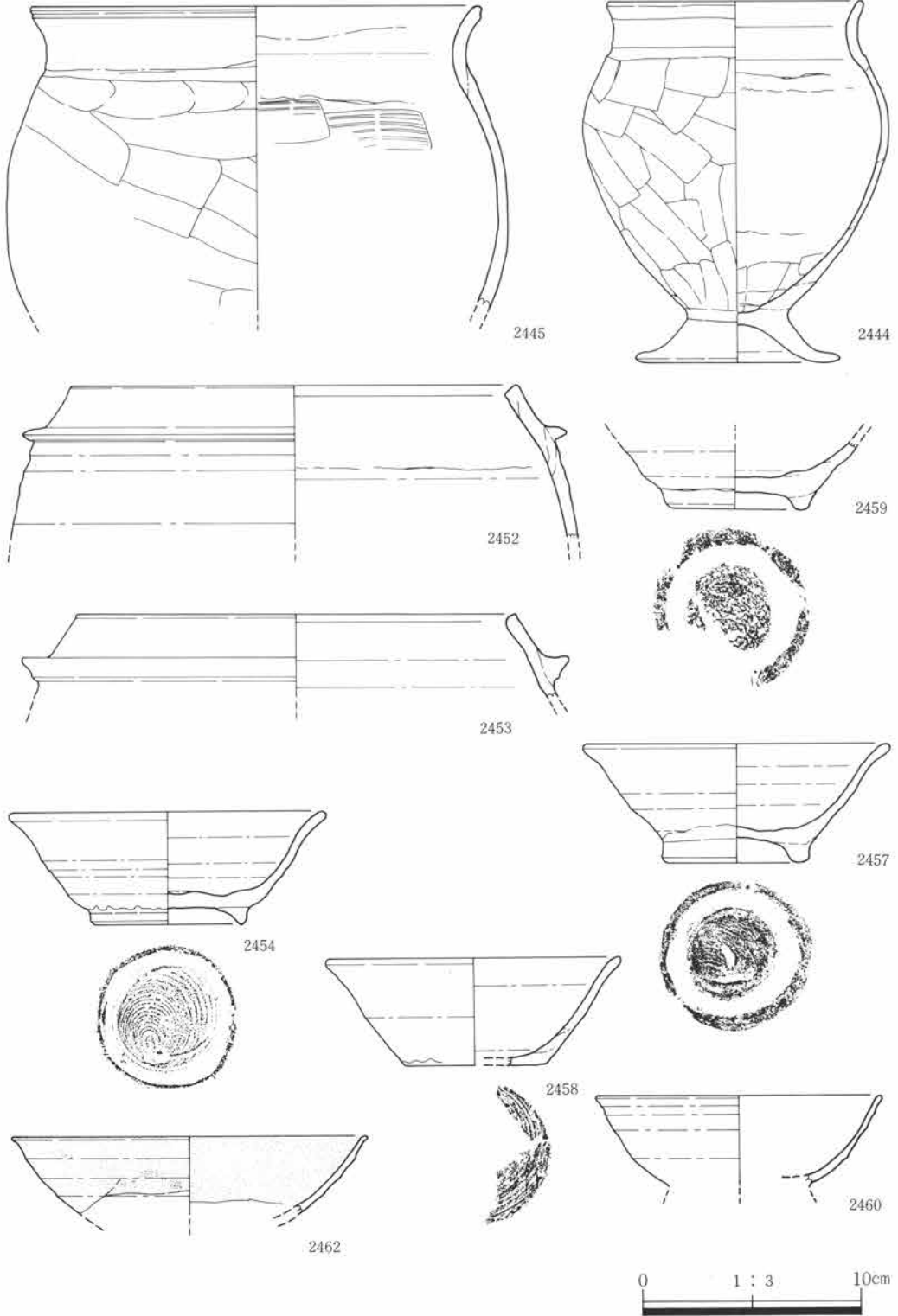
I地区A区84号住居跡遺土層説明 (N-N')

- 1 褐色土 焼土・ローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土



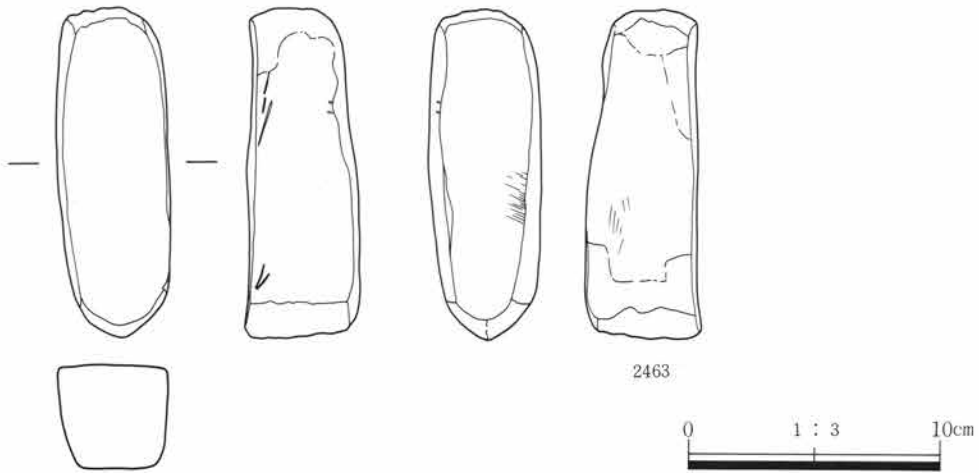
第495図 I地区A区82・84号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



第496図 I地区A区82号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



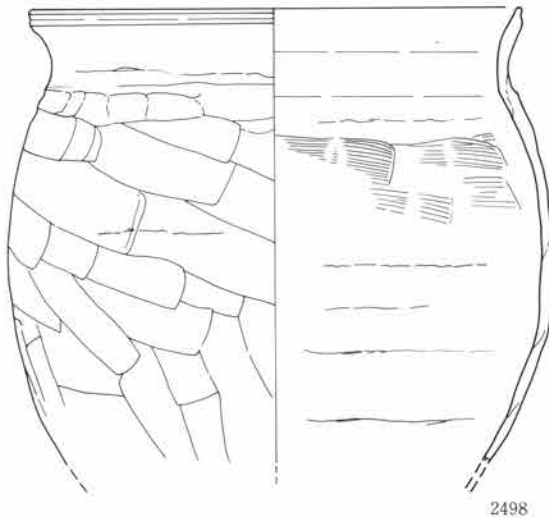
第497図 I地区A区82号住居跡遺物図(2)

第143表 I地区A区82号住居跡遺物観察表

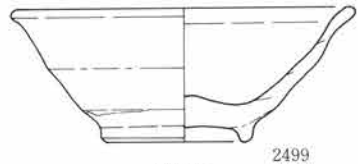
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2444	台付甕	器高:165mm口径:[118mm]底径:[94mm]最大径:[140mm]口縁部~台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	口縁部は外湾。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り、台部は横なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで、台部は横なで。	住居内竈前床直。内外面に油煙付着
2445	甕	器高:(140mm)口径:[210mm]底径:一最大径[230mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐。	口縁部は外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2452	羽釜	器高:(70mm)口径:[205mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質褐灰。	口縁部~体部上半は内湾。内外面共に口縁部~体部上半は轆轤整形、轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2453	羽釜	器高:(38mm)口径:[200mm]口径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質浅黄橙。	口縁部~体部上端は内湾。内外面共に口縁部~体部上端は轆轤整形、轆轤なで。	竈前床直。
2454	椀	器高:52mm口径:146mm底径:71mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。黄灰。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈前床直。
2457	椀	器高:54mm口径:[140mm]底径:72mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着

(1) 竪穴住居跡

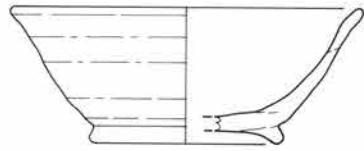
2158	杯	器高:(49mm)口径: [135mm]底径:[65mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2159	椀	器高:(32mm)口径: 一底径:67mm体部下 半~底部 $\frac{2}{3}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2460	杯	器高:(40mm)口径: [130mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{4}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着
2462	椀 灰釉陶器	器高:(35mm)口径: [162mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質胎土は灰白、釉は灰オリブ。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
2463	砥石	長さ:130mm幅:43mm 厚さ:41mm	淡黄。	四面に砥面を持つ。	竈前床直。



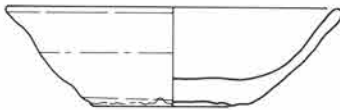
2498



2499



2500



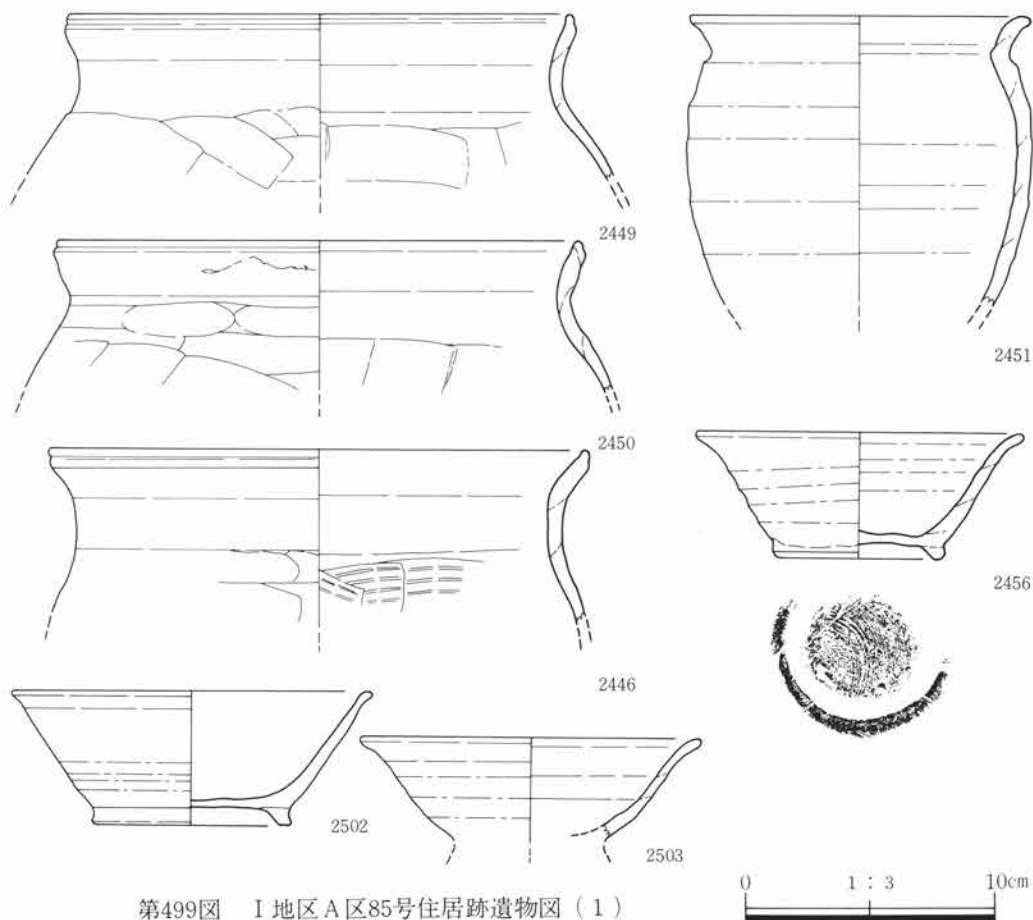
2455



第498図 I地区A区84号住居跡遺物図

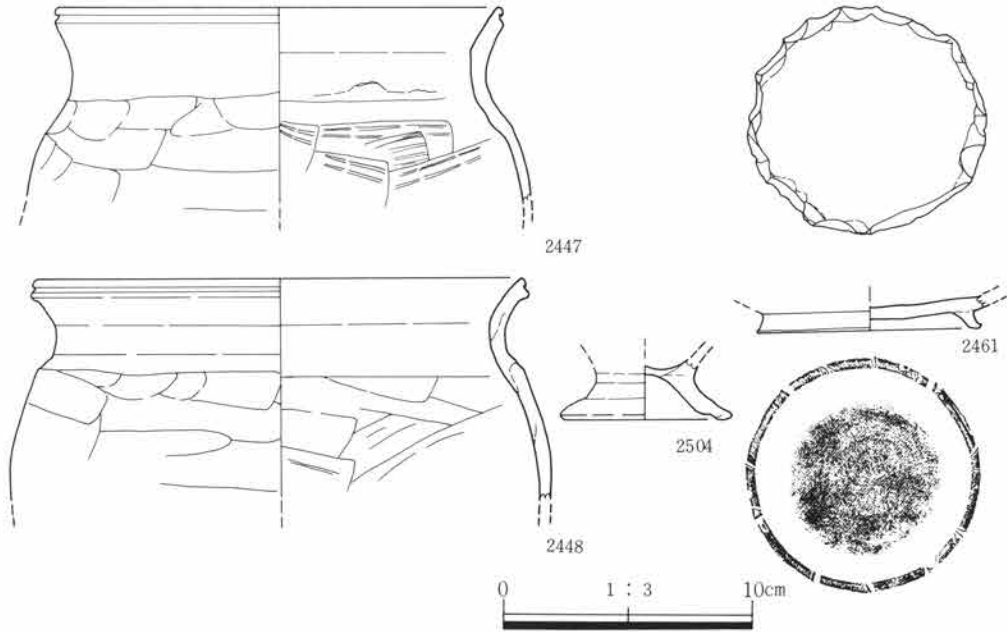
第144表 I地区A区84号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2455	杯	器高:39mm口径:133mm底径:63mm ほぼ完形	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北西部床直
2498	甃	器高:(180mm)口径:195mm底径:一最大径:216mm口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内北東部床直 内外面に油煙附着
2499	椀	器高:53mm口径:136mm底径:60mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰黄。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内北西部床直 内外面に油煙附着
2500	椀	器高:[54mm]口径:[140mm]底径:[78mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐色。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。



第499図 I地区A区85号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第500図 I 地区A区85号住居跡遺物図(2)

第145表 I 地区A区85号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2446	甕	器高:(68mm)口径: [215mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部は指なで、体部は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部は篔なで。	住居内南西部床上15cm。外面に油煙付着。
2447	甕	器高:(77mm)口径: [178mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部は指なで、体部は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部は篔なで。	住居内中央部床上15cm。外面に油煙付着。
2448	甕	器高:(65mm)口径: [200mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部は篔なで。	住居内南西部床上15cm。
2449	甕	器高:(65mm)口径: [202mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上半は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篔なで。	住居内南東部。
2450	甕	器高:(60mm)口径: [210mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部は指なで、体部は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部は篔なで。	住居内北西部床直

第4章 平安時代の遺構と遺物

2451	甕	器高:(113mm)口径: [135mm]底径:一最大 径:[138mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。比較 的硬質。明黄褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。内外面共 に口縁部~体部は轆轤整形、轆轤な で。	住居内南西部床上 20cm。内外面に油 煙付着。
2456	椀	器高:50mm口径:130 mm底径:68mm ほぼ完形	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 灰褐色。	轆轤右回転。口縁部は外湾。底部は回 転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁 部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~ 底部は轆轤なで。	住居内南西部床直 内面に油煙付着。
2461	椀 緑釉陶器	器高:(12mm)口径: 一底部:88mm 底部残	砂粒を含む。還元。硬質。 胎土は緑灰、釉は深緑。	底部は高台貼り付け。内外面共に底 部は丁寧な轆轤なで。底部の周囲を 丁寧に打ち欠いている。	住居内南西部床直
2502	椀	器高:[53mm]口径: [142mm]底径:[78mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 褐色。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後高台貼り付け。外 面:口縁部~体部は轆轤なで。内面: 口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床上 5cm。内外面に油 煙付着。
2503	杯	器高:(40mm)口径: (135mm)底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰褐色。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁 部~体部は轆轤なで。	住居内南東部床上 5cm。
2504	台付甕	器高:(23mm)口径: 一底径:68mm台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。比較 的硬質。明赤褐色。	内面底部は寛なで。内外面共に台部 は横なで。	竈前床上10cm。内 外面に油煙付着。

I 地区 A 区83号住居跡 (第501~504図、第146表、図版78~80)

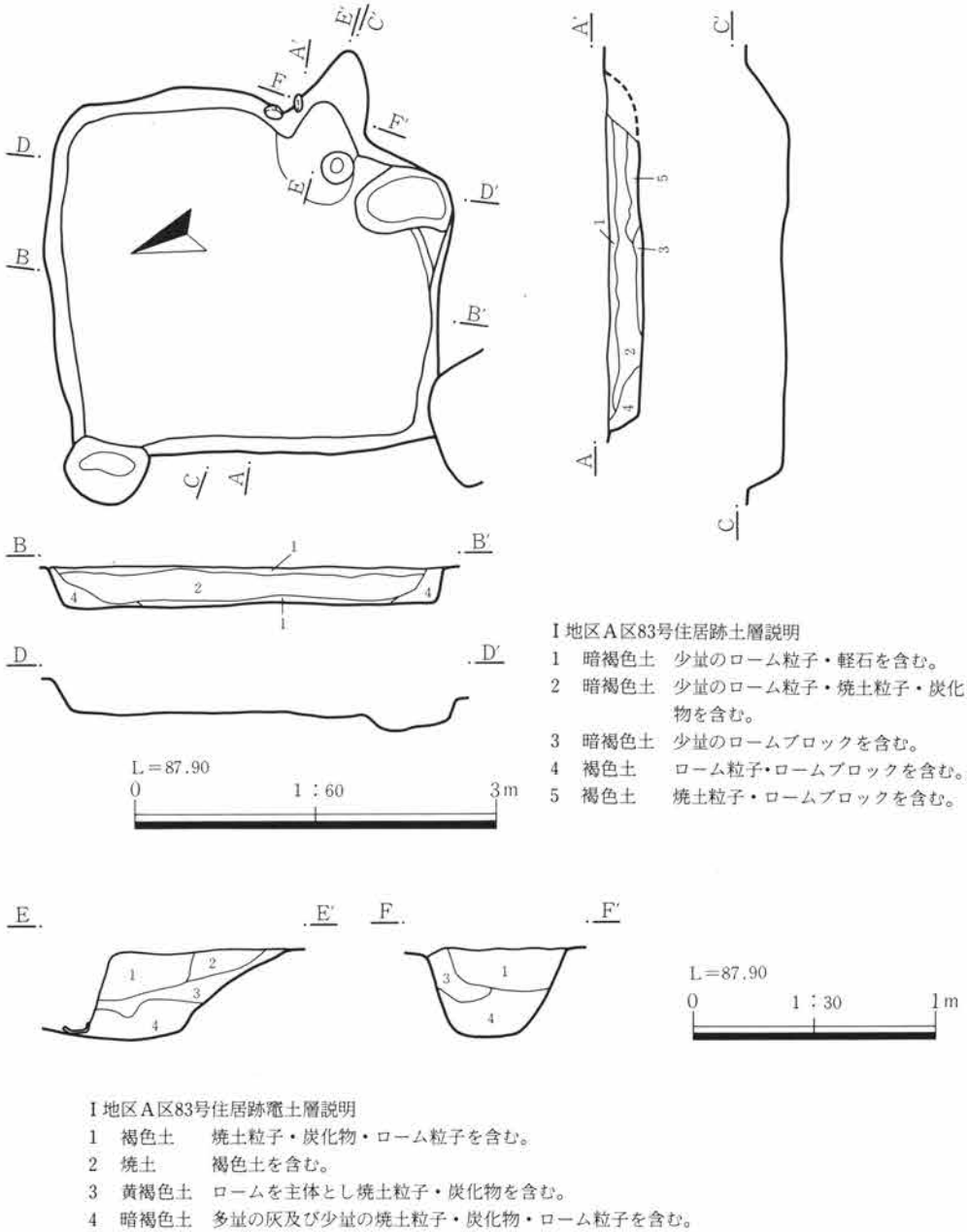
当住居跡は、A区215土坑と重複する。新旧関係は、A区215土坑が当住居跡の南西部隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。又、北西部隅にも小ピットがあるが、これも新しいピットである。

当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約3.2mであり、平面形は、南側の狭まった、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-24°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは約20~25cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、竈周辺を中心にして比較的堅く、ほぼ平坦である。

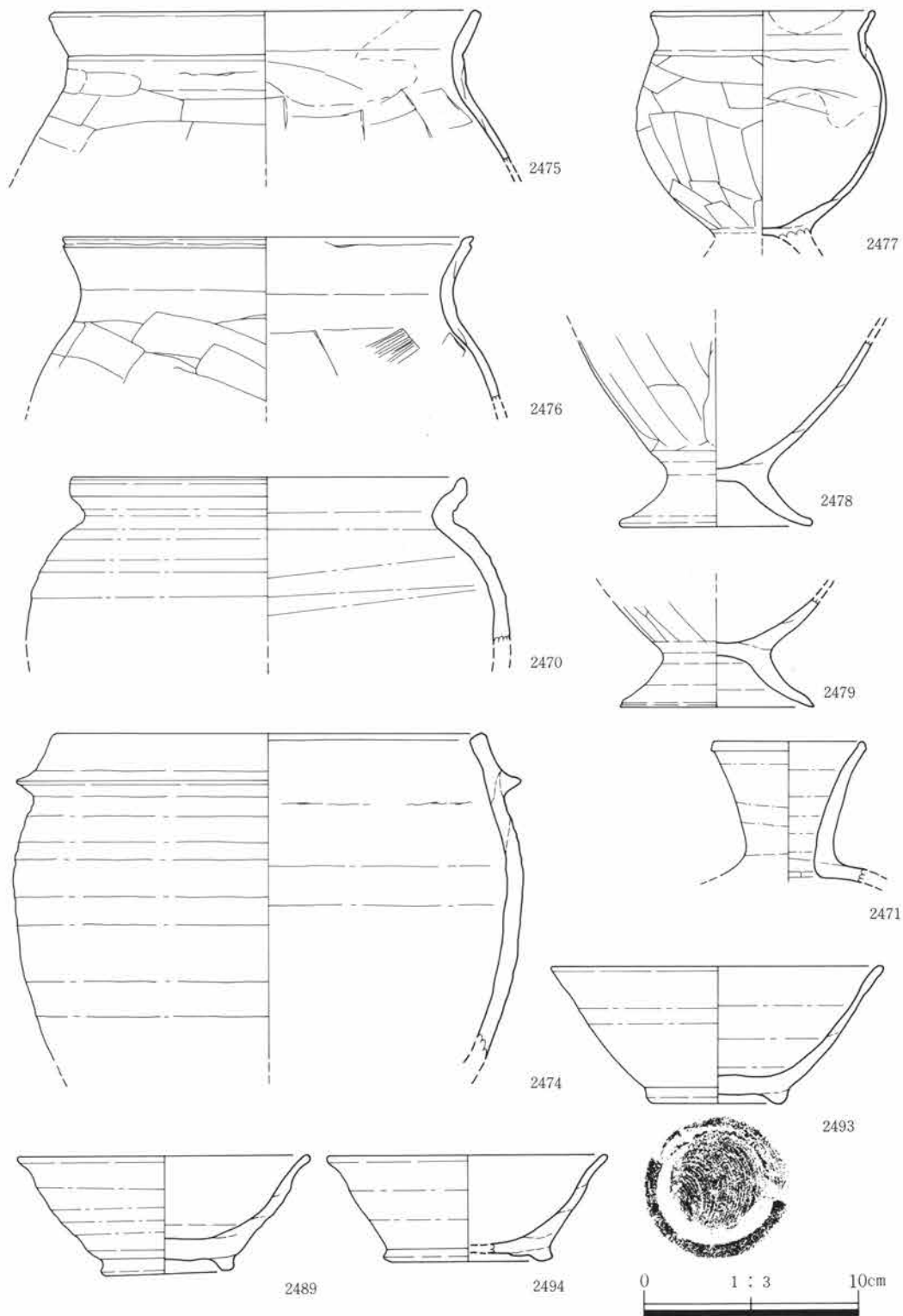
竈は、東側壁の南寄りに築かれている。袖・天井は確認できなかったが、袖の基部と考えられる部分からは、河原石が検出できた。燃烧部の上に堆積していたロームと考え合わせると、河原石と粘土質ロームを使用した袖と推定される。又、燃烧部・煙道部からは、焼土を確認することができた。竈の左脇、南東部隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長軸約80cm・短軸約50cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁溝・柱穴は確認できなかった。

(1) 竪穴住居跡

遺物は竈・貯蔵穴を中心にして、多量に出土している。種類は、酸化焼成の甕・台付甕・椀・杯、還元焼成の羽釜・椀・杯・横瓶、土錘が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。
(井川)

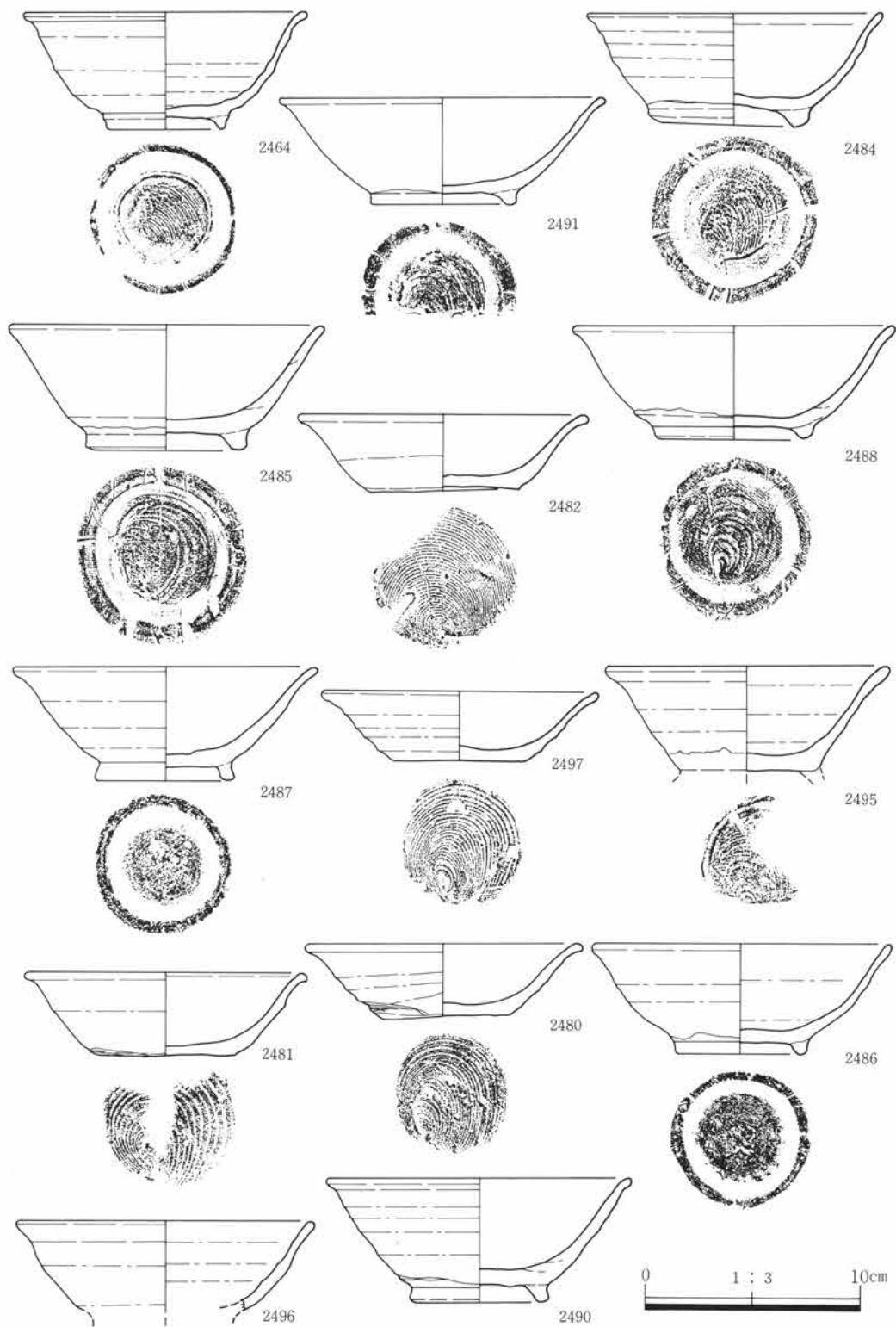


第501図 I 地区A区83号住居跡遺構図



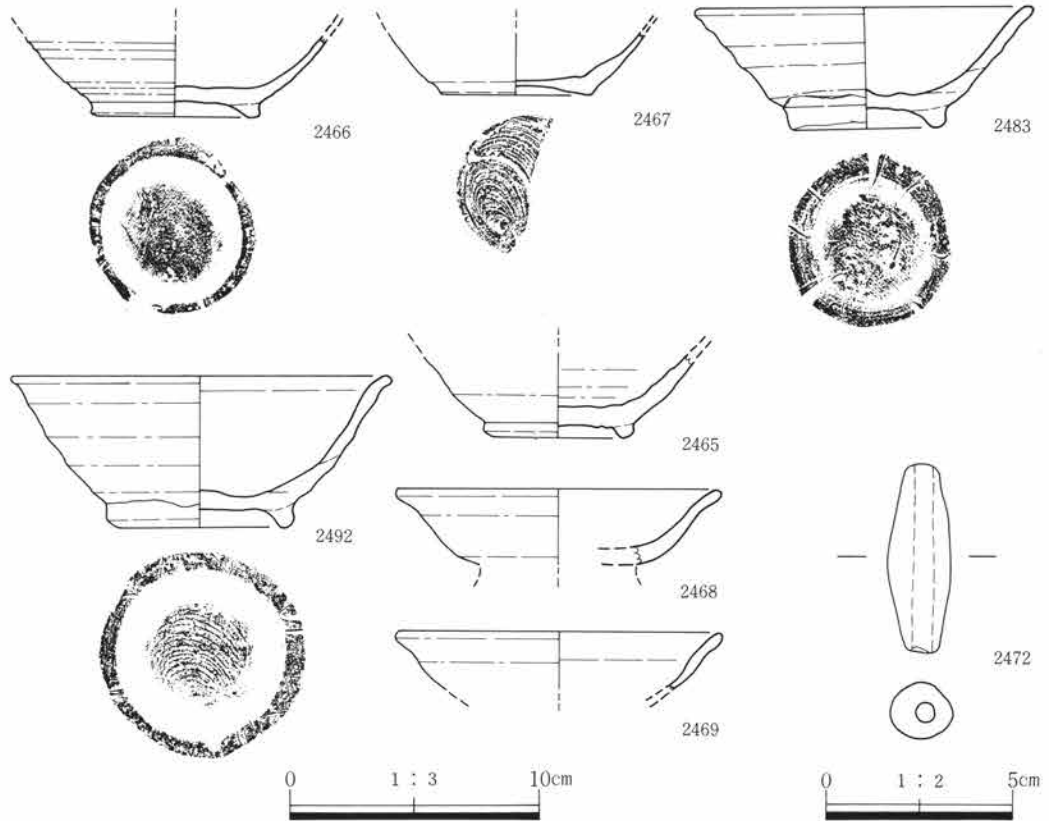
第502図 I地区A区83号住居跡遺物図(1)

(1) 竖穴住居跡



第503图 I地区A区83号住居跡遺物图(2)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第504図 I地区A区83号住居跡遺物図(3)

第146表 I地区A区83号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2464	椀	器高:54mm口径:[130mm]底径:54mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰褐色。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内面に油煙付着。
2465	椀	器高:(33mm)口径:一底径:60mm体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部轆轤なで。内面:体部～底部は轆轤なで。	住居内北東部床上5cm。
2466	椀	器高:(32mm)口径:一底径:67mm体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。比較的硬質。鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2467	杯	器高:(25mm)口径:一底径:60mm体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:体部は轆轤なで。内面:体部～底部は轆轤なで。	住居内中央部床上20cm。

(1) 竪穴住居跡

2468	杯	器高:(30mm)口径: [128mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤などで。	住居内覆土。
2469	杯	器高:(23mm)口径: [130mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤などで。	住居内南東部床直内面に油煙付着。
2470	甕	器高:(75mm)口径: [180mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は「く」字状に外湾し、口縁端部は直立する。内外面共に口縁部~体部上半は轆轤などで。	住居内覆土。
2471	横瓶	器高:(65mm)口径: [72mm]口径部~肩部残。	砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部~肩部は轆轤整形、轆轤などで。	住居内覆土。
2472	土錘	長さ:49mm直径:16mm 孔径:4mm	砂粒を含む。酸化。比較的硬質。明褐灰。	棒状。両端が細くなる。	住居内北東部床上25cm。
2474	羽釜	器高:(150mm)口径: [200mm]底径:一最大径: 一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質鈍い黄橙。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は体部上半。内外面共に口縁部~体部上半は轆轤整形、轆轤などで。	竈前床直。内外面に油煙付着。
2475	甕	器高:(70mm)口径: [200mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、肩部は指なで。体部上半は篋削り。内面:口縁部~肩部は横なで、体部上半は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2476	甕	器高:(75mm)口径: [190mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。
2477	台付甕	器高:(103mm)口径: 103mm底径:一最大径: 115mm台部欠	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	口縁部は「く」字状に外湾。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内覆土。内外面に多量の油煙付着。
2478	台付甕	器高:(85mm)口径: 一底径:90mm体部下 半~台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	台部はロート状に開く。外面:体部下半は篋削り、台部は横なで。内面:体部~底部は篋なで、台部は横なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2479	台付甕	器高:(50mm)口径: 一底径:90mm体部下 端~台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。鈍い赤褐。	台部はロート状に開く。外面:台部下端は篋削り、台部は横なで。内面:体部下端~底部は篋なで、台部は横なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2480	杯	器高:35mm口径:128 mm底径:58mm完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。口縁部は外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内南東部床上5cm。

第4章 平安時代の遺構と遺物

2481	杯	器高:35mm口径:128mm底径:58mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈前床直。外面に油煙付着。
2482	杯	器高:35mm口径:134mm底径:68mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質暗灰黄。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2483	椀	器高:48mm口径:135mm底径:60mm完形	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質黄橙。内面 $\frac{1}{2}$ 黒。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈前床直。
2484	椀	器高:51mm口径:137mm底径:73mmほぼ完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質鈍い黄橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈前床直。内外面に油煙付着。
2485	椀	器高:58mm口径:[146mm]底径:74mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部床直外面に油煙付着。
2486	椀	器高:51mm口径:[138mm]底径:60mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～底部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部床上20cm。内外面に油煙付着。
2487	椀	器高:53mm口径:[140mm]底径:64mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着
2488	椀	器高:52mm口径:[148mm]底径:72mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内床下。内面に油煙付着。
2489	椀	器高:54mm口径:135mm底径:61mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。外面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南西部床直外面に油煙付着。
2490	椀	器高:57mm口径:[140mm]底径:67mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。比較的硬質。灰黄。	口縁端部は外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～底部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内南東部床直
2491	椀	器高:49mm口径:[150mm]底径:68mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内床下。
2492	椀	器高:60mm口径:[150mm]底径:75mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明褐。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

2493	椀	器高:63mm口径:[152mm]底径:65mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2494	椀	器高48mm口径:[130mm]底径:[78mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。体部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~底部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床上20cm。
2495	椀	器高:(48mm)口径:[130mm]底径:一口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。比較的硬質。浅黄。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2496	杯	器高:(41mm)口径:[138mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2497	杯	器高:32mm口径:[128mm]底径:60mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。

I 地区A区86号住居跡(第505・506図、第147表、図版78)

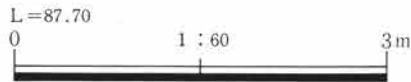
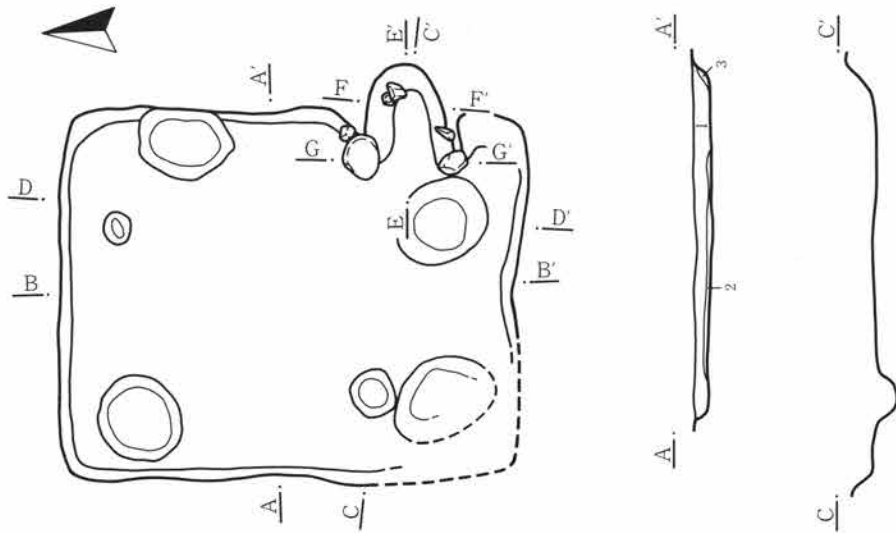
当住居跡は、A区13号溝跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈等が、A区13号溝跡の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-3°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約15~20cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、やや軟弱な面もあるが良好であり、ほぼ平坦である。壁溝は確認できなかった。

竈は、東側壁の南東部隅近くに築かれている。袖はロームを素材に作られており、先端部の上面には角閃石安山岩が乗せられていた。燃烧部・煙道部には、多量の焼土・炭化物・灰が堆積しており、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。住居内からは6基の竈のピットが検出できた。右前南東部の隅近くのピットの規模は、長軸約80cm・短軸約65cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴と考えることもできるが、竈に近すぎ、位置的な難が残る。北西部隅のピットの規模は、直径約65cm・床面からの深さ約10cmであり、平面形はほぼ円形を呈する。北東部隅近くのピットの規模は、長軸約75cm・短軸約55cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。この両ピットを貯蔵穴と考えることも、可能である。その他、3基のピットがあるが、柱穴と考えるには難が残る。

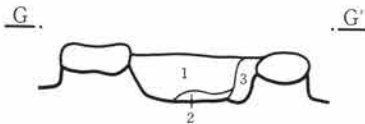
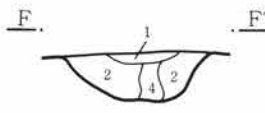
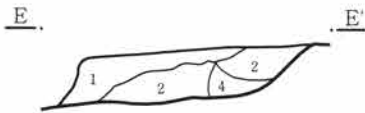
遺物は竈内を中心に、還元焼成の羽釜・甕、酸化焼成の椀、灰釉陶器の皿などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀後半である。(井川)

第4章 平安時代の遺構と遺物



I地区A区86号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合 少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 黄褐色土 ロームが主体で褐色土を含む。



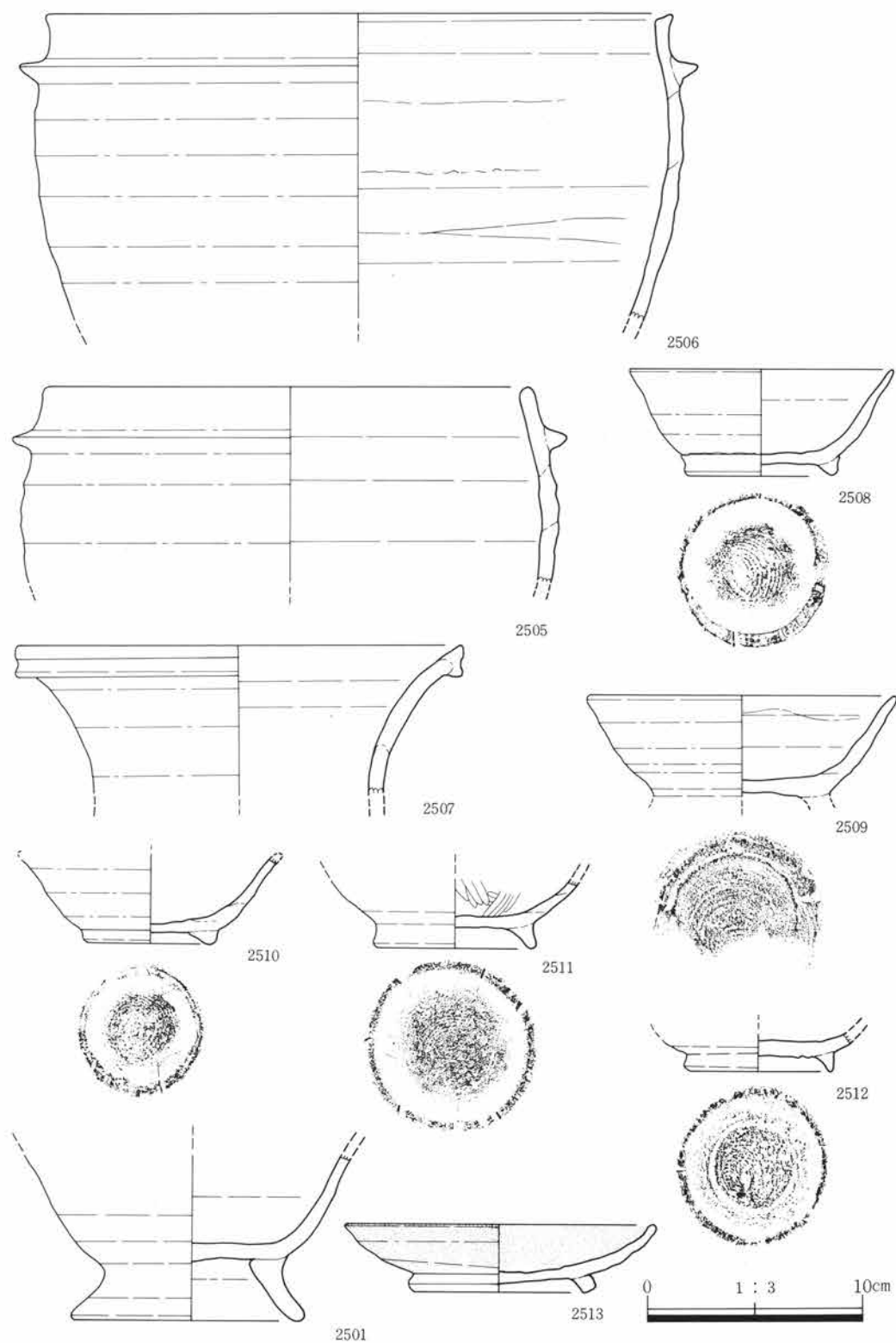
I地区A区86号住居跡電土層説明

- 1 暗褐色土 やや多量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合 多量の焼土粒子・炭化物・灰を含む。
- 3 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土の混合。



第505図 I地区A区86号住居跡遺構図

(1) 豎穴住居跡



第506图 I地区A区86号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第147表 I地区A区86号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2501	椀	器高:(75mm)口径: 一底径:75mm 体部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	底部は回転糸切り後高足高台貼り付 け。外面:体部~高台部は轆轤な で。内面:体部~底部は轆轤な で。	竈内。内外面に油 煙付着。
2505	羽釜	器高:(90mm)口径: [224mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部~体部上端はやや外湾。内外 面共に口縁部は丁寧な轆轤な で。体部は轆轤なで。	住居内北東部床上 5cm。内外面に油 煙付着。
2506	羽釜	器高:(140mm)口径: [290mm]底径:一最大 径:[312mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 浅黄。	口縁部~体部上端はやや内湾。最大 径は銚部。外面:口縁部~銚部は丁寧 な横なで。体部は轆轤なで。内面:口 縁部~体部は横なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
2507	甕?	器高:(68mm)口径: [206mm]底径:一口縁 部~頸部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 明黄褐。	口縁部は外湾。口縁端部に外縁帯を 持ち、外縁帯中央に沈線状の凹み。内 外面共に口縁部は丁寧な轆轤な で。	竈内。二次焼成を 受けている。
2508	椀	器高:49mm口径:121 mm底径:70mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 褐。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:口縁部~底部は轆 轤なで。内面:口縁部~底部轆轤な で。	竈内。内面に油煙 付着。
2509	椀	器高:(46mm)口径: [142mm]底径:一口縁 部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 浅黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。 外面:口縁部~体部は轆轤なで。内 面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。二 次焼成が強い。
2510	椀	器高:(42mm)口径: 一底部:62mm 体部 ~底部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。 外面:体部は轆轤なで。内面:体部 ~底部は轆轤なで。	住居内南東部床直
2511	椀	器高:(32mm)口径: 一底径:75mm 体部 ~底部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。外面橙、内面黒。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:体部轆轤なで、高 台部は横なで。内面:体部~底部はへ ら磨き、高台部は横なで。	住居内北東部床直 外面に油煙付着。
2512	椀	器高:(18mm)口径: 一底径:69mm 体部下 端~底部残	直径4~5mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 外面鈍い橙、内面黒。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部下端は轆轤なで。内面:体 部下端~底部は轆轤なで。	竈内。周囲が丁寧 に打ち欠いてある
2513	皿 灰釉陶器	器高:32mm口径:144 mm底径:86mmほぼ完 形	砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は高台貼り付け後、回転篋な で。外面:口縁部~体部上半は轆轤な で。体部下半は回転篋なで。内面:口縁部 ~底部は轆轤なで。	住居内北東部床直

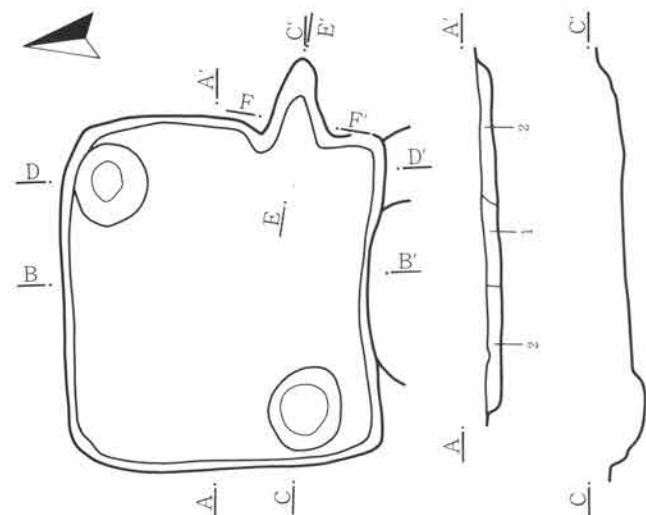
(1) 竪穴住居跡

I 地区 A 区87号住居跡

(第507～509図、第148表)

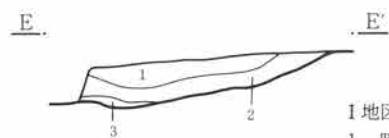
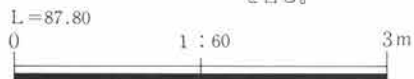
当住居跡は、A区227土坑と重複する。新旧関係は、覆土の相違(A区227土坑の覆土には浅間A軽石が含まれている。)により、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、東西方向約2.8m・南北方向約2.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-78°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は悪い。床面は、竈周辺を中心に比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は確認できなかった。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。袖は基部の一部が、地山の堀の残しとして確認できたが、大部分が破壊されていたが、竈の堆積土の中には粘土が含まれており、素材には粘土を使用したものと考えられる。又、燃焼部・煙道部からは、焼土・灰の堆積を確認することができた。煙道部の壁外への張り出しは約60cmである。住居内からは、2基のピットが検出できた。北東部隅のピットの規模は、長軸約65cm・短軸約55cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形を呈する。南西部隅のピットの規模は、長軸約65cm・短軸約55cm・床面からの深さ約



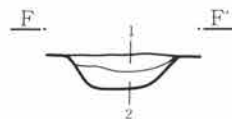
I 地区 A 区87号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。



I 地区 A 区87号住居跡竈土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 多量の焼土粒子・炭化物・粘土粒子及び少量のローム粒子を含む。
- 3 灰 焼土・炭化物を含む。

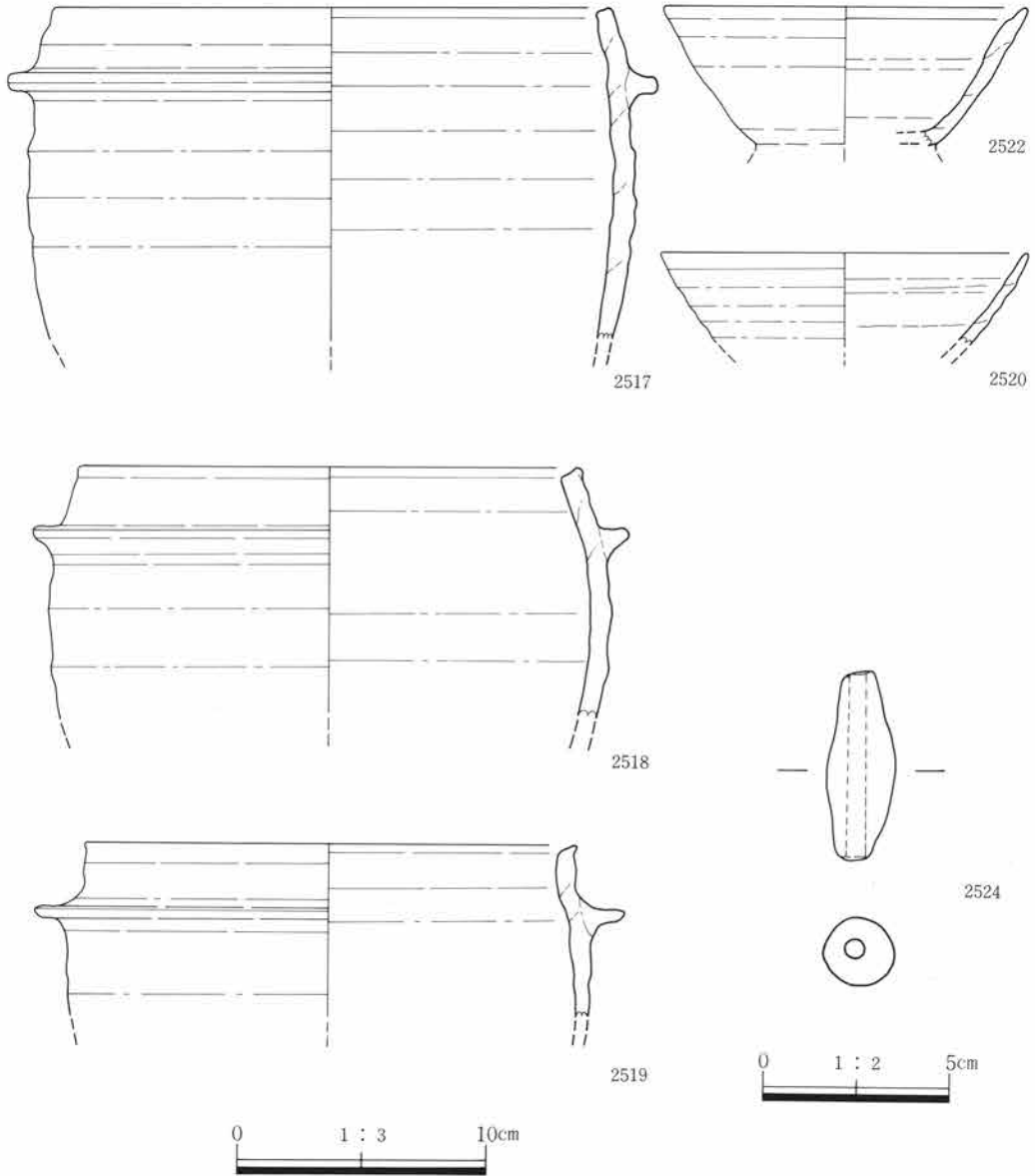


第507図 I 地区 A 区87号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物

15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。両ピット共、貯蔵穴の可能性が考えられる。柱穴は確認できなかった。

遺物は、酸化焼成の羽釜・杯、還元焼成の羽釜・杯、灰釉陶器の椀の他、土錘が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀後半である。 (井川)



第508図 I地区A区87号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第509図 I地区A区87号住居跡遺物図(2)

第148表 I地区A区87号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2517	羽 釜	器高:(131mm)口径:[220mm]底径:一最大径:[258mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰オリーブ。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。
2518	羽 釜	器高:(98mm)口径:[200mm]底径:一最大径:[236mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。比較的硬質。灰オリーブ。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで体部は轆轤なで。	竈前床直。
2519	羽 釜	器高:(68mm)口径:[196mm]底径:一最大径:[235mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部~体部上半はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。
2520	杯	器高:(36mm)口径:[146mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。比較的硬質。灰白。	内外面共に口縁部~底部は轆轤整形、轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。
2521	杯	器高:58mm口径:[148mm]底径:[74mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、対部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙附着。
2522	杯	器高:(54mm)口径:[144mm]底径:[70mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	内面口縁端部に段を持つ。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2523	椀 灰釉陶器	器高:(37mm)口径:一底径:[86mm]体部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内北東部床直
2524	土 錘	長さ:50mm直径:19mm 孔径:5mm	砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	棒状。両端が細くなる。	住居内覆土。

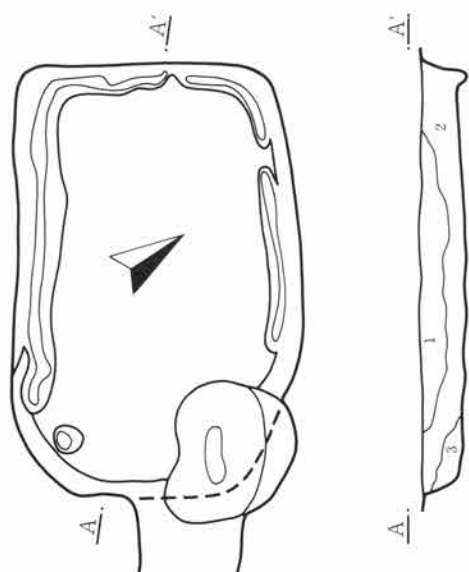
I地区A区88号住居跡(第510・511

図、第149表)

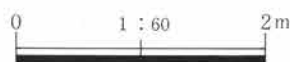
当住居跡は、重複はないが、北東部分は近代の攪乱坑により、破壊されている。規模は東西方向約3.4m・南北方向約2.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは、約30~35cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。住居内の北壁・西壁・南壁に沿って、壁溝が確認できたが、東側からは検出できなかった。壁溝の規模は、幅約10~20cm・床面からの深さ約5cmである。

住居跡内の南東部隅から小ピットが検出できた。規模は直径約20cm・床面からの深さ約10cmであり、平面形は円形を呈する。しかし、柱穴と考えることは無理であろう。竈・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は還元焼成の碗が出土しているが、遺物量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半~10世紀前半である。(井川)



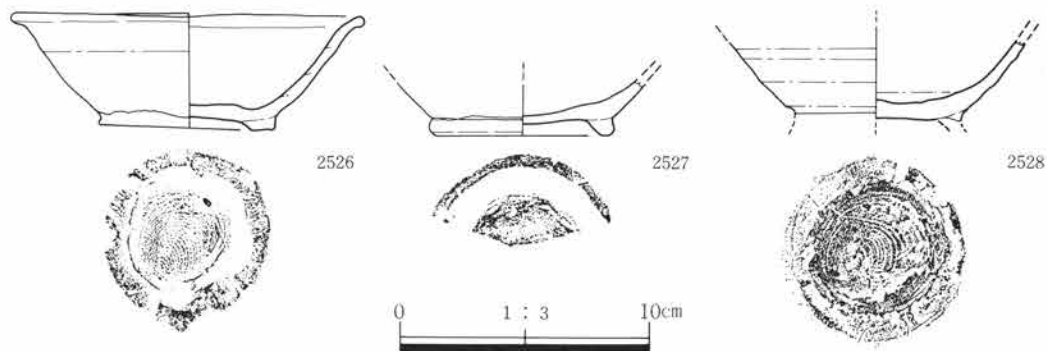
L=87.60



I地区A区88号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

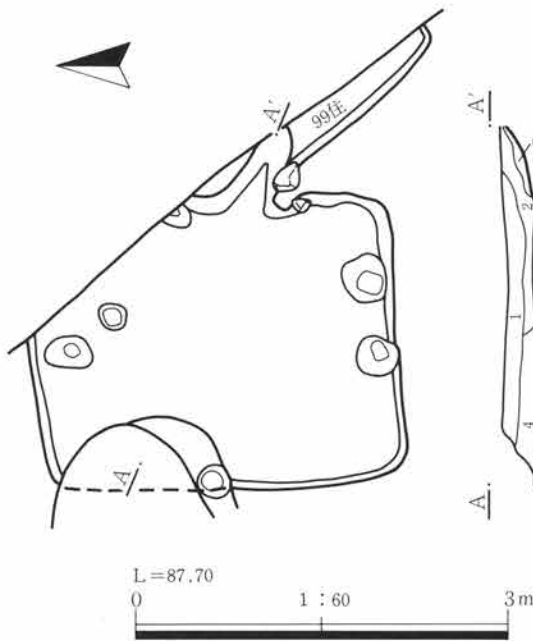
第510図 I地区A区88号住居跡遺構図



第511図 I地区A区88号住居跡遺物図

第149表 I地区A区88号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2526	椀	器高:45mm口径:140mm底径:70mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。鈍い黄。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
2527	椀	器高:(22mm)口径:一底径:[74mm]体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	住居内北東部床上20cm。内面に油煙付着。
2528	椀	器高:(31mm)口径:一底径:一体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄褐。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。



I地区A区89号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子・ロームブロック及び微量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 やや多量のローム粒子・ロームブロック及び少量の炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 やや多量のローム粒子・ロームブロック・焼土・炭化物を含む。
- 4 黄褐色土 多量のロームブロックを含む。

第512図 I地区A区89号住居跡遺構図

I地区A区89号住居跡(第512~514図、第150表)

当住居跡は、A区99号住居跡・A区221号土坑と重複する。A区99号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈部分が、A区99号住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。A区221号土坑との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西方向約2.3m・南北方向約2.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-3°-Wである。確認面までの床の立ち上がりは、約25cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は比較的良好であるが、やや凹凸が多い。壁溝は確認できなかった。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。大部分が破壊されており、袖は確認できなかったが、竈内・竈の

第4章 平安時代の遺構と遺物

周辺から、竈の構築材に使用されたと考えられる河原石が検出できた。又、燃烧部・煙道部からは、焼土・炭化物の堆積が確認できた。住居内からは5基のピットが検出できた。南東部隅近くのピットの規模は、長辺約40cm・短辺約35cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。貯蔵穴の可能性が考えられる。その他のピットの規模は、直径約20~35cm・床面からの深さ10~25cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴と考えるには、住居跡内の位置等に難が残る。

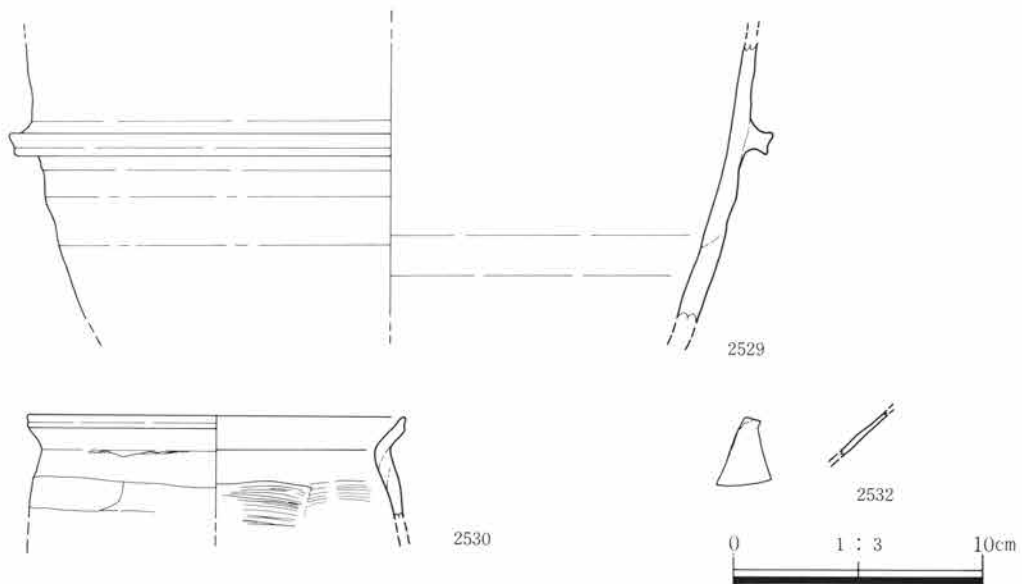
遺物は酸化焼成の甕・台付甕、還元焼成の甗、緑釉陶器の椀などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。(井川)

I 地区 A 区99号住居跡

当住居跡は、A区89号住居跡と重複する。新旧関係は、A区89号住居跡壁・床・竈が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

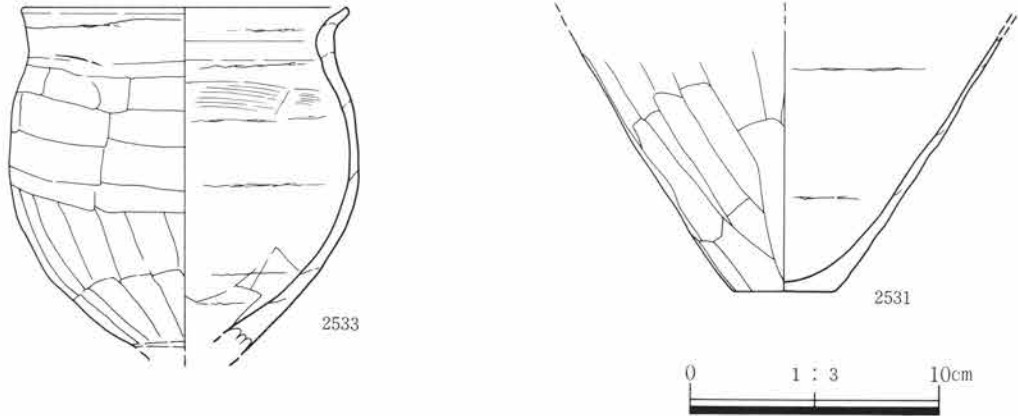
当住居跡は、大部分が調査区域の外になり、規模・主軸は不明である。西側部分での確認面までの壁の立ち上がりは、約5~10cmであり、残存状態は悪い。平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。

遺物の出土はなく、当住居跡の時期を限定するのは困難であるが、周辺の遺構との関係・覆土の状態から、平安時代の住居跡としておく。(井川)



第513図 I 地区 A 区89号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



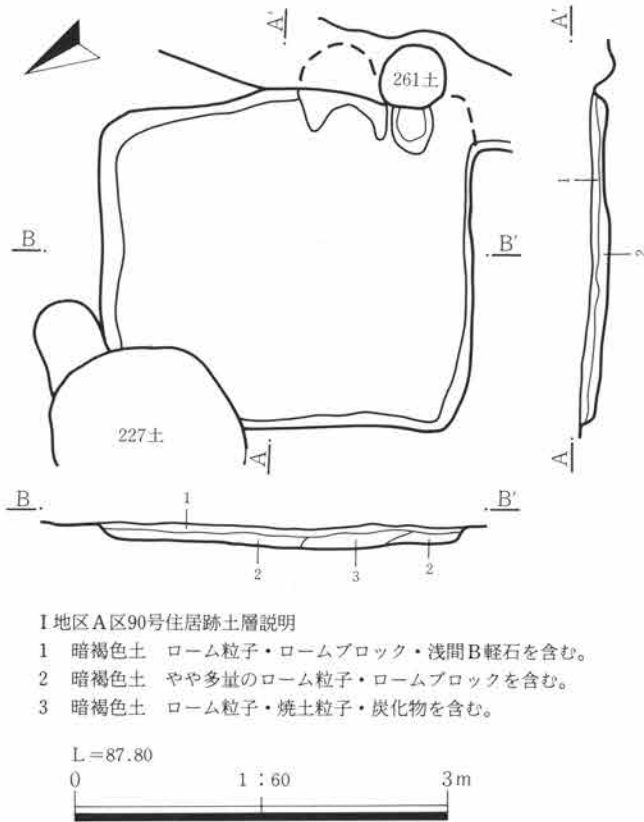
第514図 I地区A区89号住居跡遺物図(2)

第150表 I地区A区89号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2529	甌	器高:(108mm)口径: 一底径:—	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	内外面共に口縁部~体部上半は轆轤整形、轆轤なで。	住居内覆土。
2530	甌	器高:(40mm)口径: [150mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
2531	甌	器高:(102mm)口径: 一底径:[40mm]体部下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	外面:体部下半~底部は篋削り。内面:体部下半~底部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
2532	椀 緑釉陶器	器高:—口径:—底径:— 一部一部残	砂粒を含む。還元。軟質。淡黄。	内外面共に体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2533	台付甌	器高:(135mm)口径: 135mm 底径:—最大径:138mm 台部欠	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。軟質橙。	口縁部は「く」字状に外湾。最大径は体部中央。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	竈前床直。内外面に油煙付着。

I地区A区90号住居跡(第515~517図、第151表)

当住居跡は、A区29号溝跡・A区227号土坑と重複する。A区29号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の竈・南東隅部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区227号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北西部の壁・床を破壊していることから、当住居跡



第515図 I地区A区90号住居跡遺構図

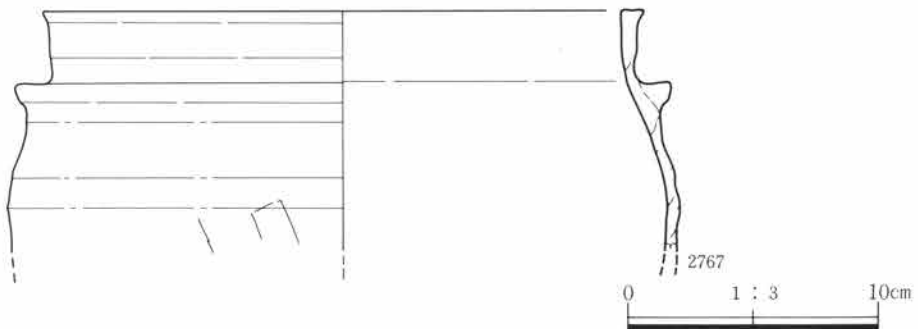
の方が古い。

当住居跡の規模は、東西方向約2.6m・南北方向約2.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-31°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は悪い。床面は比較的堅いが、やや凹凸が多い。壁溝は確認できなかった。

竈は、大部分がA区29号溝跡に破壊されており、袖の痕跡と、燃焼部に堆積した焼土・灰を確認しただけである。竈の右脇、南東部隅からはピットが検出できた。規模は不明であるが、短軸は約35cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈するものと推定される。同ピットの東側の円形土坑は近代のものである。柱穴は確

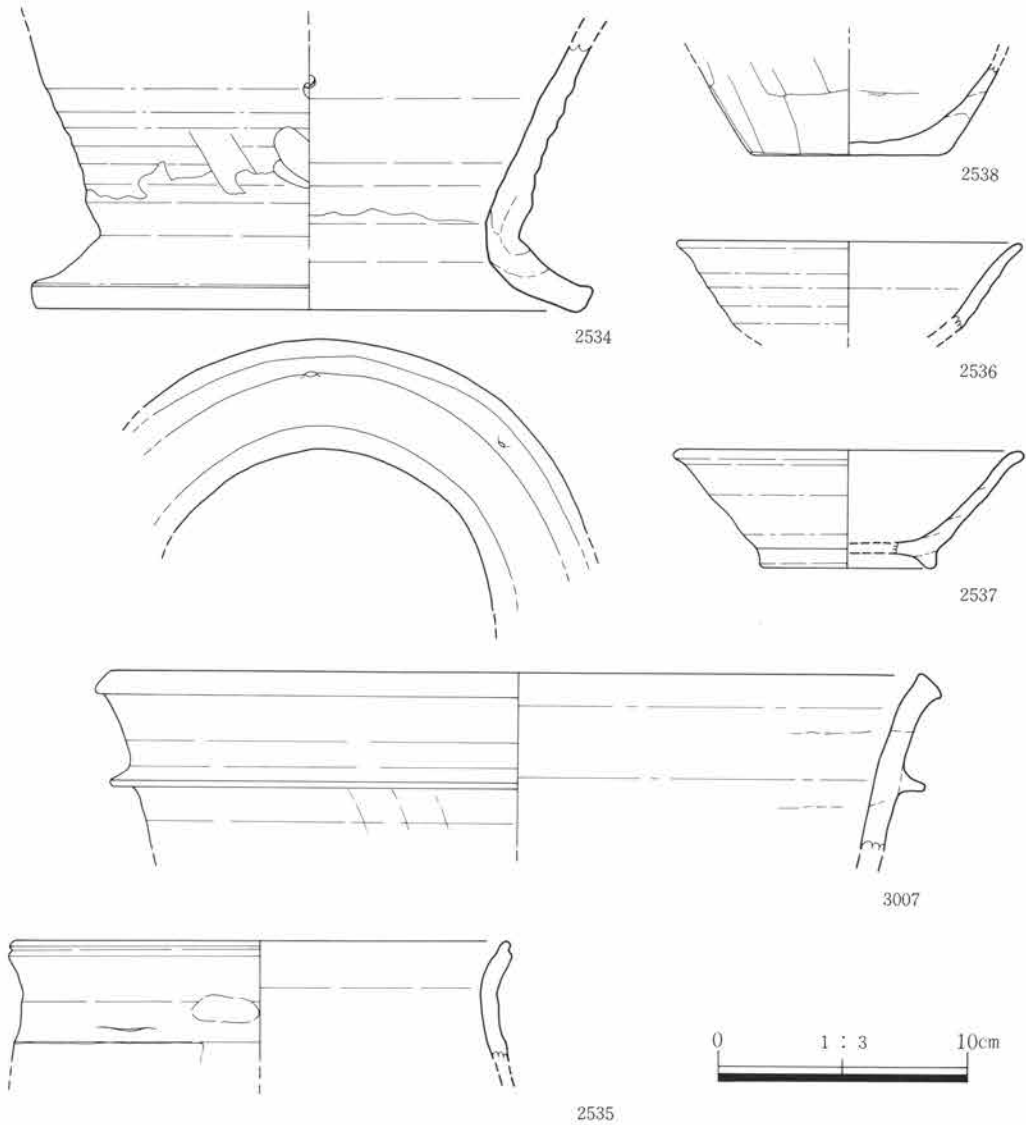
認できなかった。

遺物は、還元焼成の羽釜・甗、酸化焼成の甕・杯、還元焼成の椀などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。(井川)



第516図 I地区A区90号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡

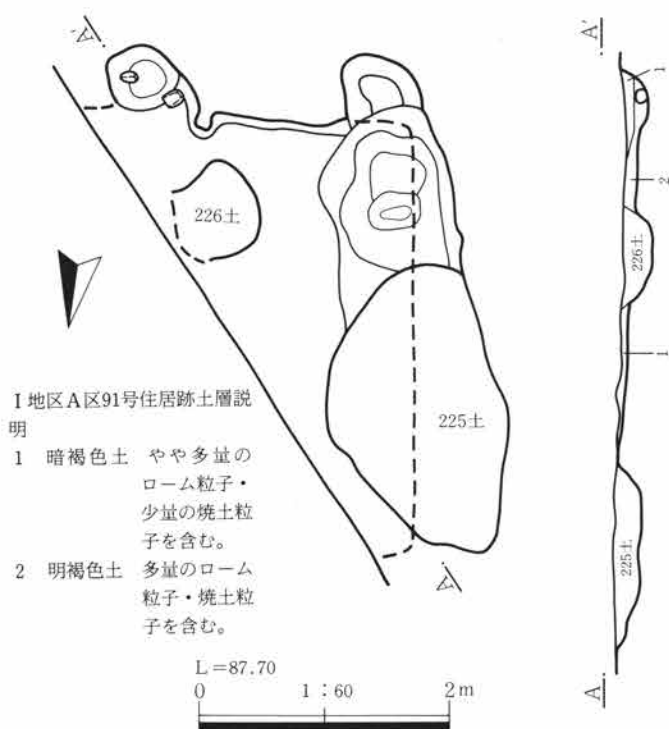


第517図 I地区A区90号住居跡遺物図(2)

第151表 I地区A区90号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2534	甌	器高:(105mm)口径: 一底径:[226mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	裾部は大きく「く」字状に外湾。内外面共に体部下半は轆轤整形、轆轤なで、裾部は横なで。	住居内覆土。内外面に油煙附着。
2535	甌	器高:(48mm)口径: [198mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰褐。	口縁部はやや外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで。体部は篋なで。	住居内覆土。

2536	杯	器高:(36mm)口径: [136mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2537	碗	器高:[47mm]口径: [140mm]底径:[70mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。褐色。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部~体部は轆轤なで。内面:口縁部~底部は轆轤なで。	竈右袖脇床直。
2538	羽釜	器高:(36mm)口径: 一底径:[75mm]体部下 端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。浅黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:体部下端は篋削り。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	竈右袖脇床直。
2767	羽釜	器高:(95mm)口径: 240mm底径:一最大 径:一口縁~体部上 端の一部	径3~5mmの小石、小砂粒を含む。還元。硬質。鈍い黄橙。	口縁部ほぼ直立する。内外面:回転台によるなで。	覆土。
3007	甌	器高:(70mm)口径: [335mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰黄。	口縁部はやや外湾。外面:口縁部~銜部は横なで、体部上端は篋なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内中央部床直



第518図 I 地区A区91号住居跡遺構図

I 地区A区91号住居跡

(第518・519図、第152表)

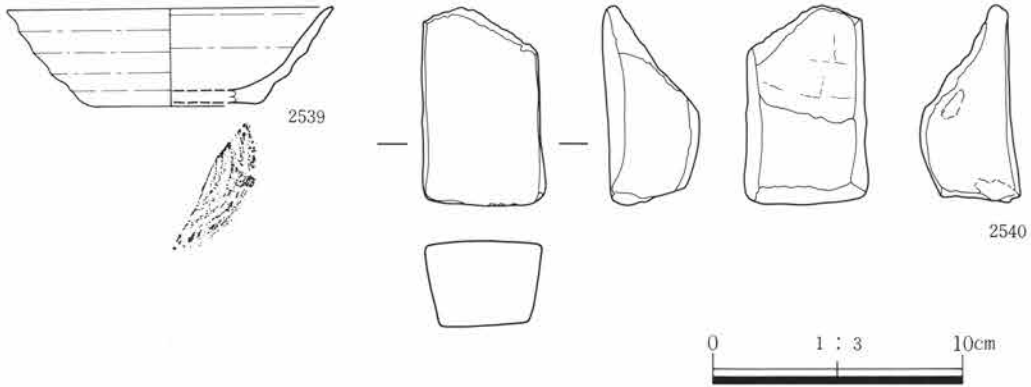
当住居跡は、A区225土坑・A区226土坑と重複する。A区225土坑との新旧関係は、覆土の相違から、当住居跡の方が新しい。A区226土坑との新旧関係は、覆土の相違から、当住居跡の方が古い。又、南西部隅の土坑は、現代の攪乱坑である。

当住居跡の残存状態は非常に悪く、掘形での確認であり、規模・平面形は不明である。僅かに、竈の燃焼部に焼土と構築材に使用されたと考えられる河原石が検出でき、住居跡の存在が確認できた。竈は、東側の壁に

(1) 竪穴住居跡

築かれている。壁溝・柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

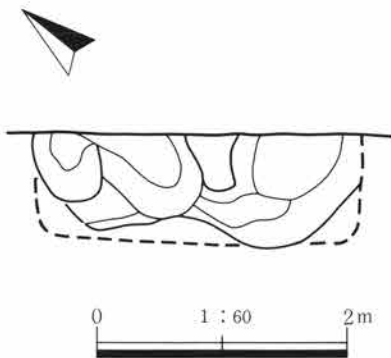
遺物は酸化焼成の杯・砥石が出土しているが、非常に少ない。当住居跡の時期の限定は困難であるが、遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀～10世紀である。(井川)



第519図 I地区A区91号住居跡遺物図

第152表 I地区A区91号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2539	杯	器高:38mm口径:[130mm]底径:[66mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質浅黄。	底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2540	砥石	長さ:(78mm)幅:49mm厚さ:37mm		四面に砥面を持つ。	



第520図 I地区A区92号住居跡遺構図

I地区A区92号住居跡(第520・521図、

第153表)

当住居跡は、調査区域内での重複はない。当住居跡の残存状態は非常に悪く、掘形での確認であり、規模は不明であるが、南北方向は約2.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝等は不明である。遺物は床下から酸化焼成の碗が出土しているが、出土量は非常に少ない。当住居跡の時期の限定

は困難であるが、遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀～10世紀である。(井川)



第521図 I地区A区92号住居跡遺物図

第153表 I地区A区92号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
2541	杯	器高:(24mm)口径: [142mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐色。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内覆土。

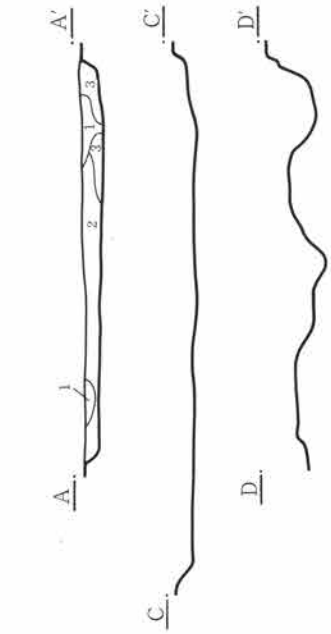
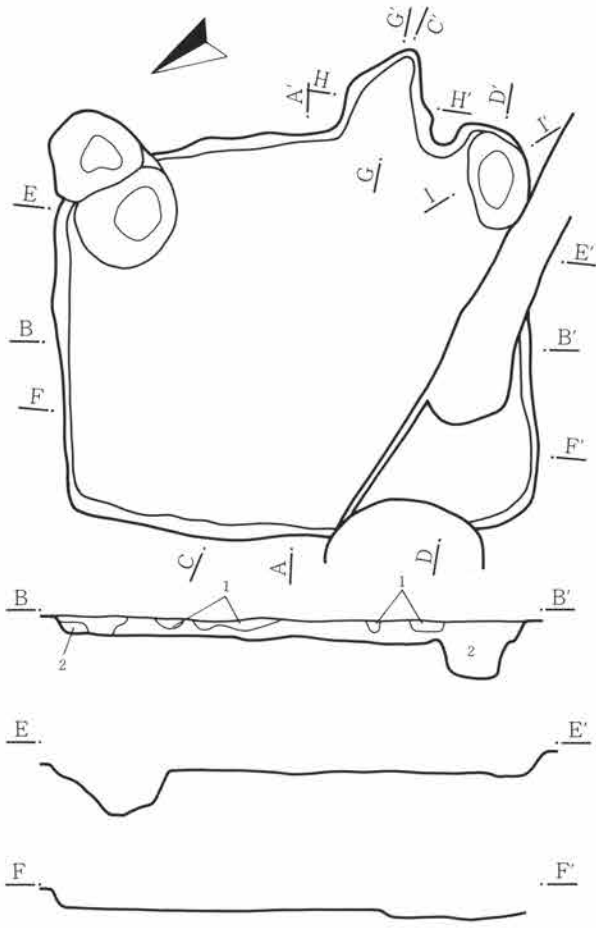
I地区A区94号住居跡(第522・523図、第154表)

当住居跡は、A区33号溝跡・A区282土坑と重複する。A区33号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。A区282土坑との新旧関係も、同土坑が当住居跡の南西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、東西方向は約3.2m・南北方向は約3.7mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-27°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10～15cmであり、残存状態はやや悪い。床面は、やや軟弱な面もあるが、ほぼ平坦である。壁溝は、確認できなかった。

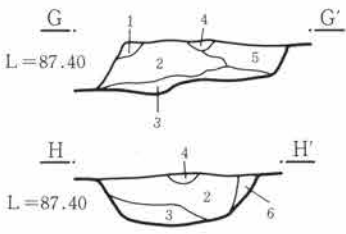
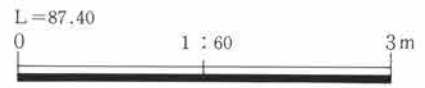
竈は、東側壁の南東部隅近くに築かれている。袖は確認できなかったが、燃焼部・煙道部から焼土・炭化物の堆積が検出できた。住居内南東部隅からは、ピットが検出できた。規模は、長軸約80cm・短軸約50cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。ピットの覆土中には、焼土・炭化物の混入が確認できた。ピットは貯蔵穴と考えられる。北東部隅にもピットが検出できたが、新しい時期のものである。柱穴は確認できなかった。

遺物は、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の羽釜・椀・灰釉陶器の皿が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

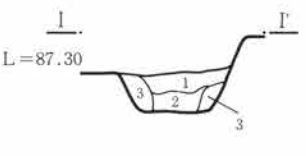
(1) 竪穴住居跡



- I 地区A区94号住居跡土層説明
(A-A'・B-B')
- 1 灰褐色土 多量の浅間A軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子及び少量のロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
 - 3 褐色土 ローム粒子を含む。



- I 地区A区94号住居跡竈土層説明 (G-G'・H-H')
- 1 灰褐色土 多量の浅間A軽石を含む。
 - 2 暗褐色土 多量の焼土粒子を含む。
 - 3 焼土 炭化物・暗褐色土を含む。
 - 4 黄褐色土 多量のローム粒子を含む。
 - 5 暗褐色土 少量の焼土粒子・ローム粒子を含む。

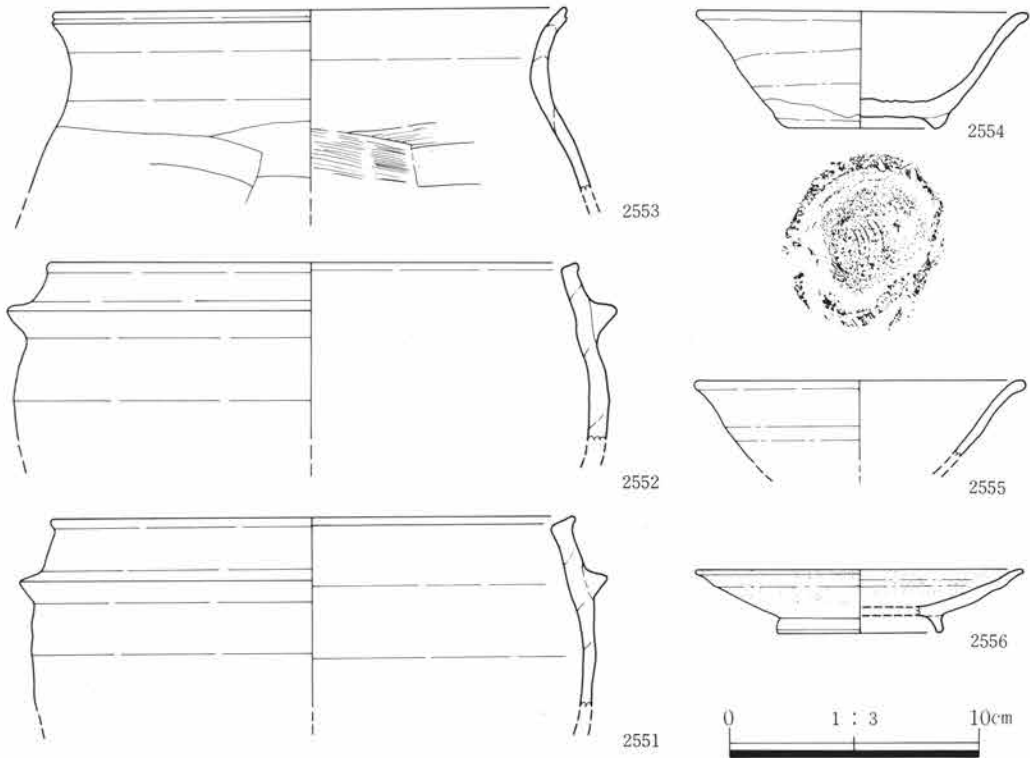


- I 地区A区94号住居跡貯蔵穴土層説明 (I-I')
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 少量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
 - 3 褐色土 やや多量のローム粒子を含む。



第522図 I 地区A区94号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物



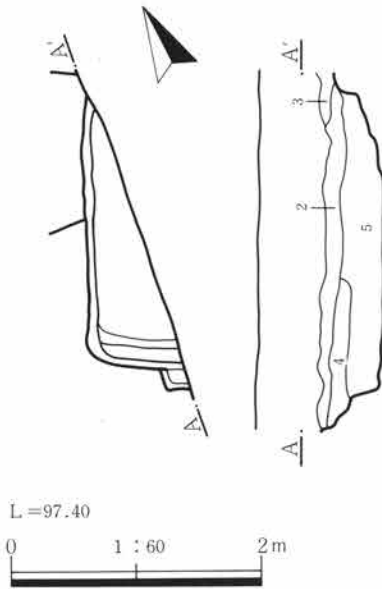
第523図 I地区A区94号住居跡遺物図

第154表 I地区A区94号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2551	羽釜	器高:(75mm)口径:[206mm]底径:—最大径:[232mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰オリーブ。	口縁部～体部上端はやや内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部～鑿部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。
2552	羽釜	器高:(70mm)口径:[210mm]底径:—口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質黄褐。	口縁部～体部上端は内湾。外面:口縁部～鑿部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。
2553	甕	器高:(72mm)口径:[204mm]底径:—口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は寛削り。内面:口縁部は横なで、体部は寛なで。	住居内南西部床直内外面に油煙付着
2554	椀	器高:46mm口径:[130mm]底径:60mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。オリーブ黒。	内外面共に燻してある。口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	竈内。

(1) 竪穴住居跡

2555	椀	器高: (31mm) 口径: 131mm 底径: 一口縁部～底部 $\frac{2}{3}$ 残	直径 2～3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明褐色。	内外面共に部分的に燻しあり。口縁端部は外湾。内外面共に口縁部～体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2556	皿 灰釉陶器	器高: 25mm 口径: [130mm] 底径: [66mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は高台貼り付け。外面: 口縁部～体部は轆轤なで。内面: 口縁部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。



I 地区 A 区 96 号住居跡土層説明

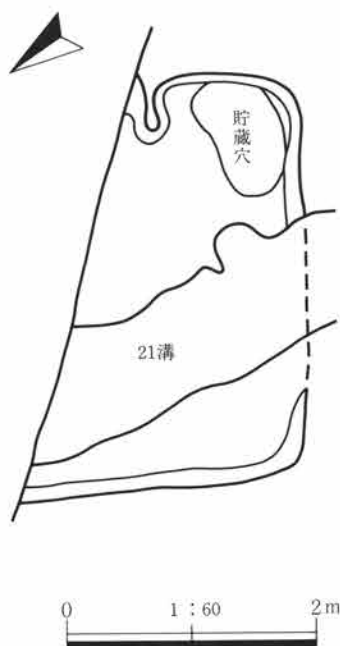
- 1 表土 浅間A軽石を含む。
- 2 褐色土 粒子は細かく砂質。
- 3 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・少量の焼土粒子を含む。

第524図 I 地区 A 区 96 号住居跡遺構図

I 地区 A 区 96 号住居跡 (第524図)

当住居跡は、A区98号住居跡と重複する。新旧関係は、覆土の相違から、当住居跡の方が新しい。当住居跡は、大部分が調査区域外であり、南西部の僅かの検出である。規模は不明であるが、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝等は、調査区域内では検出できなかった。遺物も検出できなかった。当住居跡は、僅かの部分の調査であり、遺物も出土していないことから、時期の限定は困難であるが、周囲の遺構との関係・覆土の状態等から平安時代の住居跡としておく。(井川)



第525図 I地区A区97号住居跡遺構図

I地区A区97号住居跡（第525・526図、第155表）

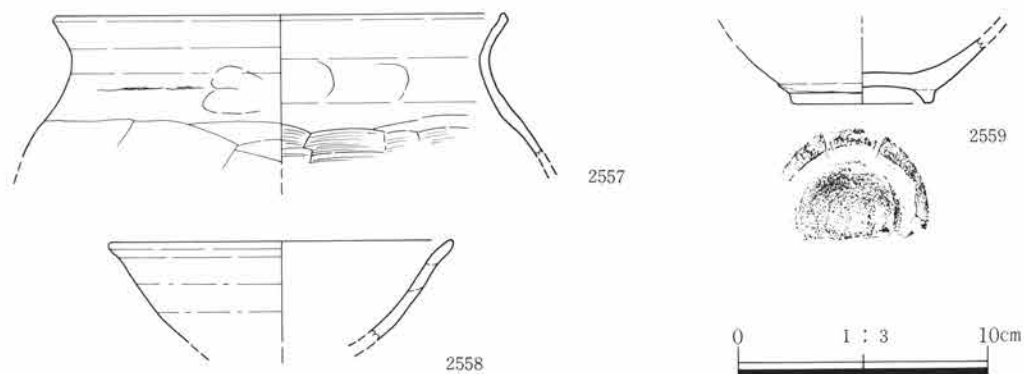
当住居跡は、A区21溝跡と重複する。新旧関係は、A区21溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北側の半分が調査区域外のために不明であるが、東西方向は約3.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約10～15cmであり、残存状態は悪い。当住居跡は、掘形での検出であるが、部分的に検出できた。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。北側半分は調査区域外であるが、南側部分の袖の痕跡と、燃烧部の焼土を確認できた。竈の右脇、南東部隅からはピットが検出できた。規模は、長軸約90cm・短軸約60cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。ピットの覆土中には、焼土・炭化物が含まれており、ピットは貯蔵穴と考えられる。柱穴・壁溝は確認できなかった。

遺物は、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半～10世紀前半である。

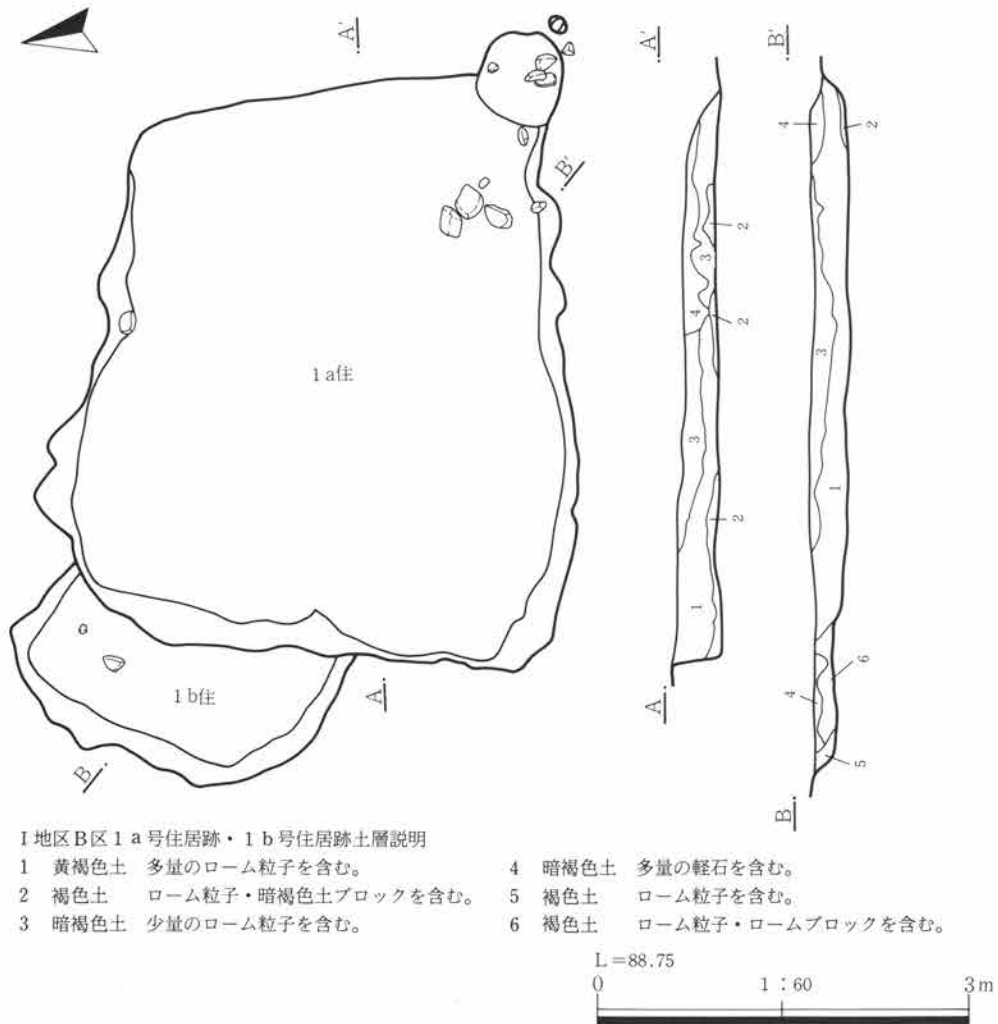
（井川）



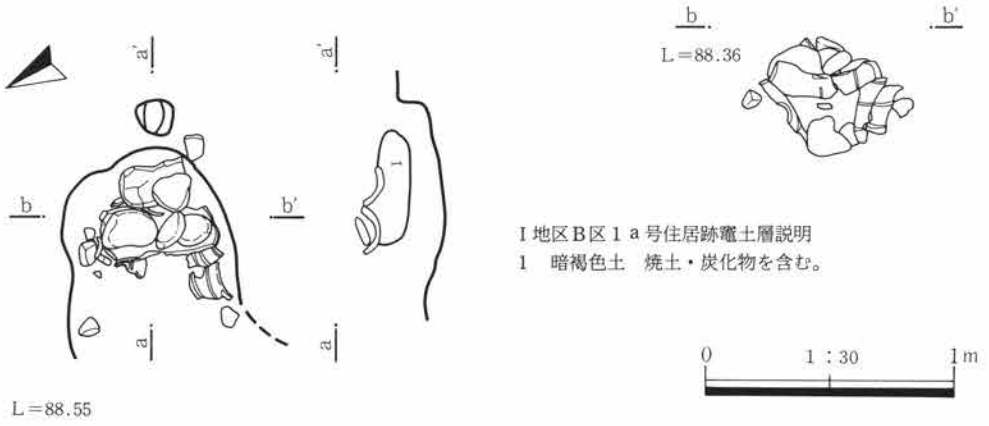
第526図 I地区A区97号住居跡遺物図

第 155 表 I 地区 A 区 97 号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
2557	甃	器高:(56mm)口径: [180mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3~4 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内床下。
2558	椀	器高:(40mm)口径: [136mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は轆轤なで。	住居内覆土。
2559	椀	器高:(27mm)口径: 一底径:56mm体部下 半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質浅黄。	底部は回転糸切り後高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内北西隅床下

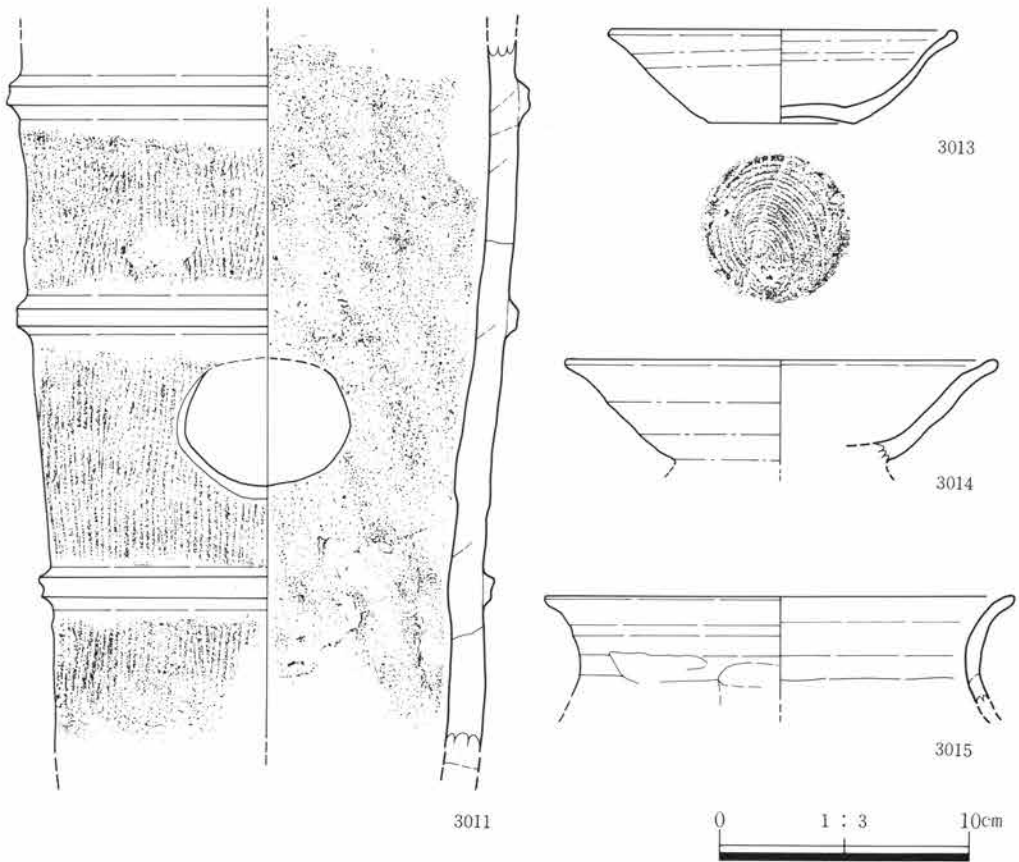


第 527 図 I 地区 B 区 1 a・1 b 号住居跡遺構図 (1)



I地区B区1a号住居跡竈土層説明
1 暗褐色土 焼土・炭化物を含む。

第528図 I地区B区1a号住居跡遺構図(2)



第529図 I地区B区1a号住居跡遺物図(1)

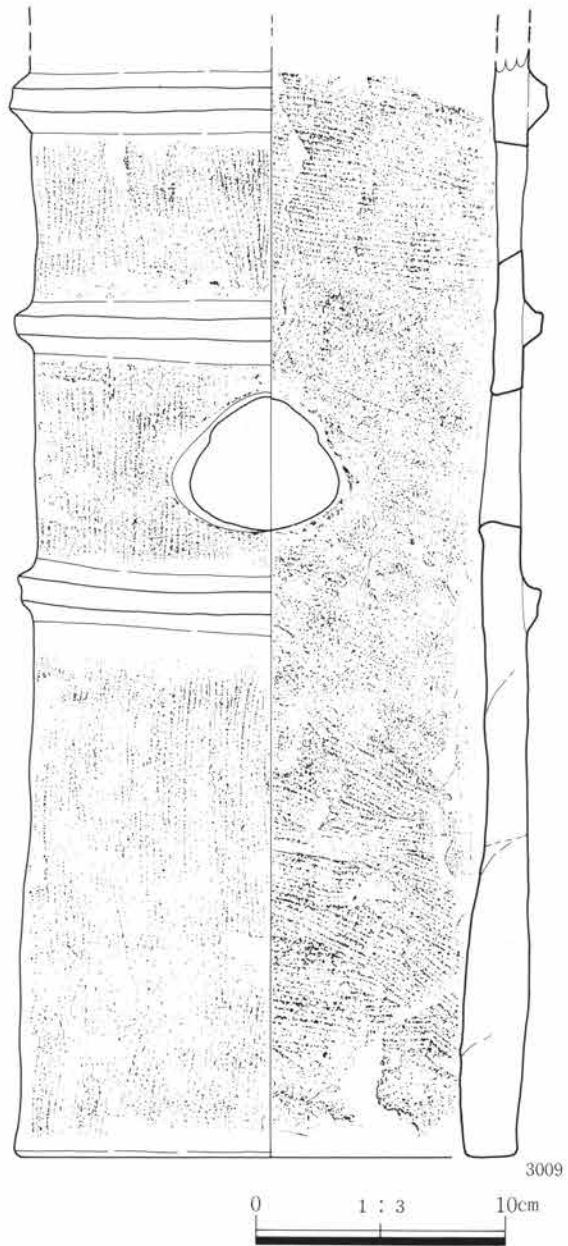
I 地区B区1 a号住居跡 (第527～531図、第156表)

当住居跡は、B区1 b号住居跡・B区1号古墳と重複する。B区1 b号住居跡との新旧関係は、当住居跡がB区1 b号住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。B区1号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝覆土中に当住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約4.5m・南北方向約3.7mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-77°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、西側では約40cmを測り良好であるが、東側ではほとんど確認できなかった。床面は、軟弱な部分があり、凹凸が多い。壁溝は、確認することができなかった。

竈は、南東部の隅に築かれている。残存状態は良好であり、袖・天井部・トンネル状になった煙道部を確認することができた。袖・天井部には、構築材として埴輪が転用されている。竈の構築材に手近な材料を使用し、当時の古墳には、採集できる状態で埴輪が残っていたことを暗示している。竈・天井は暗褐色土と埴輪を用いて、築かれている。燃焼部・煙道部からは、焼土・炭化物の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴は確認することができなかった。

遺物は、竈構築材に使用された円筒埴輪の他に、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の杯が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。
(井川)



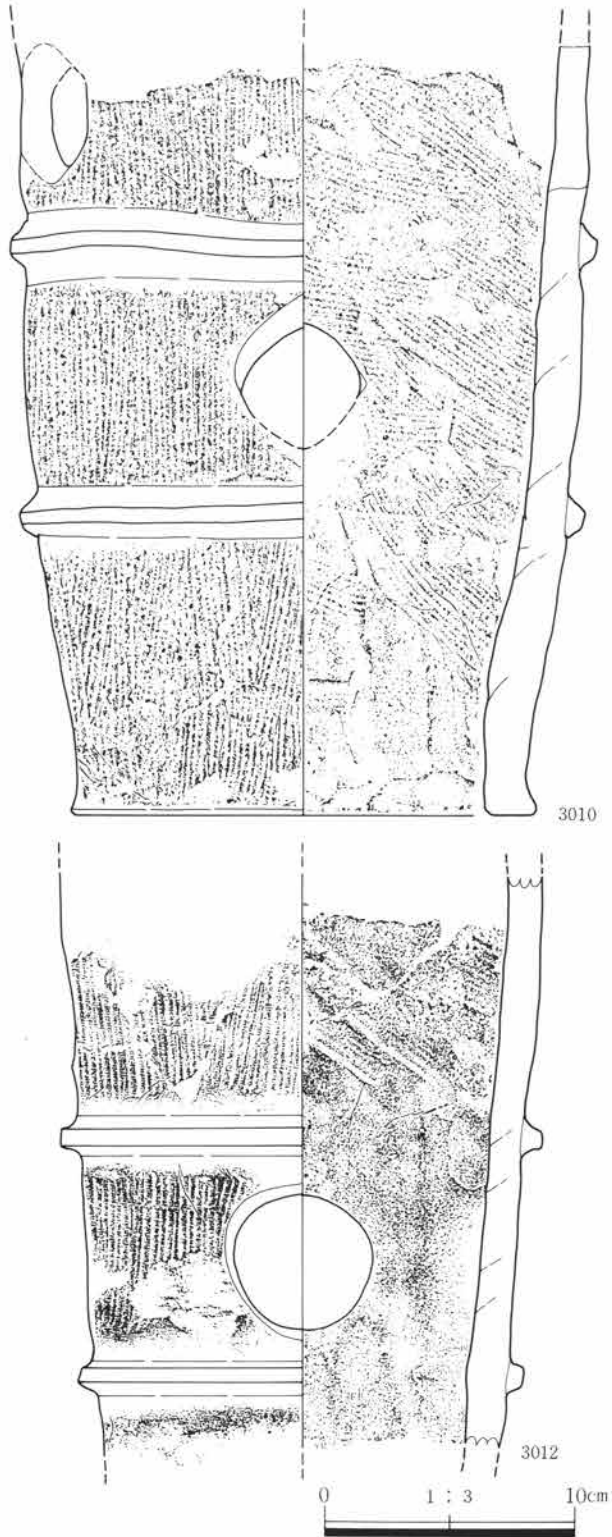
第530図 I 地区B区1 a号住居跡遺物図 (2)

I地区B区1b号住居跡（第527・532図、第157表）

当住居跡は、B区1a号住居跡と重複する。新旧関係は、B区1a号住居跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、B区1a号住居跡に東側部分が破壊されており不明であるが、南北方向は約2.4mであり、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約10～15cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱であり、凹凸が多い。壁溝・竈・柱穴・貯蔵穴は、検出することができなかった。

遺物は酸化焼成の羽釜が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。（井川）



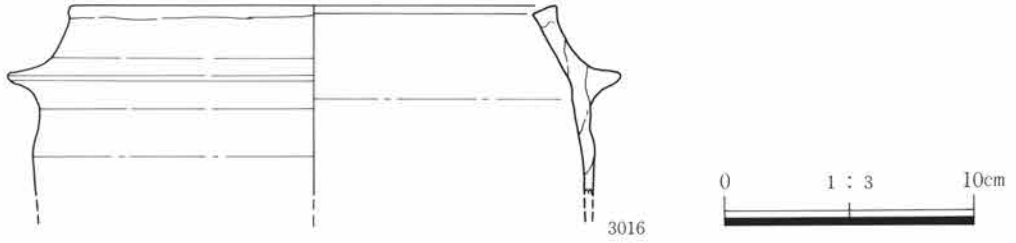
第531図 I地区B区1a号住居跡遺物図（3）

第 156 表 I 地区 B 区 1 a 号住居跡遺物観察表

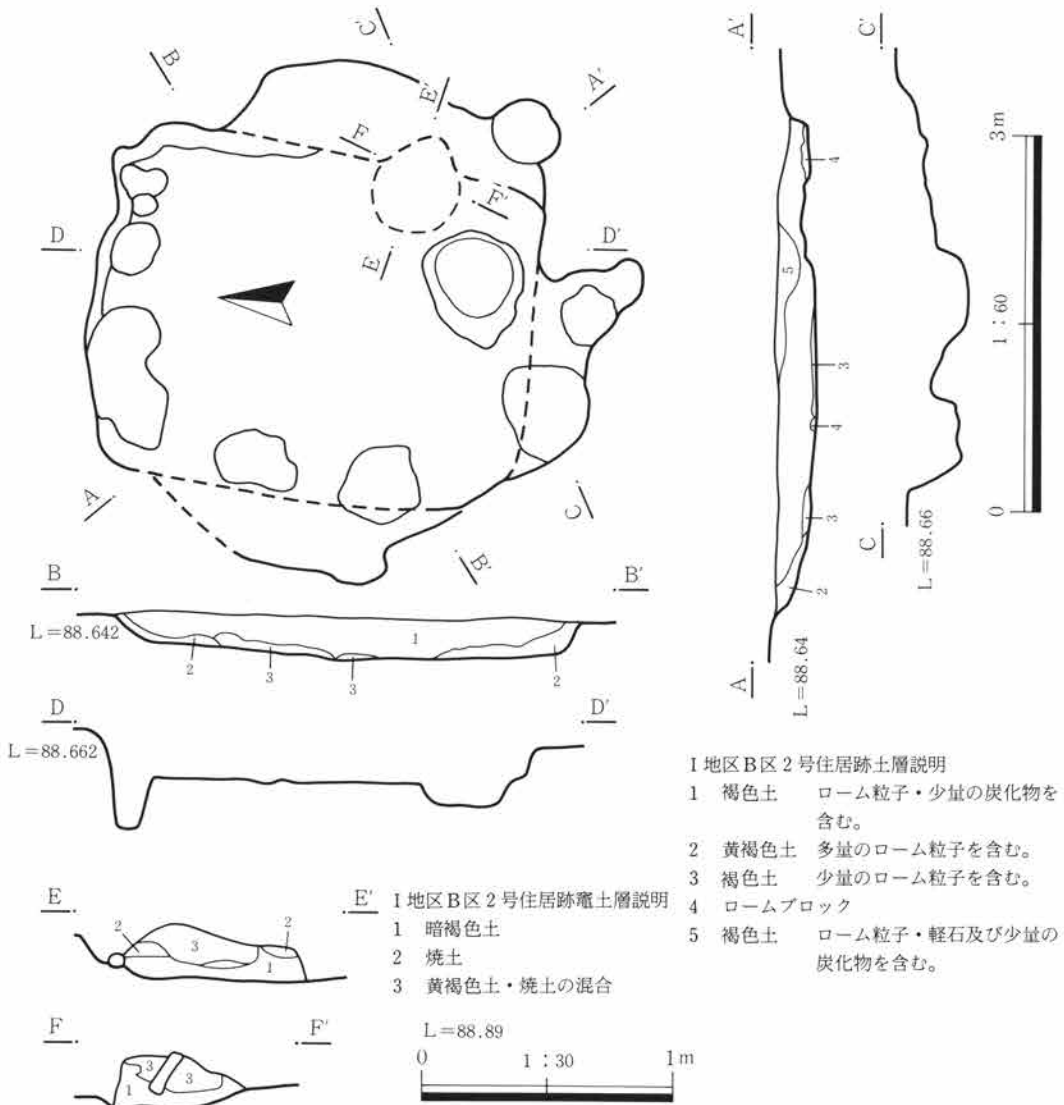
番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出 土 状 態 備 考
3009	円筒埴輪	器高:(437mm)口径: 一径:197mm口径: 200mm器厚:12~15mm 体部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3~4 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	3 段の凸帯が残る。凸帯間 に 2 孔、計 4 孔の不整円形 穿孔が残る。外面:縦ハ ケ目。内面:横ハケ目。	竈内。竈構築材に 転用されたもの。 内外面に油煙付着
3010	円筒埴輪	器高:(305mm)口径: 一径:226mm底径: 185mm器厚:20~12mm 体部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	2 段の凸帯が残る。凸帯間 に 2 孔、計 4 孔の不整円形 穿孔が残る。外面:縦ハ ケ目。内面:横ハケ目・斜 めハケ目。	竈内。竈構築材に 転用されたもの。 内外面に油煙付着
3011	円筒埴輪	器高:(280mm)口径: 一径:[195mm]底 径:一器厚:15~12mm 体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明褐。	3 段の凸帯が残る。3 段に 2~3 個の不整円形穿孔が あるが、確認できるのは、 計 4 孔。外面:縦ハケ目。 内面:なでであるが、僅か に横ハケ目が残る。	竈内。竈構築材に 転用されたもの。 内外面に油煙付着
3012	円筒埴輪	器高:(225mm)口径: 一径:[185mm]底 径:一器厚:15~13mm 体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明赤褐。	2 段の凸帯が残る。凸帯間 には 2~3 個の不整円形穿 孔が推定できるが、確認で きるのは 3 孔。外面:縦ハ ケ目。内面:なでであるが 僅かに斜めハケ目が残る。	竈内。竈構築材に 転用されたもの。 内外面に油煙付着
3013	杯	器高:37mm口径:140 mm底径:59mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。灰白。	口縁部はやや外湾し、口縁 端部は僅かに内湾。轆轤右 回転。内面口縁部に沈線状 の段あり。底部は回転糸切 り。外面:口縁部は横なで、 体部は轆轤なで。内面:口 縁部は横なで、体部底部は 轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に燻しあり。
3014	碗	器高:(42mm)口径: [172mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部は僅かに外湾。底部 は高台貼り付け。内面口縁 部に沈線状の段。外面:口 縁部は横なで、体部は轆轤 なで。内面:口縁部は横な で。体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床直 内外面に油煙付着
3015	甕	器高:(42mm)口径: [186mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。 外面:口縁部は横なで、頭 部に指頭痕、体部は篋削 り。内面:口縁部は横なで、 体部は篋なで。	住居内覆土。

第 157 表 I 地区 B 区 1 b 号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出 土 状 態 備 考
3016	羽 釜	器高:(75mm)口径: [194mm]底径:一最大 径:[244mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い褐。	口縁部は内湾。最大径は 鋸部。外面:口縁部~鋸部 は横なで、体部上半は轆 轤なで。内面:口縁部は横 なで、体部上半は轆轤な で。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。



第532図 I地区B区1b号住居跡遺物図



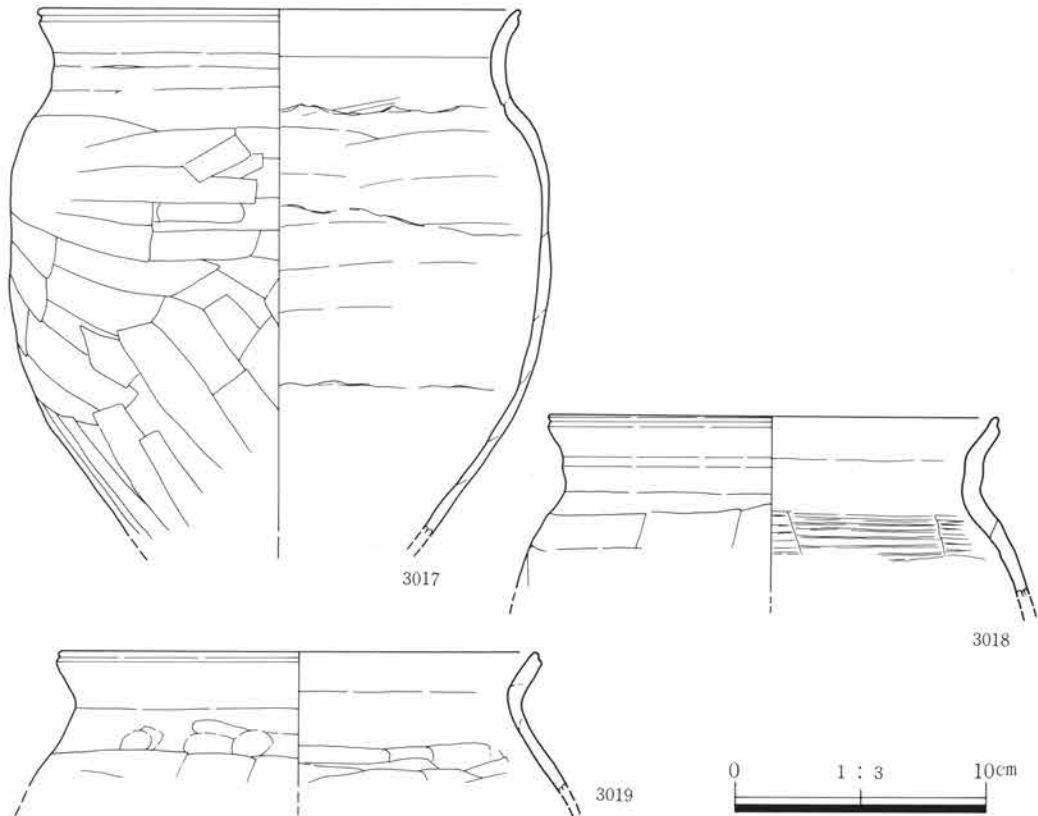
第533図 I地区B区2号住居跡遺構図

I 地区B区2号住居跡 (第533~535図、第158表)

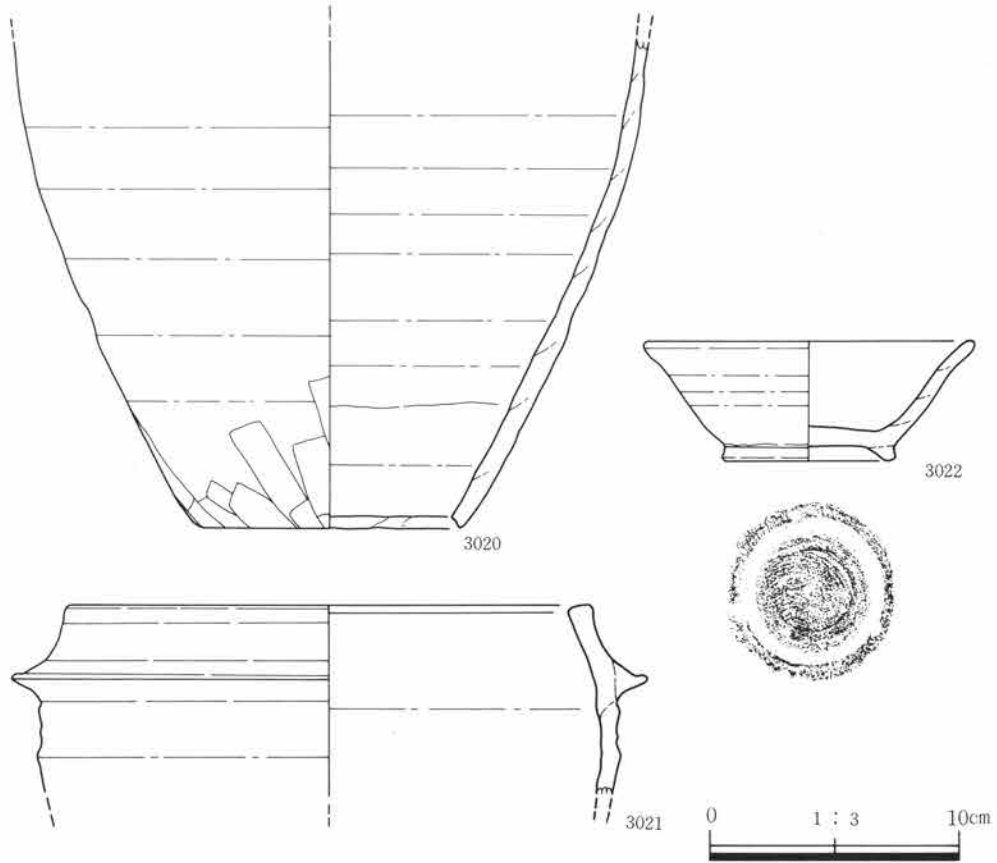
当住居跡に重複関係はないが、近世遺構の小ピットによる攪乱が多い。当住居跡は攪乱が多く規模の断定はできないが、東西方向約2.8m・南北方向約3.5mと推定しており、平面形は、隅丸長方形を呈するものと考えられる。主軸はN-4°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約20cmであるが、残存状態は悪い。床面は、軟弱であり、やや凹凸が多い。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。袖・天井部は検出することができなかったが、燃烧部・煙道部からは、構築材の一部に使用されたと考えられる石及び焼土・炭化物の堆積が確認できた。竈の右斜め脇、南東部隅付近からは、住居内ピットが検出できた。規模は、直径約80cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。貯蔵穴の可能性が考えられる。住居内には、小ピットが多くあるが、新しいものも多く、柱穴と断定できるピットはない。壁溝は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の羽釜・甑・甕、還元焼成の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。
(井川)



第534図 I 地区B区2号住居跡遺物図(1)



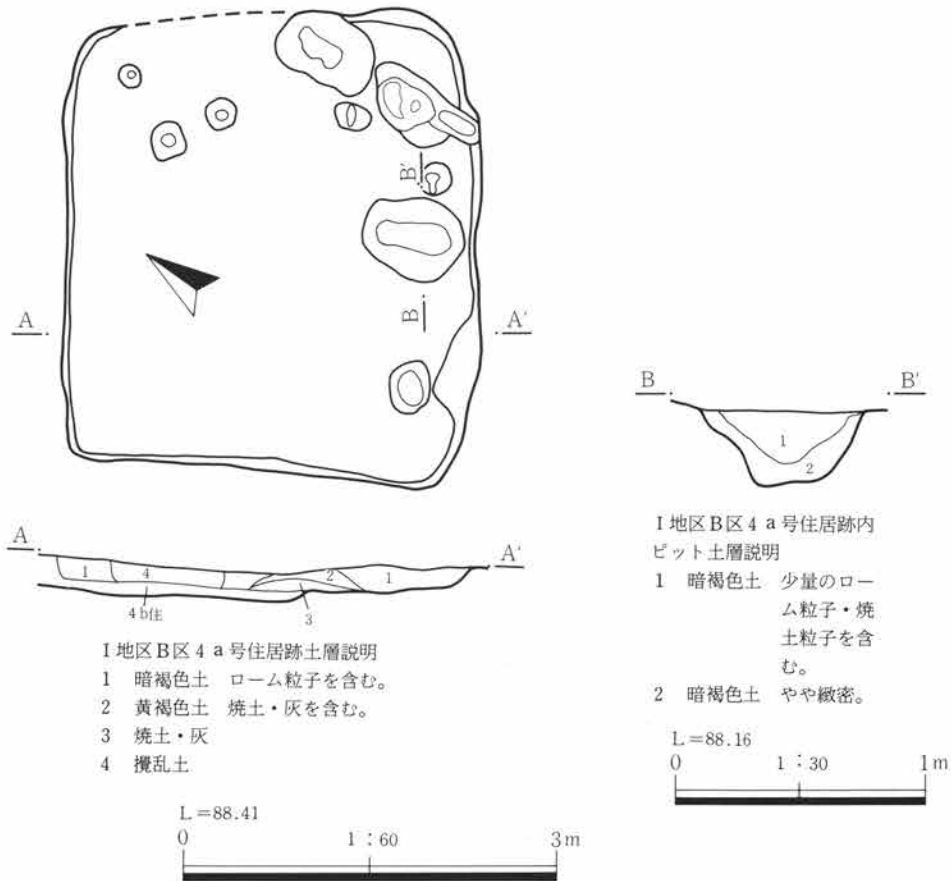
第535図 I地区B区2号住居跡遺物図(2)

第158表 I地区B区2号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3017	甕	器高:(208mm)口径:[192mm]底径:一最大径:[215mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。最大径は体部中央。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部床上5cm。内外面に油煙付着。
3018	甕	器高:(71mm)口径:[178mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着
3019	甕	器高:(54mm)口径:[190mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南東部床上10cm。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

3020	甗	器高:(192mm)口径: 一底径:104mm 体部 ~底部 $\frac{2}{3}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	外面:体部は轆轤なで、体部下端は轆 轤なで後窠削り。内面:体部~底部は 轆轤なで。	住居内南東部床直 内外面に油煙付着
3021	羽 釜	器高:(75mm)口径: [210mm]底径:一最大 径:[252mm]口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い橙。	口縁部は内湾。最大径は鋸部。外面: 口縁部~鋸部は横なで、体部上端は 轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体 部上端は轆轤なで。	住居内南東部床上 5cm。内外面に油 煙付着。
3022	椀	器高:48mm口径:[132 mm]底径:68mm口縁部 ~高台部 $\frac{2}{3}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 浅黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで 内面:口縁部は横なで、体部~底部は 丁寧な轆轤なで。	住居内北東部床上 10cm。内外面に油 煙付着。

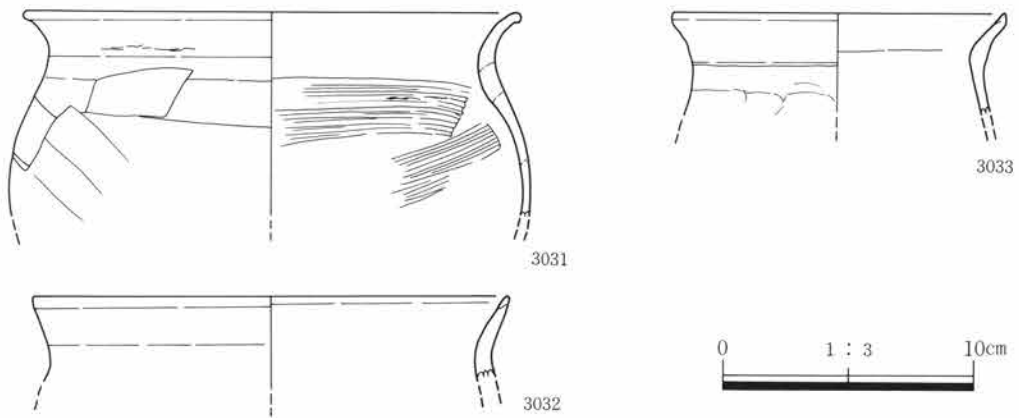


第536図 I地区B区4a号住居跡遺構図

I 地区B区4 a号住居跡 (第536・537図、第159表)

本住居跡は、耕作土下の黄褐色土中において確認された。4 b、4 c、4 d号住居跡とは重複関係にあるが、遺構までの土層が薄いため遺構の一部はかなり削平され不明な点が多い。本住居跡は最も新しい。壁高が低く、東辺は推定線である。規模は東西方向約3.6m、南北方向約3.2mを測り、主軸はN-54°-Eである。平面形は、東西にやや長い方形を呈する。

床面は4 b号、4 d号住居跡覆土を使用している。柱穴は西を除いて3本が確認された。径は約20~30cm、床面からの深さ約20~30cmである。竈はその痕跡をほとんど残さないが、南隅にあったと考えられる。遺物は中央南隅寄りに酸化焼成の甕が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)

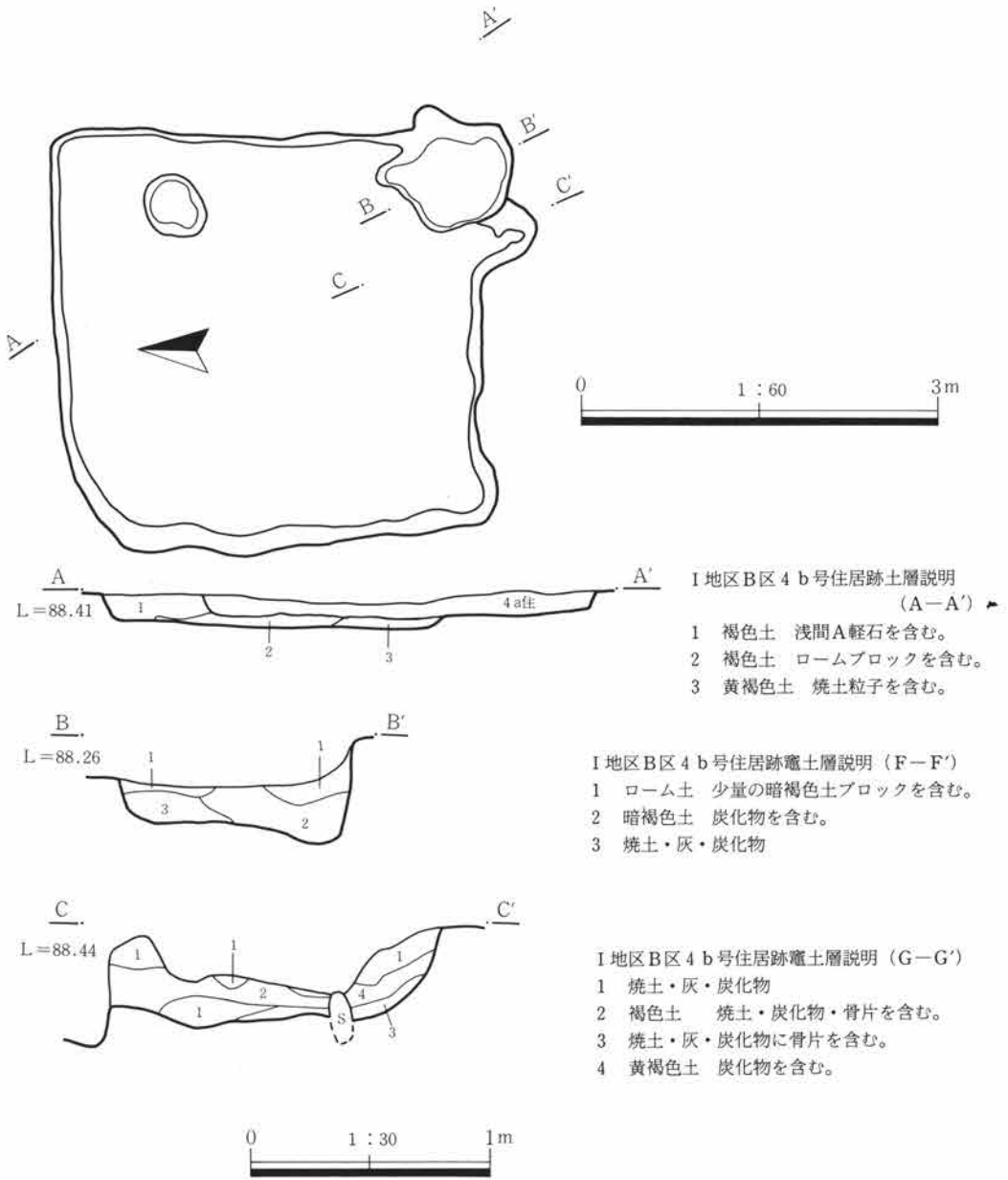


第537図 I 地区B区4 a号住居跡遺物図

第159表 I 地区B区4 a号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3031	甕	器高:(80mm)口径:[198mm]底径:一最大径:[208mm]口縁部~体部上半残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内南西部床直内外面に油煙付着
3032	甕	器高:(34mm)口径:[190mm]底径:一口縁部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。内外面共に口縁部は横なで。	住居内北西部床上10cm。内外面に油煙付着。
3033	甕	器高:(40mm)口径:[132mm]底径:一口縁部~体部上端残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端に指頭痕。内面:口縁部は横なで、体部上端はなで。	住居内南西部床直内外面に油煙付着

(1) 竪穴住居跡



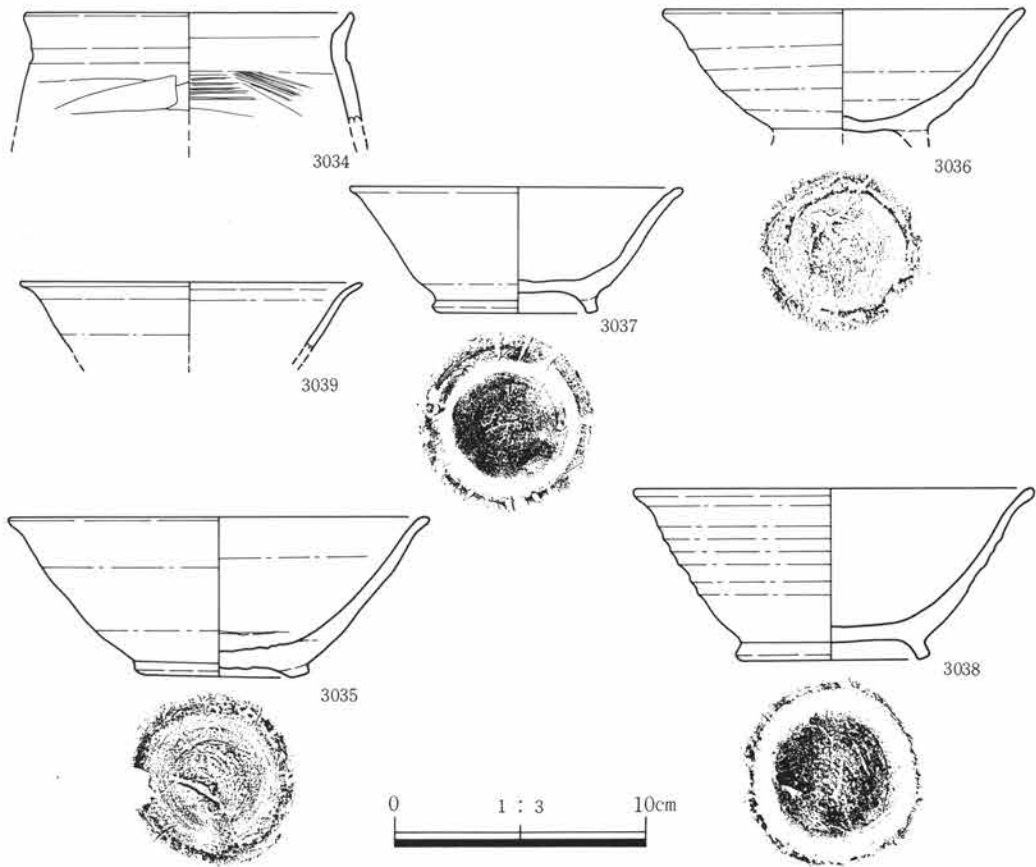
第538図 I 地区B区4 b号住居跡遺構図

I 地区B区4 b号住居跡 (第538・539図、第160表、図版81)

本住居跡は、4 a号同様耕作土下の黄褐色土中において確認された。4 a・4 c・4 d号住居跡とは重複関係にある。4 a住居跡より古い。規模は東西方向約3.4m、南北方向約3.6mあり、主軸はN-5°-Wである。平面形は南北に長い方形を呈する。

第4章 平安時代の遺構と遺物

床面西半分はロームを踏み固めているが、東半分は4c号住居跡とほぼ同じレベルで、ロームを床としている。柱穴は主柱穴2本は径約30cmと40cm、床面からの深さ約20cmある。西側2本は明確な掘り方は確認できなかった。竈は南辺東寄りにあるが、主体部は4a号住居跡により一部が破壊されている。残された竈部分は痕跡を残す焼土と灰と石が確認できた。遺物は酸化焼成の甕・椀、還元焼成の椀が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)



第539図 I地区B区4b号住居跡遺物図

第160表 I地区B区4b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3034	甕	器高:(44mm)口径:[132mm]底径:一口縁部~体部上端×残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内中央部床上5cm。内外面に油煙附着。

(1) 竪穴住居跡

3035	椀	器高:63mm口径:[168mm]底径:68mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰褐色。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	竈前床直。内外面に油煙付着。
3036	椀	器高:(48mm)口径:144mm底径:一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐色。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北東部床直内外面に油煙付着
3037	椀	器高:50mm口径:[132mm]底径:66mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は横なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	竈内。内面に油煙付着。
3038	椀	器高:68mm口径:[158mm]底径:77mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。黄褐色。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3039	椀	器高:(28mm)口径:[136mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	口縁部はやや外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

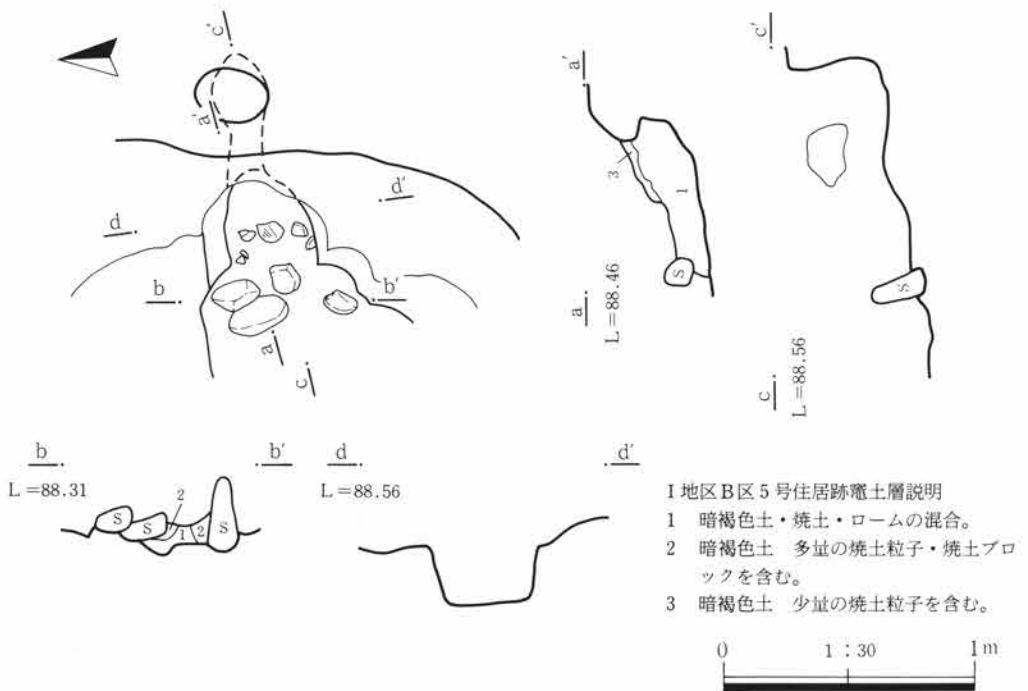
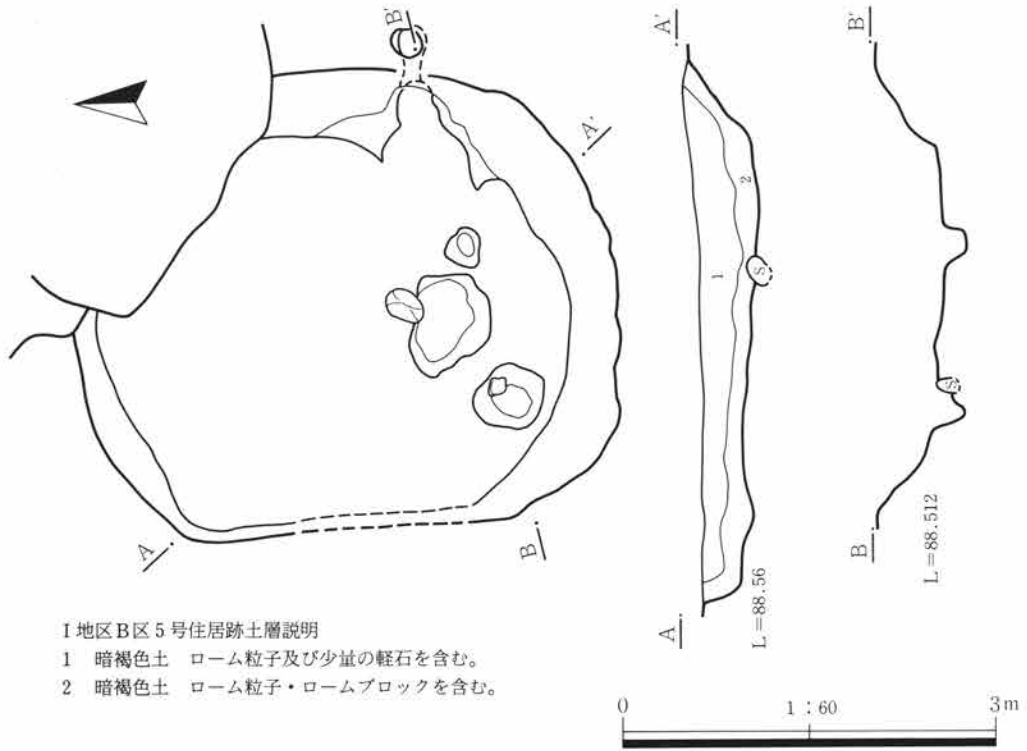
I 地区B区5号住居跡(第540・541図、第161表、図版81)

当住居跡は、B区23号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、東西方向約3.5m・南北方向約4.3mであり、平面形は、楕円形に近い胴の張った隅丸長方形を呈し、主軸はN-3°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約40～50cmを測り、残存状態は良好であるが、ただらとした傾斜を持った壁である。床面は、やや軟弱であり、壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南寄りに築かれている。残存状態は比較的良好であり、地山をトンネル状に掘り込んだ煙道も確認することができた。燃烧部は、斜めの壁を掘り込んで作られており、袖の先端部は河原石を地山に埋め込んで固めてあった。天井部は破壊されていたが、斜めの壁を掘り込んだ燃烧部の中央には、支脚として使用された石が、地山に埋め込まれたままで検出できた。住居内南側部分からは、2基のピットが検出できた。中央よりのピットは、規模が長軸約80cm・短軸約50cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。南西部隅に近いピットは、規模が直径約50cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。後者のピットは、貯蔵穴と考えることも可能である。壁溝・柱穴は検出できなかった。

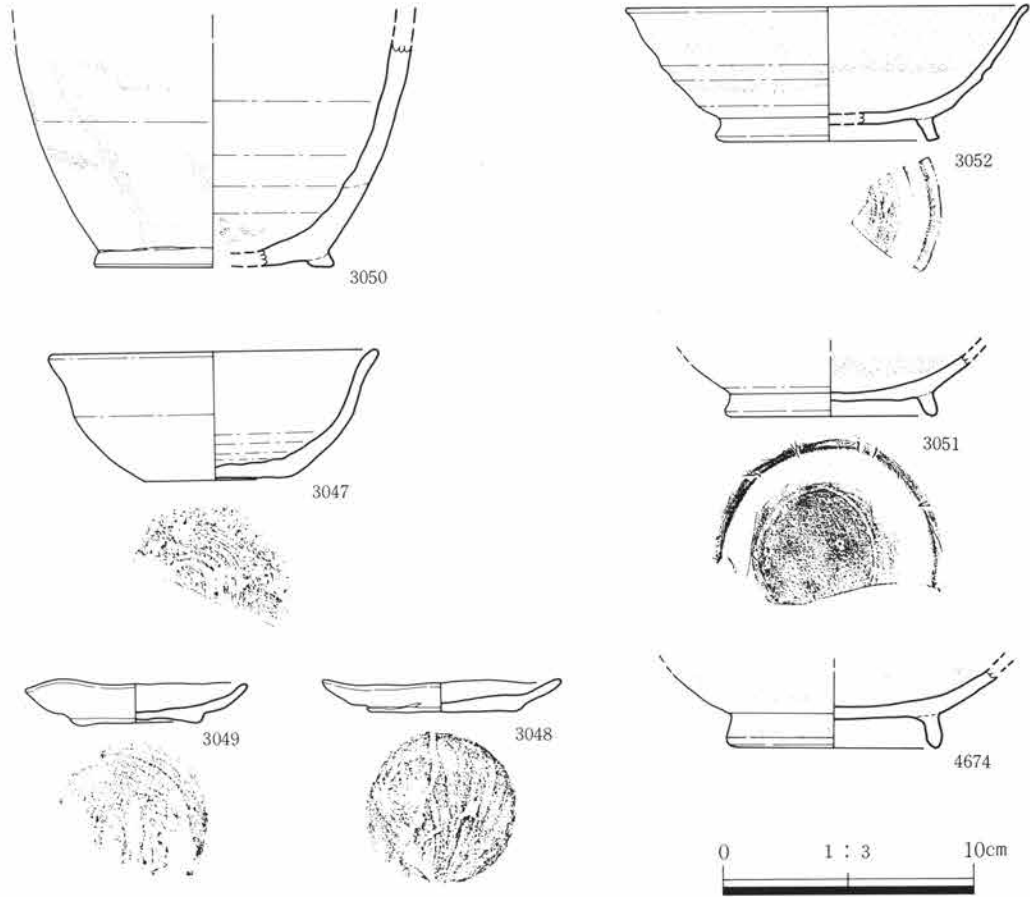
遺物は酸化焼成の杯、灰釉陶器の椀・瓶が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は、11世紀後半である。

(井川)



第540図 I 地区B区5号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



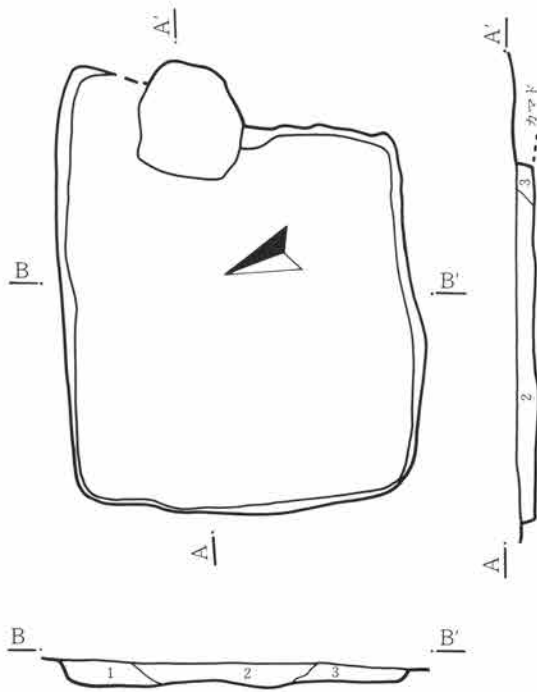
第541図 I地区B区5号住居跡遺物図

第161表 I地区B区5号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3047	杯	器高:50mm口径:[132mm]底径:[56mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで。体部はなで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3048	杯	器高:12mm口径:95mm底径:60mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。やや硬質。酸化。鈍い黄褐。	口縁部は僅かに内湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部はなで。内面:口縁部～底部はなで。	竈内。内面に油煙付着。
3049	杯	器高:16mm口径:[88mm]底径:[50mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。やや硬質。酸化。黄褐。	口縁部はやや内湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部はなで。内面:口縁部～底部はなで。	住居内南東部床直

第4章 平安時代の遺構と遺物

3050	瓶 灰釉陶器	器高:(88mm)口径: 一底径:[96mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。硬質。還元。 灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体 部下半は丁寧な轆轤なで。内面:体部 下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3051	椀 灰釉陶器	器高:(24mm)口径: 一底径:85mm体部下 半~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部下半は轆轤なで。内面:体 部下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3052	椀 灰釉陶器	器高:53mm口径:[160 mm]底径:[88mm]口縁 部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部下半は轆轤なで。内面:体 部下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
4674	椀 灰釉陶器	器高:一口径:一底 径87mm体部下半~高 台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体 部下半は轆轤なで。内面:体部下半 ~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に墨が付着。内 面底部が擦れてお り、硯に転用。



I 地区 B 区 7 号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。



第542図 I 地区 B 区 7 号住居跡遺構図(1)

I 地区 B 区 7 号住居跡 (第
542~545図、第162表、図版82)

当住居跡は、B区3号古墳と重複する。新旧関係は、当住居跡の壁・床がB区3号古墳の周溝覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

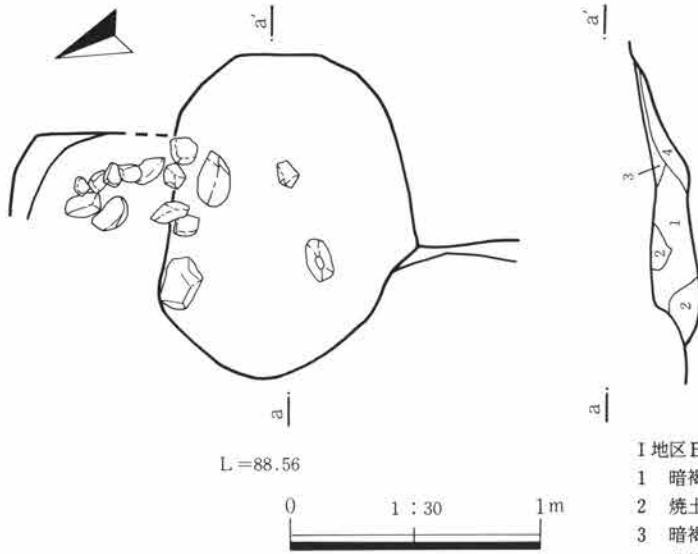
当住居跡の規模は、東西方向約3.1m・南北方向約2.8mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-73°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約5~15cmであり、特に南側の残存状態は悪い。床面は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。壁溝は確認できなかった。

竈は、東側壁のやや北よりに築かれている。袖は破壊されており、確認できなかったが、燃焼部の上から、構築材に使用されたと考えられる河原石が検出できた。竈の左脇からも、拳大から人頭台の河原石が多く検出

(1) 竪穴住居跡

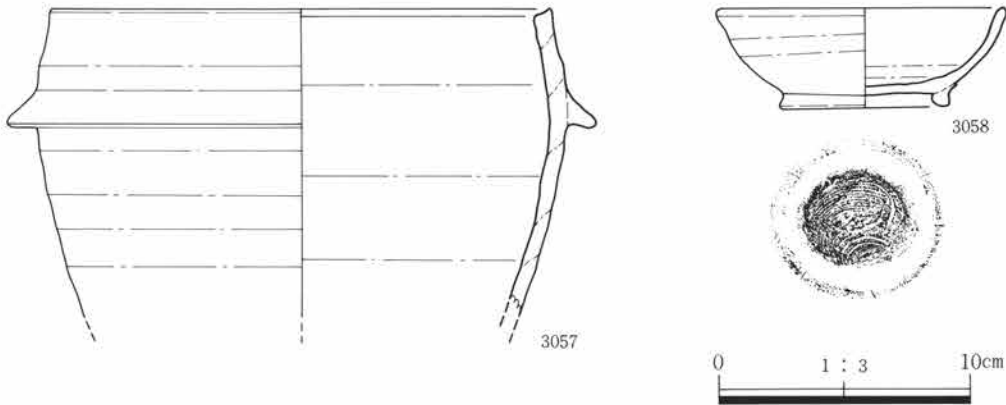
できたが、竈の位置がB区3号古墳の墳丘裾部に当たることから、燃烧部上の河原石も含め、古墳葺石の転用が暗示される。燃烧部・煙道部からは、焼土・炭化物が検出できた。柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、酸化焼成の羽釜・椀・杯の他、砥石・鎌が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀後半である。
(井川)



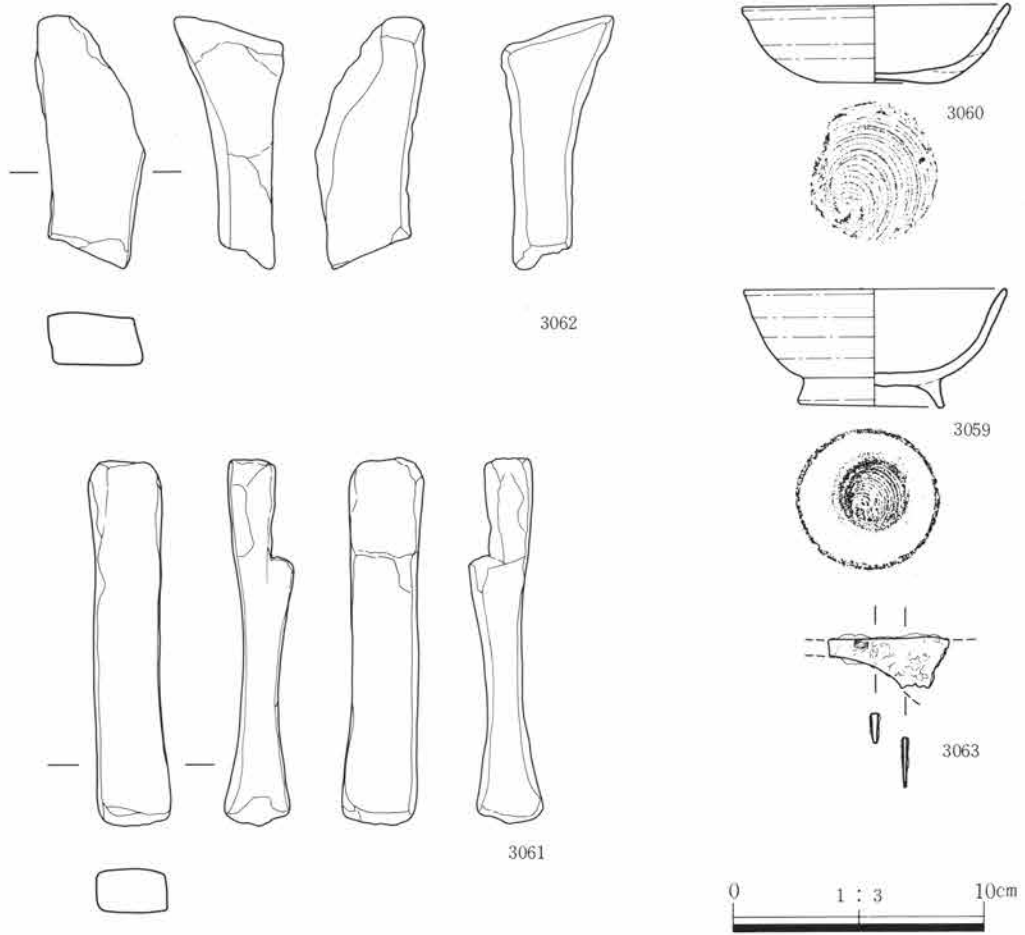
- I地区B区7号住居跡竈土層説明
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。
 - 2 焼土 暗褐色土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。
 - 4 黄褐色土 暗褐色土粒子を含む。

第543図 I地区B区7号住居跡遺構図(2)



第544図 I地区B区7号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物



第545図 I地区B区7号住居跡遺物図(2)

第162表 I地区B区7号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3057	羽釜	器高:(122mm)口径:[200mm]底径:一最大径:[234mm]口縁部～体部上半残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部～体部上端は内湾。最大径は鏝部。外面:口縁部～鏝部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内北西部床直外面に油煙付着。
3058	椀	器高:39mm口径:115mm底径:67mm口縁部～高台部残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内南西部床直
3059	椀	器高:46mm口径:105mm底径:58mm口縁部～高台部残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内南西部床直

(1) 竪穴住居跡

3060	杯	器高:31mm 口径:107mm 底径:48mm 口縁部～底部%残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内南西部床直
3061	砥石	長さ:144mm 幅:30～26mm 厚さ:27～14mm		断面は四角形。四面に使用痕あり。	住居内覆土。
3062	砥石	長さ:(99mm) 幅:36～32mm 厚さ:45～21mm		断面は四角形。四面に使用痕あり。	住居内覆土。
3063	鎌鉄製品	長さ:(48mm) 幅:(20～7mm) 厚さ:(3～1mm)		鎌の茎刃の一部。	住居内覆土。

I 地区B区9 a号住居跡 (第546～550図、第163表、図版83～85)

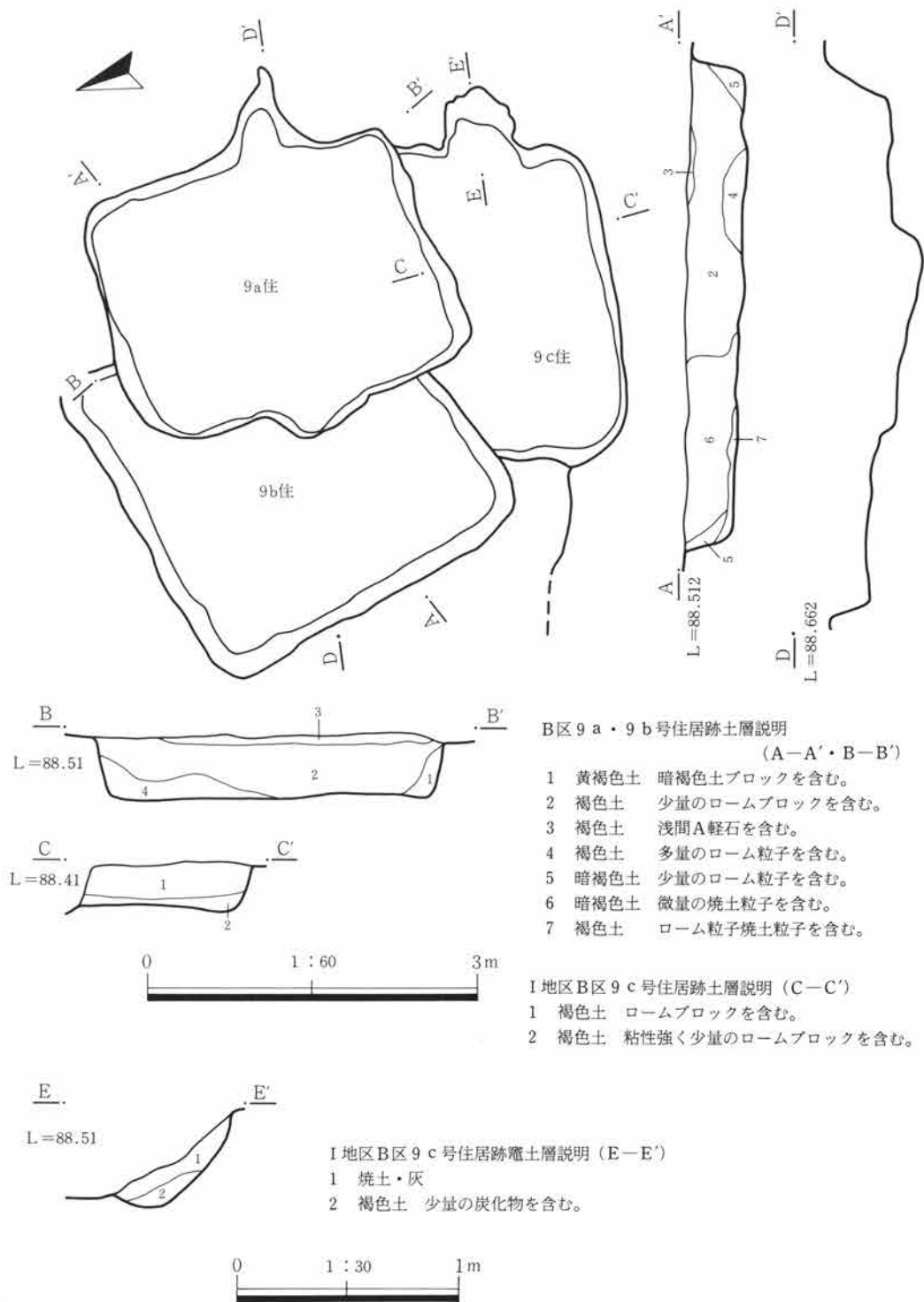
本住居跡は耕作土下、黄褐色土層中において確認された。9 b・9 c・9 a号住居跡と2号井戸と重複する。2号井戸を除いては本住居跡が最も新しい。規模は東西方向約2.3m、南北方向約2.9mを測り、主軸はN-2°-Eである。平面形は南北に長い方形を呈する。床面壁際はローム層であるが、床中央部分は土の締まりも弱く、土坑がある。柱穴は確認できなかった。竈は東辺やや南寄りにあり、本体形状はとどめていないが、奥床下部と、両袖の河原石とが残る。竈中には甕が残る。煙道は立ち上がり部分が壁に残る。遺物は竈で酸化焼成の羽釜・甕・椀が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)

I 地区B区9 b号住居跡 (第546・551図、第164表、図版85)

本住居跡は耕作土下、黄褐色土層中において確認された。9 a・9 c・9 d号住居跡と重複し、9 a号住居より古く、9 c号住居跡より新しい。規模は、東西方向約3.1m、南北方向約3.2mを測るが、東南部分は重複のため推定である。平面形は方形を呈する。主軸はN-8°-Wである。床面は固いローム面となっている。竈は9 a号住居跡中央床面にある落ち込みと焼土の関係から、東南隅に設けられたと考えられるが、9 a号住居跡により破壊されている。遺物は、酸化焼成の甕・椀、還元焼成の椀が出土している。遺構の時期は平安時代とする。(秋池)

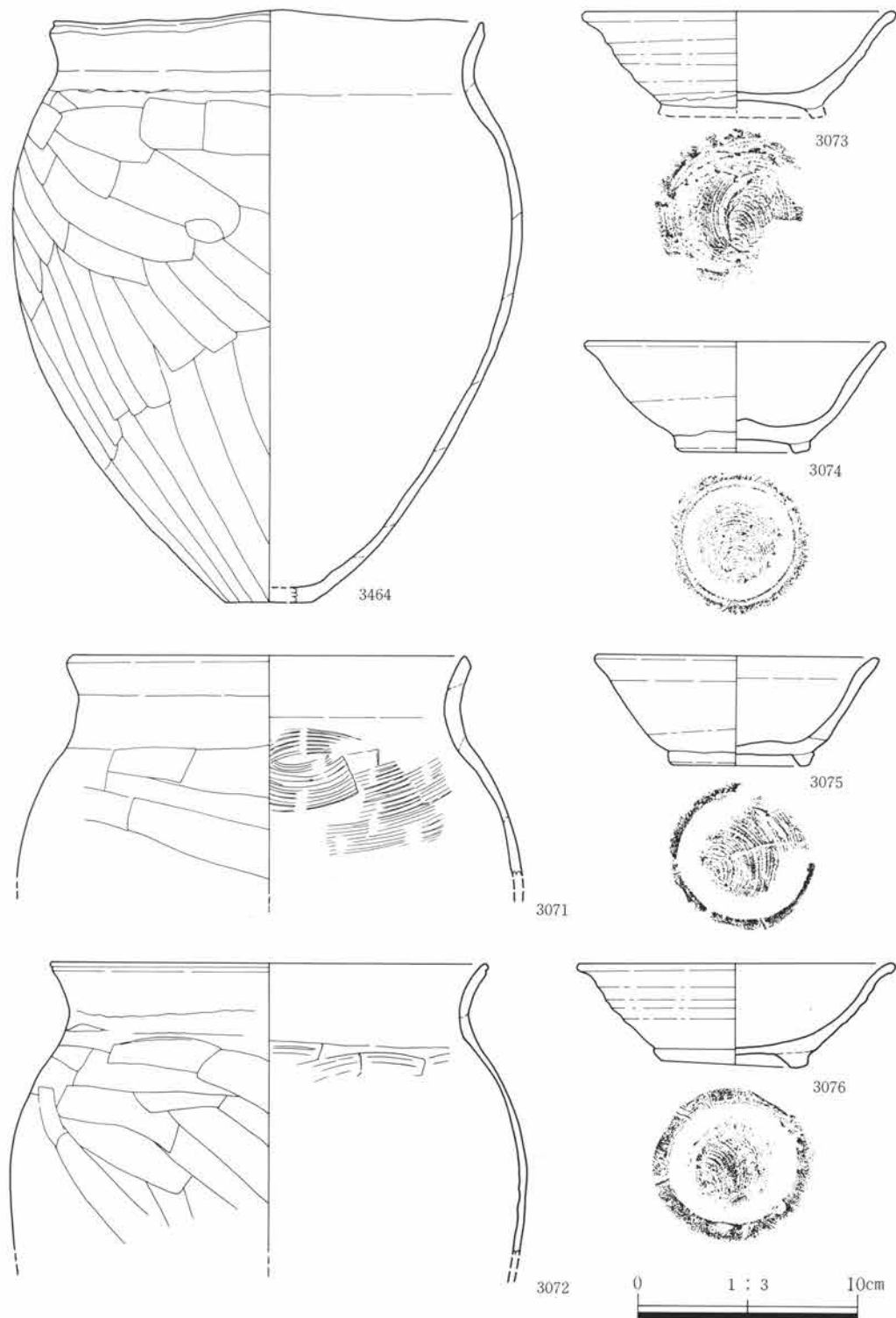
I 地区B区9 c号住居跡 (第546・552図、第165表、図版85)

本住居跡は耕作土下、黄褐色土層中において確認された。9 a・9 b・9 d号住居跡と3号古墳周堀部分と重複する。9 a・9 b号住居跡より古く、9 d号住居跡より新しい。規模は東西方向約2.8mであるが、北半分は重複のため推定である。平面形は南北とやや長い方形を示すと考えられる。床面はローム層を固めている。柱穴は確認できなかった。竈は東辺やや南寄りにあるが主体部は失われている。遺物は、竈付近から、還元焼成の羽釜・椀・甕・杯、灰釉陶器の椀が出土している。出土遺物から、平安時代とする。(秋池)

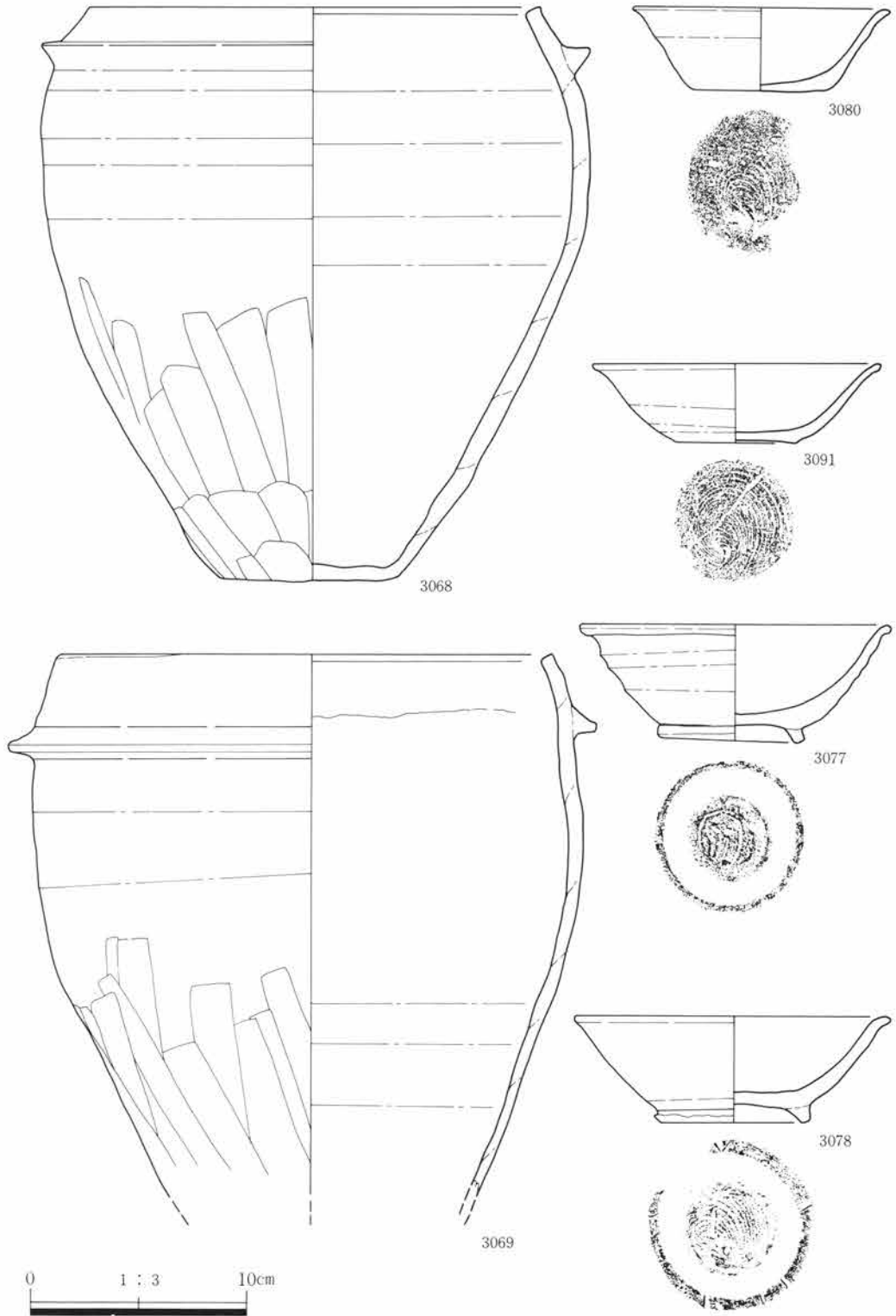


第546図 I地区B区9a・9b・9c号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡

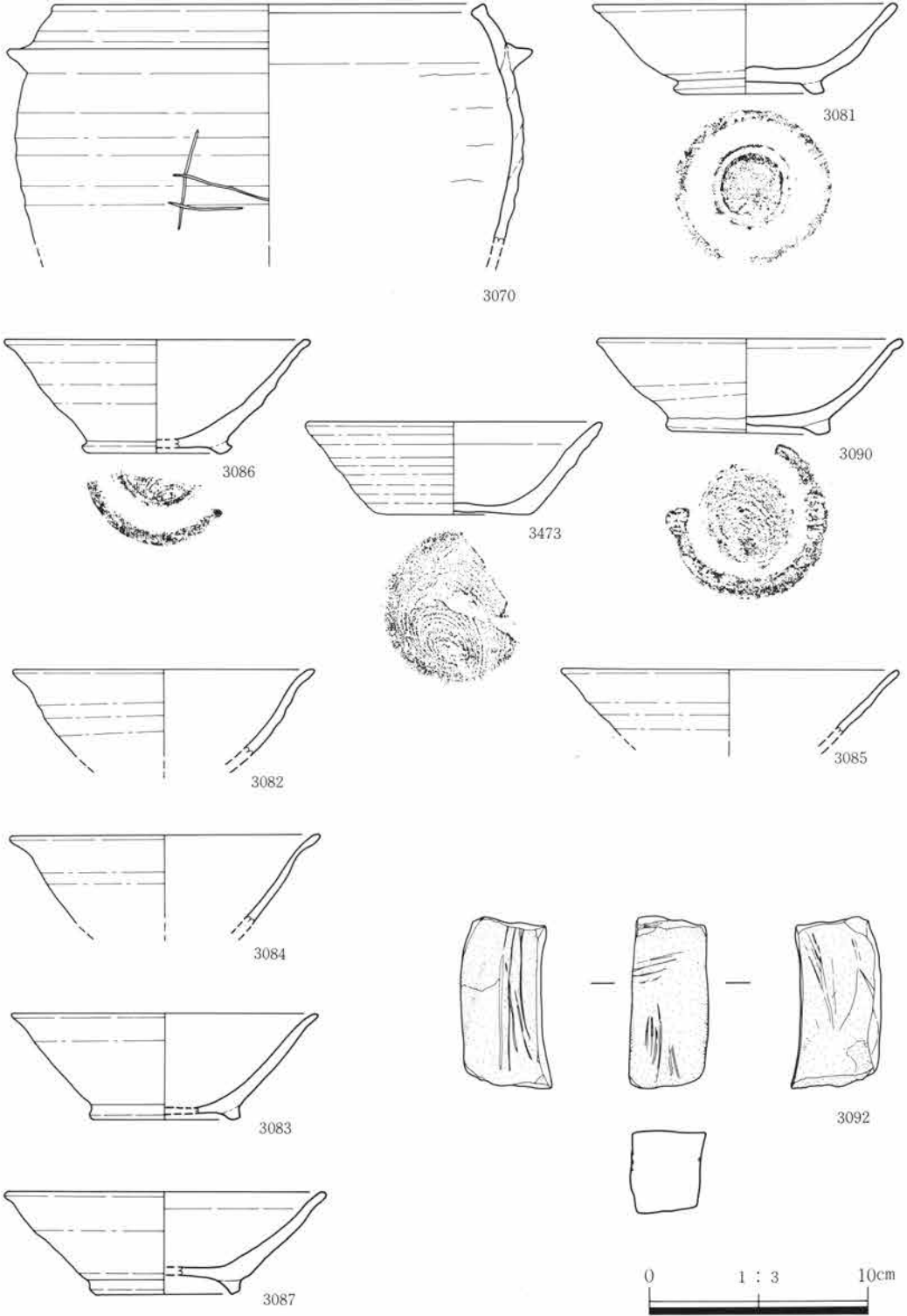


第547图 I地区B区9a号住居跡遺物图(1)



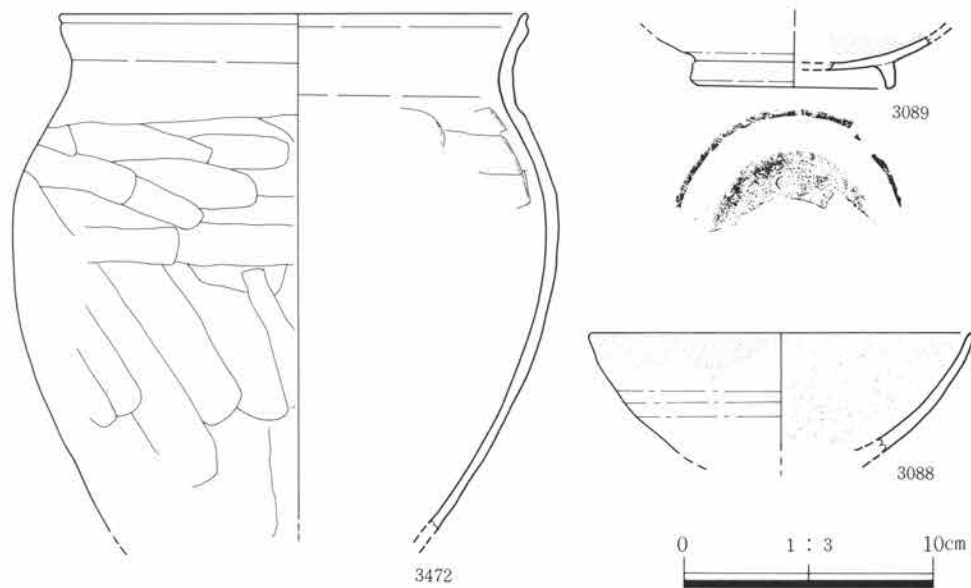
第548図 I地区B区9a号住居跡遺物図(2)

(1) 竖穴住居跡



第549图 I地区9a号住居跡遺物图(3)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第550図 I地区B区9a号住居跡遺物図(4)

第163表 I地区B区9a号住居跡遺物観察表

番号	器 土 器 種 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3068	羽 釜	器高:262mm口径:208 mm底径:82mm最大 径:254mm口縁部~底 部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 明褐。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は 鋳部及び体部上半。外面:口縁部~鋳 部は横なで、体部上半は轆轤なで、 体部下半は轆轤なで後篋削り、底部 は篋削り。内面:口縁部は横なで、体 部~底部は轆轤なで。	竈内他。内外面に 油煙付着。
3069	羽 釜	器高:(248mm)口径: 232mm底径:-最大 径:273mm口縁部~体 部 $\frac{1}{2}$ 残。	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明赤褐。	口縁部はやや内湾。最大径は鋳部。外 面:口縁部~鋳部は横なで、体部上半 は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後、 篋削り。内面:口縁部は横なで、体部 は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3070	羽 釜	器高:(108mm)口径: [196mm]底径:-最大 径:[240mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は 鋳部。外面:口縁部~鋳部は横なで、 体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部上半はなで。	竈内。内外面に油 煙付着。外面に篋 記号。
3071	甕	器高:(100mm)口径: [178mm]底径:-口縁 部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。暗赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部上半は篋削り。内 面:口縁部は横なで、体部上半は篋な で	住居内覆土。
3072	甕	器高:(130mm)口径: [198mm]底径:-最大 径:[236mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上半は篋削り。内面:口縁部 は横なで、体部上半は篋なで。	竈内。内外面に油 煙付着。

(1) 竪穴住居跡

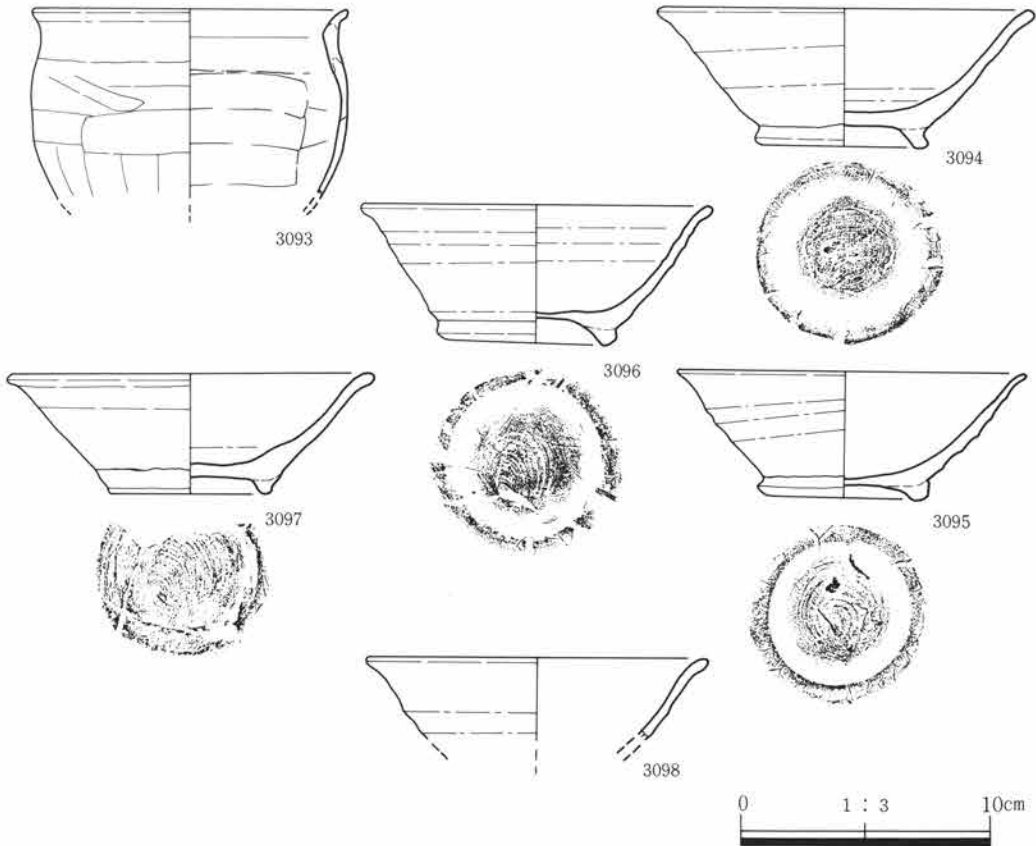
3073	椀	器高:(44mm)口径: [142mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄褐色。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3074	椀	器高:50mm口径:137mm 底径:61mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈左脇床直。内外面に油煙付着。
3075	椀	器高:50mm口径:130mm 底径:64mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内他。内外面に油煙付着。
3076	椀	器高:46mm口径:[145mm] 底径:68mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黄褐色。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3077	椀	器高:53mm口径:144mm 底径:68mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	竈内。外面に油煙付着。
3078	椀	器高:49mm口径:146mm 底径:72mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い褐色。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内北西部床上10cm。内外面に油煙付着。
3080	杯	器高:38mm口径:[120mm] 底径:61mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。外面に燻しあり。
3081	椀	器高:40mm口径:138mm 底径:68mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3082	椀	器高:(39mm)口径:138mm 底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで。体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	竈右袖脇床直。内外面に油煙付着。
3083	椀	器高:48mm口径:[140mm] 底径:[68mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

3084	椀	器高:(40mm)口径:[142mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3085	椀	器高:(30mm)口径:[154mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3086	椀	器高:51mm口径:[140mm]底径:一口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	竈前床直。
3087	椀	器高:47mm口径:[146mm]底径:[68mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3088	椀 灰釉陶器	器高:(48mm)口径:[152mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3089	椀 灰釉陶器	器高:(21mm)口径:一底径:[82mm]体部下半~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰。	底部は高台貼り付け後、なで。外面:体部下半は回転篋削り。内面:体部下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3090	椀	器高:42mm口径:140mm底径:75mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内南東部隅床直。内外面に油煙付着。
3091	杯	器高:36mm口径:133mm底径:56mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。外面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3092	砥石	長さ:(87mm)幅:36~32mm厚さ:37~34mm		断面は四角形。使用面は三面。	住居内覆土。
3464	甕	器高:265mm口径:196mm底径:[40mm]最大径:232mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部~底部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部~底部は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3472	甕	器高:(206mm)口径:187mm底径:一最大径:218mm口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	井戸内覆土。

(1) 竪穴住居跡

3473	杯	器高:42mm口径:[136mm]底径:71mm口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	井戸内覆土。
------	---	--	-------------------------------	--	--------



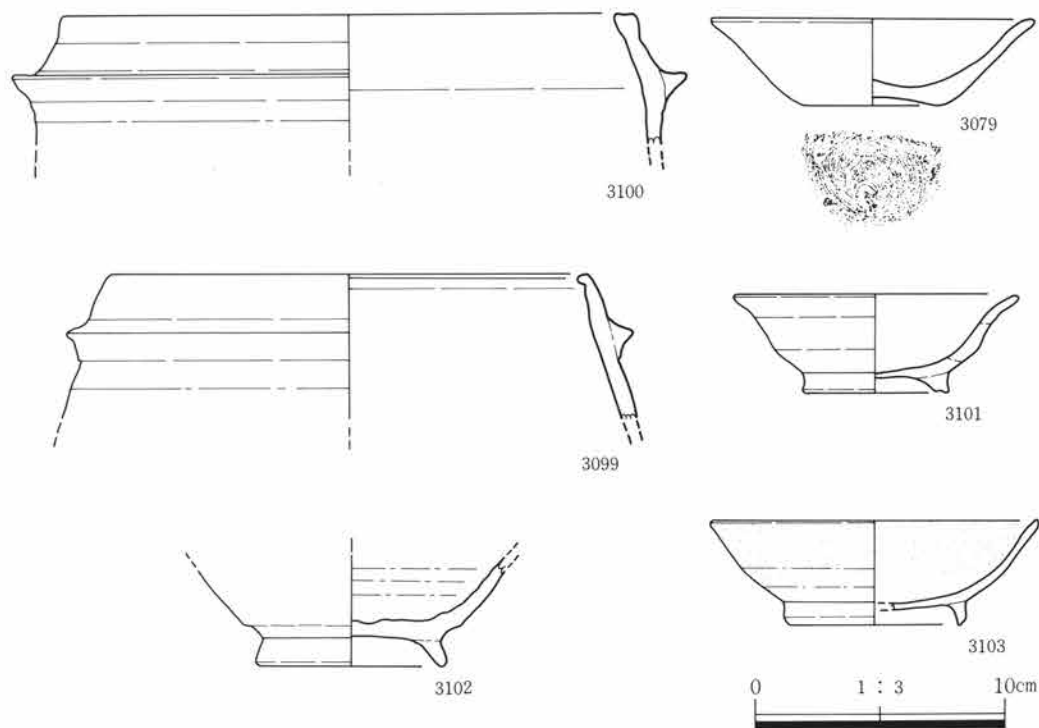
第551図 I地区B区9b号住居跡遺物図

第164表 I地区B区9b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3093	甕	器高:(75mm)口径:[126mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黒褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3094	椀	器高:55mm口径:150mm底径:69mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床上15cm。内外面に燻しあり。

第4章 平安時代の遺構と遺物

3095	椀	器高:50mm口径:139mm底径:68mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後高台貼り付け、更になで。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床上10cm。内外面に油煙付着。
3096	椀	器高:55mm口径:[140mm]底径:71mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北東部床上10cm。内外面に燻しあり。
3097	椀	器高:47mm口径:[146mm]底径:[66mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3098	椀	器高:(32mm)口径:[136mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。



第552図 I地区B区9c号住居跡遺物図

第165表 I地区B区9c号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3079	杯	器高:34mm口径:[128mm]底径:54mm口縁部~底部 $\frac{1}{8}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3099	羽釜	器高:(57mm)口径:[190mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{8}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	口縁部~体部上端は内湾。外面:口縁部~鈎部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3100	羽釜	器高:(51mm)口径:[226mm]底径:一最大径[268mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{8}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は内湾。最大径は鈎部。外面:口縁部~鈎部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内南東部隅床直。内外面に油煙付着。
3101	椀	器高:39mm口径:[112mm]底径:[58mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{8}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。淡黄。	口縁部は外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部はなで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈前床直。内面に油煙付着。
3102	椀	器高:(43mm)口径:一底径:76mm体部~高台部 $\frac{1}{8}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。外面に油煙付着。
3103	椀 灰釉陶器	器高:42mm口径:[130mm]底径:[72mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{8}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰黄。	底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部~体部上半は轆轤なで、体部下半は回転寛削り。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。

I地区B区11号住居跡(第553・554図、第166表、図版83・85)

当住居跡は、B区16号住居跡・B区18号住居跡・B区3号古墳と重複する。B区18号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈がB区18号住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。B区3号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。B区16号住居跡との新旧関係を直接的に判断することはできないが、同住居跡とB区3号古墳との新旧関係から、当住居跡の方が新しい。

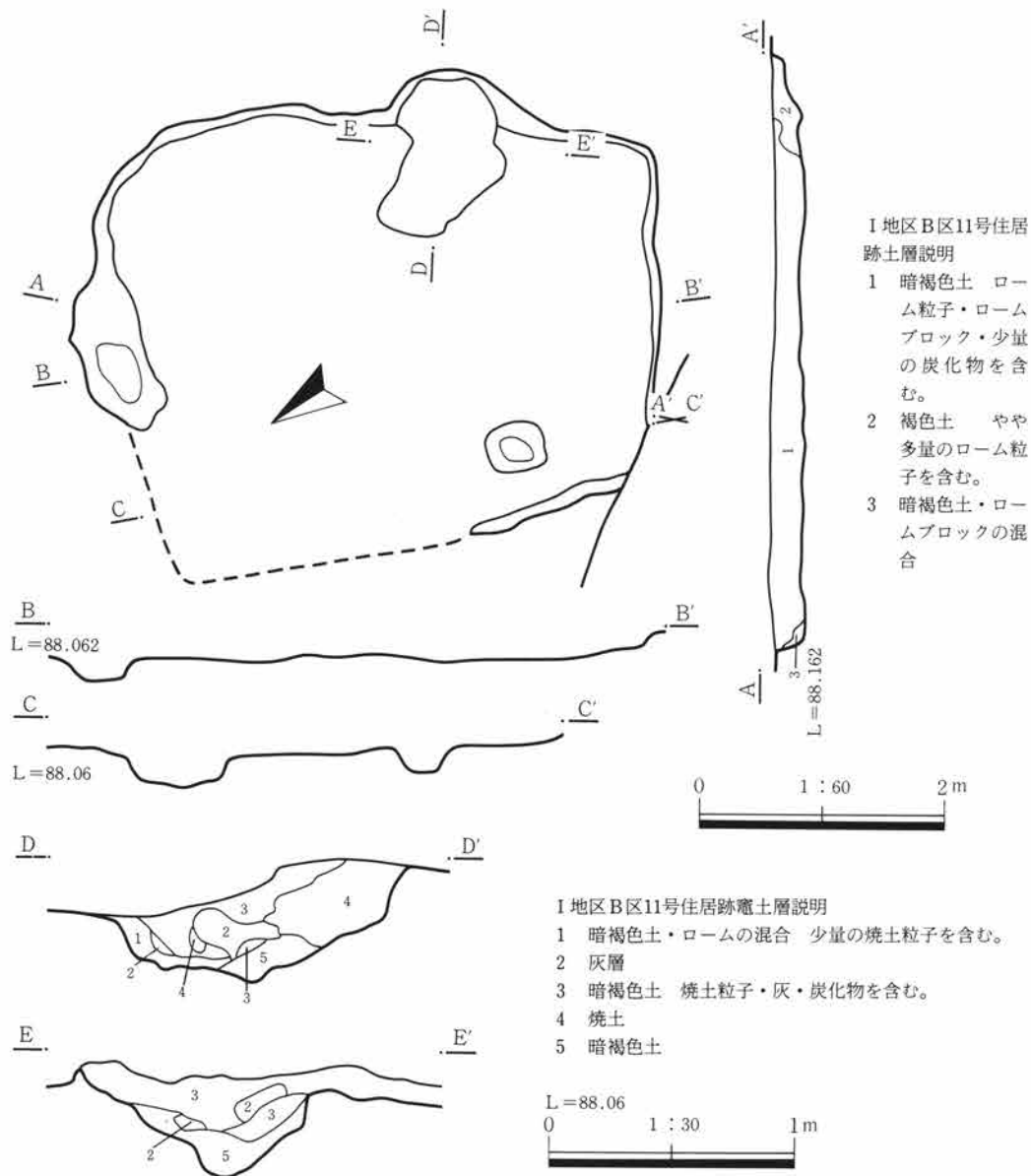
当住居跡の規模は、東西方向約3.5m・南北方向約4.5mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-27°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであるが、北西部分は殆ど確認できなかった。床面はやや軟弱であり、細かい凹凸が多い。壁溝は検出されなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖は破壊されており確認できなかったが、燃焼部・煙

第4章 平安時代の遺構と遺物

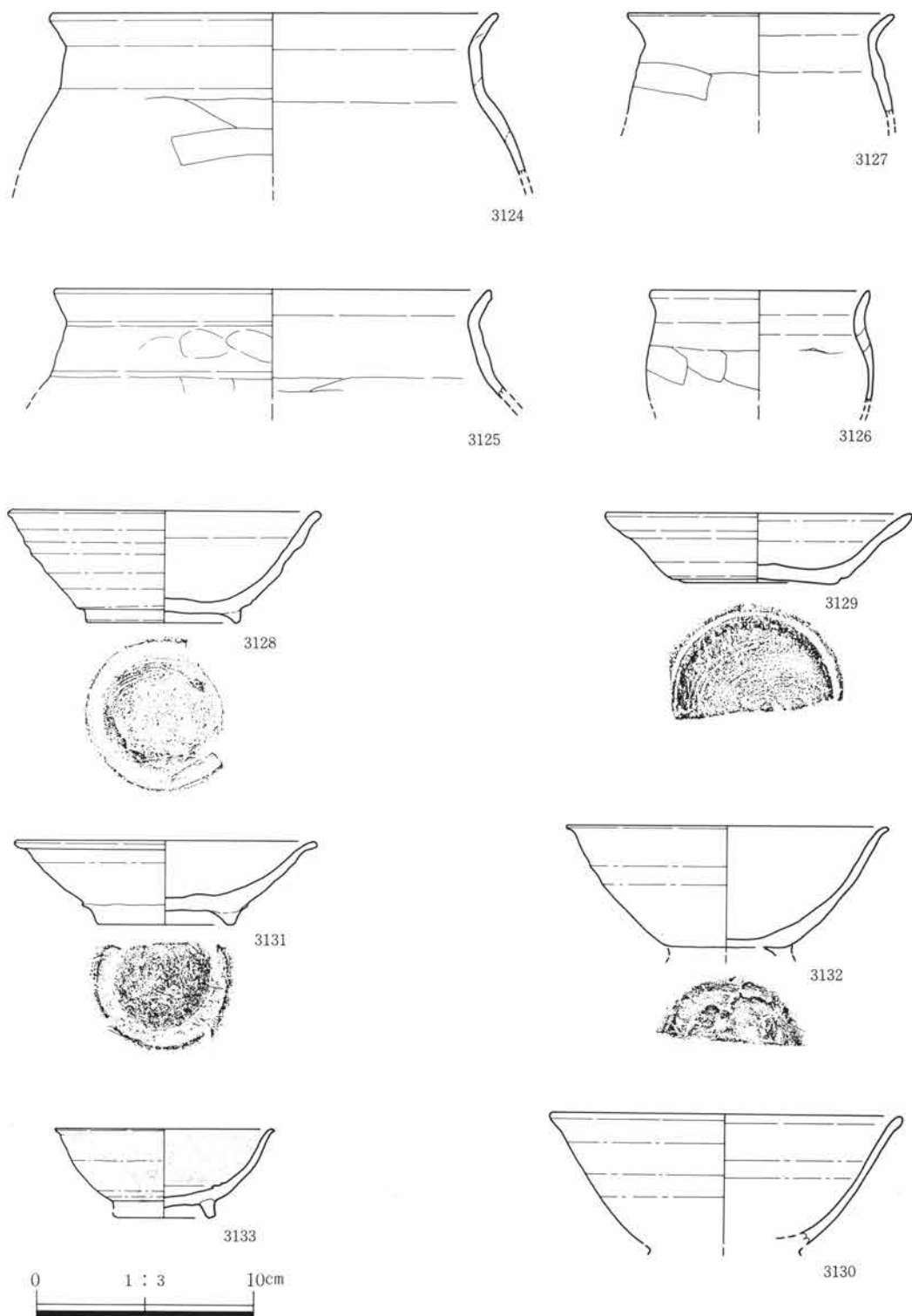
道部からは、袖の構築材に使用されたと考えられる河原石と、灰・焼土の堆積が検出できた。住居内南西部からは、小ピットが検出できたが、柱穴・貯蔵穴とは考えにくい。

遺物は、酸化焼成の甕、還元焼成の椀・杯、灰釉陶器の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半である。(井川)



第553図 I 地区B区11号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡



第554図 I地区B区11号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第166表 I地区B区11号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態 備考
3124	甕	器高:(73mm)口径: [206mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	住居内ピット。内外面に多量の油煙付着。
3125	甕	器高:(48mm)口径: [200mm]底径:一口縁部 ~体部上端 $\frac{1}{4}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	竈内。外面に油煙付着。
3126	甕	器高:(50mm)口径: [98mm]底径:一最大径: [104mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{4}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半はなで。	竈内。内面に油煙付着。
3127	甕	器高:(46mm)口径: [122mm]底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半はなで。	竈内。内外面に油煙付着。
3128	椀	器高:51mm口径:143mm 底径:71mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{4}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部床直
3129	杯	器高:32mm口径:[140mm] 底径:[70mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床上15cm。
3130	椀	器高:(59mm)口径: [162mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	竈右脇床直。
3131	椀	器高:38mm口径:[138mm] 底径:62mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3132	椀	器高:(55mm)口径: [146mm]底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{4}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	竈前床直。
3133	椀 灰釉陶器	器高:(38mm)口径: [100mm]底径:一口縁部 ~高台部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁端部はやや外湾。底部は高台貼り付け後、なで。外面:口縁部~体部下端は丁寧な轆轤なで、体部下端は回転篋削り。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈左袖脇床上10cm 内面に重ね焼きの跡あり。

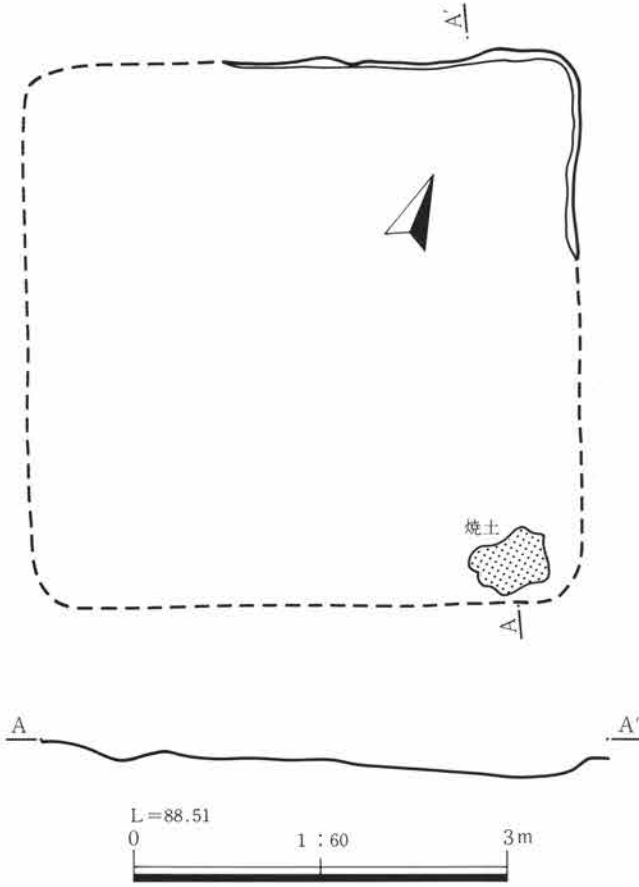
(1) 竪穴住居跡

I 地区 B 区 13 号住居跡

(第555～557図、第167表、図版85)

当住居跡は、B区1号古墳調査中に検出された住居跡である。直接的な新旧関係は、把握できなかったが、遺物から当住居跡の方が新しい。B区1号古墳の周溝中から壁・床を検出することができなかったために、規模は不明である。平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。

壁・床の検出できた北東部分での、確認面までの壁の立ち上がりは約5～10cmである。床面は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。確認できた北東部隅から南へ約4mの地点から、竈の残骸と考え



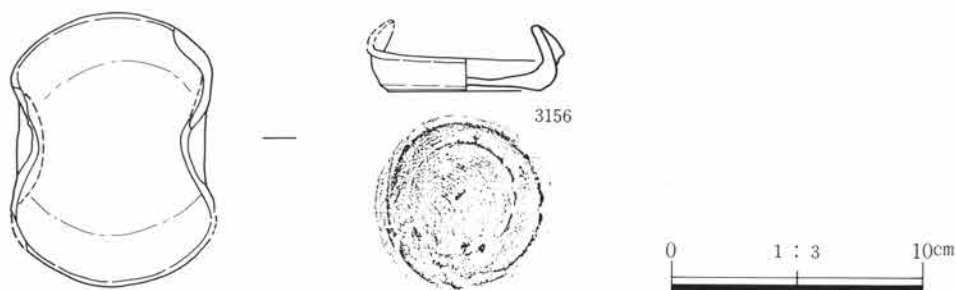
第555図 I 地区 B 区 13 号住居跡遺構図

られる焼土を検出することができた。壁溝・柱穴・貯蔵穴は不明である。

遺物は、酸化焼成の碗・耳皿が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)



第556図 I 地区 B 区 13 号住居跡遺物図 (1)



第557図 I地区B区13号住居跡遺物図(2)

第167表 I地区B区13号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3156	耳皿	器高:26mm口径:108mm底径:61mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部~体部の両端をつまみあげて折り曲げ。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内北西部床直
3157	椀	器高:(26mm)口径:一底径:56mm体部下半~高台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。黒褐。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部はなで。	住居内北西部床直 内外面共に焼しあり。
3158	椀	器高:(28mm)口径:一底径:[80mm]体部下端~高台部残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質褐色。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部下端~高台部は轆轤なで。内面:体部下端~底部はなで。	住居内南東部床直

I地区B区15a号住居跡(第558~561図、第168表、図版85)

当住居跡は、B区15b号住居跡・B区3号古墳・B区4号井戸跡と重複する。B区15b号住居跡との新旧関係は、当住居跡がB区15b号住居跡の南西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。B区3号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。B区4号井戸跡との新旧関係は、同井戸跡が当住居跡の北西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約3.1mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-30°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約30~40cmであり、残存状態は良好である。床は堅く締まっており、平坦である。壁溝は検出できなかった。

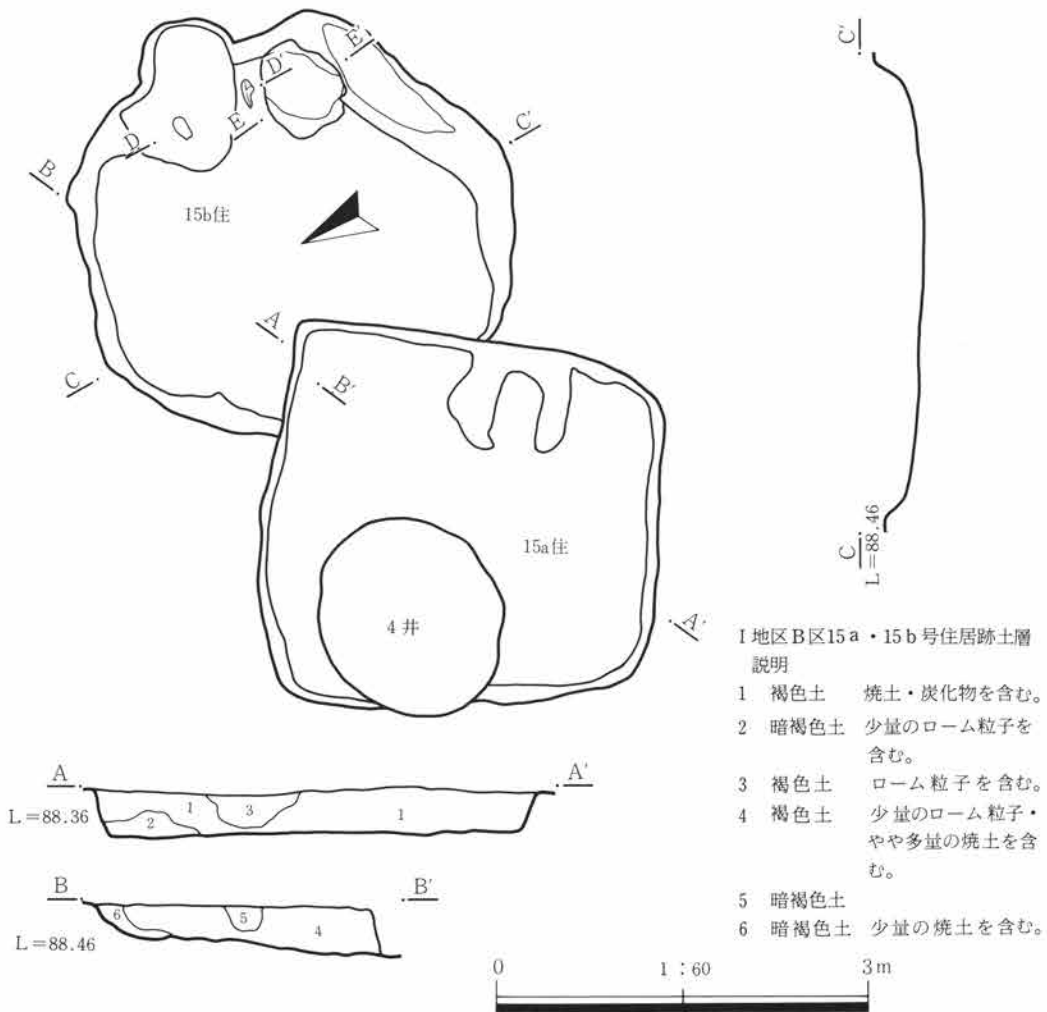
(1) 竪穴住居跡

竈は、東側壁のやや南よりに築かれている。袖は、粘質土と石を素材にして作られている。規模は約80×100であり、壁内に作られており、壁外への張り出しはない。燃焼部では焼土・灰の堆積が検出できた。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の椀、還元焼成の羽釜・甕・長頸壺・椀・杯が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半～中葉である。
(井川)

I 地区 B 区 15 b 号住居跡 (第558・559・562・563図、第169表、図版86)

当住居跡は、B区15a号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北西部分の壁・床がB区15a号住居跡により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。



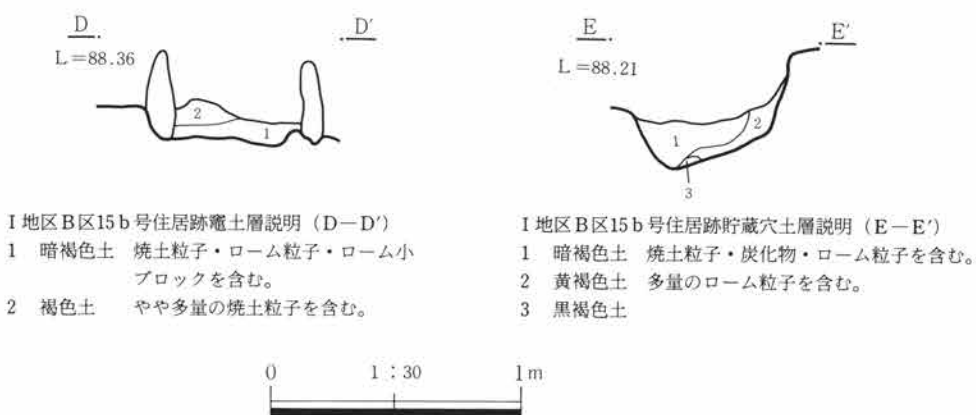
第558図 I 地区 B 区 15 a ・ 15 b 号住居跡遺構図 (1)

第4章 平安時代の遺構と遺物

当住居跡の規模は、東西方向約3.0m・南北方向約3.3mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-32°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、20~30cmであり、残存状態は比較的良好である。壁溝は確認できなかった。

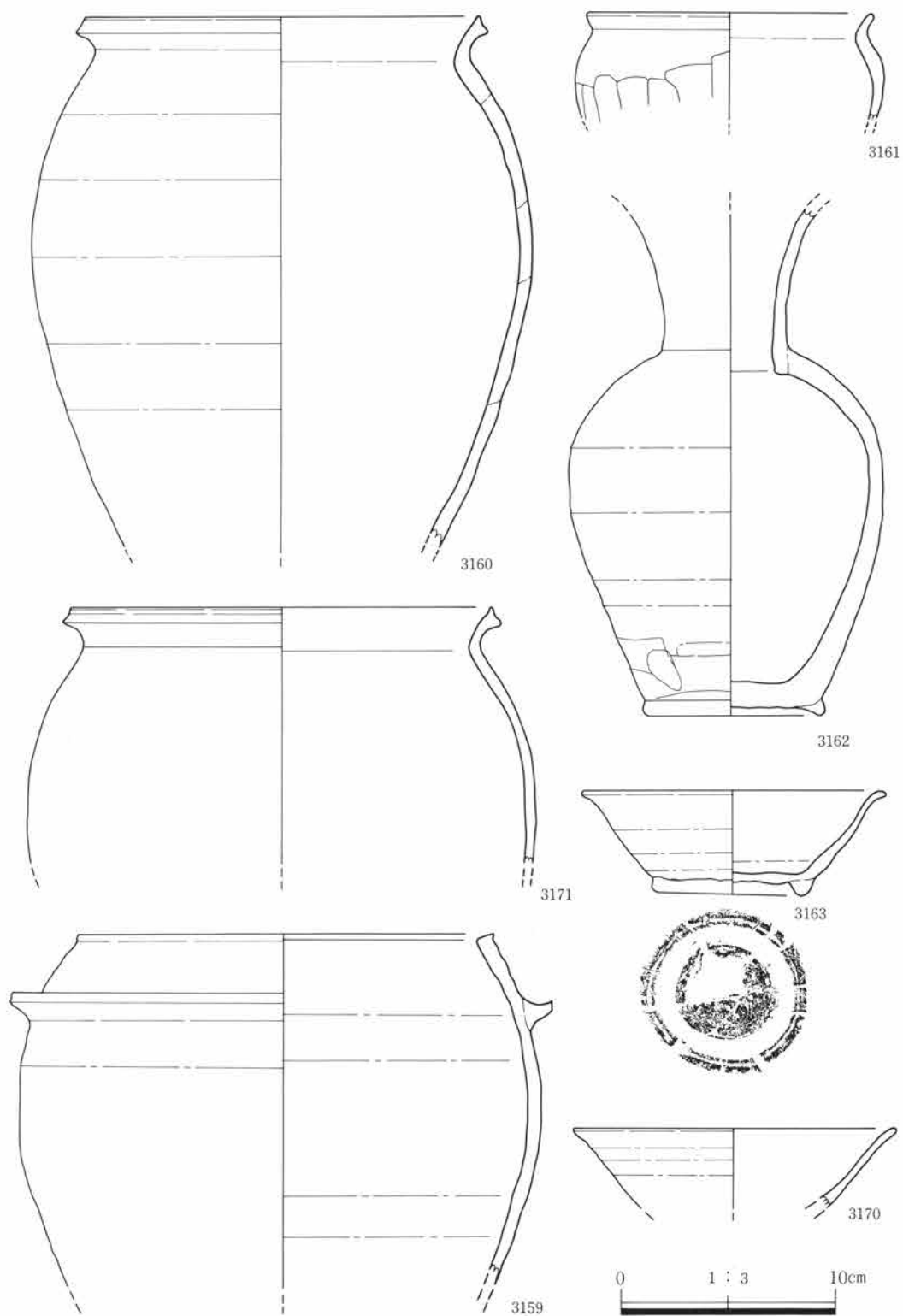
竈は、東側壁の中央部に築かれている。袖は、ローム・粘質土を素材に用い、先端部は河原石を地山に埋め込み固めている。燃烧部の中央には、支脚に用いられた河原石が置かれており、その周囲からは焼土が検出できた。竈の右脇、南東部の隅からは、ピットが検出できた。規模は、長軸約75cm・短軸約60cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。ピットの覆土には、焼土・炭化物が含まれている。同ピットは、貯蔵穴と考えられる。柱穴は検出できなかった。

遺物は、竈内・竈周辺を中心に、酸化焼成の甕・椀・杯、還元焼成の椀・杯などが多量に出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半~10世紀前半である。（井川）

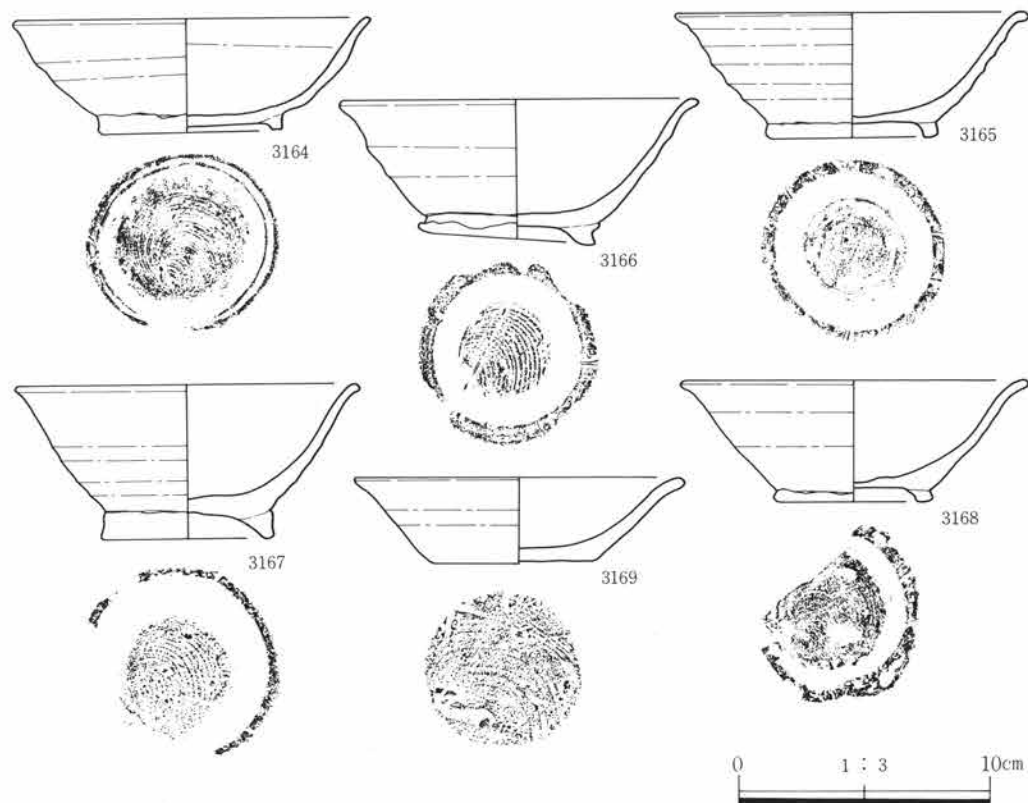


第559図 I地区B区15a・15b住居跡遺構図(2)

(1) 竖穴住居跡



第560图 I地区B区15a号住居跡遺物图(1)



第561図 I地区B区15a号住居跡遺物図(2)

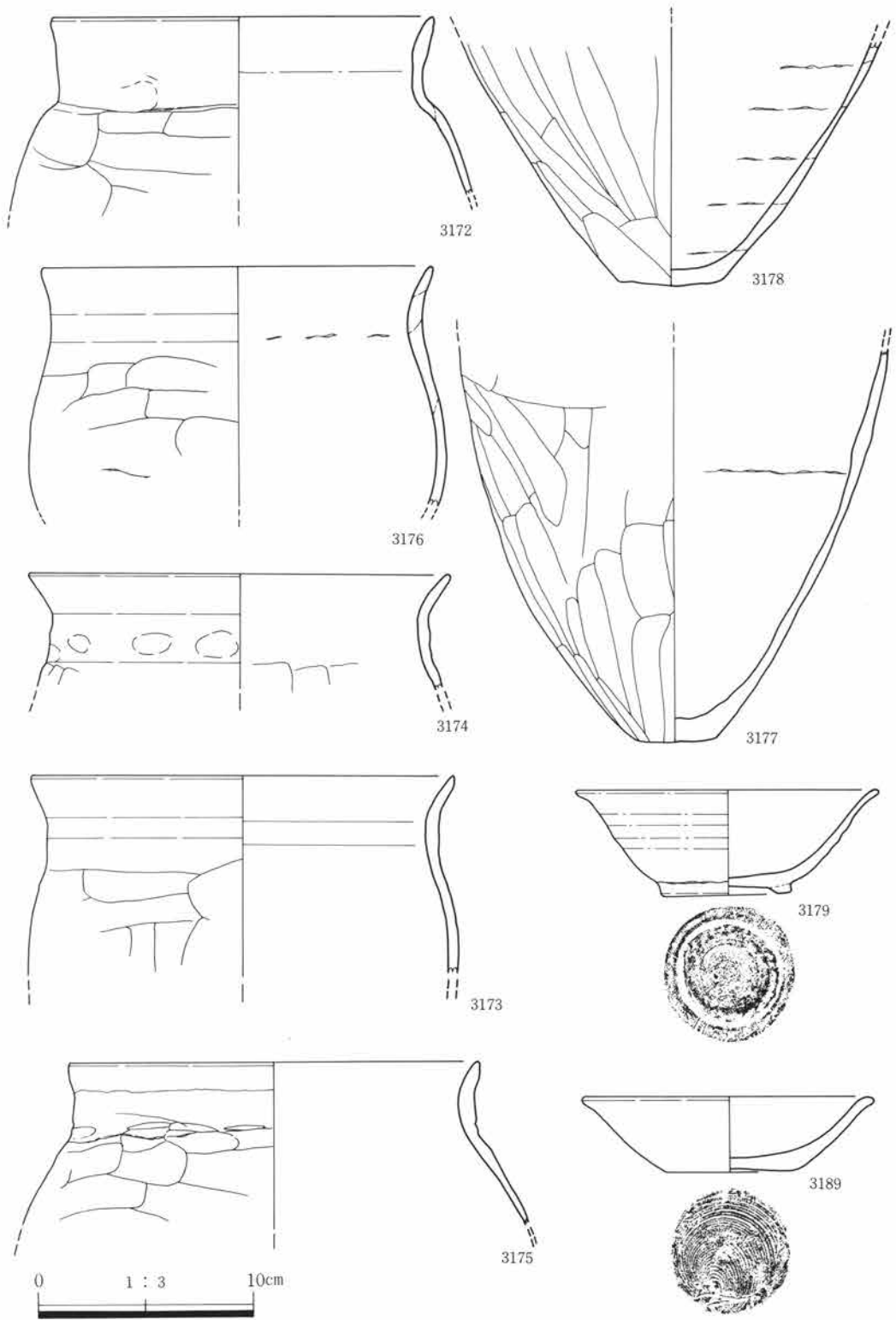
第168表 I地区B区15a号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3159	羽釜	器高:(162mm)口径:193mm底径:一最大径:252mm口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部~体部上半は内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部~鑿部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	甕内他。
3160	甕	器高:(245mm)口径:164mm底径:一最大径:234mm口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	甕内。内外面に油煙付着。
3161	甕	器高:(50mm)口径:[134mm]底径:一最大径:[143mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰黄。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部~体部上端は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半はなで。	甕右袖脇床直。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

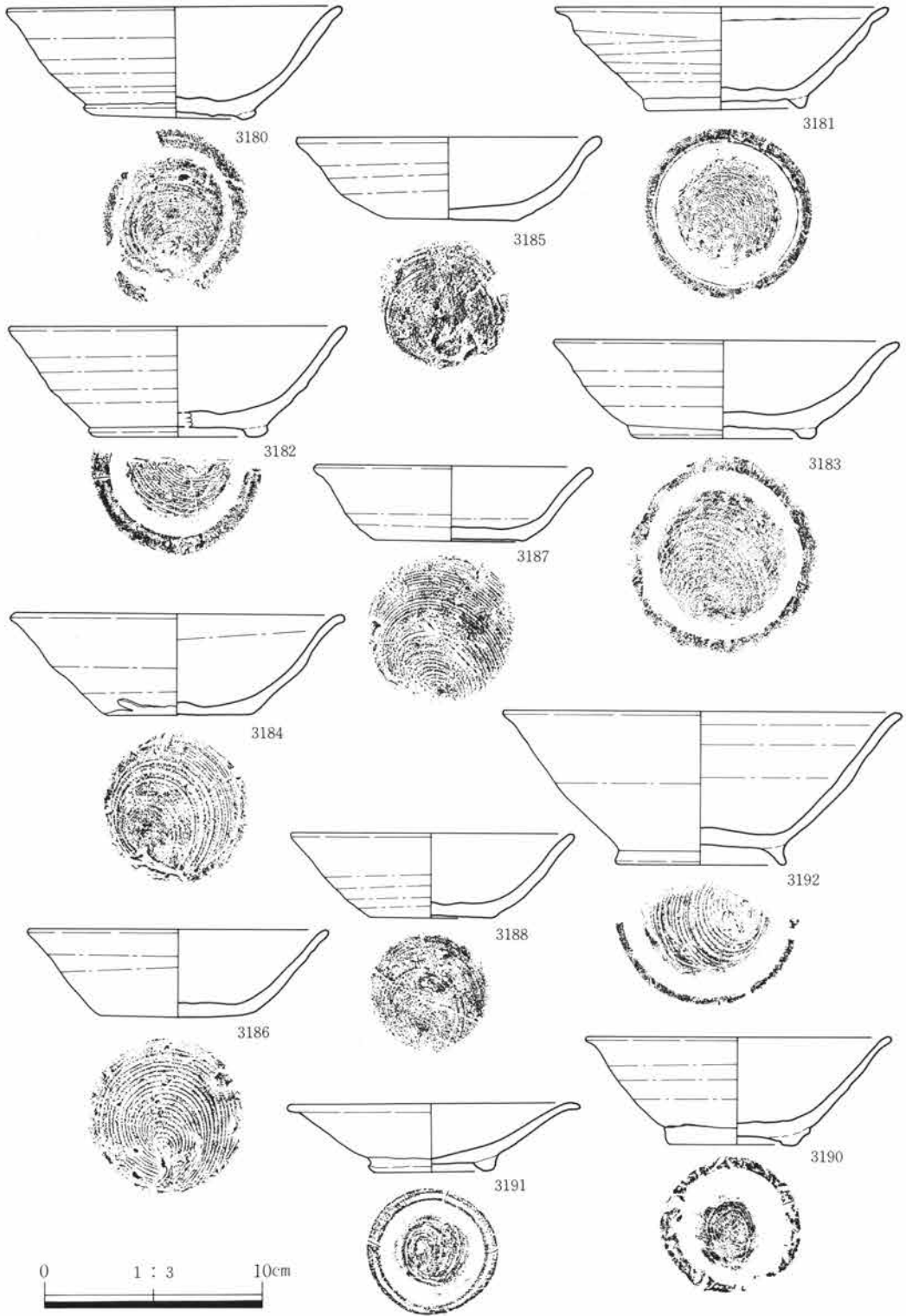
3162	長頸壺	器高:(233mm)口径: 一底径:84mm最大 径:146mm口縁端部 欠	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	体部上半で円みを持ち、頸部は縮ま り、口縁部は外湾する。底部は回転糸 切り後、高台貼り付け。外面:口縁部 ~体部は丁寧な轆轤なで、体部下 端は回転篋なで。内面:口縁部~底 部は轆轤なで。	住居内南西隅床直
3163	碗	器高:48mm口径:141 mm底径:73mmほぼ完 形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。外面:口 縁部は横なで、体部は轆轤なで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部は轆 轤なで。	竈内他。内外面に 油煙付着。
3164	碗	器高:45mm口径:142 mm底径:73mm口縁部 ~高台部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3165	碗	器高:49mm口径:[140 mm]底径:68mm口縁部 ~高台部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。外面: 口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部は轆 轤なで。	住居内南壁中央脇 床上10cm。外面 に油煙付着。
3166	碗	器高:56mm口径:[142 mm]底径:71mm口縁部 ~高台部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い黄橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。外面: 口縁部は横なで、体部は轆轤なで 内面:口縁部は横なで、体部~底部は 丁寧な轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3167	碗	器高:61mm口径:[136 mm]底径:69mm口縁部 ~高台部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は横なで。	竈内。内面に油煙 付着。
3168	碗	器高:48mm口径:[138 mm]底径:63mm口縁部 ~高台部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り後、高台貼り付け。外面:口 縁部は横なで、体部は轆轤なで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部は轆 轤なで。	住居内南西部床直
3169	杯	器高:34mm口径:[131 mm]底径:65mm口縁部 ~底部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り。外面:口縁部は横な で、体部は轆轤なで。内面:口縁部は 横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。内面に油煙 付着。
3170	碗	器高:(37mm)口径: [150mm]底径:一口縁 部~体部々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に 口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。外面に油煙 付着。
3171	甕	器高:(118mm)口径: [196mm]底径:一最大 径:[236mm]口縁部 ~体部上半々残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。灰。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部 に外縁帯を持つ。最大径は体部上半。 内外面共に口縁部は横なで、体部上 半は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物



第562図 I地区B区15b号住居跡遺物図(1)

(1) 豎穴住居跡



第563图 I地区B区15b号住居跡遺物图(2)

第4章 平安時代の遺構と遺物

第169表 I地区B区15b号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態 備考
3172	甕	器高:(90mm)口径: 176mm底径:一口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部は指頭痕が残り、体 部上半は篋削り。内面:口縁部は横な で、体部上半は篋なで。	竈内他。内外面に 油煙付着。
3173	甕	器高:(91mm)口径: [197mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部は指頭痕が残り、体 部上端は篋削り。内面:口縁部は横な で、体部上端は篋なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3174	甕	器高:(53mm)口径: [196mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部は指頭痕が残る、体 部上端は篋削り。内面:口縁部は横な で、体部上端は篋なで。	竈内。
3175	甕	器高:(76mm)口径: [190mm]底径:一口縁 部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部は指頭痕が残る、体 部上半は篋削り。内面:口縁部は横な で、体部上半は篋なで。	竈左袖脇床直。外 面に油煙付着。
3176	甕	器高:(111mm)口径: [182mm]底径:一最大 径:[182mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い橙。	口縁部は外湾。最大径は体部上半。外 面:口縁部は横なで、体部上半は篋削 り。内面:口縁部は横なで、体部上半 は篋なで。	竈内。内面に油煙 付着。
3177	甕	器高:(181mm)口径: 一底径:39mm体部下 半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い赤褐。	外面:体部下半~底部は篋削り。内 面:体部下半~底部は篋なで。	住居内中央部床直 外面に多量の油煙 付着。
3178	甕	器高:(113mm)口径: 一底径:45mm体部下 半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	外面:体部下半~底部は篋削り。内 面:体部下半~底部は篋なで。	竈内。外面に油煙 付着。
3179	椀	器高:48mm口径:141 mm底径:61mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は篋なで。	住居内北西部床直 内外面に燻しあり
3180	椀	器高:51mm口径:154 mm底径:77mmほぼ完 形	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:口縁部は横なで、体部は轆轤 なで。内面:口縁部は横なで、体部~ 底部は丁寧な轆轤なで。	竈前床直。内外面 に油煙付着。
3181	椀	器高:47mm口径:153 mm底径:74mmほぼ完 形	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤 なで。内面:口縁部は横なで、体部~ 底部は轆轤なで。	竈左袖脇床直。

(1) 竪穴住居跡

3182	椀	器高:51mm口径:[156mm]底径:[80mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	竈内。
3183	椀	器高:45mm口径:158mm底径:85mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁端部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内南西部床直内外面に油煙付着
3184	杯	器高:47mm口径:153mm底径:67mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈前床直。
3185	杯	器高:37mm口径:140mm底径:59mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	竈右袖脇床直。
3186	杯	器高:40mm口径:138mm底径:72mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部床直
3187	杯	器高:34mm口径:128mm底径:69mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3188	杯	器高:39mm口径:130mm底径:57mmほぼ完形	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内中央部床直
3189	杯	器高:35mm口径:135mm底径:58mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁端部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部はなで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	竈右袖脇床直。内外面に油煙付着。
3190	椀	器高:49mm口径:140mm底径:60mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3191	椀	器高:31mm口径:[134mm]底径:58mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着

第4章 平安時代の遺構と遺物

3192	椀	器高:70mm 口径:183mm 底径:78mm 口縁部 ~高台部%残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁端部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
------	---	---	----------------------------------	--	--------------

I 地区 B 区18号住居跡 (第564・565図、第170表)

当住居跡は、B区11号住居跡・B区20号住居跡・B区5号溝跡と重複する。B区11号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部分の壁・床が同住居跡により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。B区20号住居跡との新旧関係は不明である。B区5号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、B区11号住居跡・B区5号溝跡により破壊されているために不明であるが、東西方向約3.5mであり、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約20cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。壁溝は確認できなかった。

北側壁のやや西よりからピットが検出できた。規模は90×80cmであり、中からは河原石が出土した。竈と考えることもできるが、覆土に焼土が含まれていないこと、他の同時期の住居跡と位置が相違することなどに疑問が残る。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物・周囲の遺構との関係から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

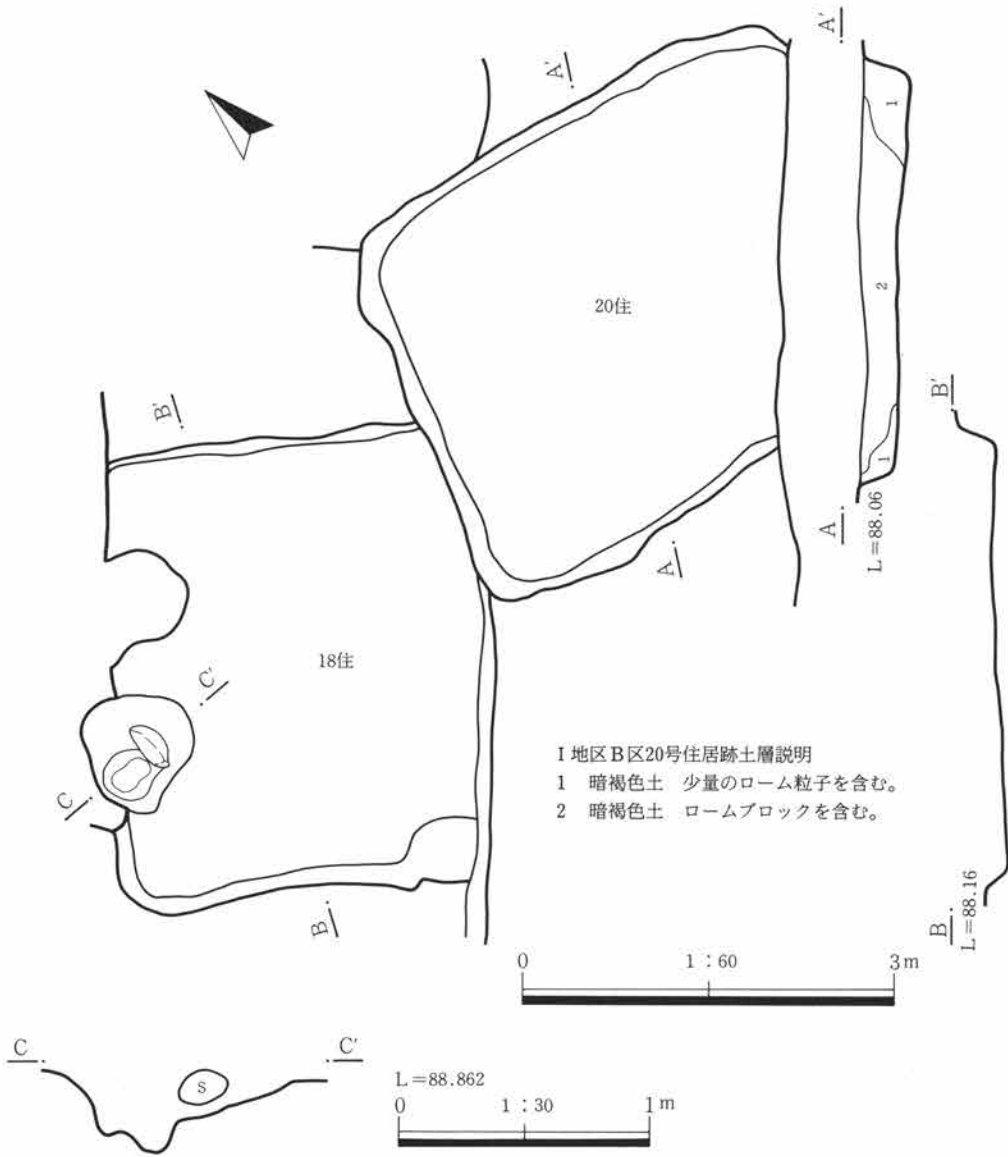
I 地区 B 区20号住居跡 (第564・566図、第171表)

当住居跡は、B区14号住居跡・B区18号住居跡・B区5号溝跡・B区7号溝跡と重複する。B区14号住居跡との新旧関係は、当住居跡がB区14号住居跡の南西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。B区18号住居跡との新旧関係は不明である。B区5号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の覆土中に確認できることから、当住居跡の方が古い。B区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側部分を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

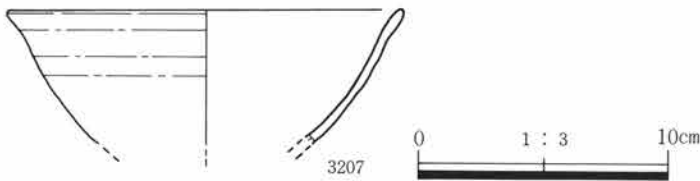
当住居跡の規模は、B区7号溝跡により破壊されているために不明であるが、東西方向は約3.2mであり、平面形は、隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-76°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約30~40cmを測り、残存状態は比較的良好である。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。壁溝・竈・柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少なく、時期の限定は困難であるが、遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

(1) 竪穴住居跡



第564図 I 地区B区18・20号住居跡遺構図

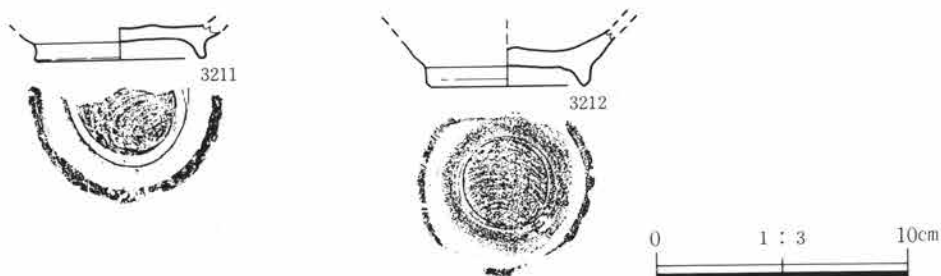


第565図 I 地区B区18号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第170表 I地区B区18号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3207	椀	器高:(53mm)口径: [158mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南西部床直



第566図 I地区B区20号住居跡遺物図

第171表 I地区B区20号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3211	椀	器高:(13mm)口径: 一底径:68mm 底部~高台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。内面底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3212	椀	器高:(22mm)口径: 一底径:66mm 体部下端~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	住居内覆土。

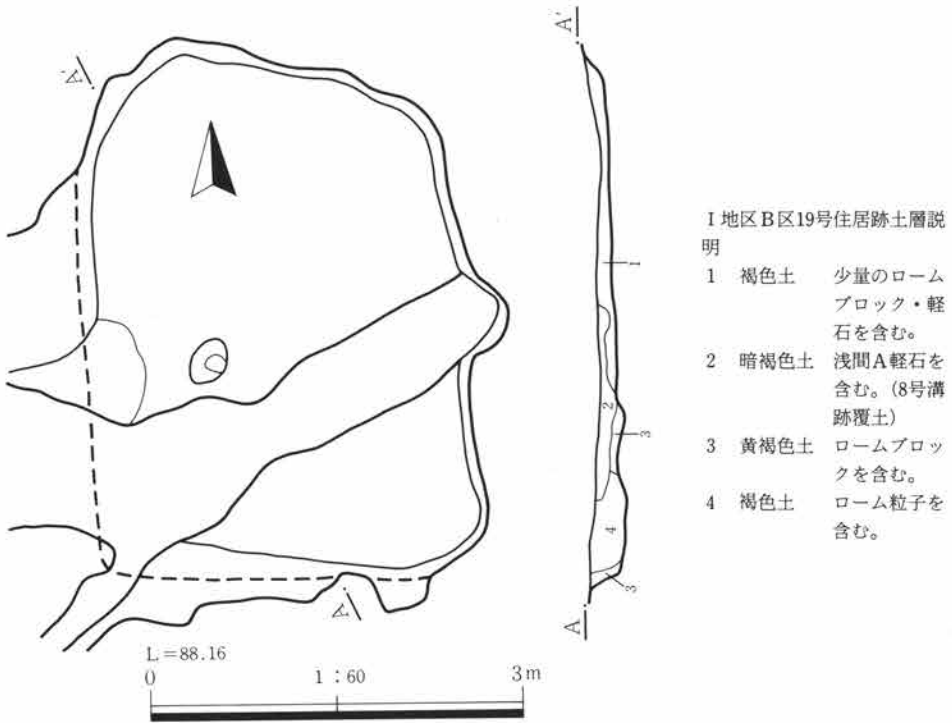
I地区B区19号住居跡 (第567・568図、第172表)

当住居跡は、B区8号溝跡・B区9号溝跡と重複する。B区8号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。B区9号溝跡との新旧関係も、同溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

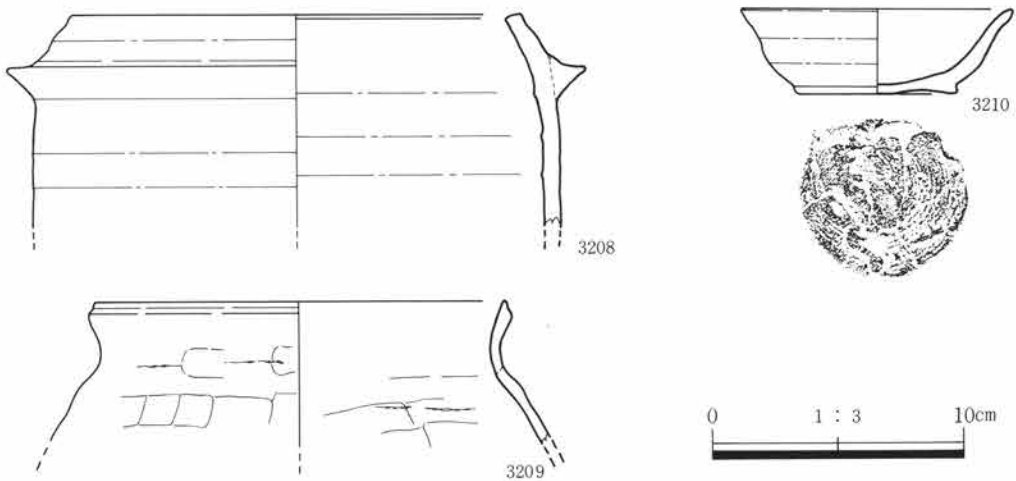
当住居跡の規模は、東西方向約3.0m・南北方向約4.2mであり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-2°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~20cmであり、残存状態は悪い。床面はやや軟弱であり、細かい凹凸が多い。住居跡内中央部やや西よりから、小ピットが検出できたが、柱穴とは考えにくい。壁溝・竈・柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡

遺物は、還元焼成の羽釜、酸化焼成の甕・杯が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。(井川)



第567図 I 地区B区19号住居跡遺構図



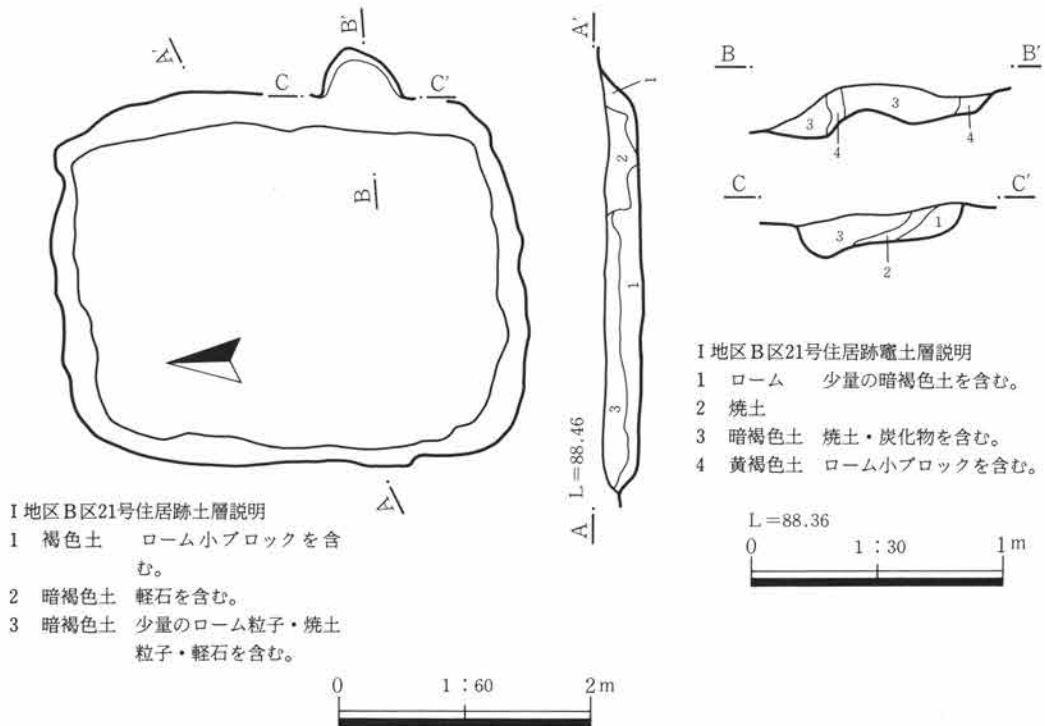
第568図 I 地区B区19号住居跡遺物図

第172表 I地区B区19号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3208	羽釜	器高:(84mm)口径:[180mm]底径:一最大径:[230mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は内湾。最大径は鋳部。外面:口縁部~鋳部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内北西部床直外面に油煙付着。
3209	甕	器高:(56mm)口径:[164mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐。	口縁部は外湾。外面口縁部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3210	杯	器高:34mm口径:108mm底径:64mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	住居内北西隅床上10cm。

I地区B区21号住居跡 (第569・570図、第173表)

当住居跡は、B区10号溝跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の壁・床がB区10号溝跡を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。



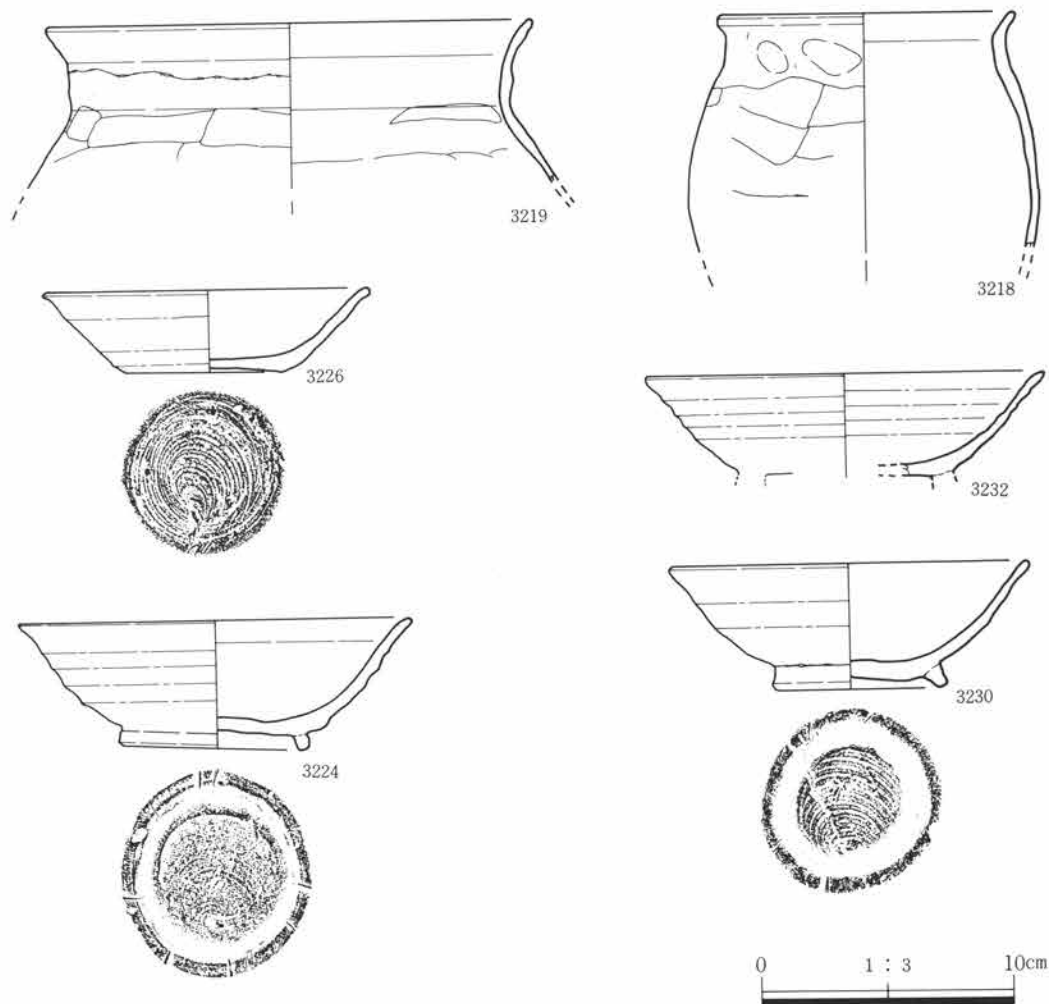
第569図 I地区B区21号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡

当住居跡の規模は、東西方向約2.9m・南北方向約3.7mであり、平面形は、隅丸長方形を呈する。主軸はN-3°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約15~25cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、やや軟弱であり、細かい凹凸が多い。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖は破壊されており、検出することができなかったが、燃烧部・煙道部からは、構築材に使用されたと考えられる河原石及び焼土・炭化物の堆積を検出することができた。壁外への煙道部の張り出しは、約40cmである。柱穴・貯蔵穴は検出することができなかった。

遺物は、酸化焼成の甕・椀・杯、還元焼成の椀・杯が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半~10世紀前半である。
(井川)



第570図 I地区B区21号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第173表 I地区B区21号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状 態考
3218	甕	器高:(93mm)口径: 119mm底径:一最大 径:[139mm]口縁部 ~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体 部は篋削り。内面:口縁部は横なで、 体部はなで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3219	甕	器高:(65mm)口径: [194mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部上端は篋削り。内 面:口縁部は横なで、体部上端は篋 なで。	住居内南東部隅床 上10cm。外面に油 煙付着。
3224	椀	器高:51mm口径:157 mm底径:77mm完形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。黄灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで 内面:口縁部は横なで、体部~底部は 丁寧な轆轤なで。	住居内南東部隅床 直。
3226	杯	器高:33mm口径:131 mm底径:63mmほぼ完 形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁端部は外湾。轆轤右回転。底部は 回転糸切り。外面:口縁部は横なで、 体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は轆轤なで。	竈内。
3230	椀	器高:50mm口径:[143 mm]底径:71mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:口縁部は横なで、 体部は轆轤なで。内面:口縁部は横な で、体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3232	椀	器高:(41mm)口径: [160mm]底径:一口縁 部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内覆土。

I地区B区22a号住居跡(第571~574図、第174表)

本住居跡は耕作土下、暗褐色土層中において確認された。22b号住居跡・8号溝・4号古墳と重複し、同古墳周堀上にある。竈推定部分に22b号住居が存在することから本住居跡が古い。平面形は西辺を除いて推定線であるが、東西に長い方形を呈する。規模は、東西方向約5.0m・南北方向約4.5mを測り、主軸はN-88°-Eである。床面は古墳覆土であるため締まりが良くない。柱穴は確認できなかった。遺物は東辺南寄りにまとまって酸化焼成の甕・椀、還元焼成の杯、灰釉陶器の椀が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)

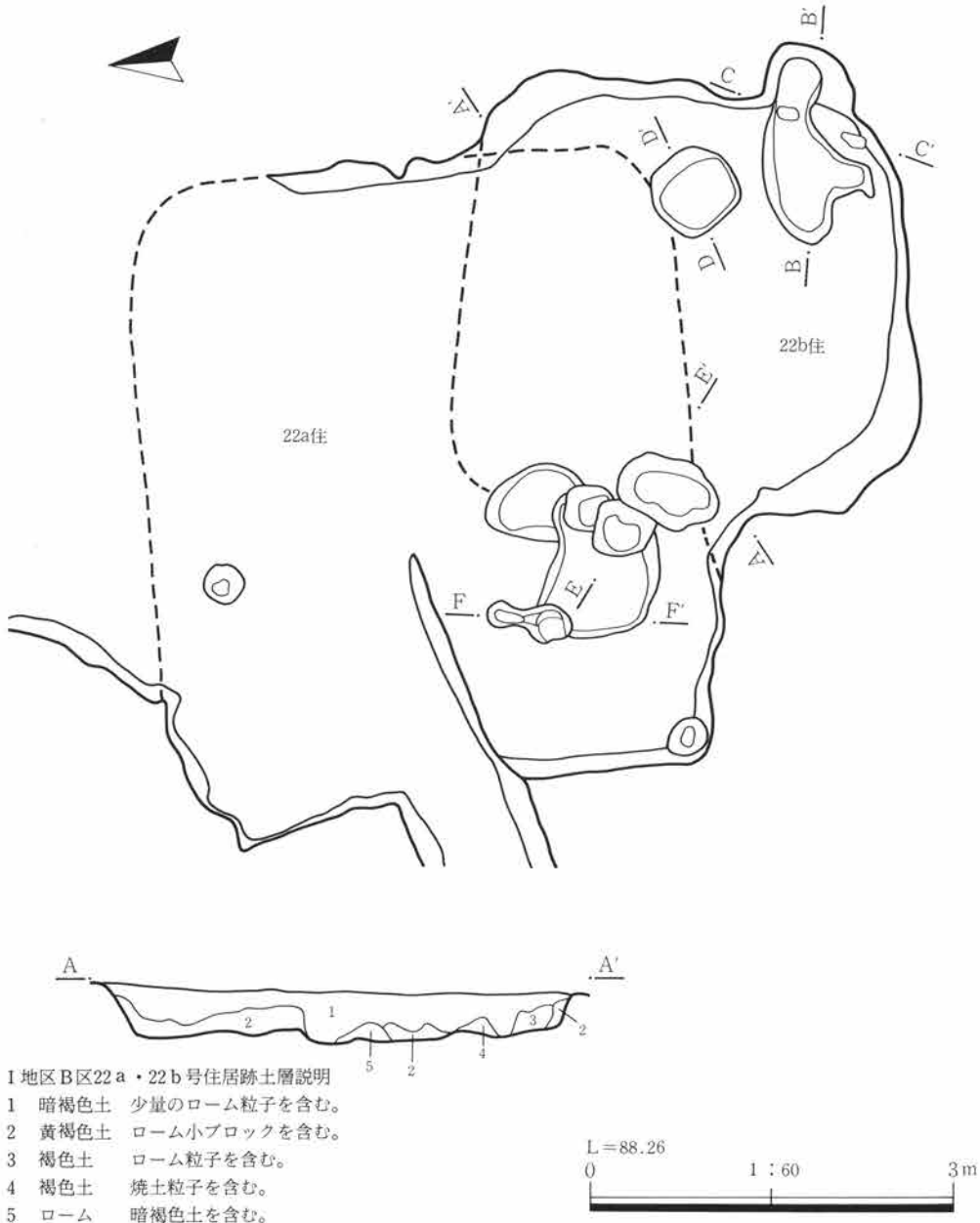
I地区B区22b号住居跡(第571・572・575~577図、第175表)

本住居跡は耕作土下、暗褐色土中において確認された。22a号住居跡・4号古墳と重複し、同古墳周堀上にある。本住居跡が最も新しい。北辺は重複と攪乱のため推定である。規模は、東西

(1) 竪穴住居跡

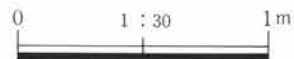
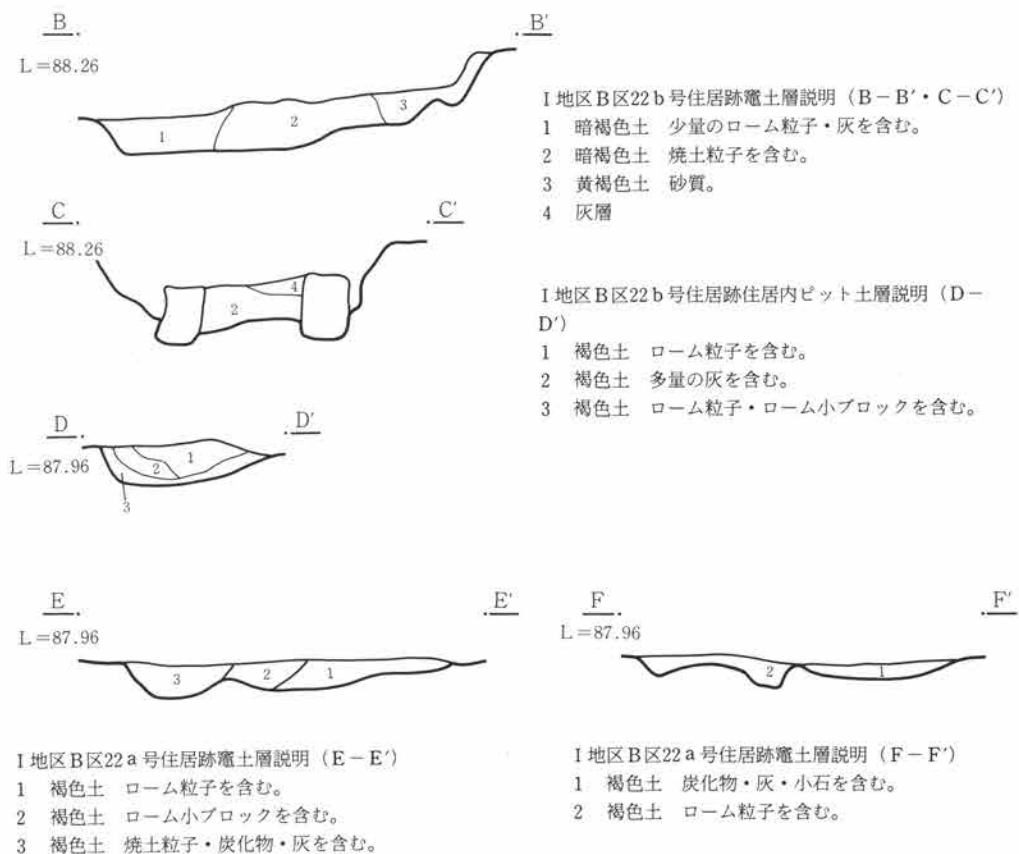
方向約3.5m・南北方向約3.7mを測り、主軸はN-9°-Eである。平面形は、隅丸方形と推定される。床面は古墳周堀部分は締まりが弱い。柱穴は確認できない。竈は東南隅で確認された。竈上部は既に消滅しているが、両袖部に使用した加工石が残る。焚口部分前は一段低い。

遺物は、酸化焼成の羽釜・甑・甕・椀・杯、還元焼成の甕・椀・杯、灰釉陶器の皿の他、鞆の羽口が出土している。出土遺物から平安時代とする。 (秋池)

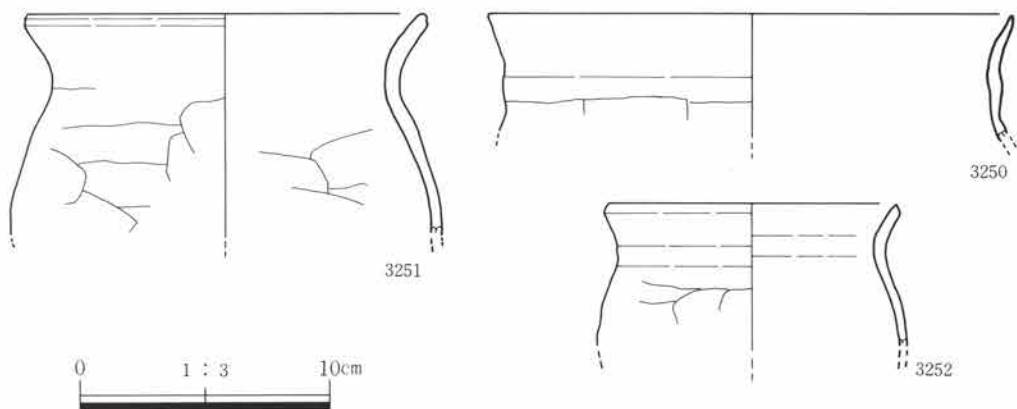


第571図 I地区B区22a・22b号住居跡遺構図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物

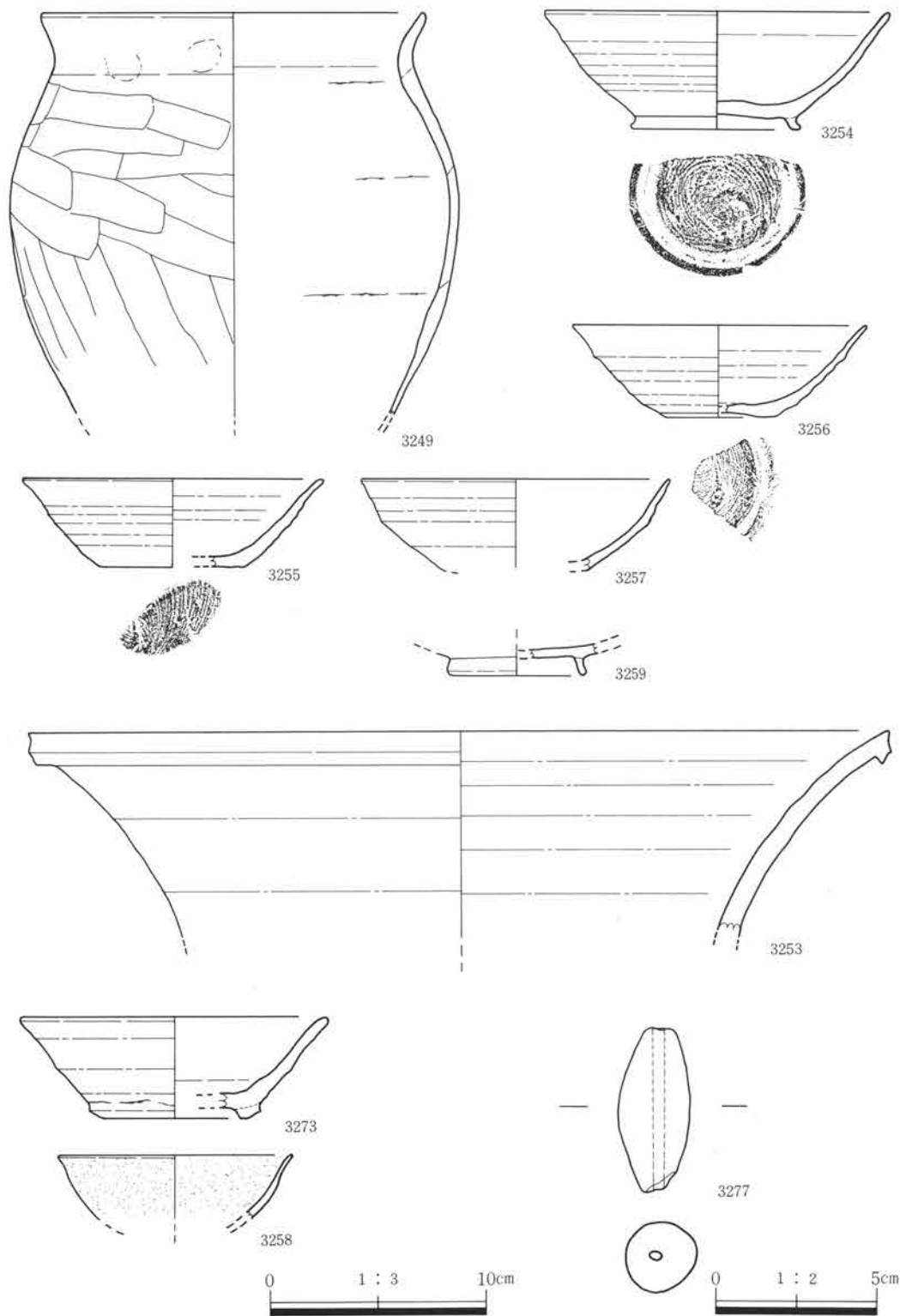


第572図 I地区B区22a・22b号住居跡遺構図(2)



第573図 I地区B区22a号住居跡遺物図(1)

(1) 竖穴住居跡



第574图 I地区B区22a号住居跡遺物图(2)

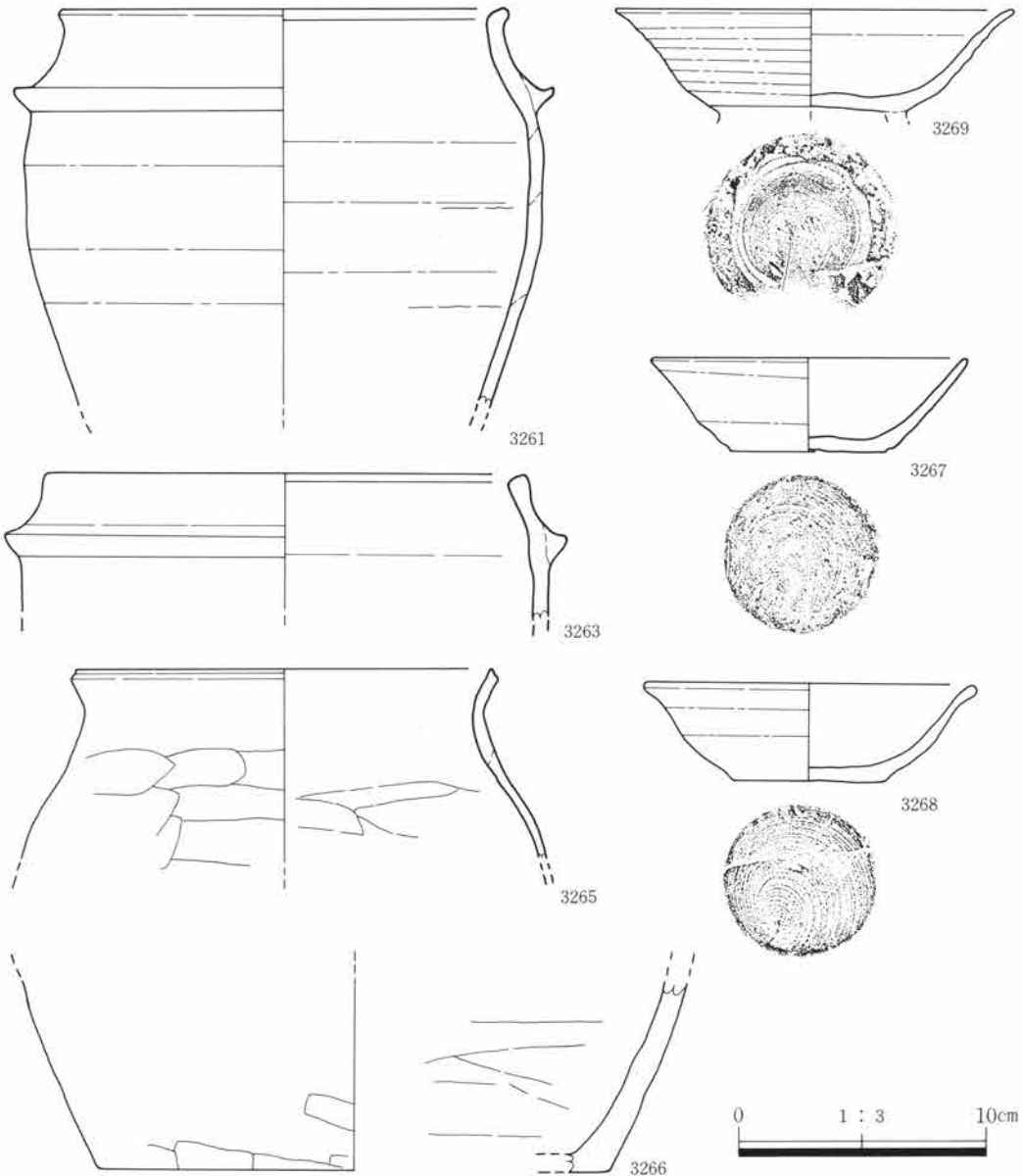
第4章 平安時代の遺構と遺物

第174表 I地区B区22a号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3249	甕	器高:(186mm)口径:[179mm]底径:一最大径:[208mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕が残る、体部は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部は篔なで。	窠内。外面に油煙付着。
3250	甕	器高:(50mm)口径:[208mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篔なで。	住居内南東部床直内面に油煙付着。
3251	甕	器高:(87mm)口径:[160mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篔なで。	住居内南西部床直内面に油煙付着。
3252	甕	器高:(57mm)口径:[118mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上半は篔削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篔なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3253	甕	器高:(95mm)口径:[400mm]底径:一口縁部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4~5mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は大きく外湾。口縁部端部に外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は轆轤なで。	住居内南西部床上5cm。
3254	椀	器高:55mm口径:[160mm]底径:79mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内北西部床直
3255	杯	器高:41mm口径:[140mm]底径:[68mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内床下。
3256	杯	器高:43mm口径:[136mm]底径:[52mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南西部床直
3257	椀	器高:(43mm)口径:[144mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。
3258	椀 灰釉陶器	器高:(30mm)口径:[110mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3259	椀 灰釉陶器	器高:(16mm)口径:一底径:[64mm]体部下端~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部下端は丁寧な轆轤なで。内面:体部下端~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

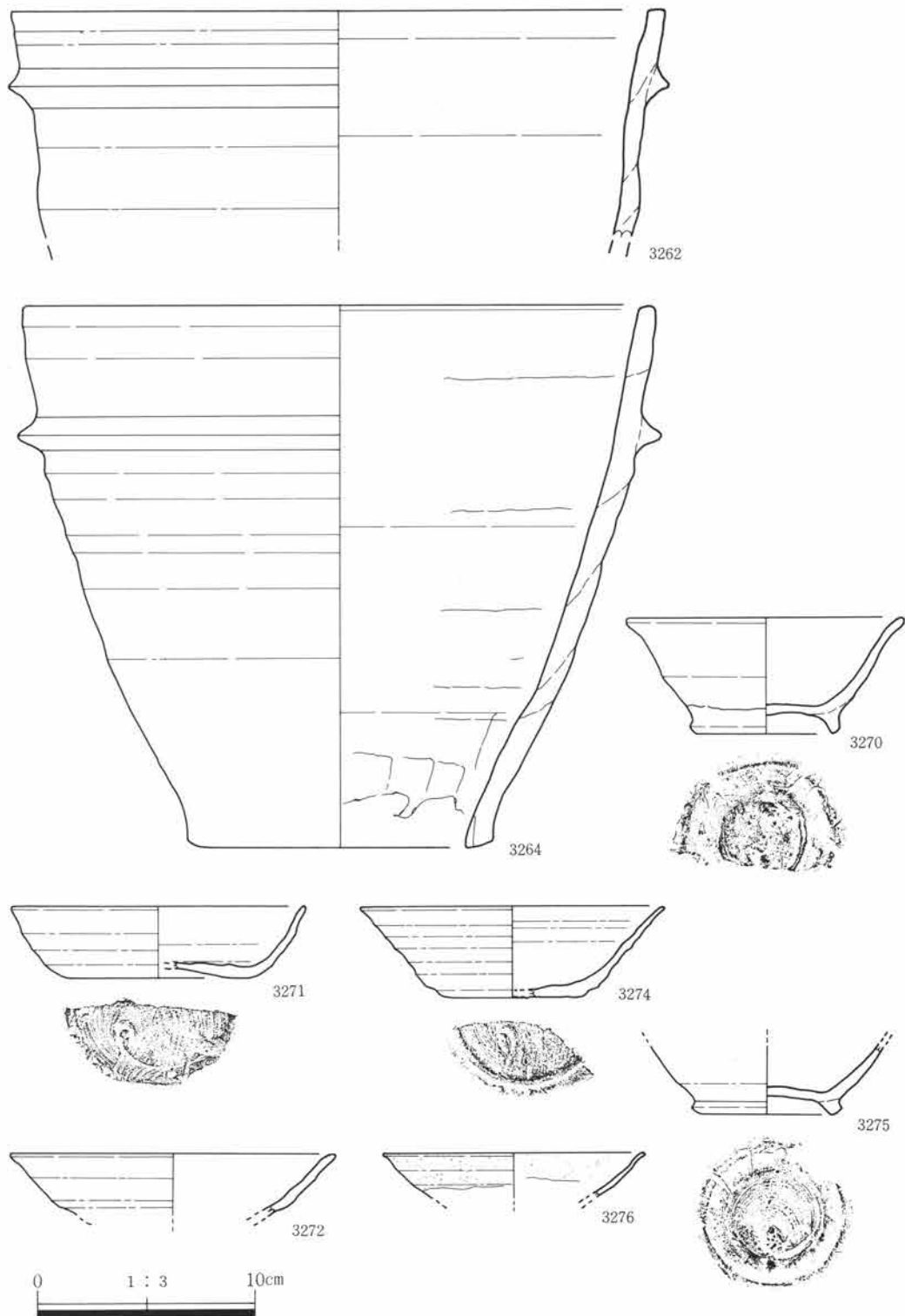
(1) 竪穴住居跡

3273	椀	器高:47mm口径:[144mm]底径:[80mm]	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。にぶい赤褐。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内南西部床上15cm。内面に油煙付着。
3277	土 錘	長さ:50mm直径:23mm孔径:3mm	砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐。	棒状。両端が細くなる。	住居内北東部床直

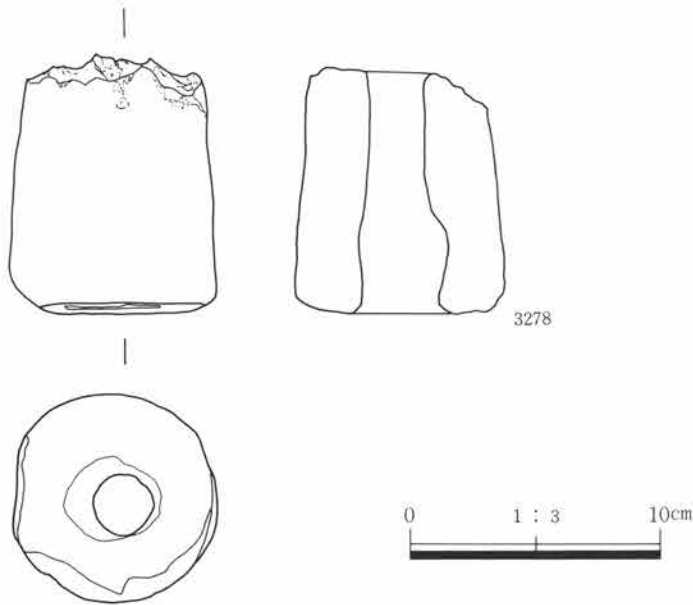


第575図 I地区B区22b号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第576図 I地区B区22b号住居跡遺物図(2)



第577図 I地区B区22b号住居跡遺物図(3)

第175表 I地区B区22b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3261	羽釜	器高:(161mm)口径:184mm底径:一最大径:220mm口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部～体部上半は内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部～鑿部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内北西部床直内外面に油煙付着
3262	甗	器高:(103mm)口径:[300mm]底径:一最大径:[303mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	最大径は鑿部。内外面共に口縁部～体部上半は轆轤なで。	住居内北西部床直内外面に油煙付着
3263	羽釜	器高:(57mm)口径:[194mm]底径:一口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は内湾。外面:口縁部～鑿部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内北西部床直
3264	甗	器高:(247mm)口径:[290mm]底径:[140mm]最大径:[296mm]口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径4～5mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	最大径は鑿部。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～体部は轆轤なで、体部下端は罷なで。	住居内北西部床直内外面に油煙付着
3265	甗	器高:(76mm)口径:[174mm]底径:一口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	竈内他。内外面に油煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

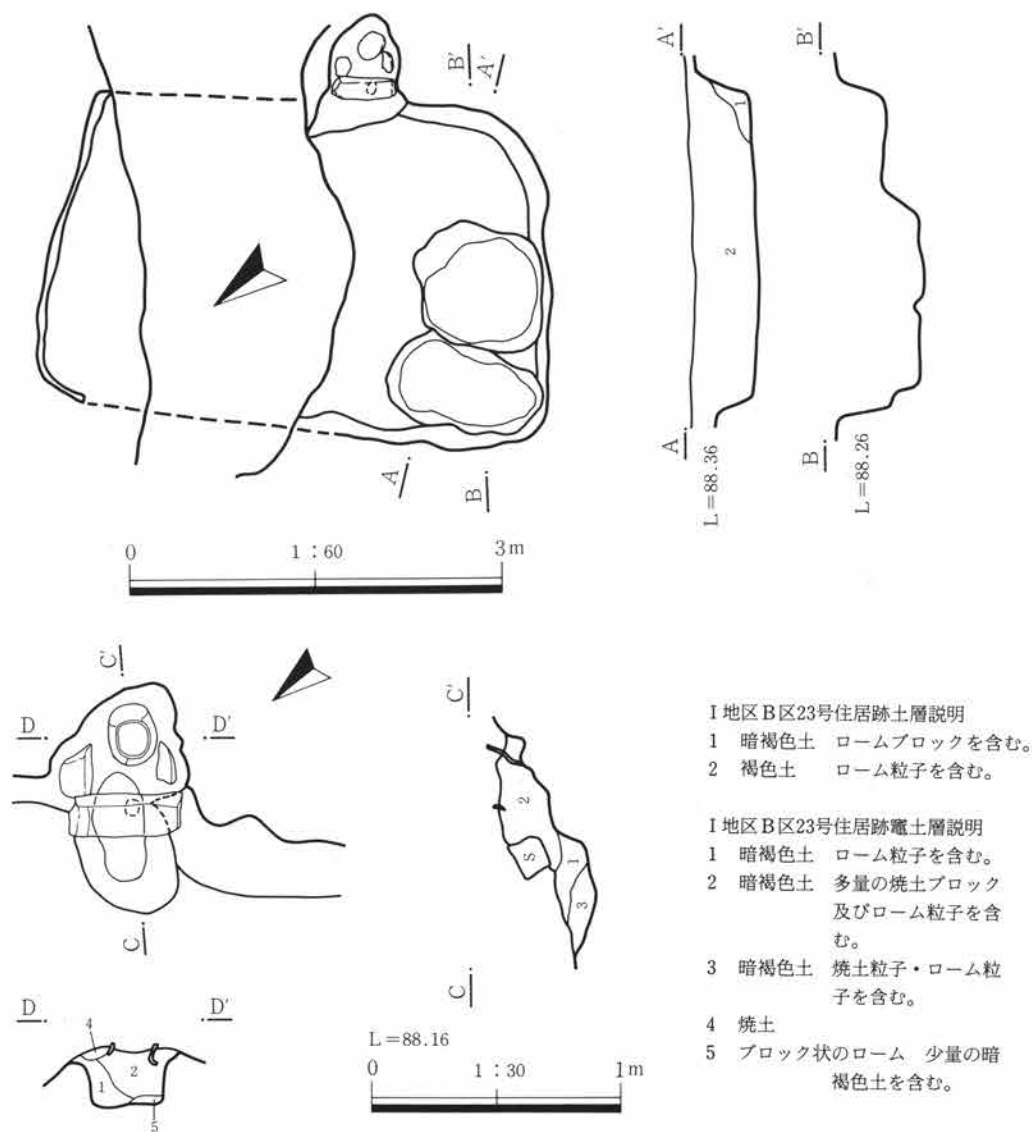
3266	甃	器高:(77mm)口径: 一底径:[208mm]体部 下半~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	外面:体部下半は寛なで、体部下端 ~底部は寛削り。内面:体部下端~底 部は寛なで。	竈前床直。
3267	杯	器高:38mm口径:129 mm底径:63mm完形	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内北西部床直 外面に油煙付着。
3268	杯	器高:40mm口径:[136 mm]底径:61mm口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回 転糸切り。外面:口縁部は横なで、体 部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで 体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。外面 に燻しあり。
3269	椀	器高:(41mm)口径: 162mm底径:一口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。黄灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
3270	椀	器高:53mm口径:[128 mm]底径:69mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内南東部床上 10cm。内外面に油 煙付着。
3271	杯	器高:33mm口径:[135 mm]底径:[86mm]口縁 部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内南西部床直
3272	椀	器高:(29mm)口径: [150mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 オリブ灰。	口縁部は僅かに外湾。外面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁 部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南東部床上 20cm。
3274	杯	器高:42mm口径:[140 mm]底径:[64mm]口縁 部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 青灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内北東部床直 外面に油煙付着。
3275	椀	器高:(32mm)口径: 一底径:[70mm]体部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。暗褐。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。 内面:体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3276	皿 灰釉陶器	器高:(21mm)口径: [120mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口 縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部隅床 上10cm。
3278	羽 口	長さ:102mm先端部直 径:85mm 輪側直径76 mm孔径:38mm	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い褐。	外形・口形共に不整円形。輪側先端部 にはガラス質の滓が溶着しており、 その付近は灰色に還元されている。 全体的な形は円筒形。	住居内北東部隅床 上20cm。

(1) 竪穴住居跡

I 地区 B 区 23 号住居跡 (第 578・579 図、第 176 表)

当住居跡は、B 区 5 号住居跡・B 区 1 号古墳と重複する。B 区 5 号住居跡との新旧関係は不明である。B 区 1 号古墳との新旧関係は、当住居跡が B 区 1 号古墳の周溝覆土内から検出されたことにより、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約 4.0m・南北方向約 2.7m であり、平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸は N-41°-E である。確認面までの壁の立ち上がりは、約 30~40cm であり、残存状態は良好であるが、一部検出できなかった。確認できた部分の床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は確認できなかった。

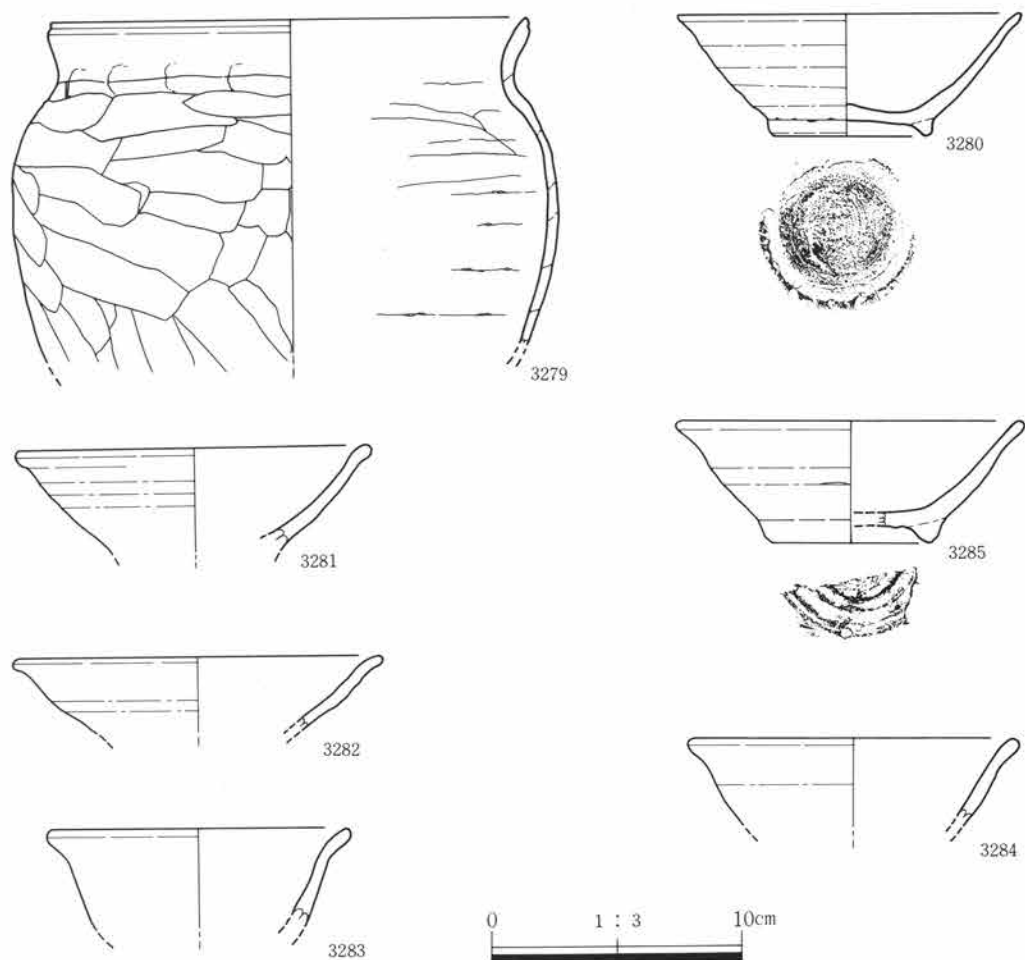


第 578 図 I 地区 B 区 23 号住居跡遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物

竈は、東側の壁に築かれている。残存状態は比較的良好であり、壁外へ掘り込まれた燃烧部の両脇は切り石で固められ、天井石と考えられる砂岩製切り石が乗せられている位置からずり落ちた状態で検出できた。煙道部先端には、体部下半から底部の欠けた土師器の甕が逆さまに据えられ、煙突にされていた。又、燃烧部の中央には、支脚と考えられる河原石が置かれている状態であった。住居内南西部分からは2基のピットが検出できた。南西部隅のピットの規模は、長軸約120cm・短軸約60cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は、細長い楕円形を呈する。又、ピットの南側の壁際からは焼土が検出できた。その東側に接するピットの規模は、一辺約90cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は、不整形な方形を呈する。前者のピットは貯蔵穴の可能性が考えられる。柱穴は確認できなかった。

遺物は、煙突に使用されていた酸化焼成の甕の他、酸化焼成の椀、還元焼成の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半である。 (井川)



第579図 I地区B区23号住居跡遺物図

第 176 表 I 地区 B 区 23 号住居跡遺物観察表

番号	器 種 土 器 種	法量(器高・口径・底 径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器 形 ・ 技 法 の 特 徴	出 土 状 態 備 考
3279	甕	器高:(130mm)口径: 191mm 底径:一最大 径:217mm 口縁部〜体 部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、頸部に指頭痕が残り、体部は篋削 り。内面:口縁部は横なで、体部は篋 なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3280	椀	器高:49mm 口径:[137 mm]底径:66mm 口縁部 〜高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底 部は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで 内面:口縁部は横なで、体部〜底部は 轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
3281	椀	器高:(42mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部〜体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 硬質。黄灰。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁 部は横なで、体部はなで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2382	椀	器高:(30mm)口径: [148mm]底径:一口縁 部〜体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 褐灰。	口縁端部はやや外湾。外面:口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁 部は横なで、体部はなで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
2383	椀	器高:(40mm)口径: [120mm]底径:一口縁 部〜体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 鈍い橙。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部は 横なで、体部はなで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3284	椀	器高:(35mm)口径: [132mm]底径:一口縁 部〜体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰黄。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁 部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。
3285	椀	器高:49mm 口径:[139 mm]底径:[68mm]口縁 部〜高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2〜3 mm の小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。褐。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台貼 り付け。外面:口縁部は横なで、体部 は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、 体部〜底部は轆轤なで。	住居内北西部。内 外面に油煙付着。

I 地区 B 区 26 号住居跡 (第 580〜582 図、第 177 表、図版 87)

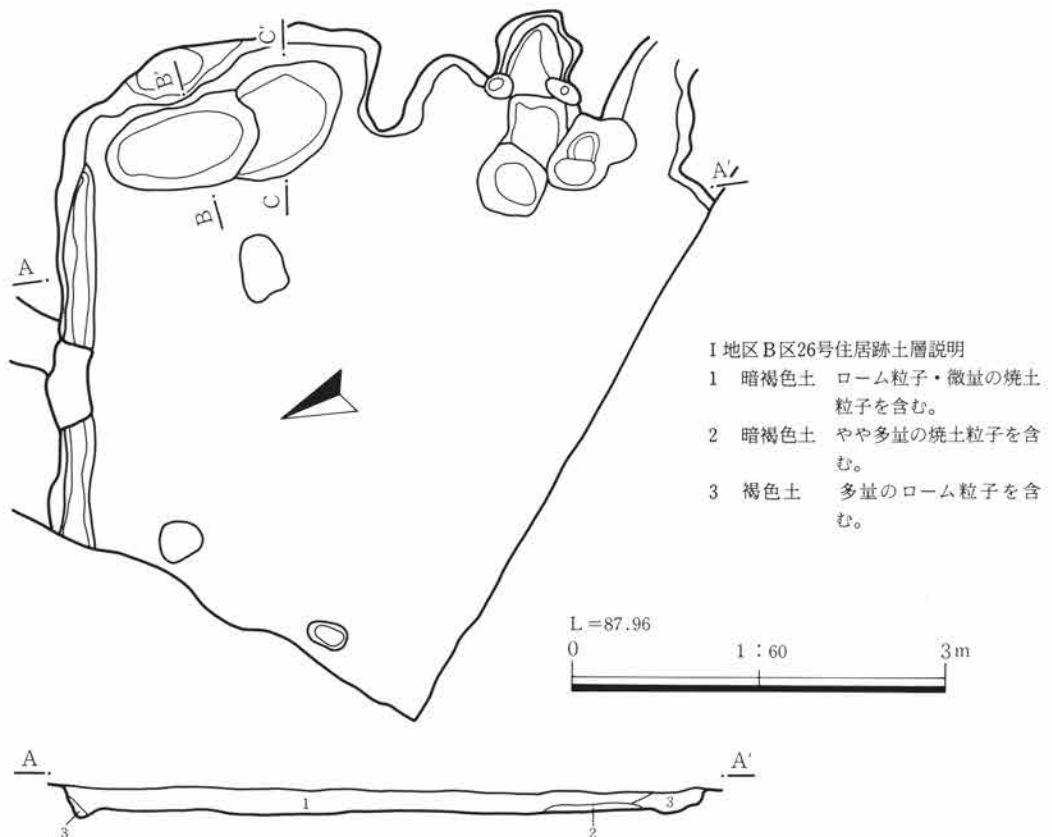
当住居跡は、B 区 8 号溝跡・B 区 9 号溝跡と重複する。B 区 8 号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。B 区 9 号溝跡との新旧関係も、同溝跡が当住居跡の壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北側は B 区 8 号溝跡に破壊されており、西側は調査区域外となるために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約 30〜40cm を測る。床面は、やや軟弱であり、やや凹凸が多い。住居内の東側からは、壁溝が検出できたが、他からは検出できなかった。規模は、幅約 20cm・床面からの深さ約 10cm である。

第4章 平安時代の遺構と遺物

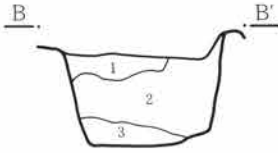
竈は南側壁に築かれている。燃烧部の両脇には、袖に使用された砂岩の切り石が地山に埋め込まれた状態で検出でき、内部からは焼土が検出できた。又、燃烧部と煙道部の境からは、石を埋め込んだと考えられる小ピットが両壁際から検出できた。竈の左側、住居内の南東部隅からは、貯蔵穴と考えられるピットが確認できた。ピットは重複しているが、新旧関係は不明である。東よりのピットの規模は、長軸約120cm・短軸約65cm・床面からの深さ約40cmであり、平面形は、細長い楕円形を呈する。竈よりのピットの規模は不明であるが、床面からの深さ約40cmであり、平面形は、楕円形を呈すると推定される。両ピット共に覆土には焼土粒子を含んでいる。その他、住居内からは3基の小ピットが検出できた。東側の2期の小ピットの規模は、直径30~50cmであり、深さは不明であるが平面形は、不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。柱穴と考えることが可能である。

遺物は、酸化焼成の甕・碗、還元焼成の甕・碗・杯、灰釉陶器の碗が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。 (井川)



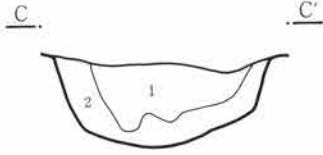
第580図 I 地区B区26号住居跡遺構図(1)

(1) 竪穴住居跡



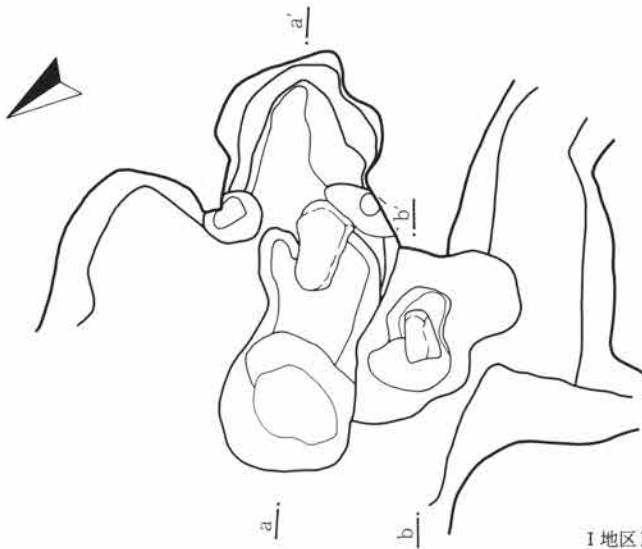
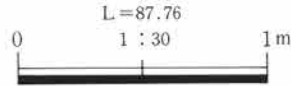
I 地区B区26号住居跡貯蔵穴土層説明 (B-B')

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 ローム・暗褐色土の混合 やや多量のローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土・ロームの混合。



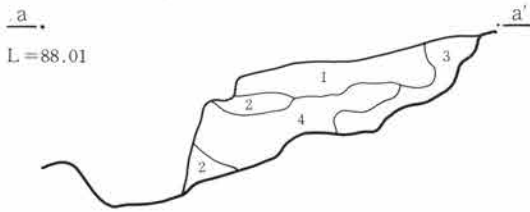
I 地区B区26号住居跡貯蔵穴土層説明 (C-C')

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子を含む。



I 地区B区26号住居跡竈土層説明 (a-a')

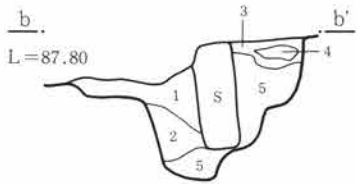
- 1 暗褐色粘質土 暗褐色土・ロームの混合・少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 3 ローム 暗褐色土・少量の焼土粒子を含む。
- 4 焼土 暗褐色土を含む。



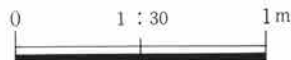
L = 88.01

I 地区B区26号住居跡竈土層説明 (b-b')

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土 多量のローム粒子を含む。
- 3 褐色土 ローム粒子を含む。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 ローム粒子・多量の焼土粒子を含む。

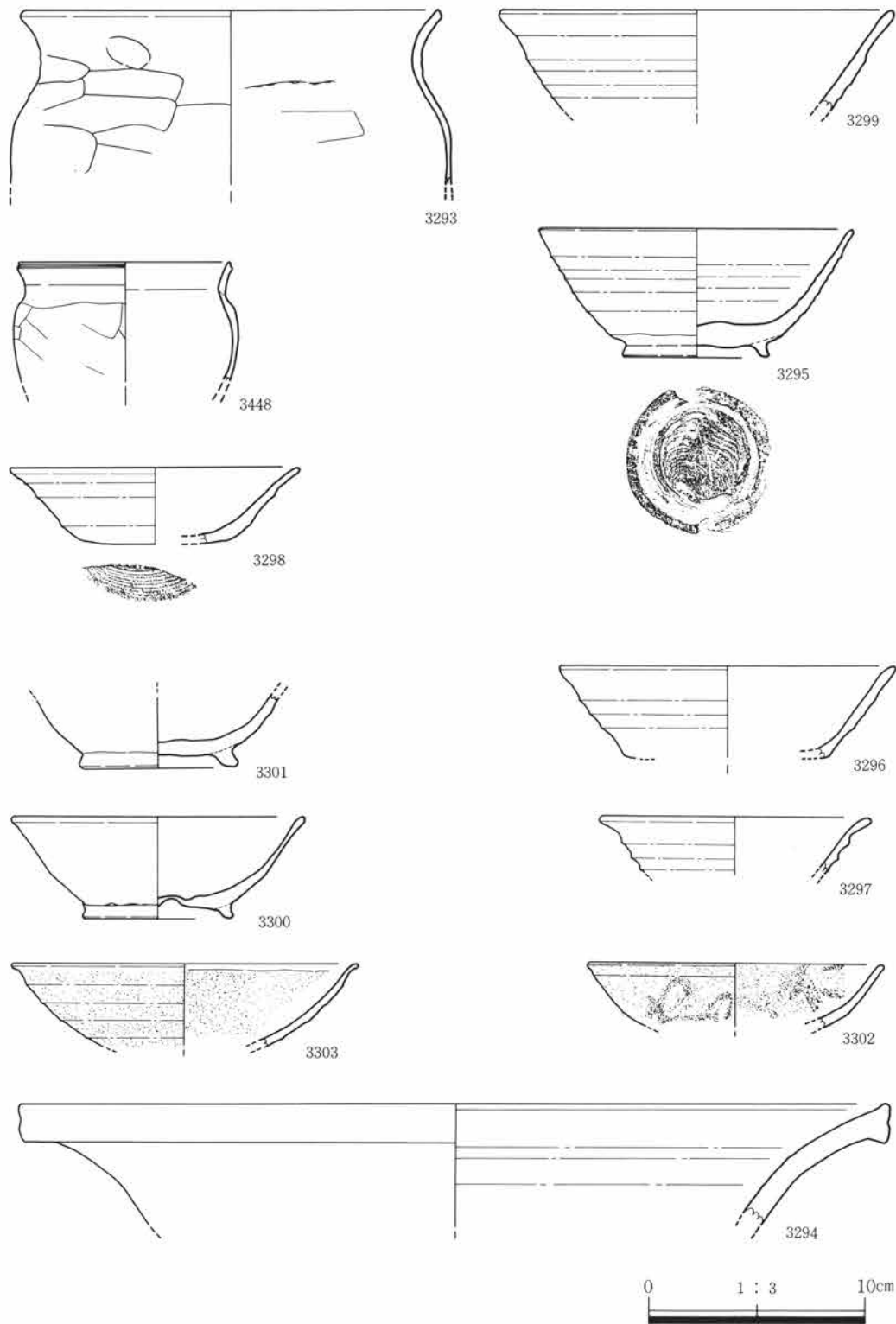


L = 87.80



第581図 I 地区B区26号住居跡遺構図 (2)

第4章 平安時代の遺構と遺物



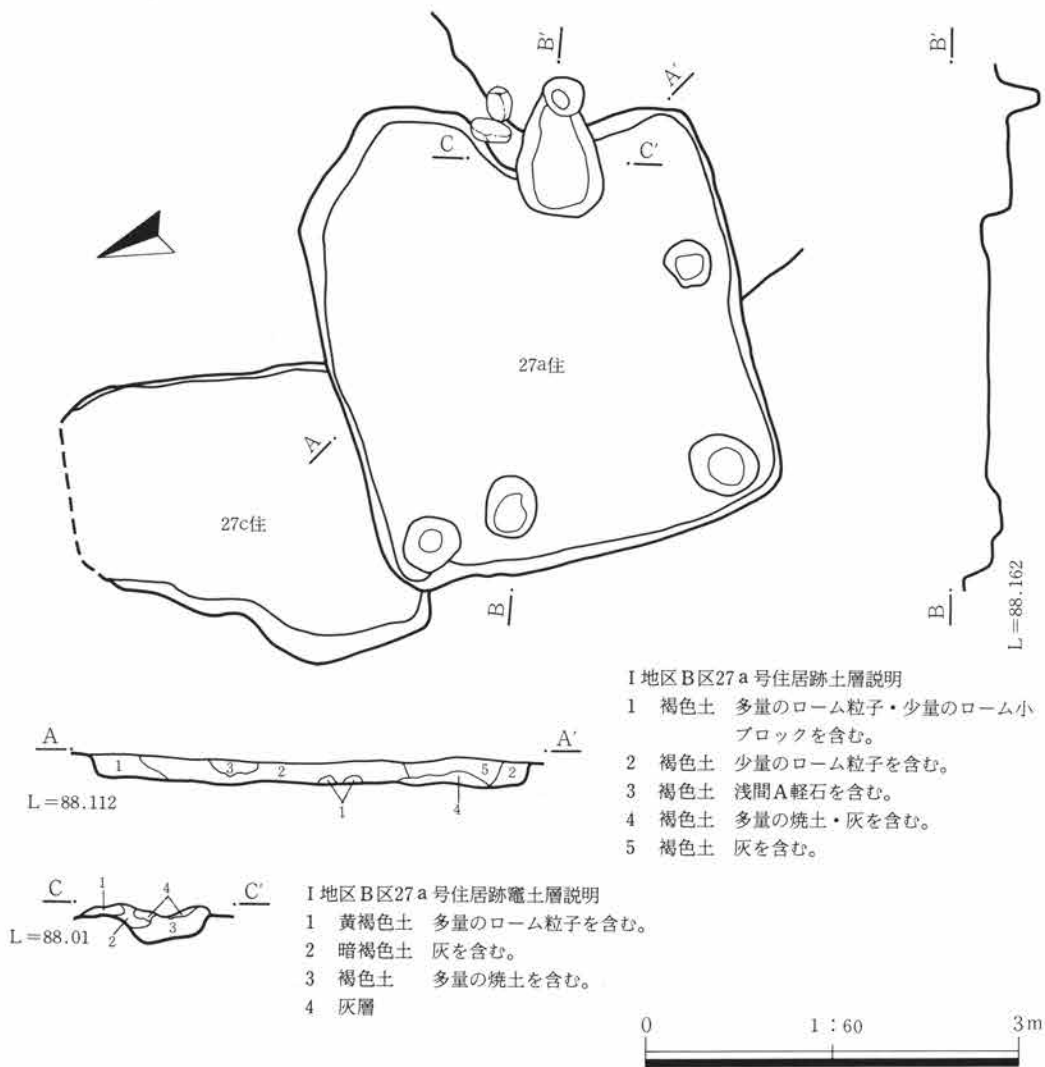
第582図 I地区B区26号住居跡遺物図

第 177 表 I 地区 B 区 26 号住居跡遺物観察表

番号	器 種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態
3293	甕	器高:(80mm)口径:[194mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質灰褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。
3294	甕	器高:(56mm)口径:[402mm]底径:一口縁部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 3~4 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は大きく外湾。口縁端部に外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は轆轤なで。	竈 B 外。
3295	椀	器高:59mm口径:[146mm]底径:[68mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内床下。外面に油煙付着。
3296	椀	器高:(43mm)口径:[155mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。
3297	椀	器高:(26mm)口径:[126mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧なで。	住居内床下。
3298	杯	器高:(36mm)口径:[134mm]底径:[68mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内床下。
3299	椀	器高:(46mm)口径:[182mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は僅かに外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。	竈内。
3300	椀	器高:47mm口径:[136mm]底径:[70mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部はなで。内面:口縁部は横なで、体部~底部はなで。	貯蔵穴内。
3301	椀	器高:(33mm)口径:一底径:73mm口縁部~高台部残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。鈍い黄橙。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。内面:体部~底部は轆轤なで。	住居内床下。
3302	椀 灰釉陶器	器高:(29mm)口径:[137mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は僅かに外湾。内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内床下。
3303	椀 灰釉陶器	器高:(38mm)口径:[160mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は外湾。内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内床下。
3448	甕	器高:(55mm)口径:98mm底径:一最大径:104mm口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径 2~3 mm の小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。暗褐色。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部横なで、体部上半は篋なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。

I地区B区27a号住居跡（第583・584図、第178表、図版87）

本住居跡は、耕作土下、黄褐色土中で確認された。27b・27c号住居跡と重複し、27bよりは新しい。規模は、東西方向で約3.5m、南北方向で約3.3mを測り、主軸はN-84°-Wである。平面形は隅丸長方形を呈する。床面に土坑が重複するため凹凸が多い。竈は東辺中央やや南寄りにある。主体部は殆ど残らず、僅かに灰・焼土の散布がある。遺物は、酸化焼成の羽釜・甕、還元焼成の椀・杯が出土している。（秋池）

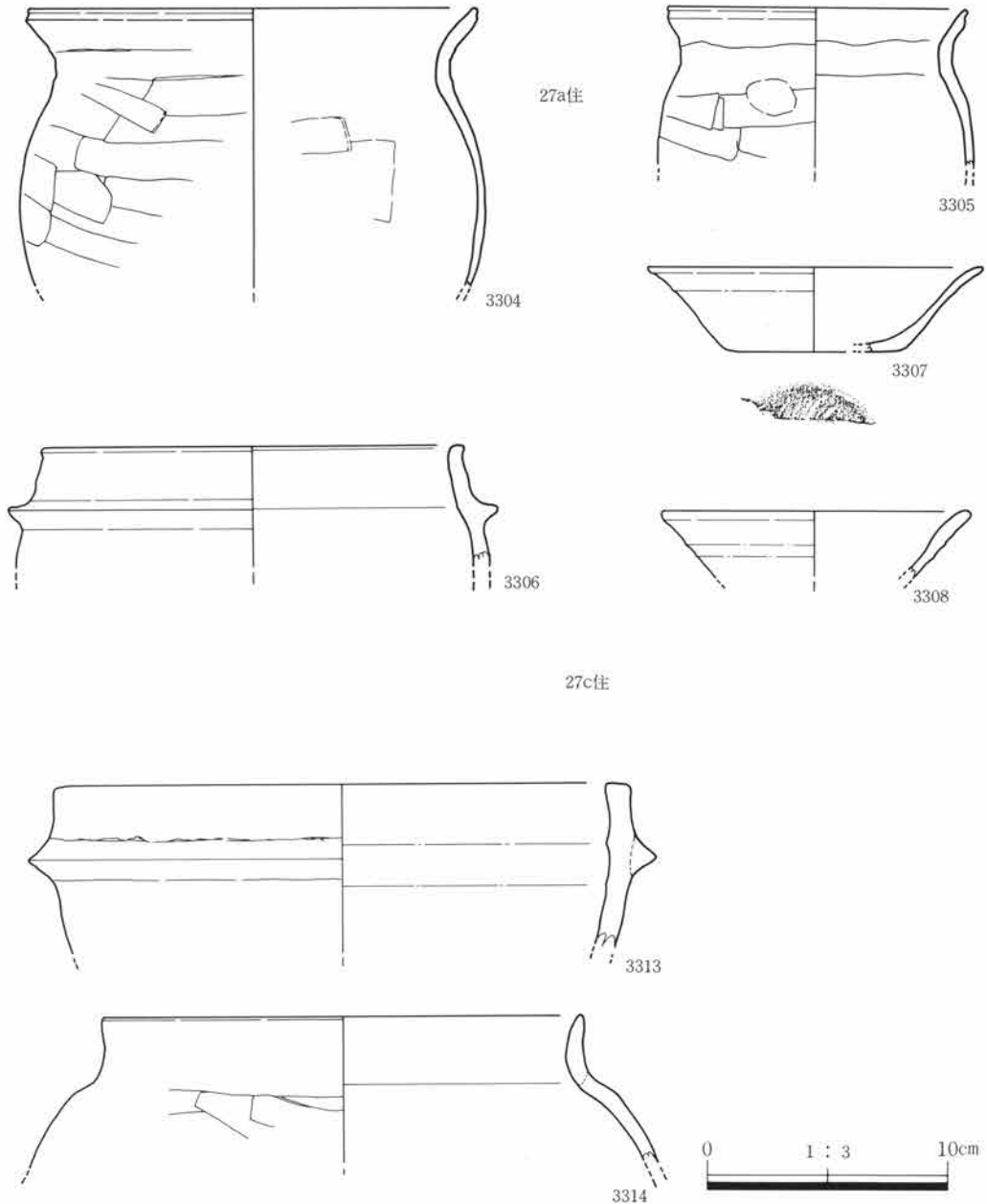


第583図 I地区B区27a・27c号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡

I 地区B区27c号住居跡 (第583・584図、第178表)

本住居跡は、耕作土下、黄褐色土中で確認された。27a号住居跡と重複する。本住居跡が古いと考えられる。北辺から南辺にかけて攪乱が激しい。柱穴は確認できなかった。平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。主軸はN-23°-Eである。遺物は、酸化焼成の甕・羽釜が出土している。出土遺物から平安時代とする。 (秋池)



第584図 I 地区B区27a・27c号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第178表 I地区B区27a・27c号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
27a住					
3304	甕	器高:(115mm)口径:[186mm]底径:一最大径:[194mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は篋なで。	甕内。
3305	甕	器高:(66mm)口径:[125mm]底径:一口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半はなで。	住居内北西部床直内外面に油煙付着
3306	羽釜	器高:(50mm)口径:[176mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部は内湾。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3307	杯	器高:35mm口径:[140mm]底径:[74mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質浅黄。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内床下。内外面に油煙付着。
3308	椀	器高:(28mm)口径:[128mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質黄灰。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内床下。
27c住					
3313	羽釜	器高:(69mm)口径:[240mm]底径:一最大径:[260mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3314	甕	器高:(62mm)口径:[200mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部は僅かに外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	甕内。

I地区B区29号住居跡(第585図)

当住居跡は、B区11号溝跡と重複する。新旧関係は、B区11号溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

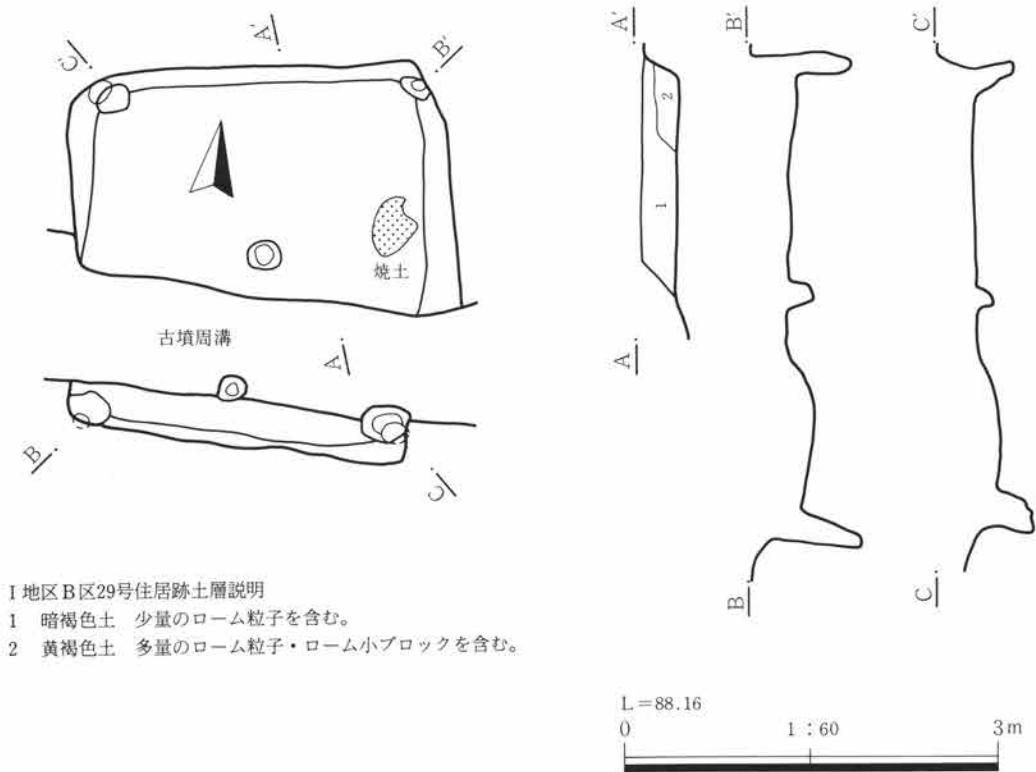
当住居跡の規模は、一辺約3.0mであり、平面形は、隅丸方形を呈する。確認面までの壁の立ち上がりは約20~30cmであり、床面はやや軟弱であり、細かい凹凸が多い。壁溝は検出できなかった。

竈は検出できなかったが、東側壁際の中央部からは焼土の散布が検出できた。住居内からは6基の小ピットが検出できたが、柱穴と考えられるのは5基である。1基は住居内の中央部に穿たれている。規模は、直径約25cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は円形を呈する。残りの4

(1) 竪穴住居跡

基は各コーナーに穿たれている。規模は、長軸約25~35cm・短軸約15~30cm床面からの深さは約30~50cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。コーナーの柱穴は、斜めに掘られており、柱穴から考える当住居跡の構造は、他の住居跡とは異なる。貯蔵穴は検出できなかった。

遺物の出土は無く、当住居跡の時期の限定は困難であるが、住居跡の形態・周囲の遺構との関係から、平安時代の住居跡としておく。(井川)



第585図 I 地区B区29号住居跡遺構図

I 地区B区30 a 号住居跡 (第586・587図、第179表)

当住居跡は、B区30 b 号住居跡・B区11号溝跡と重複する。B区30 b 号住居跡との新旧関係は、当住居跡がB区30 b 号住居跡の東側端部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。B区11号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

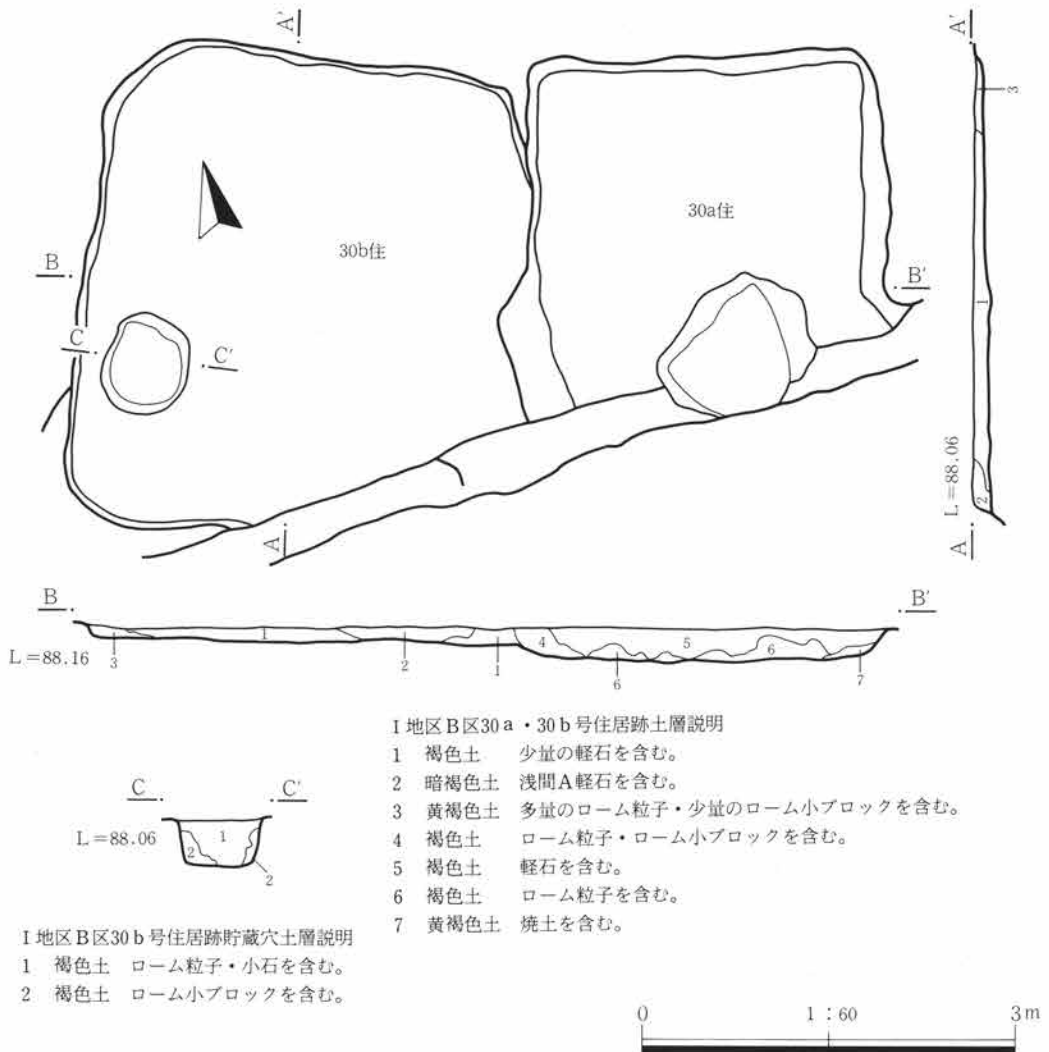
当住居跡の規模は、B区11号溝跡に破壊されていることにより不明であるが、東西方向は約2.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約20cmであり、残存状態はやや悪い。床面は、比較的堅いが、やや凹凸が多い。壁溝は確認できなかった。

第4章 平安時代の遺構と遺物

竈・柱穴・貯蔵穴は検出できなかったが、南東部分からは焼土が検出できた。遺物は、酸化焼成の椀、還元焼成の椀、灰釉陶器の椀が出土しており、そのうち3個体は硯への転用形態である。遺物の出土量は少ないが、遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

I 地区 B 区 30 b 号住居跡 (第586・588図、第180表、図版89)

当住居跡は、B区30a号住居跡・B区30c号住居跡・B区11号溝跡と重複する。B区30a号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の東側端部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。B区30c号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。B区11号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の



第586図 I 地区 B 区 30a ・ 30b 号住居跡遺構図

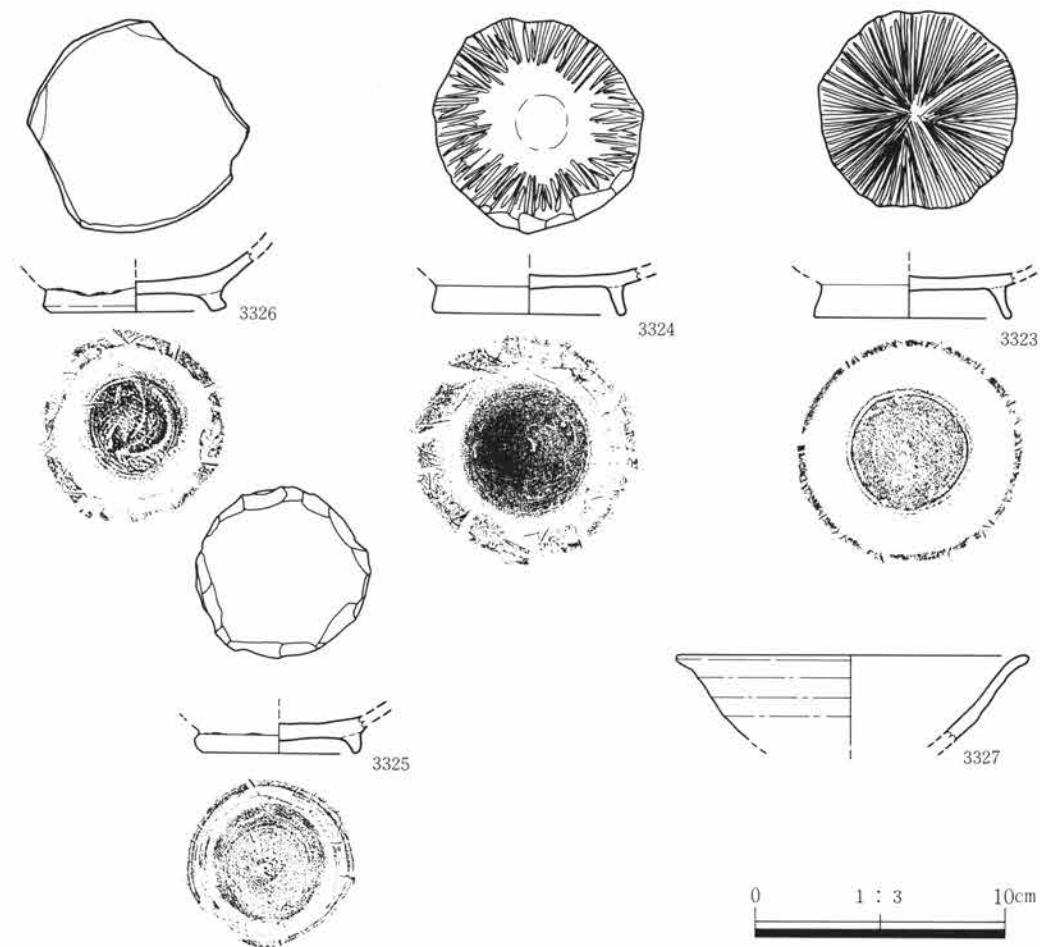
(1) 竪穴住居跡

南東部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、B区30a号住居跡・B区11号溝跡により破壊されており確定できないが、東西方向約3.8m・南北方向約3.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-17-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。

竈・柱穴・壁溝は検出できなかったが、住居内の南西部隅のやや北よりからピットが検出できた。規模は、長軸約80cm・短軸約65cm・床面からの深さ約35cmであり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴と考えることができる。

遺物の出土は非常に少なく、酸化焼成の甕が出土しただけであり、時期の限定は困難であるが、周辺の遺構との関係・遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)

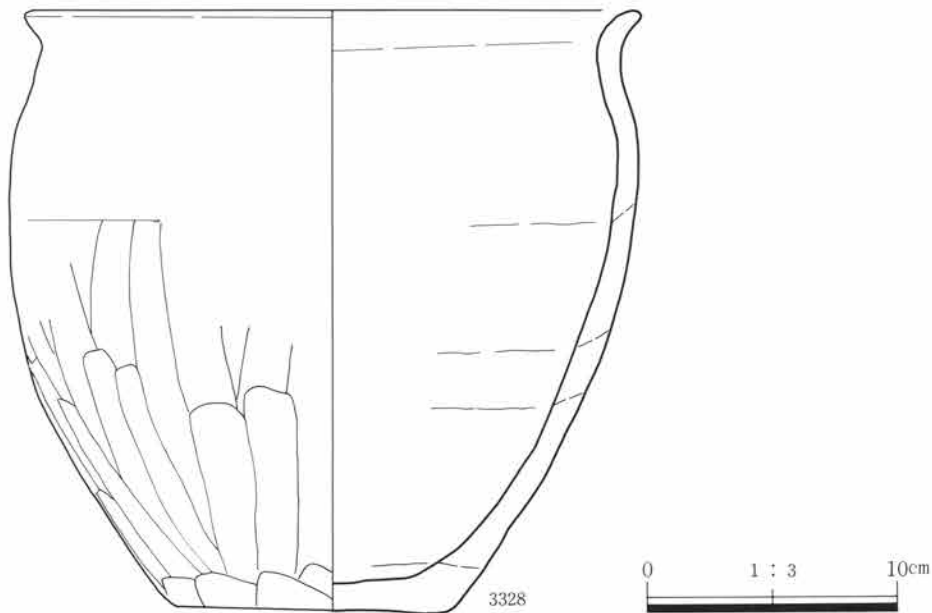


第587図 I地区B区30a号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第179表 I地区B区30a号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3323	椀	器高:(18mm)口径: 一底径:78mm体部下 端~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 外面橙、内面黒。	底部は回転糸切り後、高台貼り付 け後丁寧なで。外面:体部下 端は轆轤なで。内面:体部下 端~底部は篋磨き。	住居内北東部床直 周囲を丁寧に打ち 欠いてある。
3324	椀	器高:(19mm)口径: 一底径:77mm体部下 端~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 外面鈍い橙、内面黒。	底部は回転糸切り後、高台貼り付 け後丁寧なで。外面:体部下 端~高台部は轆轤なで。内面:体部下 端は篋磨き、底部はよく擦れている。	住居内北西部床直 周囲を丁寧に打ち 欠いてある。
3325	椀 灰釉陶器	器高:(16mm)口径: 一底径:66mm体部下 端~高台部残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	底部は高台貼り付け後、丁寧な で。外面:体部下端~高台部は丁寧な 轆轤なで。内面:体部下端~底部は丁寧 な轆轤なで、底部はよく擦れている。	住居内北西部床直 周囲を丁寧に打ち 欠いている。
3326	椀	器高:(23mm)口径: 一底径:[76mm]体部 下半~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付 け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体 部下半~底部は轆轤なで、底部はよ く擦れている。	住居内北西部床上 5cm。
3327	椀	器高:(34mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部1/2残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部は 横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。



第588図 I地区B区30b号住居跡遺物図

第180表 I地区B区30b号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3328	甕	器高:237mm口径:246mm底径:108mm最大径:251mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	口縁部は外湾。最大径は体部上半。外面:口縁部～体部上半は横なで、体部下半は篋削り。内面:口縁部～体部上端は横なで、体部下半はなで。	住居内南西部床直他。内外面に油煙付着。

I地区B区33a号住居跡(第589～591図、第181表、図版88・89)

当住居跡は、B区33b号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の覆土中にB区33b号住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南側部分を破壊されているために不明であるが、東西方向は約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約20～35cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、竈付近を中心に堅く、平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は東側の壁に築かれている。袖は確認できなかったが、燃焼部からは構築材に使用されたと考えられる河原石・多量の遺物・焼土や灰の堆積が検出できた。住居内の北西部隅からはピットが検出できたが、位置・形態から貯蔵穴とは考えにくい。柱穴は検出できなかった。

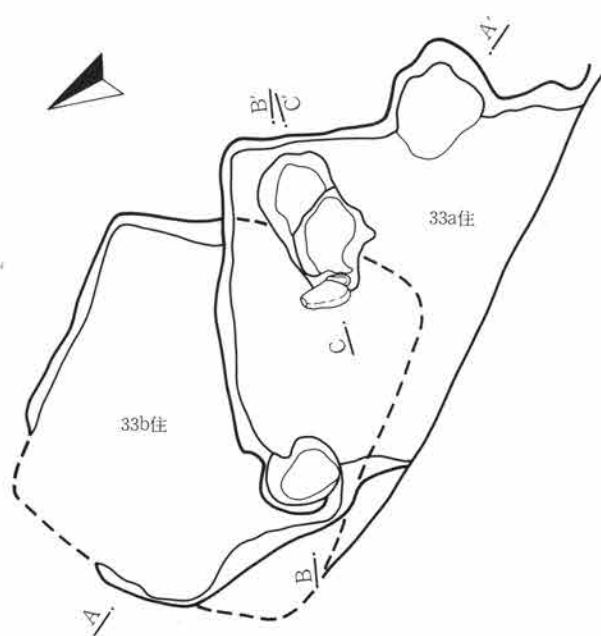
遺物は、竈内・竈周辺を中心に酸化焼成の甕・台付甕・椀、還元焼成の椀、土錘・椀の他、鉄製の紡錘車・釘が出土していることが注目される。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半～10世紀前半である。(井川)

I地区B区33b号住居跡(第589図)

当住居跡は、B区33a号住居跡と重複する。新旧関係は、B区33a号住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

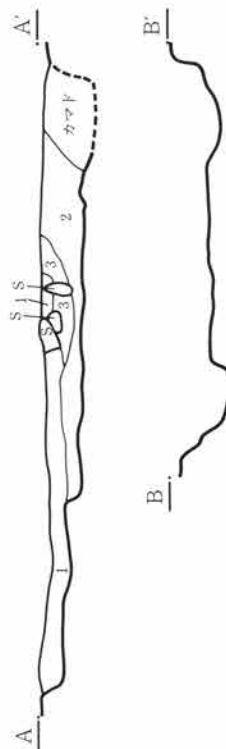
当住居跡の規模は、B区33a号住居跡との重複部分で壁面が確認できなかったために確定できないが、東西方向は約3mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、検出できた北東部分で約5cmであり、残存状態は非常に悪い。床面はやや軟弱であり、凹凸が多い。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側の壁に築かれている。B区33a号住居跡調査中に竈が検出された。袖等は確認できなかったが、竈構築材に使用されたと考えられる河原石と焼土が検出できた。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。当住居跡からは遺物の出土もなく、時期の限定は困難であるが、住居跡の形態・周辺の遺構との関係から平安時代の住居跡と推定している。(井川)

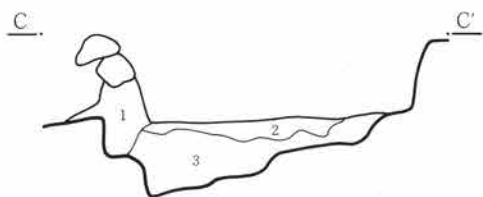
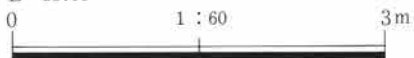


I地区B区33a・33b号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子・白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 多量の焼土を含む。

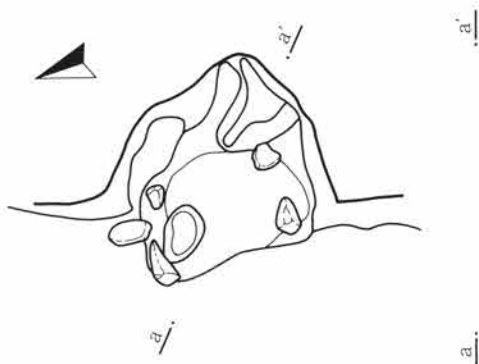


L=88.06



I地区B区33b号住居跡土層説明 (C-C')

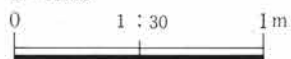
- 1 暗褐色土 多量の焼土を含む。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土とロームの混合



I地区B区33a号竈住居跡土層説明

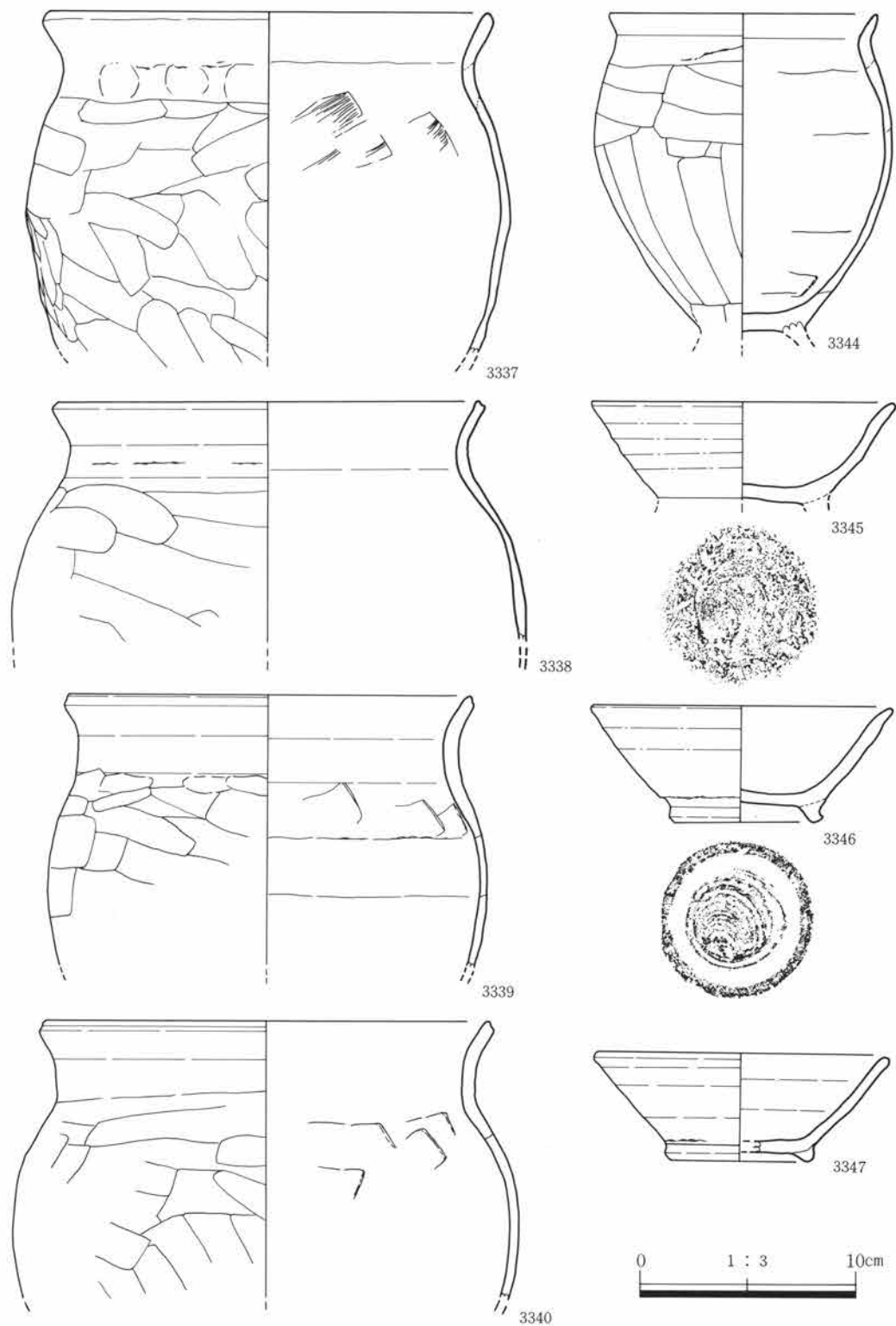
- 1 暗褐色土 軽石を含む。
- 2 暗褐色土 多量の焼土・少量のローム粒子を含む。
- 3 ロームブロック
- 4 暗褐色土とロームブロックの混合

L=88.06



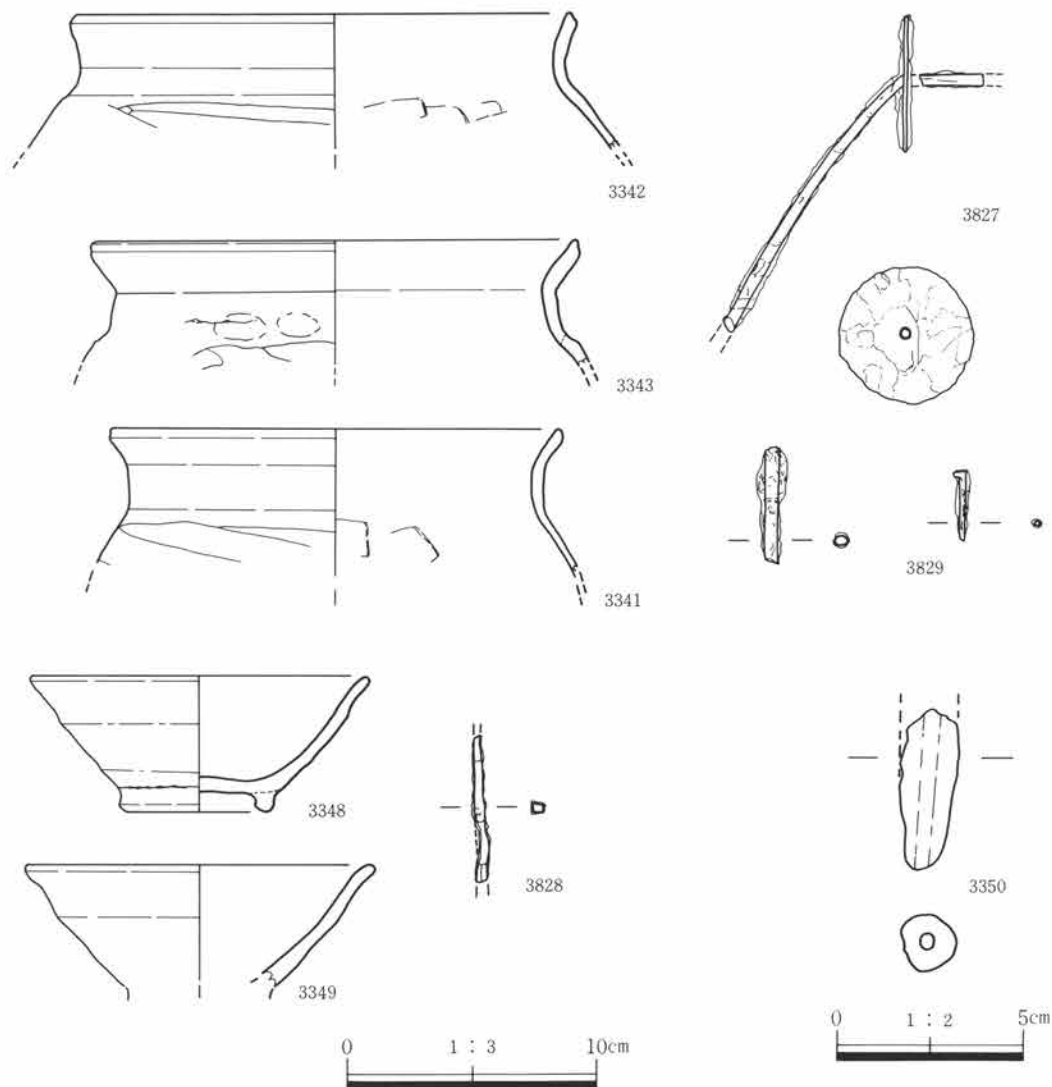
第589図 I地区B区33a・33b号住居跡遺構図

(1) 竖穴住居跡



第590图 I地区B区33a号住居跡遺物図(1)

第4章 平安時代の遺構と遺物



第591図 I地区B区33a号住居跡遺物図(2)

第181表 I地区B区33a号住居跡遺物観察表

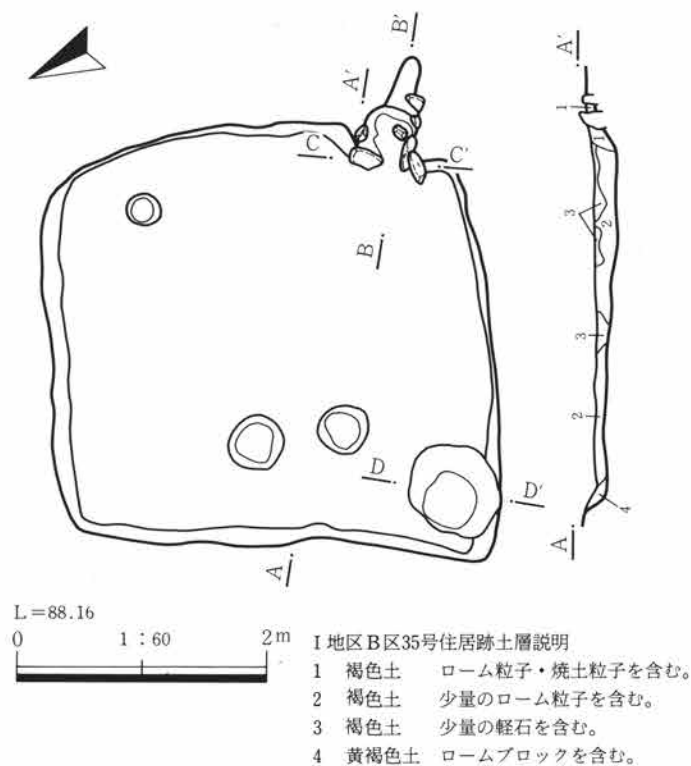
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3337	壺	器高:(162mm)口径: [208mm]底径:一最大 径:[224mm]口縁部 ~体部欠残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体 部は篋削り。内面:口縁部は横なで、 体部は篋なで。	竈内。内外面に油 煙附着。

(1) 竪穴住居跡

3338	甕	器高:(110mm)口径: [200mm]底径:一最大 径:[236mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上半は篋削り。内面:口縁部 は横なで、体部上半は篋なで。	竈内他。内外面に 油煙付着。
3339	甕	器高:(124mm)口径: [187mm]底径:一最大 径:[202mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。最大径は体部上半。 外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕 が残り、体部上半は篋削り。内面:口 縁部は横なで、体部上半は篋なで。	竈内他。外面に油 煙付着。
3340	甕	器高:(126mm)口径: [206mm]底径:一最大 径:[234mm]口縁部 ~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。最大径は体部上半。 外面:口縁部は横なで、体部上半は篋 削り。内面:口縁部は横なで、体部上 半は篋なで。	竈前床土15cm。内 外面に油煙付着。
3341	甕	器高:(58mm)口径: [180mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上半は篋削り。内面:口縁部 は横なで、体部上半は篋なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3342	甕	器高:(54mm)口径: [202mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上半は篋削り。内面:口縁部 は横なで、体部上半は篋なで。	住居内覆土。
3343	甕	器高:(48mm)口径: [194mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、頸部に指頭痕が残り、体部上半は 篋削り。内面:口縁部は横なで、体部 は篋なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。
3344	台付甕	器高:(146mm)口径: [124mm]底径:一最大 径:137mm口縁部~底 部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面:口縁 部は横なで、体部は篋削り。内面:口 縁部は横なで、体部は篋なで。	竈右袖脇床直。内 外面に多量の油煙 付着。
3345	椀	器高:(46mm)口径: 139mm底径:一口縁部 ~底部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い橙。	口縁端部は僅かに外湾。轆轤右回転。 底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内中央部床直 内面に油煙付着。
3346	椀	器高:53mm口径:139 mm底径:71mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で、内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	竈内。内外面に油 煙付着。
3347	椀	器高:49mm口径:[137 mm]底径:[68mm]口縁 部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。褐。	口縁端部は僅かに外湾。底部は回転 糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁 部は横なで、体部~底部は横なで。内 面:口縁部は横なで、体部~底部はな で。	竈内。内外面に油 煙付着。

第4章 平安時代の遺構と遺物

3348	椀	器高:54mm 口径:135mm 底径:62mm 完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3349	椀	器高:(48mm) 口径:[140mm] 底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3350	土 錘	長さ:(43mm) 中央部直径:15mm 端部直径:10mm 孔径:4mm	砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	棒状。両端が細くなる。	住居内覆土。
3827	紡錘車鉄製	長さ:(152mm) 車部直径:53mm 軸部直径:4mm 車部厚さ:1mm		薄い円盤状の車部に棒状の軸部が付いた物。	住居内北西部隅床直。
3828	釘	長さ:(58mm) 厚さ:4mm		釘の一部か?。	住居内北東部床直
3829	釘	長さ:(27mm) 厚さ:3mm		釘の一部。頭部がL字形に曲がる。	住居内北東部床直



第592図 I 地区 B 区 35 号住居跡遺構図 (1)

I 地区 B 区 35 号住居跡

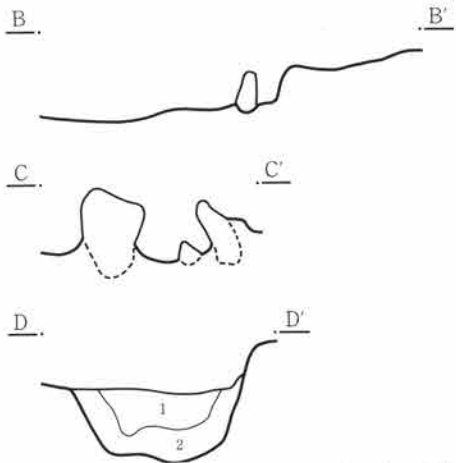
(第592~594図、第182表、図版88)

当住居跡は、B区22a号住居跡・B区27c号住居跡が近接するが、重複はない。当住居跡の規模は、東西方向約3.3m・南北方向約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-22°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は悪い。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。

壁溝は検出できなかった。

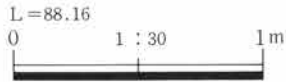
竈は東側壁の南東隅近くに築かれている。袖は河原石を構築材に作られており、その

(1) 竪穴住居跡



I 地区 B 区 35 号住居跡貯蔵穴土層説明 (D-D')

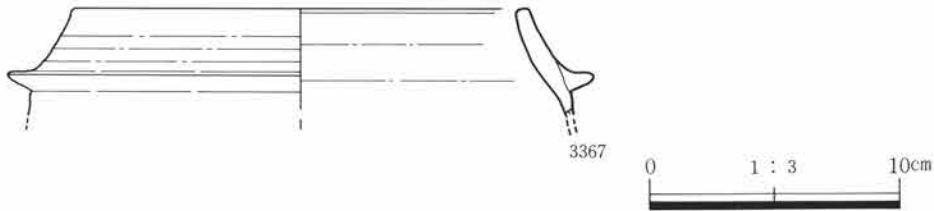
- 1 黄褐色土 多量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土 多量のローム粒子・少量の炭化物を含む。



第593図 I 地区 B 区 35 号住居跡遺構図 (2)

石を地山に埋め込んでいた。又、燃烧部の周囲も河原石で固めてあり、中央部には支脚石を地山に埋め込んでいた。燃烧部の外側には、一段高くなった煙道部が続き、竈全体の壁外への張り出しは約70cmである。住居内からは4基のピットが検出できた。北西部隅のピットは、貯蔵穴と考えることができる。規模は、長軸約80cm・短軸約70cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。同ピットの覆土には、炭化物の混入が確認できた。他の3基のピットを柱穴と考えるには無理がある。

遺物は、還元焼成の羽釜が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。(井川)



第594図 I 地区 B 区 35 号住居跡遺物図

第 182 表 I 地区 B 区 35 号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3367	羽釜	器高:(42mm)口径:[182mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質淡黄。	口縁部は内湾。外面:口縁部~頸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内南東部床直外面に油煙付着。

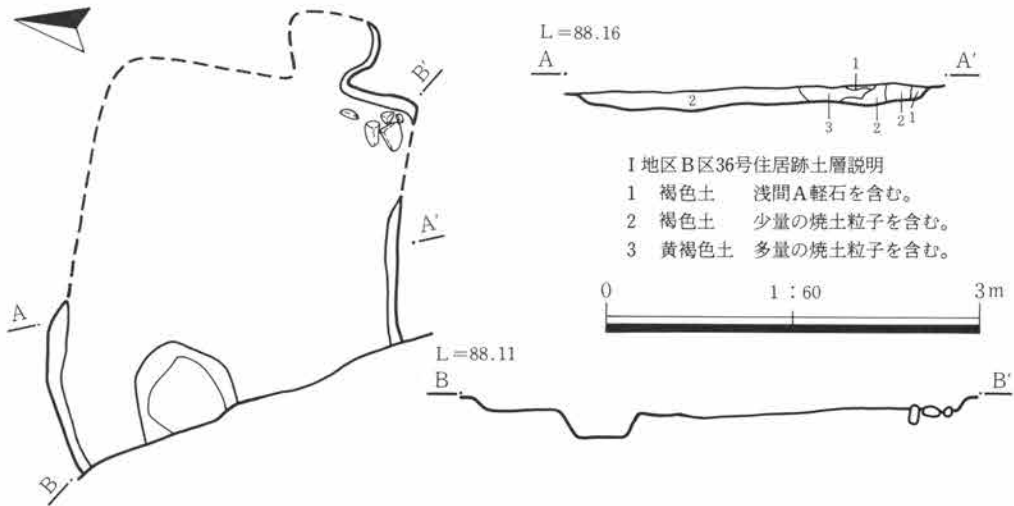
I 地区 B 区 36 号住居跡 (第595・596図、第183表)

当住居跡は、B区46号住居跡・B区4号古墳と重複する。B区4号古墳との新旧関係は、当住居跡の壁・床がB区4号古墳の周溝覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。B区46号住居跡との新旧関係を直接的に把握することはできないが、B区46号住居跡とB区4号古墳との新旧関係から、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、残存状態が悪く確定することはできないが、南北方向は約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約5cmであり、残存状態は非常に悪い。床面は軟弱であり、凹凸が多い。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖等は検出できなかったが、燃烧部で焼土が確認できた。住居内の北西部分からはピットが検出できた。規模は確定できないが、径約80cm・確認面からの深さ約20mであり、平面形は円形ないしは楕円形を呈するものと推定される。貯蔵穴の可能性が考えられる。柱穴は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の甕が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は9世紀後半～10世紀前半である。(井川)



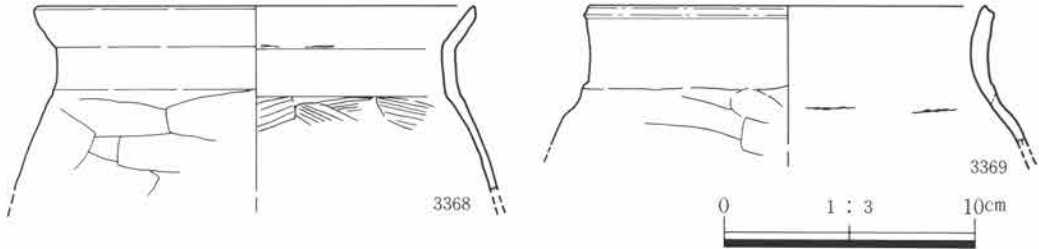
第595図 I 地区 B 区 36 号住居跡遺構図

第 183 表 I 地区 B 区 36 号住居跡遺物観察表

番号	器 器 種 種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3368	甕	器高:(74mm)口径:[176mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	竈内。内外面に油煙付着。

(1) 竪穴住居跡

3369	甕	器高:(56mm)口径: [158mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い褐色。	口縁部はやや外湾。外面:口縁部は横なで、頸部に指頭痕が残り、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	住居内南西部床上10cm。内外面に油煙付着。
------	---	---	-------------------------------	---	------------------------



第596図 I地区B区36号住居跡遺物図

I地区C区2a号住居跡 (第597~599図、第184表、図版90)

本住居跡は、耕作土下、黄褐色土中で確認された。2b・2c・2d号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。東北部は調査対象外となるため、未調査となっている。規模は、東西方向約4.1mを測る。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、主軸はN-35°-Eである。床面は大部分が2b号住居跡の覆土を固め使用している。柱穴は確認できなかった。竈は東辺南寄りに存在したが、本体は既に失われ、この部分に焼土と灰と石材の散布がある。遺物は、酸化焼成の甕、還元焼成の羽釜・椀・杯が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)

I地区C区2c号住居跡 (第597・598図、図版90)

本住居跡は、2b号住居跡調査中住居跡と確認された。そのほとんどが調査対象外となっている。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定する。床面はローム面を使用している。出土遺物はないが、2b号住居跡より新しいと考えられ、周辺の遺構との関係から、平安時代の住居跡と推定する。(秋池)

I地区C区2d号住居跡 (第597・598・600図、第185表、図版90)

本住居跡は耕作土下、黄褐色土中で確認された。2a号住居跡と重複するが、前後関係は不明である。南東部半分は調査対象外となっている。規模は、南北方向約3.0mを測る。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定できる。床面はローム面を使用している。中央部分に径約90cmの土坑がある。遺物は、酸化焼成の羽釜・甕・椀、還元焼成の羽釜・杯、の出土がある。出土遺物から平安時代とする。(秋池)

第4章 平安時代の遺構と遺物

I地区C区2a・2c号住居跡土層説明 (A-A')

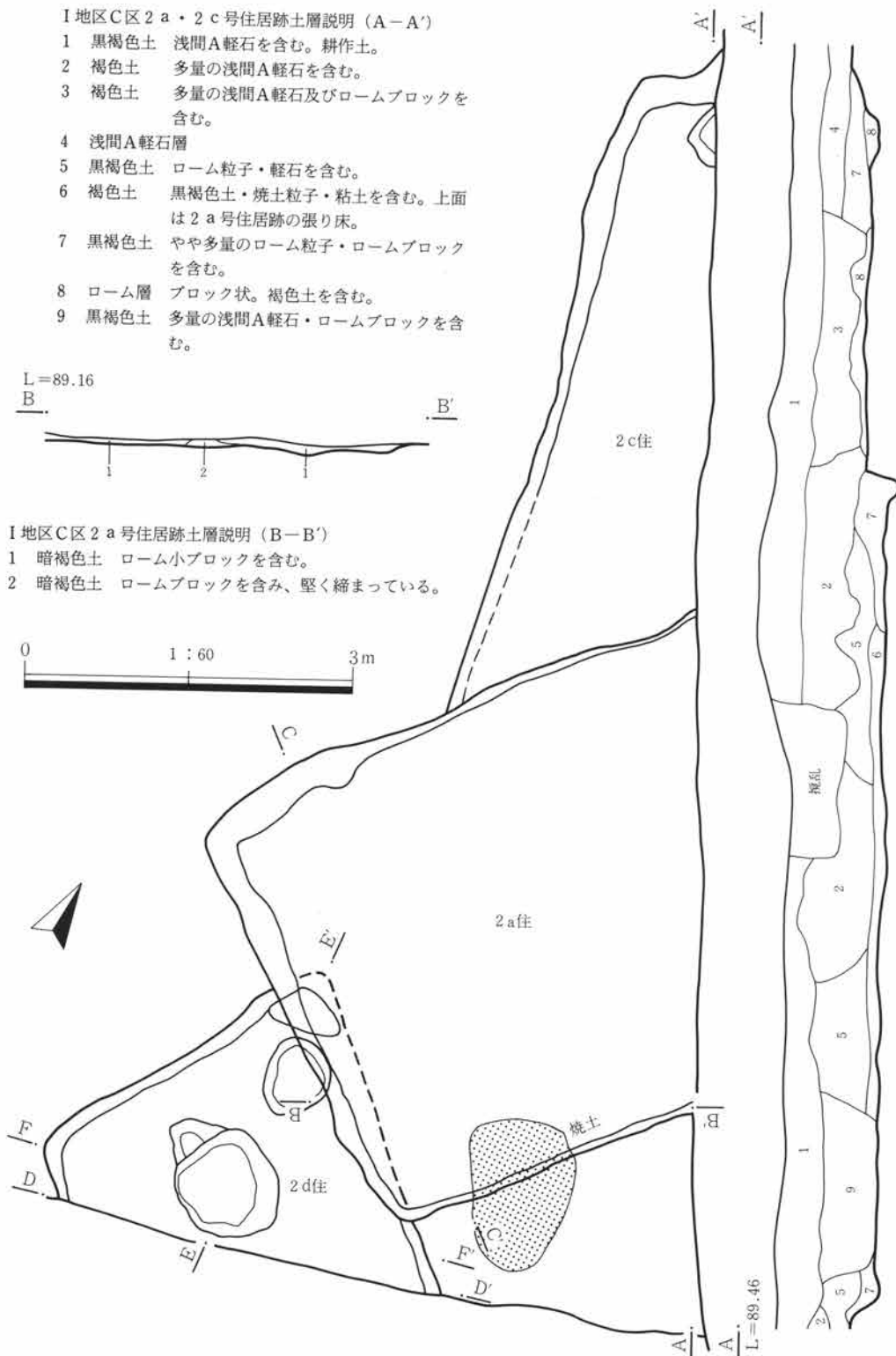
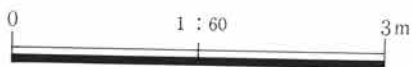
- 1 黒褐色土 浅間A軽石を含む。耕作土。
- 2 褐色土 多量の浅間A軽石を含む。
- 3 褐色土 多量の浅間A軽石及びロームブロックを含む。
- 4 浅間A軽石層
- 5 黒褐色土 ローム粒子・軽石を含む。
- 6 褐色土 黒褐色土・焼土粒子・粘土を含む。上面は2a号住居跡の張り床。
- 7 黒褐色土 やや多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 8 ローム層 ブロック状。褐色土を含む。
- 9 黒褐色土 多量の浅間A軽石・ロームブロックを含む。

L=89.16



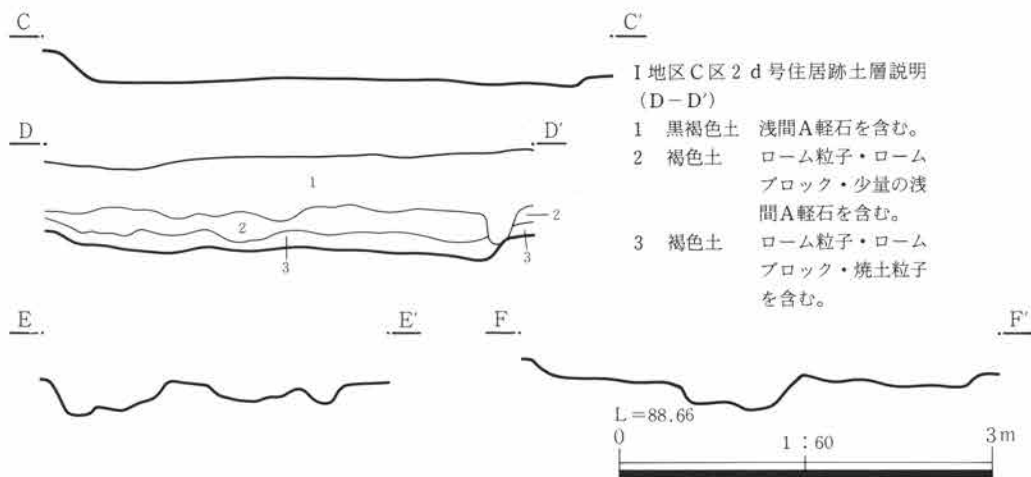
I地区C区2a号住居跡土層説明 (B-B')

- 1 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含み、堅く締まっている。



第597図 I地区C区2a・2c・2d号住居跡遺構図(1)

(1) 竪穴住居跡

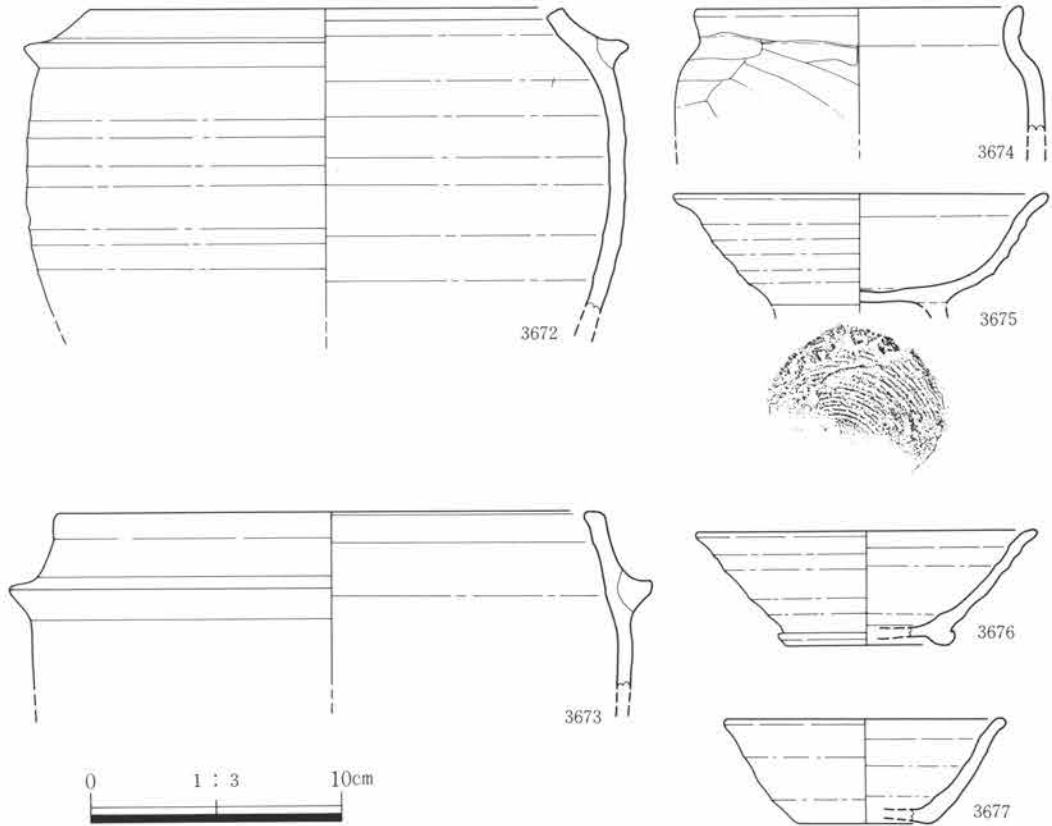


第598図 I 地区C区29・2c・2d号住居跡遺構図(2)

第184表 I 地区C区2 a号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3672	羽 釜	器高:(121mm)口径:[188mm]底径:—最大径:[240mm]口縁部～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	口縁部～体部上端は内湾。最大径は鈎部。外面:口縁部～鈎部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内覆土。外面に多量の油煙付着
3673	羽 釜	器高:(69mm)口径:[218mm]底径:—最大径:[256mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部はやや内湾。最大径は鈎部。外面:口縁部～鈎部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内面に油煙付着。
3674	甕	器高:(50mm)口径:[130mm]底径:—口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端はなで。	住居内南東部隅床直。内外面に油煙付着。
3675	椀	器高:(44mm)口径:149mm底径:—口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3676	椀	器高:(45mm)口径:[136mm]底径:[70mm]口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内北西部床直
3677	杯	器高:41mm口径:[113mm]底径:—口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は僅かに外湾。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。

第4章 平安時代の遺構と遺物



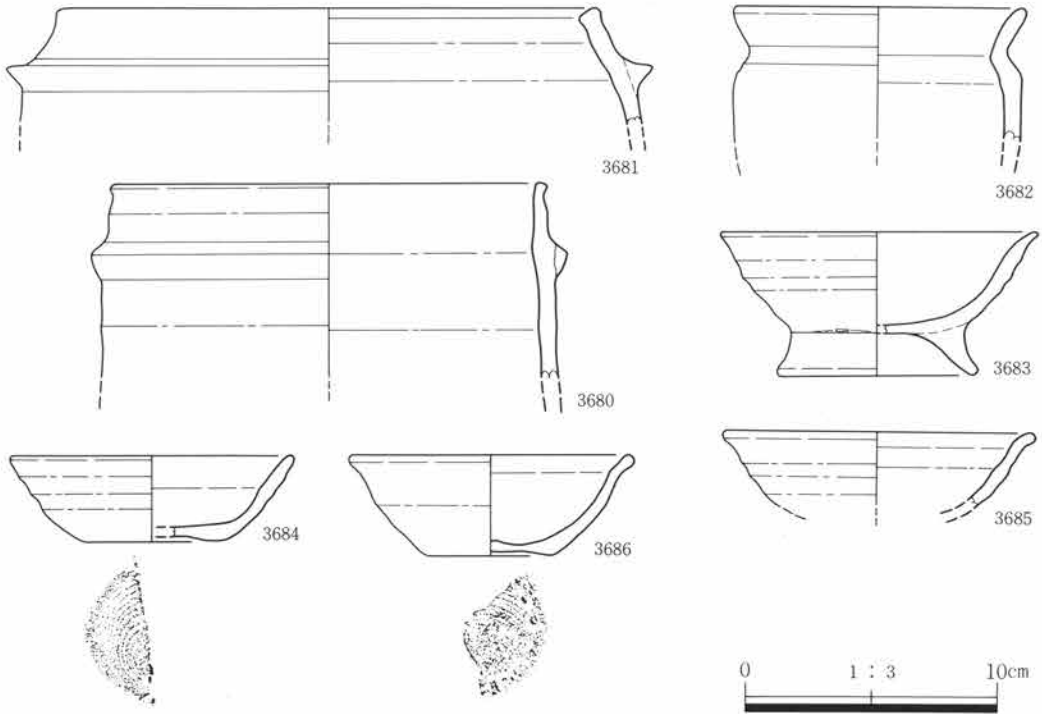
第599図 I地区C区2a号住居跡遺物図

第185表 I地区C区2d号住居跡遺物観察表

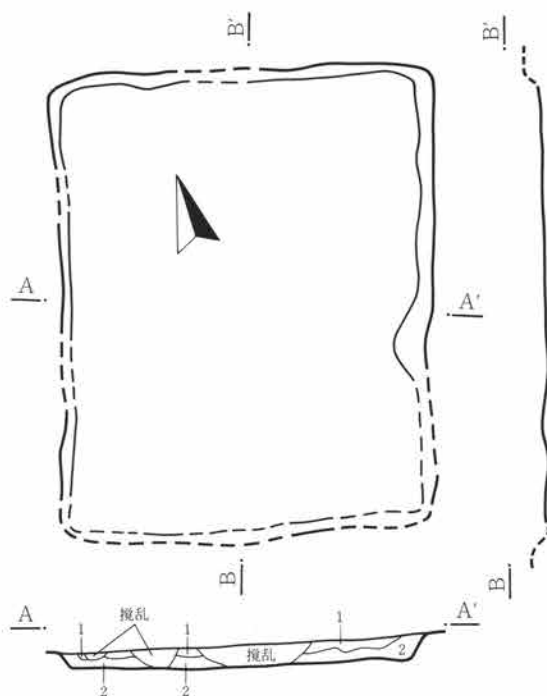
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3680	羽 釜	器高:(76mm)口径:[174mm]底径:—最大径:[190mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質淡黄。	口縁部はほぼ直立。最大径は鈿部。外面:口縁部~鈿部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙附着
3681	羽 釜	器高:(45mm)口径:[216mm]底径:—口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	口縁部~体部上端は内湾。内面:口縁部~鈿部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙附着
3682	甕	器高:(54mm)口径:[117mm]底径:—口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質褐。	口縁部は「く」字状に外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に多量の油煙附着。

(1) 竪穴住居跡

3683	碗	器高:57mm口径:[126mm]底径:[80mm]口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁端部は僅かに外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3684	杯	器高:34mm口径:[113mm]底径:[56mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。鈍い黄橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床直
3685	杯	器高:(30mm)口径:[124mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質暗灰黄。	口縁部はやや外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に多量の油煙付着。
3686	杯	器高:40mm口径:[104mm]底径:[51mm]口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着



第600図 I地区C区2d号住居跡遺物図



I 地区 C 区 3 号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。
- 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。

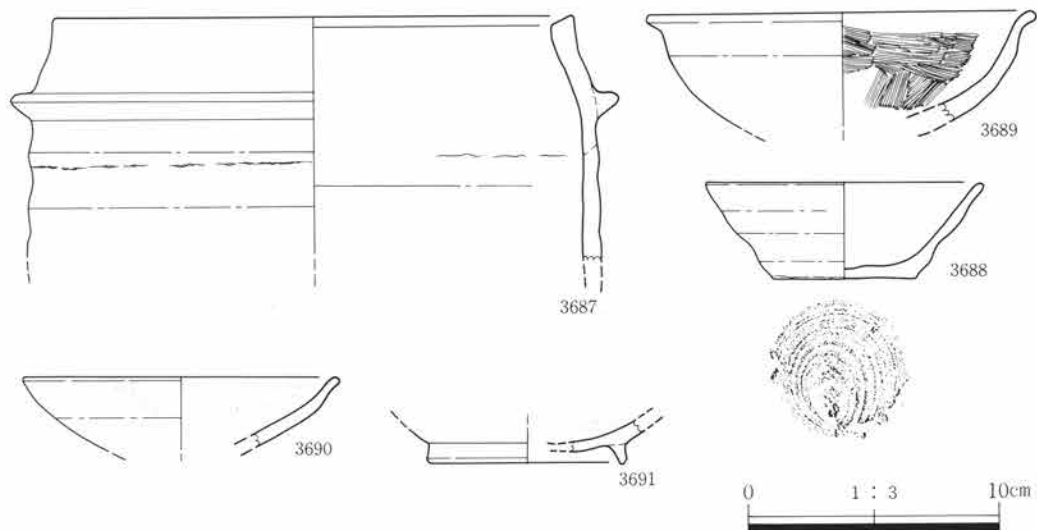


第601図 I 地区 C 区 3 号住居跡遺構図

I 地区 C 区 3 号住居跡(第601・602

図、第186表)

本住居跡は、耕作土下、黄褐色土中で確認された。規模は、東西方向約3.7m・南北方向約3.0mである。主軸はN-17°-Eである。平面形は、隅丸長方形を呈する。床面はローム層を固め平坦となっている。柱穴を確認することはできなかった。竈は東辺南寄りに存在したと考えられるが、攪乱層が入っているため明らかではない。遺物は、酸化焼成の羽釜・椀、還元焼成の杯、灰釉陶器の椀が出土している。出土遺物から平安時代とする。(秋池)



第602図 I 地区 C 区 3 号住居跡遺物図

第186表 I地区C区3号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3687	羽釜	器高:(96mm)口径:[208mm]底径:一最大径:[242mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3688	杯	器高:38mm口径:111mm底径:57mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。鈍い黄橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3689	椀	器高:(45mm)口径:[155mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は外湾。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は篔磨き。内黒。	住居内覆土。外面に油煙付着。
3690	椀 灰釉陶器	器高:(28mm)口径:[126mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は僅かに外湾。内外面共に口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。
3691	椀 灰釉陶器	器高:(17mm)口径:一底径:[80mm]体部下端~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬質。浅黄。	底部は高台貼り付け後丁寧なで。外面:体部下端~高台部は丁寧な轆轤なで。内面:体部下端底部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

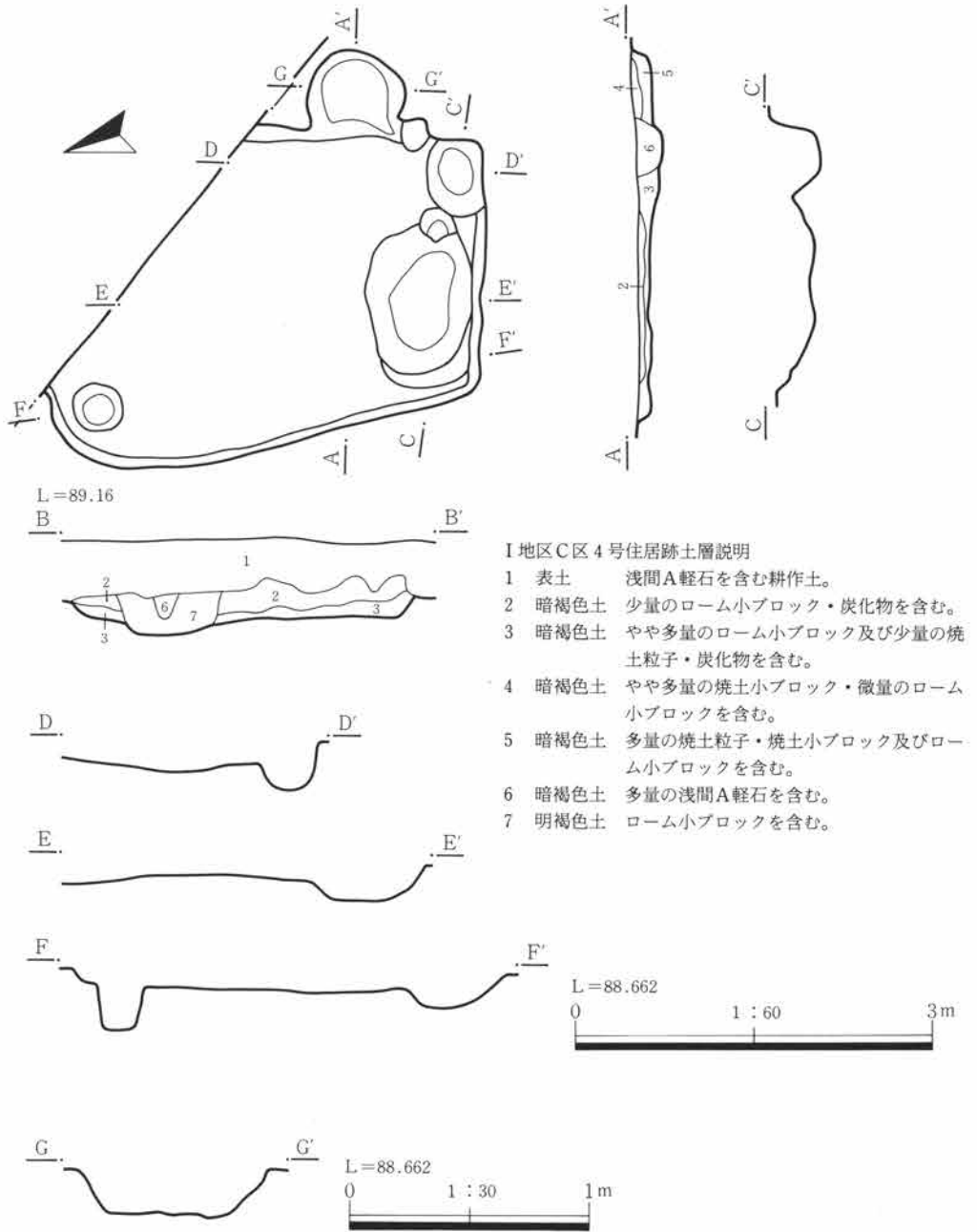
I地区C区4号住居跡(第603・604図、第187表、図版91)

当住居跡には、C区7号住居跡が近接するが、調査区域内での重複はない。当住居跡の規模は、北側の一部分が調査区域外のために確定できないが、東西方向約2.5m・南北方向約3.5mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-13°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは約5~15cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な面もあるが、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部・煙道部から焼土・炭化物を検出することができた。煙道部の壁外への張り出しは、確認面で約60cmである。住居内からは、3基のピットを検出することができた。南西部のピットは床下から検出されたものであり、貯蔵穴と考えられるのは、南東部隅と北西部隅のピットである。南東部隅のピットの規模は、長辺約60cm・短辺約50cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。ピット内からは須恵器の杯が出土している。北西部隅のピットの規模は、直径約40cm・床面からの深さ約40cmであり、平面形は円形を呈する。柱穴は検出できなかった。

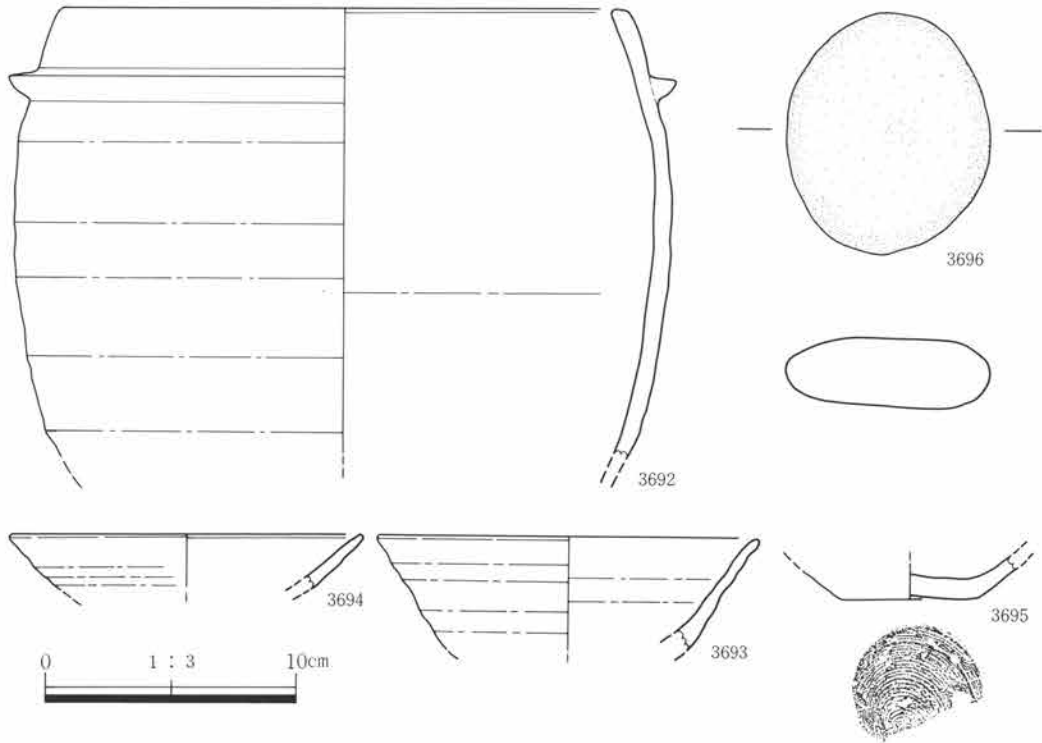
遺物は、酸化焼成の羽釜、還元焼成の椀・杯、が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。

(井川)



第603図 I地区C区4号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



第604図 I地区C区4号住居跡遺物図

第187表 I地区C区4号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3692	羽釜	器高:(177mm)口径:[224mm]底径:一最大径:[266mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は銜部。外面:口縁部~銜部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3693	椀	器高:(44mm)口径:[152mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。浅黄。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	貯蔵穴内。
3694	椀	器高:(21mm)口径:[141mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰黄。	内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内北西部床直
3695	杯	器高:(15mm)口径:一底径:54mm体部下端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質淡黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。
3696	石製品	長径:95mm短径:81mm厚さ:28mm		用途不明石製品。楕円形を呈し、薄い表面は良く擦られている。	住居内南西部。表面に多量の油煙付着。

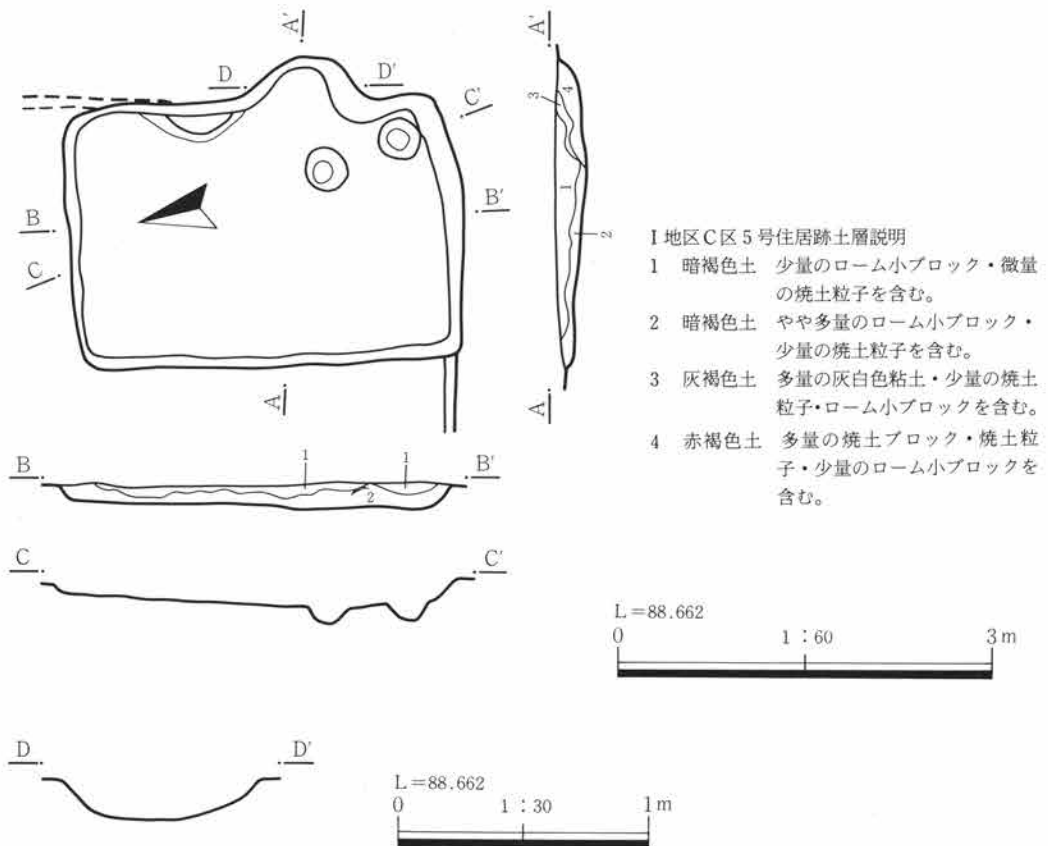
I地区C区5号住居跡 (第605・606図、第188表、図版91・92)

当住居跡は、C区7号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈がC区7号住居跡の南東部分の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.0m・南北方向約3.1mであり、平面形は、隅丸長方形を呈する。主軸はN-11°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~20cmであり、残存状態は悪い。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は、検出できなかった。

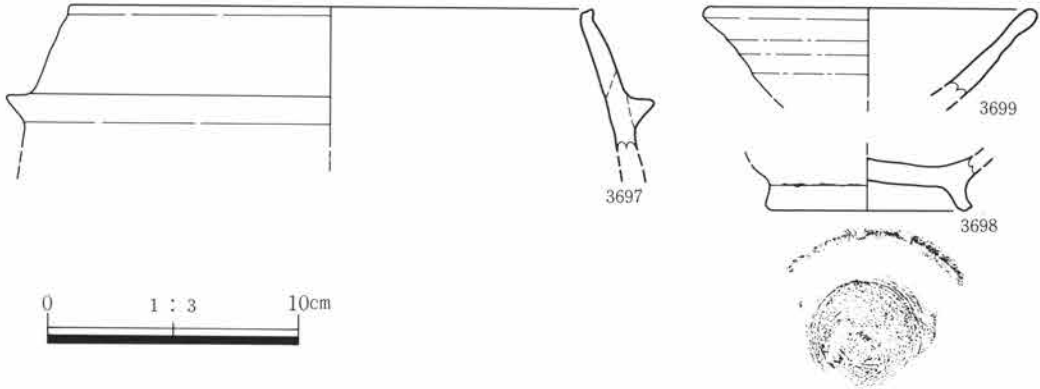
竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖は、検出することができなかったが、燃烧部から構築材に使用されたと考えられる河原石と焼土を検出することができた。住居内の竈前と南東部隅からは、2基のピットを検出することができた。規模は、直径約35cm・床面からの深さ約10~15cmであり、平面形は円形ないしは不整形な円形を呈する。ピットの形態・規模から貯蔵穴・柱穴とは考えにくい。

遺物は、酸化焼成の羽釜、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。 (井川)



第605図 I地区C区5号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



第606図 I地区C区5号住居跡遺物図

第188表 I地区C区5号住居跡遺物観察表

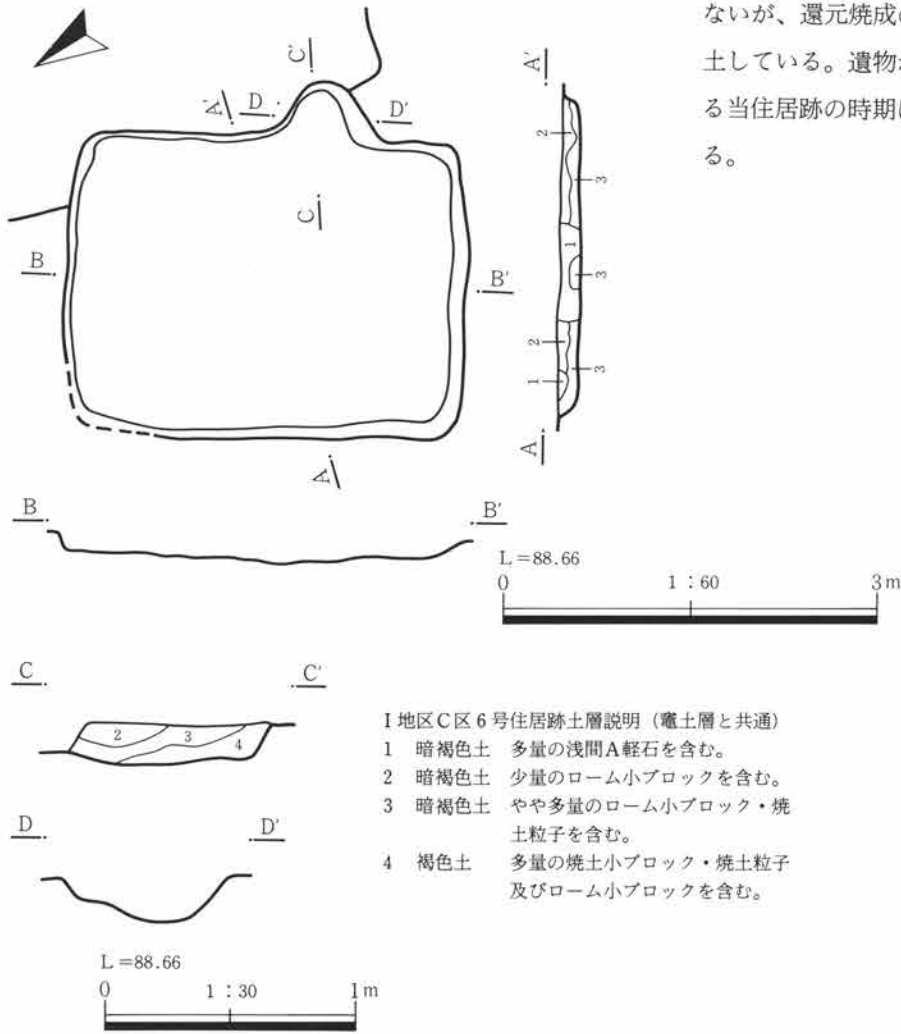
番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3697	羽釜	器高:(56mm)口径:[208mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。黄灰。	口縁部はやや内湾。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内中央部床上10cm。内外面に油煙付着。
3698	椀	器高:(21mm)口径:一底径:[81mm]体部下端~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。浅黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3699	椀	器高:(35mm)口径:[133mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。

I地区C区6号住居跡(第607・608図、第189表、図版91・92)

当住居跡は、C区7号住居跡・C区1号古墳と重複する。C区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部分の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。C区1号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝覆土中に当住居跡の南側部分の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

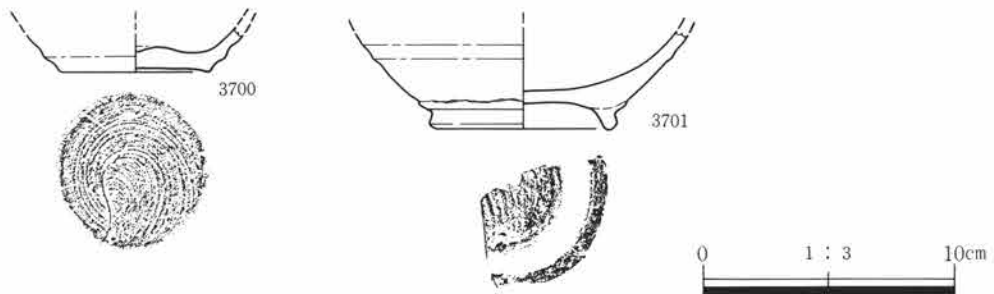
当住居跡の規模は、東西方向約2.4m・南北方向約3.2mであり、平面形は、隅丸長方形を呈する。主軸はN-34°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は不良である。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖等は検出できなかったが、燃焼部・煙道部から焼土を検出することができた。貯蔵穴・柱穴は検出することができなかった。遺物の出土は非常に少



ないが、還元焼成の杯・碗が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。（井川）

第607図 I 地区C区6号住居跡遺構図



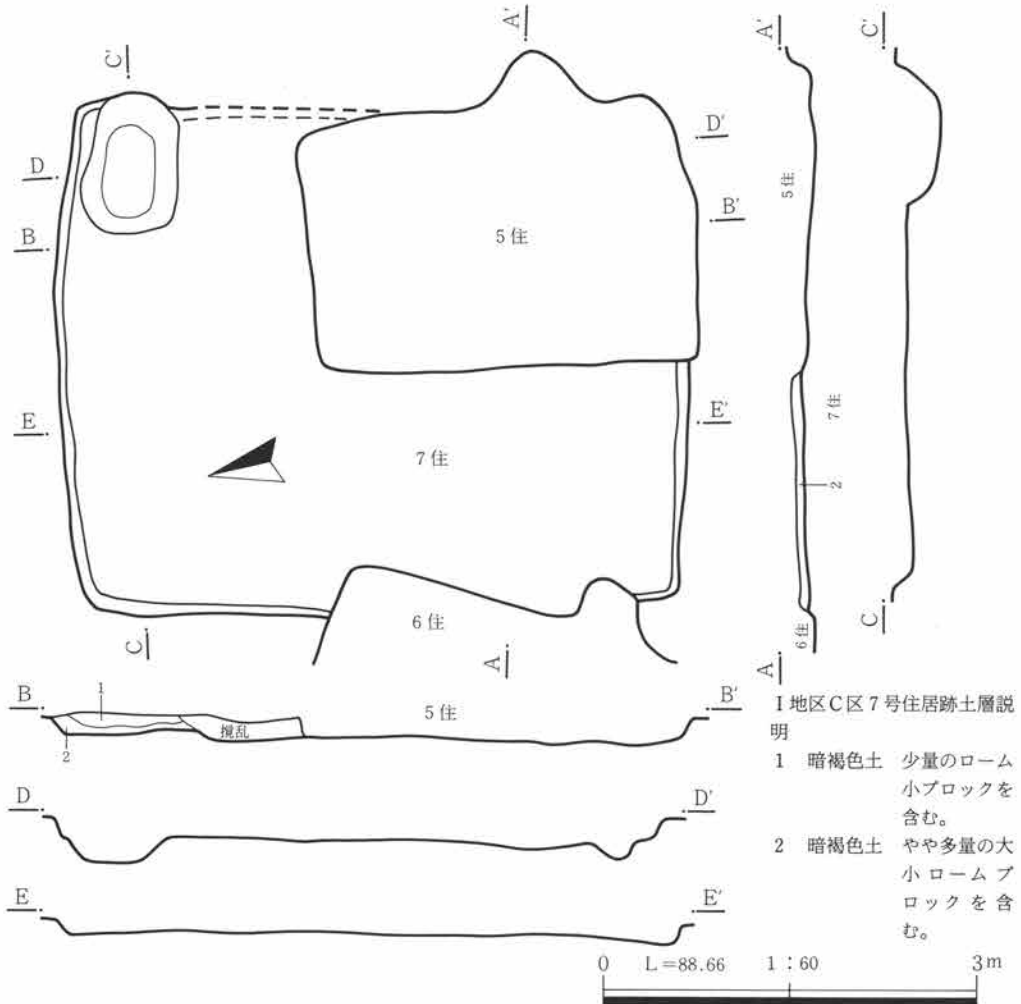
第608図 I 地区C区6号住居跡遺物図

第189表 I地区C区6号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
3700	杯	器高:(17mm)口径: 一底径:59mm 体部下 端~底部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外 面:体部下端は轆轤まで。内面:体部 下端~底部は轆轤まで。	住居内南東部床直
3701	椀	器高:(39mm)口径: 一底径:[75mm]体部 ~高台部残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。硬質 灰白。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:体部は轆轤まで。内面:体部 ~底部は轆轤まで。	竈内。外面に油煙 着。

I地区C区7号住居跡(第609・610図、図版91)

当住居跡は、B区5号住居跡・B区6号住居跡と重複する。B区5号住居跡との新旧関係は、



第609図 I地区C区7号住居跡遺構図

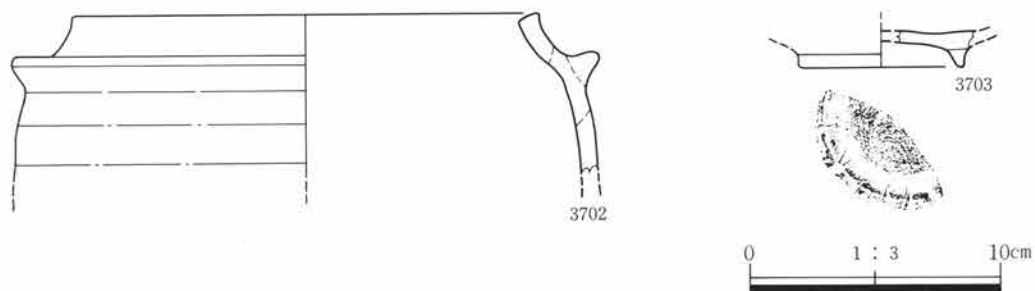
第4章 平安時代の遺構と遺物

当住居跡の南東部分の壁・床がB区5号住居跡により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。B区6号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部分の壁・床がB区6号住居跡により破壊されていることから当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、B区5号住居跡・B区6号住居跡により破壊されており、確定できないが、東西方向約4.0m・南北方向約5.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-13°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約10~15cmであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な面もあるが、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈・柱穴は検出できなかったが、貯蔵穴と推定できるピットを住居跡内北東部隅から検出することができた。規模は、長辺約70cm・短辺約50cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。

遺物は、酸化焼成の羽釜、還元焼成の椀が出土しているが、出土量は非常に少ない。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。 (井川)



第610図 I地区C区7号住居跡遺物図

第190表 I地区C区7号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3702	羽釜	器高:(65mm)口径:[186mm]底径:一口縁部~体部上端%残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質明赤褐。	口縁部~体部上端は内湾。外面:口縁部~鏝部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、胴部上端は轆轤なで。	住居内南西部床直
3703	椀	器高:(14mm)口径:一底径:[66mm]体部下端~高台部%残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。浅黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:体部下端は轆轤なで。内面:体部下端~底部は轆轤なで。	住居内北西部床上5cm。内外面に燻しあり。

(1) 竪穴住居跡

I 地区C区8a号住居跡 (第611～614図、第191表)

当住居跡は、B区8b号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の壁・床・竈がB区8b号住居跡の北西部分の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約2.7m・南北方向約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-19°-Eである。確認面までの壁の立ち上がりは、約45～50cmを測り、残存状態は良好である。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南よりに築かれている。袖は確認できなかったが、竈内及びその周辺からは、構築材に使用されたと考えられる河原石を検出することができた。又、燃烧部からは、焼土・炭化物を検出することができた。住居内からは6基のピットを検出することができたが、柱穴と考えられるピットはなく、貯蔵穴と考えられるピットは南東部隅のピットである。規模は、長軸約65cm・短軸50cm・床面からの深さ約20cmであり、平坦である不整形な楕円形を呈する。覆土中からは、炭化物が検出でき、須恵器の杯が出土している。

遺物は、酸化焼成の羽釜・甕・椀・杯、還元焼成の椀などが出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。 (井川)

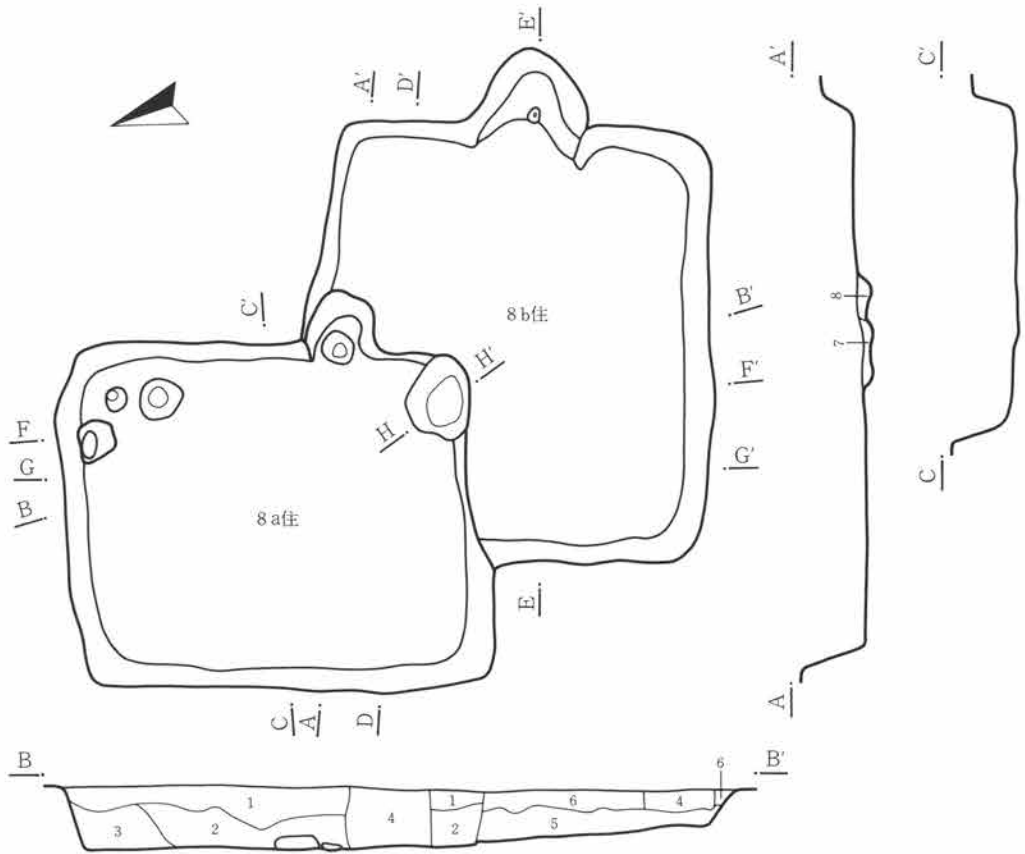
I 地区C区8b号住居跡 (第611・612・615・616図、第192表)

当住居跡は、C区8a号住居跡・C区1号古墳と重複する。C区8a号住居跡との新旧関係は、同住居跡により当住居跡の北西部分の壁・床が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。C区1号古墳との新旧関係は、同古墳の周溝覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西方向約3.4m・南北方向約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-68°-Wである。確認面までの壁の立ち上がりは、約30～35cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

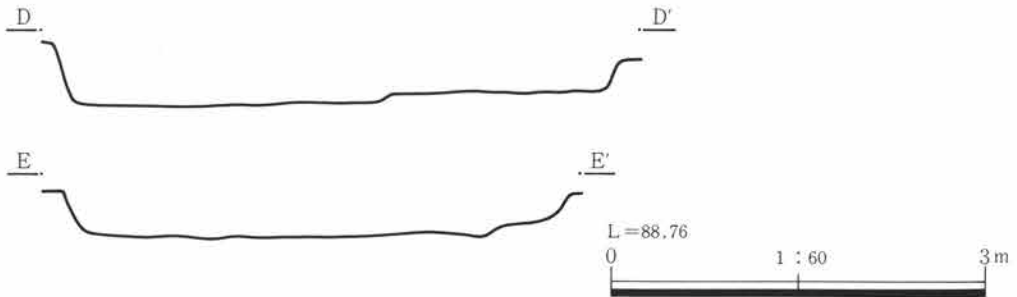
竈は、東側壁のほぼ中央に築かれている。袖は、石と粘質土を素材に構築されており、壁際の基部では、河原石が地山に埋め込まれている状態で検出できた。燃烧部の中央には支脚に使用された河原石が地山に埋め込まれており、その上に須恵器の高足高台の椀が乗せられている状態で検出できた。又、竈内及びその周辺からは、構築材に使用されたと考えられる河原石が多数検出できた。住居内の北西部隅からは、3基の小ピットが検出できたが、ピットの形態・住居内の位置等から、柱穴や貯蔵穴とは考えにくい。

遺物は、酸化焼成の甕・椀・杯、還元焼成の椀の他、灰釉陶器の椀・皿が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀中葉である。 (井川)



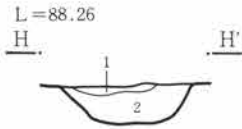
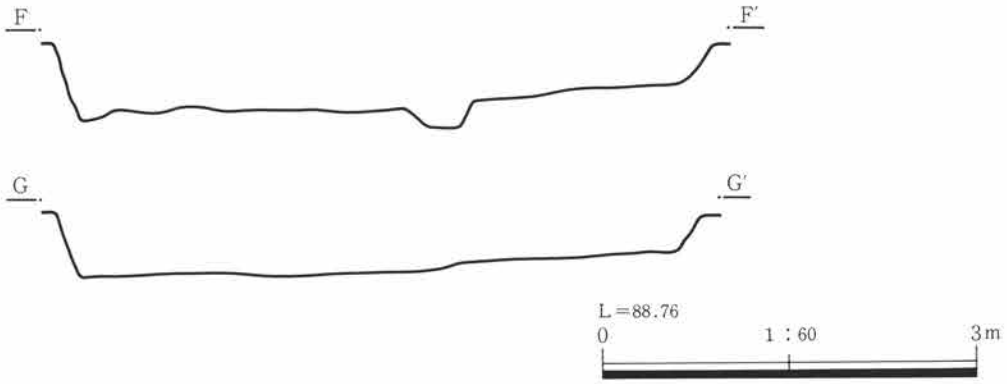
I地区C区8a・8b号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子・浅間A軽石を含む。
- 2 褐色土 やや多量のローム粒子・ローム小ブロック及び焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 黄褐色土 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 浅間A軽石・ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 5 褐色土 ローム小ブロック及び焼土粒子・炭化物を含む。
- 6 黄褐色土 多量のローム小ブロックを含む。
- 7 褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 多量の焼土粒子を含む。



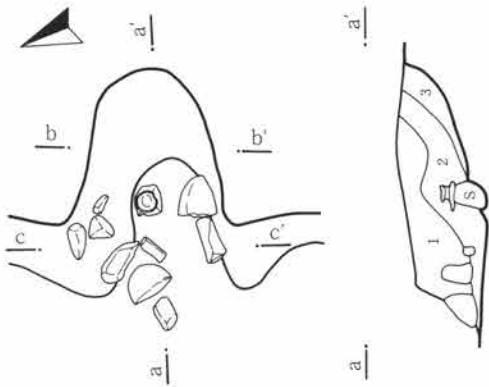
第611図 I地区C区8a・8b号住居跡遺構図(1)

(1) 竪穴住居跡



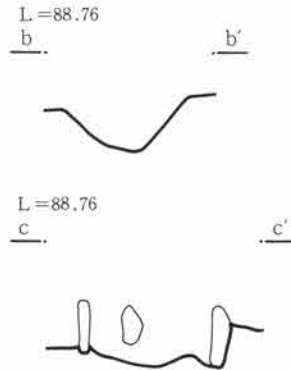
I地区C区8a号住居跡貯蔵穴土層説明 (H-H')

- 1 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。
- 2 褐色土 ローム小ブロック・炭化物を含む。

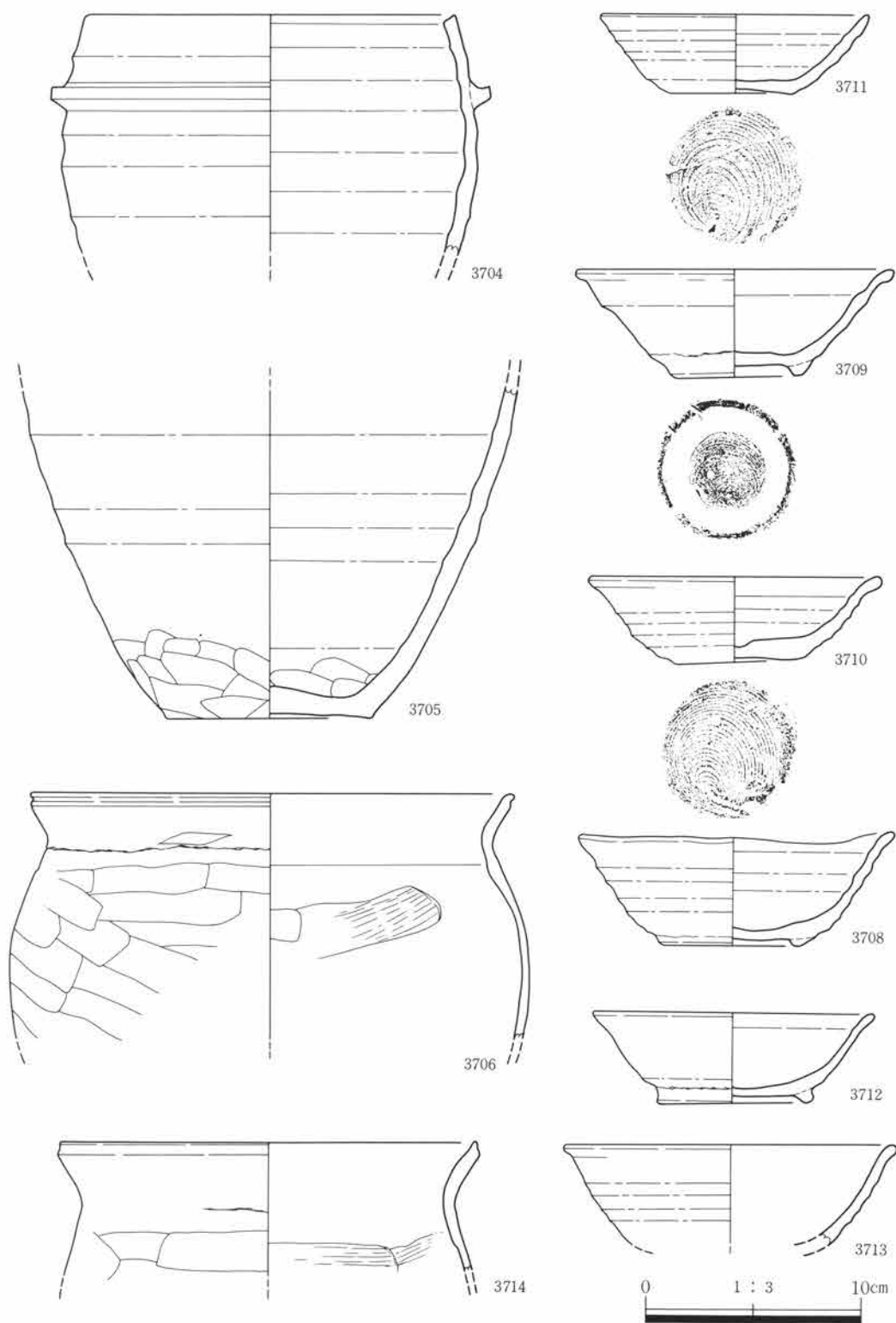


I地区C区8b号住居跡竈土層説明

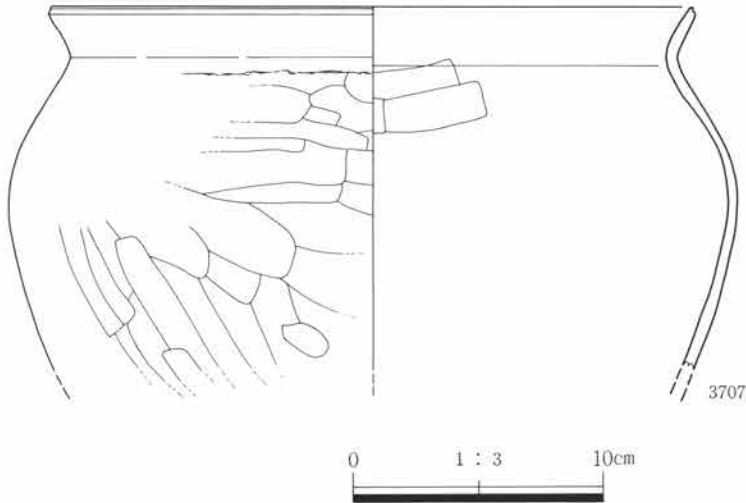
- 1 黄褐色土 粘質土ブロック・焼土粒子を含む。
- 2 褐色土 多量の焼土・炭化物・粘質土を含む。
- 3 褐色土 ローム小ブロックを含む。



第612図 I地区C区8a・8b号住居跡遺構図(2)



第613図 I地区C区8a号住居跡遺物図(1)



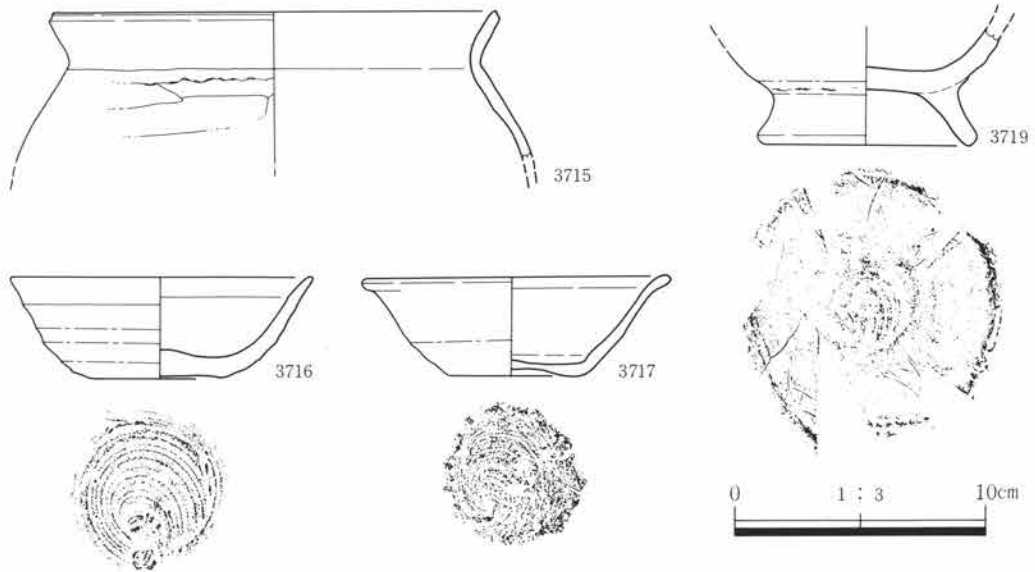
第614図 I地区C区8a号住居跡遺物図(2)

第191表 I地区C区8a号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3704	羽釜	器高:(109mm)口径:[170mm]底径:一最大径:[204mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明褐。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は鑿部。外面:口縁部~鑿部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3705	羽釜	器高:(153mm)口径:一底径:95mm体部下 $\frac{1}{2}$ ~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	外面:体部下 $\frac{1}{2}$ は轆轤なで、体部下 $\frac{1}{2}$ ~底部は篋削り。内面:体部下 $\frac{1}{2}$ ~底部は轆轤なで。	住居内床下他。内外面に油煙付着。
3706	甕	器高:(112mm)口径:[224mm]底径:一最大径:[241mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	竈前床上10cm。内外面に油煙付着。
3707	甕	器高:(143mm)口径:[258mm]底径:一最大径:[290mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。最大径は体部上半。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上半は篋なで。	住居内中央部床上10cm。内外面に油煙付着。
3708	椀	器高:50mm口径:146mm底径:62mm口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁端部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。底部は粘土を足している。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。外面に油煙付着。

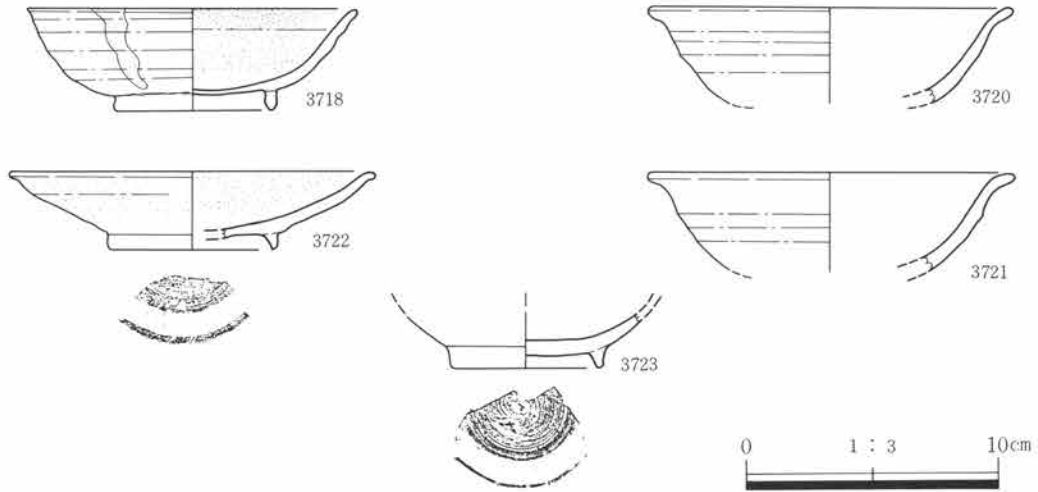
第4章 平安時代の遺構と遺物

3709	椀	器高:50mm口径:148mm底径:60mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内南東部隅床直。内外面に油煙付着。
3710	杯	器高:39mm口径:136mm底径:60mm完形	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	貯蔵穴内。内外面に油煙付着。
3711	杯	器高:36mm口径:125mm底径:56mm口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。淡橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。墨書か?
3712	椀	器高:42mm口径:[130mm]底径:72mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。淡橙。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3713	椀	器高:(46mm)口径:[154mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁端部はやや外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。
3714	甃	器高:(60mm)口径:[194mm]底径:一口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	住居内床直。外面油煙付着。



第615図 I地区C区8b号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第616図 I地区C区8b号住居跡遺物図(2)

第192表 I地区C区8b号住居跡遺物観察表

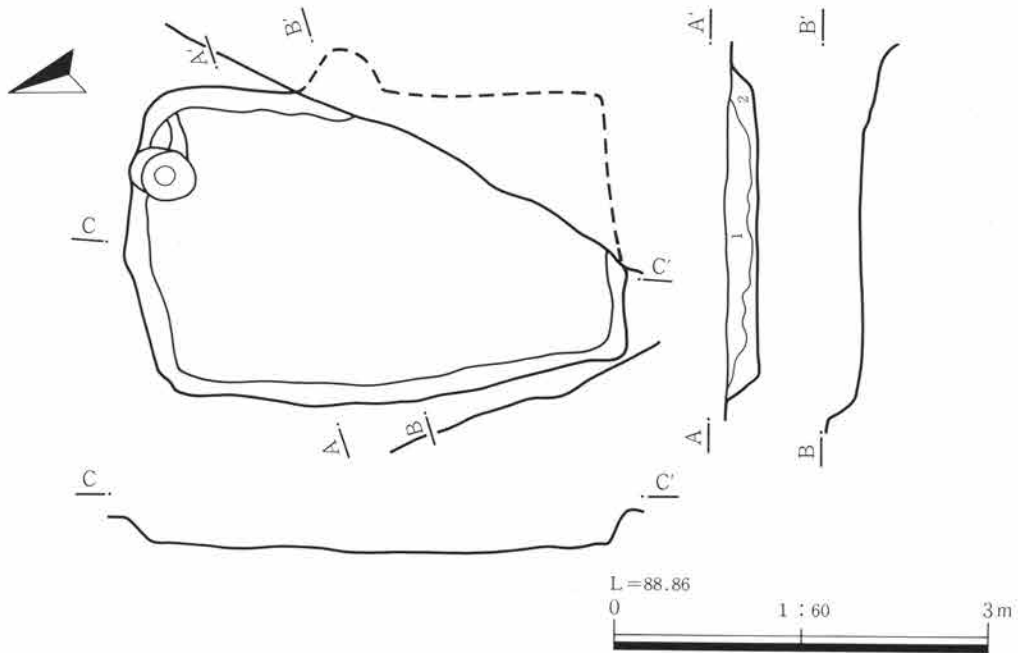
番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3715	壺	器高:(59mm)口径:[180mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上端は寛削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は寛なで。	住居内西北部床直内外面に油煙付着
3716	杯	器高:40mm口径:121mm底径:54mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質浅黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで。体部~底部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着
3717	杯	器高:39mm口径:123mm底径:53mm口縁部~底部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで体部~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3718	碗 灰釉陶器	器高:41mm口径:131mm底径:66mmほぼ完形	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は僅かに外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部は横なで、体部は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内中央部床直
3719	碗	器高:(47mm)口径:一底径:88mm体部下 半~高台部残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い橙。	底部は回転糸切り後、高足高台貼り付け。外面:体部下半は轆轤なで。内面:体部下半~底部は轆轤なで。	竈内。内外面に油煙付着。
3720	碗	器高:(38mm)口径:[145mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。黄灰。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内中央部床直内外面に油煙付着

3721	椀	器高:(39mm)口径: [146mm]底径:一口縁部 ~体部 $\frac{1}{4}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は外湾。内外面に共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南東部床上10cm。内外面に油煙付着。
3722	皿 灰釉陶器	器高:31mm口径:[146mm]底径:[63mm]口縁部 ~高台部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。還元。やや硬質。灰黄。	口縁端部は外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部~体部は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部隅床直。内外面に油煙付着。
3723	椀 灰釉陶器	器高:(22mm)口径: 一底径:[60mm]体部 下半~高台部 $\frac{1}{4}$ 残	砂粒を含む。硬質。還元。灰白。	底部は高台貼り付け後なで。外面:体部下半は丁寧な轆轤なで。内面:体部下半~底部は丁寧な轆轤なで。	住居内南東部床上10cm。

I地区C区9号住居跡 (第617・618図、第193表)

当住居跡は、C区1号方形周溝墓と重複する。新旧関係を直接的に把握することはできなかったが、遺物等から比較すると、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、C区1号方形周溝墓との重複部分で確認できなかったので確定できないが、東西方向約2.5m・南北方向約3.8mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-14°-Eで



I地区C区9号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 軽石・少量のローム粒子を含む。
- 2 褐色土 やや多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

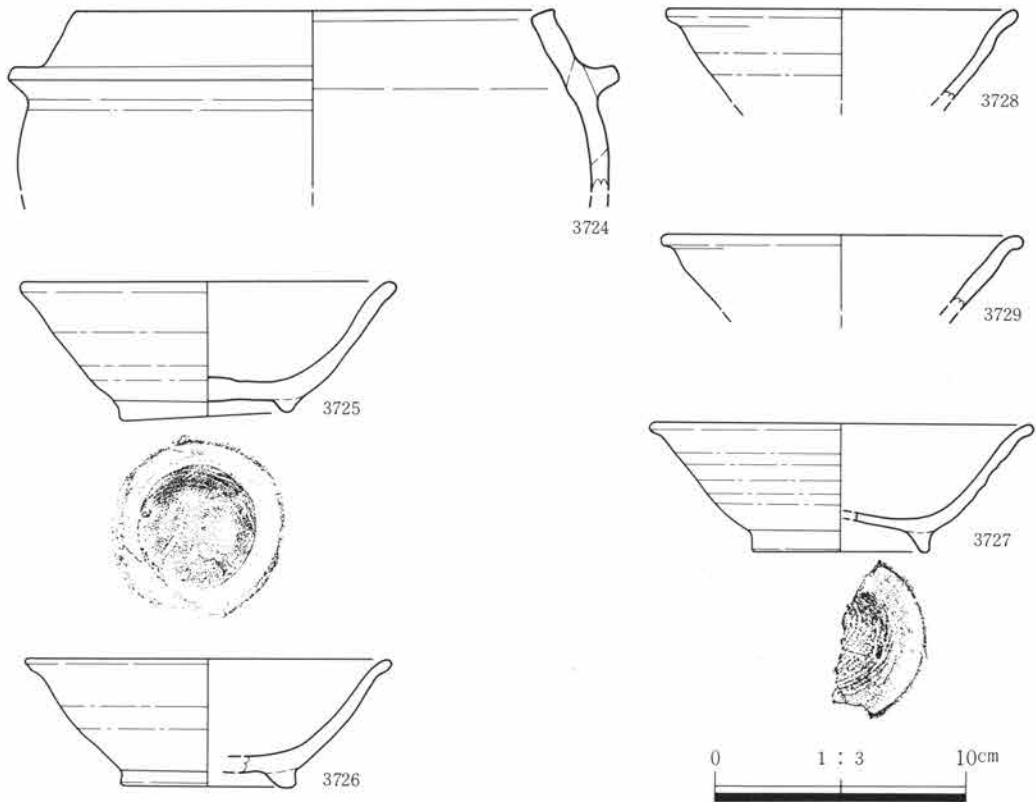
第617図 I地区C区9号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡

ある。確認面までの壁の立ち上がりは、約20~25cmであり、残存状態は比較的良好である。床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の中央付近に築かれていると推定されるが、確認はできなかった。住居内の北東部隅付近からピットが1基検出できた。規模は、長軸約50cm・短軸約40cm・床面からの深さは約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。ピットの上面には河原石が置かれていた。貯蔵穴とも考えられるが、形態等にやや難がある。柱穴は検出できなかった。

遺物は、酸化焼成の羽釜・椀、還元焼成の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。
(井川)



第618図 I地区C区9号住居跡遺物図

第4章 平安時代の遺構と遺物

第193表 I地区C区9号住居跡遺物観察表

番号	器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態
3724	羽釜	器高:(70mm)口径:[192mm]底径:一最大径:[244mm]口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径3～4mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質浅黄橙。	口縁部～体部上端は内湾。最大径は鈿部。外面:口縁部～鈿部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内中央部床直他。
3725	椀	器高:54mm口径:151mm底径:69mm口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面に油煙付着。
3726	椀	器高:51mm口径:[146mm]底径:一口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3727	椀	器高:51mm口径:[153mm]底径:一口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	住居内覆土。
3728	椀	器高:(36mm)口径:[140mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。
3729	椀	器高:(30mm)口径:[144mm]底径:一口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部は外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。内外面共に燻しあり。

I地区C区11号住居跡(第619～621図、第194表)

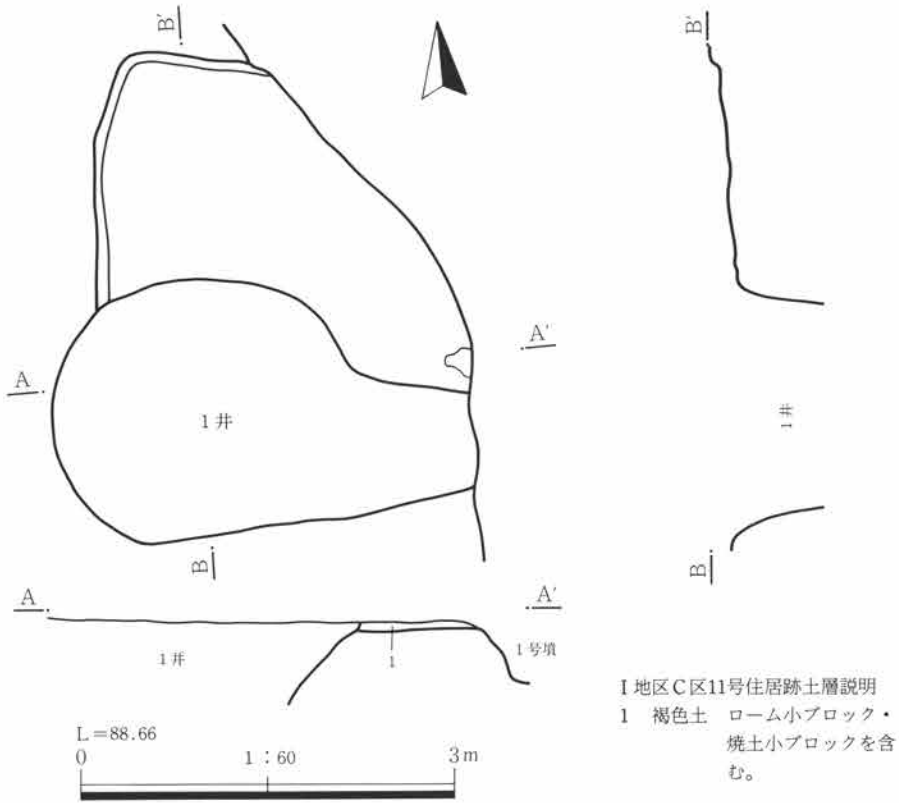
当住居跡は、C区1号方形周溝墓・C区1号井戸跡・C区1号溝跡と重複する。C区1号方形周溝墓との新旧関係は、直接的には確認できなかったが、遺物から考えると、当住居跡の方が新しい。C区1号井戸跡との新旧関係は、同井戸跡が当住居跡の南西部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。C区1号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南東部分の壁・床を破壊していることから当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、C区1号方形周溝墓・C区1号井戸跡・C区1号溝跡により破壊されており不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、約10～15cmであり、残存状態は悪い。壁溝は検出できなかった。

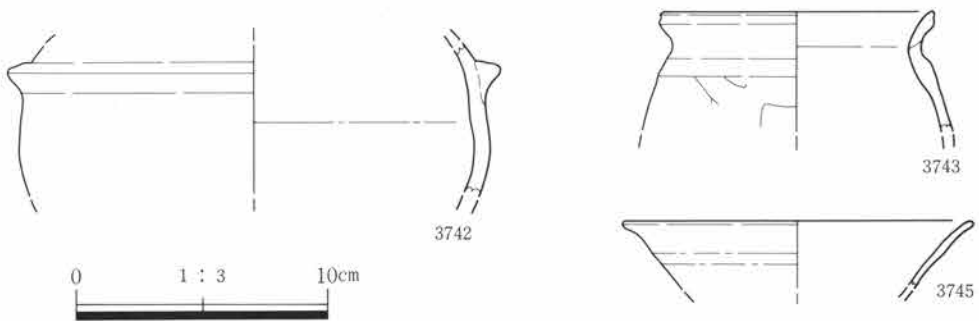
竈は検出できなかったが、南東部の床面上に焼土を検出できた。竈は、東側壁の南よりに築かれていたものと推定できる。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。遺物は、酸化焼成の羽釜・甕・

(I) 竪穴住居跡

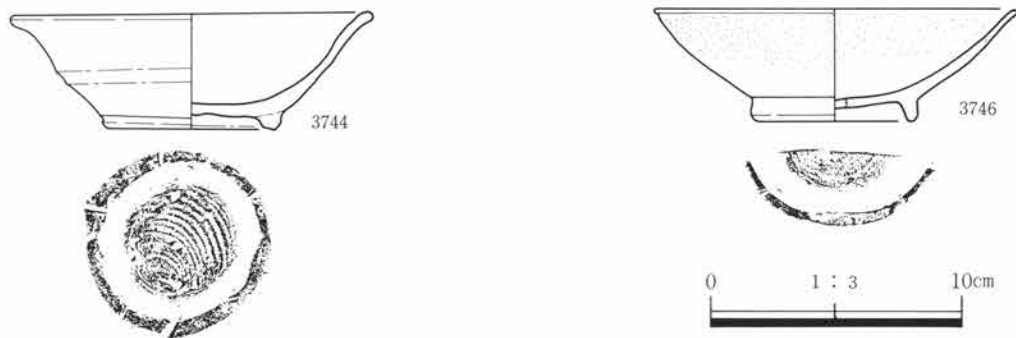
椀、還元焼成の、灰釉陶器の椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀である。
(井川)



第619図 I 地区C区11号住居跡遺構図



第620図 I 地区C区11号住居跡遺物図(1)



第621図 I地区C区11号住居跡遺物図(2)

第194表 I地区C区11号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3742	羽釜	器高:(59mm)口径: 一底径:一銚部~体 部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。硬質 橙。	外面:銚部は横なで、体部上端は轆轤 なで。内面:体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。内面 に多量の油煙付着
3743	甕	器高:(47mm)口径: [110mm]底径:一口縁 部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁 端部に沈線一条。外面:口縁部は横な で、体部上端は笥削り。内面:口縁部 は横なで、体部上端は笥なで。	住居内覆土。内面 に油煙付着。
3744	椀	器高:46mm口径:145 mm底径:72mm口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。暗赤褐。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部 は回転糸切り後、高台貼り付け。外 面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内中央部床上 10cm。内外面に油 煙付着。
3745	椀	器高:(27mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口 縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内覆土。
3746	椀 灰釉陶器	器高:45mm口径:[145 mm]底径:[67mm]口縁 部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	砂粒を含む。還元。硬質。 灰白。	口縁端部は僅かに外湾。底部は高台 貼り付け後なで。外面:口縁部~体部 は丁寧な轆轤なで。内面:口縁部~底 部は丁寧な轆轤なで。	住居内覆土。

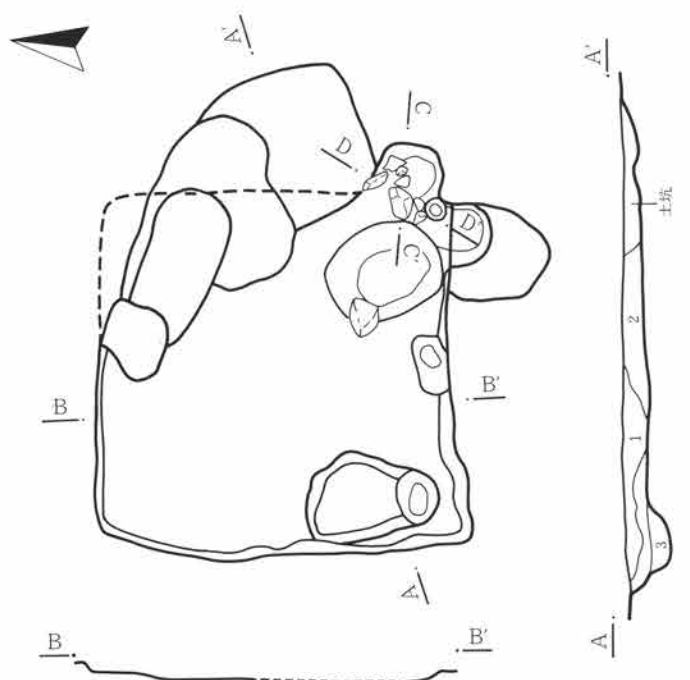
I地区C区12号住居跡(第622~624図、第195表)

当住居跡に重複はないが、東側半分は新しい攪乱坑に大部分が破壊されていた。規模の確定はできないが、南北方向は約2.9mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認できる西側部分での確認面までの壁の立ち上がりは、約5~10cmであり、残存状

(1) 竪穴住居跡

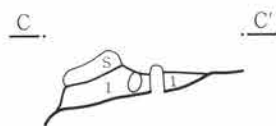
態は非常に悪い。確認できた部分の床面は、比較的堅く、ほぼ平坦である。壁溝は検出できなかった。

竈は、東側壁の南東隅近くに築かれている。袖は一部しか検出できなかったが、基部では構築材に河原石を使用し、それが地山に埋め込まれた状態で検出できた。燃焼部の中央からは、支脚に使用された河原石が、地山に埋め込まれた状態で検出できた。住居内からは多数のピットが検出できたが、新しい攪乱坑であり、当住居跡に属すると考えられるピットは、竈の前と右脇の2基である。竈前のピットは床下から検出されたものである。規模は、長軸約90cm・短軸約80cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。竈右脇のピットの規模は、長辺約60cm・短辺約50cm・確認面からの深さ約15cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。貯蔵穴と考えることも可能であるが、住居跡の推定線からやや外れる。



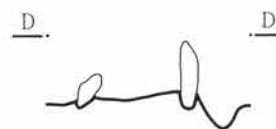
I 地区C区12号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 少量のローム小ブロック・小石を含む。
- 2 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 少量のローム小ブロック・焼土粒子を含む。



I 地区C区12号住居跡竈土層説明

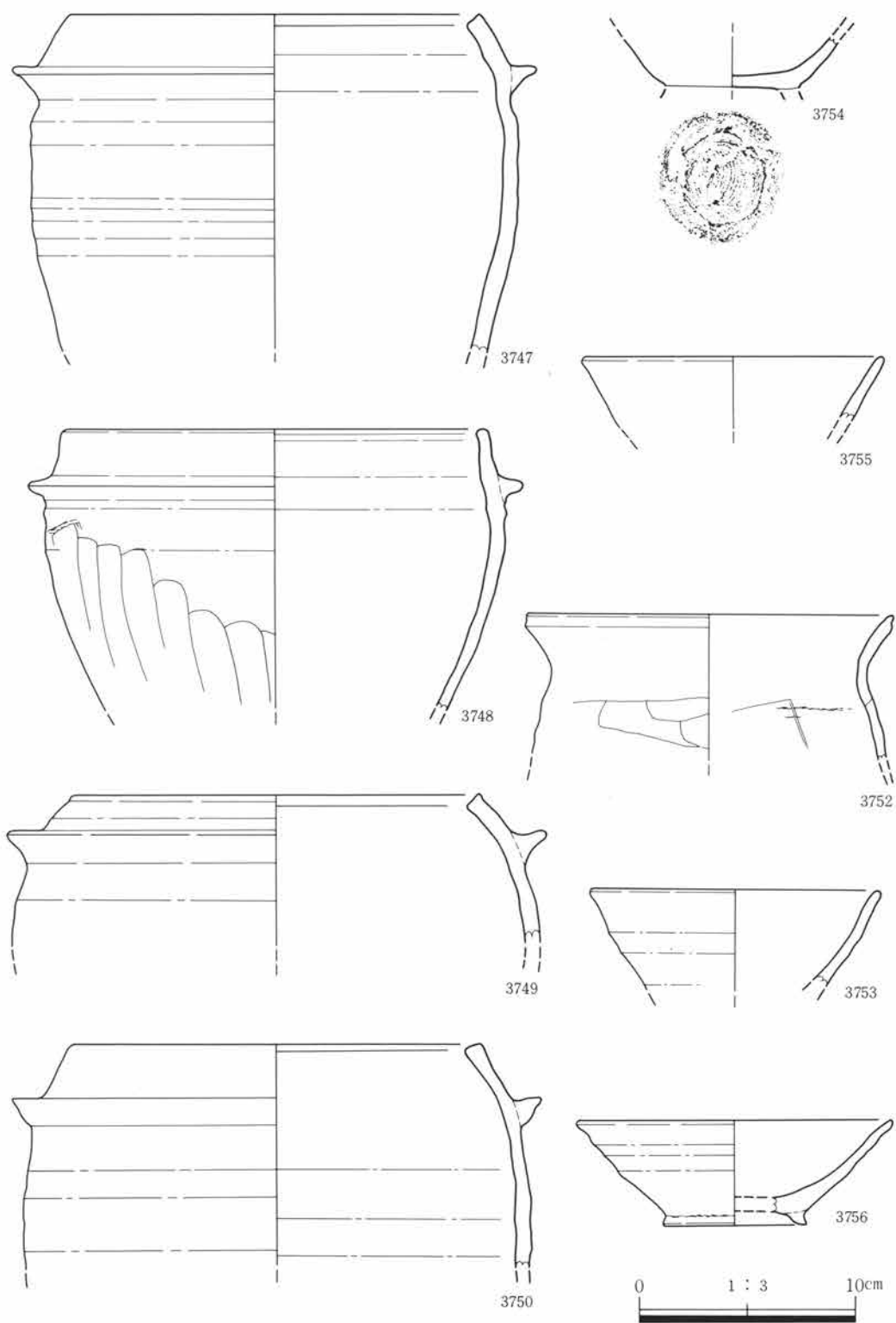
- 1 暗黄褐色土 焼土・灰を含む。



第622図 I 地区C区12号住居跡遺構図

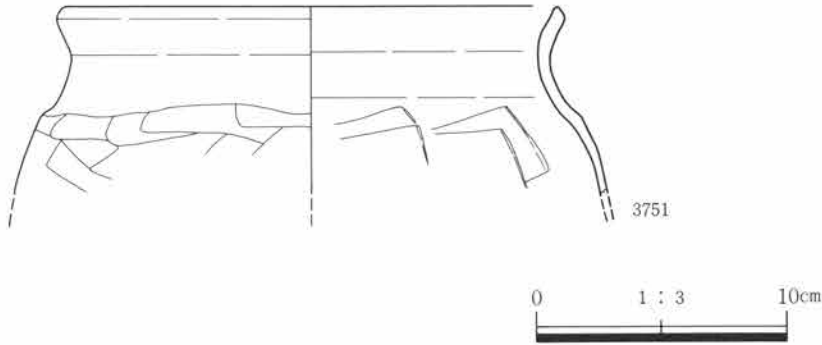
遺物は、酸化焼成の羽釜・甕・椀、還元焼成の羽釜・椀が出土している。遺物から推定される当住居跡の時期は10世紀前半である。

(井川)



第623図 I地区C区12号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡

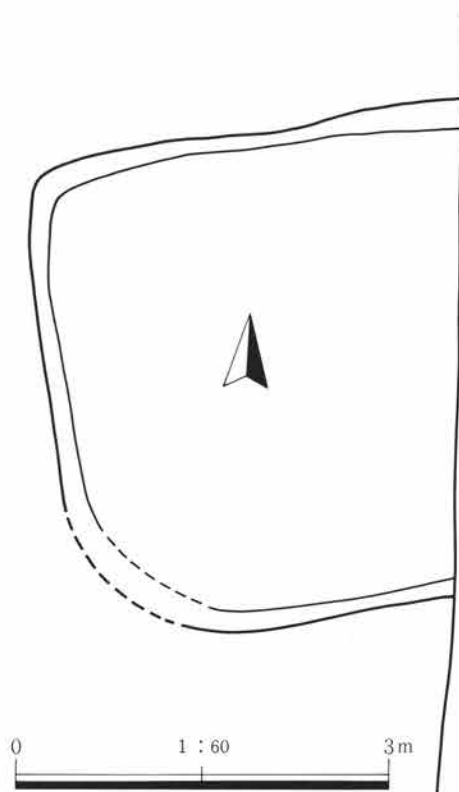


第624図 I地区C区12号住居跡遺物図(2)

第195表 I地区C区12号住居跡遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態備考
3747	羽釜	器高:(155mm)口径:[190mm]底径:一最大径:[244mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	住居内南東部床直内外面に油煙付着
3748	羽釜	器高:(129mm)口径:[198mm]底径:一最大径:[229mm]口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はやや内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上半は轆轤なで、体部下半は轆轤なで後篋削り。内面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈前床上5cm。内外面に油煙付着。
3749	羽釜	器高:(69mm)口径:[190mm]底径:一最大径:[250mm]口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	住居内覆土。
3750	羽釜	器高:(103mm)口径:[190mm]底径:一最大径:[246mm]口縁部~体部上半 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質灰白。	口縁部~体部上端は内湾。最大径は鋸部。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上半は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上半は轆轤なで。	竈前床直。外面に油煙付着。
3751	甕	器高:(75mm)口径:[200mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外湾。外面:口縁部は横なで、体部上端は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	住居内覆土。外面に多量の油煙付着
3752	甕	器高:(66mm)口径:[170mm]底径:一口縁部~体部上端 $\frac{1}{2}$ 残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄褐。	口縁部は「く」字状に外湾。外面口縁端部に沈線一条。外面:口縁部は横なで、体部上半は篋削り。内面:口縁部は横なで、体部上端は篋なで。	竈内。外面に油煙付着。
3753	椀	器高:(46mm)口径:[135mm]底径:一口縁部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外湾。内外面共に口縁部は横なで、体部は轆轤なで。	竈前床直。内外面に油煙付着。

3754	椀	器高:(24mm)口径: 一底径:一底部~底 部残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 軟質。橙。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高 台貼り付け。外面:体部は轆轤なで。 内面:体部~底部は轆轤なで。	竈前床直。内外面 に油煙付着。
3755	椀	器高:(32mm)口径: [140mm]底径:一口縁 部~体部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2~3mmの小石、及 び砂粒を含む。酸化。やや 硬質。鈍い橙。	内外面共に口縁部は横なで、体部は 轆轤なで。	住居内覆土。
3756	椀	器高:48mm口径:[147 mm]底径:[66mm]口縁 部~高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径3~4mmの小石、及 び砂粒を含む。還元。やや 軟質。灰。	底部は回転糸切り後、高台貼り付け。 外面:口縁部は横なで、体部は轆轤な で。内面:口縁部は横なで、体部~底 部は轆轤なで。	住居内覆土。内外 面に油煙付着。



第625図 I地区C区14号住居跡遺構図

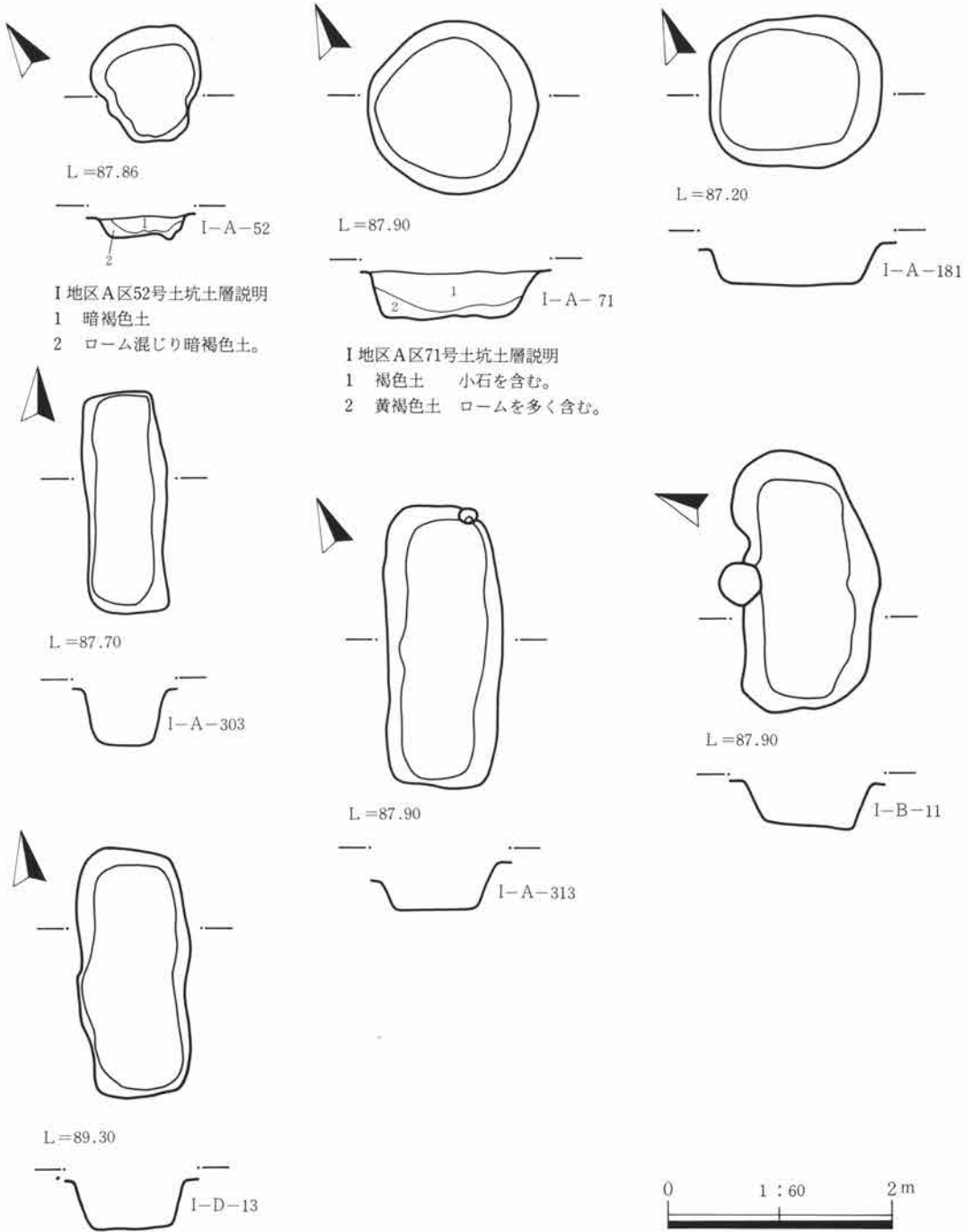
I地区C区14号住居跡(第625図)

当住居跡は、C区1号溝跡と重複する。新旧関係は、C区1号溝跡が当住居跡の東側部分の壁・床を破壊していることから当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東側部分がC区1号溝跡により破壊されているために確定できないが、南北方向は約3.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。確認面までの壁の立ち上がりは、僅かであり、残存状態は悪い。床面は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。

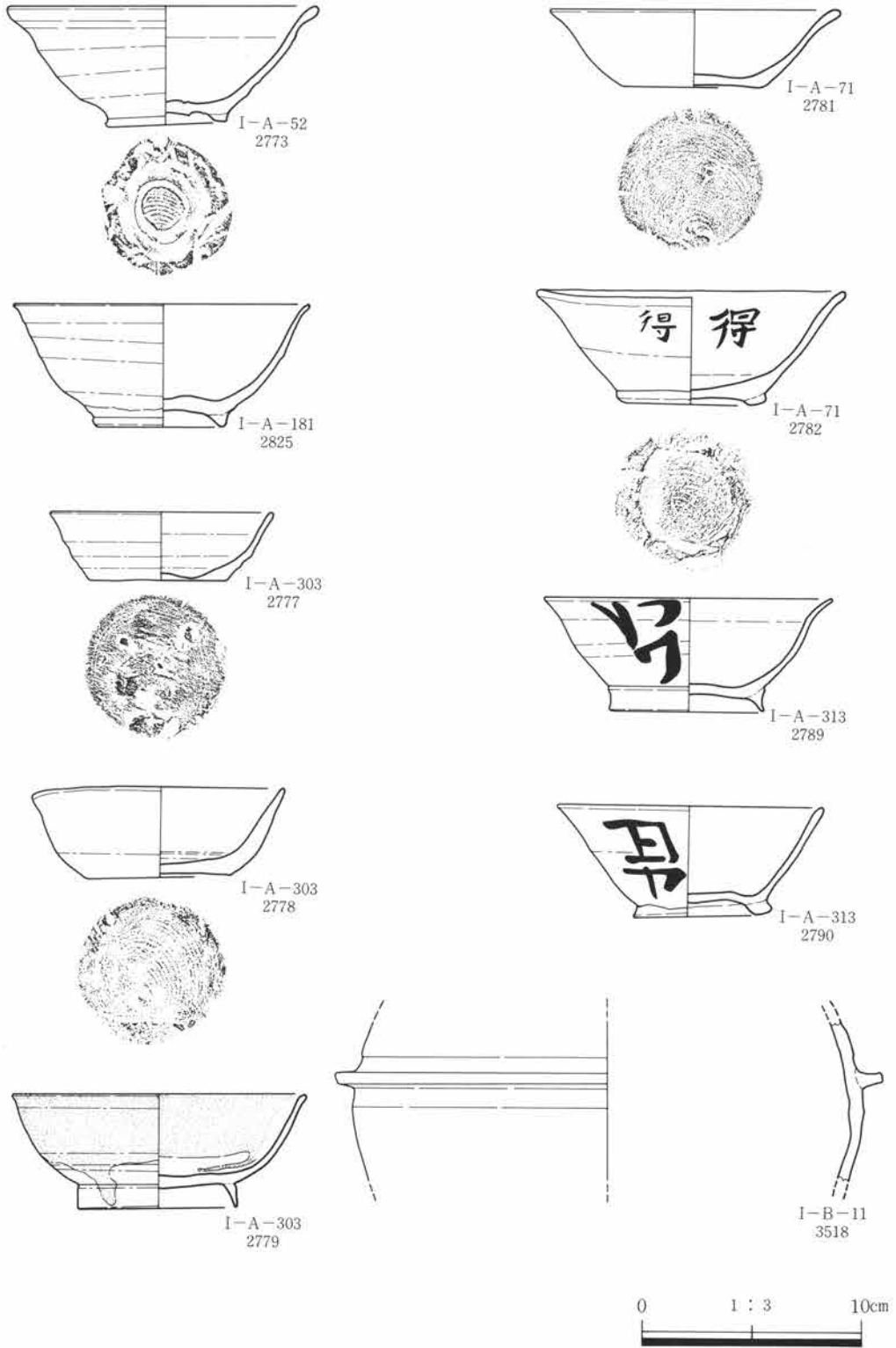
竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。当住居跡からは遺物の出土もなく、時期の限定は困難であるが、住居跡の形態・周辺の遺構との関係から、平安時代の住居跡としておく。(井川)

(2) 土 坑



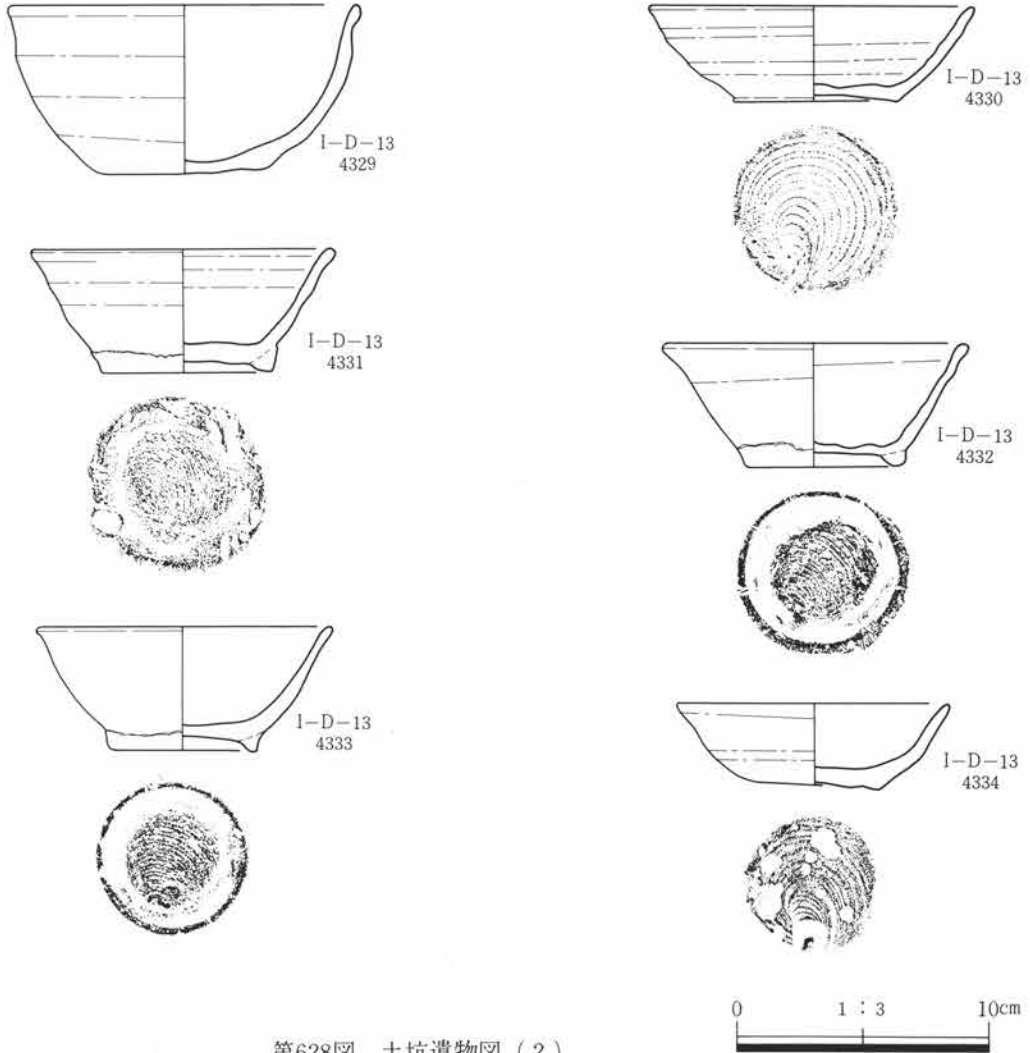
第626図 土坑遺構図

第4章 平安時代の遺構と遺物



第627図 土坑遺物図(1)

(2) 土 坑



第628図 土坑遺物図(2)

第196表 土坑一覽表

土坑番号	規模(長辺・短辺・深さ) (一辺・深さ)(直径・深さ) (長軸・短軸・深さ)	形状・方位 (方位は長辺・ 長軸を基準)	出土遺物	備考	押番 図号
A区-052	長辺:100cm短辺:90cm 深さ:20cm	不定型 N-27-E	須恵器の椀。	覆土は少量のローム粒子を含む	626 627
A区-071	直径:150cm深さ:40cm	円形	須恵器の杯1。須恵器の椀 1(墨書)。	覆土中にロームブロックを含む 墓壇か?	626 627
A区-181	長辺:150cm短辺:130cm 深さ:40cm	隅丸長方形 N-73-W	須恵器の椀1個体。		626 627
A区-303	長辺:195cm短辺:70cm 深さ:50cm	長方形 N-2-E	須恵器の杯2個体・灰釉陶 器の椀1個体。	覆土はローム粒子を含み、人為 的な埋没。墓壇。	626 627

第4章 平安時代の遺構と遺物

A区-313	長辺:250cm短辺:100cm 深さ:45cm	長方形 N-23-E	須恵器の椀2個体。両方共に墨書。	覆土はローム粒子を含む。墓塚か？	626 627 <input checked="" type="checkbox"/>
B区-011	長辺:230cm短辺:110cm 深さ:40cm	不整形長方形 N-66-E	羽釜の破片1。	B区41a号住居跡より新しい。覆土にロームブロック・軽石を含む。	626 627 <input checked="" type="checkbox"/>
D区-013	長辺:220cm短辺:100cm 深さ:40cm	長方形 N-8-E	須恵器の椀3・須恵器の杯3。	覆土は多量のローム粒子を含む平安時代の土壌墓か？	626 628 <input checked="" type="checkbox"/>

第197表 土坑遺物観察表

番号	器土器種	法量(器高・口径・底径・最大径)・遺存	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴	出土状態考
A区52土坑 2773	椀	器高:54mm口径:141mm底径:56mmほぼ完形。	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
71土坑 2781	杯	器高:35mm口径:133mm底径:65mm完形	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部はやや外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部～体部は轆轤なで。内面:口縁部～底部は轆轤なで。	覆土。
2782	椀	器高:52mm口径:141mm底径:[68mm]ほぼ完形。	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰黄。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。内外面に墨書「得?」。	覆土。
181土坑 2825	椀	器高:56mm口径:135mm底径:[60mm]口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$ 残	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや外湾。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	土坑内。
303土坑 2777	杯	器高:31mm口径:102mm底径:62mm完形	直径1～2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。硬質。浅黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	土坑内南部底面直上。
2778	杯	器高:41mm口径:115mm底径:67mmほぼ完形。	直径2～3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部～底部は轆轤なで。	土坑内中央部底面直上。
2779	椀 灰釉陶器	器高:52mm口径:134mm底径:77mm完形	砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部はやや外湾。底部は高台貼り付け後なで。外面:口縁部～体部上半は丁寧な轆轤なで、体部下半は回転寛削り。内面:口縁部～底部は丁寧な轆轤なで。	土坑内南部底面直上。

(2) 土 坑

313土坑 2789	椀	器高:52mm口径:131mm 底径:71mmほぼ完形	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部は外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内北東部。墨書。
2790	椀	器高:50mm口径:121mm 底径:63mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。黄灰。	轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南部。墨書。
B区11土坑 3518	羽釜	器高:(73mm)口径: 一底径:一口縁部~ 体部上端%。残	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。酸化。硬質橙。	口縁部~体部上端は内湾。外面:口縁部~鋸部は横なで、体部上端は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部上端は轆轤なで。	土坑内覆土。
D区13土坑 4329	椀	器高:67mm口径:141mm 底径:63mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
4330	杯	器高:37mm口径:130mm 底径:66mm完形	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。淡黄。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
4331	椀	器高:49mm口径:121mm 底径:68mm完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
4332	椀	器高:49mm口径:122mm 底径:64mmほぼ完形	直径3~4mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
4333	椀	器高:49mm口径:118mm 底径:60mmほぼ完形	直径2~3mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	口縁部は僅かに外湾。轆轤右回転。底部は回転糸切り後、高台貼り付け。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。
4334	杯	器高:32mm口径:109mm 底径:52mm完形	直径1~2mmの小石、及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤右回転。底部は回転糸切り。外面:口縁部は横なで、体部は轆轤なで。内面:口縁部は横なで、体部~底部は轆轤なで。	土坑内南西部。

第5章 調査の成果と問題点 — 平安時代 —

(1) はじめに

下佐野遺跡は、既にII地区の報告書が刊行されており、平安時代の遺構と遺物について一応のまとめを行っている。今回I地区及び寺前地区の報告を行うにあたっては、下佐野遺跡全体を視野に入れる方針であるため、II地区も検討対象に入れた。従ってII地区のまとめとした予測を再検討する形となり、不明確であった部分の修正や新たに付加すべき事柄が確認できた。前報告と重複する部分もあるが、再度検討方針を示しておきたい。

ここで検討対象としたのは、古墳時代以降浅間B軽石降下直前までの竪穴住居・掘立柱建物・溝・墓壇・畠等の遺構と、遺構に伴って出土した遺物である。通常この時期は奈良・平安時代と呼ばれているが、下佐野遺跡では奈良時代とすべき8世紀代の遺構・遺物がみられず、そのほとんどが平安時代に属する8世紀末から11世紀後半に至る時期のものであると判断したため、「平安時代」と表記した。

土器については、時間を決める尺度としての土器群の把握を中心に検討し、不十分ではあるが生活用具としての在り方の検討も行った。土器は出土地点が明らかで、遺構の廃絶時期により近いと考えられる出土状態のものを重視して土器群を構成した。土器群の配列には各遺構検出層序と重複関係からその相対的变化をみつけ、さらに周辺遺跡での分類・配列の成果を援用した。

遺構については、主に住居の時期毎の分布状況から、集落の出現と発展の様子を推察した。本遺跡は古墳が密集して造営された地域であり、古墳群とその後の土地利用、また前代の墓域にたいして居住域が進出する現象は、当時の人々の意識を考えるうえで重要であると考えた。

(2) 土器について——土器群の変遷と時期区分

平安時代の土器についてはII地区の報告文中に概略を示した。およそ8世紀末から11世紀中頃に至るまでを11期にわけ、漸移的な様相の変化を列挙した。I地区及び寺前地区の土器についてもII地区の分期にほぼあてはまるが、より新しい時期に属する1群が確認できた。この1群をⅩ期として、11世紀後半に位置づけた。従って本遺跡の平安時代土器群は12期にわけられ、その期間は8世紀末から11世紀後半の約300年間となる。各土器群の分離の基準は同一遺構内出土の一括遺物における器種の組みあわせと、形態の変化・成形技法の変化とによった。土器群の変遷図も極力同一遺構出土のものを取り上げ、不足部分について補足した。形態の変化と製作技法の変化が顕著にとらえられる器種は煮沸具の甕類と、食物を盛る供膳具の杯・椀類である。また当地域の平安時代の煮沸具は、土師器甕から須恵器の系譜をひく羽釜へと交替し、さらに土釜の出現という変化が見られる。供膳具は土師器杯類からこれも須恵器の系譜をひく杯・椀類と交替する変化がとらえられる。今回、土器群の変遷図を作成するにあたっては、煮沸具と供膳具を中心に組

みなおしてみた。当然生活用具として器種の組み合わせを網羅していないが、土器群の様相変化を見るものとしては有効であろう。

I 期 (第629図上段)

煮沸具 土師器甕／くの字状口縁、口径と胴部最大径がほぼ同じで、体部ヘラケズリ調整を行う。本遺跡では資料が少なく図示できなかったが、土師器甕類はNo.29に代表される口径20cm内外で器高27cmから28cmの大きさのものと、口径11cm内外で器高15cm程の小型甕とがある。細かく計測分類すれば大中小の3種があるだろう。小型甕には台付きのものが多。

供膳具 土師器杯／体部が僅かに内湾して底部は平底ぎみである。底部手持ちヘラケズリ、体部指頭ナデ、口縁部ヨコナデを行う。8世紀代の土師器丸底杯が平底へ変化する過程としてとらえられる。

須恵器杯／体部直線的に開き平底、口径12cmから13cm、器高4cm内外で底径1に対し口径1.6から1.7である。体部クロコナデ調整で底部は回転ヘラ切り無調整、回転糸切り無調整があり、底部周辺をヘラケズリ調整したものは見当たらなかった。

須恵器高台付杯／身の深い杯で体下部に僅かに膨らみを持つ。鉢とすべきか。底部回転ヘラ切りで貼り付け高台である。蓋とセットになると思われる。

II 期 (第629図中段)

煮沸具 土師器甕／I期の甕にくらべ頸部がしまり、くの字が明確になり、たちあがりを見せる。最大径を胴上部に持ち、体部ヘラケズリ調整強まり、器肉薄手となる。補助的な煮沸具としての小型甕の在り方はI期と変わらない。

供膳具 土師器杯／体部僅かに内湾して外に開き、底部は平底化が進む。

須恵器杯／体部直線的に開いて、平底のものが主体となる。口径12cmから13cmで底径と口径の割合も前期と大差はない。底部の切り離しには回転ヘラ切りと回転糸切りの2種が共存する。体下部の絞り込みをつよめ、わずかな段をもって回転糸切りをしているグループ(第629図No.1031・1032)の出現が目出される。

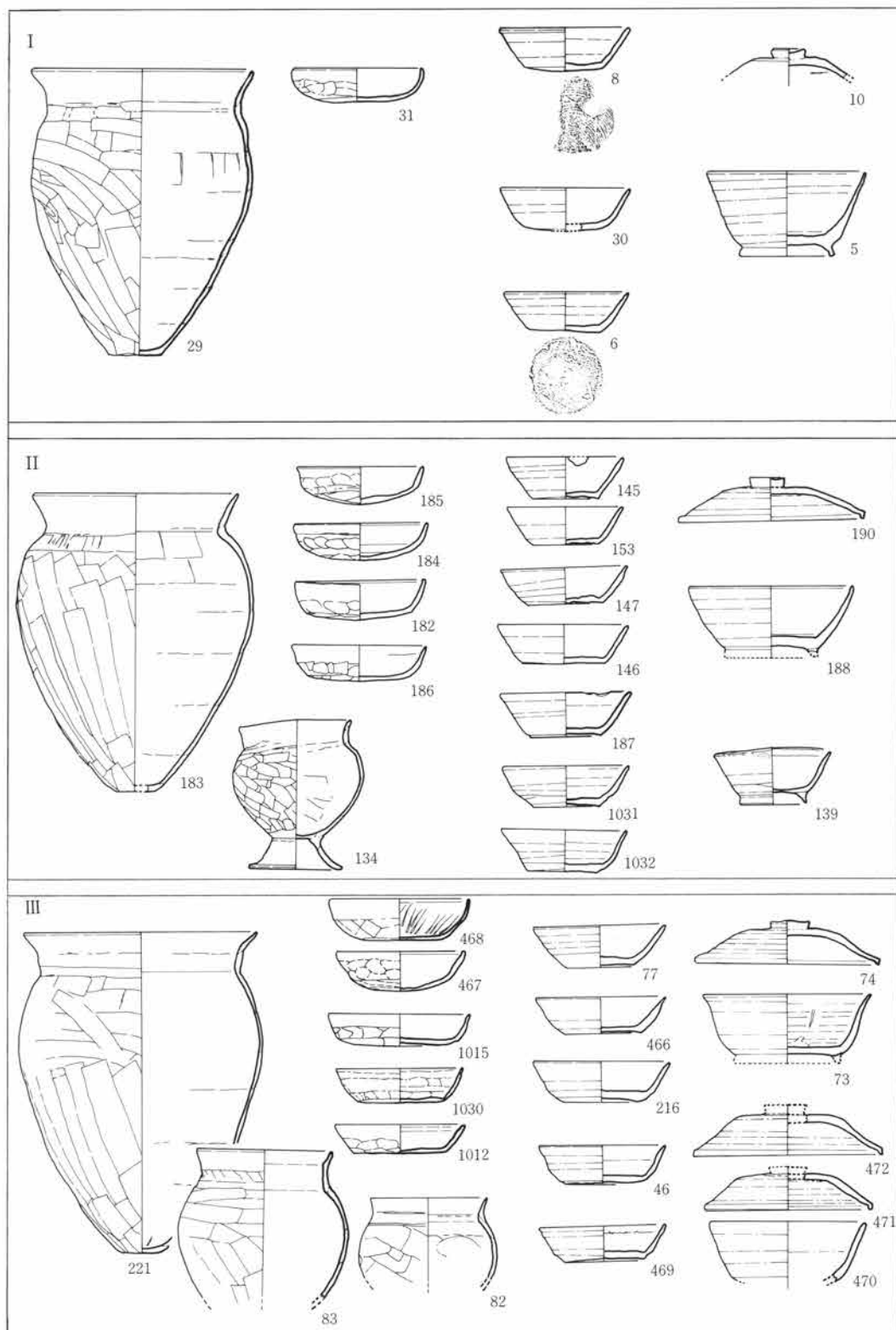
須恵器高台付杯、碗／大小があり、小型は断面三角形の高台をもつ。

須恵器杯蓋／口縁端部折り込しのもののみ、端部はまるみを帯びる。つまみはボタン状。このほか図示していないが、土師器鉢、須恵器高台付皿・高杯があり、特に須恵器は供膳具を中心にして器種、数量とも増加の傾向にある。

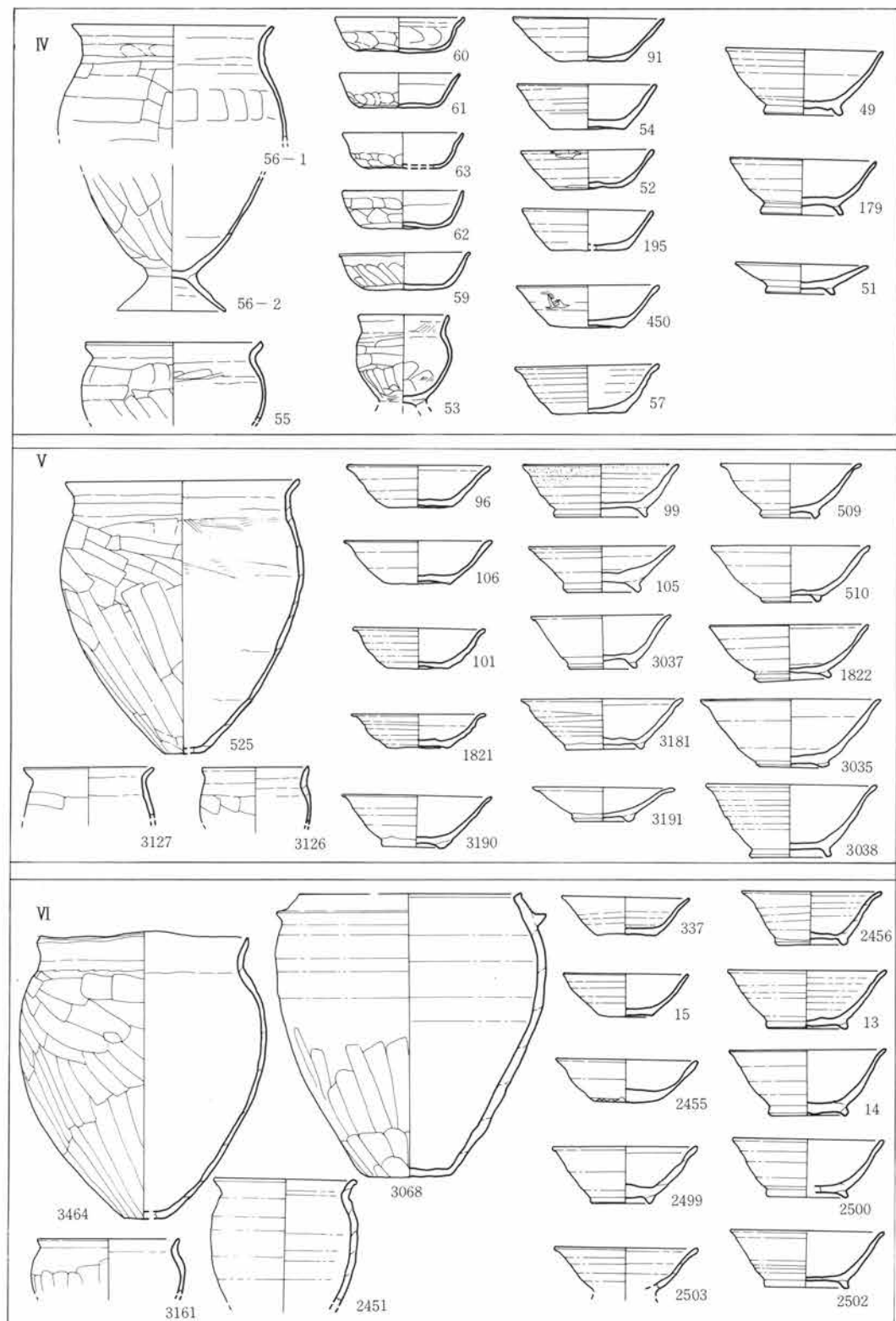
III 期 (第629図下段)

煮沸具 土師器甕／頸部いったん外行して立ち上がり、口縁部へ向けてさらに外行する。コの字状口縁の完成直前に位置付けられる。胴上部に最大径をもつ。体部ヘラケズリ調整。小型甕あり。

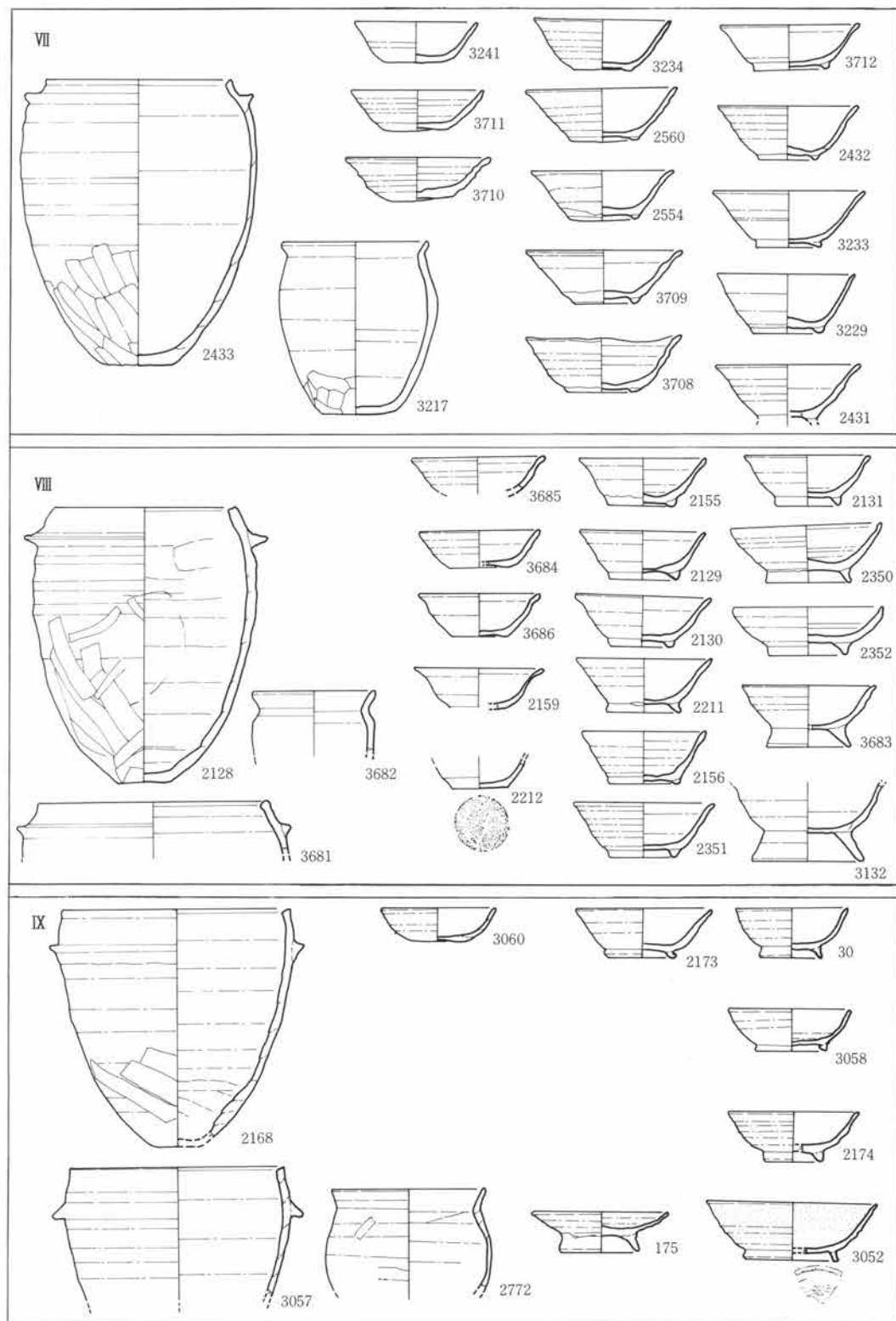
供膳具 土師器杯／平底で体部直線的に開く身の浅い杯、平底だが体部柔らかく内湾して開き、身の浅い杯、底部丸みを残して体部僅かに屈曲し身の深い杯が見られる。



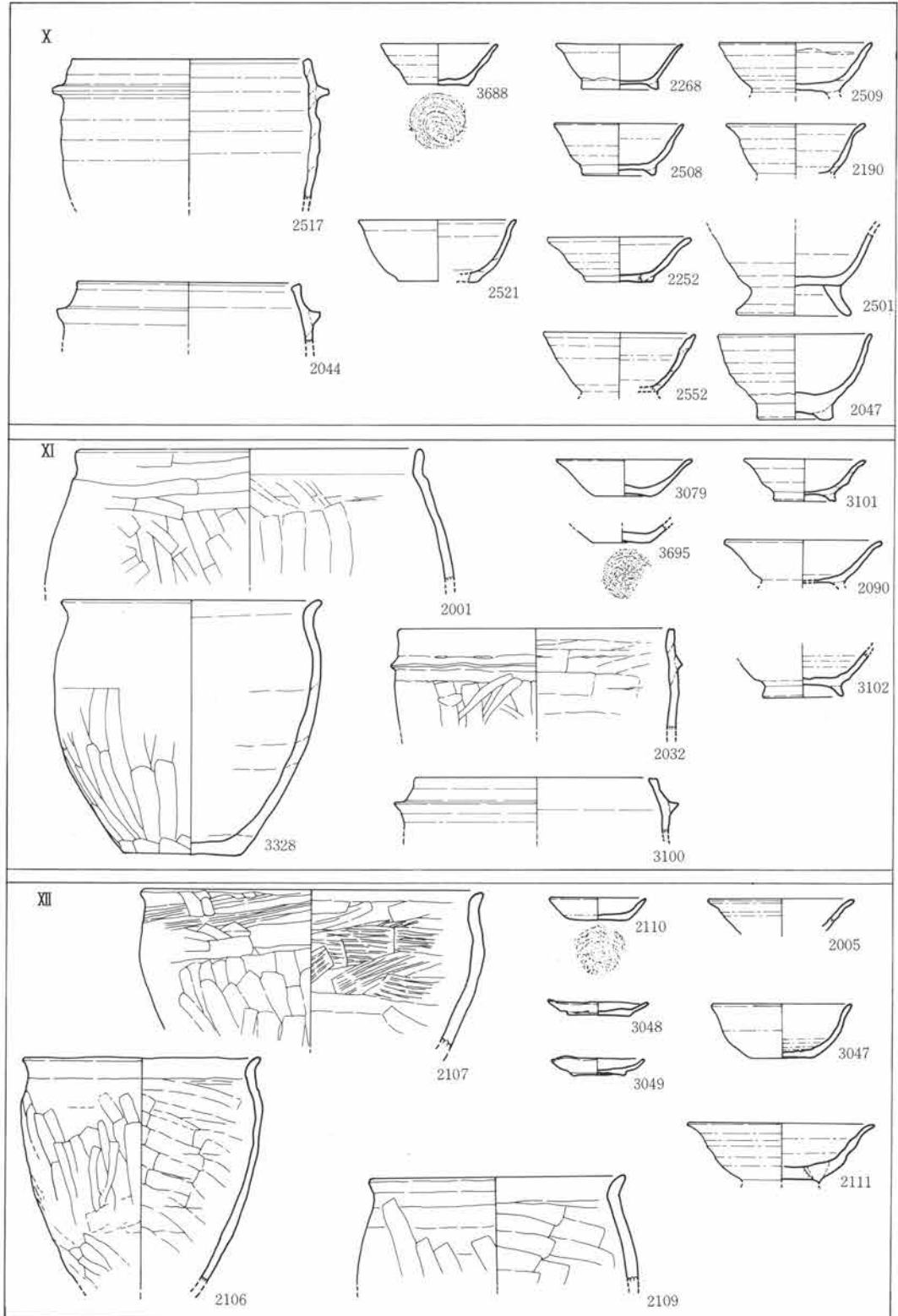
第629図 平安時代の土器変遷図(1)



第630図 平安時代の土器変遷図(2)



第631図 平安時代の土器変遷図(3)



第632図 平安時代の土器変遷図(4)

第5章 調査の成果と問題点

須恵器杯／平底で体部直線的に開くもの(No77)、体下部に丸みを持ち緩やかに外反するもの(No216、46)、底部に絞り込みの段のあるものとかがある(No469)。回転糸切り、回転ヘラ切りが併存する。底径にたいする口径は1.6から1.8が中心であるが、No77は約2.0で少数ながら新しい要素とみてよいだろう。

須恵器高台付杯、椀／大形が中心、口径15cmから18cm、蓋の大きさも対応する。

Ⅳ期 (第630図上段)

煮沸具 土師器甕／頸部締まって立ち上がり口縁部を強く外反させる。コの字状口縁である。ハの字に開く脚部をつけるものと、小さい平底のものとかがある。

供膳具 土師器杯／平底で体部は緩いS字状を呈して外反する。

須恵器杯／体部が直線的に開き底径に対して口径が1.9から2.0となる。すべて回転糸切り無調整である。

須恵器高台付椀／体部内湾するやや大きめの椀が多い。灰釉陶器等の影響を思わせる器形である。

須恵器高台付皿／前代の須恵器杯類から変化して出現したとするには無理がある。高台付椀とともに灰釉陶器等に影響されたものであろう。

Ⅴ期 (第630図中段)

煮沸具 土師器甕／頸部のくびれが弱まり、コの字状口縁が明確でなくなる。体部のヘラケズリによる器肉調整も弱まる。小型甕も器肉が厚くなる。

供膳具 土師器杯／Ⅳ期の杯の変化形態が残存するのみ。供膳具の主体を占めない。

須恵器杯、椀／体部内湾して開き、口縁部強い外反を示すタイプがある。Ⅳ期より更に底径が小さくなる。

須恵器高台付杯、椀、皿／体部内湾して口縁端部つまみだしによる外反が明瞭になる。これらの器形は明らかに灰釉陶器の影響である。

Ⅵ期 (第630図下段)

煮沸具 土師器甕／Ⅴ期の形態が更に変化する。頸部緩く締まり口縁部外反、体部調整も弱まり器肉厚くなる。羽釜の出現によって煮沸具のなかで補助的な役割となるか。

羽釜／既に完成された形でこの時期より出現する。体部まるくふくらみ口縁部内傾する。最大径のある胴部上位より口縁部寄りにシャープな断面三角形の鏝を巡らす。粘土紐積みの後、ロクロによる成整形、体下部ヘラケズリ。平底。焼成は酸化のものが多い。

小型甕／羽釜とおなじ製作技法で作られる。土師器小型甕に替わる器種である。

供膳具、須恵器杯、須恵器高台付杯、椀／体部内湾するタイプと直線的なタイプとあるが、口縁部の外反が認められる。口縁端部はまるみを持つ。高台断面も丸みを持つ台形である。灰釉陶器椀、皿が共伴する。大原2号窯式に対比できるだろう。

Ⅶ期 (第631図上段)

煮沸具 羽釜／煮沸具の主体を占める。内傾していた口縁部が立ち上がる傾向を示す。羽釜については変化の過程が細かく追いきれないが、内湾する卵形のプロポーションから口縁部が直行して開くプロポーションへの変化と、口縁端部の鈍化、体部調整の崩れという方向でとらえた。

供膳具 須恵器杯、椀、須恵器高台付杯、椀／Ⅵ期とおなじタイプであるが作りがやや粗雑化する。器肉が厚く、口縁端部は、Ⅵ期より丸みを持つ。とくに高台付杯は粗雑化が顕著である。焼成は還元と酸化がある。灰釉陶器皿、椀の共伴が増加する。

Ⅷ期 (第631図中段)

煮沸具 羽釜／主体を占める。卵形のプロポーションが口縁部の立ち上がり傾向によって崩れてくる。一般的であるかどうか検証していないが、口縁端部のみ内側におさえるくせが見られる。

供膳具 須恵器杯、椀／小型化の傾向がみられ、整形はていねいである。
須恵器高台付杯、椀／無台の杯類とともに、再びていねいな作りのものが見られるようになる。体部直線的に立ち上がるタイプ、体下部で内湾して広がり口縁端部で僅か外反するタイプ、体部内湾して口縁部へ直行するタイプがみられるが、ともに口縁端部を尖らせるくせをもつ。同時期の灰釉陶器の模倣であるかと考えている。また高い高台を付した椀の出現もこの時期である。

Ⅸ期 (第631図下段)

煮沸具 羽釜が主体である。口縁部立ち上がって口縁端部の平坦面がほぼ上を向く。口縁端部の鈍化傾向が見られる。

供膳具 須恵器杯、椀、高台付杯、椀／Ⅷ期と組み合わせは同様で、大型の高台付杯、椀と小型の無台杯類とに分離する。

X期 (第632図上段)

煮沸具 羽釜／煮沸具の主体である。口縁部立ち上がって、端部丸みを持つ。鋸断面も鈍化する。

供膳具 須恵器杯、椀／小型化の傾向が進む。
須恵器高台付杯、椀／高足高台付椀の高台は、接着面が太く端部丸みを持つ。住居内出土の点数も多くなき、器種の組み合わせを示しにくい。基本的には高台付杯（体部直線的にひろがるタイプ）、椀（体部内湾するタイプ）、高足高台付椀の大小である。

XI期 (第632図中段)

煮沸具 羽釜／口縁部開き気味に立ち上がる。口縁端部丸くなり、平坦面を持たない。調整もロクロを使わずヨコナデシ、体部のヘラケズリも鋸直下まで行う(No2032)。焼成も全く異なり、低火度・酸化焰焼成である。

土釜／この時期から出現する。前代までの羽釜からは導き出せない形態と焼成である。

第5章 調査の成果と問題点

羽釜の容量と同じくらいのもの、遥かに越える大きさのものがあるが、一様に内面に炭化物の付着がみられる。平底。

供膳具 須恵器杯、椀／本遺跡では体部直線的に広がる杯があるのみで、IX期以来の小型化傾向を追いなかった。

須恵器高台付杯、椀／器種の組み合わせは前期とかわらないが、製品に一貫性のない感を抱かせる。

Ⅻ期（第632図下段）

煮沸具 土釜を主体とする。口縁部は短く、くの字に外反する。体部ヘラナデ。

供膳具 須恵器杯、椀、高台付杯、椀／少ないながら幾つかの器種がそろそろ。杯はカワラケ様に変化する小型皿である。B-5号住居跡の皿は共にロクロを使っていながら粗雑な作りで、黄褐色を呈し、カワラケと区分しがたい。

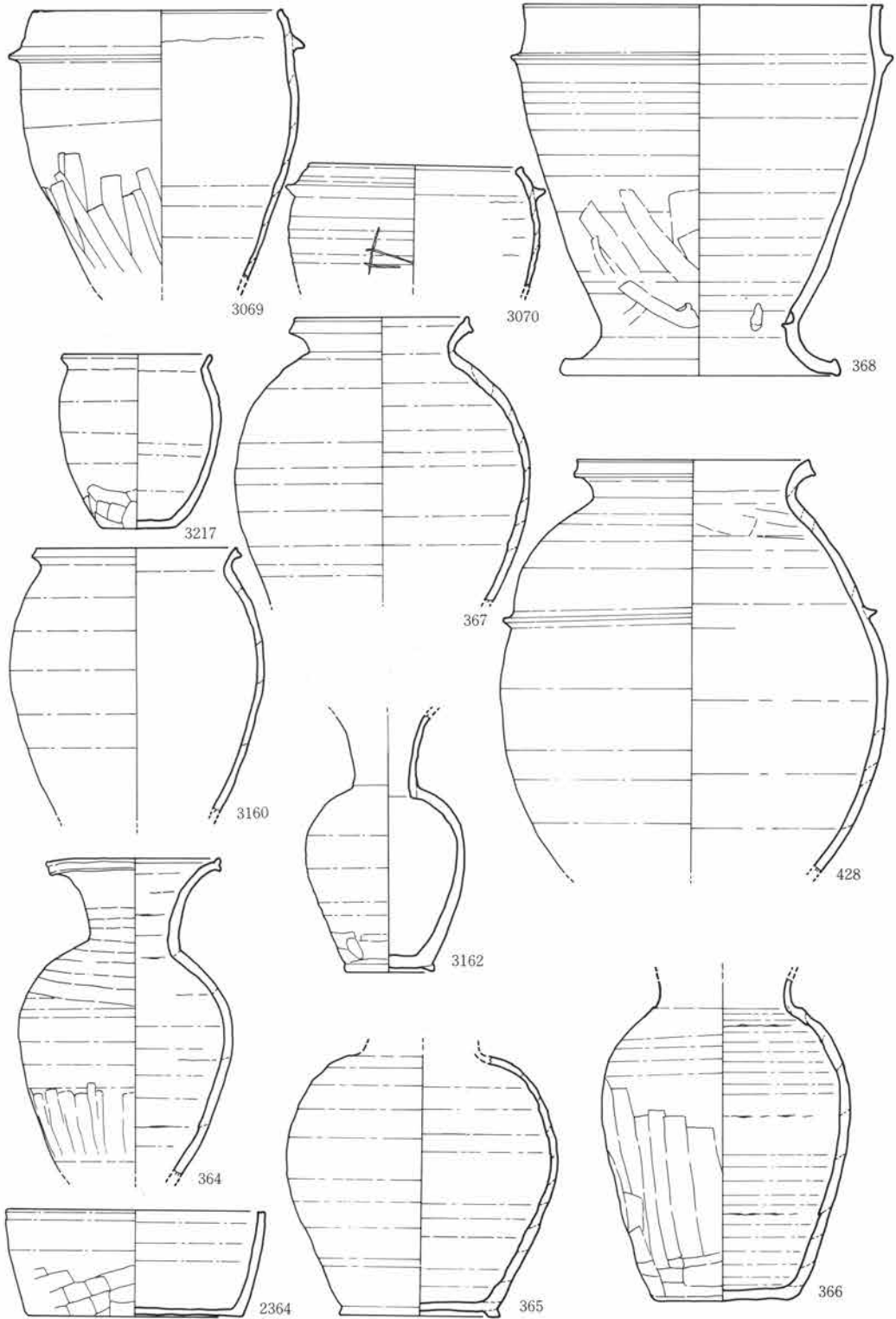
以上土器群の概要を列挙したが、次に実年代との対比を検討したい。

本遺跡からは直接実年代を決定しうる資料は出土しなかったが、県内他遺跡での研究成果を援用する。

本遺跡Ⅰ期とした土器群は、土師器と須恵器の構成、形態の特徴も坂口・三浦氏による中尾編^{注①}年のⅥ期に類似する。中尾編年ではこの時期を8世紀第4四半期においている。また最近、中沢・飯田氏が発表された須恵器についての研究^{注②}によると、松井田町愛宕山遺跡4号住居跡の須恵器杯類の年代を、共伴した貨幣の初鋳年代（760年）とほぼ同時期に位置づけている。中尾編年の中では愛宕山遺跡4号住居跡の須恵器杯類を、中尾Ⅶ段階（9世紀第1四半期）に、八坂前4号窯を中尾Ⅷ段階（9世紀第2四半期）に対比している。これにたいし中沢・飯田氏は、八坂前窯4号窯を9世紀前半代でもっとも古い段階にすべきとしている。双方とも八坂前4号窯の杯類より愛宕山遺跡4号住居跡の杯類が古式であるという点では一致する。本遺跡のⅡ期は中尾Ⅶ段階の土器と土師器、須恵器の組み合わせ、形態、技法の上でもよく似る。一方愛宕山遺跡4号住居跡の須恵器杯類と比較すると、本遺跡Ⅱ期の杯類は口径の集中部が11cmから12cmとやや小型で、計測値の上からも、技法からもかみ合わない。共通の計測方法で、資料をつきあわせて検討することが必要である。今後の課題としたい。ここではとりあえず、相対的な配列の成果として中尾編年を援用し、Ⅰ期に8世紀末の年代を充てておく。以下順次対比するとⅢ期は中尾Ⅷ段階、Ⅳ期は中尾Ⅸ段階の9世紀中頃、Ⅴ期は中尾Ⅹ段階9世紀後半、Ⅵ期は中尾Ⅺ段階10世紀初め、Ⅶ期を中尾Ⅻ段階10世紀中頃、Ⅹ期は中尾ⅩⅢ段階10世紀末から11世紀初め、Ⅺ・Ⅻ期は中尾ⅩⅣ段階11世紀中頃から後半である。

本遺跡の土器群は8世紀末から11世紀後半までのあいだに3期の画期を持つ。第一はⅣ期の須恵器高台付椀、皿の出現で、灰釉陶器の生産・流通開始に伴って須恵器生産集団の組織変化が推測できよう。第二はⅥ期の羽釜の出現である。この時期前後は、羽釜の製作技法と同じ手法で作出された器種が見られる。煮沸具の生産に進出した須恵器生産集団とその統括組織の発展が示

(2) 土器について



第633図 羽釜とともに出現する土器群

第5章 調査の成果と問題点

されていると考えている。第3は土釜の出現のXI期である。広域にわたる流通経済の仕組みの変化と発展とによって地場産業の生活用具生産窯業が変質と再編成をした時期であろう。中世への胎動期である。

羽釜出現期の土器について

本遺跡の土器群のうちVI期に煮沸具として羽釜が出現する。羽釜は底部として粘土板をおき、粘土紐積みあげの後、ロクロナデ成整形、体下部ヘラケズリ調整を行う。平底で卵形の胴部、口縁部よりやや下がった胴部に断面三角形の鐙をめぐらす。煮炊きの用具で、住居のカマドに懸かっただまみ出土することもある。焼成は還元、酸化双方ともあるが、酸化によるものが多いだろう。還元焰の焼成のものも焼き締まりはあまい。羽釜は技法、焼成からみて須恵器の製作技法に系譜を求められるのは明らかであり、当初から完成された器形で出現する。しかし、形態の系譜はいまひとつ明らかに出来^{注③}ない。濃密な分布の中心は県北部・県西部・北武蔵の西部である。県北部には月夜野型羽釜とよばれる、器形・調整方法が平地の羽釜とはやや異なる一群が分布している。本遺跡では羽釜の出現とともに、同じ製作技法で作られた一連の土器が見られる。各種集めてみたのが第633図である。羽釜の大小(No3069、3070)、くの字に屈曲した口縁部の甕(No428、367、3160)、小型のロクロ甕(No3217)、甑(No368)、瓶(No366、365、364、3162)、大きな平底の鉢(No2364)である。ほかに図示しなかったが片口の鉢(5区10号住居跡)もある。小型の甕、甑を除いてその後とくに発展しないが、当時の生活用具の器種がかなり豊富であったことが認められる。また本遺跡ではこれらの土器が集中して見られており、5区6号住居跡のように一括遺物としてとらえられるものもある。これは本遺跡が生産地と直結した消費地であり、集落の性格を規定する材料と出来る。生産地としては本遺跡から烏川を挟んで南西に横たわる丘陵中の乗附窯、さらに簗川をさかのぼって吉井窯に求められるだろう。なお、5区10号住居跡出土のNo428は甕の大型品であるが、胴上部に断面三角形の羽釜様鐙をめぐらす。煮沸具か、貯蔵具か用途の限定は出来^{注④}ていない。カマド部分から出土しており、カマド材としての再利用の可能性もある。他に類例をみない器形でもあり、羽釜の出現とのかかわりからも注目したい。

(3) 遺構について——集落の出現と発展

下佐野遺跡には、8世紀末から11世紀後半の間にII地区もあわせて238軒の竪穴住居跡が遺されていた。大規模な集落跡である。遺構は他に掘立柱建物30棟、溝28条、墓壇28基、畠1面、道路状遺構等があるが、遺物による時期判定が困難な土坑、井戸等の中には当時期に含まれるものもかなりあるだろう。このうち特に今回の報告で注目されるのは、畠と道の存在である。集落は烏川崖線際から北東方向に広がりを持つと思われる。調査区域は集落の中を一定の幅で貫通するかたちとなり、集落全体の構造を明らかにするには限界がある。しかし同時期の遺構の組みあわせにより、竪穴住居が点在し、掘立柱建物がたち、まわりに畠があり、道がめぐるといった生活景観が復原できる。また時期別の遺構分布状況には集落の在り方とその動向がよみとれるだろう。

(3) 遺構について

土器群の検討によって分離した時期別遺構の分布状況は第634図に示した。この図によれば下佐野遺跡の人々は、II地区3・4区を基点として集落を出現させ、しだいに北西方向に居住域を拡大したこと、拡大の時期は9世紀後半もV期であると言える。分布図中では9世紀後半のうちIV期とV期についても分離してみた。その結果IV期の住居は4区16号住・20号住より北西方向には展開せず、次のV期にA区以西に出現してくる現象がとらえられた。II地区の報告段階ではIV期・V期の住居群分布は5区4号溝の東までで、羽釜の出現するVI期以降8区まで居住域を広げるとしたが、分村ともよべる南東部から北西部への移動は、V期に行われたと修正する。ただし、北西部にIV期に属する住居が1軒（A区22b号住）あり、集落も当然調査範囲より広がりをもつことが予測できることから、移動の時期はIV期にさかのぼる可能性がある。また、VI期以降の10世紀代の住居群は、その軒数も居住占有範囲も拡大傾向を示す。

住居分布は3区からC区のおよそ970mの範囲に広がる。その分布密度にはばらつきがあり、住居や遺構の空白部分によって4つのグループに分離が可能である。南東から北西へ順次第1グループ、第2グループと呼ぶ。

第1グループは最も南寄りのもので、3区北西寄りの部分から6区中程までの区域にひろがる。I期からXI期までの各時期住居を含む。I期からIII期の住居は当グループ南東部にのみ認められ、IV期の住居もIII期までの住居群とほぼ同じ区域内に散在する。V期には5区中央部を限界として南東方向に展開し、VI期以降は6区1号溝付近から4区にかけて散在する。古い段階に対応する4区1号から4区3号掘立柱建物と、新しい時期に対応する6区1号掘立柱建物がある。また4区3号溝はI期の住居に、5区4号溝はIX期に、6区1号溝はVI期以前の住居群に対応して機能する。第2グループとの間に6区8号・10号溝をはさんで40m程住居が検出されていない地帯がある。6区8号・10号溝は第1グループの地域と第2グループの地域を分離する区画線の意味を持つ。

第2グループは6区8号・10号溝より約20m程の空白を於いて西に展開する。A区南端のA区2号墳の東までである。この7区1号墳からA区2号墳の区間には5基の古墳が密集する。7区については現在の崖線際まで調査を行えた地区で、その結果集落はほぼ現在の崖線内に収まる様子が看取できる。7区1号墳と2号、3号古墳とに東西と南を挟まれた区域に、掘立柱建物が集中しており、この建物群を中核として北方向に広がりを持つ集落といえよう。このグループには8世紀末のI期から9世紀代のV期に至るまでの住居が認められない。10世紀代VI期に新たに展開し、11世紀代XI期にいたる住居群である。

第3グループは第2グループとはA区道状遺構をはさんで西へ展開する。A区1号墳周濠中の住居までとする。A区22b号住のようにIV期の住居1軒を含むが、ほとんどは9世紀後半のV期からの住居で、11世紀後半のXII期にいたるまで連続して集落として機能する。第3グループで特筆できるのは、道状遺構と道に付属する溝、道を壊して作られた掘立柱建物（A区9号掘立柱建物）、その上層に作られている島の存在である。

道状遺構は調査区域内をおよそ南北方向に走って、A区2号墳の東側周濠中に延びると思われ

第5章 調査の成果と問題点

る。走行方位はN26度Eで、西側に溝を切り込む。この溝は東側には検出されていない。当地区は北西から南東方向へ傾斜を持っており、明確な区画と、水と土砂の流入から道を確保する意図から、わずかに高い北西側に溝を設けたのであろう。堅い路面上には轍跡と思われる2条の細い溝を検出している。道状遺構が開削あるいは使用されていた時期は、第3グループの開始時期と考えるのが妥当であろう。

A区9号掘立柱建物は道状遺構を切って作られている。東側に10号掘立柱建物もあり、一時期この掘立柱建物が住居に対応して機能するだろう。

畠はA区2号墳北東部の周濠中に確認できた。北東方向に走る畝状の低い部分が浅間B軽石によって埋まった状態で検出でき、対応する調査区北側の壁土層断面観察によっても同様の畝状遺構が確認されている。かなりの広がりを持ったであろう。また畠はA区71号住と重複しており、畠のほうが新しい。A区71号住の時期は10世紀前半にあたるVII期で、このことから畠は集落出現後しばらく時間をおいた10世紀後半ごろから浅間B軽石降下による埋没までの期間に営まれたと考える。また、道状遺構と畠の間にはさまれた掘立柱建物の時期は、10世紀前半代にあてはめられようか。

集落出現当初、道によって区切られ空間であった部分に次の段階で掘立柱建物が作られ、さらに畠へと変化した区域があったことが確認できた。掘立柱建物が作られた時点で、この区域もっていた地域を区画するという役割は消滅し、東に広がりをもつ第2グループと一体化する。第2グループは第3グループから拡大したものと理解したい。第2グループの開始時期は、A区9号掘立柱建物の想定時期とはほぼ同じである。

第4グループは、A区1号墳より北西に約30mの空白区域をもって始まり、C区2号墳に至るまでの一群である。9世紀代V期から11世紀後半のⅩ期までの住居で構成される。下佐野遺跡の集落はこのグループより北西には広がらない。V期の住居は南東よりに集中し、C区北西部はVI期からⅩ期の住居のみである。このグループは、掘立柱建物が調査範囲内では伴っていない。第4グループの占めるB区・C区西側は、烏川へ向かって台地が緩やかな傾斜をもって張り出している部分で、集落の本体は崖線側によるだろう。第3グループとの分離の基準としたA区1号墳の西の住居空白区域は、古墳時代には住居が作られており居住域として機能していた。平安時代として特別な遺構もない。

各グループに属する住居の特徴により、平安時代の下佐野遺跡の出発は南東部に位置する第1グループからである。II地区報告の際に、集落の古墳群内第1次進出は8世紀から9世紀であるとしたが、第1グループは第1次進出によるものである。古墳群内といっても第1グループの占地は、佐野古墳群の東端にあたりかなりの平坦部が確保出来る区域である。おそらく烏川崖際から古墳群の端を東側からまわりこみ北側へと集落を展開しただろう。4区3号溝や5区4号溝の走行方向が集落の展開方向と合致する。住居間にも一定の方向と距離の規格があるようで計画性のある集落の成立をうかがわせる。

(3) 遺構について

第2次進出期とした9世紀から10世紀は、今回の検討で9世紀後半のV期に限定できた。羽釜が生活に定着する直前である。V期に誕生するのが第3グループ・第4グループである。密集する古墳群内に居住空間を求めているため、住居の方向性に若干不統一な部分が見られる。

第3グループは、古手で比較的大形のA区2号墳とA区1号墳の間に占拠する。この区間は割合古墳が密集していない。むしろ方形周溝墓の密集地域と言ってよい。方形周溝墓の方体部中に住居がつくられている例は7区3号方形周溝墓に対する7区20号住居跡・21号住居跡に見られたのみである。ほとんどは、周溝上か方体部裾にかかる程度である。ある程度の高まりが方体部に残っていた可能性が強い。特にA区4号方形周溝墓では、周溝中に平安時代の住居が並ぶが、方体部にまで及んでいない。墳丘様に高まりが残っていたためといえないか。

第4グループは第2次進出期に第3グループと共に誕生をする小群で、密集した古墳群中の小空間に居住空間を求めている。

第2グループは、VI期になって展開する。A区2号墳から7区1号墳の間には大型の7区3号墳があるためか、10世紀にいたってはじめて居住域化する。第2グループの誕生は第3グループからの拡大の結果としてとらえた。10世紀代には各グループ内での居住域拡大がおこなわれたほかに、新グループが作り出された。集落の人口増加の結果ととらえられる。当然、人口増加は生産力の増大にその裏付けを求められるが、居住地域の選定の仕方を見ると、少しでも生産可能な土地は耕地として確保しただろうと推測できる。このVI期以降の居住域拡大傾向を、第3次進出期として発展充実期であるとしてとらえる。

第3次進出期をむかえてもなお、各住居グループ間に遺構の空白区域がある。第1グループと第2グループの間、6区8号・10号溝を挟んだ部分、第3グループと第4グループの間、A区1号墳の西側部分である。

6区8号・10号溝は調査区域内をおよそ南北方向に横切る。走行方位はN26度Eで、A区道状遺構と近似する。溝を埋めた土のやや上の部分に浅間B軽石の層が確認されており、10世紀か11世紀には機能していたとするのが妥当であろう。この6区8号・10号溝の東一現在使用している道路敷下に江戸時代までは確実にさかのぼれる道路状遺構を検出している。また道路状遺構の側溝である6区12号溝の東側一帯は、浅間B軽石降下直後に整地されていたとの所見がある。これらの状況から、6区8号・10号溝はA区道状遺構と同じ性格の遺構で、集落の拡大に伴って東に移動したと言えないか。さらに中世に至って東に移動し、地域の道として現在にまで生かされていたのではないだろうか。第3グループと第4グループとの間に介在する空間についても、推測を重ねることになるが、現在の道が区画として生きていと出来るかもしれない。

第3次進出期以降には2ヶ所の空白地帯を境として、下佐野遺跡の集落は3グループのまとまりを見せる。

11世紀代には、各住居グループ内で竪穴住居の検出軒数が少なくなる。集落の衰退現象としてとらえるのではなく、11世紀にはすでに中世的な居住形態への変化が押し寄せている現れと見て

おくべきだろう。

(4) おわりに

本遺跡は前橋台地がその南西部を烏川によって区切られた台地上に立地する。本遺跡は古墳群の存在とともに、山ノ上碑（烏川対岸丘陵中に位置する）に刻まれている「佐野三家」と、金井沢碑文中に見える「下贅郷」及び、当地に残る「佐野」の地名とのかかわりに関心がもたれる地域である。今回の調査はこの台地縁辺に、南東方向から北西方向に向けて約1,700mにおよぶ大トレンチを入れたこととなる。線的な調査ではあるが、古墳時代には墓域として位置付けられた地域に、8世紀末から集落が作られてゆく過程が看取できた。しかし、調査区域内からは山ノ上碑、金井沢碑の年代に合致する遺構は検出できず、該当する時代の様相は不明とせざるをえない。

土器の検討による時期区分と遺構の変遷とによって、下佐野遺跡の平安時代集落に画期を求めるとすれば、その第1画期はI期：集落の開始時期、8世紀末である。第2画期はV期：分村と呼ぶべき住居群の拡散現象期で9世紀後半である。第3画期はVI期：集落の発展充実期で10世紀である。このうち第2画期とした分村の時期はIV期にさかのぼる可能性がある。IV期・V期は土器の組み合わせにも、従来の土師器にたいして須恵器の割合が飛躍的に増加するという変化の見られる時期で、9世紀後半の時期は変化発展の時期とできる。またVI期以降に見られる土器組成中の窯業製品の豊富さと一括性の高さは、生産者との結び付きを示すだろう。集落の発展の基礎は、この集落の人々が窯業集団と深く結び付いていたためといえないか。当遺跡の集落が、国分寺造営を契機として台頭した新興勢力によって開かれた集落であると推測したい。伝統的な集落の拡大によらず、旧勢力の象徴ともいうべき古墳群中に居住域を求めて徐々に蚕蝕する状況は、前代と意識や価値観の断絶した集団の出現によると考える。当集落のかかわる生産域は、北方に確認されている条里水田^{注⑥}を想定している。条里水田の末端の開発強化と、占有領域の拡大をめざしたものか。

古墳群中に居住適地を求めても、古墳の墳丘をすっかり削平している例はないようで、わずかに墳裾を削る程度である。浅間B軽石降下による地力の劣化回復のため、古墳の削平が一気に進んだのであろうという説は、中世の遺構が古墳を削平した後、つくられていることからもうなずける。

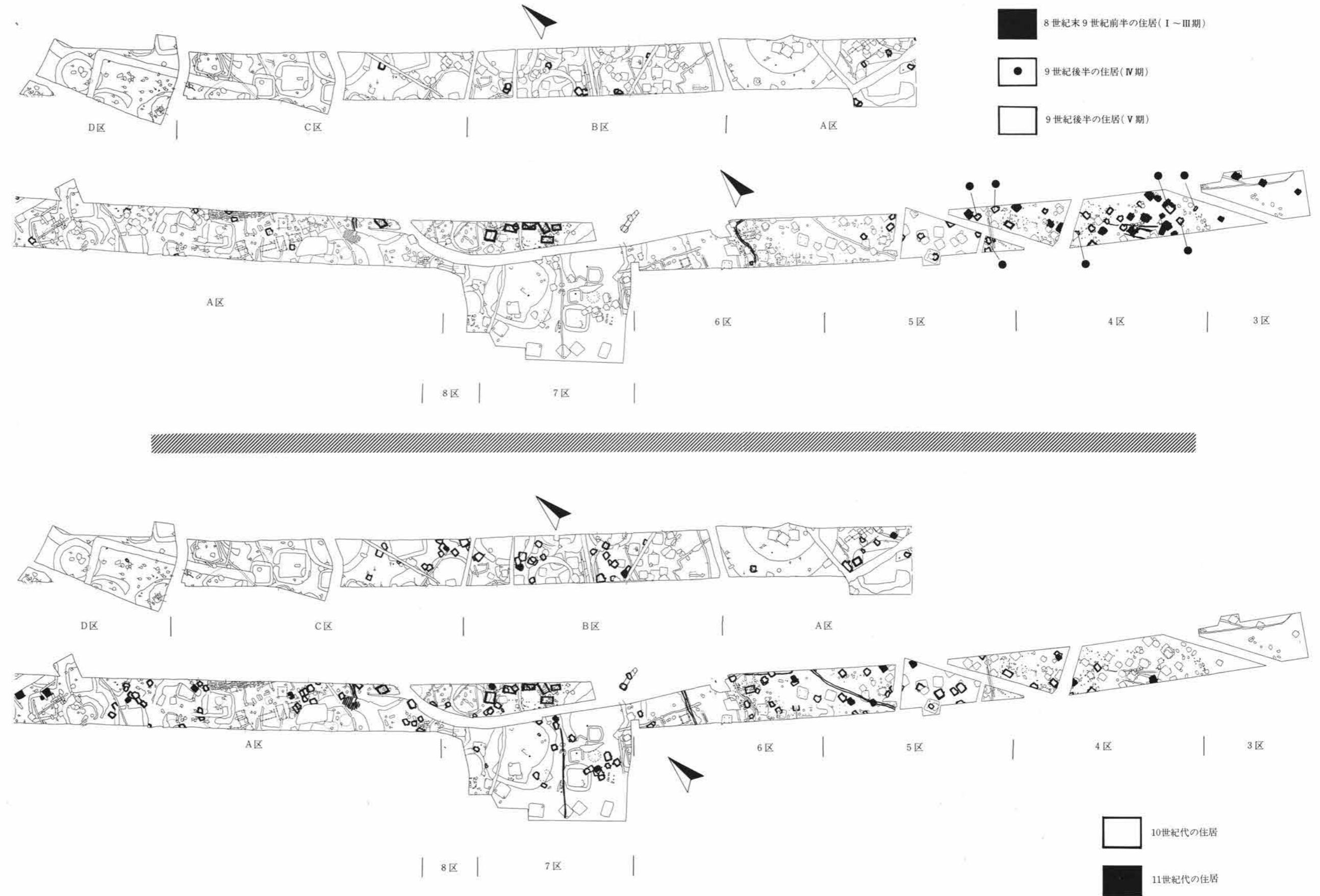
以上、平安時代の下佐野遺跡についてのべたが、周辺の遺跡もふくめて平安時代の様相を解明する作業は力及ばなかった。広域にわたる集落跡と水田跡の検討を通じて、条里水田の開発と管理・掌握する組織との有機的な拘わりが、解明されるのではないだろうか。今後の課題としたい。

(外山)

- 注1 坂口一・三浦京子 1986「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究』24、群馬県史編さん委員会
 注2 中沢悟・飯田陽一 1988「奈良時代の須恵器について」『研究紀要』5(群馬県埋蔵文化財調査事業団)
 注3 羽釜の系譜は、西日本の古墳時代以来の鈔付窯から、あるいは鉄釜の模倣による土釜からなど、いくつか考えられている。鉄釜の模倣か否かは別としても、西日本における土釜の出現との関連は無視できないだろう。
 注4 当時代のカマドは、住居壁中に燃焼部を掘り込むタイプである。カマド壁保護のため、土器片を粘土で貼り付けている場合・芯材として石・土器を粘土でくんでいる場合等がある。ナベカマド類を安定させる為と、カケ口とのすき間を密閉して加熱効果をあげる為、カケ口周辺に土器片を置く場合もしばしば認められている。
 注5 調査担当の女屋和志雄氏による。
 注6 大江正行氏より条里水田は律令制施行にともなうものであって、平安時代も9世紀後半には大規模な水田の作り替えが行われており、既に条里水田とは言いがたいとの御指摘をうけた。開発の主体も既成勢力ではなく、新興勢力であり、水田についても別名称で呼ぶべきであるが、今のところ適当な呼称がない。今後の課題としたい。

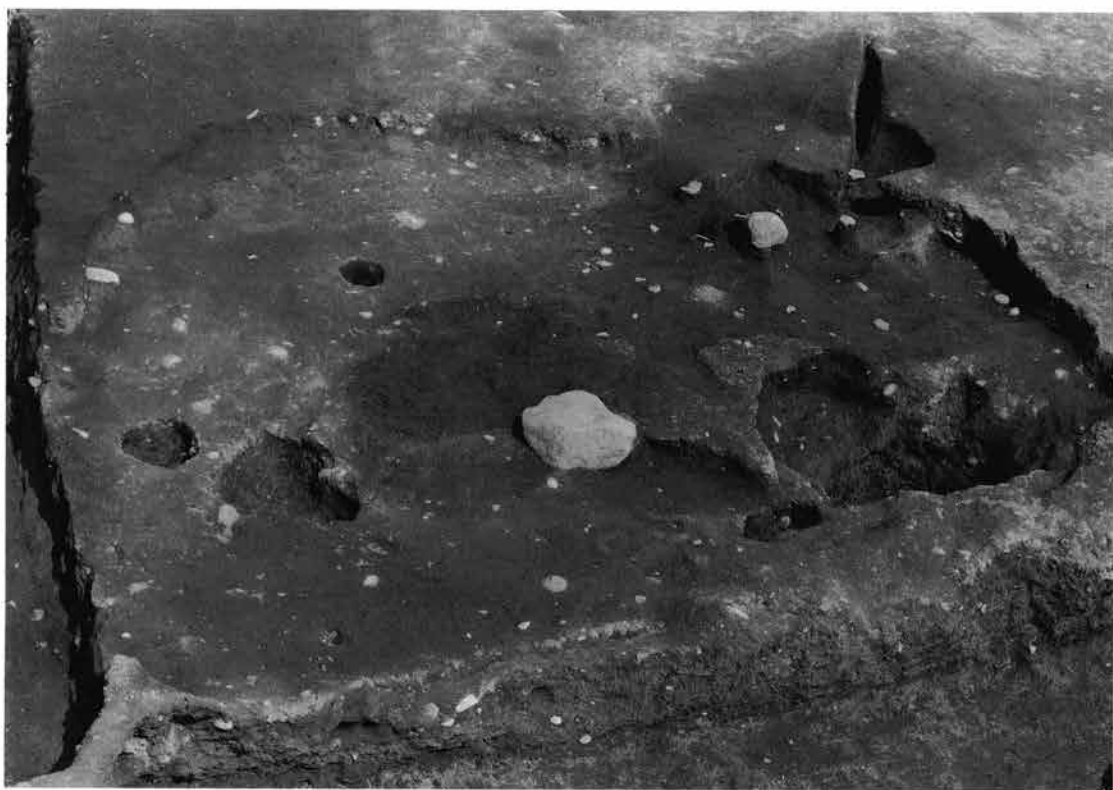
第198表

時期	該当住居
I 期	II地区-4区3・8・29住
II 期	II地区-3区3住、4区28・34・35・36・38・42・43・47住
III 期	II地区-3区1・2・4住、4区13・17・18・40・44・46・62・66住
IV 期	II地区-4区14・16・20・31・39・41・45住、I地区A区22-b住
V 期	II地区-4区6・9・10・21・22・23・24・26・27・33・37住、5区7B・11・48・50住 I地区-A区11・16・30・51・52・60・64・88・89・97住、B区4a・4b・9b・15b・18・22a・30b・33a・36住
VI 期	II地区-4区5・19住、5区5A・10住、6区4B・25住、7区6・7・8・18・33・36・52・55A・55B・55C・55D住、8区2住 I地区-A区25・26・48・67・69・78・82・83・84・85・90住、B区2・11・23a・26住
VII 期	II地区-5区3・6・54・56・67住、6区4A・6・11・14・17・24住、7区1・2・9・13・39・54住 I地区-A区20a・21・23・66・71・92・93・94住、B区1b・20・21・22b・27a・30a住、C区2a・5・7・8a・9・11住
VIII 期	II地区-4区12・25住、5区8・72住、6区1・8・19住、7区10・17・32・37・46・47・50・53住 I地区-A区40・44・45・54・63・77・81・91住、B区1a・19住、C区2d・6・8b・12住
IX 期	II地区-4区2・15住、5区7A・9・51・52・53・71住、6区3・10・13住、7区16・19・20・27・29・40住 I地区-A区46・55・79住、B区7・13住
X 期	II地区-4区1・30・63住、5区1・49・59住、6区2住、7区6・12・31住 I地区-A区19・41・50・62・65・86・87住、B区13・35住
XI 期	II地区-4区7・64住、5区55住 I地区-A区8・14・42・70住、B区9c住、C区4住
XII 期	I地区-A区31住、B区5住



第634図 平安時代の遺構変遷図

写 真 图 版



I 地区 A 区 8 号住居跡



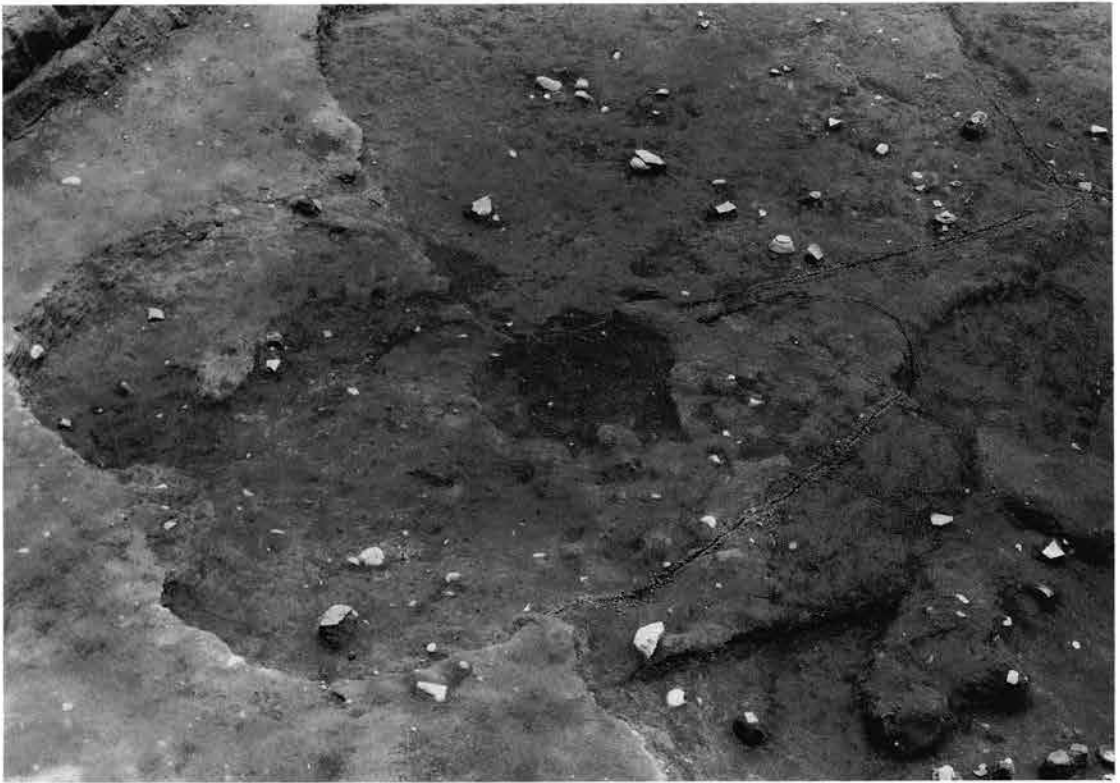
I 地区 A 区 10 号住居跡



I 地区 A 区 33 号住居跡



I 地区 A 区 40 号住居跡



I 地区 A 区 43 号住居跡



I 地区 A 区 44 号住居跡



I 地区A区46号住居跡



I 地区A区46号住居跡カマド



I 地区 A 区 69 号住居跡



2275



2276



2280



2281

I 地区 A 区 69 号住居跡出土遺物



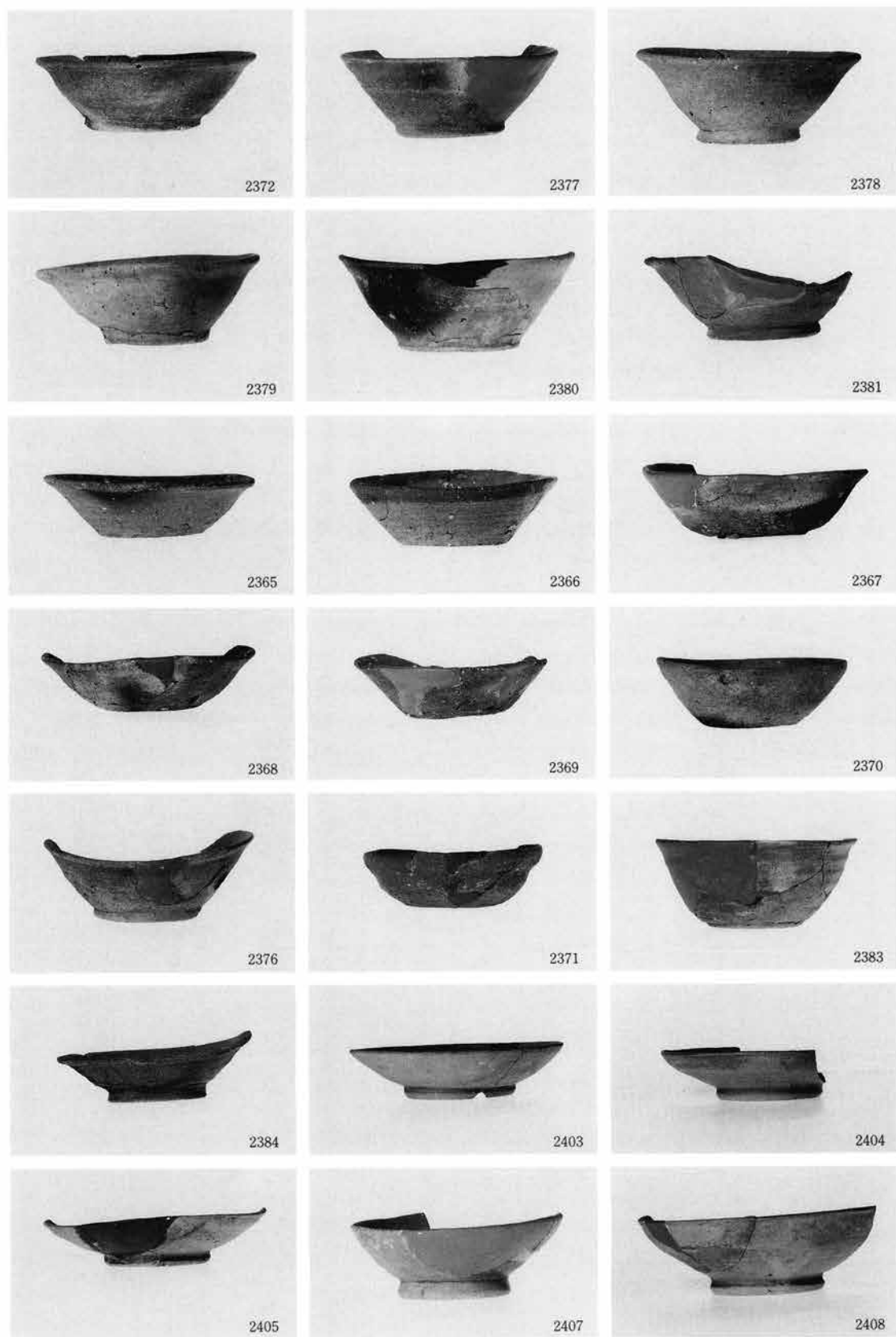
I 地区 A 区 78 号住居跡



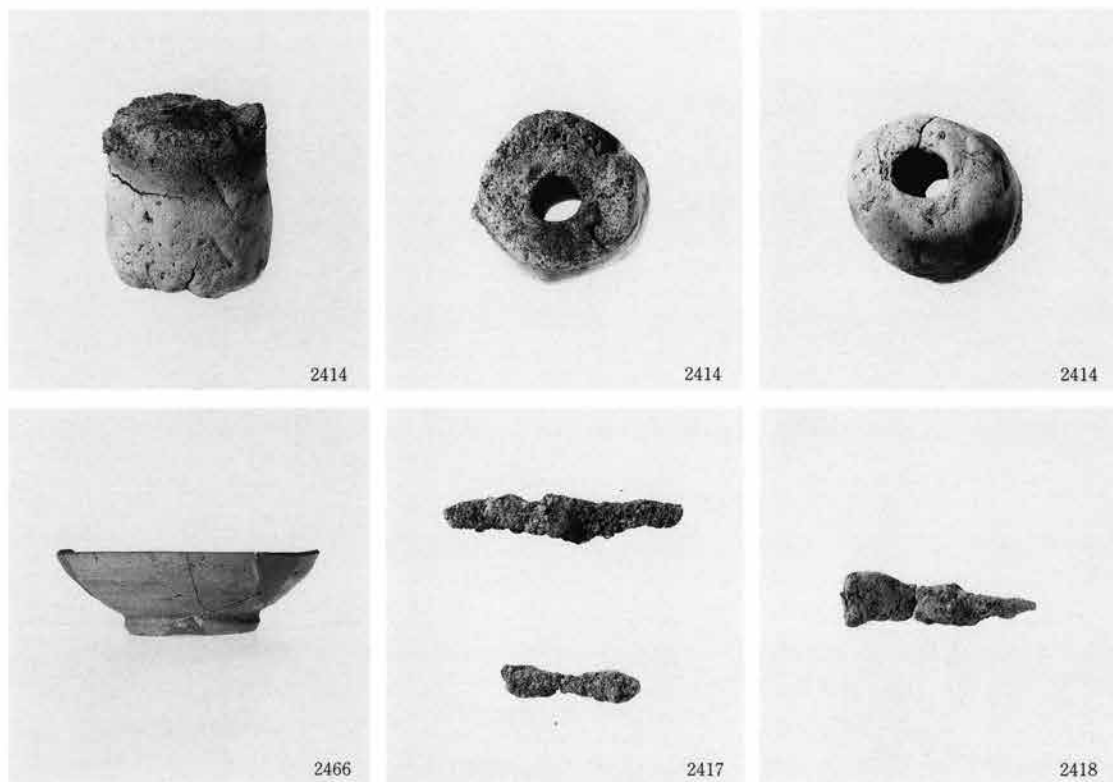
I 地区 A 区 78 号住居跡



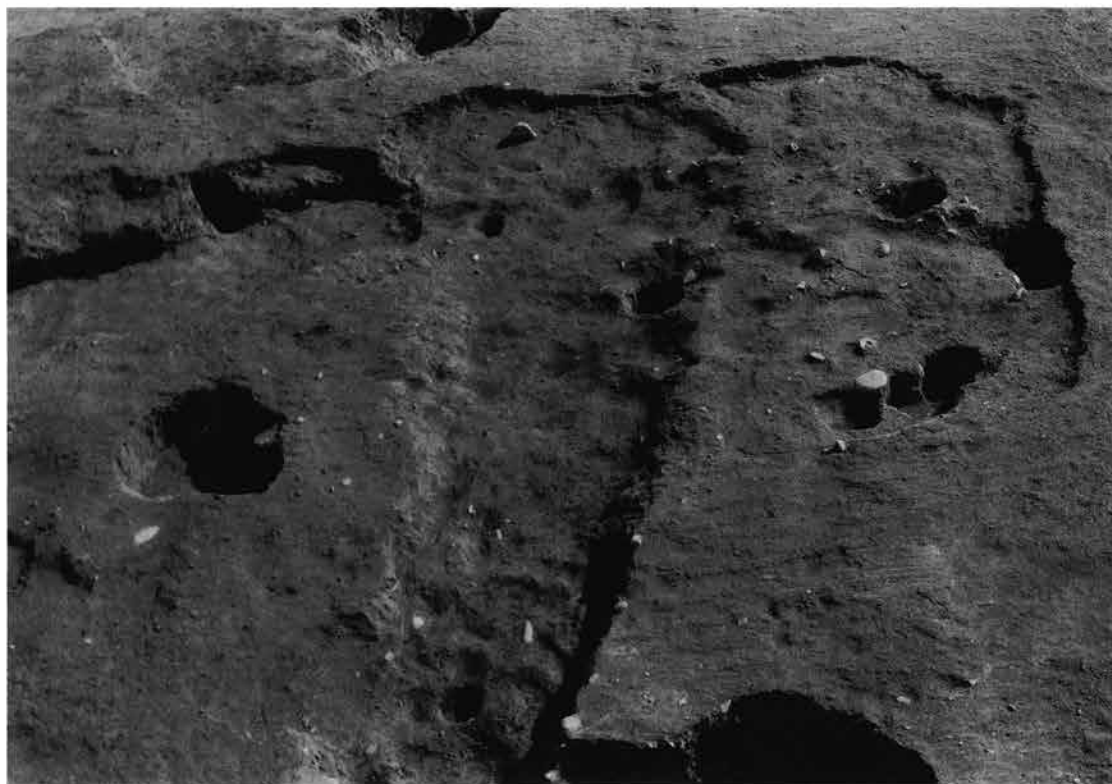
I 地区 A 区 78 号住居跡出土遺物(1)



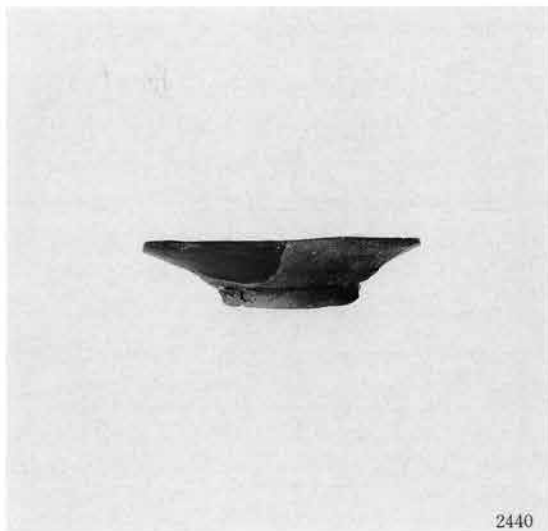
I 地区 A 区 78 号住居跡出土遺物(2)



I 地区 A 区 78 号住居跡出土遺物(3)



I 地区 A 区 79 号住居跡出土遺物



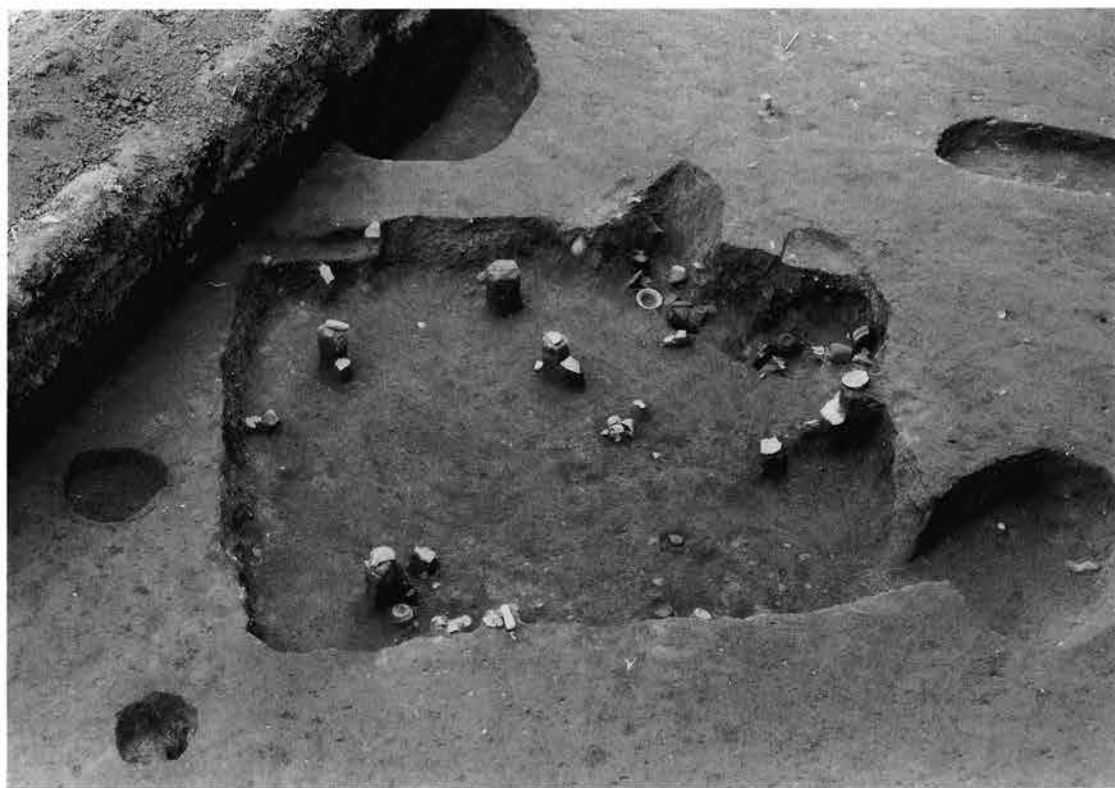
I 地区A区80号·81号住居跡出土遺物



I 地区 A 区 82 号・84 号・85 号住居跡



I 地区 A 区 82 号住居跡カマド



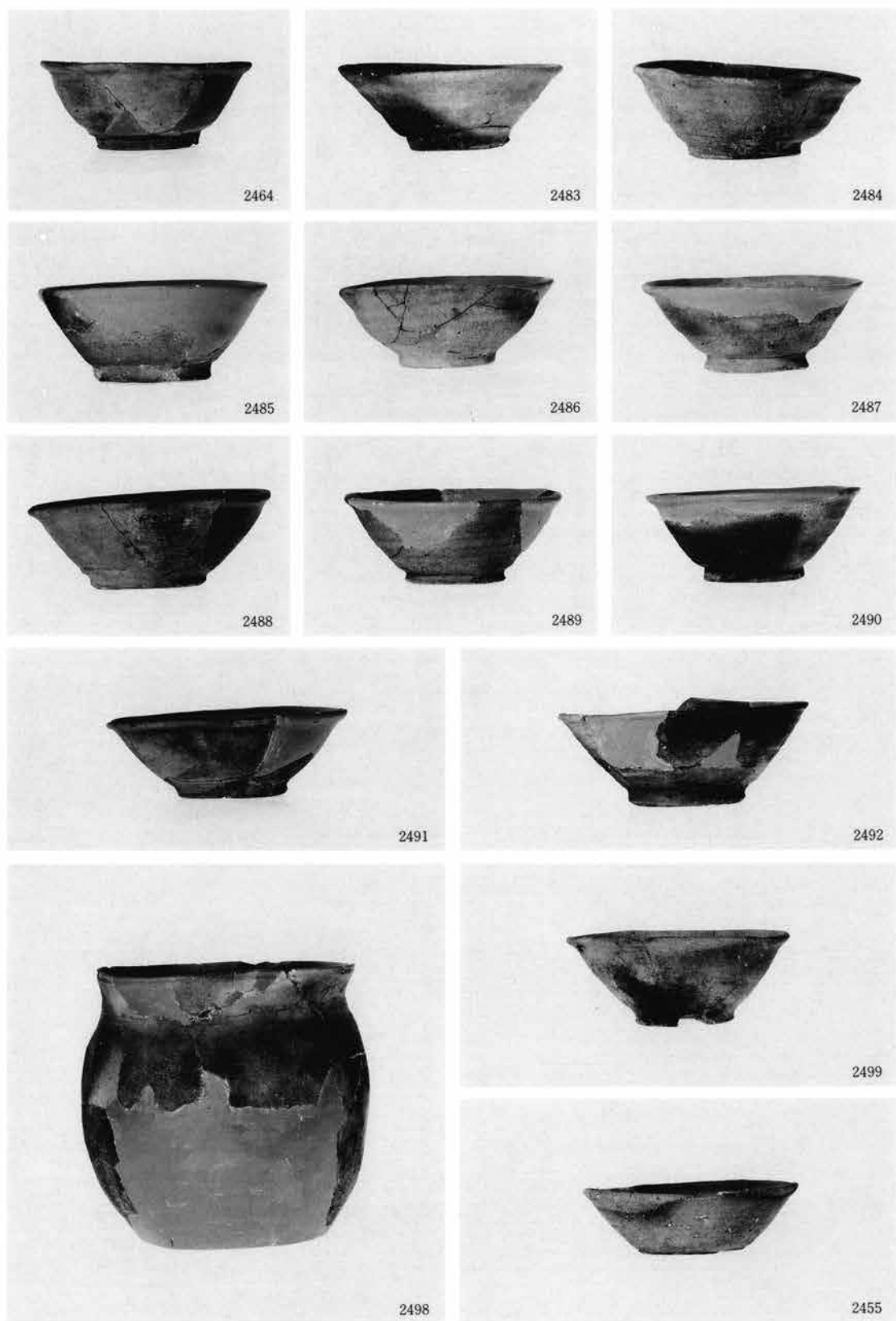
I 地区 A 区 83 号住居跡



I 地区 A 区 86 号住居跡



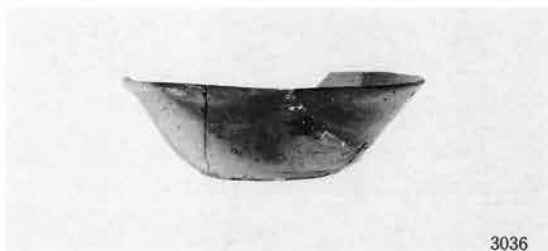
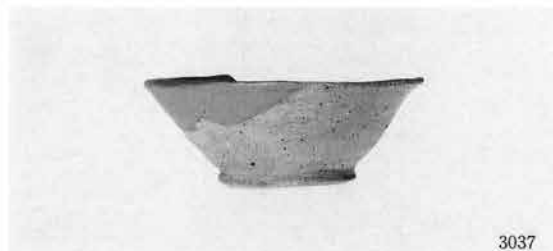
I 地区 A 区 82 号 · 83 号住居跡出土遺物



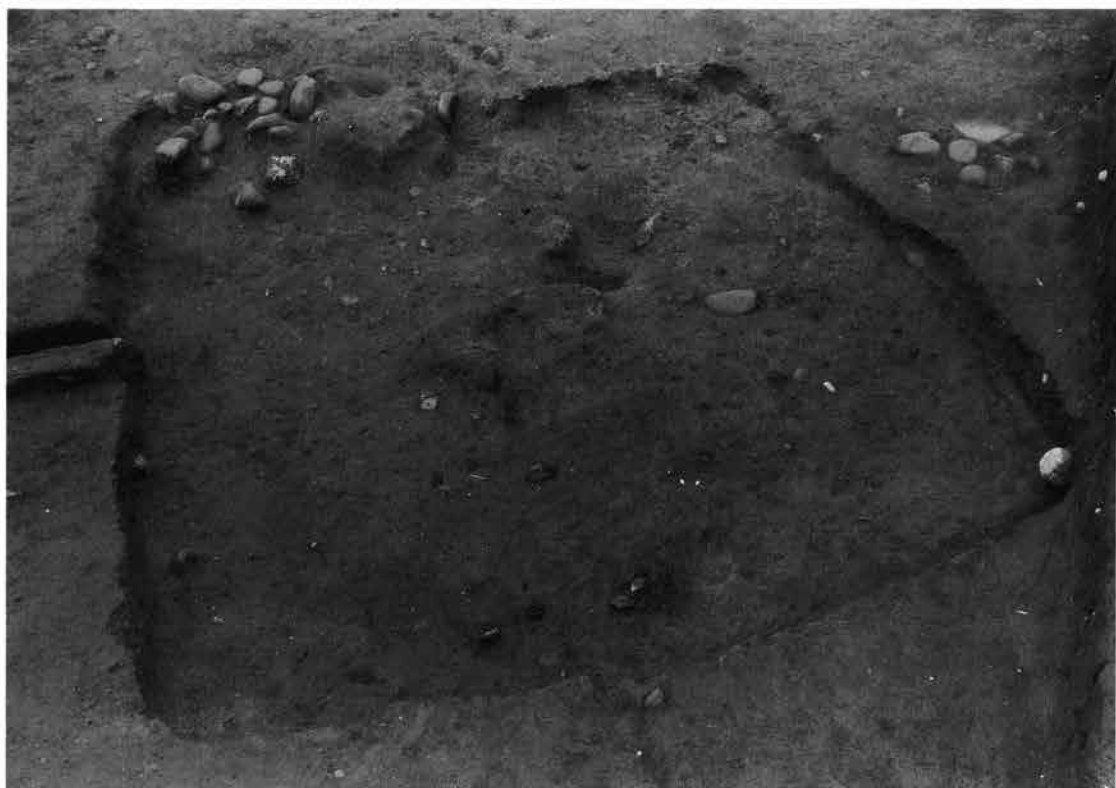
I 地区 A 区 83 号·84 号住居跡出土遺物



I 地区B区5号住居跡



I 地区B区46号・5号住居跡出土遺物



I 地区B区7号住居跡



I 地区B区7号住居跡出土遺物



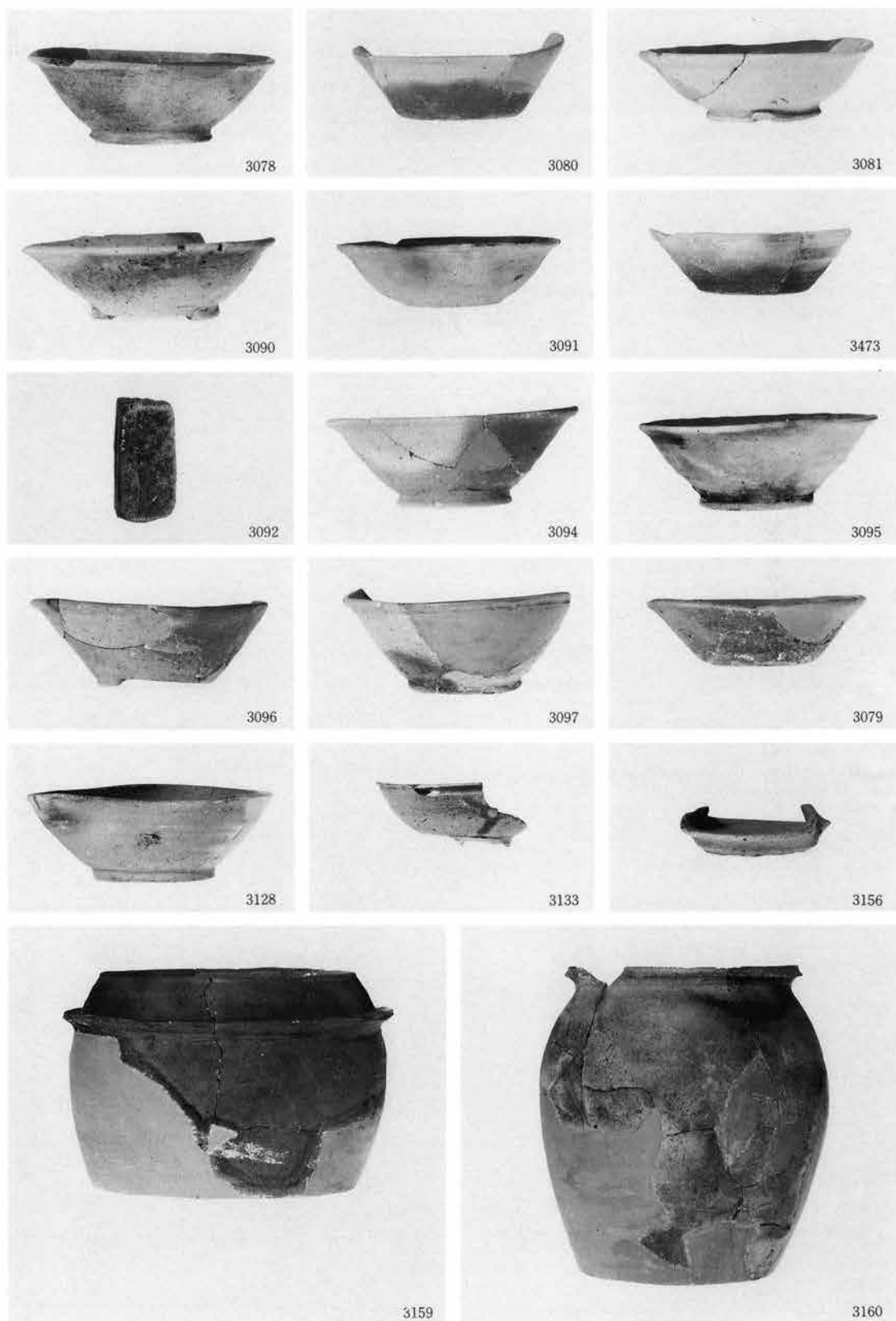
I 地区B区9a号住居跡



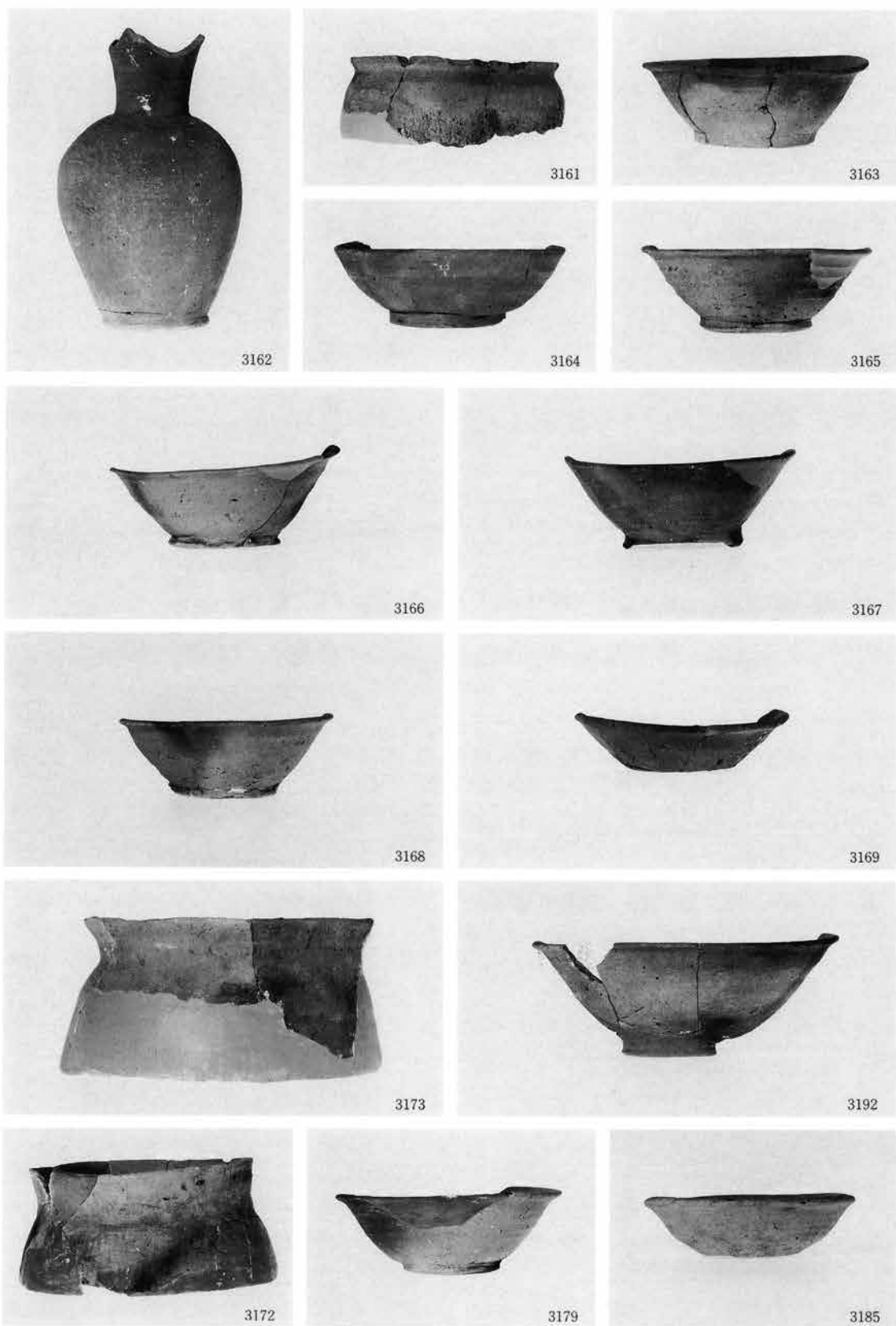
I 地区B区11号住居跡



I 地区 B 区 9 a 号住居跡出土遺物



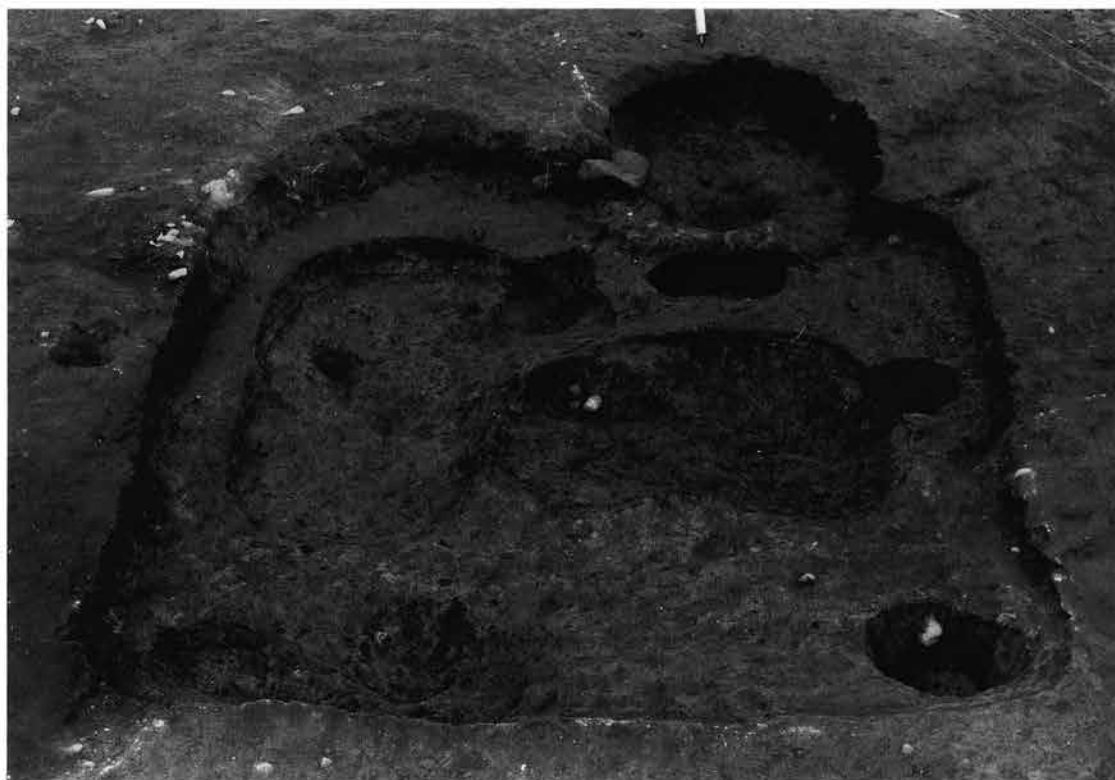
I 地区 B 区 9 a 号·9 b 号·9 c 号·11 号·13 号·15 a 号住居跡出土遺物



I 地区B区15a号·15b号住居跡出土遺物



I 地区 B 区 26 号住居跡



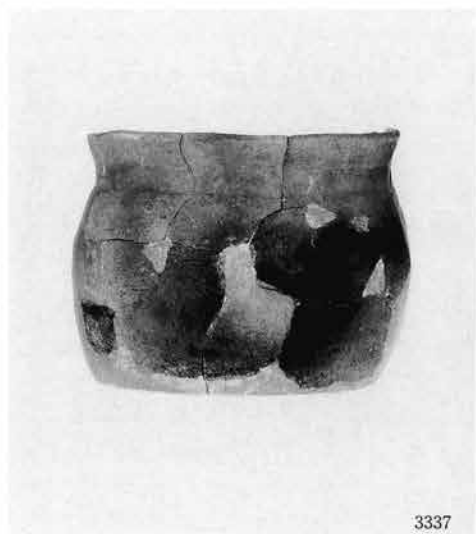
I 地区 B 区 27a 号住居跡



I 地区 B 区 33a 号住居跡



I 地区 B 区 35 号住居跡



I 地区 B 区 30b · 33a 号住居跡出土遺物



I 地区C区 2a号·2c号·2d号住居跡



I 地区C区 2a号·2d号住居跡



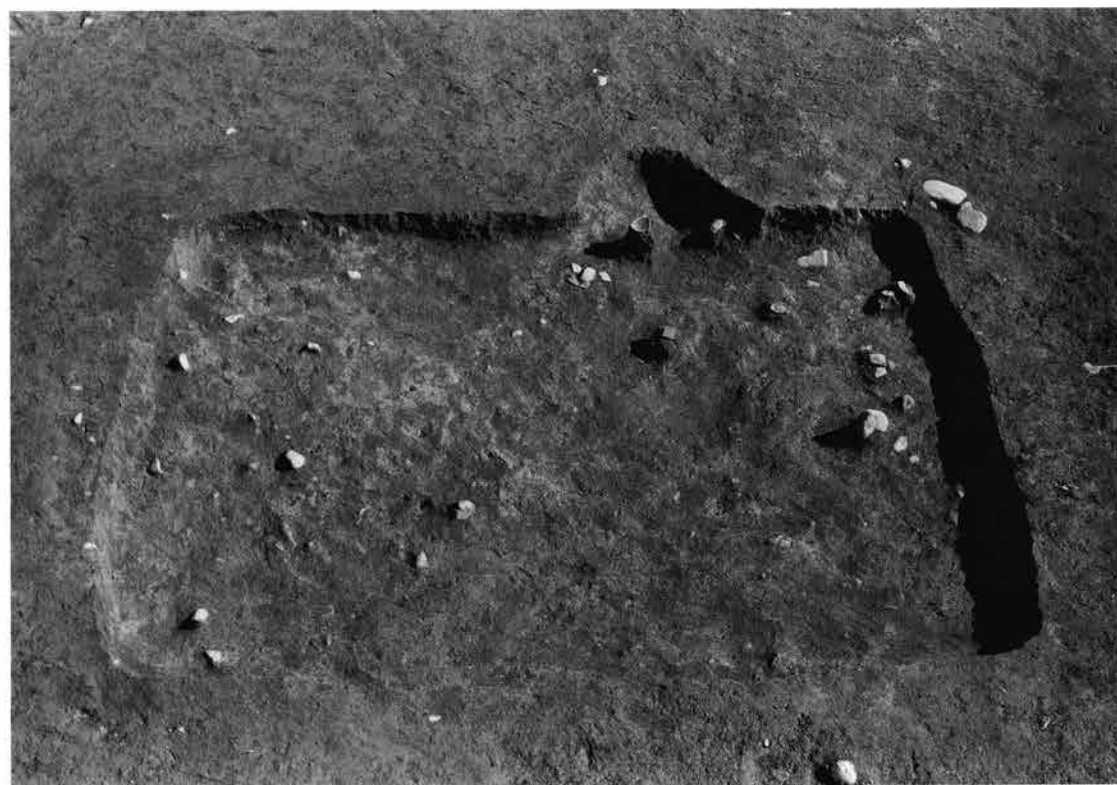
I地区C区4号・5号・6号・7号住居跡



I地区C区4号住居跡



I 地区C区5号住居跡



I 地区C区6号住居跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第77集

I地区・寺前地区(3)
平安時代編

下佐野遺跡

—上越新幹線関係埋蔵
文化財発掘調査報告第11集—

平成元年2月25日 印刷

平成元年2月28日 発行

編 集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 5 2 - 2 5 1 1 (代表)

発 行／群 馬 県 考 古 資 料 普 及 会

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 5 2 - 2 5 1 1 (代表)

印 刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社